人間と道徳

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	人間と道徳
科目責任者	村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0001005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人間，生命，主体的に生き生きとたくましく生きる，道徳心
授業のねらい・概要	DVDの視聴や様々な社会的・道徳的資料を通して，「人間としての生き方・あり方」について考える授業である。また，これまでの自分の生き方・あり方を振り返り，将来への道をたくましく切り拓こうとする意欲が高まることを期待する。
学生の達成目標	1. 自分の社会的な目標に向かって,自分の考えを持つことができる。 2. それぞれの分野の専門家の生き方にふれ,今後の自分の生き方に重ね,考えることができる。 3. 新聞や社会事象に関心を持ち,グループで話し合い,自分の考えを深めことができる。 4. 大学生活への意欲を高め,今後の自分の生活や将来に向けた展望を持つことができる。 5. 友達の考え方に耳を傾け,さらなる飛躍・向上を目指す。
授業内容	第1回　オリエンテーション 「現在の自分とこれからの自分の生き方」について作文を書き,グループで聴き合い活動をする。

	第2回	DVDを視聴し,人間の生き方について,グループで話し合う。(目標1・2)
	第3回	DVDを視聴し,人間の生き方について,グループで話し合う。
	第4回	DVDを視聴し,人間の生き方について,グループで話し合う。
	第5回	3回の DVDの視聴を通して,今後の自分の生き方を見つめ,新たな自分を見出す。
	第6回	前時の作文を発表し,課題のまとめをする。(目標1・2・3)
	第7回	社会規範に関する新聞記事を読み,意見文を書き,グループで聴きあい活動をする。(目標4)
	第8回	社会規範に関する新聞記事を読み,意見文を書き,グループで聴きあい活動をする。
	第9回	社会事象に関する新聞記事を読み,意見文を書き,グループで聴きあい活動をする。
	第10回	社会事象に関する新聞記事を読み,意見文を書き,グループで聴きあい活動をする。
	第11回	道徳性に関する資料を読み,グループでお互いの考え方の聴きあい活動をする。(目標4・5)
	第12回	道徳性に関する資料を読み,グループでお互いの考え方の聴きあい活動をする。
	第13回	道徳性に関する資料を読み,グループでお互いの考え方の聴きあい活動をする。
	第14回	大学生活や将来に向けた「自分の生き方やあり方」について方向づける。(小論文)
	第15回	友達の意見を聴きあい,次年度への自己の課題を方向づける。(目標5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	さまざまな社会事象を通して自分の考えを持ち，自分の考えを相手に伝えることができる。 また，グループ内でお互いに聴きあい活動ができる。さらに，自分の考えを明確に示し，小論文にまとめることができる。 レポート（ 60%）　意見文（ 30%）　授業参加態度（ 10%）
	評価の方法	レポート及び小論文，振り返りカード，授業参加状況により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 適宜資料やプリントを配布する。	
推薦図書等		

参考URL	
備考	授業に出席することが大事である。 グループ協議では，自分の考えを持ち，お互いの意見を認め合い，社会的な視野を広げていくことを期待する。

哲学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	哲学
科目責任者	
担当教員	馬場　智理
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	本当の自分，愛，他者
授業のねらい・概要	ひとつのテーマをめぐる過去の哲学者の考え方を学ぶことを通して，自由に思考する哲学の営みに触れる。また，それとともに，自分と異なる考えを持つ他者への寛容さを身につける。
学生の達成目標	1.　「本当の自分」についての理解を深める。 2.　自分とは違う考えに対する関心を広げる。 3.　一つの問題について,いろいろな視点から考えるトレーニングをする。
授業内容	第1回　ガイダンス-哲学とはどのような学問か(目標1) 第2回　「本当の自分」について(目標1) 第3回　西洋哲学-西洋哲学の歴史の概説(目標1) 第4回　西洋古代の哲学(1)-ソクラテス(目標2,3) 第5回　西洋古代の哲学(2)-プラトン(目標2,3) 第6回　西洋古代の哲学(3)-アリストテレス(目標2,3) 第7回　西洋近代の哲学(1)-デカルト(目標2,3)

	第8回	西洋近代の哲学(2)-カント(目標2,3)
	第9回	西洋近代の哲学(3)-ヘーゲル(目標2,3)
	第10回	西洋現代の哲学(1)-キルケゴール(目標2,3)
	第11回	西洋現代の哲学(2)-マルクス(目標2,3)
	第12回	日本の哲学(1)-日本における哲学の歴史の概説(目標1)
	第13回	日本の哲学(2)-西田幾多郎(目標2,3)
	第14回	日本の哲学(3)-田辺元(目標2,3)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業への参加状況と期末試験の成績を総合的に評価する。なお，期末試験はレポートに代える場合がある。（なお，私語等の素行不良が見られた場合は，評価しないので注意のこと。）
	評価の方法	授業への参加度 60%，期末試験 40%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は特に使用しない。必要な資料は授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は主に哲学者の学説の解説を中心に進める。 ただし，哲学的問題をより身近なものとして考えてもらうために，受講者諸君には授業中の発言や小問題の記述などの作業を行ってもらう。 履修に際して特別な知識は必要ないが，哲学に対する関心がないと退屈な内容であると思われるので，授業に対する主体的な参加を期待する。	

倫理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	倫理学
科目責任者	
担当教員	馬場　智理
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0003005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	善と悪，善いことの基準とは？，現代社会と倫理
授業のねらい・概要	私たちの行動を基礎づけている倫理について学んだり，現在起こっている倫理的問題の原因を考えることを通して，日々何気なく行っている善い／悪いという倫理的判断の「正しさ」を改めて考える。
学生の達成目標	1.　善いことを判断するためのさまざまな基準について学ぶ。 2.　自分がどのような倫理的基準に従っているかを考える。 3.　現代社会における倫理的問題に対する理解を深める。
授業内容	第1回　ガイダンス-倫理学とはどのような学問か(目標1) 第2回　「善いこと」と「悪いこと」について考える。(目標1) 第3回　現代倫理の基本理論(1)-社会契約論(目標1) 第4回　現代倫理の基本理論(2)-功利主義(目標1) 第5回　現代倫理の基本理論(3)-義務論(目標1)

	第6回	現代倫理の問題-生命倫理(生命をめぐる諸問題)(目標2・3)
	第7回	現代倫理の問題-生命倫理(生命倫理の2つの立場)(目標2・3)
	第8回	現代倫理の問題-環境倫理(環境問題の現状)(目標2・3)
	第9回	現代倫理の問題-環境倫理(環境倫理の3つの立場)(目標2・3)
	第10回	現代倫理の問題-ビジネス倫理(企業活動と倫理)(目標2・3)
	第11回	現代倫理の問題-ビジネス倫理(ビジネス倫理の3つの立場)(目標2・3)
	第12回	現代倫理の問題-ジェンダー論(男性と女性の役割の変化)(目標2・3)
	第13回	現代倫理の問題-ジェンダー論(現代におけるジェンダー論の課題)(目標2・3)
	第14回	現代倫理学のまとめ(目標2・3)
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業への参加状況と期末試験の成績を総合的に評価する。なお，期末試験はレポートに代える場合がある。（なお，私語等の素行不良が見られた場合は，評価しないので注意のこと。）
	評価の方法	授業への参加度 60%，期末試験 40%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は特に使用しない。必要な資料は授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	履修に際して特別な知識は必要ないが，倫理学の問題をより身近なものとして考えてもらうために，授業中の発言や小問題の記述などを行ってもらうので，主体的に授業に参加することを期待する。	

心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	心理学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0004005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人間理解，心の特質と限界，客観的見方
授業のねらい・概要	１．心理学の各領域を幅広く紹介し，心の働きが理解できるようにする。 ２．人間の特質や限界を理解することを通じて，よりよい生き方ができるようにする。¥ ３．人間の心理を理解するための考え方や方法を理解し，自己や他者を客観的に見られるようにする。
学生の達成目標	1.　心理学を身近なものであると感じられる。 2.　心の様々な働きを理解する。 3.　意識的にはコントロールが困難な行動を理解する。
授業内容	第1回　心理学とは,心理学の歴史と領域。心理学の歴史や領域を学びながら,心理学・心理学研究について概観する。(目標1) 第2回　進化から見た人間。比較行動学や進化心理学に基づいて,系統発生的に見た人間の心理を理解する。(目標1)

第3回	心の生理的基礎,中枢神経系。心の土台となる生物学的要因(遺伝的要因,中枢神経系的要因,身体解剖学的要因など)について知る。(目標1,2)
第4回	感覚と知覚。感覚刺激の受容の仕組みや知覚がどのように形成されるのかを理解する。(目標1,2,3)
第5回	姿勢と運動。姿勢と運動が成立する仕組みを知り,心とどのように関連しているかを理解する。(目標1,2,3)
第6回	意識・感情。意識や感情のメカニズムを理解し,行動や認知との関連を解明する。(目標1,2,3)
第7回	イメージの世界。イメージがどのように認知や心的状態に影響するかについて学ぶ。(目標1,2,3)
第8回	学習。学習行動の種類やメカニズムを理解することで,望ましい学習の仕方について考える。(目標1,2,3)
第9回	記憶。記憶の生理学的基礎や種類を理解し,日常生活に現れる記憶の不思議に迫る。(目標1,2,3)
第10回	認知・思考。まわりの世界に対する認知がどのように形成されるか理解し,思考との関連を考える。(目標1,2,3)
第11回	発達,発達理論。人間の発達に対する考え方を見ながら,乳幼児期から老年期までの発達を概観する。(目標1,2,3)
第12回	社会(社会的認知,人間関係,集団力動)。社会や人間関係に対する認知のあり方や行動の傾向について学ぶ。(目標1,2,3)
第13回	個人差と性格,性格理論。個人差がどのように形成されるのか理解し,様々な性格理論を概観し,自分の性格を客観的に見ることができるようにする。(目標1,2,3)
第14回	自己制御(失敗,嗜癖)。いかに人間が自分の行動を制御するのかについて理解し,自己制御がうまくいかない場合の対処について考える。(目標1,2,3)
第15回	適応と病理。日常生活に見られる適応の仕方を理解するとともに,適応障害や精神病理についての理解を深める。(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	心理学に関して基礎的な知識が獲得されていること。心理学の知見に基づいて，身近な心理的問題が考えられること。
	評価の方法	授業への参加態度と質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特定のテキストは指定しない。資料を配布する。

推薦図書等	

参考URL	
備考	重要であると指摘した事項の復習を行うこと。 日頃，心理学に関する本を読むこと。

教育学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	教育学
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0005005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人間の成長・発達，学校教育，家庭教育，社会教育，生涯学習社会
授業のねらい・概要	「ヒトは教育によって人になる」といわれるが，人間の成長・発達に必要不可欠なものとして教育をとらえた上で，学校教育のみに限定することなく，さまざまな視点から「教育」について学ぶ。 受講者は，これまで，児童・生徒・学生としての立場から「教育」を捉えてきたが，本授業をとおして，多面的に「教育」を見る目を養うとともに，「教育」への理解と関心を深めることをねらいとする。
学生の達成目標	1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理について理解する。 2. 教育の場としての家庭・学校・地域社会の役割・機能に関する基礎知識を習得できるようになる。 3. 日本の教育の現況と教育課題についての理解を深めるとともに,データや資料に基づいて,自らの考えをまとめることができるようになる。
授業内容	第1回　講義およびミニ課題等に関するガイダンス 第2回　教育を考える上での基礎データを読む。(目標3)

第3回	人間の成長・発達と教育:なぜ人間には教育が必要なのか。(目標1)
第4回	教育の場としての「家庭」:(1)家庭教育の意義とは何か。(目標2)
第5回	教育の場としての「家庭」:(2)子どもの社会化に果す家庭教育の役割は何か。(目標2)
第6回	教育の場としての「学校」:(1)幼稚園の役割と機能は何か。(目標2)
第7回	教育の場としての「学校」:(2)小・中・高等学校・特別支援学校・大学等の役割と機能は何か(目標2)
第8回	教育の場としての「地域・社会」:(1)地域の教育力は低下しているか。(目標2)
第9回	教育の場としての「地域・社会」:(2)学校教育と地域や社会の教育力の効果的な連携とはどのようなものか。(目標2)
第10回	教育とジェンダー:学校教育と「隠れたカリキュラム」,役割取得と社会化とは何か。(目標2)
第11回	生涯学習社会における教育:教育基本法は生涯学習の理念をどう規定しているか。(目標3)
第12回	社会の変化と教育政策の動向:法令の改正と学習指導要領の改訂の動向(目標3)
第13回	現代日本の教育課題:(1)子どもを取り巻く環境及び教育の病理(不登校,いじめ,逸脱)とは何か。(目標3)
第14回	現代日本の教育課題:(2)新しい学力観,「生きる力」に根ざした「確かな学力」の形成, PISA調査,学力向上,学校教育と著作権を学ぶ。(目標3)
第15回	総括

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた教育に関わる基礎的内容が，正しく理解できていることを基準とする。
	評価の方法	授業への参加度＋ミニ課題（ 20点）＋定期試験（ 80点）の成績等を総合して評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しない。毎回，資料を配布し，これをもとに授業をする。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

文学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	文学
科目責任者	
担当教員	阿部　軍治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0006001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	代表的作家と作品，文章理解力・言語力・読書力養成，作家と作品の心を読む
授業のねらい・概要	文学は人間の生活と心の表現，総合的な人間表現，総合的人間学です。 本講義では日本と世界の文学を概観，文学がそれぞれの時代と人々をどのように表現してきたかを勉強する。 日本と世界の主要作家の生き様と作品を学び，読み，読書の楽しさと読書力を身につけ，人間理解を深めることを目ざす。 就職試験等で言語力不足が指摘されており，諸科目の基礎の基礎であるその言語力・国語力の養成に努めます。

学生の達成目標	1. 講義で取り上げる日本と世界の主要な作家と作品,文学潮流についての基礎的知識を習得する。 2. 講義ごとに指定する文献を読み,十分かつ正確に内容を理解できるようになること。 3. 当該作家あるいは作品に関する課題について自己の意見を正確にまとめられる能力を身につける。 4. 一般に大学における学業や社会生活において必要とされる十分な言語能力・言表能力を身につける。
授業内容	第1回 ガイダンス及び文学とは何かを考え,坪内逍遥を中心に日本近代文学の成立過程を概観する。(目標1・2) 第2回 近代文学初期に非常に大きな貢献をした二葉亭四迷等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2) 第3回 明治文学の代表的作家尾崎紅葉の文学や,硯友社文学等を中心に学ぶ。(目標1・2) 第4回 日本の自然文学発展に大きな貢献をした徳富蘆花と国木田独歩等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2) 第5回 日本の代表的な作家である森鷗外等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2) 第6回 日本の代表的な作家である夏目漱石等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2) 第7回 自然主義文学と島崎藤村等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2) 第8回 白樺派の文学及び武者小路実篤等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2) 第9回 小説の神様とも呼ばれた日本の代表的作家志賀直哉と有島武郎等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2) 第10回 芥川龍之介や宮沢賢治等を中心として大正期の文学を学ぶ。(目標1・2・3・4) 第11回 昭和期の文学・文学運動を概観し,太宰治や井伏鱒二等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2・3・4) 第12回 ロシア文学を概観し,ドストエフスキーやトルストイ等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2・3・4) 第13回 フランス文学を概観し,ユゴーやスタンダール等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2・3・4) 第14回 イギリス文学を概観し,シェイクスピアやディケンズ等の文学を中心に学ぶ。(目標1・2・3・4) 第15回 チェーホフ等その他の作家たちと現代文学について学ぶ。(目標1・2・3・4)
予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	大学が定める回数講義を聴講し，課せられた課題をやり，レポートに及第すること。
	評価の方法	原則として，レポート（小試験を含む）と平常点（受講態度，授業への参加度，課題遂行度等） 60%： 40%の比率で総合評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は使用せず，講義ごとに各テーマについての作成資料と関連資料を配布し，それに基づいて講義を進める。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	配布資料は必ずよく読むこと。 講義の都度指示する文献を読むようにすること。 国語力・言語力はあらゆる科目の基礎であるので，なるべく多く本・作品を読むように心がけるてください。	

音楽学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	音楽学
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0007005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	感性，創造力，音楽，コミュニケーション
授業のねらい・概要	豊かな感覚と情操を持った人間性を育む上で，音楽がいかに重要な役割を果たすと考えられていたかを西洋音楽史を通して考察する。 また，明治期の洋楽移入の状況や明治以来の唱歌について検討する。
学生の達成目標	1. 多くのジャンルの音楽に対して興味が広がる 2. 他の学生の発表曲に対して関心を示し,発表に対する独自の見解が持てるようになる 3. 音楽を通したコミュニケーション能力が身につく
授業内容	第1回　導入:異なるジャンルの何曲かの作品を聴き,各々の曲から受けた印象,各々の曲が与える効果についての討論(目標1,3) 第2回　神神の時代の音楽の役割(目標3) 第3回　音楽療法の起源(目標3) 第4回　古代・中世の音楽の役割(目標3) 第5回　キリスト教と音楽(目標1,3)

	第6回	ルネッサンス時代と音楽(目標1)
	第7回	バロック時代と音楽(目標1)
	第8回	オスペダーレ(養育院)での音楽教育(目標1,3)
	第9回	古典派の時代(目標1)
	第10回	ロマン派の時代(目標1)
	第11回	近世と音楽(目標1,3)
	第12回	明治期の洋楽移入の状況と明治以降の唱歌について(目標1,3)
	第13回	学生の発表・鑑賞・討論(目標2)
	第14回	学生の発表・鑑賞・討論(目標2)
	第15回	学生の発表・鑑賞・討論(目標2)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基本的な内容が理解できている事。 授業内容をもとに各自が発表を行い，自らの考えを持って選択した曲について的確に説明できる事を合格基準とする。
	評価の方法	発表内容 40%，提出レポート 40%，勉学意欲 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	様々のジャンルの音楽に沢山触れて，音楽に関心を持ってほしい。 学生各自にとって最もリラックスできる音楽について全員の前で発表し，鑑賞・討論をするので，問題意識をもった受講を望む。	

歴史学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	歴史学
科目責任者	久留島　浩
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A0008005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	日本史，近世・近代史，生活史
授業のねらい・概要	歴史学の基礎的な研究方法を学ぶことで，過去の歴史像を自ら想像的に復元（再構築）する力を身につける。 未来が予測しにくい現在（いま）だからこそ，過去に戻って，現在の自らの位置を確認することは有効だと考える。
学生の達成目標	1. 画像資料や文献資料,地図などを読みとる能力を磨くことで,自ら歴史像を想像的に復元する能力を身につける。 2. 歴史資料の読み解きを通して過去に生きた人びとと対話を行うことで,時間を超えた人間への共感能力を身につける。 3. とくに 18,9世紀という時代に生きた人びとの生活について具体的な知識を得る。 4. 博物館の歴史展示を自ら楽しむ能力を身につける。 5. 身近な地域の歴史を歩いて実感することができる。
授業内容	第1回　いま,歴史学を学ぶことの意味-歴史像の再構築とはどのようなことか?(目標1・2・3・4・5)

第2回	教科書に書かれた戦前の歴史(目標1)
第3回	外国の歴史教科書に書かれた歴史(目標1)
第4回	画像資料のよみかた(1)江戸図屏風をよむ(目標2・3)
第5回	画像資料のよみかた(2)寛文長崎図屏風をよむ(目標2・3)
第6回	画像資料のよみかた(3)四季農耕図屏風を読む(目標2・3)
第7回	身近な地域の歴史を学ぶ-学区の歴史探検(目標2)
第8回	大学の近くの地域の歴史を想像しよう「御成街道」って,知っていますか?(目標1・5)
第9回	大学の近くの地域の歴史を歩いてたしかめよう(目標1・5)
第10回	18・ 19世紀の村の人びとのくらし(村芝居)(目標3)
第11回	武士のくらし-武家屋敷のなかをのぞいてみよう-(目標2・3)
第12回	町に生きる人びとのくらし(1)学ぶこどもたち(目標2・3)
第13回	町に生きる人びとのくらし(2)都市の祭り(目標2・3)
第14回	差別される人びと-なぜ,差別されるのか?(目標2・3)
第15回	「歴史を想像すること」 博物館の楽しみ方(目標4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	歴史学とはどのような学問で，これを学ぶことがなぜ必要なのか理解すること。 具体的には，日本の基本的な歴史資料を読み解くことができること。 授業内容をもとに，具体的な歴史資料から自らの歴史像を構築することができることを合格基準とする。
	評価の方法	試験の成績（ 80%）にレポートの評価（ 20%）を加味する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	身近な地域を実際に近世の絵図と地図とをもって歩く時間も予定している。 また，博物館の見学をしてレポートを提出してもらう。	

法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	法学
科目責任者	
担当教員	荒井　弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0009005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	秩序，強制，正義
授業のねらい・概要	法の理念，目的を理解させ，法の分類，運用，失効等について詳説するとともに基本法である憲法，民事法，刑事法について概説する。
学生の達成目標	1.　法と社会のかかわりと法の特性について知る。 2.　憲法の意義とその特徴を知る。 3.　身分や財産に係るルールを知る。 4.　犯罪の構成要件等の基礎知識を理解する
授業内容	第1回　法と社会(目標1) 第2回　法の特徴・法の目的(目標1) 第3回　権利と義務(目標1) 第4回　法と裁判(目標1)

第5回	法の効力(目標1)
第6回	日本国憲法の構成・三権分立(目標2)
第7回	日本国憲法の基本原理(目標2)
第8回	刑法の法益・刑罰の内容(目標4)
第9回	罪刑法定主義(目標4)
第10回	婚姻・離婚(目標3)
第11回	親子・扶養・相続(目標3)
第12回	財産法の基本原則(目標3)
第13回	権利の主体と客体(目標3)
第14回	行政法(目標1・2)
第15回	まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	法の特質，目的を知り，講義で力点をおいた事柄について，理解できていることを評価基準とする。
評価の方法	平常点（小テスト） 30%，期末筆記試験 70%

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

伊藤正巳，加藤一郎編「現代法学入門」有斐閣　１,200円
ISBN： 4 -641-11256-8

推薦図書等

参考URL

備考

日本国憲法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	日本国憲法
科目責任者	
担当教員	荒井　弘
授業形態	講義
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	国家，国民，教育
授業のねらい・概要	日本国の基本法である日本国憲法の理念を理解させるとともに，憲法の仕組みと内容を体系的に学ばせる。
学生の達成目標	1.　日本国憲法成立の背景を知る。 2.　日本国憲法の構成,内容を知る。 3.　日本国憲法の内容に係る問題点に関心をもつ
授業内容	第1回　憲法の概念(目標1・3) 第2回　憲法の分類と特質(目標1・2) 第3回　日本国憲法の構成(目標2) 第4回　日本国憲法の基本原理(1)基本原理の理念と意味(目標2・3) 第5回　日本国憲法の基本原理(2)国民主権の背景と内容(目標2・3) 第6回　日本国憲法の基本原理(3)平和主義の背景と内容(目標2・3) 第7回　日本国憲法の基本原理(4)基本的人権の尊重の背景と内容(目標2・3)

	第8回	国会と立法(目標2)
	第9回	内閣と行政(目標2)
	第10回	裁判所と司法(目標2)
	第11回	財政の基本原則(目標2)
	第12回	地方自治体(目標2)
	第13回	憲法改正(目標3)
	第14回	主な憲法裁判(目標3)
	第15回	まとめ(目標1・2・3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	憲法の意義や基本的な内容についての理解力があることを評価基準とする。
	評価の方法	平常点（小テスト） 30%，期末筆記試験 70%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「憲法要論」敬文堂　２,500円 ISBN： ４-7670-0110-2	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

政治学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	政治学
科目責任者	
担当教員	田村　孝
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0011005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	支配と従属，核戦略体制，国際関係
授業のねらい・概要	第二次世界大戦以前と以後とを分ける重要な政治上の現象に，核兵器とその戦略体制をあげることができる。 一見平和に見える日々も大国を中心とした核戦略体制の中に組み込まれていることをよく理解してほしい。
学生の達成目標	1.　政治が我々の日常生活に大きなかかわりを持っていることを知る。 2.　国際的な諸問題に関心を持つ。 3.　現代の歴史に関心を持つ。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,2) 第2回　政治学とは何か(目標1,2) 第3回　第二次世界大戦後の世界(国際連合)(目標3) 第4回　冷戦の時代(その1 1945～ 1960)(目標3)

	第5回	冷戦の時代(その2 1960～ 1980年代)(目標3)
	第6回	東西冷戦の終結(目標3)
	第7回	核兵器とは何か?(目標1)
	第8回	核兵器の開発とその種類(目標1)
	第9回	戦略核兵器,戦域核兵器,戦術核兵器(目標1)
	第10回	アメリカの核戦略体制と太平洋戦域(目標1,2)
	第11回	核兵器と日本(ヒロシマ,ナガサキ)(目標1,3)
	第12回	核兵器実験と日本(第5福竜丸)(目標1,2)
	第13回	非核三原則とは何か?(目標1,3)
	第14回	文章作成「核戦略体制化の私たち」(目標1,2,3)
	第15回	質問・文章訂正と添削・講評(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内容をどれぐらい理解しているのか，自分の文章でそれを表現できるのかを評価の基準とする。
	評価の方法	授業への出席（ 30%）と学期末の試験の結果（ 70%）で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業内容は学生の反応を見て適宜変更することがある。 教室での私語，携帯電話メールの使用を禁止する。	

経済学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	経済学
科目責任者	
担当教員	小柏　喜久夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0012005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	価格，市場，リスク，情報，インセンティブ
授業のねらい・概要	企業および産業の現場で起こる事象を経済学のロジックにしたがって分析し理解する。
学生の達成目標	1. 経済学の基礎概念を理解し,経済学の考え方を習得する。 2. ビジネスの世界で現実に起きている諸問題を,経済学の手法を使って考察する力を養う。
授業内容	第1回　ガイダンス:経済学とは(目標1) 第2回　経済学の考え方(目標1) 第3回　ビジネス・エコノミクスの世界(目標1) 第4回　価格戦略(目標1・2) 第5回　価格から見えるビジネスの構造(目標2) 第6回　市場メカニズム(目標1)

	第7回	エイジェンシー理論(目標1・2)
	第8回	「ゲーム」としてのビジネス(目標1・2)
	第9回	競争戦略(目標2)
	第10回	技術革新(目標2)
	第11回	新事業の創造(目標2)
	第12回	事業再構築(目標2)
	第13回	M& A(目標2)
	第14回	国境を越えるビジネス活動(目標2)
	第15回	変わり続けるビジネス環境(目標1)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	経済学の基礎概念を理解していること，経済学の考え方を習得していること，現実の諸問題を経済学の手法をもって解読できること，を合格基準とする。
	評価の方法	期末筆記試験 60%と平常点（レポート・小テスト） 40%による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社， ¥1,800＋税 ISBN： 4-532-35083-2	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	社会学
科目責任者	
担当教員	石川　千穂
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0013005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	格差，情報化，若者，個人，メディア
授業のねらい・概要	現代社会を社会学がどのようにまなざしているのかを学ぶことで，社会学的視点を身につける。
学生の達成目標	1. 現代社会に対して展開される様々な社会学の言説に触れる。 2. 社会学的思考の特異性を認識する。 3. 以上を通して社会,そして社会学を知ることの意義を認識する。
授業内容	第1回 講義ガイダンス,社会学的思考についての概要 Ⅰ(目標2) 第2回 社会学的思考についての概要 Ⅱ:個と社会(目標2) 第3回 格差社会論をめぐって Ⅰ:「格差社会」とは ①(目標1) 第4回 格差社会論をめぐって Ⅱ:「下流社会」と若者(目標1) 第5回 格差社会論をめぐって Ⅲ:日本社会の階層史(目標1,2)

	第6回　格差社会論をめぐって Ⅳ:格差社会論の正体(目標2,3) 第7回　情報化社会論をめぐって Ⅰ:「情報化社会」とは(目標1) 第8回　情報化社会論をめぐって Ⅱ:マクルーハンのメディア論(目標1) 第9回　情報化社会論をめぐって Ⅲ:技術と社会(目標2) 第10回　情報化社会論をめぐって Ⅳ:近代産業社会と情報化社会(目標2,3) 第11回　「若者」をめぐって Ⅰ:問題化される「若者」(目標1) 第12回　「若者」をめぐって Ⅱ:若者論の系譜(目標1) 第13回　「若者」をめぐって Ⅲ:現代社会と「若者」(目標3) 第14回　ディスカッション or映像視聴 第15回　総括
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 １．授業で説明した社会学的思考を理解しているか。 ２．社会学という学問の特異性と魅力あるいは問題点を自分なりに見出し論じられるか。 評価の方法　期末レポート 70%，授業への参加度 30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しません。講義のなかで適宜紹介します。
推薦図書等	
参考URL	
備考	出席が極端に少ない学生のレポートを受け取れないので，注意してください。

物理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	物理学
科目責任者	貫井　正納
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0014005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	身の回りの現象，力，電気，磁石，熱，実験，観察，記録，推論，問題解決
授業のねらい・概要	身の回りで起こる物理的な現象を取り上げ，その現象のきまり，昔の人はどの様に考えたのか等を考え，具体的に物を作り試してみる。 児童の素直な疑問に応えられる柔軟な考え方を身につける。 観察や実験を多く行い実証的に考える習慣を育成する。 また現在の高度の科学技術についてその利便性とともに弊害について考える。
学生の達成目標	1. 小学校理科の物理分野における自然の事物,現象についての基礎的な知識の習得をする。 2. 児童に自然のすばらしさや巧妙さを気づかせる幅広い知識の獲得。 3. 簡単な道具や材料を使い便利な道具や道具の改良をする。 4. 科学の発達の歴史を振り返り,これからの科学,科学技術と社会生活のあり方を考える。 5. 問題解決の方法の習得,論理的な思考能力の育成を図る。
授業内容	第1回　身の回りにあるものを観察してみよう。(目標1,3,5) 第2回　観察した事柄を整理してみよう。(目標1,3,5)

	第3回　物体の測定と有効数字及び実験レポートの書き方。(目標1,2,5) 第4回　波の働き1:光のはたらき(目標1,2,3,4.5) 第5回　波の働き2:きれいな色(目標1,2,3,4,5) 第6回　波の働き3:音を作ろう(目標1,2,3,4,5) 第7回　大きい人は力持ちか;力の話(目標1,2,3,4,5) 第8回　重い物を持ち上げる;てことてんびん モーメント(目標1,2,3,4,5) 第9回　エネルギーとは何か::熱のふるまい(目標1,2,3,4,5) 第10回　エネルギーは保存される(目標1,2,3,4,5) 第11回　流れる電気・見える電気:静電気の不思議(目標1,2,3,4,5) 第12回　流れる電気(目標1,2,3,4,5) 第13回　磁石の不思議(目標1,2,3,4,5) 第14回　電気と磁石の秘密(目標1,2,3,4,5) 第15回　日常の物理現象に気をつけよう(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 １．授業で説明した社会学的思考を理解しているか。 ２．社会学という学問の特異性と魅力あるいは問題点を自分なりに見出し論じられるか。 評価の方法　期末レポート 70%，授業への参加度 30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 自作のプリントを配布する。参考書はその都度紹介する。学習指導要領解説　理科編 平成 20年発行
推薦図書等	
参考URL	
備考	・小学校理科の物理分野における自然の事物，現象についての基本的な理解を得る。 ・児童に自然のすばらしさや巧妙さを気づかせる幅広い知識の獲得。 ・簡単な道具や材料を使い便利な道具の作成や改良をする。 ・科学の発達の歴史を振り返り，これからの社会のあり方を考える。 ・観察，実験は随時行う。実験用のノート，プリント用のファイルを用意する。

自然科学入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	自然科学入門
科目責任者	佐藤　将朗
担当教員	桑名　俊一 小池　和子 角　友起
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0039005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生物学，化学，物理学
授業のねらい・概要	一般教養科目として自然科学の概念をを身につける。 本学の学生は将来人に接する職に従事するため，豊かな人間性や倫理性に加え，人間やそれを取り巻く環境を科学的に理解・分析する能力が必要となってくる。 これらの能力を身につけるため，本講義では，高校の物理・化学・生物の基礎的知識を確認したのち，それらの知識が人間やそれを取り巻く環境を理解する上でどのように役立つかを学ぶ。
学生の達成目標	1.　人体や環境を理解するための生物学的概念を説明できる。 2.　人体や環境を理解するための化学的概念を説明できる。 3.　人体や環境を理解するための物理学的概念を説明できる。
授業内容	第1回　「自然科学序論」-自然科学を学ぶ目的および学問としての自然科学を理解する

		「単位と数」-自然科学を理解する上での単位の使われ方を理解する(目標1,2,3)
	第2回	「生命の基本単位」-生命の基本単位である細胞の構造を理解する(目標1)
	第3回	「3大栄養素」-生命を維持する栄養素,特に糖質,タンパク質,脂質の構造・性質を理解する(目標1)
	第4回	「代謝とエネルギー」-生命を維持するエネルギー源を理解する。-(目標1)
	第5回	「遺伝」-親から子へ伝えられる形質について理解する(目標1)
	第6回	「物質の構成」-物質を構成する原子や分子について理解する(目標2)
	第7回	「溶液」-人体を構成する細胞内液や外液が化学的溶液であることを理解する(目標2)
	第8回	「pH」-pHの概念と人体における pH調節の重要性について理解する(目標1,2)
	第9回	「圧力」-人体の受けている圧力や人体が作る圧力を理解する(目標1,3)
	第10回	「気体の溶解」-細胞が生きて行くために必要な酸素がどのように溶けているのかを理解する(目標1,2,3)
	第11回	「速度・加速度」-直線運動の基本的概念を理解する(目標3)
	第12回	「力と運動(1)」-運動方程式,つりあい,回転運動についてを理解する-(目標3)
	第13回	「力と運動(2)」-仕事,エネルギーについて理解する。(目標3)
	第14回	「波動」-聴覚や視覚の源となる光や音の物理的性質を理解する(目標3)
	第15回	「電気」-電気の基本的概念を理解する(目標3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	講義内容に関する生物，化学，物理の基本的概念を理解できていること。
	評価の方法	定期試験 50%，小テスト 30%，授業への参加度 20%とし，総合評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリント等の資料を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		

備考

化学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	化学
科目責任者	
担当教員	山﨑　忠義
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0015005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	化学の基本概念，化学の基礎的な原理・法則，物質の性質と反応性
授業のねらい・概要	専門分野の学習で必要と思われる化学の基本概念や原理・法則，物質の性質・反応性などについて，実験を通して，高校で化学を履修しなかった者でも理解できるよう配慮し，身近な現象や物質と関連付けながら学習する。内容は高校化学の「物質量」から「有機化学」までを目標とする。
学生の達成目標	1. 化学の基本概念を理解する。 2. 化学の基礎的な原理・法則を理解する。 3. 物質の性質や反応性を理解し,専門科目の学習への基礎を身につける。 4. 講義の中での化学実験を通して,体験的に理解する。
授業内容	第1回　導入,原子・分子・イオン(原子構造,電子配置,周期表,化学結合等),(目標1) 第2回　物質量と化学反応式(原子量,分子量,物質量等),(目標1) 第3回　物質量と化学反応式(化学変化と量的関係等),(目標2,3,4)

	第4回	溶液の性質(溶解度,濃度,希薄溶液の性質等),(目標1,2)
	第5回	酸・塩基・塩(電離,[H+]と pH,中和反応と塩等),(目標1,3)
	第6回	酸・塩基・塩(中和の量的関係,中和滴定と pHの変化等),(目標2,4)
	第7回	酸化・還元反応(酸化と還元,酸化剤と還元剤等),(目標1,3)
	第8回	酸化・還元反応(酸化剤・還元剤の強さ,金属のイオン化傾向と反応性等),(目標3,4)
	第9回	電池(各種電池の原理と仕組み等),(目標2,4)
	第10回	電気分解(水溶液の電気分解と量的関係等),(目標2,4)
	第11回	有機化合物 Ⅰ(炭化水素等),(目標1,3,4)
	第12回	有機化合物 Ⅰ(酸素を含む脂肪族化合物等),(目標3,4)
	第13回	有機化合物 Ⅱ(油脂と石鹸,芳香族炭化水素等),(目標3,4)
	第14回	有機化合物 Ⅱ(酸素や窒素を含む芳香族化合物等),(目標3,4)
	第15回	高分子化合物(糖類,タンパク質等),(目標1,3)とまとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	講義内容が理解できていること。受講態度や出席も重視，課題や実験レポートの内容等。
	評価の方法	平常点（出席状況，受講態度，課題や実験レポート等）20%，小テスト 20%，期末の筆記試験 60%の成績を総合する。この比率は若干変更することもあり得る。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「高等学校　新編　化学 Ⅰ」啓林館。 ISBN： 978 -4-402-01365-3	
推薦図書等		
参考URL		
備考	中学・高校の化学の内容を読んでおく。 講義・実験用プリント等を綴じる A４版ファイルを用意するとよい。	

生物学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	生物学
科目責任者	小池　和子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0016005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生命の起源と進化，分類・同定と命名，遺伝，細胞，発生，微生物，生態
授業のねらい・概要	専門科目を学習するために必要な生物学を，生命現象の科学的探究により理解する。 生物学を通じて豊かな人間性を養い，柔軟性のある価値観を育成するため，種々のメディアを利用する。 また，理解を容易にし，あるいは理解を深める助けとするため，サンプルを供覧，観察することも計画する。
学生の達成目標	1. 生物の形態や構造・系統進化・機能との関連について理解する。 2. 分子遺伝学,遺伝子診断,遺伝子治療,遺伝子組換え,クローン生物などの基礎を理解する。 3. 生物とその諸機能や諸現象に対し,その本質を探求する素養を培う。個体レベルから細胞レベル,分子レベルでの動的側面を理解し,生体成分の性質と機能について,生命現象から理解を深める。 4. 感染と感染生物の知識を深め,感染防御について理解を深める。 5. 生命に対する倫理観を養う。生態学を学習し,地球における生物,人類の望ましい未来を希求する。

授業内容	第1回	生物の起源,進化と生物学の歴史(目標1)
	第2回	生物の分類学と同定法,命名(目標1)
	第3回	細胞の構造と機能,原核生物と真核生物(目標2,3)
	第4回	細胞の分裂と増殖,発生(目標1,3)
	第5回	生物におけるエネルギー産生と代謝,調節機構(目標1,3)
	第6回	光合成と炭素の固定(目標1,3,5)
	第7回	生体物質,たんぱく質と酵素(目標3)
	第8回	遺伝学の理解 遺伝と遺伝子,染色体(目標2,4)
	第9回	遺伝のしくみ,遺伝子の構造と機能,発現調節機構,遺伝子組換え(目標1,2,3)
	第10回	遺伝子診断,遺伝子治療とクローン技術(目標2,5)
	第11回	寿命,遺伝子治療(目標1,2,3,5)
	第12回	感染生物と生体防御(目標1,2,4)
	第13回	生物学から見た生命倫理(目標1,5)
	第14回	生物と生態と人類の未来(目標5)
	第15回	総括・まとめ(目標1～5) なお,
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	生物学を，生命現象として科学的にとらえる基礎が理解され，生物を通じて豊かな人間性を養うための生命の尊厳に対する問題解決が可能であるかを評価の基準とする。
	評価の方法	筆記試験（ 70%），平常点（ 10%），レポート等（ 20%）の総合評価とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 羊土社　東京大学生命科学教科書編集委員会編　文系のための生命科学	
推薦図書等		
参考URL		
備考	両学部にとって，専門性を身につける上で大切な生物学を古典から先端的なトピックスにも触れて，生物の持つ神秘や統合のメカニズムを理解しましょう。	

統計学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	統計学
科目責任者	
担当教員	白石　靖
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0017005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	データの処理，確率分布，統計的推測
授業のねらい・概要	記述統計・確率論・推測統計の基礎を理解させる。医療や教育現場の事象考察に際し，実験や観察，調査によって得られたデータを統計的に処理する手法と確率論的に解読する態度を身につける。
学生の達成目標	1.　標本抽出の手法を理解する。 2.　標本の整理手法を知る。 3.　データ(標本)から種々の統計量の算出方法を理解する。 4.　代表的な確率分布を理解する。 5.　推定・検定の原理を知り,具体的手法を理解する。
授業内容	第1回　1変量のデータ1・・・・・・・度数分布表(目標1・2) 第2回　1変量のデータ2・・・・・・・ヒストグラム(目標1・2) 第3回　1変量のデータ3・・・・・・・平均(目標1・3)

第4回	1変量のデータ4・・・・・・・分散・標準偏差(目標1・3)
第5回	2変量のデータ・・・・・・・・・散布図・相関係数(目標1・3)
第6回	演習(その-1,データの整理)(目標2・3)
第7回	確率分布1・・・・・・・・・・・・・確率変数・確率密度関数(目標1・4)
第8回	確率分布2・・・・・・・・・・・・・正規分布(目標1・4)
第9回	確率分布3・・・・・・・・・・・・・2項分布(目標1・4)
第10回	統計的推定1・・・・・・・・・・・母平均の区間推定(目標1・4・5)
第11回	統計的推定2・・・・・・・・・・・母比率の区間推定(目標1・4・5)
第12回	統計的検定1・・・・・・・・・・・検定の3つの手順(目標1・4・5)
第13回	統計的検定2・・・・・・・・・・・母平均・母比率の検定(目標1・4・5)
第14回	演習(その-2,推定・検定)(目標4・5)
第15回	まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・近代統計学とは,その研究方法の概略(目標1・4・5)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	データを統計的に処理する手法とその原理を理解すること。
	評価の方法	平常点 30%，レポート 20%，期末試験 50%を目安として，総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「入門はじめての統計解析」石村貞夫著　東京図書 ISBN： 978 -4-489-00746-0
推薦図書等	
参考URL	
備考	対数，順列・組合せ，確率，定積分等の各領域に関わる高校数学の基礎理解が望まれる。

人間関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	人間関係論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0018005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自己理解，他者理解，よい人間関係，性格と感情
授業のねらい・概要	１．よりよい人間関係を築くための考え方や行動の仕方について理解する。 ２．人間関係の重要さについて理解し，人間関係を大切にできるような心構えをつくる。 ３．様々な組織における人間関係を理解し，各組織の活動にかなった人間関係を築けるようにする。 ４．人間関係のトラブルについて学び，解決能力を養成する。
学生の達成目標	1. 様々な人間関係のあり方について理解する。 2. 自分自身の人間関係の持ち方について理解する。 3. 様々な組織における人間関係の特徴を理解する。 4. 自分と他者を生かす人間関係の築き方について理解する。 5. 人間関係で予想されるトラブルを理解し,解決法を身につける。
授業内容	第1回　自己を理解する。自己概念とは。自己のとらえ方を学び,自己概念が人間関係に及ぼす影響について理解する。(目標1,2)

第2回	性格と自己理解。性格の違いによって,自己の理解がどう変化するかを見る。(目標2)
第3回	自尊心と自己防衛。健全な自己形成や人間関係における自尊心・自己防衛の意味や役割を理解する。(目標2,4)
第4回	自己開示の心理。自己開示の意味を考え,心の健康にとってよりよい自己開示の仕方を考える。(目標2,4)
第5回	対人認知,印象と理性的判断,対人認知の歪み。人の行動の理解の仕方を学び,対人認知の歪みの危険性について理解する。(目標2,4)
第6回	対人感情 好き嫌いの心理。人に対する好き嫌いの感情がどのように形成されるのかについて学び,妥当な評価とは何かについて理解する。(目標1,2,4)
第7回	対人行動,異性とのつきあい。異性との関係において起こる特徴的な心理や行動を理解し,健全な関係について考える。(目標1,2,4,5)
第8回	学校における人間関係。生徒と生徒,生徒と教師といった学校における人間関係の特徴について理解し,学校における望ましい人間関係について考える。(目標3,4)
第9回	家族における人間関係。家族や地域社会における人間関係の特徴について理解し,よりよい家族や地域のあり方について考える。(目標3,4)
第10回	職場における人間関係。会社などの職場での人間関係の特徴について理解する。(目標3,4)
第11回	共感と社会的結合。人間関係における共感や思いやりの重要性について学ぶ。(目標1,4,5)
第12回	援助行動。援助行動を起こす心理や援助を受ける側の心理について理解し,よりよい援助のあり方について考える。(目標1,2,3,4,5)
第13回	感情のコントロールと人間関係 対人関係のトラブル。人間関係でのトラブルが起きる要因について理解し,トラブルの克服の仕方について考える。(目標2,4,5)
第14回	人間関係を円滑にする方法。悪化した人間関係を分析し,人間関係を円滑にする要因について考え,人間関係を発展させるための考え方や行動の仕方を考察する。(目標4,5)
第15回	難しい人とのつきあい方。性格の偏りや人格障害について理解し,非社会的行動や反社会的行動への対処方法を考える。(目標2,5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	人間関係に関する考え方を獲得していること。 様々な人間関係を理解し，トラブルを解決するための見通しを持てること。
	評価の方法	授業への参加度と質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特定のテキストは指定しない。資料を配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項は復習すること。

国際関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	国際関係論
科目責任者	
担当教員	田村　孝
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0019005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	東南アジアと日本，エビの養殖，ヨーロッパ共同体， EU通貨危機
授業のねらい・概要	まず，前半で日本と東南アジアがモノを媒介として結びついていることをエビの養殖と輸入を通じて学ぶ。 ついで第二次大戦後のヨーロッパの政治状況をとりあげ，個々ばらばらであった諸国がヨーロッパ共同体を作り上げていった経過とその現状とを調べてみたい。 こうした国家の協力体制はアジアの諸国の将来にも大いに参考になると思われるからである。
学生の達成目標	1. 東南アジアと日本との結びつきをエビの養殖を実例として学ぶ。 2. ヨーロッパの第二次大戦後の政治状況を学ぶ。 3. 諸国家の連合体とはどんなものなのかをヨーロッパを事例としてとりあげ,その長所・短所を学ぶ。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,2,3) 第2回　国際関係論という学問(目標1,2,3)

	第3回	東南アジアの国々と地誌(目標1)
	第4回	東南アジアと日本(エビの養殖をめぐって)(目標1)
	第5回	東南アジアと日本(インドネシアを事例として)(目標1)
	第6回	東南アジアと日本(エビの加工と環境破壊とをめぐって)(目標1)
	第7回	東南アジアと日本(タイと日本)(目標1)
	第8回	ヨーロッパと第二次世界大戦(目標2)
	第9回	ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(目標2,3)
	第10回	ヨーロッパ経済共同体(目標2,3)
	第11回	ヨーロッパ共同体(目標3)
	第12回	ヨーロッパ共同体とイギリス(目標3)
	第13回	通貨の統一と危機(目標3)
	第14回	文章作成「国際社会と日本の将来」(目標1,3)
	第15回	質問・文章添削・講評(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内容をもとにどの程度理解をしているか，またそれらを文章化できているかどうかを評価基準とする。
	評価の方法	授業への参加（ 30%）と学期末の試験の成績（ 70%）による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	受講生の反応を見て，授業内容は適宜変更することがある。 授業中の私語と携帯電話メールの使用は禁止する。	

コミュニケーション論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	コミュニケーション論
科目責任者	
担当教員	野澤　和弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0020001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害児者とのコミュニケーション，権利擁護，虐待，アート，童話
授業のねらい・概要	現実に起きている事件や政治の動きを通して，障害児者とのコミュニケーションの取り方，社会の変化についてリアルに考察できるセンスや技量を身につける。
学生の達成目標	1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性はなにかを知る。 2. どうやって言葉にならない彼らの思いを受け止められるかを知る。 3. 虐待の実態を知り,なぜ虐待が起きるのかを知る。 4. アートなどに見る障害児者の魅力も知る。 5. 障害児の家族の思い,社会の構造を知る。
授業内容	第1回　ドラマや映画に登場する障害者(目標1) 第2回　現実に何が起きているのか～事件から学ぶ(目標3) 第3回　障害のある子や人の思いをどうやって受け止められるのか(目標2)

	第4回	ディスレクシアとは何か(目標1)
	第5回	なぜ人は虐待するのか～虐待の構造(目標3)
	第6回	なぜ人は虐待するのか～虐待の背景(目標3)
	第7回	自閉症の世界(目標1)
	第8回	小さなピカソたち～障害者のアート(目標4)
	第9回	障害者のための新聞「ステージ」(目標1)
	第10回	「ステージ」を作ってみよう(目標1)
	第11回	童話
	第12回	障害者差別をなくすための千葉県条例～条例の成立過程と内容(目標5)
	第13回	障害者差別をなくすための千葉県条例～差別の本質(目標5)
	第14回	マスメディア論(目標5)
	第15回	総括(目標1)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	障害のある子や人のコミュニケーション特性，虐待の構造，権利擁護の基本知識と姿勢が理解できているかどうか。
	評価の方法	試験 50%，レポート 20%，授業への参加度 30%，など
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

コミュニケーション論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	コミュニケーション論
科目責任者	
担当教員	井口　ひとみ
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0020005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ノンバーバルコミュニケーション，バーバルコミュニケーション，対人
授業のねらい・概要	コミュニケーション論の概念，理論を理解し，将来的には医療の場で効果的，かつ適切なコミュニケーション行動を展開できるような学びとする。
学生の達成目標	1. コミュニケーション論の概念,理論を理解する 2. 概念・理論をもとに実践方法を理解する 3. 演習を通して,コミュニケーションの概念,理論をフィードバックできる 4. 対人関係を通して,自己のコミュニケーションについて考えることができる
授業内容	第1回　ガイダンス, ALSの方の自費製作映画(目標1) 第2回　コミュニケーションを学ぶ意義,概念,理論,ヘルスケアにおける効果的なコミュニケーション(目標1,2) 第3回　ヘルスケアにおける効果的なコミュニケーション,言語的コミュニケーション技法の序論(目標1,2,3)

	第4回	言語的コミュニケーション,質問と応答,かわるがわる話す(目標1,2,3)
	第5回	・
	第6回	非言語的合図
	第7回	中間のまとめ
	第8回	言語的コミュニケーションの追加的要素(目標1,2,3)
	第9回	・
	第10回	相手の気持ちに立って話をする力(目標1,2,3,4)
	第11回	自分の心を開くコミュニケーション,小集団コミュニケーション(目標1,2,3,4)
	第12回	・
	第13回	クリティカルに考える力(目標1,2,3,4)
	第14回	ヘルスケアのためのコミュニケーション,擬似体験(目標1,2,3,4)
	第15回	まとめ(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	総合的に評価する
	評価の方法	出席態度，課題レポート等 20%，グループワークと全体討議 20%，試験 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は，演習を中心にしながら展開していきたい。 連絡方法　植草学園短期大学（ A棟４ Ｆ　井口研究室）	

環境科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	環境科学
科目責任者	
担当教員	村上　正孝
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0021005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	公害，地球環境問題，環境保健，環境教育
授業のねらい・概要	地球環境の悪化は人類の生存の可能性に警鐘を鳴らしている。 このような将来予測の根拠は環境科学研究の知見である。 先進国は悲惨な公害問題を経験・克服してきた。 しかし地球規模の環境変化への対応は人類の生き方の根本的な見直しを求められている。 そこで過去から現在にいたる，代表的な環境問題を地域レベルと地球レベルに分けて学び，われわれの生存と健康・生活に欠かせない環境資源を持続可能に利用するために，どうしたらよいか，受講生，皆で考えてもらう。
学生の達成目標	1. 環境問題は地域レベル(公害)と地球レベルで分けて整理する。 2. 環境汚染のリスクの対象は,健康,生態系, Wellbeing(自然資源,インフラ,人間活動など)に分類する。 3. 環境問題の調査・研究方法を理解する。 4. 環境問題への対策を学ぶ。 5. 環境教育の方法を習得する。

授業内容	第1回	1環境科学の定義(目標1,2,3,4,5)
	第2回	地域レベルの環境問題(公害):例として,大気汚染-産業型公害(千葉川鉄公害)(目標2,3)
	第3回	水・土壌汚染-産業型公害(水俣病,イタイイタイ病)(目標2,3)
	第4回	大気汚染:生活型公害(自動車排気ガス,石綿)(目標2,3)
	第5回	騒音公害:飛行場,高速道路など(精神・心理的影響)(目標2,3)
	第6回	わが国における公害対策の歴史(目標4)
	第7回	地球規模の環境問題(目標1,2,3)
	第8回	温暖化ガスによる地球温暖化とその影響(目標2,3)
	第9回	地球環境問題に対する国際的取組み(目標4)
	第10回	廃棄物問題と循環型社会,スピーチ・討議方法の指導(目標1,2,3,4)
	第11回	3分間スピーチ:各受講生による環境問題にかかわるテーマについての発表(目標5)
	第12回	グループ討議(6-6式討議法):環境にかかわるテーマについて討議し発表する(目標5)
	第13回	スピーチと討議の結果をふまえて講師がコメントする(目標5)
	第14回	環境教育(目標5)
	第15回	総括(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	１）環境問題についての，基本的知識と対策を整理することができる。 ２）さらに自ら，環境保全のための基本的行動ができることを合格基準とする。
	評価の方法	レポート 50%，授業への参加度 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 鈴木庄亮，久道茂監修：シンプル衛生公衆衛生学，南江堂　２,400円　ISBN：978 -4-524-25358-6	
推薦図書等		
参考URL		
備考	参考ＵＲＬ	

情報科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	情報科学
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0022005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	情報科学．情報社会の歴史．人間と計算機の情報処理．情報の伝達と理解．情報の活用
授業のねらい・概要	情報科学はコンピューターを含め，言語学，心理学，社会学，物理学，数学，政治学，経済学，法律学など多くの学問が相互に関連しあった総合的・学際的学問です。 本講義では情報とは何かを理解することから始め，私たちの生活の中で確認することができる情報科学にまつわる多くの具体例を取り上げて学習していきます。 これにより自身の専門の土台，また教養として情報を捉えることができ，活用できるようになることを目指します。
学生の達成目標	1. 情報科学の基本的知識を習得する。 2. 人間の心理に与える情報の影響について具体的に理解する。 3. 教育のための効果的な情報の活用について理解し,実践できるようになる。 4. 医療のための効果的な情報の活用について理解し,実践できるようになる。 5. 情報化社会を主体的に生きていくために必要な姿勢を身につける。

授業内容	第1回	「情報科学の基礎知識」-情報の種類と特性,情報科学の歴史-(目標1,5)
	第2回	「情報社会の発達」-情報伝達の発達,情報産業の発達-(目標1,5)
	第3回	「コンピューターの発達」-発明から最新事情まで-(目標1,5)
	第4回	「情報の内容と信頼性1」-観察事実と推論,観察報告にみられる歪み-(目標2,5)
	第5回	「情報の内容と信頼性2」-情報の信頼性のチェック,マスコミの内容分析-(目標2,5)
	第6回	「情報の読みやすさ」-レジビリティーとリーダビリティー-(目標2)
	第7回	「情報と人間の行動・心理1」-情報と知的好奇心,宣伝広告,投票行動-(目標2,5)
	第8回	「情報と人間の行動・心理2」-情報と人間関係,あいさつことば,日常会話-(目標2,5)
	第9回	「人間の情報処理」-情報の貯蔵システム,符号化と検索-(目標1,2)
	第10回	「コンピューターの情報処理と情報の通信」-プログラミング言語,最新の通信技術 (目標1,3,4)
	第11回	「情報の伝達」-情報伝達と集団の規模,デマ,マスコミの特性-(目標2,5)
	第12回	「情報の理解」-情報理解の型とその意義,誤解の生じる原因-(目標1,2,5)
	第13回	「情報源とその活用」-各種情報メディアの活用の実際-(目標3,4)
	第14回	「情報の収集・評価・整理」-情報収集の関心と選択,情報の評価・批判,情報の整理法(目標3,4,5)
	第15回	「まとめ」-レポート作成と今後の課題について-(目標3,4,5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業を通じて身につけた情報科学の基礎的知見を反映した課題の内容が優れていることを合格の基準とする。
	評価の方法	通常授業時の課題提出状況および内容（ 40%），まとめとして提出するレポートの内容（ 50%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 情報科学入門　佐藤泰正　学芸図書株式会社 ISBN： 9784761603366
推薦図書等	
参考URL	

備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。

スポーツ・レクリエーション Ⅰ（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	スポーツ・レクリエーション Ⅰ（実技）
科目責任者	
担当教員	植草　完
授業形態	実技
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ニュースポーツ，コミュニケーション・ワーク，レクリエーション・ワーク，インストラクター
授業のねらい・概要	レクリエーション種目やニュースポーツを通し，現代社会におけるスポーツの意義，とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を認識し，活用できる能力を身につけてほしい。 そのために，積極的な態度で授業に臨み，活動することを心がけること。レクリエーション・インストラクター資格取得のための実技科目である。
学生の達成目標	1. レクリエーション活動の意義を理解する。 2. さまざまな活動を通して,活動すること自体の喜びを実際に体験・理解する。 3. 他者への支援(指導)が出来るようにする。 4. 安全な活動と,そのための危険を回避する能力を身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション,アイスブレーキング ①(目標1,2,4) 第2回　アイスブレーキング ②(目標1,2,3,4) 第3回　チャレンジ・ザ・ゲーム(目標1,2,4) 第4回　子どもの遊び(伝承遊びを含む)(目標1,2,4)

	第5回	ウォーク・ラリー ①(目標1,2,4)
	第6回	ニュースポーツ(インディアカ)(目標1,2,4)
	第7回	ニュースポーツ(キンボール)(目標1,2,4)
	第8回	ホスピタリティ・トレーニング ①(目標1,2,4)
	第9回	ホスピタリティ・トレーニング ②(目標1,2,3,4)
	第10回	ニュースポーツ(ペタンク)(目標1,2,4)
	第11回	ニュースポーツ(スピードミントン)(目標1,2,4)
	第12回	ウォーク・ラリー ②(目標1,2,3,4)
	第13回	ニュースポーツ(フライングディスク)(目標1,2,4)
	第14回	支援実習(振り返りを含む) ①(目標1,2,3,4)
	第15回	支援実習(振り返りを含む) ②(目標1,2,3,4)
	第16回	支援実習(振り返りを含む) ③(目標1,2,3,4)
	第17回	支援実習(振り返りを含む) ④(目標1,2,3,4)
	第18回	支援実習(振り返りを含む) ⑤(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	達成目標の達成度を評価する。
	評価の方法	試験（ 50～ 60%），提出物（ 20～ 30%），出席及び参加態度（ 10～ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	教科書は用いない。必要な資料等を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	レクリエーション活動を行うので服装は大学指定の体操服（ジャージ上下）とする。 体育館用とグランド用にそれぞれ運動靴を用意する。 その他装飾品や爪など運動時に支障とならないようにすること。	

スポーツ・レクリエーション Ⅱ（理論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	スポーツ・レクリエーション Ⅱ（理論）
科目責任者	
担当教員	植草　完
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0024005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	レクリエーション支援，現代社会とレクリエーション，レクリエーション事業，インストラクター
授業のねらい・概要	レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方，そのための指導理論，組織論，事業論などの学習を通じ，支援者（指導者）としての実践能力を高める。 学生の経験に照らして考えられるよう進め，自分の生活と関連づけて理解し実践できるようにする。 レクリエーション・インストラクター資格取得のための理論科目である。
学生の達成目標	1. レクリエーション活動の意義を理解する。 2. レクリエーション支援のための指導理論を理解する。 3. 支援のためのコミュニケーション能力を高める。 4. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を養う。 5. レクリエーション支援が十分に効果を上げるために組織論,事業論を理解し,活用できるようにする。

授業内容	第1回	オリエンテーション,レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史 ①(目標1)
	第2回	レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史 ②,これからのレクリエーション運動(目標1)
	第3回	レクリエーション支援の考え方(目標2,3)
	第4回	レクリエーション・インストラクターの役割(目標2,3)
	第5回	ライフスタイルとレクリエーション ①(乳幼児期から青年期)(目標2,4)
	第6回	ライフスタイルとレクリエーション ②(青年期から高齢期)(目標2,4)
	第7回	高齢社会の課題とレクリエーション(目標2,4)
	第8回	少子化の課題とレクリエーション(目標2,4)
	第9回	地域とレクリエーション(目標2,4)
	第10回	レクリエーション事業とは(目標2,5)
	第11回	事業の展開方法(目標2,5)
	第12回	事業計画 Ⅰ(PDCAサイクルに基づく計画立案)(目標2,5)
	第13回	事業計画 Ⅱ(計画立案と広報活動)(目標2,5)
	第14回	レクリエーション活動の安全管理(目標2,5)
	第15回	まとめ(目標1,2,4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	達成目標の達成度を評価する。
	評価の方法	試験（ 50～ 60%）, 提出物・参加状況（ 40～ 50%）
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	スポーツ・レクリエーション Ⅰを受講していること。	

体育（テニス）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	体育（テニス）
科目責任者	
担当教員	田村　尚雄
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0040005
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生涯スポーツ，基本技術，コミュニケーション
授業のねらい・概要	生涯スポーツであり世界で親しまれているテニスと，日本で生まれたソフトテニスを実践し，その特性やルール・戦術を理解し，基本技術を修得する。 また，運動の楽しさや喜びを味わうとともに，継続的に運動ができる資質や態度を育てる。
学生の達成目標	1. 安全に留意しながら実践力を養い,健康を保持増進する運動量を確保する。 2. 準備から片づけまでを含む授業に自ら積極的に参加し,ルールやマナーを遵守し実践する。 3. グループ内で仲間とコミュニケーションをとり,公正,協力,責任などの役割を果たし,教え合うことで技術修得と向上,およびゲームができるようにする。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,2,3)Ⅰ.テニス 第2回　ストローク,ボレー(目標1,2,3)

	第3回　サービス,スマッシュ(目標1,2,3) 第4回　総合練習と簡易ゲーム(目標1,2,3) 第5回　総合練習と簡易ゲーム(目標1,2,3) 第6回　シングルスゲーム(目標1,2,3) 第7回　ダブルスゲーム(目標1,2,3) 第8回　団体戦(目標1,2,3,4)Ⅱ.ソフトテニス 第9回　ストローク,ボレー(目標1,2,3) 第10回　サービス,スマッシュ(目標1,2,3) 第11回　総合練習と簡易ゲーム(目標1,2,3) 第12回　ダブルスゲーム(目標1,2,3) 第13回　団体戦(目標1,2,3) 第14回　グループ別実習(目標1,2,3) 第15回　まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 達成目標の達成度を評価する。 評価の方法 授業参加態度・意欲（ 70%），実技（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし
推薦図書等	
参考URL	
備考	服装は大学指定の体操服（ジャージ上下），運動シューズ（スパイクなし）を着用して参加すること。 その他装飾品や爪などは運動に支障がないようにすること。 自己所有のラケットの使用可。 授業状況により，内容変更の可能性もある。

体育（弓道）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	体育（弓道）
科目責任者	
担当教員	秋山　和意
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0041005
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	日本の伝統文化としての弓道
授業のねらい・概要	弓道を体験して，人としての道を理解し，人間性を高める。
学生の達成目標	1. 弓道の正しい理解をする。 2. 弓道を正しく体現する。 3. 弓道の「道」をどのように考えるか。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,3) (弓道の正しい見方,弓道の学習法,弓道の理念,危険防止対策,道場の約束事など) 第2回　弓道の歴史と現代弓道の精神的背景(目標1,2) 使用する道具とその扱い方(弦,弾,胸当て(女子のみ),矢の番え方など) 第3回　射法の学習(1) …弓道八節(徒手,ゴム弓)(目標1,2) 第4回　射法の学習(2) …弓道八節(徒手,ゴム弓)(目標1,2)

第5回	射法の学習(3) …弓道八節(弓を使っての素引き)(目標1,2)
第6回	射法の学習(4) …弓の扱い方,弽の使い方,矢の扱い方(目標1,2)
第7回	的前行射(5) …矢道(約 10メートルの位置)からの行射(目標1,2) (5人一組で行う。射終わったら看的・矢取り。残りは見取り学習)
第8回	的前行射(6) …矢道(約 10メートルの位置)からの行射(目標1,2) (5人一組で行う。射終わったら看的・矢取り。残りは見取り学習)
第9回	的前行射(7) …矢道(約 10メートルの位置)からの行射(目標1,2) (5人一組で行う。射終わったら看的・矢取り。残りは見取り学習)
第10回	射法の実際 …正規の位置(28メートルから)の行射(目標1,2)
第11回	射法の実際 …正規の位置(28メートルから)の行射(目標1,2)
第12回	基本体の学習と行射 …正規の位置(28メートル)からの行射と作法習得(目標1,2)
第13回	基本体の学習と行射 …正規の位置(28メートル)からの行射と作法習得(目標1,2)
第14回	基本体の学習と行射 …坐射で一手行射(目標1,2,3)
第15回	総仕上げの学習 …坐射で一手行射(体配,射形,射の運行)(目標1,2,3)
	※弓道場のほか,状況によっては予備教室を使用することがある。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業の積極的な参加，実技（行射）の到達度，授業前の準備・整理状況を評価する。
	評価の方法	レポート，出席状況，実技結果を評価評定により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし（必要に応じてプリント使用する。）	
推薦図書等		
参考URL		
備考	◎ジャージ． Tシャツ（ボタンのないもの），白足袋, 禁止（指輪，ピアスなど），講義室（予備） ◎弓道未経験者でも可。	

体育（ダンス）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	体育（ダンス）
科目責任者	松原　敬子
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0042005
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ダンス，リズミカル，表現，動きつくり
授業のねらい・概要	自らリズミカルでバランスのとれた身のこなしや運動をコントロールできる身体技能を身につける。 また，踊る楽しさを共感し，創造性豊かな表現力を身につけていく。 さらに，ダンスの簡単な作品を構成できるようになる。
学生の達成目標	1. リズム感を養い,身体で表現する楽しさを味わうこと。 2. 他者と共に身体で表現し合うことの楽しさを分かちあえること。 3. 他者の動きや表現の違いに気づき,さらに自分の表現を磨いていくこと。 4. 簡単な作品を構成できるようになること。
授業内容	第1回　オリエンテーション・アイスブレーキング(目標1・2) 第2回　体ほぐし(目標1・2) 第3回　動きとリズム遊び(目標1・2) 第4回　動きからダンスへ(目標1・2)

第5回	ダンスの基礎 ① 姿勢,歩き方,走り方など(目標1・2)
第6回	ダンスの基礎 ② 基本のステップとその応用(目標1・2)
第7回	動きのコントラスト(目標1・2・3)
第8回	動きつくり(目標1・2・3)
第9回	即興表現(目標1・2・3)
第10回	課題作品の発表,同時に評価の観点について理解を深める。(目標3・4)
第11回	グループによる「ダンスの発表会」企画と練習 ①動きの原型について(目標2・3・4)
第12回	グループによる「ダンスの発表会」企画と練習 ②ダンスの構成について(目標2・3・4)
第13回	グループによる「ダンスの発表会」企画と練習 ③修正(目標1・2・3・4)
第14回	「ダンス発表会」相互評価,評価の観点について理解を深める。(目標1・2・3・4)
第15回	まとめ(目標3・4)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 達成目標を評価する。 評価の方法 発表 60%　提出物 20%　受講態度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は用いない。逐次プリント等配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	動きやすい服装・上履き　運動時に支障とならないよう髪型・アクセサリーの装着・爪など

体育（水泳）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	体育（水泳）
科目責任者	松原　敬子
担当教員	下永田　修二 植草　完
授業形態	実技
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A0043005
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	水泳指導，水中安全，水の特性
授業のねらい・概要	水の特性，水中安全，水泳の基本的な泳法に関する内容について概説し，水泳や水中安全に関する指導のあり方について理解する。
学生の達成目標	1.　水泳競技の基本的な4泳法について,基礎的な知識技能を身につける 2.　水中安全に関しての基礎的な知識技能を身につける 3.　水泳の指導法について基礎的な知識を身につける 4.　水の特性を活かした水中での運動について知識技能を身につける
授業内容	第1回　実技内容,水辺での安全に関するガイダンス 第2回　水の特性についての理解(浮力,水圧,抵抗) 第3回　浮力を活かした水中で運動 第4回　基礎的な泳法の習得(クロール)

第5回	基礎的な泳法の習得(平泳ぎ)
第6回	基礎的な泳法の習得(背泳ぎ)
第7回	基礎的な泳法の習得(バタフライ)
第8回	各種泳法の指導法1(フィンを用いた水泳指導)
第9回	各種泳法の指導法2(スタート・ターンの指導)
第10回	水中での安全(着衣泳)
第11回	水中での安全(救助法)
第12回	リズム水泳
第13回	水中での様々な遊び(潜る・浮く運動)
第14回	水中での様々な遊び(ボールを使った運動)
第15回	水中運動および各種泳法に関する総まとめ

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 水および水泳・水中運動に関する基礎的な内容を理解し，技能を身につけていること。 水中安全に関する内容を理解できていること。 授業の内容をもとに水泳指導に関する自らの考えをもち，説明ができること。 評価の方法 平常点，提出レポート，期末の実技試験で評価する。 平常点 30%，レポート 20%，期末実技試験 50%の成績を総合する。 ただし，この比率は，最終的に若干変更可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は用いない。必要な資料は授業中に配付する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	プールにおける実技であり，水着，キャップ，ゴーグル等が必要である。

英語 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英語 Ⅰ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英語の基礎学力向上，異文化理解，教養，総合的な英語の運用能力養成
授業のねらい・概要	「聞く」「話す」「読む」「書く」活動を有機的に組み合わせ，総合的な英語の運用能力を養成する。
学生の達成目標	1. 基本的な英語を聞いて理解できる。 2. 聞いた英語を書きとることができる。 3. 基本的な英語を読んで理解できる。 4. 理解した英語に対し自分の意見を述べることができる。 5. 自分の意見を英語で表現できる。
授業内容	第1回　Money! Money! Money!(目標1～5が総合的に含まれる: 第2回　以降も同様) 第3回　Let’s Eat! 第4回　Serving the Community 第5回　Talking about Japan 第6回　Human Cloning: Do We Need It ? 第7回　Your Culture or Mine ?

	第8回	City Food from Field to Table
	第9回	The Making of a Nobel Prize-winner
	第10回	Walking for Health: Yours and the Earth’s
	第11回	Changing Lives
	第12回	How Fast Can We Travel ?
	第13回	Medical care for the Whole Person
	第14回	Looking for a Job ?
	第15回	Follow your Dreams
	第16回	まとめ (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験（ 70%），授業中の活動（ 20%），課題等の提出物（ 10%）を対象として総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 金森強他，『English Fast Lane : 異文化理解のための総合英語』，成美堂， 2007. 1 ,900円（税別） ISBN： 978 -4-7919-1037-3	
推薦図書等		
参考URL		
備考	発達教育学部及び保健医療学部は指定されたクラスで実施する。	

英語 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英語 Ⅰ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	「読む」「聞く」「話す」「書く」
授業のねらい・概要	英語 Ⅰでは，欧米の食文化に関連した教材を用いて，高等学校で学んだ英語の基礎的な文法力や語彙力をさらに伸長させ，英語の４技能，「読む」「聞く」「話す」「書く」ための総合的な英語力を養っていくことを目的とする。 また NHKの「リトル・チャロ」や「 Sound of Music」等の映画を副教材として用いることで，楽しみながら，基礎的な英会話表現を学ぶ。
学生の達成目標	1. 高等学校で学んだ英語の語彙や文法力をさらに伸長させる。 2. 基礎的な英文を理解する力を養う。 3. 基礎的な英語を聞き取る力を養う。 4. 基礎的な英語表現を用いて英語を話す力を養う。
授業内容	第1回　授業の進め方について。 第2回　Unit1 Counting Calories(1);会話表現,リスニング,リトル・チャロ(目標3,4) 第3回　Unit1 Counting Calories(2);リーディング(目標1,2) 第4回　Unit3 As American As Apple Pie(1);会話表現,リスニング,リトル・チャロ(目標3,4) 第5回　Unit3 As American As Apple Pie(2);リーディング(目標1,2)

第6回	Unit5 The End of Home cooking(1);会話表現,リスニング,リトル・チャロ(目標3,4)
第7回	Unit5 The End of Home cooking(2);リーディング(目標1,2)
第8回	ここまでの復習
第9回	Unit8 Time for Tea(1);会話表現,リスニング,リトル・チャロ(目標3,4)
第10回	Unit8 Time for Tea(2);リーディング(目標1,2)
第11回	Unit9 Fresh from the Garden(1);会話表現,リスニング,リトル・チャロ(目標3,4)
第12回	Unit9 Fresh from the Garden(2);リーディング(目標1,2)
第13回	Unit 10 Local Delicacies(1);会話表現,リスニング,リトル・チャロ(目標3,4)
第14回	Unit 10 Local Delicacies(2);リーディング(目標1,2)
第15回	全体のまとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（授業への参加度・提出物） 30%，小テスト 20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 英米比較で英語を学ぶ　The UK and the USA -Compare and Contrast-（南雲堂） ISBN： 4 -523-17642-8
推薦図書等	
参考URL	
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 テキストで扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。

英語 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英語 Ⅰ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0027006
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リーディング，リスニング，ライティング，スピーキング
授業のねらい・概要	英語 Ⅰでは，学生が興味を持って学習できるような BBCドキュメンタリーの映像教材を用いて，中学校や高等学校で学んだ英語の知識をもとに，英語の４つの基本的技能，リーディング，リスニング，スピーキング，ライティングの力を総合的に高めていくことを目標とする。
学生の達成目標	1. 中学校や高等学校で学んだ英語の語彙や文法力をさらに伸長させる。 2. 基礎的な英文を理解する力を養う。 3. 基礎的な英語を聞き取る力を養う。 4. 基礎的な英語表現を用いて英語を書いたり話したりする力を養う。
授業内容	第1回　授業の進め方について。プレテスト 第2回　Polar Bears(1);語彙の学習,リスニング(目標3,4) 第3回　Polar Bears(2);リーディング,ライティング(目標1,2) 第4回　The Taj mahal(1);語彙の学習,リスニング(目標3,4)

	第5回	The Taj mahal(2);リーディング,ライティング(目標1,2)
	第6回	Red Kangaroos(1);語彙の学習,リスニング(目標3,4)
	第7回	Red Kangaroos(2);リーディング,ライティング(目標1,2)
	第8回	1回～7回までの復習
	第9回	The Great Wall(1);語彙の学習,リスニング(目標3,4)
	第10回	The Great Wall(2);リーディング,ライティング(目標1,2)
	第11回	Queen Victoria(1);語彙の学習,リスニング(目標3,4)
	第12回	Queen Victoria(2);リーディング,ライティング(目標1,2)
	第13回	Animal Attire(1);語彙の学習,リスニング(目標3,4)
	第14回	Animal Attire(2);リーディング,ライティング(目標1,2)
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への参加度） 30%，小テスト 20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 BBCドキュメンタリーに挑戦（成美堂）	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 テキストで扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。	

英語 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英語 Ⅱ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英語特有の音声変化やリズムの習得，英語の分析的読解力の養成，英語の論理的表現力の養成
授業のねらい・概要	英語特有の音声変化やリズムを体系的に習得し，英語の分析的読解力と論理的表現力を要請する。
学生の達成目標	1. 英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」に関し,総合的な基礎学力を発展的に向上させる。 2. 英語特有の音声変化やリズムを体系的に習得し,実際に聞いたり話したりする際に活用できる。 3. 身近な話題についての英文記事を分析的に読解し,自分の意見を論理的に英語で表現できる。
授業内容	第1回　音の連結 My Heart Will Go On(目標1～3が総合的に含まれる: 第2回　以降も同様) 第3回　音の脱落 ① Open Arms 第4回　音の同化 Don’t Look Back In Anger 第5回　音の脱落 ② A Whole New World 第6回　Let’s read ディズニー映画について 第7回　音の脱落 ③ Livin’ La Vida Loca

第8回	短縮形の音 Kiss of Life
第9回	音声変化の複合 I Don’t Want To Miss A Thing
第10回	音の脱落 ④ Everytime I Close My Eyes
第11回	注意すべき母音 Life
第12回	音の弱化 The Stranger
第13回	短縮形の音 ② All I Want For Christmas Is You
第14回	音の連結 ② Hey Now
第15回	Let’s read 女性の求めるものの時代的変化について
第16回	まとめ (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験（ 70%），授業中の活動（ 20%），課題等の提出物（ 10%）を対象として総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 角山輝彦，『ポップスで学ぶ総合英語　改訂新版』，成美堂， 2011． 2 ,100円（税別） ISBN： 978 -4-7919-3086-9
推薦図書等	
参考URL	
備考	発達教育学部は登録順で 23名までとする。 保健医療学部は指定されたクラスで実施する。

英語 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英語 Ⅱ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎的な英会話表現，リーディング，保育英語
授業のねらい・概要	英語 Ⅱでは，英語 Ⅰで培った英語力をもとに，欧米の文化を話題として扱った英語教材を通して，欧米の文化に対する理解を深めながら，リーディング，リスニング，英会話の力を伸長させると同時に，保育の現場で用いられる英語表現を学ぶ。
学生の達成目標	1. 主として英語の「聞く」「読む」「話す」を中心に総合的な英語基礎学力を向上させる。 2. 保育の英語を学ぶ。 3. 欧米の文化を学ぶ。
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Chapter1(1);会話表現,リスニング,保育英語(手遊び唄1) 第3回　Chapter1(2);リーディング 第4回　Chapter2(1);会話表現,リスニング,保育英語(手遊び唄2) 第5回　Chapter2(2);リーディング 第6回　Chapter3(1);会話表現,リスニング,保育英語(手遊び唄3) 第7回　Chapter3(2);リーディング 第8回　ここまでの復習

	第9回	Chapter4(1);会話表現,リスニング,保育英語(手遊び唄4)
	第10回	Chapter4(2);リーディング
	第11回	Chapter5(1);会話表現,リスニング,保育英語(手遊び唄5)
	第12回	Chapter5(2);リーディング
	第13回	Chapter6(1);会話表現,リスニング,保育英語(手遊び唄6)
	第14回	Chapter6(2);リーディング
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（授業への参加度・レポート） 30%，小テスト 20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストについては，初回の授業時に指示する。 保育についての副教材は適宜準備する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。	

英語 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英語 Ⅱ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療，リハビリテーション
授業のねらい・概要	英語 Ⅱでは，リハビリテーションを学ぶ学生用に作成された英語教材を用いて，医療の授業で学んだ内容のおさらいをしながら，英語のリスニング，リーディングの力を伸ばし，医療の現場で実際に役立つ簡単な英会話表現を身につけることを目標とする。
学生の達成目標	1. リハビリテーションに関連した英文の概要を読み取れる力を身につける(リーディング)。 2. リハビリテーションの現場における簡単な英会話を聞き取ることができる英語力を身につける(リスニング)。 3. リハビリテーションの現場における基礎的な英会話表現を身につける。
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Chapter1 Higher Brain Dysfunction(高次脳機能障害)(1);語彙,リーディング(目標1) 第3回　Chapter1 Higher Brain Dysfunction(高次脳機能障害)(2);会話,リスニング(目標2,3) 第4回　Chapter2 Parkinson’s Disease(パーキンソン病)(1);語彙,リーディング(目標1) 第5回　Chapter2 Parkinson’s Disease(パーキンソン病)(2);会話,リスニング(目標2,3)

	第6回	Chapter8 Chronic Rheumatoid Arthritis(慢性関節リウマチ)(1);語彙,リーディング(目標1)
	第7回	Chapter8 Chronic Rheumatoid Arthritis(慢性関節リウマチ)(2);会話,リスニング(目標2,3)
	第9回	～
	第10回	までの復習
	第11回	Chapter9 Femoral Neck Fractures(大腿骨頚部骨折)(1);語彙,リーディング(目標1)
	第12回	Chapter9 Femoral Neck Fractures(大腿骨頚部骨折)(2);会話,リスニング(目標2,3)
	第13回	Chapter 10 Spinal Cord Injuries(脊髄損傷)(1);語彙,リーディング(目標1)
	第14回	Chapter 10 Spinal Cord Injuries(脊髄損傷)(2);会話,リスニング(目標2,3)
	第15回	Chapter 12 Case Study(事例研究)(1);語彙,リーディング(目標1)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（授業への参加度・提出物） 30%，小テスト 20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 The Art of Healing（南雲堂） ISBN： 978 -4-523-17707-4
推薦図書等	
参考URL	
備考	必修につき，クラス分けは大学が行う。 授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 扱う内容や順番については，授業の状況や受講生の希望により変更の可能性もある。

英語Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英語Ⅲ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0030005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療分野の英語，リーディング
授業のねらい・概要	アメリカの生理学分野の平易な英書の読解を通して，生理学の復習をしながら、医療分野の英文で用いられる英語表現や特徴にも慣れ、医療関係の学術用語の語彙を増やしていく。
学生の達成目標	
授業内容	第1回　授業の進め方について。 第2回　Controlling the body (1) Brain, Nervous system 第3回　Controlling the body (2)Nervous Cell 第4回　Controlling the body (3)Chemical Messengers 第5回　Skeleton(1) Inside a bone 第6回　Skeleton (2)Skull 第7回　Muscle (1) Muscle structure 第8回　Muscle (2)Types of Muscle

	第9回	1回～7回までの復習
	第10回	Sensing the World (1)Eye
	第11回	Sensing the World (2)Taste
	第12回	Sensing the World (3)Balance
	第13回	Cells and New Life (1)Cell
	第14回	Cells and New Life (2)Cell devision
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業計画がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への参加度）30%，小テスト20%，期末試験50%の結果により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストは最初の授業の時に指示する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	本講義は、保健医療学部の学生を対象とする。授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 テキストで扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。	

英語Ⅳ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英語Ⅳ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0030005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保健・医療分野の英語，リーディング
授業のねらい・概要	生理学や解剖学分野に関するアメリカのテキストを教材とし，医療分野の英文で用いられる英語表現や特徴に慣れるとともに医療関係の用語の語彙を増やす。
学生の達成目標	
授業内容	第1回　授業の進め方について。プレテスト 第2回　Diet(1);語彙の学習,リスニング 第3回　Diet(2);リーディング 第4回　Music and Dance(1);語彙の学習,リスニング 第5回　Music and Dance(2);リーディング 第6回　Colour and Light(1);語彙の学習,リスニング 第7回　Colour and Light(2);リーディング 第8回　1回～7回までの復習 第9回　Healing Touch(1);語彙の学習,リスニング

	第10回	Healing Touch(2);リーディング
	第11回	Laughter(1);語彙の学習,リスニング
	第12回	Laughter(2);リーディング
	第13回	Body Treats(1);語彙の学習,リスニング
	第14回	Body Treats(2);リーディング
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への参加度）30%，小テスト20%，期末試験50%の結果により 総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストは最初の授業の時に指示する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。	

英会話

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英会話
科目責任者	
担当教員	マーク　レモン
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0044005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英会話・英語・外国語
授業のねらい・概要	日常英会話が身に付き，外国語でコミューニケションができると言うことに自信を持つようになる。
学生の達成目標	1. 英語で言いたいことを積極的に表現する。 2. 話し相手についての知りたいことを積極的に英語で質問する。 3. 英語でミスをする恐れでちゃんとコミューニケションをとらずに遠慮することをなくす。
授業内容	第1回 Introduction to the textbook. Students introduce themselves. (目標1,2,3) 第2回 Unit1: Family and relatives. Talking in pairs and groups of 3. (目標1,2,3) 第3回 Unit1: Listen/read sample dialogue. Write/perform original. (目標1,2,3)

第4回	Unit2: Hobbies and interests. Students talk about interests.(目標1,2,3)
第5回	Unit2: Listen/read sample dialogue. Write/perform original.(目標1,2,3)
第6回	Unit3: Restaurants and food. Students talk about food.(目標1,2,3)
第7回	Unit3: Listen/read sample dialogue. Write/perform original.(目標1,2,3)
第8回	Review and mid-term presentation.(目標1,2,3)
第9回	Unit4: School and study. Students talk about school.(目標1,2,3)
第10回	Unit4: Listen/read sample dialogue. Write/perform original.(目標1,2,3)
第11回	Unit5: Movies and TV. Talking about pop culture.(目標1,2,3)
第12回	Unit5: Listen/read sample dialogue. Write/perform original.(目標1,2,3)
第13回	Unit6: Shopping and clothes. Talking about shopping.(目標1,2,3)
第14回	Unit6: Listen/read sample dialogue. Write/perform original.(目標1,2,3)
第15回	Review and final oral presentation, questions and answers.(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	日常英会話に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が積極的に使用されていること。 英語で言っていることが話し相手に通じることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点 60%，中間発表 20%，期末発表 20%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 JAZZ ENGLISH 1 Japanese Edition： 1 ,980円 ISBN： 978 -4-904114-10-0
推薦図書等	
参考URL	
備考	

英語表現

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英語表現
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0045001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英語の読解力，英語で論じる技能，専門科目の学習に役立つ英語力
授業のねらい・概要	読解力を一段と強固なものにし，英語で論じることが出来る技能を身につける。
学生の達成目標	1. 英語の読解力を一段と強固なものにする。 2. 英語で臨機応変に論じる技能を身につける。 3. 専門科目の学習に役立つ英語力を養成する。 4. 英語で読んだものの内容をまとめて発表できる。 5. 英語での議論を通じて問題のありかを明らかにできる。
授業内容	第1回　Have I Found Right ?(目標1～5が総合的に含まれる: 第2回　以降も同様) 第3回　How Good Is Your Memory ? 第4回　The History of Time-Keeping 第5回　Endangered Species

第6回	Travel Manners
第7回	What Does a Million dollars boy ?
第8回	Earth’s Mysterious Places
第9回	Is an Only Child a lonely boy ?
第10回	Homeschooling-a Better Way to Learn ?
第11回	The Segway-a New Look at Travel
第12回	What Constitutes Art ?
第13回	Avoiding Cultural Taboos
第14回	Robotic Surgeons
第15回	The Challenging of Space Travel

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験（ 70%），授業中の活動（ 20%），課題等の提出物（ 10%）を対象として総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 N.J. Anderson，川又正之，『Advanced Skills for Reading』，成美堂， 2007. 1,785円（税込） ISBN： 9784791910342
推薦図書等	
参考URL	
備考	

英語表現

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	英語表現
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0045005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療英語，リーディング，ライティング
授業のねらい・概要	医療分野の英文の読解を通して，医療分野で用いられる英語表現や語彙に慣れ，医療関係の専門書を読みこなしたり，基礎的な英文をかける英語力を養っていくことを目標とする。
学生の達成目標	
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Controlling the body(1) Brain, Nervous system 第3回　Controlling the body(2) Nervous Cell 第4回　Controlling the body(3) Chemical Messengers 第5回　Skeleton(1) Inside a bone 第6回　Skeleton(2) Skull 第7回　Muscle(1) Muscle structure 第8回　Muscle(2) Types of Muscle

	第9回	1回～7回までの復習
	第10回	Sensing the World(1) Eye
	第11回	Sensing the World(2) Taste
	第12回	Sensing the World(3) Balance
	第13回	Cells and New Life(1) Cell
	第14回	Cells and New Life(2) Cell devision
	第15回	全体のまとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業計画がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への参加度） 30%，小テスト 20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書については，最初の授業時に指示する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	本講義は，保健医療学部の学生を対象とする。 授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。	

中国語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	中国語入門
科目責任者	
担当教員	陸　芸
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	拼音，簡体字，表現力
授業のねらい・概要	１年次生のための入門からの中国語の授業科目である。 中国語を初歩から学び基本的な発音をマスターした上，基本語彙と基本文型を習い， 朗読を通してリズムを身につける。
学生の達成目標	1.　効率よく基本発音をしっかり覚えましょう。 2.　根気よく基本文型を反復練習しましょう。 3.　楽しく習ったものを活用できるように頑張りましょう。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業予定・学習方法・目標・評価について), 発音練習(目標1) 第2回　第1課 校門で 挨拶のことば 人称代名詞(目標1,2,3) 第3回　第2課 廊下で 人の呼び方 動詞述語文(目標1,2,3) 第4回　第3課 キャンパスで 指示代名詞 形容詞述語文(目標1,2,3) 第5回　第4課 携帯を見ながら 所有を表わす(有) 反復疑問文(目標1,2,3) 第6回　第5課 学生食堂で 二重目的文 方位詞(目標1,2,3) 第7回　第6課 王先生の研究室で 動詞の重ね型 語気助詞(目標1,2,3)

第8回	中間復習(目標1,2,3)
第9回	第7課 コンビニで 時を表わすことば 助数詞(目標1,2,3)
第10回	第8課 バスで 連動文 前置詞(目標1,2,3)
第11回	第9課 放課後に 主述述語文 助動詞(目標1,2,3)
第12回	第 10課 卓球の中継を見ながら 経験を表わすことば 様態補語(目標1,2,3)
第13回	第 11課 ディズニーランドで待ち合わせ 選択疑問詞 方向補語(目標1,2,3)
第14回	第 12課 カフェテラスで 比較を表わすことば 時間・時刻・動作の回数(目標1,2,3)
第15回	学生による発表と討論及び総まとめの講義(目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

中国語入門段階からの発音，基本語彙，基本文型の読みと書きをマスターした上，初歩的な会話ができることを合格基準とする。

評価の方法

平常点，授業内での発表，宿題，出席率等を総合的に評価する。
平常点 30%，授業内での発表 30%，宿題 30%，授業への参加度 10%を総合する。
（ただし，この比率は，最終的に若干変更する可能性もある。）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

『はじめまして！中国語』　喜多山幸子・鄭幸枝　著　白水社出版　2011年 12月 第９刷

推薦図書等

参考URL

備考

フランス語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	フランス語入門
科目責任者	
担当教員	小川　亮彦
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0047005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	フランス語，ヨーロッパ文化，異文化理解
授業のねらい・概要	フランス語に初めて接する者を対象として，フランス語の会話と読み書きのために最低限これだけは必要である，という要素を中心に，半年間でフランス語文法の基礎をできる限り把握することを目標とします。
学生の達成目標	1. フランス語の発音体系と書記法を理解する。 2. フランス語の基本的な表現を聞き取ることができる。 3. フランス語で挨拶や自己紹介ができ,日常生活の基本的な状況を表現できる。 4. フランス語の平易な文章を辞書を用いて読解できる。 5. フランス文化の一端を知り,日本文化を相対的に考える視点を獲得する。
授業内容	第1回　挨拶と数詞 …フランス語の書記法則と発音体系(目標1,2,3,5) 第3回　の授業の続き(目標1,2,3,5)

第4回	街角で …名詞と冠詞(目標1,2,3)
第5回	学食で …重要な不規則動詞 ①(目標2,3,4)
第6回	大学にて …重要な不規則動詞 ②,否定文(目標2,3,4)
第7回	レストランで …規則動詞,疑問文(目標2,3,4)
第8回	友だちの噂話 …形容詞,命令形(目標2,3,4,5)
第9回	教科書中のフランス文化紹介記事について解説(目標4,5)
第10回	パリの空港で …様々な比較の文章(目標3,4)
第11回	オルセー美術館で …動詞と前置詞,疑問副詞(目標2,3,4)
第12回	カフェバーで …疑問代名詞,様々な疑問文と応答文(目標1,2,3,4)
第13回	ケンのアパートで …時刻の表現,天候の表現(目標2,3,4)
第14回	浅草で待ちあわせ …目的格人称代名詞,特殊な動詞(目標3,4,5)
第15回	経験したこと …過去を表現する基本形(目標2,3,4)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

平易な文章を，①「聞き取れる」こと，②「発話できる」こと，及び，基本的な文章を，③「読解できる」こと，を綜合して判定します。

評価の方法

学期末試験（筆記と聞き取り）を 70%，平素の授業における学習達成度（小テスト，練習問題の解答，発話，その他）を30%として採点します。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

太原孝英　他　著『 Ken et Julie（ケンとジュリー）』駿河台出版社　 2 ,200円＋税
ISBN： 978 -4-411-00826-8 C1085

推薦図書等

参考URL

備考

英語学習の経験を前提として授業を進めます。
英語の得手，不得手は心配ありません。
授業では毎回，教科書と付属 CD教材を用いて初級文法の解説を行ない，同時に基本的な文型の発話訓練も実施します。
それが済んだら，辞書を用いて教科書の練習問題を解いてもらいます。
皆さんの解答を確認した後，必要と思われる部分に関して，再度解説を施します。
講義内容をノートにとることよりも，自分でフランス語の文を読み，自分でフランス語の文を書く演習が大切になります。
ABCの読み方から始まって，辞書の使い方などの初歩的なこともじっくり進めますので，安心して受講して下さい。

ただし，毎回の授業はすべて新出事項ばかりです。
授業に欠席するのは勿体ないことなのだ，ということを忘れないでください。

ドイツ語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	ドイツ語入門
科目責任者	
担当教員	カレンベルク　ベレーナ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0048005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ドイツ語の基礎，異文化理解
授業のねらい・概要	まずドイツ語に親しむことを目的とする。 英語とは異なるアルファベットの発音や文章構造を学ぶ。 教科書に付属の CDと DVDを活用しリスニング能力を養うとともに，異文化にたいする理解を深め，簡単な会話ができる能力の養成を目指す。 基本的にペアを組んで会話練習をする。
学生の達成目標	1. 基本的な発音ができる。 2. 聞いたアルファベットと数字を書きとることができる。 3. 簡単な文を理解することができる。 4. 簡単な質問を聞き取り,その質問に答えることができる。
授業内容	第1回　アルファベットの発音(目標1) 第2回　数字の読み方・書き方(目標1) 第3回　四季・月名・曜日名,あいさつ,さまざまな疑問詞(目標2)

第4回	地名の読み方・聞き取り・書き取り(目標2)
第5回	第1課 Kennstdu Lena? 動詞の不定詞の活用(目標3,4)
第6回	動詞 sein(目標2)
第7回	第2課 Hast du einen Kugelschreiber? 動詞 haben(目標3,4)
第8回	動詞と名詞の格との関係(目標2)
第9回	前置詞と名詞の格(目標3,4)
第10回	第3課 Hast du die Bälle? 名詞の複数形,数字の復習(目標1,2,3,4)
第11回	第4課 Ich bringe dir die Pommes. いろいろな不規則変化動詞(目標3,4)
第12回	人称代名詞の格と動詞の関係(目標3,4)
第13回	第6課 Dein Handy ist nicht kaputt. 動詞と否定(第5課はとばす)(目標3)
第14回	名詞と否定(目標2,3)
第15回	復習とまとめ(目標1,2,3.4)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度をみて総合的に判断する。

評価の方法

期末試験（ 70%），授業中の活動（ 20%），課題の提出（ 10%）を対象として総合的に評価する。
ただし， 5回以上欠席した者には期末試験を受けさせない。
30分以上の遅刻３回で欠席１回とみなす。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

荻野蔵平他『 “Hallo, Benni！”ぼくらの未来－映像と会話で学ぶ初級ドイツ語－』朝日出版社　 2012年 2,500円＋税
ISBN： 978 -4-25353-4　 C1084

推薦図書等

参考URL

備考

コンピュータ演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	コンピュータ演習 Ⅰ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ソフトウェア，文書作成，プレゼンテーション
授業のねらい・概要	コンピュータの本体・周辺機器の基本動作，代表的な各種アプリケーションの大まかな仕組みを理解し，適切な利用法を身につける。 また，これらの知識をふまえ，プレゼンテーション技法，文章構成法の演習を行う。 具体的には，報告書等の文書作成および資料の準備・プレゼンテーション技術を，演習を通して体得する。
学生の達成目標	1. コンピュータの本体の構成および動作について,基礎的な知識を学習する。 2. 主要なオペレーティングシステムについて,その概要と操作法を習得する。 3. 主要なアプリケーションソフトウェアについて,基本的な使用法を学び,文書作成やプレゼンテーション等の実践的スキルを身につける。
授業内容	第1回　イントロダクション コンピュータに慣れよう(目標1) 第2回　演習準備(1) キーボード入力(目標1) 第3回　演習準備(2) データの作成と保存(目標1) 第4回　文書作成ソフトウェア(1) ソフトウェアの概要(目標3) 第5回　文書作成ソフトウェア(2) ソフトウェアの操作方法(目標3) 第6回　コンピュータの仕組み(1) ファイルとフォルダの概要(目標2)

第7回	文書作成演習(1) 文書ファイルの作成(目標3)
第8回	文書作成演習(2) 総括と解説(目標3)
第9回	コンピュータの仕組み(2) ソフトウェア, OSとアプリケーションソフトウェアについて(目標2)
第10回	プレゼンテーションソフトウェア 準備 プレゼンテーションの目的と方法(目標3)
第11回	プレゼンテーションソフトウェア(1) プレゼンテーションの概要(目標3)
第12回	プレゼンテーションソフトウェア(2) ソフトウェア操作方法(目標3)
第13回	プレゼンテーションソフトウェア演習(1) プレゼンテーションファイルの作成(目標3)
第14回	プレゼンテーションソフトウェア演習(2) 各自発表と総評(目標3)
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 この授業は演習です。 上記の達成目標を合格の基準とします。 評価の方法 授業への参加度 50%，随時実施する課題 50%の合計で評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『パソコン教科書 Word/Excel/PowerPoint2007－Windows Vista対応』 Office塾著，東京法令出版，第二版，2011年 ISBN： 4809062937
推薦図書等	
参考URL	
備考	学内にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。 授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。 また，授業で獲得した技術を忘れないために，予習・復習を行ってください。

コンピュータ演習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	コンピュータ演習 Ⅱ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0036005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ネットワーク，インターネット，電子メール，表計算
授業のねらい・概要	インターネット上の情報やマルチメディア情報の取り扱いについて学び，ネットワークに接続されたコンピュータを主体的に活用するために必要な情報検索・収集能力と，データを共有するための技能を体得する。 あわせて，電子メール等，コンピュータを用いた情報発信の技術について，適切な利用法を身につける。
学生の達成目標	1. 表計算ソフトウェアについて,基本的な使用法を学び,表計算の実践的スキルを身につける。 2. ネットワークのおおまかな仕組みを理解できるようになる。 3. インターネットを利用して情報を効率的に収集できるようになる。 4. 電子メールの仕組みを理解し,メーラーの適切な利用法を習得する。 5. ブラウザの適切な利用法を習得する。
授業内容	第1回　イントロダクション 高度情報化社会における情報のやりとり 第2回　表計算ソフトウェア演習 基礎的な操作(1)(目標1)

	第3回　表計算ソフトウェア演習 基礎的な操作(2)(目標1) 第4回　表計算ソフトウェア演習 グラフ作成(1)(目標1) 第5回　表計算ソフトウェア演習 グラフ作成(2)(目標1) 第6回　表計算ソフトウェア演習 関数の利用(1)(目標1) 第7回　表計算ソフトウェア演習 関数の利用(2)(目標1) 第8回　インターネット演習 目的別の活用方法(目標2) 第9回　情報検索演習(1) 効果的な情報収集(目標3) 第10回　インターネット上のセキュリティ ウィルス(ワーム)対策,ユーザの安全,プライバシーについて(目標2) 第11回　表計算ソフトウェア演習 応用的操作(1)(目標1) 第12回　表計算ソフトウェア演習 応用的操作(2)(目標1) 第13回　電子メール 種類と概要の説明(目標4) 第14回　ブラウザ演習 種類と機能,各種設定について(目標5) 第15回　まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 この授業は演習です。 上記の達成目標を合格の基準とします。 評価の方法 授業への参加度 50%，随時実施する課題 50%の合計で評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『パソコン教科書 Word/Excel/PowerPoint2007－Windows Vista対応』 Office塾著，東京法令出版，第二版，2011年 ISBN： 4809062937
推薦図書等	
参考URL	
備考	学内にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。 必須ではありませんが，コンピュータ演習 Ⅰを履修していることが望ましいです。 パソコン初心者が Ⅰを履修せずに Ⅱを履修するのは難しいです。 授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。 また，授業で獲得した技術を忘れないために，予習・復習を行ってください。

文章表現演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	文章表現演習
科目責任者	
担当教員	野口　芳宏
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0037005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	文章表現，取材法，文章構成法，推敲・添削
授業のねらい・概要	文章表現は現代職業人にとっては必須，不可欠の技術と言えよう。 本講座は，実践的な文章表現の技術を習得するための実作演習を中心とする講座である。 論理的かつ合理的な文章伝達力を形成すべく，具体的な知識を理解し，それらを具現できる技法を身に付ける。
学生の達成目標	1. 正しい用字,用語の知識を習得する。 2. 筋道の通った文や文章が記述できるようにする。 3. 適切な段落構成を持った論理的な文章が書けるようにする。 4. 個性的な魅力を持った文章が書けるようにする。
授業内容	第1回　受講上の決まり,心構え,全体計画等のガイダンス。座席決定。 第2回　良文と悪文の違い,その条件の分析。文章上達の原則。(目標2) 第3回　用字法,用語法の総復習。(目標1)

	第4回	日記と日誌,実作と評価,分析,添削,修正。(目標1,4)
	第5回	葉書と書簡,実作と評価,分析,添削,修正。(目標1,4)
	第6回	学級通信,広報,実作と評価,分析,添削,修正。(目標1,4)
	第7回	レイアウト,多様な見出し,実作と評価,分析,添削,修正。(目標1)
	第8回	レポート,実作と評価,分析,添削,修正。(目標2)
	第9回	小論文の実作と評価,分析,添削,修正。(目標3)
	第10回	公的な報告文,実作と評価,分析,添削,修正。(目標3)
	第11回	公文書の実作と評価,分析,添削,修正。(目標3)
	第12回	趣味の創作,その実作と評価,分析,添削,修正。(目標4)
	第13回	実践記録の実作と評価,分析,添削,修正。(目標3)
	第14回	随筆,随想の実作と評価,分析,添削,修正。(目標4)
	第15回	文章評価の吟味,分析,添削,修正。(目標3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席と受講の態度，及びレポート類の提出。 他に情報批判小論文を数回課す。
	評価の方法	正式な礼状，日常ノートの状況，時局問題の評論文。 その他の総合判定によって評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 私家版の資料を用いる。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	文章表現の基礎を習得する意欲を持ち，電子辞書の常時携行を義務付ける。 実作と批評を中心に進める。	

速読法演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	速読法演習
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0038005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	速読法，読書に関する心理学的知見，読速度の向上，内容理解の充実，主体的・批判的な読み
授業のねらい・概要	私たちの日常生活や学習は，新聞，各種書籍，放送， ITメディア等の中で記載・表現されているおびただしい数の文字情報に支えられています。 このような情報化社会を主体的に生きていくために，速読法演習では，読書行為に関する心理学的知見を学び，文字情報の内容を速く正確に理解できる読書技術の習得を目指します。
学生の達成目標	1. 速読法を身につける。 2. 読書に関する心理学的知見を理解する。 3. 主体的・批判的な読書習慣を身につける。 4. 自身の日常生活や学習時に,速読術を使いこなせるようになる。 5. 自身の読速度の維持・向上のため,日々の読書量を増やす習慣を身につける。
授業内容	第1回　「速読の基礎知識」-現代社会における速読の有効性-(目標1,3,4) 第2回　「プリテスト」-現在の自分の読速度は?-(目標1,2)

第3回	「速読に関する心理学的知見の整理」-人間の情報処理過程について-(目標1,2)
第4回	「速読速解を妨げている読みの癖」-指差し読み,音読,逐字・逐語読み, etc.-(目標1,2)
第5回	「眼球運動トレーニング」-眼球運動と内容理解の関連性-(目標1,2)
第6回	「内容理解のためのキーワードトレーニング1」-短文トレーニング-(目標1,2)
第7回	「内容理解のためのキーワードトレーニング2」-長文トレーニング-(目標1,2)
第8回	「知識を活用した読み1」-概念駆動型読みとデータ駆動型読みの関連性-(目標1,2,4)
第9回	「知識を活用した読み2」-プレリーディングとスキャニング-(目標1,2,4)
第10回	「読書材料の種類によるトレーニング1」-文学的文章の速読-(目標1,3,4)
第11回	「読書材料の種類によるトレーニング2」-科学的文章の速読-(目標1,3,4)
第12回	「読書材料の種類によるトレーニング3」-新聞,雑誌, CRT画面上の速読-(目標1,3,4)
第13回	「速読法から速読術へ」-情報化時代の読みにおける評価・批判力-(目標1,3,4,5)
第14回	「ポストテスト」-自分の読速度はどれだけ高まったか?-(目標3,4,5)
第15回	「まとめ」-レポート作成と今後の課題について-(目標2,3,4,5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業を通じてどれだけ読速度が高まったかを自己評価・内省できることを合格の基準とする。
	評価の方法	速読プリテストとポストテストの結果をふまえた中間時と最終時に提出する２つのレポートの内容（ 60%）, 通常授業時の課題提出状況および内容（ 30%）, 授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 １日 30分７日間でマスターする実践速読速解トレーニング　佐藤将朗　おうふう ISBN： 9784273035563

推薦図書等	

参考URL	
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。

体育 Ⅰ（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	体育 Ⅰ（実技）
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	実技
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生涯スポーツ，体力，健康，基礎運動技能，コミュニケーション・スキル
授業のねらい・概要	各種の運動やスポーツを実施し，基礎的な運動技能の修得とルールや戦術の学習を目指す。 また，生きがいや健康づくりの観点に立ち，自らスポーツを実践するための知識と体力を身につけ，運動やスポーツに対する好意的態度を養う。 さらに，運動やスポーツを通してコミュニケーション・スキルを高め，仲間と協調し，社会人として貢献できる能力を身につける。
学生の達成目標	1. スポーツ活動に積極的に参加し,健康を保持増進するための身体活動量を確保する。 2. 準備・片づけ,ゲームの審判,ルールやマナーの学習・順守など,円滑な運営を実践し修得する。 3. 各スポーツに必要な運動技能の修得に努めることができる。 4. チーム・グループの中では,仲間とコミュニケーションを図り,自他の長所を生かしながらチーム・グループの目的を果たすための手段を考え,チーム・グループ内における役割を果たすことができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標2,4) 第2回　キャッチボール;ティーボール(1)(目標1,2,3,4) 第3回　打撃;ティーボール(2)(目標1,2,3,4) 第4回　ティーボール(3)(目標1,2,3,4)

	第5回	ゴロ,フライの捕球;簡易的なゲーム(1)(目標1,2,3,4)
	第6回	総合的な守備練習;簡易的なゲーム(2)(目標1,2,3,4)
	第7回	ルールと戦術の理解;簡易的なゲーム(3)(目標1,2,3,4)
	第8回	リーグ戦の企画と実践(目標1,2,3,4)
	第9回	リーグ戦(目標1,2,3,4)
	第10回	リーグ戦(目標1,2,3,4)
	第11回	リーグ戦(目標1,2,3,4)
	第12回	リーグ戦(目標1,2,3,4)
	第13回	体力テスト(1)(目標1)
	第14回	体力テスト(2)(目標1)
	第15回	総括(目標1,2,3,4)*外で行う競技が雨天の時には,体育館内でバレーボール,バスケットボール,卓球,障害者スポーツなどを行う。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	実技等への積極的な参加を重要視する。体力テストの能力に関しては，評価に含めない。
	評価の方法	実技への参加・受講態度・積極性 70%，準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性10%，運動技能 20%

教科書	
推薦図書等	
参考URL	
備考	ジャージ， Tシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。 指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であるため着用を禁止する。 円滑な授業運営および安全上の理由のため，１時限あたりの履修者数が 46名以内であることが望ましい。したがって，履修希望者数過多の場合には抽選を実施することがある。 第１回目は，体育館に集合すること。 更衣は不要であるが，屋内用運動靴を持参すること。 体力テストは，外部施設で実施する。 詳細は，第１回目のオリエンテーションで説明する。

体育 Ⅰ（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	体育 Ⅰ（実技）
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	実技
開講時期	後期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生涯スポーツ，体力，健康，基礎運動技能，コミュニケーション・スキル
授業のねらい・概要	各種の運動やスポーツを実施し，基礎的な運動技能の修得とルールや戦術の学習を目指す。 また，生きがいや健康づくりの観点に立ち，自らスポーツを実践するための知識と体力を身につけ，運動やスポーツに対する好意的態度を養う。さらに，運動やスポーツを通してコミュニケーション・スキルを高め，仲間と協調し，社会人として貢献できる能力を身につける。
学生の達成目標	1. スポーツ活動に積極的に参加し,健康を保持増進するための身体活動量を確保する。 2. 準備・片づけ,ゲームの審判,ルールやマナーの学習・順守など,円滑な運営を実践し修得する。 3. 各スポーツに必要な運動技能の修得に努めることができる。 4. チーム・グループの中では,仲間とコミュニケーションを図り,自他の長所を生かしながらチーム・グループの目的を果たすための手段を考え,チーム・グループ内における役割を果たすことができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標2,4) 第2回　基本技術(1);ドライブ,クリア(目標1,2,3,4) 第3回　基本技術(2);ドロップ,カット,スマッシュ,ロビング(目標1,2,3,4) 第4回　基本技術(3);スマッシュ,ロビング,ヘアピン(目標1,2,3,4)

	第5回	基本技術(4);プッシュ,サーブ(目標1,2,3,4)
	第6回	応用技術(1);オールロング,オールショート
	第7回	応用技術(2);ダブルスの攻撃と守備
	第8回	総合練習と簡易的ゲーム(目標1,2,3,4)
	第9回	ルールと戦術の理解,ダブルスゲーム(目標1,2,3,4)
	第10回	ミックスダブルス(目標1,2,3,4)
	第11回	リーグ戦(目標1,2,3,4)
	第12回	リーグ戦(目標1,2,3,4)
	第13回	体力テスト(1)(目標1)
	第14回	体力テスト(2)(目標1)
	第15回	総括(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実技等への積極的な参加を重要視する。体力テストの能力に関しては，評価に含めない。
	評価の方法	実技への参加・受講態度・積極性 70%，準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性10%，運動技能 20%
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	ジャージ， Tシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。 指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であるため着用を禁止する。 円滑な授業運営および安全上の理由のため， 1時限あたりの履修者数が 46名以内であることが望ましい。したがって，履修希望者数過多の場合には抽選を実施することがある。 第１回目は，体育館に集合すること。更衣は不要であるが，屋内用運動靴を持参すること。 体力テストは，外部施設で実施する。 詳細は，第１回目のオリエンテーションで説明する。	

体育 Ⅱ（講義）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	体育 Ⅱ（講義）
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0026005
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	体力，スポーツ健康科学，生涯スポーツ
授業のねらい・概要	運動やスポーツは，余暇活動のひとつとして人生を充実させることとともに，体力を向上させることや生活習慣病の危険性を抑えることなどの効果をもたらし，発育発達や健康の保持増進に大きく関与していることがよく知られている。 本授業では，受講生の生涯スポーツ実践のために，また将来教育，福祉ないし医療現場に立つことも踏まえて，運動やスポーツの効果について科学的知見に基づいて解説する。
学生の達成目標	1. 運動による身体への生理的影響を理解する。 2. 体力を向上させるためのトレーニングの方法を理解する。 3. 運動技術の仕組みを理解する。 4. 健康を維持ないし増進させるために適した身体活動の内容を理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション,運動の発生の仕組み(目標1,3) 第2回　運動中のエネルギー代謝(目標1,2,4) 第3回　運動と栄養(目標1,2,4)

	第4回	体力トレーニング(目標1,2,4)
	第5回	スポーツバイオメカニクス(目標1,2,3)
	第6回	障害者とスポーツ(目標1,4)
	第7回	スポーツ医学(目標1,4)
	第8回	総括(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を期末試験にて評価する。また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験 80%，授業に対する意欲・受講態度・提出物の提出状況 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし。 逐次プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

言語発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	言語発達論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1001001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	言語発達，理論，過程，言語発達障害
授業のねらい・概要	１．乳幼児のことばの獲得と発達の過程を段階ごとに理解できるようにする。 ２．ことばの発達に関わる促進要因，阻害要因を理解できるようにする。 ３．ことばの発達のつまずきや言語障害の原因や支援の仕方について理解できるようにする。
学生の達成目標	1.　言語発達に関する様々な考え方を理解する。 2.　乳幼児におけることばの発達を理解する。 3.　言語発達と思考,人間関係との関係を理解する。 4.　言語発達の促進要因や阻害要因を理解し,活用できる。 5.　言語発達の様々な障害を理解し,対処法を身につける。
授業内容	第1回　コミュニケーションと言語。生活における言語の位置づけ,言語の構造について概観する。(目標1) 第2回　社会的知的発達における言語の役割。社会的知的発達を概観しながら,行動調整における言語の役割について理解する。(目標1,3)

第3回	言語を成立させる要因。言語発達を支える生物学的要因(遺伝的要因,中枢神経系的要因,身体解剖学的要因など)や社会的要因(育児方法,文化的要因など)を考える。(目標1,3,4)
第4回	言語の進化。ヒトの祖先からの進化を見ながら,言語の起源について考え,乳児期初期の発声構造の特徴を明らかにする。(目標1,2)
第5回	発声行動と人とのやりとり。人とのやりとりの中でいかに泣き声や喃語といった発声行動が発達しことばにつながっていくかを理解する。(目標2,3)
第6回	乳児期におけることばの理解。乳児期における人との関わりを見ながら,いかに乳児がことばの理解を深めていくかを理解する。(目標2,3)
第7回	ことばの出現。1歳児における言葉の現れ方,人との会話の仕方について理解し,養育者の役割について考える。(目標2,3)
第8回	会話の発展と文構造の発達。幼児期における会話の発展を理解し,複雑な文が言えるようになる過程を理解する。ことばの発達における認知の働きについても把握する。(目標2,3)
第9回	文法の形成と理解。話しことばの文法がどのように形成されるか理解し,文法形成と人間関係との関連について考察する。(目標2,3)
第10回	論理的思考と言語。言語発達と論理的思考との関連を考察し,その意味を考える。(目標3)
第11回	絵本の読み聞かせと言語発達。幼児期における絵本の読み聞かせの意味を考察し,お話を聞くことから,いかに書きことばに対する興味と理解が現れてくるかを学ぶ。(目標2,3,4)
第12回	書きことばの発達。児童期にどのように書きことばが発達するかを解明し,抽象的な思考がどのように現れるかについて理解する。(目標3)
第13回	成人の言語障害。成人に見られる言語障害の種類や原因,問題点を明らかにし,ことばの理解や表現における異常の形態に対する理解を深める。(目標4,5)
第14回	小児の言語障害。発達途上における言語障害の現れ方について見ながら,どのようなメカニズムで言語障害が現れるのかを理解する。(目標4,5)
第15回	言語障害を負う子への働きかけ。言語障害を負う子への働きかけの道筋を理解し,保育園や幼稚園,学校での支援のあり方について考える。(目標5)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

言語発達に関する考え方やメカニズムを理解していること。
言語障害の把握の仕方がわかり，対処の道筋について理解していること。

評価の方法

授業への参加度と課題の提出，期末試験の結果などから総合的に評価する。

	質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストは使用しないで，資料配布を行う。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項は，しっかりと復習すること。

造形能力発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	造形能力発達論
科目責任者	森高　光広
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1002001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児の造形能力の発達，造形に必要な能力の獲得，造形表現の発達段階による違い
授業のねらい・概要	乳幼児期の発達段階ごとの造形表現の違いに関して，実例を通して具体的に理解を深める。 様々な造形活動や表現を行うための能力の獲得について発達段階に即して理解し，保育現場等での支援や指導に活かせるように知識を深める。
学生の達成目標	1. 乳幼児の造形能力の発達過程を理解する。 2. 子どもの発達段階ごとの造形能力の特徴と表現のとらえ方,その指導や支援について学ぶ。 3. 身体能力やことばと造形表現との関係や障害等によって造形活動を阻むものについても理解を深め,その原因と支援のあり方について理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点等について)・乳児期における発達(目標1) 第2回　幼児期の成長と表現類型(1)手の動きの発達・視力の発達 ①(目標1)

第3回	幼児期の成長と表現類型(2)視力 ②・実技 ①健康診断の意味・幼児番組のとらえ(目標1)
第4回	幼児期の成長と表現類型(3)描画の芽生え ①(目標1)
第5回	発達理論 ①・ DVD視聴 ②(乳児の発達)・課題レポート ①(目標1)
第6回	幼児期の成長と表現類型(4)聴力の発達・ことばの獲得と描画表現の発達との関係(目標1,2,3)
第7回	幼児期の成長と表現類型(5)情動と運動機能の発達との関係・実技 ②きり紙(目標1,3)
第8回	描画からみる発達段階 ①(目標1,2)
第9回	描画からみる発達段階 ②(目標1,2)
第10回	描画からみる発達段階 ③(目標1,3)
第11回	発達診断に現れる造形能力の違い・課題レポート ②(目標1,2)
第12回	造形表現の内容と指導について・保育現場での実践; DVD視聴(年小)・実技 ③折り紙(目標1,2)
第13回	保育現場での実践; DVD視聴(年中)・実技 ④折り紙(目標1,2)
第14回	保育現場での実践; DVD視聴(年長)・課題レポート ③(目標1,2)
第15回	まとめ～人の発達と造形活動の関わり(目標1)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

乳幼児期の造形能力の発達に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。
授業内容をもとに乳幼児教育のあり方について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。

評価の方法

平常得点，毎回のふり返りを含めた提出レポートで総合的に評価する。

レポート（毎回のふりかえりをふくめた簡単なレポート 30%，課題レポート 40%） 70%，発表や授業の取り組み等平常得点 30%の成績を総合する。
ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

大場牧夫，「表現原論」，萌文書林， １,680円
ISBN： 4 -89347-048-5

推薦図書等

参考URL

備考	全員の前で発表をする課題がある。 それに基づくレポートの提出課題もある。 簡単な実技も行う際に，指示に応じて折り紙や新聞紙，はさみ等を用意することがある。事前に連絡する。 受講人数によって，教室の変更や実技などのシラバス内容の変更もあり得る。 保育の表現技術 Ｉを履修する者は併せて履修することが望ましい。

音楽能力発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	音楽能力発達論
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1003001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	こども，発達，音楽
授業のねらい・概要	新生児は養育者の話し声を旋律として認知し，歌唱の萌芽は生後３カ月ごろよりみられる喃語にあるといわれるように，人間の発達と音楽は不可分の関係にある。 各発達段階の子どもの音楽能力の発達を保育所保育指針等をふまえながら理解し，人間の発達における音楽の役割について考察する。
学生の達成目標	1. 音楽的能力の観点から子どもの発達を大まかに理解する。 2. 音楽遊びの収集・分析を通して人間の発達における音楽の役割について考える。 3. 子どもの音楽的能力の伸長のためにどのような援助ができるかを考える。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　「音楽」「音楽能力」「子どもの生活と音楽」について 第3回　胎児の聴力と学習能力(目標1) 第4回　子どもの発達と音楽活動(1) 新生児期(目標1)

第5回	子どもの発達と音楽活動(2) 乳児期(目標1)
第6回	子どもの発達と音楽活動(3) 幼児期の身体的発達(目標1)
第7回	子どもの発達と音楽活動(4) 幼児期の精神的発達(目標1)
第8回	子どもの発達と音楽活動(5) 児童期(目標1)
第9回	子どもの生活にみられる様々な音楽遊びの収集(目標2)
第10回	収集した音楽遊びの活動形態・音階などによる分類(目標2)
第11回	各発達過程に適した音楽活動例の考察(1)乳児期(目標2)
第12回	各発達過程に適した音楽活動例の考察(2)児童期(目標2)
第13回	特別な支援を必要とする子どもと音楽学習(目標3)
第14回	生涯学習としての音楽学習(目標3)
第15回	まとめ レポート提出

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

子どもの音楽能力の発達を大まかに理解し，音楽遊び等の活動を音楽的能力発達の視点から分析できる。

評価の方法

音楽遊びのミニレポート（ 20%），まとめのレポート（ 50%），授業に対する取り組み（毎時間提出するプリント等による）（ 30%）で評価する。
ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

厚生労働省『保育所保育指針　解説』フレーベル館， 200円
ISBN： 4577812426

推薦図書等

参考URL

備考

大学生として図書館を使いこなせるようになるために，毎時間何らかの課題を出します。
授業外での学習時間をしっかり確保して下さい。
遅刻・欠席のないよう留意して下さい。
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

身体・運動能力発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	身体・運動能力発達論
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1004001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発育・発達，生体機能，運動技能，体力
授業のねらい・概要	身体運動を理解するために必要な基礎となる人体の形態や生理機能について，発育発達による変化を踏まえて理解することを第１の目的とする。 その上で成長に伴う身体運動および体力の発達について，具体的な題材をもとに学習することを第２の目的とする。
学生の達成目標	1. ヒトの形態の発達の特徴とその背景を理解すること。 2. ヒトの生体機能の発達の特徴とその背景を理解すること。 3. ヒトの運動能力の発達の特徴とその背景を理解すること。 4. 形態,生体機能および運動技能それぞれの変化が,互いにどのように関連しているか理解すること。
授業内容	第1回　オリエンテーション,発育発達の概観(目標1,2,4) 第2回　出生前の発育発達(目標1) 第3回　体格の発育発達(目標1) 第4回　体型・体組成の発育発達(目標1)

	第5回	筋・骨の発育発達(目標1,2)
	第6回	呼吸・循環器系の発達(目標1,2)
	第7回	第二次性徴とホルモン(目標1,2,4)
	第8回	乳幼児期の運動発達(目標2,3,4)
	第9回	体力・運動能力の発達(目標2,3,4)
	第10回	体力・運動能力の発達とその生理的メカニズム(目標2,3,4)
	第11回	基礎運動技能の発達(目標3,4)
	第12回	神経機能の発達(目標1,2)
	第13回	神経機能の発達とその生理的メカニズム(目標2,3,4)
	第14回	子どもの健康と危険因子(目標2,3,4)
	第15回	総括(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を期末試験にて評価する。 また，授業に対する取り組み方も評価に含めて総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験 80%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし。逐次プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

児童文学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	児童文学演習
科目責任者	伊藤　かおり
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1005001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	児童文学，戦争
授業のねらい・概要	児童文学作品を実際に読み，児童文学理論に触れることで，子どもは文学とどういう関係を築いていけるのか，また，おとなはそこにどう関わることができるのかを考えていく。 今回は特に戦争をキーワードとして，戦争と児童文学との関わり，そして児童文学は子どもたちに戦争をどう伝えてきたのか，伝えることができるのかを見ていく。
学生の達成目標	1. 児童文学についての知識(児童文学の歴史・子どもと文学の関係・おとなと児童文学の関係などに関する知識)を身につける。 2. 実際に児童文学作品を読み,児童文学が戦争の何をどのように伝えようとしてきたのかを考える。 3. 子どもと文学との関わりに対して,おとな(自分)はどのように関わっていくべきか,自ら考えを深めていくことができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1) 第2回　帝国主義の時代 ……キプリング『ジャングル・ブック』(目標1・2)

第3回	日清・日露戦争 ……巌谷小波のお伽噺・押川春浪『新日本島』(目標1・2)
第4回	第一次世界大戦(1) ……小川未明「野薔薇」・宮沢賢治「烏の北斗七星」(目標1・2)
第5回	第一次世界大戦(2) ……ロフティング『ドリトル先生アフリカゆき』(目標1・2)
第6回	第二次世界大戦 ……北原白秋らの童謡(目標1・2)
第7回	第二次世界大戦後(1) ……壺井栄『二十四の瞳』(目標1・2・3)
第8回	第二次世界大戦後(2) …… C.S.ルイス『ライオンと魔女』(目標1・2・3)
第9回	第二次世界大戦後(3) ……今西祐行「一つの花」(目標1・2・3)
第10回	第二次世界大戦後(4) ……いぬいとみこ『木かげの家の小人たち』(目標1・2・3)
第11回	第二次世界大戦後(5) ……リヒター『あのころはフリードリヒがいた』(目標1・2・3)
第12回	第二次世界大戦後(6) ……松谷みよ子〈直樹とゆう子の物語〉シリーズ(目標1・2・3)
第13回	現代の戦争観(1) ……ウェストール『〝機関銃要塞〟の少年たち』(目標1・2・3)
第14回	現代の戦争観(2) ……上橋菜穂子〈守り人〉シリーズ(目標1・2・3)
第15回	総括(目標3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 これまでおとなが子どもや児童文学とどのような関係を築いてきたか，築いてこようとしたかを踏まえた上で，自分はどのように子どもと児童文学に関われるかを考えることができていること。 評価の方法 平常点（作品に対する簡単な感想文・小レポートを授業中に課す。 50%），期末レポート（ 50%）を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 第２回～第４回，第６回の作品に関しては，授業中にプリントを配布する。 その他の作品については，各自で購入，または図書館で借りること。 詳細は第１回の授業で説明する。
推薦図書等	
参考URL	

備考	古今東西を問わず，なるべく多くの児童文学作品を読んでほしい。

幼児・児童音楽演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	幼児・児童音楽演習
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1006001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児・児童の歌，ピアノ伴奏法，コードネーム，弾き歌い
授業のねらい・概要	音楽に関する基本的な知識や技能の活用法を学ぶ。 現場で必要な幼児・児童の歌のレパートリーを増やし，それらを正しい発声法で弾き歌いができるように努める。 同時にそのピアノ伴奏法及びギターでの伴奏についても学ぶ。
学生の達成目標	1. 譜読・ピアノ奏法・発声法の基礎知識が身につく。 2. 幼児・児童の歌のレパートリーが増え,伴奏を付けて,楽しく歌える。 3. 指導案に基ずく模擬授業ができる。 4. ギターの伴奏で弾き歌いができる。
授業内容	第1回　楽譜を読む為の基礎知識の復習及び,弾き歌いの為の基礎技能の復習(目標1) 第2回　幼児・児童の歌のレパートリーを増やす(目標2) 第3回　幼児・児童の歌のレパートリーを増やす(目標2) 第4回　リズム遊び,幼児・児童の歌(目標2)

	第5回　子供の歌の伴奏法(目標2) 第6回　ギターを弾く為の基礎技能(目標4) 第7回　ギターを弾く為の基礎技能(目標4) 第8回　幼児・児童の歌の旋律に独自の伴奏を付ける(目標2) 第9回　幼児・児童の歌の旋律にギターで伴奏を付ける(目標4) 第10回　幼児・児童の歌の旋律にギターで伴奏を付ける(目標4) 第11回　指導計画と指導案について及び指導案の作成(目標3) 第12回　各自現場を想定して,リズム遊び,生活の歌,弾き歌いを組み入れた指導案に基づく発表(目標3) 第13回　各自現場を想定して,リズム遊び,生活の歌,弾き歌いを組み入れた指導案に基づく発表(目標3) 第14回　各自現場を想定して,リズム遊び,生活の歌,弾き歌いを組み入れた指導案に基づく発表(目標3) 第15回　授業の総括,提出レポートと試験のガイダンス
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 授業の基本的な内容が理解できている事。 授業内容をもとに各自が授業を組み立てて，的確に指導ができる事を合格基準とする。 評価の方法 実技試験 40%，指導案に基づく発表 30%，提出レポート 20%，勉学意欲 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 ・坂東貴余子・本間正治共著「おとなのためのバイエル教本」ドレミ楽譜出版社　1,200円 ・南　曜子・今村方子・今川恭子共著「心を育む子どもの歌」教育芸術社　1,800円
推薦図書等	
参考URL	
備考	『保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）』を履修していることが望ましい。

絵本・児童画演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	絵本・児童画演習
科目責任者	
担当教員	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1007001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	絵本，お絵かき，教材研究，子ども，絵本作り
授業のねらい・概要	子ども絵に関する基本的な知識を身につけ，保育や授業を展開するために必要な知識や技能を学ぶ。 子どもにとって良い絵本とは何かを知り，絵本を読む楽しみや喜びを体験し，読み聞かせのための絵本の取り扱い方について学ぶ。 実際にお話しを作り，お絵かきを体験的に学び絵本作りを行う。
学生の達成目標	1. 学生自身が絵本や子ども絵に興味関心を持ち,保育,授業に生かすための絵を描く教材等の知識,技能を習得する。 2. 子どもにとって良い絵本とは何かを知り,絵本を読む楽しみや喜びを体験し,保育・授業の中で取り扱う絵本について理解を深める。 3. 保育・授業に活かすことができる絵本作りを行う。
授業内容	第1回　本科目の目標,授業の概要 受講上の心得 授業形式と実技演習予定 第2回　絵本紹介カード作りについて 絵本を楽しむために(目標2)

第3回	子どものお絵かき:「絵はこころのメッセージ」(ビデオ鑑賞)(目標1)
第4回	お絵かき遊び:描く素材:クレヨンと絵の具(目標1)
第5回	お絵かきの技法絵の具遊びデカルコマニー等,葉っぱのスタンプ遊び(目標1)
第6回	障害のある子どものお絵かきと支援(目標1)
第7回	絵本の視聴と読み聞かせ(目標2)
第8回	子どもと絵本,絵本を楽しむ(目標2)
第9回	絵本作りの構想とお話し作り(目標3)
第10回	絵本作り 表紙作り(目標3)
第11回	絵本作り 中身作り Ⅰ(目標3)
第12回	絵本作り 中身作り Ⅱ(目標3)
第13回	絵本の製本(目標3)
第14回	絵本の製本と完成へ(目標3)
第15回	絵本を保育に活かす:子どもに絵本作り指導の実際(目標3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果
	評価の方法	発表（ 30%），レポート（ 30%），作品（ 30%），授業への参加度（ 10%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「保育内容の研究　造形活動と遊び　手作り絵本と人形遊び」　植草一世　大揚社
推薦図書等	
参考URL	
備考	・絵本製作材料費等が必要（千円位）となる。 ・個別に材料の準備が必要となる。 ・汚れてもいい服装，又はエプロンが必要である。

玩具・遊具演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	玩具・遊具演習
科目責任者	
担当教員	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1008001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	玩具，遊具，教材研究，子ども，保育者
授業のねらい・概要	子どものための玩具・遊具を学ぶ。 教師・保育者として知っておきたい玩具・遊具に関する基本的な知識を知る。 保育や教育現場で活用する玩具や遊具を通しての楽しみや喜びを体験し，保育や教育の中で取り扱う教材やそれらを展開するための知識や技能を習得する。
学生の達成目標	1. 子どもにとって玩具・遊具とは何かを知る。 2. 教育・保育の中で取り扱う遊具の教材やそれらを展開するための知識や技能を習得する。 3. 教育・保育に適する手作り玩具・遊具を知る 4. 玩具・遊具を作り,保育に活かすことができる。
授業内容	第1回　本科目の目標,授業の概要 受講上の心得 授業形式と実技演習予定 第2回　子どもの遊びとおもちゃと遊具(目標1) 第3回　おもちゃ学入門(目標1)

	第4回　おもちゃ作り:六角返し・動物返し(目標2) 第5回　おもちゃの安全性(目標2) 第6回　教育支援センターの玩具の役割(目標3) 第7回　障害のある子もない子も一緒に遊べる共同玩具(目標3) 第8回　何らかの障害がある人の展覧会 アートフレンズ展鑑賞(目標1) 第9回　郷土玩具 わら細工作り(目標3) 第10回　人形劇遊び パペット作り(目標4) 第11回　人形劇遊び 台本作り(目標4) 第12回　人形劇遊び 小道具作り(目標4) 第13回　人形劇遊び 舞台作り(目標4) 第14回　発表会 相互評価(目標4) 第15回　発表会 相互評価 まとめ(目標4)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果 評価の方法 発表（ 30%），レポート（ 30%），作品提出（ 30%），授業への参加度（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「保育内容の研究　造形活動と遊び　手作り絵本と人形遊び」　植草一世　大揚社
推薦図書等	
参考URL	
備考	・材料費を事前集金する（ 500円位）。 ・個別に材料の準備が必要となる。 ・汚れてもいい服装，又はエプロンが必要である。

保育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育原理
科目責任者	木下　勝世
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1012101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，遊び，生活，統合保育
授業のねらい・概要	保育についての基本的な学びをすると共に，幼児教育の視点も加えた幅広い理解を持てるようにする。 また保育の基本である子どもの遊びと生活について学び，幼児の育ちを支援する保育の原則を理解できるようにする。 さらに障害のある子も共に育つ保育の在り方を，保育全体の在り方の問題として考えられるようにする。
学生の達成目標	1. 保育の歴史,また先人の思想と実践を学び,保育の意義を理解する。 2. 幼稚園と保育所について,相違点と共通点を学び,保育について広い視野を持てるようにする。 3. 保育の現状と課題について認識する。 4. 障害のある子も共に育つ保育の基本姿勢を学ぶ。
授業内容	第1回　保育とは何か(人間・子ども・育ち)(目標1) 第2回　保育・幼児教育の歴史 ① 社会と子ども(目標1) 第3回　保育・幼児教育の歴史 ② 人・思想・実践(目標1)

第4回	現代社会と幼児の生活(目標2)
第5回	幼稚園と保育園(根拠・法制度・目的)(目標2)
第6回	保育の目的と在り方(目標2,3)
第7回	幼児期の子どもの育ち(自己認識・関係性の変化)(目標2,3)
第8回	保育者の立場と役割(目標2,3)
第9回	保育の現状と課題 ①(保育をめぐる多様なニーズ)(目標3)
第10回	保育の現状と課題 ②(社会の視点から)(目標3)
第11回	統合保育 ① 共に生きる社会作り(目標4)
第12回	統合保育 ② どの子にも必要なもの(目標4)
第13回	統合保育 ③ すべての人の課題として-障害受容-(目標4)
第14回	統合保育 ④ みんなの育ちとしての関係作り(目標4)
第15回	まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

保育の基本を学びとることができたか。
子どもの育ちを支援する保育の在り方について，幅広い視野でとらえ，考えることができたか。

評価の方法

期末試験 60%　授業中のレポート 30%　授業への参加姿勢 10%

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館 100円
ISBN： 978 -4-577-81240-2

厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館 120円
ISSN： 978 -4-577-81241-9

「最新保育資料集」ミネルヴァ書房　2 ,000円
ISBN： 978 -4-623-05335-3

「最新保育用語辞典」ミネルヴァ書房　2 ,300円
ISBN： 978 -4-623-05407-7

推薦図書等

参考URL

備考

児童家庭福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	児童家庭福祉
科目責任者	小椋　佑紀
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1011101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの権利，福祉，協働
授業のねらい・概要	児童福祉の現状・課題，担うべき役割について，子どもの権利の視点から学ぶ。
学生の達成目標	1. 子ども・子育て家庭に関する現状について理解する。 2. 権利主体としての子ども理解を前提として,・児童福祉の歴史・児童福祉に関する法律・施策の枠組みとその課題について理解する。 3. 国内外の状況をふまえ,子ども支援全体における児童福祉および保育士の役割について考える。
授業内容	第1回　子ども・子育て家庭の現状 ①貧困,育児不安・児童虐待(目標1) 第2回　子ども・子育て家庭の現状 ②学齢以降の子どもの現状など(目標1) 第3回　権利主体としての子ども理解(目標2) 第4回　児童福祉の歴史 ①近代国家成立以前(目標2) 第5回　児童福祉の歴史 ②近代国家成立以降(目標2)

	第6回	児童福祉の歴史 ③ニーズ対応型から権利基盤型アプローチへ(目標2)
	第7回	児童福祉に関する法律(目標2)
	第8回	児童福祉に関する相談機関・施設とその担い手(目標2,3)
	第9回	児童福祉の費用(目標2)
	第10回	児童福祉施策の現状と課題 ①児童健全育成・保育(目標1,2)
	第11回	児童福祉施策の現状と課題 ②障害・ひとり親家庭(目標1,2)
	第12回	児童福祉施策の現状と課題 ③児童虐待・社会的養護(目標1,2)
	第13回	子ども・子育て支援の連携・ネットワーク(目標2,3)
	第14回	海外の児童福祉(目標3)
	第15回	児童福祉の役割(全体のまとめ)(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	児童福祉の基本的な内容を理解し，明確に説明すること。 また，自分の考えを述べられること。
	評価の方法	授業時に実施する小レポート（ 30%），期末試験（ 70%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 新保育士養成講座編纂委員会編『新保育士養成講座第３巻児童家庭福祉』全国社会福祉協議会　１,900円＋税 ISBN： 978 -4-7935-1028-1
推薦図書等	
参考URL	
備考	

社会福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	社会福祉
科目責任者	
担当教員	宮下　裕一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1009101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会福祉の理念，社会福祉制度，利用者保護
授業のねらい・概要	現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何かを考えていく。 社会福祉の行財政，関連諸施策との関係をおさえつつ社会福祉の主要な分野とサービスとの関連についての考察を加える。 利用者保護の仕組みの理解と今後の社会福祉の動向および課題についてもとりあげる。
学生の達成目標	1. 社会福祉の意義を歴史的変遷とのかかわりで理解する(目標1) 2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する(目標2) 3. 対象・分野別の社会福祉制度や実施体制等について理解する(目標3) 4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する(目標4) 5. 社会福祉の動向と課題について(目標5)

授業内容	第1回	社会福祉をめぐる状況(目標1)
	第2回	社会福祉の理念と概念(目標1)
	第3回	社会福祉の歴史(目標1)
	第4回	社会福祉と児童家庭福祉(目標1・2)
	第5回	児童の人権擁護と社会福祉(目標1・2)
	第6回	家庭支援と社会福祉(目標2・3)
	第7回	社会福祉の制度と実施体制 ①(制度と法体系)(目標3)
	第8回	社会福祉の制度と実施体制 ②(行財政と実施機関,施設)(目標3)
	第9回	社会福祉の制度と実施体制 ③(専門職,実施者)(目標3)
	第10回	社会保障及び関連制度の概要(目標3)
	第11回	社会福祉における相談援助(目標2・4)
	第12回	利用者保護の仕組み ①(情報提供と第三者評価)(目標2・4)
	第13回	利用者保護の仕組み ②(利用者の権利擁護と苦情解決)(目標2・4)
	第14回	社会福祉の動向と課題 ①(少子高齢社会と地域福祉,ネットワーク)(目標5)
	第15回	社会福祉の動向と課題 ②(諸外国の動向,まとめを含む)(目標5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	現代社会と社会福祉制度の関連等について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。 社会福祉を支える理念を念頭に置きつつ，社会福祉の現状を知り，問題点や課題について指摘できることを合格とする。
	評価の方法	平常点（期間中に課すレポート）　20%，期末筆記試験　80%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 小林育子著『保育者のための社会福祉』萌文書林，１,890円 ISBN：４-89347-084-1	
推薦図書等		
参考URL		
備考	毎回の講義の内容についての理解を，次回の講義までに確実にしておくこと。	

相談援助

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	相談援助
科目責任者	古川　繁子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	援助過程，援助関係，コミュニケーション，福祉倫理
授業のねらい・概要	保育の場面で必要とされる相談援助について具体的に学ぶ。
学生の達成目標	1.　相談援助の意義・目的を理解する。 2.　相談援助の方法を理解し,基本的な相談援助技術を身につける。 3.　相談援助を行う者の有する価値・倫理・倫理綱領を学ぶ。
授業内容	第1回　授業の進め方・評価方法 相談援助とは(目標1) 第2回　相談援助場面(構成要素・展開過程・倫理)(目標1) 第3回　相談援助の技法1援助関係(目標2) 第4回　2コミュニケーション(目標2) 第5回　3傾聴(目標2) 第6回　4記録(目標2) 第7回　5面接(目標2) 第8回　6アセスメント(目標2) 第9回　7評価(目標2) 第10回　相談援助の事例1(目標1,2,3)

	第11回	2(目標1,2,3)
	第12回	3(目標1,2,3)
	第13回	4(目標1,2,3)
	第14回	関連機関との連携(目標1,2,3)
	第15回	チームアプローチ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	上記に掲げた達成目標について，基本的な知識を説明できること。 また，基本的な相談支援計画を立て，基礎的技術を用いて支援できること。
	評価の方法	試験 70%，レポート 20%，授業の参加度 10%で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 考え・実践する保育相談支援　杉本敏夫監修（保育出版社）	
推薦図書等		
参考URL		
備考	演習には積極的に参加し，レポートを作成します。 授業参加意欲とレポートの提出期限厳守が必要です。	

社会的養護

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	社会的養護
科目責任者	
担当教員	水鳥川　洋子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1014101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会的養護，児童虐待，児童福祉施設，家庭的養護，子どもの最善の利益
授業のねらい・概要	社会的養護の意義と現代社会における現状，児童福祉施設の実態と課題，保育士に求められるものを理解する。 さらに，現代は，施設入所児に限らず全ての子どもに対する社会的養護が必要な時代になっており，社会的養護を学ぶことは，子どもの権利擁護や家庭・保育所の在り方について理解を深めることにつながることを理解する。
学生の達成目標	1. 子どもの社会的養護をめぐる現状を知る。 2. 社会的養護の意義とその制度・実施体系を学ぶ。 3. 児童福祉施設の現状と課題を理解する。 4. 児童養護の理念とこれからの保育士(保育所保育士を含む)の新たな役割を理解する。
授業内容	第1回　社会的養護とは …現代社会と児童養護問題(目標1) 第2回　児童虐待問題(目標1)

第3回	児童養護の歴史(目標1,2)
第4回	施設養護の基本理念と児童養護(目標2)
第5回	児童養護の制度と施設養護の体系(目標2)
第6回	児童相談所の役割
第7回	養育環境に問題がある児童の施設養護(1)(児童養護施設 母子生活支援施設等)(目標3)
第8回	養育環境に問題がある児童の施設養護(2)(乳児院 児童家庭支援センター等)(目標3)
第9回	障害のある児童の施設養護(1)(知的障害児施設 自閉症児施設 盲ろうあ児施設等)(目標3)
第10回	障害のある児童の施設養護(2)(肢体不自由児施設 重症心身障害児施設等)(目標3)
第11回	情緒・行動面に問題がある児童の施設養護 (児童自立支援施設 情緒障害児短期治療施設)(目標3)
第12回	家庭的養護 (里親,ファミリーホーム)(目標3)
第13回	児童福祉施設の運営管理(目標4)
第14回	保育士の仕事とチームワーク,保育士に求められるもの(目標5)
第15回	児童養護における今後の課題(目標1,3,5)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 達成目標の達成度を評価する。 評価の方法 期末試験 60%　授業中のレポート 40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリントを配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育の表現技術 Ⅰ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（身体表現）
科目責任者	
担当教員	西山　友貴
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	身体表現，保育
授業のねらい・概要	自分の身体及び身体表現を知ることは，子どもの身体表現を理解することに繋がる。 また，子どもたちに身体表現の楽しさを伝えるためには，自らがその楽しさや面白みを体感している必要がある。 従って，本授業では，身体を使ったあそびや表現を通して，丁寧に自分の身体感覚に耳を傾け，他者と関わり合いながら表現することの楽しさを味わい，自分や他者の身体表現を知ることをねらいとする。
学生の達成目標	1. 身体を動かすことの楽しさを味わうこと。 2. 自分自身や他者との関わりの中で身体を表現することの楽しさを味わうこと。 3. 自分や他者の身体や表現について様々な気づきを持つこと。 4. 身体を動かす際,また身体表現の際,自分が何を感じているかを考えられること。 5. 授業内だけでなく,日常生活の中での学生自身と子どもの身体表現を考えることができること。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　リズムあそびを通したコミュニケーション(目標1,2)

	第3回	身体を通したコミュニケーション(目標1,2)
	第4回	自分の身体と他者の身体を知る(目標3)
	第5回	五感をみつめる(1)自分の身体感覚をみつめる(目標3,4)
	第6回	五感をみつめる(2)他者との関わりの中で身体感覚をみつめる(目標3,4)
	第7回	日常生活での身体表現(目標5)
	第8回	単純な動きからの表現(走る-とまる-見る)(目標1)
	第9回	単純な言葉からの表現(オノマトペ)(目標3,4)
	第10回	自分たちが子どもの頃に体験したあそび(目標2,5)
	第11回	いろいろなあそび(おにごっこ,だるまさんがころんだ,いろはにほへと)(目標1)
	第12回	オリジナルのあそびをつくる(目標2,5)
	第13回	それぞれのあそびを楽しむ(目標1,2)
	第14回	リズムダンス(目標1,2,4)
	第15回	自分の身体表現について振りかえる(目標5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内に出されたレポート，授業に対する取り組み，姿勢などにより総合的に判断する。
	評価の方法	レポート 40%，受講態度・提出物等の提出状況 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	動きやすい服装と積極的な姿勢で参加すること。	

保育の表現技術 Ⅱ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（身体表現）
科目責任者	
担当教員	西山　友貴
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	身体表現，保育
授業のねらい・概要	様々なテーマに基づき，物を使った表現やあそびを通して，多様な身体の動きを経験し，仲間と共に動きを創りだしていく楽しさを味わう。 また，子どもの身体が伝えていることを受け止めるということについて考えながら，学生自らの表現や子どもの表現の可能性と面白さに気づく力を養うことをねらいとする。
学生の達成目標	1. 他者との関わる中で身体表現の楽しさを味わうこと。 2. 多様な身体の動きを経験することで得られる気づきについて考えられること。 3. 自分の身体が何を伝えているか,どのように他者の表現を受けとめているかを自覚できること。 4. 様々な身体の動きを創ることができること。 5. 自分や他者の動きや表現の面白さに気づき,そこから工夫することができること。
授業内容	第1回　前期の振りかえり,身体が伝えていること 第2回　模倣からの表現(ミラー他)(目標1,2)

	第3回	身体の部分を意識する(1)身体部位の意識,色々な部分で文字を書く他(目標1,2)
	第4回	身体の部分を意識する(2)人間彫刻他(目標1,2)
	第5回	音楽やリズムで変わる身体(リトミック運動)(目標2,3)
	第6回	身の回りの物の形と身体表現(目標1,2)
	第7回	イメージと表現(1)言葉をヒントに(動詞,形容詞を使って)(目標2,3)
	第8回	イメージと表現(2)カードをヒントに(へんなへんな国の行進他)(目標1,2,3)
	第9回	身の周りの物を使った表現(1)新聞紙(目標1,2,3)
	第10回	身の周りの物を使った表現(2)わりばし(目標1,2,3)
	第11回	創作(1)(目標4,5)
	第12回	創作(2)(目標4,5)
	第13回	発表(目標3,5)
	第14回	発表(目標3,5)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内に出されたレポート，授業に対する取り組み，姿勢などにより総合的に判断する。
	評価の方法	レポート 40%，受講態度・提出物等の提出状況 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	動きやすい服装と積極的な姿勢で参加すること。	

保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	
担当教員	柴辻　純子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，歌唱技能，伴奏法
授業のねらい・概要	保育における音楽表現に関する知識や技術を習得するために，ピアノ演奏の基礎技術を身につけながら，楽典や音楽理論の基礎知識，さらに保育現場で必要な子供の歌の歌唱技能やその伴奏法について学ぶ。
学生の達成目標	1. 各自の進度によって決められたピアノ課題曲を弾けるようにする。 2. 春の歌,夏の歌,生活の歌から数曲弾き歌いができるようにする。 3. 楽典や音楽理論の基礎的な知識を身につける。 4. 子供の歌を表情豊かに弾き歌いできるようにする。
授業内容	第1回　保育における音楽とは。授業ガイダンス,初心者・既習者のグレード分け。(目標1) 第2回　楽譜を読むための基礎知識・ピアノ演奏のための基礎知識を学ぶ。(目標1,3)受講学生の進度に応じて教科書『おとなのためのバイエル教本』の課題を決定。 第3回　教科書『おとなのためのバイエル教本』手のかたち,姿勢に気をつける。(目標1)

第4回	教科書『おとなのためのバイエル教本』旋律と伴奏のバランスを考える。(目標1)
第5回	教科書『おとなのためのバイエル教本』楽典の基礎知識 ①(速度・強弱記号)。(目標1,3)
第6回	教科書『おとなのためのバイエル教本』楽典の基礎知識 ②(表現に関する記号)。(目標1,3)
第7回	教科書『おとなのためのバイエル教本』主要三和音に慣れる。(目標1,3)
第8回	教科書『おとなのためのバイエル教本』歌唱のための基礎知識。(目標1,2)
第9回	教科書『おとなのためのバイエル教本』歌唱と伴奏。(目標1,2)
第10回	教科書『おとなのためのバイエル教本』課題曲の歌唱。(目標1,2)
第11回	教科書『おとなのためのバイエル教本』2人一組で歌唱課題曲の発表を行う。(目標1, 2,4)
第12回	教科書『おとなのためのバイエル教本』生活の歌。(目標1,2,4)
第13回	教科書『おとなのためのバイエル教本』生活の歌。(目標1,2,4)
第14回	教科書『おとなのためのバイエル教本』保育現場を想定しての課題曲の弾き歌い。(目標1,2,4)
第15回	目標の確認とまとめ。

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定した場で成果を発表できたか。 目標を達成できたか。 楽典や音楽理論の基礎知識を理解できたか。 評価の方法 実技試験及び成果の発表 50%，達成曲 30%，平常点 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 坂東貴余子・本間正治共著「おとなのためのバイエル教本」ドレミ楽譜出版社　1,200円 ISBN： 4 -8108-0161-6 東　保編「やさしい伴奏によるこどものうた１」全音楽譜出版社　2 ,400円 ISBN： 4 -11-620050-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	履修人数の上限を設定する。 上限を超えた場合，保育士資格取得予定者を優先とする。

初心者でも毎日短時間でも練習を続ければ，ピアノは弾けるようになります。
努力できる学生の受講を希望します。
各自課題を練習してから授業に臨むこと。
鍵盤楽器を持たない学生は学内の練習ピアノを活用してください。
適宜プリント等を配布します。

保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，歌唱，音楽理論，伴奏法
授業のねらい・概要	保育における音楽活動を展開するために必要な基礎知識や技能を習得する。 初歩的な音楽理論に裏付けされたピアノの基礎技術を学びながら，実践の場で必要な子供の歌の歌唱技能やその伴奏法について学ぶ。
学生の達成目標	1.　自力で読譜ができる 2.　保育で役立つ子供の歌の弾き歌いができる 3.　ピアノに関しては,教科書 No.56まで終了を目標とする 4.　楽しく子供の歌を弾き歌いできる
授業内容	第1回　オリエンテーション 保育における音楽 第2回　楽譜を読む為の基礎知識・ピアノを弾く為の基礎知識(目標1) 第3回　教科書『おとなのためのバイエル教本』 ～ No.27(目標1,3) 第4回　旋律と伴奏のバランスを考えて弾けるようにする(目標1,3) 第5回　～ №39(目標1,3) 第6回　主要三和音に慣れる(目標1,3) 第7回　～ №47(目標1,3) 第8回　旋律に伴奏を付ける(目標1,3)

	第9回　～ №56(目標1,3)
	第10回　歌うための基礎知識(目標1,2)
	第11回　『やさしい伴奏によるこどものうた1』生活あそび(目標1,2,4)
	第12回　『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2,4)
	第13回　『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2,4)
	第14回　保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2,4)
	第15回　保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2,4) 期末試験
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲を終了できたか。 評価の方法 実技試験及び成果の発表 70%, 達成曲 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 坂東貴余子・本間正治共著「おとなのためのバイエル教本」ドレミ楽譜出版社　1,200円 ISBN： 4 -8108-0161-6 東　保編　「やさしい伴奏によるこどものうた１」全音楽譜出版社　2 ,400円 ISBN： 4 -11-620050-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	努力のできる学生の受講を望む。 課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 鍵盤楽器のない学生は学内の練習ピアノを活用すること。

保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，弾き歌い，伴奏法
授業のねらい・概要	『保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）』で習得した技術や知識をさらに高め，幅広い音楽表現活動に対処できるようにする。 保育・教育現場で必要な楽曲及び歌のレパートリーを増やし，楽しく弾き歌いができるようにその伴奏法も学ぶ。
学生の達成目標	1. 現場で必要なピアノ曲のレパートリーを増やす 2. 現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす 3. 楽しく子供の歌の弾き歌いができる 4. 現場を想定した音楽活動ができる
授業内容	第1回　オリエンテーション 保育の表現技術 Ⅰ・Ⅱ(音楽表現) 第2回　教科書『やさしい伴奏によるこどものうた』より生活あそび(目標2,3) 第3回　子供の歌の弾き歌い(目標2,3) 第4回　子供の歌の弾き歌い(目標2,3) 第5回　#1つの調性の曲に慣れる 教科書『おとなのためのバイエル教本』(目標1) 第6回　『やさしい伴奏によるこどものうた』(目標2,3)

第7回	#2つの調性の曲に慣れる『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
第8回	『やさしい伴奏によるこどものうた』(目標2,3)
第9回	♭1つの調性の曲に慣れる『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
第10回	『やさしい伴奏によるこどもの』(目標2,3)
第11回	♭2つの調性の曲に慣れる『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
第12回	『やさしい伴奏によるこどもの』(目標2,3)
第13回	保育現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす(目標2,3)
第14回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標3,4)
第15回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標3,4) 期末試験

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲。 評価の方法 実技試験及び成果の発表 70%, 達成曲 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 坂東貴余子・本間正治共著「おとなのためのバイエル教本」ドレミ楽譜出版社　1,200円 東　保編「やさしい伴奏によるこどものうた」全音楽譜出版社　2,400円
推薦図書等	
参考URL	
備考	課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 積極的に練習に励むこと。

保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ演奏，弾き歌い，伴奏法
授業のねらい・概要	保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）での学習を基礎として，音楽表現活動に関する知識や技術を高め，保育現場を想定した実践的な伴奏法，歌唱法を学ぶ。 必要な基礎的な知識や技術を，主にピアノ演奏と歌唱を中心に習得する。
学生の達成目標	1. 子どもの生活を豊かにする音楽の重要性に気付き,子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めようとする意欲・態度をもつ。 2. 子どもの歌を音楽性豊かに弾き歌いしようとする。 3. 子どもの歌等のレパートリーを広げ,子どもが遊びの中で音楽表現力を伸ばしていくための環境構成と教材の活用法を考えることができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 子どもの生活と音楽表現活動 音楽表現活動と他の表現活動の関わり(目標1) 第2回　3連符と 16分音符による練習曲 『幼児のための音楽教育』4月の教材と弾き歌い(目標2) 第3回　ト長調の音階とその練習曲 『幼児の音楽教育』5月の教材と弾き歌い(目標2) 第4回　ホ短調の音階とその練習曲 『幼児のための音楽教育』6月の教材と弾き歌い(目標2)

第5回	ヘ長調の音階とその練習曲 『幼児のための音楽教育』7月の教材と弾き歌い(目標2)
第6回	二短調の音階とその練習曲 『幼児のための音楽教育』9月の教材と弾き歌い(目標2)
第7回	二長調の音階とその練習曲 『幼児のための音楽教育』 10月の教材と弾き歌い(目標2)
第8回	ピアノ曲のレパートリーを増やす ①『幼児のための音楽教育』 11月の教材と弾き歌い(目標2,3)
第9回	ピアノ曲のレパートリーを増やす ②『幼児のための音楽教育』 12月の教材と弾き歌い(目標2,3)
第10回	易しい移調奏 『幼児のための音楽教育』1月の教材と弾き歌い(目標2,3)
第11回	身体表現を促す伴奏とその易しい編曲法 ① 『幼児のための音楽教育』2月の教材と弾き歌い(目標2,3)
第12回	身体表現を促す伴奏とその易しい編曲法 ② 『幼児のための音楽教育』3月の教材と弾き歌い(目標2,3)
第13回	わらべ歌の活用法と遊びの展開(目標3)
第14回	保育現場を想定したピアノ曲・弾き歌いの発表(目標1,2,3)
第15回	まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

各人の現在の演奏技能に合わせて設定した毎週の課題を弾きこなすことができたか。
保育現場を想定した場で練習成果を発表できたか。

評価の方法

ピアノ及び弾き歌いの発表（ 70%）課題の合格状況（ 30%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

坂東貴余子・本間正治共著『おとなのためのバイエル教本』ドレミ楽譜出版， 1 ,260円
ISBN： 4818863662

石井恵子他『幼児のための音楽教育』教育芸術社， 2 ,100円
ISBM： 4877884437

東保編『やさしい伴奏によるこどものうた（１）』全音楽譜出版社， 2 ,730円
ISBN： 4116200506

推薦図書等

参考URL

備考	履修人数の上限を設定します。 初心者は「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」を履修した後に受講することが望ましい。 自分で読譜ができ，「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」履修者と同等程度のピアノ演奏技能があるという前提で授業を行います。 指導に従って毎日 30分は練習して下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	
担当教員	石井　恵子
授業形態	演習
開講時期	後期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	弾き歌い
授業のねらい・概要	保育における音楽活動の中心となる弾き歌いのレパートリーを増やす。
学生の達成目標	1. ピアノ:教科書 No.70までを終了すること 2. 歌:季節の歌,行事の歌,愛唱歌を習得 3. 弾き歌い:前期習得と合わせて 12曲を終了すること(暗譜) 4. 人前での演奏テクニック,心構えを学ぶ
授業内容	第1回　オリエンテーションと試奏(ピアノ: No.57, 58, 59のうち1曲選択,弾き語り:自由曲3曲)(目標1・4) 第2回　～ 第3回　子供の歌(一斉授業) ピアノ弾き語り(個別)(目標1・2・3) 第4回　～ 第5回　弾き歌い:各自のレヴェルに合った曲を暗譜で仕上げ随時発表(目標1・3・4)ピアノ:各自のレヴェルに合った課題曲 第6回　ピアノと弾き歌いの発表会(目標4)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 課題到達　ピアノ試験　弾き歌い試験 評価の方法 実技試験 60%　課題の達成度 30%　授業の参加度 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 坂東貴余子・本間正治共著「おとなのためのバイエル教本」ドレミ楽譜出版社　１,200円 ISBN：４-8108-0161-6 東　保編「やさしい伴奏によるこどものうた１」全音楽譜出版社　２,400円 ISBN：４-11-620050-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	課題が多いので毎日１～数時間ピアノと歌を練習する必要がある。

保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	
担当教員	柴辻　純子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，歌唱技能，伴奏法
授業のねらい・概要	ピアノの演奏技術の習得を目的とした「表現技術 Ⅰ」の内容をさらに深めながら，保育現場で必要な知識および技能を磨いていく。 保育者としての役割を考え，教材等の活用についても理解を深める。
学生の達成目標	1. 各自の進度によって決められたピアノ課題曲の演奏(教科書 70番終了を目標とする)。 2. 4月～3月の教材から暗譜で弾き歌いできるようにする(12曲を目標とする)。 3. 楽典や音楽理論の基礎的な知識を理解し,活用できるようにする。 4. 子供の情緒を育むような表現を身につける。
授業内容	第1回　授業ガイダンス。コードネームの基礎知識。学習進度に応じたグループ分け。(目標1) 第2回　教科書『おとなのためのバイエル教本』『幼児のための音楽教育』から各自の進度に応じて選曲。(目標1,2) 第3回　教科書『おとなのためのバイエル教本』『幼児のための音楽教育』(目標1,2)

	第4回　教科書『おとなのためのバイエル教本』長調と短調 ①。(目標1,3)
	第5回　教科書『おとなのためのバイエル教本』長調と短調 ②。(目標1,3)
	第6回　教科書『おとなのためのバイエル教本』『幼児のための音楽教育』(目標1,3)
	第7回　『やさしい伴奏によるこどものうた1』保育の現場を想定した演奏について。(目標2,4)
	第8回　『やさしい伴奏によるこどものうた1』音楽表現の技術を深める。(目標2,4)
	第9回　『やさしい伴奏によるこどものうた1』(目標2,4)
	第10回　『やさしい伴奏によるこどものうた1』(目標2,4)
	第11回　『やさしい伴奏によるこどものうた1』(目標2,4)
	第12回　『やさしい伴奏によるこどものうた1』(目標2,4)
	第13回　『やさしい伴奏によるこどものうた1』(目標2,4)
	第14回　保育現場を想定してピアノを使っての指導法を学ぶ。(目標2,3,4)
	第15回　目標の確認とまとめ。
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定した場で成果を発表できたか。 目標を達成できたか。 音楽の基礎知識が理解できたか。 評価の方法 実技試験及び成果の発表 50%，達成曲 30%，平常点 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 坂東貴余子・本間正治共著「おとなのためのバイエル教本」ドレミ楽譜出版社　1,200円 ISBN： 4 -8108-0161-6 東　保編「やさしい伴奏によるこどものうた１」全音楽譜出版社　２,400円 ISBN： 4 -11-620050-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	「保育の表現技術 Ｉ」の単位取得者のみ履修可能。 努力のできる学生の受講を望みます。 各自課題をよく練習して授業に臨むこと。 鍵盤楽器を持たない学生は，学内の練習ピアノを活用してください。 適宜プリント等を配布します。

保育の表現技術 Ⅰ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（造形表現）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，図画工作，保育の教育現場に対応できる造形的基礎・基本の習得
授業のねらい・概要	１．保育などの教育現場での子どもの造形活動や表現を理解し，子どもの活動や遊びを支援するために必要な造形に関する知識・基礎技能を習得する。 ２．身近な自然のものや様々な材料や用具の扱い方等，造形表現に関する基本的な知識や技能を身につける。 ３．制作活動を通してつくる楽しみや喜びを体験し，保育場面等での遊びや造形活動に関する支援や指導の方法を学び，そのための実践力を培う。
学生の達成目標	1.　保育の教育現場を念頭に置き,様々な造形表現の実技や制作活動を通して,子どもの造形活動を支える基本的な知識・技能を習得する。 2.　現場での活用を踏まえた上で,関心・興味・発達段階に基づいた画材・材料や制作方法の選択を行い計画的に進める。 3.　制作をする中で,具体的な支援や指導の手立てを考え,現場での実践力を養うとともに具体的な遊びや児童の文化活動に結びつけられる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点・保育と造形について)・実技「鉛筆の基本的な技法」(目標1) 第2回　色鉛筆の表現の基本を学ぶ・実技「色鉛筆の混色表現」など(目標1)・技法メモ ①(目標1,3) 第3回　パステル等の基本的な技法を学ぶ・実技「クレヨン・パステル表現の応用」・技法メモ ②(目標1,3)

第4回	水彩絵の具の基礎 ①・実技「透明と不透明」「三原色による混色」技法メモ ③(目標1,3)
第5回	水彩絵の具の基礎 ②・実技「にじみ」「ふきながし」「デカルコマニー」「フロッタージュ」等技法メモ ④(目標1,3)
第6回	水彩絵の具の基礎 ③・実技「スパッタリング」・「スタンピング」等・技法メモ ⑤(目標1,3)
第7回	イラストレーションの基礎 ①形・実技「人物・動物」・技法メモ ⑦(目標1,3)
第8回	イラストレーションの基礎 ②構図・実技「はり絵」説明(目標1)
第9回	イラストレーションの基礎 ③配色・実技「はり絵」構想(目標1)
第10回	イラストレーションの基礎 ④表現の工夫・実技「はり絵」 ①(目標1,2)
第11回	実技「はり絵」 ②(目標1,2)
第12回	実技「はり絵」 ③(目標1,2)
第13回	実技「はり絵」 ④(目標1,2)
第14回	実技「はり絵」 ⑤・スケッチブック確認(目標1,2)
第15回	まとめ・「はり絵」発表・鑑賞・スケッチブック確認(目標1,3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	保育現場における造形活動の基礎技能に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解し習得できていること。 授業内容をもとに保育現場における造形活動の際に子どもの活動の支援のあり方や遊びや文化活動への展開について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回のふりかえりを含めたレポートの合計）40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストは特にない。参考資料としてプリントを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	・演習のため 40名程度の人数とし，希望者多数の場合は必修の保育士資格希望者を優先する。

・制作を通して造形教育の基礎・基本を確認し育成するため，課題数は多い。造形能力発達論も併せて履修することが望ましい。

・２クラスあるがどちらのクラスも授業内容は同一である。

・中学校以来，美術から遠ざかっていた人でも安心して取り組めるようにカリキュラムを考えている。

・各自必ず Ｆ６サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４ Ｂ），色鉛筆や絵の具セット等が必要である。１階売店で購入可能。次回の持ち物についてはプリントを配布して指示する。

・作品と技法プリントをスケッチブックに貼りつけ，プリントは Ａ４ファイルに整理して最終的に提出する。
・制作によっては汚れることもあるので，ジャージ，使い古しの Tシャツやエプロンを用意すること。

保育の表現技術 Ⅱ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（造形表現）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1022201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，図画工作，様々な教育現場に対応できる造形的基礎・基本の習得
授業のねらい・概要	１．教育現場での子どもの造形活動や表現を理解し，子どもの活動や遊びを支援するために必要な造形に関する知識・基礎技能を習得する。 ２．身近な自然のものや様々な材料や用具の扱い方等，造形表現に関する知識や技能を身につけ応用力を養う。 ３．制作活動を通してつくる楽しみや喜びを体験し，各教育現場での造形活動に関する支援や指導の方法を学び，そのための実践力を培う。
学生の達成目標	1. 保育現場や学校現場を念頭に置き,様々な造形表現の実技や制作活動を通して,子どもの造形活動を支える基本的な知識・技能を習得する。 2. 様々な教育現場での活用を踏まえた上で,関心・興味・発達段階に基づいた画材・材料や制作方法の選択を行い計画的に進める。 3. 制作活動を通してつくる楽しみや喜びを体験し,各教育現場での造形活動に関する支援や指導の方法を学び,そのための実践力を培う。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点・こどもの造形活動について) 第2回　～

第3回	童画イラストレーションの制作・実技「私が子どもだった頃」制作・鑑賞・課題レポート ①(目標1,2,3)
第4回	～
第5回	紙粘土工作の基本を学ぶ・実技「身の回りのものを再現する」課題レポート ②(目標1,2)
第6回	～
第7回	選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する(目標1,2,3)
第8回	まとめ～発表会・鑑賞・課題レポート ③,ふりかえり(目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

保育などの様々な教育現場における造形活動の基礎技能に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解し習得できていること。
授業内容をもとに教育現場における造形活動の際に子どもの活動の支援のあり方や遊びや文化活動への展開について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。

評価の方法

毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。
レポート（毎回の簡単なふりかえりを含めたレポートの合計）40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。
ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

テキストは特にない。
参考資料としてプリントなどを配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

・演習のため 40名程度の人数とし，保育表現技術（造形表現） Ｉより内容が少し多様となり小学校高学年の子どもも視野に入れた題材も扱う。専攻に特に指定はなく，個々の制作には丁寧に対応する。

・造形能力発達論も併せて履修することが望ましい。

・各自必ず Ｆ６サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４ Ｂ），色鉛筆や絵の具セット等が必要である。１階売店で購入可能。次回の持ち物についてはプリントを配布して指示する。

・作品と技法プリントをスケッチブックに貼り付け，プリントは Ａ４ファイルに整理して最終的に提出する。

・制作によっては汚れることもあるので，ジャージ，使い古しの Tシャツやエプロンを用意すること。

保育の表現技術 Ⅰ（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（言語表現）
科目責任者	
担当教員	野口　芳宏 植草　一世
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	言語表現，幼児の言語指導技術，基礎的知識・理解
授業のねらい・概要	保育者としての言語表現技術の基礎的知識，及び必要な技術を，実技を通して身に付ける。入門的言語表現教材指導の理論と実技を身に付ける。
学生の達成目標	1.　保育者としての言語表現技術の習得 2.　幼児の表現能力の実態に基づく適切な表現指導の技術を習得する。
授業内容	第1回　本科目の目標,授業の概要。受講上の心得。授業形式と実技演習予定。(目標1.2) 第2回　話法の2大別。公的話法と私的話法。それぞれの特色と使い分け。幼児期言語の特性。(目標1) 第3回　発声と発音の基本的事項。姿勢と呼吸の関係。返辞と挨拶の幼児に対する基本的躾。(目標1) 第4回　聴き方の基本的指導事項。沈黙と思考。幼児に対する実技の練習,演習。(目標2) 第5回　尋ね方の基本的指導事項。集中と拡散。幼児に対する実技の練習,演習。(目標2)

第6回	聞き返し方の基本的指導事項。沈黙と思考。幼児に対する実技の練習,演習。(目標2)
第7回	話し方の基本的指導事項。口形。姿勢と呼吸の関係。幼児に対する実技の練習,演習。(目標1)
第8回	話し方の諸相。個別指導。幼児に対する話し方指導。実技の練習,演習。(目標1)
第9回	音読法の基本的指導事項。幼児に対する音読実技の練習,演習。(目標2)
第10回	紙芝居とテレビやゲームとの基本的相違点。幼児に対する想像力育成の重要性。(目標1.2)
第11回	紙芝居の歴史。紙芝居の長短の理論的解明。器具,器材の準備。(目標1)
第12回	紙芝居演示実技の練習,演習。相互批評。(目標1)
第13回	人形劇の特性とその演じ方。実技の練習,演習。(目標1)
第14回	読み聞かせの基礎理論。幼児に対する読み聞かせ実技の練習,演習。(目標1)
第15回	幼児の演劇指導の基本。表情と動作。幼児に対する実技の練習,演習(目標2)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	所期の目標への８割方の理解，技術の習得をもって合格とする。
	評価の方法	正式な礼状。日常の学習状況。特定教材の実演評価。及び総合判定により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『保育指針』文部科学省編 2008／８東洋館出版社 ISBN： 978 -4-491-7 ISSN：
推薦図書等	
参考URL	
備考	国家の公式言語の基礎表現力を子供達に習得させる重要性を弁えて受講のこと。新聞や書籍に常に親しみ，電子辞書の常携常用を義務づける。

保育の表現技術 Ⅱ（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（言語表現）
科目責任者	
担当教員	植草　一世 野口　芳宏
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1023501
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育教材，児童文化財，子ども，保育，言語表現
授業のねらい・概要	保育者として言語表現技術指導の基礎的知識及び必要な技術を身に付け，実際に活用できるようにする。 入門的言語表現教材の開発の理論と実技を身に付け実際に活用できるようにする。
学生の達成目標	1.　幼児期言語の特徴を理解し,子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得し活用する。 2.　言語表現の表現活動に関する知識や技術を習得し活用する。 3.　表現活動に係わる教材(絵本,紙芝居,人形劇,ストーリーテリング等)等の活用及び作成をおこなう。子どもがみずから児童文化財等に親しむ環境構成及び具体的展開のための技術を習得し活用する。
授業内容	第1回　本科目の目標,授業の概要 受講上の心得 授業形式と実技演習予定 第2回　子どもの日常と表現 「子どもが絵を描く時」(ビデオ視聴)(目標1)

第3回	描いたもの,作ったもので遊んでみよう「ちょうちょ」「にらめっこしましょ あっぷっぷ」(目標2)
第4回	絵本・紙芝居の扱い方:絵本・紙芝居をみんなの前で読んでみよう。(目標2)
第5回	手遊び:パネルシアター「きゃべつとあおむし」「おべんとうばこ」(目標2)
第6回	パネルシアターを作ってみよう「おべんとうばこ」「自己紹介」(目標2)
第7回	保育教材:パネルシアター,エプロンシアターの実演 演じ方(目標3)
第8回	保育教材:うた遊び ペープサート 絵本 紙芝居等の実演 演じ方(目標2)
第9回	保育教材:うた遊び ペープサート 絵本 紙芝居等の実演 演じ方(目標2)
第10回	手遊び,歌遊びからお話し作り,どんなお話し どんな遊び(目標3)
第11回	教材研究 ① ペープサート,パネルシアター作り(目標3)
第12回	教材研究 ② ペープサート,パネルシアター作り,小道具作り(目標3)
第13回	教材研究 ③ ペープサート,パネルシアター演じ方練習(目標3)
第14回	教材研究 ④ 表現あそび発表会(目標3)
第15回	発表 相互批評 まとめ(目標3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果
	評価の方法	レポート（ 30%），発表（ 30%），作品（ 30%），授業への参加度（ 10%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「保育内容の研究　造形活動と遊び　手作り絵本と人形遊び」　植草一世　大揚社
推薦図書等	
参考URL	
備考	・材料費を事前集金する（ 500円位）。 ・個別に材料の準備が必要となる。 ・汚れてもいい服装，又はエプロンが必要である。

教職原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	教職原論
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1024001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育職員免許法，教職の意義等に関する科目，教職の意義，教員の役割，職務内容
授業のねらい・概要	この授業は，教育職員免許法による「教職の意義等に関する科目」である。 教職の意義を考え，教員の役割，職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む）を正しく知ることにより，教職に対する意識を高め，教職を目指すものが，自らの適性を判断し，進路選択に資する機会とすることを目的とする。
学生の達成目標	1. 教職の意義,教員の役割,職務内容等について正確に理解する。 2. 教員養成の歴史と理想的な教師像とはどのようなものかを具体的に理解する。 3. 現代日本における学校教育の中で教師にかせられた課題とは何かを正しく知る。 4. 職業の選択肢としての教職への姿勢と意欲を明確なものにできるようになる。
授業内容	第1回　導入講義:授業の進め方と,これまで出会った教師を振り返ることから始める。 第2回　教職の意義:教職とは何か(目標1)

第3回	教職科目履修の動機と目指す教師像:教職観と教師像(目標2)
第4回	教員養成の歴史と現状:戦前と戦後の教員養成(目標2)
第5回	教員免許制度の改革:教員免許更新制の導入とその後(目標2)
第6回	教員の任用と服務:(1)教員の身分と任用(目標1)
第7回	教員の任用と服務:(2)教員の服務と身分保障,教員のメンタルヘルス(目標1)
第8回	教員の役割と仕事:仕事の特質と具体的内容(目標1)
第9回	職場としての学校(幼稚園含む):(1)教員の勤務の実態(目標3)
第10回	職場としての学校(幼稚園含む):(2)保護者・地域・子どもとの関係(目標3)
第11回	教員の資質の向上:ライフステージに応じた研修の制度と内容(目標3)
第12回	学校・家庭・地域社会との連携:「開かれた学校づくり」学校教育の現場からの報告(目標3)
第13回	教員としての適性の理解:教員免許状と進路選択(目標4)
第14回	教職への道: 2013年度公立学校教員採用選考試験の概要(目標4)
第15回	総括

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 教職の意義や職務内容などの基礎的な内容が理解できていることを合格基準とするが，課題や授業に臨む態度なども併せて総合的に評価する。 評価の方法 授業姿勢＋討論参加状況（ 30%）＋定期試験（ 70%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 佐藤晴雄『教職概論』第３次改訂版，学陽書房， 2010年， ２,400円。 ISBN： 978 -4-313-61137-5
推薦図書等	
参考URL	
備考	本講義は教職科目であるので，将来自分が教壇に立つという自覚を常にもって受講することが望まれる。

初等教育教師論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	初等教育教師論
科目責任者	村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1025001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	現代の教育委課題，職能の向上，教師としての資質力量形成
授業のねらい・概要	国際化，情報化，少子化等々，社会の急激な変化の時代にあって，学校や教職員が創意工夫を重ねて子どもたちに対応することが求めれている。 そこで，児童の発達段階や児童理解，児童とのふれあい，生徒指導，学級・学校づくり，地域や保護者との連携など，その主な背景や対応策，改善策等を中心に考える。 また，教師の仕事や法令，教育課題について，具体的に調べることから，今後の教師としての自分自身の生き方やあり方をさらに明確にする。
学生の達成目標	1. 現代の教育を巡る諸問題を把握し,浮き彫りにする。 2. 教育を支える教師の仕事や役割について明らかにする。 3. 教職に向けた具体的な自己の目標・課題を具体的に持つ。 4. これからの教育に必要な情報や教師自身の資質について理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション(私がこれまでに出会った教師について) 第2回　目指す教師の姿 第3回　学校教育の意義(目標1・2)

第4回	学校教育の現状と課題
第5回	教員の身分と服務義務(目標2・3・4)
第6回	教員の職務の具体的な内容
第7回	幼児・児童・生徒の発達課題(目標3)
第8回	最近の幼児・児童・生徒の傾向
第9回	様々な問題行動と対応の在り方(いじめ・不登校・学級崩壊・校内暴力)(目標3・4)
第10回	学校・家庭・地域社会の役割と連携
第11回	人権教育の推進と課題
第12回	様々な教育課題と対応の在り方(国際化・情報化・科学技術の進歩・高齢社会・環境問題)
第13回	各自が課題を選び,プレゼンテーションをする。(目標3・4)
第14回	今後,教員に求められる資質能力(目標4)
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 教員の役割が理解できたか。 将来に向けた自己の目標を明確に持つことができたか。 評価の方法 レポート・ワークシート（ 60%），発表（ 20%），授業中の態度（ 20%）を総合して評価する。 但し，この比率は，最終的には若干変更する場合がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教職の意義と教員の職務　三省堂　 2 ,200円＋税
推薦図書等	
参考URL	
備考	毎日の教育関係の新聞記事をよく読み，自分なりの考えや意見を持つこと。 小学校の免許を取得する学生の履習が望まれる。

保育者論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育者論
科目責任者	小川　晶
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1026101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，保育者の倫理，保育の専門性
授業のねらい・概要	保育についての基礎的な知識と保育への総合的な理解を有し，保育者としての倫理観に裏付けられた保育の専門性について考察する。 また，それらを実践に結び付ける実践者としての意欲を培う。
学生の達成目標	1.　保育という営みを理解する 2.　保育者としての倫理と専門性を理解する 3.　保育者としての自分を考える
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　保育の歴史(1)子どもと保育,保育者の歴史(目標1) 第3回　保育の歴史(2)教育,福祉と保育の関連性(目標1) 第4回　保育の歴史(3)諸外国の保育と保育者(目標1) 第5回　保育者としての倫理(目標2) 第6回　保育者としての子ども観(目標2)

	第7回　保育者の市民性(目標2) 第8回　保育者の資格と職務,社会的認知,制度政策(目標2) 第9回　保育者としての成長(目標2) 第10回　社会における今日的課題と家族的課題(目標2) 第11回　家族的課題と保育者の役割(1)親子支援という視点(目標2) 第12回　家族的課題と保育者の役割(2)地域子育て支援という視点(目標2) 第13回　家族的課題と保育者の役割(3)家庭的保育と保育の専門性(目標2) 第14回　実践から学ぶ(1)子どもに寄り添う,親に寄り添う(目標3) 第15回　実践から学ぶ(2)地域や資源,ネットワークにおけるマネージメント(目標3) まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。 評価の方法 リアクションペーパー 50%，期末試験（筆記） 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は指定せず，資料を随時配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

教育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	教育原理
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1027001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の基礎理論，教育理念，教育の意義と目的，教育の歴史，生涯学習の理念
授業のねらい・概要	この科目は，教育職員免許法の科目区分では，「教育の基礎理論」の中の「教育理念に関する科目」に該当する。 本授業は，「人間とは何か」，「教育とは何か」という原理的な視点から，教育についての基本的な考え方等について理解を深めることをねらいとしている。
学生の達成目標	1. 教育の意義,教育の目的,教育と児童福祉との関連性を正しく理解する。 2. 教育の思想と歴史的変遷について学び,教育の基礎的理念と理論についての理解ができるようになる。 3. 日本と諸外国の教育の制度および教育実践の多様な取り組みについての知識を獲得する。 4. 生涯学習社会における教育の現状と教育の課題について理解する。
授業内容	第1回　講義概要の説明:「教育原理」学習の目的と授業計画〈教育とは何か〉(目標1) 第2回　教育の意義と目的:「教育」の意味と教育の目的〈人間とは何か,ヒトから人へ〉(目標1)

第3回	教育への権利と「子どもの権利条約」:制度上の規定〈「日本国憲法」「教育基本法」法的拘束力を持つ「子どもの権利条約」〉(目標1)
第4回	教育役割と子どもの社会化:人間形成と学校・家庭・地域社会との関連性〈人格形成の基盤,学校教育・家庭教育・社会教育〉(目標1)
第5回	教育の思想と歴史的変遷(1):諸外国の教育思想史〈コメニウス,ロック,ルソー,ペスタロッチ〉(目標2)
第6回	教育の思想と歴史的変遷(2):諸外国の教育思想史〈フレーベル,デューイ,モンテッソーリなど〉(目標2)
第7回	教育の思想と歴史的変遷(3):日本の教育思想史〈貝原益軒,森有礼,福澤諭吉,倉橋惣三など〉(目標2)
第8回	教育の思想と歴史的変遷(4):児童観と教育観の変遷〈子ども期の発見,児童中心主義など〉(目標2)
第9回	教育の制度:学校制度の成立と発展,教育法規・教育行政〈学校教育体系〉(目標2)
第10回	教育内容と教育課程:教育内容の構成,教育課程と計画〈顕在的・潜在的カリキュラム〉(目標3)
第11回	教育の実践:教育方法,教育評価,教育実践の多様な取り組み(目標3)
第12回	生涯学習社会における教育:生涯学習の概念と発展,生涯学習と学校教育のあり方〈生涯学習社会への移行と社会教育,リカレント教育〉(目標4)
第13回	現代社会と教育課題(1):教育の病理〈問題行動,不登校,いじめ,虐待〉(目標4)
第14回	現代社会と教育課題(2):教師・保育者の役割〈生きる力,確かな学力,アカウンタビリティー〉(目標4)
第15回	総括

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度，発表を含めた授業への取り組み態度等により評価する。
	評価の方法	ミニ課題と学習姿勢（ 20点）＋定期試験（ 80点）により総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 田島一他『やさしい教育原理』新版補訂版，有斐閣アルマ， 2011年， 1 ,900円，ISBN： 9878 -4-641-12426-4
推薦図書等	
参考URL	

備考	教育学を履修済み，又は履修中が望ましい。 教育関連の報道やさまざまな教育事象に常に関心を持ち，各自の発表に備えること。

教育史・教育思潮概説

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	教育史・教育思潮概説
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1028001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の基礎理論，西洋の教育の歴史，日本の教育の歴史，教育の思想家
授業のねらい・概要	この科目は，教育職員免許法の科目区分では，「教育の基礎理論」に該当する。 日本と西洋の教育の歴史的展開とそれを支える教育の思想についての理解を深めることを目的とする。具体的には， １）日本と諸外国の教育の歴史（幼稚園の成立を含む）， ２）代表的な思想家の教育思想や教育の実践をとおして，教育対象としての子ども観や教育観の変遷の基本的なとらえ方を概説する。 講義形式が基本だが，第６回－第 11回については，学生による発表を組み込んでいる。
学生の達成目標	1. 日本の教育の歴史の流れを把握することができる。 2. 諸外国の教育の歴史とルソーやデューイ等の代表的な教育の思想についての知識を身につけることがでる。 3. 教育の思想や教育の実践をとおして,子ども観や教育観の変遷をたどることができる。 4. 自分の国の教育の諸課題を,広い視野のもと,歴史的なパースペクティブ(見通し)において再確認する能力を獲得する。

授業内容	第1回	オリエンテーション:教育の歴史及び思想の学習の意義
	第2回	近世(江戸時代)の教育:庶民教育の普及(放送大学教育振興会 video『江戸の暮らし～宿場と寺子屋～』より9分間)(目標1)
	第3回	近代(明治期)の教育:「学制」の内容と意義,教育の整備と拡充(NHK video『明治』より11分間)(目標1)
	第4回	大正・昭和前期の教育:大正デモクラシー期の教育運動,女子教育の普及と展開(目標1)
	第5回	戦後の教育:教育制度改革,教育の荒廃,ゆとり教育,教育基本法の改正(目標1)
	第6回	教育の歴史と思想:(1)ソクラテスの教育論と宗教改革の教育史的意義(目標2)
	第7回	教育の歴史と思想:(2)コメニウスの教授学思想 /ルソーの教育思想の主要な特質(目標2)
	第8回	教育の歴史と思想:(3)ペスタロッチの教育実践と思想(目標2)
	第9回	教育の歴史と思想:(4)フレーベルとモンテッソーリの教育思想の比較(目標2)
	第10回	教育の歴史と思想:(5)ヘルベルト学派の教育思想(目標2)
	第11回	教育の歴史と思想:(6)デューイ(その1)『学校と社会』に見る実験学校と実践(目標2)
	第12回	教育の歴史と思想:(7)デューイ(その2)教育思想とその影響(目標2)
	第13回	西洋の子ども観と教育観の変遷(目標3)
	第14回	日本の子ども観と教育観の変遷(目標4)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	内容の理解度，発表を含めた授業への取り組み態度等により評価する。
	評価の方法	課題発表と授業への参加度（ 30点）＋レポート（ 70点）により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しない。ほぼ毎回，資料を配布し，これをもとに授業をする。	
推薦図書等		
参考URL		

備考	この科目の履修には，「教育原理」履修済みが望ましい。

発達心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	発達心理学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1029001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達の理論，発達の段階と道筋，発達の促進要因
授業のねらい・概要	１．受精・誕生から，大人へ成長し，中年から老年を経て，死に至る過程を理解できるようにする。 ２．各々の発達段階の特徴と他の段階との関連について理解できるようにする。 ３．子どもとどのように関わると，発達をよりよく促せるかについて理解できるようにする。 ４．発達の途上で現れる困難さを理解して，対処法を学ぶ。
学生の達成目標	1.　人間の一生の発達の筋道を理解する。 2.　発達に関する考え方や見方を理解する。 3.　よりよい発達を促す働きかけについて理解する。 4.　発達の途上で現れる困難さを理解し,対処するための基礎知識を得る。
授業内容	第1回　発達心理学の方法と考え方。発達心理学とは何か,何のために学ぶのかを理解し,発達の概略を把握する。(目標2) 第2回　乳幼児期の重要性。臨界期といった発達の基礎概念と心の基礎ができる乳幼児期の成長の重要性を理解する。(目標2,3)

第3回	胎児期:身体の基礎づくり。胎児期の身体や意識の発達を理解し,妊娠中に考慮すべき点について理解する。(目標1,2,3,4)
第4回	新生児期:覚醒水準の調整。新生児期は,泣きを慰める過程を通じて睡眠と覚醒の調節能力を築き,覚醒の質を高める時期であることを理解する。(目標1,3)
第5回	乳児期前半:人の意識の始まり。乳児期前半では,注意のコントロール能力が獲得され,人への意識が高まることを理解する。(目標1,3)
第6回	乳児期後半:愛着の形成。乳児期後半では,期待がかなって安心感が深まり,親しい人との愛着関係が深まる。この愛着関係が,精神的発達にとって重要であることを理解する。(目標1,3)
第7回	幼児期前半:自己の形成。幼児期前半に達成感を感じるようになって自己概念を形成するとともに,他児との関わりが始まり,社会性の基礎が築かれることを理解する。(目標1,3)
第8回	幼児期後半:社会性の発展。幼児期後半では,他児との関わりが深まり,役割意識やルール意識,協力意識が育つことを理解する。(目標1,3)
第9回	児童期前半:仲間関係の形成。児童期前半では,図式的な考えに基づく道徳性が発達し,より親密な仲間関係が築かれていくことを理解する。(目標1,3)
第10回	児童期後半:リアリズムの発生。児童期後半では,現実をよく見るようになり,図式的な考えからの脱却が見られ,親子関係や友人関係の見直しが起こることを理解する。(目標1,3)
第11回	思春期:心の動揺。思春期では,第二次性徴が始まり,人間関係や自己のあり方に対して多感になり,精神が不安定になりやすいことを理解する。(目標1,3)
第12回	青年期:自己同一性を求めて。青年期では,大人から独立し自己概念を築く過程を学ぶ。(目標1,3)
第13回	成人期:心の危機。家族を養ったり,社会を支えるといった責任のある地位につく一方,今までの生き方への反省が現れやすいことを理解する。(目標1,4)
第14回	老年期:人生の受容。老年期は,諸能力の衰えに直面しながら,自分の人生を振り返り,自分の人生を受け入れる時期である。その受け入れ方は多様であることを理解する。(目標1,4)
第15回	乳幼児期における発達援助のあり方。発達障害について知り,対処法を理解する。(目標3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	発達に関する基本的な概念，発達段階に関する基礎的な知識を持つこと。 発達途上で困難を抱えた子に対する必要な働きかけがある程度わかること。
	評価の方法	授業への参加度と質問への回答，期末試験の結果などから総合

	的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 安藤則夫「スクスク子育て：情緒発達から見た自閉症」学苑社， 2007， 2 ,200＋税。 ISBN： 978 -4-7614-0701-8 さらに資料配布によって，授業を行う。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項について復習すること。

教育心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	教育心理学
科目責任者	名取　洋典
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1030001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育，心理学，幼児・児童・生徒，教師
授業のねらい・概要	適切な教育実践を行うためには，幼児・児童・生徒の発達に応じた知的機能や対人的な特性を理解することが必要である。 また，集団としての学級，学習の評価，教師の成長等，教育の場における心理学的機能は多様な側面にわたる。 これらの教育心理学の諸側面を説明し，適切な教育実践へとつながる基礎を築く。
学生の達成目標	1.　教育心理学の基本的な知識を身につける。 2.　基本的な知識を基に,学校教育における教師の実践を心理学的な視点から理解することができる。
授業内容	第1回　教育心理学とは:学びと適応を支える(目標1) 第2回　学びの理論(1):成熟論,行動主義,構成主義(目標1) 第3回　学びの理論(2):認知心理学,社会文化論,状況論(目標1) 第4回　学びの場とその移行(目標1) 第5回　学びの意欲(目標1・2)

第6回	学びの仕組み(目標1)
第7回	学びの諸相(目標1・2)
第8回	学びの開発と体系化(目標1・2)
第9回	主体的な学びの授業(目標1・2)
第10回	個に応じた学びの援助(目標1・2)
第11回	適応の理解と支援(1):自立と社会性の学び1虐待,仲間関係,向社会的行動(目標1・2)
第12回	適応の理解と支援(2):自立と社会性の学び2自我の確立とキャリア,学級集団(目標1・2)
第13回	適応の理解と支援(3):子どもを支える(目標1・2)
第14回	学びと適応の評価(目標1・2)
第15回	教師の成長(目標1・2)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	教育心理学に関して，基本的な内容が理解できていること。 学校教育における教師の実践を心理学的な観点から理解，説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，提出レポート，期末筆記試験を総合して評価する。 平常点（毎回の授業で小レポートを課す）（ 30%），中間レポート（ 20%），期末筆記試験（ 50%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 中澤　潤『よくわかる教育心理学』やわらかアカデミズム・わかるシリーズ：ミネルヴァ書房， 2 ,500円 ISBN： 978 -4-623-05104-5
推薦図書等	
参考URL	
備考	心理学の基本的な知識を持っていることが望ましい。 また，受講の前に復習しておいて欲しい。 自分自身の教育体験と授業内容を結びつけながら理解して欲しい。

保育の心理学 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	保育の心理学 Ⅰ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1030101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達の理論，発達の段階と道筋，発達の促進要因
授業のねらい・概要	１．保育実践に役立つ心理学の考え方や知識を習得する。 ２．子どもの心身の発達，特に初期経験の大切さを心理学の知見に基づいて理解する。 ３．子どもの発達における親や保育者，子ども集団の役割・影響力を理解する。 ４．発達の途上で現れる困難さを理解して，対処法を学ぶ。
学生の達成目標	1.　乳幼児期を土台として,人間の一生の発達の筋道を理解する。 2.　発達に関する考え方や見方を理解して,保育の場に活用できる。 3.　発達を促す働きかけを理解して,親や子どもへの働きかけができる。 4.　発達の途上で現れる困難さを理解し,対処するための基礎知識を得る。
授業内容	第1回　発達の基本的見方。子どもが社会の中でどのように発達するか概略的に把握する。(目標1) 第2回　子どもの発達と保育実践の評価。子どもの発達と保育実践の関連性を学び,成長を促す保育のあり方を学ぶ。(目標1,2)

第3回	乳幼児期と基本的信頼:乳幼児期における信頼関係の重要性を理解する。(目標1,2)
第4回	情緒調節の発達:人間関係を通じて達成される覚醒水準の調整の発達を学ぶ。(目標1,2)
第5回	重要な初期経験:乳幼児期の経験がいかにその後の人生に影響するかを学び,どのような経験が望ましいかを学ぶ。(目標1,2,3)
第6回	自我の発達と他者理解:人との関わりの中でいかに自我が形成されるかを理解し,自我形成が他者理解とどのように関わり合うかを興味の発達を関連させながら学ぶ。(目標1,2,3)
第7回	身体と運動の発達:胎児期から幼児期にかけての身体と運動の発達を,運動の様々な要因を分析的に考察することで理解する。(目標1,2,3)
第8回	知覚と認知の発達:乳幼児期の知覚と認知の発達を理解し,幼児の思考の限界と特徴を学ぶ。(目標1,2,3)
第9回	言語と社会性の発達:乳幼児期の親子関係の中でいかに言語が発達するかを理解し,さらに友達関係の中で社会性がどのように発達していくかを学ぶ。(目標1,2,3)
第10回	乳幼児期の興味と遊び:子どもは遊びを通じて発達することを理解し,遊びの土台となる興味の発達や,遊びとともに発達する仲間関係について学ぶ。(目標1,2,3)
第11回	学童期から青年期へ:学童期の学校生活や友達関係,思春期の第二次性徴,内面性の発達,青年期の自我同一性,異性との親交の深まりを学ぶ。(目標1,3)
第12回	成人期から高齢期へ:成人期の社会的責任を果たしつつも,自分の人生を振り返る心理や,高齢者の能力の衰えを受け入れつつ人生のまとめを行う心理を学ぶ。(目標1,3)
第13回	対人関係に困難を感じる子どもへの発達援助:対人関係がうまくいかない原因を発達的見地から学び,働きかけの考え方や実際の働きかけ方法を学ぶ。(目標2,3,4)
第14回	情緒調節に困難を抱える子どもの発達援助:情緒調節と情緒発達との関連を理解し,落ち着きのない子や喜びの乏しい子,ぼんやりした子らへの働きかけを学ぶ。(目標2,3,4)
第15回	認知や思考に困難を抱える子どもの発達援助:認知や思考が発達するための要因を理解し,言葉や思考の発達を促すための方法を学ぶ。(目標2,3,4)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

発達段階に関する基礎的な知識を持つこと。
発達に対する大人の役割を理解すること。
発達途上で困難を抱えた子に対する必要な働きかけがわかること。

評価の方法

授業への出席状況と質問への回答，期末試験の結果などから総

	合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 安藤則夫「スクスク子育て：情緒発達から見た自閉症」学苑社， 2007， 2 ,200＋税。 ISBN： 978 -4-7614-0701-8 さらに資料配布によって，授業を行う。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項について復習すること。

学校教育制度概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	学校教育制度概論
科目責任者	
担当教員	明石　要一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1031001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学校・学級の成立と効用
授業のねらい・概要	日本の学校はどんな特徴を持っているか，を明らかにする。 近代の学校が成立する前の寺子屋はどんな働きをしたか，明治５年の学制，昭和 24 年からの学校制度の歴史を概観し，日本の学校が持つ特性を具体的に論じる。
学生の達成目標	1.　日本がなぜ近代社会を築けたか,学校教育の影響を理解する。 2.　日本の学校が持つ特徴を理解する。 3.　日本の学級の持つ特徴を理解する
授業内容	第1回　江戸時代の学校寺子屋とは何か(目標1,2,3) 第2回　明治五年の学制とは何か(目標1,2) 第3回　明治 19年の師範学校令は学校にどんな影響を果たしたか(目標1,2) 第4回　師範学校の学校生活(目標1,3)

	第5回　戦後の教育改革の特徴(目標1,2,3)
	第6回　教員養成の開放性とは何か(目標1,3)
	第7回　コア・カリキュラムとは何か(目標1,2)
	第8回　系統学習とは何か(目標1,2)
	第9回　落ちこぼれ「七・五・三」はなぜ生まれたか(目標2,3)
	第10回　不登校はなぜ生まれたか(目標2,3)
	第11回　校内暴力はなぜ生まれたか(目標2,3)
	第12回　学校の制度疲労とは何か(目標1,2,3)
	第13回　学社連携・融合とは何か(目標1,2,3)
	第14回　学校支援地域本部とは何か(目標1,2,3)
	第15回　これからの学校はどうすればよいか(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 六割以上の理解で合格とする 評価の方法 レポート（ 30%）と試験（ 70%）の成績を総合する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「子どもの規範意識を育てる」明石要一著　明治図書
推薦図書等	
参考URL	
備考	

特別支援教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	特別支援教育総論
科目責任者	太田　俊己
授業形態	講義
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，制度，歴史，理念，動向
授業のねらい・概要	障害のある子ども，特別な支援を必要とする子どもの保育，教育の基本に関する対応姿勢，制度，歴史，理念，動向など，今日的に理解しておくべきことを学ぶ。
学生の達成目標	1. 特別支援教育への経緯,制度と現状を理解できる。 2. 特別支援教育に関する動向を理解できる。 3. 特別支援教育に関する理念を理解できる。 4. 特別支援教育で大切にすべきことを,自分の考えとともに説明できる。
授業内容	第1回　特別支援教育とはどのようなことか? ～身近な障害から考える(目標1) 第2回　特別支援教育とはどのようなことか? ～障害と教育を考える(目標2) 第3回　特別支援教育とはどのようなことか? ～経緯のあらまし(目標1,2) 第4回　特別支援教育とはどのようなことか? ～制度のあらまし(目標1,2) 第5回　特別支援教育とはどのようなことか? ～特別支援教育の仕組み(目標1,2) 第6回　特別支援教育とはどのようなことか? ～概況を知る(目標3) 第7回　特別支援教育とはどのようなことか? ～動向を知る(目標3)

	第8回	特別支援教育の現状を考える グループ協議 ～特別支援学校(目標2,3,4,5)
	第9回	特別支援教育の現状を考える グループ協議 ～小・中学校(目標2,3,4,5)
	第10回	特別支援教育の現状を考える グループ協議 ～今後の仕組み(目標2,3,4,5)
	第11回	特別支援教育の現状 まとめ(目標2,3,4,5)
	第12回	特別支援教育の理念 ～特別なニーズへの対応(目標4)
	第13回	特別支援教育の理念 ～子ども主体とできる状況づくり(目標4)
	第14回	特別支援教育の理念 ～個のニーズと支援計画(目標4)
	第15回	特別支援教育をどう受けとめるか? 総括と考察(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	特別支援教育に関する基礎的な事柄を理解し，自分の考えとともに説明できる。
	評価の方法	期末試験　60%　レポート　20%　授業への参加度　20%（小テスト等を含む）
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育方法史

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	特別支援教育方法史
科目責任者	
担当教員	名古屋　恒彦
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1108001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，教育課程，教育方法
授業のねらい・概要	戦後の我が国知的障害教育方法史から，今日の知的障害教育における教育目標，教育内容，教育方法の独自性とその根拠を理解する。 その上で，特別支援教育に普遍的に求められる理念と方法を理解する。
学生の達成目標	1. 我が国知的障害教育の方法の変遷を理解できる。 2. 知的障害教育の目標を理解できる。 3. 知的障害教育の内容を理解できる。 4. 知的障害教育の方法を理解できる。
授業内容	第1回　知的障害教育における「生活主義教育」と「生活中心教育」(目標2) 第2回　生活を大切にする教育の始まり(目標1,目標2) 第3回　本物の生活づくりの徹底(目標1,目標2,目標3,目標4)

第4回	生活を大切にする教育の変容と後退(目標1,目標2,目標3,目標4)
第5回	生活主義教育批判・反省の総括的論点(目標2,目標3,目標4目標3)
第6回	障害の重度化・重複化と知的障害教育(目標1)
第7回	障害の重度化・重複化と生活主義教育(目標1)
第8回	生活中心教育における生活単元学習の再興(目標1,目標2,目標3,目標4)
第9回	教育課程編成と学校生活づくり(目標1,目標2,目標3,目標4)
第10回	学校生活の集団化と個別化(目標1,目標4)
第11回	生活中心教育の総括的主張点(目標2,目標3,目標4)
第12回	生活中心教育の4つの型(目標2,目標3,目標4)
第13回	子ども主体方の生活中心教育と他の型の比較検討(目標2,目標3,目標4)
第14回	今日における知的障害教育方法の具体的展開(目標2,目標3,目標4)
第15回	まとめと討論(目標1,目標2,目標3,目標4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷，教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%，授業での発言等 30%。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 山形県立米沢養護学校編著，中坪晃一・名古屋恒彦監修『テーマのある学校生活　子ども主体の特別支援教育』：コレール社，２,500円（税別） ISBN： 978 -4-87637-712-1
推薦図書等	
参考URL	
備考	事前にできるだけ，指定した教科書を読んでおいてほしい。 現在の特別支援教育の課題を意識しながら，歴史を学んでほしい。

子どもの発達と障害

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	子どもの発達と障害
科目責任者	
担当教員	河合　高鋭
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1034001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児，発達，障害，診断，支援
授業のねらい・概要	乳幼児期の一般的な発達段階とその特徴を知るとともに，子どもの障害について基礎的知識を得ることを目的とする。 さらに，早期に発見・支援するための発達診断やその具体的方法について概観することを目標とする。
学生の達成目標	1. 乳幼児期の一般的な発達段階とその特徴を理解する。 2. 障害について基礎的知識を得るとともに,障害に伴う諸問題について理解する。 3. 興味を持ったテーマについて自ら深め,それを説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1) 第2回　子どもの身体の発達-(目標1) 第3回　認知発達の基礎-(目標1) 第4回　対人関係の基礎-(目標1)

	第5回　情緒の発達-(目標1) 第6回　ことばとコミュニケーションの発達(目標1) 第7回　友だちとの関わりと遊びの発達(目標1) 第8回　社会性の発達(目標1) 第9回　認知発達の障害とは(目標2) 第10回　さまざまな障害(目標2) 第11回　障害に伴う諸問題とその支援(目標2) 第12回　発達を診断するとは(目標2) 第13回　障害のある子どもの保育(目標2) 第14回　子どもを取り巻くさまざまな問題(目標2) 第15回　総括(目標3)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 乳幼児期の発達や障害について基礎的な内容が理解できていること。 興味を持ったテーマについてレポートにまとめられること。 評価の方法 授業への取り組み状況（ 50%），学期末のレポート（ 50%）から評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しません。必要な資料等を授業時に配布します。
推薦図書等	
参考URL	
備考	関連するキーワードについての予備知識を持って授業に参加することが望ましい。 また，授業後は授業時に配布したプリントを熟読のこと。

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	
担当教員	太田　俊己 加藤　悦子 柿沼　宏明
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1035001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，発達，障害，アセスメント，支援
授業のねらい・概要	知的障害の心理・生理・病理についての基礎知識を得ることを目的とする。 また知的障害の定義や分類，そのアセスメント方法についても理解する。 知的障害への発達支援という視点からも理解を深める。 さらに，知的障害に関連する諸障害の心理・生理・病理についても学ぶ。
学生の達成目標	1.　知的障害に関連する生理・病理について知る。 2.　知的障害の定義と分類,アセスメント方法について知る。 3.　知的障害における心理機能と発達支援について知る。 4.　知的障害に関連する諸障害の心理・生理・病理について知る。
授業内容	第1回　大脳辺縁系の働き(目標1) 第2回　高次脳機能(目標1)

第3回	知的障害の病理(目標1)
第4回	自閉症の病理(目標4)
第5回	その他の発達障害の病理(目標4)
	(太田俊己)
第6回	知的障害の定義と分類(目標2)
第7回	知的障害の定義と支援ニーズ(目標2)
第8回	知的障害における心理機能と発達支援-知覚や学習-(目標3)
第9回	知的障害における心理機能と発達支援-言語や問題解決-(目標3)
第10回	知的障害における心理機能と発達支援-行動上の問題-(目標3)
	(加藤悦子)
第11回	知的障害のアセスメント(目標2)
第12回	知的障害のアセスメントと具体的支援(目標2)
第13回	知的障害に関連する諸障害の心理(目標4)
第14回	知的障害に関連する諸障害への発達支援(目標4)
第15回	総括(目標5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	知的障害の心理・生理・病理の基礎と発達支援について理解していること。 関連する諸障害の心理等と発達支援について理解していること。
	評価の方法	授業への取り組み状況（ 20%）とレポート・定期試験の成績（ 80%）から評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しません。必要な資料等を授業時に配布します。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	
担当教員	渡邉　章 柿沼　宏明
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1036001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理に関する基本的事項を概説し，肢体不自由の子どもへの対応や配慮点について理解する。
学生の達成目標	1. 肢体不自由の概念について理解する。 2. 国内動向・国際動向について理解する。 3. 肢体不自由の子どもの活動における配慮点について理解する。 4. 日常生活における困難と配慮点について理解する。 5. 肢体不自由の子どもの生理・病理について理解する。
授業内容	第1回　イントロダクション 第2回　肢体不自由の概念とライフサイクル(目標1) 第3回　国際動向と ICF(目標2)

	第4回　移動介助における配慮点(目標3) 第5回　車いす介助における配慮点(目標3) 第6回　遊びの意義と配慮点(1) 屋外活動(目標3) 第7回　遊びの意義と配慮点(2) 屋内活動(目標3) 第8回　バリアフリーとユニバーサルデザイン(目標4) 第9回　身体障害者補助犬(目標4) 第10回　アシスティブテクノロジーの活用(目標4) (柿沼 宏明) 第11回　ヒトゲノムとその役割(目標5) 第12回　中枢神経系の発生と神経細胞の働き(目標5) 第13回　脳性麻痺の病理(目標5) 第14回　脳性麻痺の併存症と医療的ケア(目標5) 第15回　筋ジストロフィの病理(目標5)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 １）肢体不自由の子どもの心理・生理・病理に関して，授業で取り上げた基本的事項を理解できていること。 ２）授業で取り上げた内容をもとに，肢体不自由の子どもへの対応や配慮点について自分の考えを持ち，それを的確に表現できること。 評価の方法 平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 田中農夫男・木村進編著，「ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援」，福村出版， ２ ,800円 ISBN： 978 -4-571-12103-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	講義のほかに，各テーマに関する理解を深めるため，討論や発表の時間を設ける。

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	
担当教員	昆　俊雄 柿沼　宏明
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1037001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児慢性疾患，心身症，行動制限，不安，ストレス
授業のねらい・概要	病気の子どもの心理特性及び「病弱」の心理・生理・病理について学び，病弱な子どもへのしどう・支援にかかわる基礎的理解を深める。
学生の達成目標	1. 病気のもたらす子どもの不安やストレス,恐怖心等の心理状態等からその心理特性の基礎を学ぶ 2. 病弱教育対象の子どもの病気や病類等の生理・病理の基礎を学ぶ
授業内容	第1回　細胞生物学の基礎,細胞分裂と分化(目標2) 第2回　各組織の解剖と生理(目標2) 第3回　小児慢性疾患の病理(目標2) 第4回　自律神経系と内分泌(目標2) 第5回　不登校の病理(目標2)

		(昆 俊雄)
	第6回	病弱の教育上の定義(目標1)
	第7回	病弱教育の対象の移り変わりと現在の動向(目標1)
	第8回	病弱による心理規制(目標1)
	第9回	疾病進行への不安・恐怖(目標1,2)
	第10回	行動制限によるストレス(目標1,2)
	第11回	不登校の子どもの心理(目標1,2)
	第12回	親子関係に及ぼす影響(目標1)
	第13回	慢性疾患のある子の臨床事例(1)(ぜん息児童生徒)(目標1,2)
	第14回	慢性疾患のある子の臨床事例(2)(糖尿病児童生徒)(目標1,2)
	第15回	慢性疾患のある子の臨床事例(3)(腎疾患児童生徒)(白血病その他含)(目標1,2)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	病気の子どもの心理特性や，生理，病理等の基礎的理解度による。
	評価の方法	試験（ 40%），レポート（ 30%），授業への参加度（ 30%）等により総合的に評価
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著「特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理」ミネルヴァ書房 ISBN： 987 -4-623-06153-2	
推薦図書等		
参考URL		
備考	病弱教育の教育内容や基礎的事項を踏まえておいた方が理解しやすいので，必須の参考図書等を一読しておくと良い。 なお，「病弱教育 Ｉ」の履修を併用するとさらに理解が深まると思われる。	

キャリア演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	キャリア演習 Ⅰ
科目責任者	遠藤　隆志
担当教員	佐藤　文子 太田　俊己 小林　敢治郎 高野　良子 木下　勝世 小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1130001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	職業人の基本的資質，プロの条件，礼儀・作法・マナー，基礎学力
授業のねらい・概要	社会人，職業人としての基礎的，基本的な心構え，知識，作法，技術等を身に付ける。 自分の人生を充実して送るために，学生生活を自覚的，目的的に設計するように導く。
学生の達成目標	1. 社会人として必要な基礎学力を身に付ける。 2. 社会人として必要なコミュニケーション力を身に付ける。 3. 職業人として必要な礼儀,作法を身に付ける。 4. 職業人として必要な積極的,意欲的な生活態度を身に付ける。 5. 学生として望ましい充実した生活習慣を形成する。

授業内容	第1回	座席指定 班編成 連絡網確認 本授業の目標と内容のガイダンス (目標3)
	第2回	学生生活の充実講座1 授業受講計画ガイダンス 見通しのある計画 (目標5)
	第3回	学生生活の充実講座2 ユーナビ確認,ボランティア,アルバイトなど実践案内 (目標5)
	第4回	基礎学力講座1 授業の受け方 ノート技術 (目標1)
	第5回	人間力講座1 読書のガイダンス 図書館利用案内 (目標1)
	第6回	個別面談1 学生生活の基盤確認,助言 (目標5)
	第7回	個別面談1 学生生活の基盤確認,助言 (目標5)
	第8回	職業意識形成講座1 論文作成講座 (目標4)
	第9回	人間力講座2 人間関係充実のためのコミュニケーション力の向上 (目標4)
	第10回	基礎学力講座2 自学法案内 論理的な思考力,表現力 (目標1)
	第11回	職業意識形成講座2 社会人としてのマナー講座,服装,身嗜み (目標4)
	第12回	学生生活の充実講座3 ネット社会,悪質勧誘,カルト勧誘対策 (目標5)
	第13回	職業意識形成講座3 情報活用能力と技術,その注意点 (目標3)
	第14回	個別面談2 修学状況確認,助言 (目標5)
	第15回	個別面談2 修学状況確認,助言 (目標5)
	第16回	学生生活の充実講座4 部活動,学園祭への取り組みかた (目標5)
	第17回	基礎学力講座3 語彙力 敬語法 自己主張法 (目標1)
	第18回	人間力講座3 ストレスを溜めない生き方 (目標5)
	第19回	職業意識形成講座4 教育における法規の概論 (目標3)
	第20回	個別面談3 進路選択相談,助言 (目標4)
	第21回	個別面談3 進路選択相談,助言 (目標4)
	第22回	職業意識形成講座5 社会人としてのマナー,言葉遣い,手紙の作法 (目標3)
	第23回	職業意識形成講座6 職業人に必要な資質(保育士,小学校・幼稚園教員等) (目標4)
	第24回	人間力講座4 学ぶとは,生きるとは,職業とは,人間とは (目標5)
	第25回	基礎学力講座3 いろいろの提出文書の作法,技術,実際 (目標1)
	第26回	職業意識形成講座7 進路選定上の先輩の経験談の聴取 (目標4)
	第27回	職業意識形成講座8 自分の適性と職業選択 クレペリン検査 (目標4)
	第28回	基礎学力講座5 常識法律学入門 (目標1)
	第29回	個別面談4 特に面談を必要とする学生向けの個別面談 (目標5)

	第30回	学生生活の充実講座5 先輩学生による学生生活充実策のアドバイス(目標5)
予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	出席状況　提出物の状況　最終受講論文等によって評定する。
	評価の方法	出席状況 50%　提出物提出状況 20%　論文評価 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 使用しない	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリア演習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	キャリア演習 Ⅱ
科目責任者	遠藤　隆志
担当教員	桑田　良子 加藤　悦子 野口　芳宏 安藤　則夫 村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1131001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会人，職業人，職業，教育職，保育職
授業のねらい・概要	社会人としての基本的な知識や態度を身につけ，子どもの教育や保育に関する職業について理解と関心を高め，自己の志望する職業に必要な知識や技能についての理解を深める。
学生の達成目標	1.　社会人として必要な知識や態度を身につけ,実践できる。 2.　自ら選択した職業(専攻分野)に必要とされる知識や技能について理解し,自己の能力を高める。 3.　職業人として必要な諸能力について理解し,それを実践の場に生かす力を付ける。
授業内容	第1回　「キャリア演習」の意義。年間スケジュール及び「学びのコンパス」の解説。(目標1)

第2回	個別面談1 「学びのコンパス」による学習への取り組み(目標2,3)
第3回	個別面談1 「学びのコンパス」による学習への取り組み(目標2,3)
第4回	社会人基礎講座1 「自分の魅力を見つけよう(自己分析)」(目標1)
第5回	社会人基礎講座2 「自分の魅力を見つけよう(将来の自分)」(目標1)
第6回	社会人基礎演習1 「自分の魅力を見つけよう(自己 PR)」(目標1)
第7回	個別面接2 「学びのコンパス」による今後の計画及び目標(目標3)
第8回	個別面接2 「学びのコンパス」による今後の計画及び目標(目標3)
第9回	社会人基礎講座3 「企業・職業のことを学ぼう(求める人材像)」(目標2,3)
第10回	社会人基礎講座4 「企業・職業のことを学ぼう(卒業生から学ぶ)」(目標1,2,3)
第11回	社会人基礎演習2 「マナーを身につけよう(コミニュケーション力)」(目標1,3)
第12回	職業基礎講座1 「試験を受けよう(文章表現,文書作成)」(目標1,2)
第13回	職業基礎講座2 「試験を受けよう(状況判断・課題対応)」(目標1,2,3)
第14回	職業基礎講座3 「先輩学生による現場体験等聴取 ①」(目標2,3)
第15回	職業基礎演習1 「試験を受けよう(模擬試験)」(目標1,2,3)
第16回	「後期キャリア演習」の意義。後期スケジュールの解説。(目標1)
第17回	個別面接3 「学びのコンパス」による振り返りと今後の計画及び目標(目標3)
第18回	個別面接3 「学びのコンパス」による振り返りと今後の計画及び目標(目標3)
第19回	職業基礎講座4 「先輩学生による現場体験等聴取 ②」(目標2,3)
第20回	職業準備講座1 「採用試験対策 ①」(目標2)
第21回	職業基礎講座5 「採用説明会」(目標2,3)
第22回	職業基礎講座6 「先輩学生による現場体験等聴取 ③」(目標2,3)
第23回	職業準備講座2 「採用試験対策 ②」(目標2)
第24回	職業準備講座3 「採用試験対策 ③」(目標2)
第25回	職業準備講座4 「採用試験対策 ④」(目標2)
第26回	職業基礎演習2 「3年次専門ゼミ」に向けた研究室選択(目標2,3)
第27回	社会人基礎演習3 「マナーを身につけよう(実習先手紙・電話・挨拶)」(目標1,3)
第28回	個別面接4 「学びのコンパス」による専攻分野の能力についての見定め。(目標3)
第29回	個別面接4 「学びのコンパス」による専攻分野の能力についての見定め。(目標3)
第30回	「学びのコンパス」による次年度以降の学び(取得資格免許等)(目標3)(原則として,専攻ごとに実施するが,内容によって学年全体や

グループごとに実施する場合がある。)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	課題発表やレポートの内容
	評価の方法	課題発表やレポート（ 70%），課題に対する取り組み（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	進路ガイダンス 2012	
推薦図書等		
参考URL		
備考	社会人として自立し，職業人として必須の能力を養うための科目であるが，学年やクラスとしての連絡，履修に関する説明，個別相談など重要な内容を含めて行うので，必ず履修すること。	

キャリア演習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	キャリア演習 Ⅱ
科目責任者	遠藤　隆志
担当教員	桑田　良子 加藤　悦子 野口　芳宏 安藤　則夫 村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1131001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会人，職業人，職業，教育職，保育職
授業のねらい・概要	社会人としての基本的な知識や態度を身につけ，子どもの教育や保育に関する職業について理解と関心を高め，自己の志望する職業に必要な知識や技能についての理解を深める。
学生の達成目標	1.　社会人として必要な知識や態度を身につけ,実践できる。 2.　自ら選択した職業(専攻分野)に必要とされる知識や技能について理解し,自己の能力を高める。 3.　職業人として必要な諸能力について理解し,それを実践の場に生かす力を付ける。
授業内容	第1回　「キャリア演習」の意義。年間スケジュール及び「学びのコンパス」の解説。(目標1)

第2回	個別面談1 「学びのコンパス」による学習への取り組み(目標2,3)
第3回	個別面談1 「学びのコンパス」による学習への取り組み(目標2,3)
第4回	社会人基礎講座1 「自分の魅力を見つけよう(自己分析)」(目標1)
第5回	社会人基礎講座2 「自分の魅力を見つけよう(将来の自分)」(目標1)
第6回	社会人基礎演習1 「自分の魅力を見つけよう(自己 PR)」(目標1)
第7回	個別面接2 「学びのコンパス」による今後の計画及び目標(目標3)
第8回	個別面接2 「学びのコンパス」による今後の計画及び目標(目標3)
第9回	社会人基礎講座3 「企業・職業のことを学ぼう(求める人材像)」(目標2,3)
第10回	社会人基礎講座4 「企業・職業のことを学ぼう(卒業生から学ぶ)」(目標1,2,3)
第11回	社会人基礎演習2 「マナーを身につけよう(コミニュケーション力)」(目標1,3)
第12回	職業基礎講座1 「試験を受けよう(文章表現,文書作成)」(目標1,2)
第13回	職業基礎講座2 「試験を受けよう(状況判断・課題対応)」(目標1,2,3)
第14回	職業基礎講座3 「先輩学生による現場体験等聴取 ①」(目標2,3)
第15回	職業基礎演習1 「試験を受けよう(模擬試験)」(目標1,2,3)
第16回	「後期キャリア演習」の意義。後期スケジュールの解説。(目標1)
第17回	個別面接3 「学びのコンパス」による振り返りと今後の計画及び目標(目標3)
第18回	個別面接3 「学びのコンパス」による振り返りと今後の計画及び目標(目標3)
第19回	職業基礎講座4 「先輩学生による現場体験等聴取 ②」(目標2,3)
第20回	職業準備講座1 「採用試験対策 ①」(目標2)
第21回	職業基礎講座5 「採用説明会」(目標2,3)
第22回	職業基礎講座6 「先輩学生による現場体験等聴取 ③」(目標2,3)
第23回	職業準備講座2 「採用試験対策 ②」(目標2)
第24回	職業準備講座3 「採用試験対策 ③」(目標2)
第25回	職業準備講座4 「採用試験対策 ④」(目標2)
第26回	職業基礎演習2 「3年次専門ゼミ」に向けた研究室選択(目標2,3)
第27回	社会人基礎演習3 「マナーを身につけよう(実習先手紙・電話・挨拶)」(目標1,3)
第28回	個別面接4 「学びのコンパス」による専攻分野の能力についての見定め。(目標3)
第29回	個別面接4 「学びのコンパス」による専攻分野の能力についての見定め。(目標3)
第30回	「学びのコンパス」による次年度以降の学び(取得資格免許等)(目標3)(原則として,専攻ごとに実施するが,内容によって学年全体や

グループごとに実施する場合がある。)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	課題発表やレポートの内容
	評価の方法	課題発表やレポート（ 70%），課題に対する取り組み（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	進路ガイダンス 2012	
推薦図書等		
参考URL		
備考	社会人として自立し，職業人として必須の能力を養うための科目であるが，学年やクラスとしての連絡，履修に関する説明，個別相談など重要な内容を含めて行うので，必ず履修すること。	

環境と社会性発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	環境と社会性発達論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1038001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	環境と生得的な資質，相互作用，社会性の発達
授業のねらい・概要	１．社会性の発達に影響する環境や生得的な資質とは何かを理解する。 ２．社会性の発達に，育児の仕方と生得的な資質（気質・能力）の相互関係について理解する。 ３．社会性の発達を促進する個人的なやりとり・集団的なやりとりを理解する。
学生の達成目標	1. 環境と生得的な資質との相互作用によって社会性が発達することを理解する。 2. 社会性の発達のために望ましい環境,人との相互作用とは何かを理解する。 3. 家族内の親しい人との関係や友達関係と社会性の発達の関連を理解する。 4. 人間関係によって育まれる情緒調節の重要性を理解する。
授業内容	第1回　社会性の発達に影響する環境要因。環境と生得的な資質との相互作用に関する基本的な概念や考え方,研究法について学ぶ(目標1,2,3)

第2回	乳幼児の安心感。人との関係の中で育まれる安心感の重要性と安心感が生まれる環境について学ぶ。(目標2,3,4)
第3回	母子関係の意味。母子関係に関する様々な考え方や望ましい母子関係を学ぶ。(目標3,4)
第4回	家族の変化と育児。社会と家族の変化を理解し,社会性発達に対する意味を考える。(目標2,3)
第5回	親子関係の相互性。親子がお互いに影響し合っている点と,相互作用の過程を学ぶ。(目標1,2,3)
第6回	人間関係と情緒調節。人間関係の中での情緒制御能力の育ちを理解する。(目標1,2,4)
第7回	共感と情報交換。幼児がいかに他者と共感し合いながら,情報交換を楽しみ,周りの世界に対するイメージを築いていくかを理解する。(目標2,3,4)
第8回	役割意識とルールの尊重。大人や友達との関わりを通じて,幼児がいかにみんなの中で役割意識を持てるようになり,ルールを尊重するようになるのかについて理解する。(目標2,4)
第9回	向社会的行動の発達と人間関係。人に対する思いやりが,人との関わりの中でどのように発達していくのかについて理解する。(目標2,4)
第10回	価値観と道徳性の発達。他児との関わりや集団生活の過程で,いかに他者理解が進むのか,道徳性が発達していくのかについて理解する。(目標2,4)
第11回	児童期思春期の社会性発達。乳幼児期の社会性発達と児童期思春期の発達との関連を理解し,長期的展望に立って子どもの発達を理解する。(目標2,4)
第12回	子育ての困難さと子育て支援。子育ての困難さや虐待の起こる要因を理解し,心の傷を負った子どもの成長や家族への子育て支援について考える。(目標1,2,4)
第13回	非行や反社会的行動と子育て。育児困難な子の発達や逸脱行動を理解し,社会性発達を促す関わり方について学ぶ。(目標2,3,4)
第14回	発達障害と社会性発達。自閉症や ADHDなどに見られる社会性の障害を理解し,社会性発達を促す働きかけについて学ぶ。(目標1,2,3,4)
第15回	社会的文化的環境と社会性発達。社会的文化的環境の違いによって社会性発達がどのように影響されるかを理解し,日本文化の中の育児法を考える。(目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

子どもの社会性発達における環境の大切さを理解する。
特に人間関係の重要性を認識し，望ましい環境・人間関係が分かる。

	評価の方法 授業への参加度と質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は使用しない。資料を配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項は復習すること。

幼児・児童の病気と医療

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	幼児・児童の病気と医療
科目責任者	
担当教員	大濱　洋一
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1039001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児・児童，病気，医療
授業のねらい・概要	幼児・児童の病気についての知識を習得し，正しい対応ができるようにする。
学生の達成目標	1. 幼児・児童の病気について理解する。 2. 幼児・児童が病気に罹患したとき正しく対応できる。 3. 幼児・児童の病気の予防および早期発見ができる。
授業内容	第1回　総論(目標1・2・3) 第2回　主な症状とその対策(目標1・2・3) 第3回　主な症状とその対策(目標1・2・3) 第4回　新生児・未熟児,染色体異常・奇形(目標1・2・3) 第5回　先天代謝異常,栄養の過不足,代謝疾患(目標1・2・3) 第6回　内分泌疾患,免疫・アレルギー疾患(目標1・2・3)

第7回	リウマチ・膠原病,感染症(目標1・2・3)
第8回	感染症(目標1・2・3)
第9回	消化器疾患(目標1・2・3)
第10回	呼吸器疾患,循環器疾患(目標1・2・3)
第11回	血液・造血器疾患,悪性腫瘍(目標1・2・3)
第12回	腎・泌尿器・生殖器疾患(目標1・2・3)
第13回	中枢神経疾患,筋・骨の疾患(目標1・2・3)
第14回	心身症・精神疾患,事故・虐待(目標1・2・3)
第15回	皮膚疾患,眼科・耳鼻咽喉科・歯科疾患(目標1・2・3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 幼児・児童の病気および対応に関して，授業で取り上げた内容が理解できていることを合格基準とする。 評価の方法 期末の筆記試験　100%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「テキスト　子どもの病気」監修：早川　浩・小林昭夫；日本小児医事出版社，2,500円 ISBN： 978 -4-88924-2　C3047
推薦図書等	
参考URL	
備考	

幼児・児童の障害と支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	幼児・児童の障害と支援
科目責任者	
担当教員	河合　高鋭
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1040001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児，児童，障害，支援，アセスメント
授業のねらい・概要	幼児・児童に接し，支援していく上での一観点として，行動論的な考え方を紹介することを目的とする。 「コミュニケーション」や「地域社会生活」などの，各諸領域に対する支援について概説し，また，発達障害等のある障害に特化した支援のあり方についても解説することを目標とする。
学生の達成目標	1. ある障害に特化した支援について,その原則を理解する。 2. アセスメントと障害特性について深め,その具体的な支援方法を理解する。 3. 発達の諸領域に対しての支援について,その原則を理解する。 4. 障害のある子どもへの実践で大切な基本姿勢を理解し,自分の考えとともに説明できる。
授業内容	第1回　　オリエンテーション

	第2回	障害の早期発見と療育,障害受容-(目標1,3)
	第3回	発達障害の理解と支援-(目標1)
	第4回	自閉症の理解と支援-(目標1)
	第5回	高機能自閉症の理解と支援-(目標1)
	第6回	注意欠陥多動性障害の理解と支援-(目標1)
	第7回	学習障害の理解と支援-(目標1)
	第8回	アセスメントのための心理検査-(目標2)
	第9回	障害特性の理解(応用行動分析学)-(目標2)
	第10回	障害特性の理解(TEACCHプログラム)-(目標2)
	第11回	障害特性の理解(ソーシャルスキルトレーニング・ペアレントトレーニング)-(目標2)
	第12回	家族に対する支援-(目標3)
	第13回	地域社会生活に対する支援-(目標3)
	第14回	コミュニケーションに対する支援-(目標3)
	第15回	総括(目標4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	幼児・児童に接し，支援していく上での観点が定まること。 全般的な支援のあり方について，また，ある障害に特化した支援のあり方について理解できていること。 興味を持ったテーマについてレポートにまとめられること。
	評価の方法	授業への取り組み状況（ 50%），学期末のレポート（ 50%）から評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しません。必要な資料等を授業時に配布します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	関連するキーワードについての予備知識を持って授業に参加することが望ましい。 また，授業後は授業時に配布したプリントを熟読のこと。	

事故・災害と救命救急法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	事故・災害と救命救急法
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1041001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児救急看護，子どもの事故と集団災害，小児救急救命処置
授業のねらい・概要	小児救急医療・看護を学び，小児救急場面に対応できる素地をつくる。
学生の達成目標	1. 小児救急医療・看護の概要が理解できる。 2. 子どもに多い事故や集団災害について理解できる。 3. トリアージの目的と救急救命処置について理解できる。 4. 救急場面における子ども・家族の反応を理解できる。 5. 小児救急場面における自分の役割を述べることができる。
授業内容	第2回　現代の子ども・家族と救急医療・看護(目標1,2) 第3回　救急医療を受ける子ども・家族の接近法(目標4,5) 第4回　小児救急における病態とプライマリーケア ①(目標1,3,4)症状(発熱・下痢下血・嘔吐・吐血) 第5回　小児救急における病態とプライマリーケア ②(目標1,3,4)症状(呼吸困難・痙攣・発疹・痛み)

	第6回	救急と災害看護(目標1,2)
	第7回	小児救急における病態とクリテカルケア(目標1,3,4)小児の一次・二次救命技術
	第8回	子どもの事故の種類とその特徴(目標2)
	第9回	事故に伴う起こりやすい病態と看護 事故予防指導(目標1,2,5)
	第10回	事例でみるトリアージの実際と小児救急救命処置(目標3)(小児救急救命認定看護師による講義)
	第11回	事例でみるトリアージの実際と小児救急救命処置(目標3)(シミュレーション等を通して実施)
	第12回	子どもの虐待 初期治療および対応の原則(目標1,4,5)
	第13回	子どもに特徴的な集団災害(目標2)保健所,幼稚園,学校等における災害の特徴
	第14回	子どもの集団行動およびパニックの理解(目標4)
	第15回	子どもと家族へのケア(目標4,5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業でとりあげた基礎的な内容が理解でき，自らの役割をのべることができること
	評価の方法	試験 60%，レポート 20%，授業の参加度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は使用せず，講義資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	小児救急看護の概要を理解し，その知識を各自の職域に活用してほしい。	

幼稚園の管理と学級運営

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	幼稚園の管理と学級運営
科目責任者	木下　勝世
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1042001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学校教育法，私立学校法，幼稚園管理，学級運営
授業のねらい・概要	幼稚園が教育機関として適正に運営されるのに必要な園及び学級の管理運営について学ぶことを目的とする。 内容としては，関係法令に定められた事項，私立学校として整備すべき事項，幼稚園管理及び学級運営業務の内容とその実際，そして障害のある子を受け入れるについての管理運営のあり方について理解する。
学生の達成目標	1.　幼稚園を運営管理することに係る法的な体系を理解する。 2.　私立幼稚園の幼稚園管理運営について,その内容と実際を理解する。 3.　幼稚園における学級運営にあたって必要な事項を理解する。 4.　障害のある子を受け入れるのに必要な管理等の体制を理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の概要と進め方) Ⅰ 法令等に基づく幼稚園の管理運営(目標1) 第2回　(1)学校教育法等を中心に① 日本の学校教育体系と幼稚園の位置付け等 第3回　② 幼稚園の設置の基準等

第4回	(2)私立学校法等を中心に① 法人の意味,法人の組織等
第5回	② 法人管理運営の基本と,整備すべき規程 Ⅱ私立幼稚園管理運営の内容と実務(目標2)
第6回	(1)学(園)則その他の表簿とその内容
第7回	(2)保健・安全・防災の方法
第8回	(3)人事・労務管理,教職員待遇等について
第9回	(4)財務・会計管理の方法
第10回	(5)教職員の資質向上 Ⅲ学級担任としての管理運営(目標3)
第11回	(1)必要な書類とその整備,記録
第12回	(2)保護者との協同,地域との連携 Ⅳ障害のある子の受け入れ(目標4)
第13回	(1)特別支援教育体制の整備とチームワーク
第14回	(2)個々の指導(個別の指導計画)と連携
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	幼稚園の管理運営について，関心を深め，多角的に理解できたかどうかを評価の基準とする。
	評価の方法	期間中の小レポート（ 10%），　Ⅰ～ Ⅳの章ごとのレポート（ 30%），期末試験の結果（ 60%）によって評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 自作資料による。
推薦図書等	
参考URL	
備考	幼稚園の多くは私立幼稚園ですから，この授業では学校法人立の幼稚園を主にして，その管理運営を学びます。

保育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育課程論
科目責任者	木下　勝世
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1013101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育課程，指導計画と評価，保育内容，保育方法
授業のねらい・概要	保育所保育指針の改訂によって，保育現場においては保育課程の編成が義務付けられた。 またそこでは各現場の状況を踏まえて独自に創意工夫することが求められている。 保育を展開して行く上では，計画し，実施し，省察し，評価し，改善を図るというサイクルが機能することが不可欠である。 これらを踏まえて，本授業においては保育の計画と評価，保育計画と指導計画についての基本的な理解と，保育の方法や内容について具体例を通しての理解を深めることを意図する。
学生の達成目標	1.　保育の計画と評価にかかわる,基本的な事項を理解する。 2.　保育の計画と評価について,基本的な視点を理解する。 3.　保育課程の編成,指導計画の作成について理解する。 4.　保育の計画と実践,省察と改善の実際について理解する。
授業内容	第1回　保育の制度と戦後の歩み 第2回　保育所保育指針 その歴史・趣旨・構成

第3回	保育における環境の意味と諸要素
第4回	保育の計画と保育課程・指導計画
第5回	保育の指導案(その意義・目的・形式)
第6回	保育の指導案(指導案の働きと書き方)
第7回	保育の指導案(指導案の作成と検討)
第8回	保育における評価と記録
第9回	保育の方法としての遊び
第10回	保育の方法としての生活
第11回	遊びを核にした保育指導の進め方
第12回	行事を核にした保育指導の進め方
第13回	保育者の在り方(現場保育者の体験を聞く ①)
第14回	保育者の在り方(現場保育者の体験を聞く ②)
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	保育の計画と評価について基本的な事柄を理解することができたか。 保育指導の計画と実際について関心をもち，その内容内容を理解することができたか。
	評価の方法	期末試験 60%　期間中の課題への取り組み状況 30%　授業への参加度 10%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 保育原理（その構造と内容の理解）民秋　言編　萌文書林　2 ,100 ISBN： 4 -89347-191-6

推薦図書等

参考URL

備考

保育内容総論 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容総論 Ⅰ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育内容，遊び，生活，５領域，保育所保育指針・幼稚園教育要領
授業のねらい・概要	幼稚園や保育所での「保育内容」について，保育所保育指針および幼稚園教育要領で示されている基本的な視点について概説する。 また，事例を取り上げることで，受講生が保育内容について具体的なイメージを持ち，その展開等について自分なりに考える機会とする。
学生の達成目標	1. 保育内容とは何かを知る 2. 保育内容に対する具体的なイメージを持つ 3. 遊びを通して学ぶということについて自分なりに考える 4. 生活を通して学ぶということについて自分なりに考える 5. 5領域のとらえ方,考え方について知る
授業内容	第1回　オリエンテーション:幼稚園・保育所のイメージ(目標1・2) 第2回　遊びを通しての経験(目標1・2・3) 第3回　「領域」とは(目標1・2・5) 第4回　保育所・幼稚園の一日(1)(目標1・2・3・4) 第5回　保育所・幼稚園の一日(2)(目標1・2・3・4) 第6回　保育所・幼稚園の一日(3)(目標1・2・3・4)

第7回	遊びや生活を通して学ぶということ(1)(目標3・4)
第8回	遊びや生活を通して学ぶということ(2)(目標3・4)
第9回	保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方(目標1・5)
第10回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(健康)(目標1・5)
第11回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(人間関係)(目標1・5)
第12回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(環境)(目標1・5)
第13回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(言葉)(目標1・5)
第14回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(表現)(目標1・5)
第15回	総括・まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に到達し，保育内容の展開等に対し，自分なりの意見を述べることができること
	評価の方法	平常点（授業内でのレポート提出状況ならびにその内容），期末試験を総合的に評価する

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 大豆生田啓友他著「保育内容総論」 ISBN： 978 -4-623-05851-8
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育内容総論 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容総論 Ⅱ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育内容，遊び，生活，５領域，保育所保育指針・幼稚園教育要領
授業のねらい・概要	保育内容の基本的な視点について，事例に即して自分たちなりに考える。 また，保育展開における，子どものとらえ方や環境構成，保育士の関わりなどについて，自分なりに考え，保育内容への理解を深める。
学生の達成目標	1. 保育内容の展開に対し,自分なりの意見を持つ 2. 保育展開における子どものとらえ方や環境構成,保育士の関わりについて自分なりの考えを持ち言語化する 3. 発達過程による子どもの姿や保育展開の違いならびに連続性に気付く 4. 子育て支援の現状について理解し,その内容について考える 5. 保育内容を深める遊び等への理解を深める
授業内容	第1回　オリエンテーション:保育内容とは何か(目標1) 第2回　保育内容の実際(1)(目標1・2) 第3回　保育内容の実際(2)(目標1・2) 第4回　事例で学ぶ「年齢と保育内容」(0歳児)(目標1・2・3) 第5回　事例で学ぶ「年齢と保育内容」(1歳児)(目標1・2・3) 第6回　事例で学ぶ「年齢と保育内容」(2歳児)(目標1・2・3)

	第7回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(3歳児)(目標1・2・3)
	第8回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(4歳児)(目標1・2・3)
	第9回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(5歳児)(目標1・2・3)
	第10回	子育て支援と保育内容(1)(目標4)
	第11回	子育て支援と保育内容(2)(目標4)
	第12回	保育内容を深める遊びや文化財(1)(目標5)
	第13回	保育内容を深める遊びや文化財(2)(目標5)
	第14回	保育内容を深める遊びや文化財(3)(目標5)
	第15回	総括・まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に到達し，保育内容の展開等に対し，自分なりの意見を述べることができること
	評価の方法	平常点（授業内でのレポート提出状況ならびにその内容），期末試験を総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 大豆生田啓友他著「保育内容総論」 ISBN： 978 -4-623-05851-8	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習 Ⅰ（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（健康）
科目責任者	
担当教員	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発育発達，栄養，運動，心身の関係，生活習慣
授業のねらい・概要	健康に関する総合的な知識を理解しつつ，保育内容「健康」の指導法を学ぶことを目的とする。 幼稚園ならびに保育園における健康領域の取り扱い方，また日常生活における健康の保持・増進について授業を展開する。
学生の達成目標	1.　ヒトの健康を保持・増進するために必要な要因を理解すること。 2.　子どもの健康を保持・増進するために必要な要因を理解すること。 3.　幼稚園教育要領における「健康」の内容を理解すること。 4.　保育所保育指針における「健康」の内容を理解すること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1～4) 第2回　健康の定義(目標1) 第3回　健康の定義(目標1・2) 第4回　身体の発育発達の特徴(1)(目標1・2) 第5回　身体の発育発達の特徴(2)(目標1・2) 第6回　身体の発育発達の特徴(3)(目標1・2)

	第7回	幼稚園教育要領における「健康」の取り扱い(1)(目標3)
	第8回	幼稚園教育要領における「健康」の取り扱い(2)(目標3)
	第9回	基本的生活習慣の援助(1)(目標2・3・4)
	第10回	基本的生活習慣の援助(2)(目標2・3・4)
	第11回	運動と栄養(1)(目標1・2)
	第12回	運動と栄養(2)(目標1・2)
	第13回	保育所保育指針における「健康」の取り扱い(1)(目標4)
	第14回	保育所保育指針における「健康」の取り扱い(2)(目標4)
	第15回	総括(目標1～4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を試験及びレポート課題にて評価する。 また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	試験 50%，レポート課題 20%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし。逐次プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習 Ⅱ（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容演習 Ⅱ（健康）
科目責任者	
担当教員	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発育発達，栄養，運動，心身の関係，生活習慣
授業のねらい・概要	保育内容「健康」に示されている内容についてデータに基づいて理解を深め，子どもの健康づくりに必要な基本的な知識や技能を習得することを目的とする。 データ収集などの実験的な手法も用いて，多角的な視点から健康を理解していく。データの分析と評価方法についても学ぶ。
学生の達成目標	1. ヒトの健康を保持・増進するために必要な要因を理解すること。 2. 子どもの健康を保持・増進するために必要な要因を理解すること。 3. 生体に関する各種データの収集方法,データ処理方法の基礎を理解できること。 4. データの分析・評価方法の基礎を理解できること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1～4) 第2回　運動・遊びと体力(1)(目標1・2) 第3回　運動・遊びと体力(2)(目標3・4) 第4回　運動・遊びと体力(3)(目標3・4) 第5回　こころの健康・からだの健康(1)(目標1・2)

	第6回	こころの健康・からだの健康(2)(目標1・2)
	第7回	自律神経の働きと体温(2)(目標1・2)
	第8回	自律神経の働きと体温(3)(目標3・4)
	第9回	自律神経の働きと体温(4)(目標3・4)
	第10回	免疫機能(1)(目標1・2)
	第11回	免疫機能(2)(目標1・2)
	第12回	随意運動と反射(1)(目標1・2)
	第13回	随意運動と反射(2)(目標1・2)
	第14回	随意運動と反射(3)(目標3・4)
	第15回	総括(目標1～4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を試験及びレポート課題にて評価する。 また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	試験 30%，レポート課題 40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし。逐次プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	保育内容演習 Ⅰ（健康）を履修していることが望ましい。	

保育内容演習 Ⅰ（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（人間関係）
科目責任者	
担当教員	大木　みわ
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児の人間関係の発達，人と関わる力を育む，特別のニーズを持つこども
授業のねらい・概要	幼児の人間関係の発達について理解し，人と関わる力を育む実践者をめざす。
学生の達成目標	1. 人間関係づくりの重要性を知る。 2. 幼児の発達段階について理解する。 3. 先人の実践例から意欲的に人間関係を学ぶ。 4. 特別なニーズをもつこどもへの理解と対応について人間関係を理解する。 5. ロールプレイング等演習に積極的に参加し体験を通して理解する。
授業内容	第1回　オリエンテイション 保育内容人間関係について(目標1) 第2回　幼児期の人間関係の発達-家族(目標1) 第3回　0～3歳未満児の世界(目標2) 第4回　3歳児の世界(目標2) 第5回　4歳児の世界(目標2) 第6回　5歳児の世界(目標2)

	第7回	人間関係を育む保育者の基本姿勢(目標3)
	第8回	自我の芽生えと人への気づき(目標2,5)
	第9回	遊びの中で育つもの(目標5)
	第10回	トラブルを通して育つもの(目標5)
	第11回	幼児ときまり(目標5)
	第12回	協同する経験(目標5)
	第13回	特別なニーズを持つこども(目標4,5)
	第14回	保護者への対応(目標1,3,5)
	第15回	小学校へつなぐ(目標1,3,5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	人間関係の発達について理解したか。 特別なニーズをもつ子どもへの理解・支援について，自らの考えを的確に表現できるか。
	評価の方法	試験（ 70%），課題レポート（ 20%），授業への参加態度（ 10%）により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 新保育シリーズ「保育内容　人間関係」　友定啓子・小田豊　編著　光生館	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習 Ⅱ（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容演習 Ⅱ（人間関係）
科目責任者	
担当教員	大木　みわ
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ロールプレイング，人と関わる力を育む，特別のニーズを持つこども
授業のねらい・概要	幼児の人間関係の発達について理解し，人と関わる力を育む実践者をめざす。
学生の達成目標	1. 人間関係づくりの重要性を知る。 2. 幼児の発達段階について理解する。 3. 先人の実践例から意欲的に人間関係を学ぶ。 4. 特別なニーズをもつこどもへの理解と対応について人間関係を理解する。 5. ロールプレイング等演習に積極的に参加し体験を通して理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 保育内容演習 Ⅱ(人間関係)について(目標1) 第2回　ロールプレイング導入 ウォーミングアップ1(身体の動き)(目標3,4,5) 第3回　ウォーミングアップ2(心の動き)(目標3,4,5) 第4回　ウォーミングアップ3(童話の)(目標5) 第5回　子どもの人間関係 あそびから学ぶ(目標2,5)

	第6回　トラブルから学ぶ(目標2,5)
	第7回　夢を描く(目標3,5)
	第8回　親子関係のロールプレイング 気になる親 ①(目標1,5)
	第9回　気になる親 ②(目標1,5)
	第10回　気になる親 ③(目標1,5)
	第11回　保育者のロールプレイング 子どもとの関係(目標3,4,5)
	第12回　親との関係(目標3,4,5)
	第13回　仲間との関係(目標3,4,5)
	第14回　トラブルへの介入(ミディエイション)(目標1,3,5)
	第15回　全体の振り返り(目標1)
予習・復習の内容	予習
	復習
	展開
成績評価	評価の基準 人間関係の発達について理解したか。 特別なニーズをもつ子どもへの理解・支援について，自らの考えを的確に表現できるか。
	評価の方法 課題レポート（ 50%），授業への参加態度（ 50%）により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 新保育シリーズ「保育内容　人間関係」　友定啓子・小田豊　編著　光生館
推薦図書等	
参考URL	
備考	保育内容演習 Ⅰ（人間関係）を履修していること

精神保健演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	精神保健演習
科目責任者	
担当教員	浅野　誠
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1049001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	心と身体，脳の発達，精神の病，精神の病の予防，地域と精神医療
授業のねらい・概要	人がなぜ精神を病むのか。どのような精神の病があるか。 予防に必要なことは何か。 病んだ人への援助法。 などについて知る。
学生の達成目標	1. 身体と心の関係について理解する 2. 脳の構造と機能について理解する 3. 精神の疾病について理解する 4. 精神の保健について理解する 5. 精神を病んだ人への援助法について知る
授業内容	
予習・復習の内容	予習

	復習 展開
成績評価	評価の基準 上記達成目標に到達し，精神保健の基本事項をよく理解していること。 評価の方法 試験の成績 60%　授業への参加度 30%　課題の発表により 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 戸東支朗　生地新　森岡由紀子共著「あたらしい精神保健」医学出版社　 2 ,100円 ISBN： 978 -4-87055-104-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	

乳児保育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	乳児保育
科目責任者	
担当教員	村松　憲子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児の発達と特性，保育（養護と教育）の実践，保育所の歴史的変遷と役割
授業のねらい・概要	乳児保育（３歳未満児）に必要な知識・技能・態度を養う。 子どもを取り巻く子育て環境の変化や保育ニーズの現状を理解し，人格形成の基礎を培う乳幼児期の子どもの生活のあり方・援助の方法について専門的知識と実践技能の習得を図る。
学生の達成目標	1. 乳児保育の歴史的変遷と現状及び課題について理解する。 2. 3歳未満児の子どもの心身の発達に関して基礎的知識を身につける。 3. 3歳未満児保育の計画・内容及び具体的な援助の方法について理解する。 4. 保育士の専門性について認識し,保護者や地域との連携の必要性を知る。
授業内容	第1回　乳児保育の意義 目標1 第2回　乳児理解と保育の基本 目標1 第3回　乳児保育のあゆみ 目標1 第4回　乳児保育の現状と課題(乳児院・保育園・家庭その他) 目標1 第5回　乳児の発達とその特質 目標2

第6回	3歳未満児の発達と特徴 0歳前期 目標2
第7回	3歳未満児の発達と特徴 0歳後期 目標2
第8回	3歳未満児の発達と特徴 15ケ月未満 目標2
第9回	3歳未満児の発達と特徴 24ケ月未満 目標2
第10回	3歳未満児の発達と特徴 3歳未満 目標2
第11回	3歳未満児の発達と特徴 愛着関係と自我の育ち 目標2
第12回	乳児期の生活と環境 目標2
第13回	乳児期の生活と環境(食事 Ⅰ 授乳・離乳) 目標2・3
第14回	乳児期の生活と環境(食事 Ⅱ 離乳食と食育) 目標2・3
第15回	乳児期の生活と環境(睡眠と生活リズム) 目標2・3
第16回	乳児期の生活と環境(排泄 オムツ交換・トイレットトレーニング) 目標2・3
第17回	乳児期の生活と環境(健康・安全) 目標2・3
第18回	乳児期の遊びの発達的意味とかかわり 目標2・3
第19回	乳児期の遊びと環境(空間構成と玩具) 目標2
第20回	乳児期の遊びと環境(絵本・パネルシアター等) 目標2
第21回	乳児期の遊びと環境(手遊び・ふれあい遊び) 目標2・3
第22回	3歳未満児の遊びと環境(手作り玩具) 目標2・3
第23回	気になる子どもの言動の理解と対応 Ⅰ(実践例から) 目標2・3
第24回	気になる子どもの言動の理解と対応 Ⅱ 目標2・3
第25回	保育課程と指導計画の展開 目標3
第26回	3歳未満児保育の記録と評価 目標3
第27回	家庭の変遷と子育て支援 目標4
第28回	保育者理解及び地域との連携 目標4
第29回	3歳未満児の生活を支える保育者の役割 目標4
第30回	乳児保育の理念と課題 目標4

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。 授業内容を基に乳幼児の生活全般に関しての援助技術が身についていること。
	評価の方法	試験（ 70%），提出物（ 20%），授業への参加状況（ 10%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「演習・乳児保育の基本」阿部和子著　萌文書林
推薦図書等	
参考URL	
備考	指導内容は状況により順番が前後することもある。

保育相談支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育相談支援
科目責任者	古川　繁子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの最善の利益，保護者の養育力，共感，倫理，コミュニケーション
授業のねらい・概要	保育士の「保護者に対する保育に関する指導」（児童福祉法第 18条の４）について具体的に学ぶことを目的としている。
学生の達成目標	1. 保育相談支援の理念と目的を知る。保育士として,保育に関する専門知識・技術を背景としながら保護者の相談援助を行うことを理解する。 2. 保護者が支援を求めている子育ての問題や課題があることを理解する。 3. 保育相談支援を行う際の基本的な態度事項を身につける。 4. 保育相談支援は保護者の気持ちを受けとめつつ,安定した親子関係や養育力の向上を目指して行うことを演習を通して理解する。 5. 保育所が地域における保育の専門機関として,社会的責任を果たすための具体的な方法を知る。
授業内容	第1回　授業の進め方,評価方法 保育相談支援の理念と目的(目標1) 第2回　保育相談支援の意義と原則(目標1) 第3回　保育所における保育の機能と役割(目標2,5) 第4回　地域の資源の活用と関係機関などとの連携(目標5) 第5回　保育相談支援の方法と技術(目標3,4) 第6回　保育相談支援の枠組み(目標3,4)

	第7回	信頼関係を基本としたかかわり(目標3,4)
	第8回	保育相談支援の実際1(目標3,4)
	第9回	2(目標3,4)
	第10回	3(目標3,4)
	第11回	児童福祉施設における保育相談支援1(目標1,2,3,4,5)
	第12回	児童福祉施設における保育相談支援2(目標1,2,3,4,5)
	第13回	児童福祉施設における保育相談支援3(目標1,2,3,4,5)
	第14回	児童福祉施設における保育相談支援4(目標1,2,3,4,5)
	第15回	児童福祉施設における保育相談支援5(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	上記に掲げた達成目標について，基本的な知識を説明できること。 また，基本的な相談支援計画を立て，基礎的技術を用いて支援できること。
	評価の方法	試験 70%，レポート 20%，授業の参加度 10%で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 考え・実践する保育相談支援　杉本敏夫監修（保育出版社）	
推薦図書等		
参考URL		
備考	演習には積極的に参加し，レポートを作成します。 授業参加意欲とレポートの提出期限厳守が必要です。	

保育施設参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育施設参観実習
科目責任者	
担当教員	木下　勝世 大木　みわ 宮下　裕一 植草　一世 髙木　夏奈子 小川　晶
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1053101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	観察・参加実習，保育所，施設，幼稚園
授業のねらい・概要	幼児教育・児童福祉従事者に求められる豊かな人間性を身につける基盤として，保育施設（幼稚園，保育所，療育機関等）における保育の概要を把握する。
学生の達成目標	1. 保育施設(幼稚園,保育所,療育機関等)の概要を知る。 2. 見学に対する自分なりの目的を立てる。 3. 見学に際するマナー等の基礎的事項を知る。 4. 自分なりに立てた目的に基づき,見学を行う。 5. 自分なりの気づきや課題を,言葉で表現する。

授業内容	第1回	オリエンテーション・保育施設の概要について(目標1)
	第2回	事前指導 ①(自己目標の設定・見学時のマナー等の概説)(目標2・3)
	第3回	事前指導 ②(自己目標の設定・見学時のマナー等の概説)(目標2・3)
	第4回	直前指導 ①(見学先の事前調査・見学の流れ等について)(目標1・2・3)
	第5回	直前指導 ②(見学先の事前調査・見学の流れ等について)(目標1・2・3)
	第6回	保育施設 A参観 ①(目標4)
	第7回	保育施設 A参観 ②(目標4)
	第8回	保育施設 B参観 ①(目標4)
	第9回	保育施設 B参観 ②(目標4)
	第10回	保育施設 C参観 ①(目標4)
	第11回	保育施設 C参観 ②(目標4)
	第12回	情報交換・意見交換 ①(目標5)
	第13回	情報交換・意見交換 ②(目標5)
	第14回	まとめ ①第
		15回 まとめ ②
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	自分なりに，参観に対する目標を意欲的に定め，それを遂行しようとする姿が見られること。 また，参観したことでの気づき等について，相手に伝わるように言葉で説明できること。
	評価の方法	事前指導への参加態度（ 20%），参観先での態度（ 60%），まとめ（ 20%）の成績を総合する。 ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に指定しない。必要に応じて，プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	学外施設への見学のため，原則として欠席は認めない（事前・事後も含めて）。	

保育実習 Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育実習 Ⅰ（保育所）
科目責任者	
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1054001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育所における実習，観察実習，参加実習
授業のねらい・概要	・保育所における保育の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な人間性を養うと共に，専門的な知識や技能を身につける。 ・保育所の生活へ参加し，乳幼児への理解を深めるとともに，保育所の機能とそこでの保育士の職務について理解する。
学生の達成目標	1. 保育所の生活に参加する。 2. 保育所での子どもたちの姿について観察し,発達に関する理解を深める。 3. 保育士の姿を観察し,子どもへの働きかけや関わり方について理解を深める。 4. 自分なりに工夫して,子どもたちと関わる。 5. 気づきや課題を記録し,日々の省察を行う。

授業内容		
予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	実習先での評価基準に原則として準ずる。
	評価の方法	実習先評価（ 70%），記録簿（ 20%），巡回指導（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

初等国語教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等国語教育通論
科目責任者	
担当教員	野口　芳宏 浦野　俊則
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1061001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	国語科教育，基礎教養，教育目標，言語としての教育
授業のねらい・概要	初等国語科教育の担当者として必要な基礎的事項の習得を図る。
学生の達成目標	1. 思想教育と言語技術教育との混在について適切な見解を持てるようにする。 2. 文字指導についての必須の知識と適切な見解を形成する。 3. 語句指導に関する必須の知識と適切な見解を形成する。 4. 国語教育の内容及びそれらの歴史的役割の変遷を理解する。
授業内容	第1回　受講上の決まり,心構え,全体計画等解説。教科書紹介,座席指定。(p6-31) (目標1・4) 第2回　古典文学の流れ,上代,中古,中世,近世(32 -61) (目標2・3) 第3回　和歌,歴史書,物語(p62-97) (目標1・4)

第4回	軍記物語,平家物語,今昔物語,土佐日記ほか(p93-113) (目標2・3)
第5回	枕草子,方丈記,能・狂言,俳諧,国学ほか(p114-127) (目標1・4)
第6回	近代文学,明治の文学,大正,昭和の文学(140 -179)(目標2・3)
第7回	近代小説の代表作,幸田露伴,森鴎外,夏目漱石ほか(p180-213) (目標1・4)
第8回	近・現代詩,近・現代短歌,北原白秋,正岡子規ほか(p214-231) (目標2・3)
第9回	俳句と評論,高浜虚子,橋本多佳子,和辻哲郎ほか(p232-253) (目標1・4)
第10回	漢詩と漢文,代表的作品鑑賞(p254-273) (目標2・3)
第11回	孔子,孟子,老子,代表的故事成語(p274-304) (目標1・4)
第12回	音声言語の基礎教養(p302-305) (目標2・3)
第13回	文章表現の基礎教養(p306-320) (目標1・4)
第14回	漢字,仮名,熟語,慣用句,主要名数一覧(p321-347) (目標2・3)
第15回	現代国語の基礎教養,仮名遣い,送り仮名,現代口語法(p348-352) (目標1・4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	所期の目標への８割方の理解，見識の形成をもって合格とする。
	評価の方法	正式な礼状，日常ノートの状況，国語教育者としての具体的使命に関する論文等の総合評価。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 内田保男他編『新国語要覧』 2010 /4　大修館書店 ISBN： 978 -4-469-32174-6 文部科学省編『小学校学習指導要領解説　国語編』 2008 /8　東洋館出版社 ISBN： 978 -4-491-7
推薦図書等	
参考URL	
備考	誠実な受講の心構えを持ち，国語教育への関心を高めるようにしたい。 電子辞書の常時携帯，常時活用を心がける。

初等書写教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等書写教育通論
科目責任者	浦野　俊則
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1062001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校，国語，書写，指導
授業のねらい・概要	小学校国語科書写について，各学年における指導内容とその体系を把握し，書写能力を高めるとともに，書写指導に関する理解を確立する。
学生の達成目標	1. 小学校学習指導要領に示されている書写指導のねらい・内容及びその体系について理解する。 2. 硬筆及び毛筆を使用して文字を正しく整えて書く能力や書式に則って書く能力を養う。 3. 小学校における書写の指導法及び評価法について理解し,実際に応用できる能力を養う。
授業内容	第1回　小学校で学習する文字と書写指導の内容(目標1) 書写の用具と用材及びその準備と扱い方(目標2) 第2回　平仮名と片仮名の書き方-小学校第1学年・硬筆課題1・2(目標2)姿勢と筆記具の持ち方(目標2) 第3回　第1学年配当漢字の書き方-点画の名前,始筆,送筆,収筆,筆勢 硬筆課題3(目標2)

第4回	第2学年配当漢字の書き方 硬筆課題4(目標2)
第5回	点画の書き方-接し方,方向-(第1・2学年の教材)(目標2)毛筆の用具用材,毛筆課題1(目標2)
第6回	点画の書き方-左右の払い- 毛筆課題2(目標2)
第7回	点画の書き方-点,跳ね- 毛筆課題3(目標2)
第8回	点画の書き方-曲がり,そり- 毛筆課題4(目標2)
第9回	字形の整え方-左右の組み立て,上下の組み立て- 毛筆課題5(目標2)
第10回	字形の整え方-繞,垂れ,囲み- 毛筆課題6(3・4・5学年)(目標2)手書きの習慣と印刷字体(目標1・2)
第11回	手書きの習慣を生かして書く 硬筆課題5(5・6学年)(目標2)
第12回	文字の大きさと中心・外形 毛筆課題7(目標2)
第13回	文字の配列と配置-縦書きと横書き- 硬筆課題7,板書の技法1(目標2)
第14回	筆順と板書の技術- 硬筆課題7,板書の技法2(目標2,3)
第15回	書写の指導計画と評価及び指導法の工夫と教材開発(目標3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	書写指導のねらい・内容及びその体系並びに指導法についての理解，及び基礎的な書写技能が養われていること。
	評価の方法	内容の理解と定着度（ 50%）。書写の技能（ 30%）。取り組み態度の評価（ 20%）。 毎回，提出課題を課す。提出された課題によって評価する。 定期試験は行わない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 小学校学習指導要領・国語科書写関連部分ほか（プリントを使用，毎回配布）	
推薦図書等		
参考URL		
備考	実技の際に使用する用具・用材（筆，墨，紙）は，授業時における案内に従って，各自で準備する。	

初等社会科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等社会科教育通論
科目責任者	
担当教員	斉藤　靖之
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1063001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会科誕生の背景，戦後指導要領の改訂，今後の社会科教育
授業のねらい・概要	小学校社会科教育誕生の歴史とその背景を理解させると共に，社会科教育の本質を，戦後の指導要領改訂の主旨と改善点から分析し，これからの社会科教育の在り方について考えさせる。
学生の達成目標	1. 戦前の終身・地歴・公民等と戦後社会科教育誕生の歴史等が分かる。 2. 戦後の小学校社会科指導要領の改訂の主旨が理解できる。 3. 社会科教育で使われる用語の理解ができる。 4. 社会科学習への関心と小学校社会科教育の在り方等について理解できる。
授業内容	第1回　小学校教育課程における社会科教育の位置づけ(目標1) 第2回　社会科の誕生の背景と内容について(終身・地理・歴史・公民)(目標1) 第3回　社会科の誕生の背景と内容について Ⅰ(昭和 22年試案)(目標2・3)

第4回	社会科の誕生の背景と内容について Ⅱ(昭和 26年試案)(目標2・3)
第5回	指導要領の改訂とねらいと内容について Ⅰ(昭和 33年・ 43年)(目標2・3)
第6回	指導要領の改訂とねらいと内容について Ⅱ(昭和 52年・平成元年)(目標2・3)
第7回	指導要領の改訂とねらいと内容について Ⅲ(平成 10年・ 20年)(目標2・3)
第8回	社会科学習と系統的学習の関連について(目標3)
第9回	社会科学習と問題解決的学習の関連について(目標3)
第10回	社会科教育における社会科用語について(目標3・4)
第11回	社会科学習と生活科と総合的な学習の時間の関連について(目標3・4)
第12回	「生きる力」と社会科学習について(目標3・4)
第13回	新指導要領の骨子と小学校社会科の移行措置について(目標3・4)
第14回	社会科教育の課題とこれからの社会科学習の在り方について(目標3・4)
第15回	小学校社会科教育のまとめ(目標1・2・3・4)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 書写指導のねらい・内容及びその体系並びに指導法についての理解，及び基礎的な書写技能が養われていること。 評価の方法 内容の理解と定着度（ 50%）。書写の技能（ 30%）。取り組み態度の評価（ 20%）。 毎回，提出課題を課す。提出された課題によって評価する。 定期試験は行わない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配付する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	戦後の学習指導要領改訂の主旨について，関心・意欲を持って授業に望んでほしい。

初等算数教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等算数教育通論
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1064001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数教育の目標，算数教育の内容，数と計算・量と測定・図形
授業のねらい・概要	算数教育の目標や数，量 ,図形等の教材内容の本質を捉えられるようにする。また，算数教育の史的変遷を概説するとともに，算数教材の背後にある数学的内容との関連にも触れ，筋道立てられた算数の深さ，よさを知ることができるようにする。
学生の達成目標	1. 算数教育の目標を捉え,算数教育の史的変遷がわかる。 2. 数や計算,量と測定,図形内容の原理,仕組み等がわかる。 3. 数量関係の内容,仕組みがわかる。
授業内容	第1回　講義のガイダンス 算数の働き,有用性 (目標1) 第2回　算数科の目標と算数の内容の概観 (目標1) 第3回　算数教育の変遷(戦前の歩み) (目標1) 第4回　算数教育の変遷(戦後の歩み) (目標1) 第5回　数についての概観(概念と表記) (目標2) 第6回　自然数と数の体系 (目標2)

	第7回	数えることと数の表し方 (目標2)
	第8回	数の仕組みと P進法 (目標2)
	第9回	たし算とひき算の基本的な考え方 (目標2)
	第10回	かけ算とわり算の基本的な考え方 (目標2)
	第11回	量と測定の概念と測定の原理 (目標2)
	第12回	図形の概念と図形の構成 (目標2)
	第13回	関数と図形の考えとその有用性 (目標3)
	第14回	式・統計の概念とその有用性 (目標3)
	第15回	算数教育の現状と課題,及び講義のまとめ (目標3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	算数の目標および史的変遷の要展について理解していること。 数と計算，量 ,図形などについての基本的な原理について知りこれを適用できること。 進んで問題に取り組み話し合いにも参加していること等を合格基準とする。
	評価の方法	学習への取り組み方（ 20%）レポート（ 20%）期末の筆記試験（ 60%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書はない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

初等理科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等理科教育通論
科目責任者	貫井　正納
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1065001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	身の回りの自然の事物，現象，科学史，観察，実験，問題解決
授業のねらい・概要	身の回りにある事物や現象に注目し，その現象のきまり，なぜ，そこに物が存在するのかその理由を考えさせ，具体的に物を作り試してみる。 児童の素直な疑問に応えられる柔軟な考え方を身につける。 観察や実験を多く行い実証的に考える習慣を育成する。 また現在の高度の科学技術についてその利便性とともに弊害について考える。科学史を取り入れ昔の人の物の考え方を知る。
学生の達成目標	1. 小学校理科の学習で用いる自然の事物,現象についての基礎的な知識の獲得。 2. 児童に自然のすばらしさや巧妙さを気づかせる幅広い知識の獲得 3. 簡単な道具や材料を使い便利な道具や道具の改良をする。 4. 継続した自然の観測をすることにより自然のきまりに気づく 5. 問題解決能力の育成とクリティカルな思考の育成
授業内容	第1回　物が見えるのはどうしてだろうか;光のはたらき(目標1,2,3,4,5) 第2回　物が見えるのはどうしてだろうか;光を利用する(目標1,2,3,4,5)

第3回	話が出来る;音とは何だろうか(目標1,2,3,4,5)
第4回	音楽会を開こう(目標1,2,3,4,5)
第5回	大きい人は力持ちか;力の話(目標1,2,3,4,5)
第6回	重い物を持ち上げる;てことてんびん(目標1,2,3,4,5)
第7回	花が咲いた;なぜ花があり,咲くのだろう(目標1,2,3,4,5)
第8回	植物の重要性;光合成(目標1,2,3,4,5)
第9回	世代の交代;生殖の話(目標1,2,3,4,5)
第10回	空気中の水:湿度,雲,雨(目標1,2,3,4,5)
第11回	とける:溶ける,融ける(目標1,2,3,4,5)
第12回	地球と太陽;動いているのはどちらか(目標1,2,3,4,5)
第13回	三か月,十三夜,望月,十六夜;月の満ち欠け(目標1,2,3,4,5)
第14回	スペースシャトル:外側から見た地球(目標1,2,3,4,5)
第15回	自然科学と技術と社会の関連について(目標1,2,3,4,5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業内容を理解し，小学校理科の基礎的な知識および観察，実験の習得することが必須の条件である。 最低中学校段階の知識，技能は必須の条件である。
	評価の方法	レポート，作品，テスト等（ 60%），出席，学習態度（ 40%）で総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 毎回プリントを用意する。 小学校学習指導要領解説　理科編は用意しておくこと	
推薦図書等		
参考URL		
備考	理科用のノートは用意する。 Ａ４版のレポート用紙とグラフ用紙は用意する。	

初等生活科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等生活科教育通論
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1066001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生活科の教科論，生活科の内容論，生活科の基礎的・基本的な知識・技術，生活科の課題研究
授業のねらい・概要	小学校教員として必要な生活科の全般について，その基本的な事項について理解する。 また，これからの生活科教育について新しい教育課程をふまえて論及する。 すなわち，生活科の本質論，性格論，内容論について実習を導入して具体的にわかりやすく講義する。
学生の達成目標	1.　生活科教育の教科論を理解する。 2.　生活科の基本的な内容構造,具体的な内容,留意点を理解する。 3.　生活科で必要な基礎的・基本的な知識・技術を習得する。 4.　生活科に関わる課題を追究し,成果を的確に説明・表現できる。
授業内容	第1回　講義内容のガイダンス 第2回　生活科の教科論-生活科という教科はなぜ必要か(目標1) 第3回　現代の社会の生活課題と生活科の役割(目標1,2)

第4回	諸外国における生活科に関する授業(目標1,2)
第5回	生活科の目標及び内容構成(目標2)
第6回	子どもと人とのかかわり(目標2,3)
第7回	子どもと自然とのかかわり(目標2,3)
第8回	子どもと家庭・地域・社会生活とのかかわり(目標2,3)
第9回	郷土の食文化に触れてみよう(実習)(目標2,3)
第10回	子どもの遊びと学びについて(目標2,3)
第11回	子ども自身について(目標2,3)
第12回	生活科の教材開発(目標2,3)
第13回	課題研究の成果発表 ①(目標4)
第14回	課題研究の成果発表 ②(目標4)
第15回	生活科総論(目標1～4)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 生活科教育に関する基本的・基礎的な内容が理解でき，必要な知識・技術を習得すること。 また，生活課題を追究し，成果を的確に説明・表現できることを合格基準とする。 評価の方法 毎回の小レポート，研究成果発表，提出物，平常点及び期末の筆記試験で評価する。提出レポート（ 20%），試験（ 35%），研究成果発表（ 20%），提出物（ 15%），平常点（ 10%）。 但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説　生活編』
推薦図書等	
参考URL	
備考	

初等音楽教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等音楽教育通論
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	楽典，ソルフェージュ，聴音，新曲
授業のねらい・概要	初等教育における音楽の意義を理解し，音楽に関する基本的な知識の充実を図る。また児童が生涯にわたって音楽をより深く味わい楽しんでいけるように援助する力を育てる。
学生の達成目標	1. 読譜力がつく 2. 音楽の基礎知識が身につく(楽典) 3. 聴く力(聴音)がつく 4. 正しい音程で歌えるようになる
授業内容	第1回　教科書『おとなのためのバイエル教本』を用いて楽譜の読み方を学ぶ(1)(目標1,2) 第2回　教科書『おとなのためのバイエル教本』を用いて楽譜の読み方を学ぶ(2)(目標1,2) 第3回　音部記号,拍子記号,音符,休符等を学ぶ(目標2) 第4回　発想記号,調性について(目標2) 第5回　和声について(1)(目標2) 第6回　和声について(2)(目標2) 第7回　楽典の復習(目標2)

	第8回	教科書『小学校の音楽』を用いて歌い方を学ぶ (目標4)
	第9回	楽譜を正しく歌えるように(リズム,音程,ブレス等)(1)(目標1,2,4)
	第10回	楽譜を正しく歌えるように(リズム,音程,ブレス等)(2)(目標1,2,4)
	第11回	ソルフェージュ(1)(目標4)
	第12回	ソルフェージュ(2)(目標4)
	第13回	聴音(1)(目標3)
	第14回	聴音(2)(目標3)
	第15回	授業の総括

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	基本的な音楽用語を理解できたか。 易しい旋律をリズム・音程正しく歌う事ができたか。 リズム・音程を正しく楽譜に聴き取る事ができたか。
	評価の方法	楽典 30%，ソルフェージュ 30%，聴音 30%，勉学意欲 10%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 坂東貴余子・本間正治共著「おとなのためのバイエル教本」ドレミ楽譜出版社， 1,200円 「小学校の音楽」１，２，３，４，５，６　教育芸術社
推薦図書等	
参考URL	
備考	

初等音楽教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等音楽教育通論
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	楽典，ソルフェージュ，聴音，易しいコード伴奏
授業のねらい・概要	初等教育における音楽の意義を理解し，音楽に関する基本的な知識の充実を図る。 また児童が生涯にわたって音楽をより深く味わい楽しんでいけるように援助する力を育てる。
学生の達成目標	1. 小学校の音楽の授業で使用する程度の楽譜が読める。 2. 音楽の基礎的な用語を理解し,適切に使用することができる。 3. 易しい旋律を聴き取り,楽譜で表すことができる。 4. コード進行に留意して易しいコード伴奏を付けることができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　音部記号,拍子記号,音符,休符を学ぶ(目標1,2) 第3回　発想記号,固定ド唱法と移動ド唱法について(目標2) 第4回　リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ① 連続した音程・4分音符等(目標1,3) 第5回　リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ② 連続した音程・付点音符等(目標1,3) 第6回　リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ③ 跳躍した音程・シンコペーション等(目標1,3)

第7回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ④ 跳躍した音程・3連符等(目標1,3)
第8回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ⑤ ソルフェージュの小テスト(目標1,3)
第9回	音程と音階について ① 長音階(目標2)
第10回	音程と音階について ② 短音階(目標2)
第11回	調性と移調について(目標2)
第12回	コードネームについて ①3和音(目標2)
第13回	コードネームについて ②7の和音(目標2)
第14回	コード進行に留意した易しいコード伴奏(目標4)
第15回	まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

易しい旋律をリズム・音程を正しく歌うことができたか。
リズム・音程を正しく聴き取り楽譜に表すことができたか。
音楽の基礎的な用語を理解し適切に使用できたか。

評価の方法

ソルフェージュ（ 25%）聴音（ 25%）楽典（ 40%）授業への参加度（ 10%）で評価する。
ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性がある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

石井恵子他『幼児のための音楽教育』教育芸術社， ２,100円
ISBM： 4877884437
『小学生の音楽』１，２，３，４，５，６　教育芸術社

推薦図書等

参考URL

備考

音楽学習の基礎となる楽譜の勉強をし直します。
なるべく１年次での履修を希望します。
音楽に限らず，知識・技能を身につけるためには反復練習が必須です。
繰り返し練習すれば誰でも必ず楽譜は読めます。
授業の復習を必ず行って下さい。
遅刻・欠席のないよう留意して下さい。
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

初等図画工作教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等図画工作教育通論
科目責任者	森高　光広
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1068001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育の歴史，発達段階と表現，小学校における図画工作科の授業，子どもの表現の実際
授業のねらい・概要	発達段階による表現の違いや造形教育の歴史を学び，小学校の図画工作科に関しての基礎的理解を深め，子どもの造形活動が支えられるように，題材や作品を通して，授業実践のために必要とされる理論的な知識の獲得を目指す。
学生の達成目標	1. 小学校における図画工作科の教育について,全般にわたり理解する。 2. 図画工作科の成立過程,目標と構造,内容構成,学習形態などを学び,図画工作科の特質を把握する。 3. 図画工作の教育課程・教材・授業分析・授業構想に関する確かな視点の獲得を目指す。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点等)・図画工作科の目指すもの・学校教育以前の造形(目標1) 第2回　「図画工作」の変遷①・4人の先生の教育観の違い・リードの考え方・全員発表開始(目標3)

第3回	「図画工作」の変遷②・アイスナー・寺子屋と学校・明治の造形教育①(目標1,2)
第4回	「図画工作」の変遷③・明治の造形教育②・保育園や幼稚園現場では・自由画運動(目標1,2)
第5回	「図画工作」の変遷④・戦時の造形教育・発達段階による造形表現の違い①(目標1,2)
第6回	「図画工作」の変遷⑤・戦後の教育①チゼック・発達段階による造形表現の違い②(目標1,2)
第7回	「図画工作」の変遷⑥・戦後の教育②発達段階による造形表現の違い③(目標1,2)
第8回	発達段階による造形表現の違い④・「図画工作」の授業①小学校1年～3年;絵画・デザイン・工作(目標2,3)
第9回	「図画工作」の授業②小学校3年～6年;絵画・デザイン・工作(目標2,3)
第10回	造形遊びについて(目標1,3)
第11回	鑑賞について・評価のとらえ方・授業の実際;DVD視聴①(目標1,3)
第12回	教材について・授業の実際;DVD視聴②・レポート提出①(目標3)
第13回	題材観について・授業の実際;DVD視聴③・レポート提出②(目標3)
第14回	指導案の基本について・授業の実際;DVD視聴④・レポート提出③(目標3)
第15回	まとめ・指導案の書き方について・図画工作の今後の課題と展望・レポート提出④(目標1,3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	小学校の図画工作科の知識に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに学校現場における図画工作科授業のあり方について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回のふりかえりを含めた小レポート20%，課題レポート50%）70%，発表，授業の取り組み等の平常得点30%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

初等家庭科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等家庭科教育通論
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1069001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	家庭科の教科論，家庭科の内容論，家庭科の基礎的・基本的な知識・技術
授業のねらい・概要	小学校教員として必要な家庭科教育及び小学校家庭科の全般について，その基本的な事項について理解する。 また，これからの家庭科教育について新しい教育課程をふまえて論及する。すなわち，家庭科の本質論，性格論，内容論について実習を導入して具体的にわかりやすく講義する。
学生の達成目標	1.　家庭科教育の教科論を理解する。 2.　小学校家庭科の基本的な内容構造,具体的な内容,留意点を理解する。 3.　小学校家庭科で必要な基礎的・基本的な知識・技術を習得する。 4.　小学校家庭科の評価法を理解する。
授業内容	第1回　講義内容のガイダンス 第2回　家庭科の教科論-家庭科という教科はなぜ必要か(目標1) 第3回　家庭科の性格論-家庭科は他の教科とどのようなことがちがうのか(目標1)

第4回	家庭科教育の歴史(目標1)
第5回	社会の変化と家庭科の役割(目標1,2)
第6回	諸外国における家庭科教育-欧米諸国(目標1,2)
第7回	諸外国における家庭科教育-アジア諸国(目標1,2)
第8回	小学校家庭科の目標及び内容構成(目標2)
第9回	小学校家庭科の食生活分野について ①調理実習(目標2,3)
第10回	小学校家庭科の食生活分野について ②調理実習(目標2,3)
第11回	小学校家庭科の衣生活分野について ①被服実習(目標2,3)
第12回	小学校家庭科の衣生活分野について ②被服実習(目標2,3)
第13回	小学校家庭科の住生活・消費者教育分野について(目標2,3)
第14回	小学校家庭科の評価法(目標4)
第15回	小学校家庭科総論(目標1～4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	家庭科教育に関する基本的な内容が理解できること。 また，小学校家庭科を指導する上で必要な知識・技術が習得されることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の小レポート，研究成果発表，提出物，平常点及び期末の筆記試験で評価する。提出レポート（ 15%），試験（ 40%），研究成果発表（ 20%），提出物（ 15%），平常点（ 10%）。 但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 佐藤文子・川上雅子著『家庭科教育法』高陵社書店　２,000円

推薦図書等

参考URL

備考

初等体育教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等体育教育通論
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1070001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	体育科教育，学習指導要領，授業，指導案
授業のねらい・概要	小学校体育における総合的原理および指導方法論を概説し，体育科教育に関する基礎・基本を理解・習得することを目的とする。 小学校における体育の目的，学習環境，学習過程の考え方や学習計画，学習評価の方法についても解説する。
学生の達成目標	1. 小学校における体育の位置づけ,目的,在り方を理解すること。 2. 小学校体育の授業内容,授業・指導方法を理解すること。 3. 小学校学習指導要領「体育科」領域の内容を理解すること。 4. 単元計画及び指導案の作成ができること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,2,3) 第2回　体育科教育の考え方の変遷(目標1,2,3) 第3回　体育の目標(目標1,2,3) 第4回　体育授業を構成する要素(目標1,2,3)

第5回	体育科教育における教師の役割(目標1,2)
第6回	小学校体育科の指導内容(1);体つくり運動,器械運動,陸上運動(目標2,3,4)
第7回	小学校体育科の指導内容(2);水泳,ボール運動,表現運動,保健(目標2,3,4)
第8回	体育の環境構成(目標1,2,3,4)
第9回	体育の指導方法・授業形態(目標1,2,3,4)
第10回	体育の学習過程(目標1,2,3,4)
第11回	体育の授業評価(目標1,2,3)
第12回	指導計画の立案(目標2,3,4)
第13回	学習指導案作り(目標2,3,4)
第14回	模擬授業(目標2,3,4)
第15回	総括(目標1,2,3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を試験およびレポート課題にて評価する。 また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	試験 40%，レポート課題 40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説　体育編』東洋館出版社 ISBN： 4491023751

推薦図書等

参考URL

備考

初等英語教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	初等英語教育通論
科目責任者	遠藤　隆志
担当教員	勝山　ひとみ マーク　レモン
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1071001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	児童英語，英語教育，子供英語指導法，英語活動
授業のねらい・概要	小学校における英語教育の在り方を考察し，児童に対する英語の指導法を習得する。同時に指導に必要な英語力を高める。初等英語教育の理論と実践の両面を学ぶ。世界の小学校英語教育を考察しながら，子供の言語習得能力を理解し，英語をなぜ，どのように教えたら良いかをまなぶ。小学校における英語教育の意味を考え，カリキュラム，レッスンプランの作成の仕方を学び，教材研究を行い，実際に模擬授業を行う。
学生の達成目標	1.　小学校での英語教育の意義の理解 2.　児童英語活動に必要な教材選択と作成の基礎習得 3.　児童英語のためのレッスンプランの作成の基礎習得 4.　児童英語指導に必要な基本英語表現の習得 5.　児童英語の基本的指導力の習得
授業内容	第1回　外国語活動の目標と内容,英語活動の例(自己紹介等)(目標1,4)

第2回	児童英語教育の現状とこれから,言語習得時の脳の働き,Classroom English1(目標1,4,5)
第3回	児童の語学習得能力,聞く力とコミュニケーション能力,Classroom management1(目標4,5)
第4回	世界の英語教育(マレーシア・中国・韓国・台湾・シンガポール),カリキュラム研究(目標1,3)
第5回	世界の英語教育(アメリカ・フィリピン・インドネシア・タイ),Classroom management2,課題1提出(目標1,4,5)
第6回	モデル授業考察, Classroom English2(目標4,5)
第7回	モデル授業考察, Classroom English3,実践学習計画(目標3,4,5)
第8回	モデル授業考察, Classroom English4(目標4,5)
第9回	教材研究1(本,ワークブック等),Classroom management3,課題2提出(目標2,4,5)
第10回	教材研究2(カード,音声教材等),Classroom management4(目標2,4,5)
第11回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標3,5)
第12回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標3,5)
第13回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標3,5)
第14回	Classroom management5,レッスンプラン提出,課題3提出(目標4,5)
第15回	Classroom management6,まとめ,テスト(目標4,5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	児童英語指導の基礎的な内容が理解できていること。 英語を指導する上で必要なカリキュラム開発，レッスンプラン作成，教材選択及び作成の基礎知識を習得していること。 指導に必要な英語力の向上に努めていること。基本的なレッスンを行えること。
	評価の方法	授業への参加度 20%，課題とレッスンプラン 40%，レッスンプレゼンテーション 20%，テスト 20%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 Jim Burke, Classroom Management How to:, Scholastic, U.S. $12.99 ISBN： 987 -0-439-93446-6
推薦図書等	
参考URL	

備考	第６回～８回は勝山， Lemonの teamteaching， 連絡先　 sakura（@）azaleaenglish.com， （@）は@の置き換えて送信。 英語力を高める努力を日頃から実践していることが望ましい。

教育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	教育課程論
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1072001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学習指導要領，教育課程の歩み，教育課程の編成
授業のねらい・概要	教育課程の意味，果たす役割をとらえ，学校における教育課程の編成の重要性をとらえるとともに，新しい教育課程の方向に関心を持って対処できるようにする。 また，教育課程の史的変遷を概括し今日教育現場の実情を捉えることができるようにする。
学生の達成目標	1. 教育課程の意味や史的変遷が分かる。 2. 学習指導要領の目的,内容が分かる。 3. 特色ある教育課程について関心を持ちその特色を調べようとする。 4. 教育課程の編成の手続きを調べ,教育課程の果たす役割を知ることができる。
授業内容	第1回　教育課程の意味と学習指導要領の果たす役割。講義のガイダンス(目標1 目標2) 第2回　今日的学力問題と教育課程の課題(目標1) 第3回　近代日本の教育課程の歩み(戦前)(目標1)

第4回	戦後の教育課程の歩み(経験主義から系統主義へ)(目標1)
第5回	教育の現代化と人間性重視への転換(目標1)
第6回	新学力観と生きる力(目標1)
第7回	教育課程の根底にある二つの思想(目標1)
第8回	新学習指導要領について(目標2)
第9回	教科学習と総合的学習について(目標2)
第10回	新学習指導要領の重点項目と配慮事項(目標2)
第11回	学校における教育課程編成の手続きと内容(目標4)
第12回	特色ある学校の教育課程(目標3)
第13回	諸外国の教育課程の様子(目標3)
第14回	教育課程の評価と改善(目標4)
第15回	教育課程のまとめと今後の課題(目標4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	教育課程の意味と果たす役割を理解できているか，新学習指導要領のねらい，重点事項を理解し説明できるか，現在の学校の教育課程に関心を示し調べようとしているかを評価基準とする。
	評価の方法	学習への取り組み方（ 20%）レポート（ 20%）期末の筆記試験（ 60%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 新しい時代の教育課程　田中耕治他　有斐閣アルマ　１,900円 ISBN： ４-641-12246-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	

国語科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	国語科指導法
科目責任者	小林　敢治郎
担当教員	野口　芳宏 浦野　俊則
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	国語科，指導法，授業法，指導技術
授業のねらい・概要	国語科教育は小学校教育の中核をなす科目である。 その授業展開上の具体的な理論について理解し，実践的技法を身に付ける。学生の予習と発表を中心に進める。
学生の達成目標	1.　初等国語教育の目標や意義を正しく理解し,指導に必要な知識と技術を身につける。 2.　国語科の教科書教材について,その分野や,内容の大体を理解する。 3.　それぞれの教材の特色と指導法を実践的に理解し,体得する。
授業内容	第1回　「国語科指導法」受講上の心構え,決まり,全体計画,座席指定等のガイダンス。 第2回　国語科の教科構造,国語科の指導目標,指導内容の解説。(目標1) 第3回　演習の具体的分担,担当教材決定。演習の進め方。 資料集6学年用 第4回　「音読指導」の授業演習。協議と解説。(目標2,3) 資料集6学年用

第5回　「話すこと」「聞くこと」の授業演習。
協議と解説。(目標2,3)
資料集2学年用

第6回　「生活作文指導」の授業演習。協議と解説。(目標2,3)
資料集3学年用

第7回　「手紙とはがきの指導」の授業演習。協議と解説。(目標2,3)
資料集4学年用

第8回　「読解指導 ①」の授業演習。協議と解説。(目標2,3)
資料集3学年用

第9回　「読解指導 ②」の授業演習。協議と解説。(目標2,3)
資料集5学年用

第10回　「鑑賞指導 ①」の授業演習。協議と解説。(目標2,3)
資料集2学年用

第11回　「鑑賞指導 ②」の授業演習。協議と解説。(目標2,3)
資料集4学年用

第12回　「読書指導」の授業演習。協議と解説。(目標2,3)
資料集6学年用

第13回　「伝統的言語文化」の授業演習。協議と解説。(目標2,3)
資料集5学年用

第14回　「漢字指導」の授業演習。協議と解説。(目標2,3)
資料集3学年用

第15回　「書写指導」の授業演習。協議と解説。(目標2,3)
浦野教授担当

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

所期の目標への８割方の理解，見識の形成をもって合格とする。

評価の方法

正式な礼状。日常のノート状況。
特定教材の指導案レポート。三者の総合判定により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

文部科学省検定済教科書『国語　6　創造』樺島忠夫他編　2011 /2　光村図書
ISBN： 978 -4-89528-456-1

『小学校学習指導要領解説　国語編』文部科学省編　2008 / 8 東洋館出版社
ISBN： 978 -4-491-7

推薦図書等

参考URL

備考	国家の公式言語の基礎を子供達に習得させる重要性を弁えて受講のこと。 新聞や書籍に常に親しみ，電子辞書の常携常用を義務づける。

社会科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	社会科指導法
科目責任者	
担当教員	斉藤　靖之
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1074001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校社会科教育目標，小学校社会科指導案の書き方，小学校社会科授業
授業のねらい・概要	小学校社会科学習指導案の書き方と教材研究の実践・在り方を通して，社会科学習への関心・意欲を持たせる。 また，具体的な素材を取り上げて学習指導案づくりの実践に取り組めるようにしたい。
学生の達成目標	1. 小学校社会科教育の目標や内容が理解できる。 2. 小学校社会科教育教材研究について関心と意欲を持つことができる。 3. 小学校社会科教育学習指導案の書き方について理解できる。 4. 小学校社会科学習指導案が書けるようになる。
授業内容	第1回　小学校社会科教育のねらい(問題解決的能力の育成)について(目標1) 第2回　小学校学習指導要領と小学校社会科教育の目標について(目標1) 第3回　各学年の社会科の目標と内容について(3・4学年)(目標1・2)

	第4回	各学年の社会科の目標と内容について(5・6学年)(目標1・2)
	第5回	小学校社会科学習指導案の構成(例-問題解決的学習)について(目標1・2)
	第6回	小学校社会科学習の教材研究について(内容・活動・学習過程等と評価基準)(目標2)
	第7回	小学校社会科学習指導案について(目標・内容・実態調査等の検討)(目標2・3)
	第8回	小学校社会科学習指導案について(学習方法と評価等の検討)(目標2・3)
	第9回	各自又はグループで学習指導案構想について(教材・単元・学年等の設定)(目標2・3)
	第10回	各自又はグループで学習指導案づくり(1)単元項目確認・目標の設定等(目標3・4)
	第11回	各自又はグループで学習指導案づくり(2)実態調査項目検討・指導計画設定等(目標3・4)
	第12回	各自又はグループで学習指導案の中間報告と補説(目標3・4)
	第13回	自作の小学校社会科学習指導案を提案し話し合う(1)指導案の修正と提案(目標3・4)
	第14回	自作の小学校社会科学習指導案を提案し話し合う(2)グループで指導案発表会(目標3・4)
	第15回	小学校社会科学習と学習指導案についてのまとめ(目標3・4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	所期の目標への８割方の理解，見識の形成をもって合格とする。
	評価の方法	正式な礼状。日常のノート状況。 特定教材の指導案レポート。三者の総合判定により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	現行の小学校の社会科教科書の内容及び地図帳を，講義前に目を通しておくと，講義もスムースになる。 （本学の大学図書館に備えてある）	

算数科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	算数科指導法
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数科の特質，各領域の指導方法，教材研究，授業の進め方
授業のねらい・概要	算数科の特質や内容の特色から見た指導法の特色に触れ，教材研究の仕方及び算数の授業の構成の仕方を理解できるようにする。 また，数学的な考え方の重要性を捉え，考え方を子どもから引き出すような指導が大切でることを根底において指導技術も身に着けられるようにする。
学生の達成目標	1.　算数科(指導法)の特色がわかる。 2.　数と計算,量と測定等の内容に応じた指導方法が身に付く。 3.　算数科教材研究の進め方が分かる。 4.　学習段階に沿った実際の授業の進め方が分かる。
授業内容	第1回　講義のガイダンスと算数科の授業の目的。 第2回　算数科指導の特質(1) 問題解決過程を大切にする(目標1) 第3回　算数科指導の特質(2) 系統を大切にする(目標1) 第4回　算数科指導の特質(3) 考え方を大切にする(目標1) 第5回　算数科指導の特質(4) 答えが出てから算数が始まる(目標1) 第6回　整数の意味とその指導の実際(目標2) 第7回　分数・小数の意味と指導の実際(目標2)

第8回	加法・減法の計算の意味と計算の仕方の指導(目標2)
第9回	乗法・除法の計算の意味と計算の仕方の指導(目標2)
第10回	量と測定の意味とその指導の実際(目標2)
第11回	図形の意味と指導の実際(目標2)
第12回	関数・統計・式表示の意味と指導の実際(目標2)
第13回	算数教材研究の進め方・指導案立案までの手続き(目標3)
第14回	算数の授業の構成の仕方・指導案の立案(目標4)
第15回	算数の授業の進め方と評価の仕方(目標4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	算数科の指導法の特質をとらえているか，数，計算，図形などの教材の本質をとらえてその指導の在り方を説明できるか，算数の授業の進め方を身につけられたかを評価基準とする。
	評価の方法	学習への取り組み方（ 20%）レポート（ 20%）期末の筆記試験（ 60%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 小学校学習指導要領解説　算数編　東洋館出版　 250円 ISBN： 978 -491-02373-1
推薦図書等	
参考URL	
備考	

理科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理科指導法
科目責任者	貫井　正納
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自然現象，自然にあるもの，変化，保存，問題解決，基本的自然科学概念
授業のねらい・概要	・小学校理科教育の性格，目標と目的の理解とカリキュラムの必要性を認識する。 ・小学校児童に適した教材内容の理解と新教材の開発。 ・自然の事物，現象に対して観察，実験を通して，実証的な物の見方を育成する。 ・問題解決の基本的な方法論を身につける。 ・理科嫌いの教師を作らないようにする。
学生の達成目標	1. 自然の事物・現象のすばらしさ,巧妙さを児童に伝えられる。 2. 観察,実験の仕方,安全に対する配慮をすることが出来る。 3. 身の回りの事物・現象をわかりやすく説明できる。 4. 理科における新しい評価法を身につける。 5. 身の回りの物を工夫して教材化を図る。
授業内容	第1回　講義計画の説明,連続観察項目の説明,一枚ポートフォリオの説明。(目標4) 第2回　理科教育の必要性:なぜ理科を学ぶのか。理科とはどの様な教科なんだろうか。(目標1,3) 第3回　理科教育の目的,目標:理科教育にはどの様な目標があるのか。外国との比較を加える。(目標1,3)

第4回	科学的なリテラシーの育成:科学的なリテラシーとは何か,なぜ必要か。(目標1,3)
第5回	科学の方法1:問題解決をするための基本的な技能とはないか。(目標3)
第6回	科学の方法2:具体的な問題を解決する統合的な技能について実践を通して身につける。(目標3)
第7回	日本の小学校のカリキュラム:日本のカリキュラムはどの様に構成されているか。(目標1,3)
第8回	最適な教材とは:学習内容の系統性と総合化,新しい教材の開発。(目標1,3)
第9回	学習領域と自然:科学概念と教科内容。(目標3,5)
第10回	子どもの自然認識:子どもは自然をどの様に見ているのか。具体的現象から考える。(目標1,3)
第11回	観察,実験の意義と役割:理科の学習では観察,実験を中心に進められていく。その意義はなにか。(目標2)
第12回	観察,実験の安全指導:観察,実験には他教科にない危険がある。その予防と安全を図る。(目標2,5)
第13回	理科の評価:活動を中心とした学習における評価のあり方と方法。(目標4,5)
第14回	理科の評価:子どもの自然認識の発達と評価。(目標4)
第15回	連続観察の結果及びポートフォリオ評価。(目標4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	レポート類，ポートフォリオ評価（ 50%），テスト（ 50%）
	評価の方法	出席は重視する。 実習等で欠席したときは e-leaningを設置しておくのでそれを利用して学習しておくこと。 ポートフォリオの作成と自己評価及びレポート，テスト等で総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 小学校学習指導要領解説　理科編
推薦図書等	
参考URL	
備考	自然科学の科目の履修を勧める。 随時実験や観察を行うので実験ノートを用意する。 授業終了時にポートフォリオに授業の感想，気づいた点，わからないこと等簡潔に記入する。

その他課題は大量に求めるので最後になって慌てないよう日々処理をしておくこと。
資料も大量に渡すので大切にファイルしておくこと。

生活科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	生活科指導法
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生活に関する課題，基礎的・基本的な知識・技術，授業設計，マイクロティーチング
授業のねらい・概要	生活科教育の本質をふまえたよりよい授業を設計する。 そのために，生活科教育がめざすものや現代の生活の課題をふまえ，各自が課題意識を持って，新しい教育課程に基づいた生活科の授業を提案し，検討する。
学生の達成目標	1.　生活科教育が目指すものを確認し整理することができる。 2.　現代の生活に関する課題を主体的に追究することができる。 3.　生活科の授業のための基本的・基礎的な知識・技術を身につける。 4.　1～3をふまえて,授業を設計し提案することができる。
授業内容	第1回　授業内容についてのオリエンテーション 第2回　現代の生活認識と課題の概要(目標1) 第3回　新しい教育課程における生活科教育の目標・内容(目標1) 第4回　「自分や人や社会との関わり」に関する内容(目標1,2) 第5回　「自分と自然とのかかわり」に関する内容(目標1,2) 第6回　「自分自身」に関する内容(目標1,2) 第7回　人間関係及び公共マナーのスキル(目標3) 第8回　資源・環境に関わるリサイクル・リメイクのスキル(目標3)

	第9回	地域の伝統的食文化の実習(目標2,3)
	第10回	生活科授業の設計(目標4)
	第11回	マイクロティーチング ①(目標4)
	第12回	マイクロティーチング ②(目標4)
	第13回	マイクロティーチング ③(目標4)
	第14回	マイクロティーチング ④(目標4)
	第15回	まとめ(目標1～4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	生活科授業の設計のための基本的・基礎的事項を理解し，さらに基本的・基本的な技術を習得して，新しい教育課程に基づいた生活科の授業を設計し，提案することを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の小レポート，実習作品，研究成果プレゼンテーション，学期末レポート，平常点で評価する。小レポート（ 20%），実習作品（ 20%），研究成果発表（ 25%），学期末レポート（ 25%），平常点（ 10%）。但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説　生活編』
推薦図書等	
参考URL	
備考	

音楽科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	音楽科指導法
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校，音楽科，指導法
授業のねらい・概要	小学校教育における音楽科の意義を理解し，児童の前で自信をもって音楽表現できるよう演奏技能を高め，児童が生涯にわたって音楽をより深く味わい楽しんでいけるよう援助するための授業を構成する力を育てる。
学生の達成目標	1. 学習指導要領に示される音楽科の目標・内容を学ぶ。 2. 授業を構成するための教材に対する理解を深める。 3. 児童の前で自信をもって音楽表現できる。 4. 自分なりの構想をもち学習指導案を作成できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　学習指導要領に示される音楽科の目標と指導内容について(目標1) 第3回　歌唱指導(1) 読譜,階名唱,発声等について(目標2) 第4回　歌唱指導(2) 低・中学年の歌唱共通教材の研究とその指導法 ①(目標2) 第5回　歌唱指導(3) 高学年の歌唱共通教材の研究とその指導法 ②(目標2) 第6回　歌唱共通教材による模擬指導(目標3) 第7回　器楽指導(1) 打楽器の奏法,リズム遊びとその指導法(目標2)

	第8回　器楽指導(2) 鍵盤楽器の奏法とその指導法(目標2) 第9回　器楽指導(3) リコーダーの奏法とその指導法(目標2) 第10回　器楽アンサンブルの発表(目標3) 第11回　音楽づくりの教材研究とその指導法(目標2) 第12回　鑑賞教材の研究とその指導法(目標2) 第13回　年間指導計画,学習指導案,評価について(目標1,4) 第14回　学習指導案の作成(目標4) 第15回　まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 児童の前で自信をもって音楽表現できるか。 自分なりの授業の構想をもち，学習指導案を作成できるか。 評価の方法 歌唱模擬指導（ 30%）器楽アンサンブル発表（ 20%）作成した学習指導案（ 40%）授業への取り組み（ 10%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 有本真紀・阪井恵・山下薫子編著『教員養成課程　小学校音楽科教育法』教育芸術社， １,680円 ISBN： 4877884918 『小学生の音楽』１，２，３，４，５，６　教育芸術社 『歌はともだち』（歌集）教育芸術社， 380円 ASIN：B001545B86 『リコーダー　笛星人』トヤマ（アウロス）出版， 368円 ISBN： 4887801041 文部科学省『小学校学習指導要領解説　音楽編』教育芸術社， 64円 ISBN： 4877883835
推薦図書等	
参考URL	
備考	小学校等で使用したリコーダーを用意して下さい。 持っていない人は，次のものを楽器店等で購入して下さい。 ヤマハ YRS-28BⅢ（ １,260円）または YRS-38BⅢ（ １,680円） 課題は早めに提示しますので，余裕をもって準備し，期限を守って提出して下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

図画工作科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	図画工作科指導法
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校図画工作科，教科指導法，教材研究，授業実践力
授業のねらい・概要	小学校の図画工作科の目標，内容及び指導の方法について理解を深め，学校現場で授業を行うための実践力を身につける。 教材や指導法の研究も踏まえて，演習や模擬授業，発表を通して具体的に学ぶ。 授業に関する準備，導入，展開，評価についての基本を学ぶとともに，指導技術の向上を図り，教師としての資質を培う。
学生の達成目標	1. 小学校学習指導要領「図画工作」の目標と内容に基づき,子どもの興味・関心を踏まえた教材の研究や題材開発,学習展開のあり方,材料・用具の扱い方などを具体的に理解するとともに,学校現場の授業で実践できるための基礎・基本を学ぶ。 2. 図画工作科に関する専門的な知識の修得を図り,児童一人ひとりの個性を活かした造形活動の指導が出来るように,授業者としての基礎的指導力を身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業に関する留意事項,準備等。小学校学習指導要領について)(目標1) 第2回　小グループ・発表計画の確定・体験!図画工作 ①造形遊び(目標1) 第3回　学習指導案・授業の組み立て方について・体験!図画工作 ②共同による制作(目標1) 第4回　模擬授業指導案の作成と計画(課題提示)・体験!図画工作 ③鑑賞・木工(目標1)

第5回	模擬授業 ①安全指導の実際について・体験!図画工作 ④木工・絵画(目標1)
第6回	体験!図画工作 ⑤木工・模擬授業 ①～学習指導の方法と教師の役割の実際(目標2)
第7回	模擬授業 ②～学習指導の方法と教師の役割の実際(目標2)
第8回	模擬授業 ③～学習指導の方法と教師の役割の実際・全員発表を踏まえ相互評価・課題レポート作成 ①(目標1)
第9回	演習 ①粘土遊び～導入の大切さを学ぶ・模擬授業指導案の作成と計画(課題提示)・レポート作成 ②(目標1)
第10回	模擬授業 ④～学習指導の方法と教師の役割の実際(目標2)絵画
第11回	模擬授業 ⑤～学習指導の方法と教師の役割の実際(目標2)版画
第12回	模擬授業 ⑥～学習指導の方法と教師の役割の実際・発表を踏まえ相互評価・課題レポート作成③(目標2)
第13回	演習 ②デザイン技法～教材研究の視点を学ぶ・模擬授業指導案の作成と計画(課題提示)(目標1)
第14回	演習 ②に基づいた全員発表 ①・相互評価・課題レポート作成 ④(目標2)
第15回	演習 ②に基づいた全員発表 ②・相互評価・まとめ～図画工作科における今日的課題について(目標2)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	小学校図画工作の指導法に関して，授業で取り上げた基礎・基本的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに小学校の図画工作科について自らの考えを持ち，それを授業で具体的に実践できる基礎が身についていることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや模擬授業などの発表等で総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計 30%，課題レポート 30%） 60%，演習や発表，作品などをもとに授業の取り組みを踏まえた平常得点 40%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 鈴木幹雄・長谷川哲哉編，森高光広・他著「子どもの心に語りかける表現教育」あいり出版

推薦図書等

参考URL

	・履修人数は， 35名程度とする。 ・前期，後期の授業は同一内容を予定。（演習課題等の一部変更はある） ・小学校教員免許希望者を優先とする。 35名程度を定員とし，実技を交えた演習・講義とする。
備考	初等図画工作教育通論履修後に履修することが望ましい。 また，３年生は後期に受講することが望ましい。 ・受講人数や受講生の状況によって，演習や実技などのシラバス内容が変更することもある。 ・小グループに分かれて模擬授業や実技をもとに発表を予定。

家庭科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	家庭科指導法
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	現代の生活課題，基礎的・基本的な知識・技術，授業設計，マイクロティーチング
授業のねらい・概要	家庭科教育の本質をふまえたよりよい授業を設計する。 そのために，家庭科教育がめざすものや現代の生活課題をふまえ，各自が課題意識を持って，新しい教育課程にそった家庭科の授業を提案し，検討する。
学生の達成目標	1.　家庭科教育が目指すものを確認し整理することができる。 2.　現代の生活課題を主体的に追究することができる。 3.　家庭科の授業のための基本的・基礎的な知識・技術を身につける。 4.　1～3をふまえて,授業を設計し提案することができる。
授業内容	第1回　授業内容についてのオリエンテーション 第2回　現代の生活課題の概要(目標1) 第3回　新しい教育課程における家庭科教育の目標・内容(目標1) 第4回　家族・家庭に関する内容の検討(目標1,2) 第5回　食生活に関する内容の検討(目標1,2) 第6回　衣生活・住生活に関する内容の検討(目標1,2) 第7回　身近な消費・環境に関する内容の検討(目標1,2) 第8回　食の基本的・基礎的技術の習得-調理実習 ①(目標3)

	第9回	食の基本的・基礎的技術の習得-調理実習 ②(目標3)
	第10回	衣の基本的・基礎的技術の習得-被服実習 ①(目標3)
	第11回	衣の基本的・基礎的技術の習得-被服実習 ②(目標3)
	第12回	マイクロティーチング ①(目標4)
	第13回	マイクロティーチング ②(目標4)
	第14回	マイクロティーチング ③(目標4)
	第15回	まとめ(目標1～4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	家庭科授業の設計のための基本的・基礎的事項を理解し，さらに基本的・基本的な技術を習得して，新しい教育課程に基づいた家庭科の授業を設計し，提案することを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の小レポート，実習作品，研究成果プレゼンテーション，学期末レポート，平常点で評価する。 小レポート（ 20%），実習作品（ 20%），研究成果発表（ 25%），学期末レポート（ 25%），平常点（ 10%）。 但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 佐藤文子・川上雅子『家庭科教育法』高陵社出版	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

体育科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	体育科指導法
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎運動技能，指導法，運動遊び，体力，健康，表現
授業のねらい・概要	小学校体育の内容および指導方法の修得，基礎的運動技能の体得を目的とする。 各領域の内容について，実技と理論を織り交ぜながら授業を進める。 教育現場において，自ら授業を立案し運営できる能力を養う。 身体活動の場における危機管理についても学ぶ。
学生の達成目標	1. 各領域の内容と実践方法を修得すること。 2. 体育指導に必要とされる運動技能を体得すること。 3. 学校現場で,自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。 4. 運動実践と子どもの体力および健康の変化との関係性を理解すること。
授業内容	第1回　オリエンテーション・体力テスト(目標1,2,3,4) 第2回　体つくり運動の展開と指導法(1);体ほぐしの運動(目標1,2,3,4) 第3回　体つくり運動の展開と指導法(2);体力を高める運動(目標1,2,3,4) 第4回　陸上運動の基礎技能の修得および指導法(1);走・跳の運動遊び(目標1,2,3,4) 第5回　陸上運動の基礎技能の修得および指導法(2);短距離走・リレー(目標1,2,3,4)

第6回	陸上運動の基礎技能の修得および指導法(3);走り高跳び・走り幅跳び(目標1,2,3,4)
第7回	ボールゲームの展開と指導法(1);ゴール型ゲーム(目標1,2,3,4)
第8回	ボールゲームの展開と指導法(2);ネット型ゲーム(目標1,2,3,4)
第9回	ボールゲームの展開と指導法(3);ベースボール型ゲーム(目標1,2,3,4)
第10回	表現運動の基礎技能の修得および指導法(1);リズム遊び・リズムダンス(目標1,2,3,4)
第11回	表現運動の基礎技能の修得および指導法(2);創作ダンス・フォークダンス(目標1,2,3,4)
第12回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(1);マット運動(目標1,2,3,4)
第13回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(2);鉄棒運動(目標1,2,3,4)
第14回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(3);跳び箱運動(目標1,2,3,4)
第15回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(4);総合実技(目標1,2,3,4)*天候などで順番の変更はある。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	体育科の授業展開および指導法の基礎・基本を理解し，自ら立案した体育科授業について安全かつ効果的に実践できる能力を身につけることを合格基準とする。
	評価の方法	実技試験 30%，ノートの内容 20%，発表課題の準備と内容 20%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%，準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性 10%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説　体育編』東洋館出版社 ISBN： 4491023751
推薦図書等	
参考URL	
備考	ジャージ， Tシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。 指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であること，また教員免許取得関係の科目という観点から着用を禁止する。 円滑な授業運営をするため，１時限あたりの履修者数を 30名以内に制限することがある。

道徳教育指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	道徳教育指導法
科目責任者	村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	道徳教育　道徳　指導方法　評価
授業のねらい・概要	道徳教育を行うに必要な基本理念と方法・指導技術について学び，道徳教育を補充・深化・統合する道徳の時間の在り方について理解を深める。 その上で，実際に行われている具体的な授業実践例を紹介し検討し，授業づくりについての具体的な指導方法について学ぶ。 また，道徳の資料選びについても学ぶ。
学生の達成目標	1. 学校教育目標具現化における道徳教育の意義が分かる。 2. 道徳教育と道徳の時間の役割が理解できる。 3. 道徳の時間に用いる適切な資料選びの観点が分かる。 4. 各自が道徳資料を選び,簡単な指導案が作成できる。 5. 道徳授業の評価について学び,さらに指導要録の行動評価との関連についても学ぶ。
授業内容	第1回　道徳教育の歴史的な変遷と学校教育目標の具現化,今日的な課題を明らかにする。 道徳教育と道徳の時間の役割について理解する。(目標1・2) 第2回　道徳の時間のねらい・内容項目・学習過程についての基本的な理解を深める。(目標2) 第3回　さまざまな資料を通して資料分析を行い,資料の選び方を考察する。(目標3)

第4回	DVDや指導案により具体的な授業例を紹介し,資料についての理解を深める。(目標3)
第5回	DVDや指導案により具体的な授業例を紹介し,道徳時間の様々な指導方法について理解を深める。(目標3・4)
第6回	DVDを視聴し,道徳の授業のねらいに合った指導方法について理解を深める。(目標4)
第7回	DVDや指導案により具体的な授業例を紹介し,授業のねらいや指導方法について理解を深める。(目標3・4)
第8回	与えられた資料を用いて,学習過程に沿った道徳指導案を書く。(目標4)
第9回	資料を選び,グループで指導案づくりをする。 ①(目標4)
第10回	引き続きグループで指導案づくりをし,完成させる。(目標4)
第11回	グループで作成した指導案を発表し,全体で協議する。(前半の部)(目標4)
第12回	グループで作成した指導案を発表し,全体で協議する。(後半の部)(目標4)
第13回	グループで作成した指導案に修正を加え,再提案する。(前半の部)(目標4)
第14回	グループで作成した指導案に修正を加え,再提案する。(後半の部)(目標4)
第15回	道徳性の評価について学び,指導要録行動評価について学ぶ。(目標5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	道徳の時間の役割が分かり，適切な資料のもと指導案を作成することができる。 評価についても学ぶ。
	評価の方法	期末テスト・資料選択・指導案作成（ 70%）授業中の態度・振り返り（ 20%）グループ協議への参加態度（ 10%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省　小学校学習指導要領解説　道徳編　平成 20年８月　 127円 明治図書　「心はずませる学びの創造」　千葉市立鶴沢小学校編
推薦図書等	
参考URL	
備考	課題の提出期限を守ること。 教育実習前に履習しておくことが望ましい。

特別活動指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	特別活動指導法
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1083001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別活動，指導方法（学級活動），学級経営との関連（人間関係づくり）
授業のねらい・概要	特別活動（学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事）の各分野において，主に学級活動の授業の指導法のあり方についてプログラムを構成している。 体験的な活動をメインにしながら，学級経営・生徒指導との関連が深い学級の人間関係づくりへのアプローチを行う。
学生の達成目標	1. 特別活動の目標や内容を理解し,豊かな人間関係づくりを行う学級経営との関連が分かる。 2. 実際の学級活動の授業で使われている「ワークシート」を使って,体験的な活動を行う。 3. 適応指導や人間関係づくりの学級活動の指導案を作成する。 4. 児童会活動や学校行事の DVDの視聴を通して,学校行事の意義や目的が分かり教師の役割を理解する。 5. 指導要録等,特別活動の評価のあり方について学ぶ。
授業内容	第1回　学習指導要領の解説と特別活動の意義について(目標1) 第2回　子どもの発達段階に応じた指導のあり方(目標1)

第3回	学級活動と学級経営との関連について(いじめ問題への対応)(目標1)
第4回	学級活動(1)の授業の実際(3年生)「グループワーク」を取り入れた人間関係づくり(目標2)
第5回	学級活動(1)の授業の実際(4年生)同上(目標2)
第6回	学級活動(1)の授業の実際(5年生)同上(目標2)
第7回	学級活動(1)の授業の実際(6年生)同上(目標2)
第8回	学級活動(2)適応指導の授業(4年生)の実際(目標2)
第9回	学級活動(2)適応指導の授業(5年生)の実際(目標2)
第10回	学級経営と学級活動 学級集団理解と児童理解(目標1・2)
第11回	学級経営と学級活動 学級活動における題材の設定までの過程(目標1・2)
第12回	児童会活動について(集会行事のビデオを視聴し,教師の役割を考える)(目標4)
第13回	学校行事と教師の役割について(1) 入学式・卒業式・その他の行事のビデオ視聴(目標4)
第14回	学校行事と教師の役割について(2) 運動会やその他の各種行事のビデオ視聴(目標4)
第15回	特別活動の評価について(目標5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	学校教育全体に関わる特別活動のねらいや教師の役割が理解できたか。
	評価の方法	期末テスト（ 60%）　ワークシート（ 20%）　授業中の態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省　小学校学習指導要領解説「特別活動編」平成 20年８月	
推薦図書等		
参考URL		
備考	グループ協議では積極的に参加することで，課題意識を高めることができる。 小学校教育実習後，３年生で履習することが授業内容の理解をより深められる。 提出物は，期限を厳守。	

教育方法・技術論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	教育方法・技術論
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1084001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育方法，よい授業，授業設計，指導技術，模擬授業
授業のねらい・概要	教育方法の意義を知るとともに，その基礎にある授業について，よい授業とはどんな授業であるかを知り，授業を展開する方法や技術を習得し，実践に役立てるようにする。 史的経過を踏まえつつ，一斉学習と個別学習等今日的課題となっている学習方式について模擬体験を通して理解する。
学生の達成目標	1.　教育方法の基本原理が分かる。 2.　教材研究の仕方が分かる。 3.　よい授業の構成の仕方が分かり,指導技術を身に付けることができる。 4.　情報メディア等の活用の仕方がわかる。
授業内容	第1回　教育方法と授業について ……講義のガイダンス(目標1) 第2回　教育方法の史的変遷 ……日本と諸外国(目標1) 第3回　授業と教育方法の基本原理 ……系統学習と問題解決学習(目標1) 第4回　授業とは何か ……よい授業とは,授業の構成要素(目標2)

第5回	教材研究と授業 ……教材研究の意味と教材研究の仕方(目標2)
第6回	教材研究と授業 ……授業の展開と学習指導案(目標2)
第7回	教材研究と授業 ……教授組織と学習組織(目標2)
第8回	よい授業と技術 ……教材教具・視聴覚機器の扱い(目標4)
第9回	よい授業と技術 ……指導技術(発問・机間指導)(目標3)
第10回	よい授業と技術 ……指導技術(ノートの取り方・板書の仕方)(目標3)
第11回	授業と環境 情報教育メデイアの活用(実践学校)(目標4)
第12回	優れた教育実践に学ぶ 島小学校(目標3)
第13回	模擬授業の試み その1 教師の立場(目標3)
第14回	模擬授業の試み その2 こどもの立場(目標3)
第15回	授業と評価の方法 ……評価の活かし方(形成的評価と総合的評価)(目標3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	教育方法の基本的な事項が理解ができていること，授業の仕組みを捉え，授業の構成の仕方及び指導技術の方法を把握できていることを合格基準とする。
	評価の方法	学習への取り組み方（ 20%）レポート（ 20%）期末の筆記試験（ 60%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要な書類を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

児童生徒指導論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	児童生徒指導論
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1085001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生徒指導の機能，積極的な生徒指導，生きる力， NIE
授業のねらい・概要	生徒指導は学習指導とともに学校教育の基本的な機能である。近年，価値観や児童生徒が多様化し，生徒指導は複雑化，かつ困難の度を増してきている。 生徒指導の理論を理解するとともに，教育現場の具体的事例を学びながら生徒指導の基礎を身につけ，生徒指導が実践できる資質，能力を培う。 そして積極的な生徒指導を行うことで，児童生徒の生きる力を支援できるようにする。
学生の達成目標	1. 生徒指導の意義と原理について学ぶ。 2. 生徒指導は,教育課程のあらゆる面で機能することから教科,特別活動,道徳などとの関連,学級集団のダイナミックス,学校体制つくりについて理解する。 3. 児童期の心理的特徴について理解する。また,いじめや不登校,非行などの教育課題に対しての対応と指導法について,具体的事例から学ぶ。 4. 生徒指導を推進するための学校と家庭・地域社会・関係機関との連携について理解する。 5. 教育,子ども等に関するタイムリーな新聞記事から,人間形成に重要な判断力,実践力を身につける。

授業内容	第1回	生徒指導の意義と原理(目標1)
	第2回	生徒指導と教育課程に基づく指導との関係(目標2)
	第3回	特別活動・課程外活動と生徒指導(目標2)
	第4回	児童生徒の心理と児童生徒理解(目標3)
	第5回	子どもの問題行動(1) 早期発見(反社会的行動)と効果的な指導(目標3)
	第6回	子どもの問題行動(2) 早期発見(非社会的行動)と効果的な指導(目標3)
	第7回	小学校における生徒指導(目標2)
	第8回	生徒指導と学級経営(1) 学級集団の特徴と機能(目標2)
	第9回	生徒指導と学級経営(2) 教師と児童のコミュニケーション(目標2)
	第10回	生徒指導の実践 課題解決学習「いじめ」(目標3)
	第11回	生徒指導の実践 課題解決学習「学級崩壊」(目標3)
	第12回	生徒指導の実践 課題解決学習「インターネット」「携帯にかかわる課題」(目標3)
	第13回	学校における指導体制(目標4)
	第14回	生徒指導の進め方
	第15回	生徒指導における学校と家庭・地域社会・関係機関との連携(目標4)(目標5)についてはレポート課題によって達成する。
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	生徒指導の理論を理解し，具体的事例に対しての指導法や，対処法を考えることができることを合格基準とする。
	評価の方法	授業態度 20%，課題レポート 30%，テスト 50%で総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 生徒指導提要　文部科学省　 290円 ISBN： 978 -4-87730-274-0	
推薦図書等		
参考URL		
備考	教育や子どもに関する新聞記事を読み，レポートすることを求める。 小学校の先生をめざす者の履修を望む。 また，小学校実習前の受講がのぞましい。	

児童教育相談の基礎

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	児童教育相談の基礎
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1086001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育相談，児童理解，カウンセリングマインド，事例研究，今日的な問題
授業のねらい・概要	児童一人ひとりの発達と教育にかかわる諸問題をめぐって，教師として，本人および保護者などに必要な心理的・教育的援助を行うための基礎的知識や技術の習得をめざす。 グループを構成しロールプレイを行うなど，体験学習を多く取り入れる。併せて関係機関との連携のありかたについての理解を深める。
学生の達成目標	1. 教育相談の意義や諸理論について理解する。 2. カウンセリングマインドをはじめとする面接の態度・技法について学ぶ。 3. 児童理解の方法について知る。 4. 今日的な問題行動(不登校・発達障害など)とその対応について理解する。 5. 関係機関や,保護者との連携について理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　構成的グループエンカウンターの理論と体験

第3回	カウンセリングの定義・必要性・効果 (目標1)
第4回	相談の諸理論と留意点(目標1)
第5回	教育相談の基本的な態度と技法 (1) 言語的技法(目標2)
第6回	教育相談の基本的な態度と技法 (2) 非言語的技法(目標2)
第7回	対話上の諸問題への対処法
第8回	児童理解の方法(1)(目標3)
第9回	児童理解の方法(2)(目標3)
第10回	保護者との面接のありかた(目標5)
第11回	事例検討とコンサルテーション
第12回	非社会的行動の理解と相談(緘黙・不登校など)(目標4)
第13回	反社会的行動の理解と相談(いじめ・万引きなど)(目標4)
第14回	発達障害の理解と対応(LD・AD/HDなど)(目標4)
第15回	校内体制のありかたと専門機関との連携(目標5)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 教育相談に関する基礎的知識と，技術・態度が身についていることを合格基準とする。 評価の方法 授業への参加度　20%，レポート　30%，テスト　50%で総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 生徒指導提要　文部科学省　290円 ISBN： 978 -4-87730-274-0 ピアヘルパーハンドブック　日本教育カウンセラー協会編　1 ,500円 ISBN： 978 -4-8100-1343-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	ピアヘルパー資格の取得希望者は受講すること

進路指導論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	進路指導論
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1087001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生き方，自己理解，価値観，職業観，キャリア教育
授業のねらい・概要	人としての在り方，生き方を育むことを目的とする。 自らが社会人・職業人として，自立した社会の形成者となり，自分らしく生きるために必要な意欲・態度を身につける。同時にキャリア教育の情報収集，優れた実践を通して，児童に身につけさせたいキャリア能力や支援する方法について体験的に学ぶ。
学生の達成目標	1. 種々の検査を用いて,自らの興味,能力,アイデンティティなど自己理解の方法論を体験的に学ぶ。 2. 課題学習の中で多様な価値観を学び,自分の職業観,生き方を醸成する。 3. 先人の生き方を通じて,進路や職業を選択していく上で必要な意欲・態度・能力を学ぶ。 4. 小学校で行われているキャリア教育についての優れた過去の実践例を学習し,発表する。相互学習から生き方への多様な迫り方を学び,経験が生き方を学ぶ上でどのような影響を与えたかをレポートする。
授業内容	第1回　「あり方生き方」を育む進路指導とは 第2回　フリーター・ニートとその社会的背景(目標2)

第3回	キャリアの基礎的理論と情報ツールの活用について
第4回	自分を知る(1) パーソナリティ検査の体験と分析(目標1)
第5回	自分を知る(2) 自分の適性を知る(目標1)
第6回	自分を知る(3) 価値の明確化(目標1)
第7回	自分のキャリアデザインを描く(目標2)
第8回	自分の進路についての考えを発表し仲間から助言を得る。(目標2)
第9回	偉人伝や尊敬する人物の生き様についてまとめ発表する(1)(目標3)
第10回	偉人伝や尊敬する人物の生き様についてまとめ発表する(2)(目標3)
第11回	小学校におけるキャリア教育の実践(1)(目標4)
第12回	小学校におけるキャリア教育の実践(2) 指導案の作成(目標4)
第13回	小学校におけるキャリア教育の実践 指導案の作成(目標4)
第14回	キャリア教育の体制作りと年間計画及び評価の必要性について
第15回	個別的な問題への対応とまとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	職業と自分の生き方を関連させて考えることができること，キャリアについて自分なりの見通しを持つことができることを合格基準にする。
	評価の方法	試験 40%，レポート 30%，授業への参加態度 20%，発表 10%などで総合評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 キャリア教育概説　日本キャリア教育学会編　東洋館出版社　 2 ,700円　植草学園進路ガイドブック ISBN： 978 -4-491-02383
推薦図書等	
参考URL	
備考	新聞をよく読んで，社会の動向に敏感であること。

保育内容演習 Ⅰ（音楽）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（音楽）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1088101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，子どもの歌，音楽遊び，指導法
授業のねらい・概要	生涯を通じ最も音感が鋭敏な幼児期の音楽教育の重要性を認識しながら，子どもが生活の中で音楽を楽しむことや，様々な機会をとらえて自己を表現する喜びを味わうことができるように援助するための基礎的方法を学ぶ。 歌唱・器楽・リズム遊び等の各発達段階・月別の題材の実習，手づくり楽器の製作，簡単な合奏等を行う。
学生の達成目標	1. 幼児期における音楽体験の重要性を理解する。 2. 子どもの歌のレパートリーを広げる。 3. 生活の中で子どもが音楽活動を楽しめるよう援助する手だてを身につける。 4. 子どもの前で自信をもって音楽表現できる。
授業内容	第1回　子どもの生活と音楽について 4月の教材曲と指導の方法(目標1,2) 第2回　発声の基礎 5月の教材曲と指導の方法(目標2,3) 第3回　6月の教材曲と指導の方法(目標2,3)

第4回	7月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第5回	9月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第6回	10月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第7回	11月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第8回	12月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第9回	1月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第10回	2月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
第11回	3月の教材曲と指導の方法(目標2,3)※
第12回	から
第13回	までは,各回で担当を決め,弾き歌いによる模擬指導を行う。(目標4)
第14回	手づくり楽器の製作(目標3)
第15回	手づくり楽器を用いたアンサンブル(目標4)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

生活の中で子どもと音楽を楽しむための知識・技能をどれくらい習得できたか。

評価の方法

弾き歌いの模擬指導（ 40%）手づくり楽器の製作（ 20%）器楽合奏の発表（ 20%）授業に対する取り組み（ 20%）で評価する。
ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

石井恵子他『幼児のための音楽教育』教育芸術社， ２,100円
ISBN： 4877884437

東　保編『やさしい伴奏によるこどものうた（１）』全音楽譜出版社， ２,730円
ISBN： 4116200506

推薦図書等

参考URL

備考

弾き歌いによる模擬指導を行うため ,1年次で「保育の表現技術 Ｉ （音楽表現）」を履修しているか，それと同等のピアノの演奏技能を習得していることが望ましい。
幼稚園・保育所等の現場を想定して授業を行います。
子どもの歌をたくさん覚えて，自分自身も楽しみながら人前で音楽表現できるようになりましょう。
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

保育内容演習 Ⅱ（音楽）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容演習 Ⅱ（音楽）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1088201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，子どもの歌，音楽遊び，指導法
授業のねらい・概要	保育内容演習 Ⅰ（音楽）での学習を発展させ，グループ発表・模擬指導等の演習を通して，子どもが音楽を楽しみ，表現できるよう援助するための指導法をより実践的に学ぶ。 既習曲を活用してリズム伴奏の編曲，簡単な音楽劇，手遊び・歌遊び等の実習と模擬指導を行う。
学生の達成目標	1. 手遊び・歌遊びのレパートリーを広げ,子どもと楽しもうとする意欲をもつ。 2. 生活の中で子どもが充実した音楽活動を楽しむために援助する手だてを身につける。 3. 子どもの前で自信をもって音楽表現できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　既習曲に合わせたリズム伴奏の編曲 グループ練習 ①(目標2) 第3回　既習曲に合わせたリズム伴奏の編曲 グループ練習 ②(目標2) 第4回　既習曲に合わせたリズム伴奏のグループ発表(目標3)

第5回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ①(目標2)
第6回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ②(目標2)
第7回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ③(目標2)
第8回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 中間発表
第9回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ④(目標2)
第10回	音楽劇の発表(目標3)
第11回	リズム遊び・手遊び・歌遊び等の実習と指導の方法(目標1,2)
第12回	子どもの発達段階を考慮した指導の工夫(目標2)
第13回	保育現場を想定した歌遊び等の模擬指導 ①(目標1,2,3)
第14回	保育現場を想定した歌遊び等の模擬指導 ②(目標1,2,3)
第15回	まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

生活の中で子どもと音楽を楽しむための知識・技能をどれくらい習得できたか。

評価の方法

音楽劇の発表（ 30%）リズム伴奏の発表（ 30%）歌遊び等の模擬指導（ 30%）授業に対する取り組み（ 10%）で評価する。
ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

石井恵子他『幼児のための音楽教育』教育芸術社， ２,100円
ISBN： 4877884437

東　保編『やさしい伴奏によるこどものうた（１）』全音楽譜出版社， ２,730円
ISBN： 4116200506

推薦図書等

参考URL

備考

１年次で「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」を履修しているか，それと同等のピアノの演奏技能を習得していることが望ましい。
グループ活動が多くなります。職場では１人で仕事をするのではありません。
他のメンバーと協力して作業する経験は現場で役立つはずです。
授業外での準備も必要になります。遅刻・欠席のないよう留意し，積極的に取り組んで下さい。
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

保育内容演習 Ⅰ（図画工作）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（図画工作）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1089101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，造形表現・活動の支援，現場で活用できる知識と技能の獲得
授業のねらい・概要	保育や学校の教育現場で子どもの造形活動に関われるように，主として立体表現による制作を通して基礎的な知識・技能を身につけるとともに指導力を養成する。 課題制作では，各自が創意工夫し，テーマに沿って計画的に制作する方法で展開する。 テーマに応じた材料，用具等の使用については，適宜個別的に支援する。制作後は発表会・鑑賞を実施し，制作した喜びを味わうとともに，作品をもとに子どもとの関わり方を考え他から学ぶ機会とする。
学生の達成目標	1. 教育現場での造形表現活動(立体表現)についての支援のあり方について具体的な制作を通して学ぶ。 2. 子どもたちに適切な支援をするために,造形教育に関わる基本と展開についての理解を深める。 3. 造形表現で扱う様々な材料に親しみ,正しい用具の使い方・安全指導について習得するとともに,子どもたちの造形表現の広がりを支えられるように,具体的な支援の手立てを身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点など)・パペットアイデアスケッチ(目標1,2)

第2回	～
第3回	ウレタンシートによるパペットの制作(目標1,2,3)
第4回	～
第5回	粘土(陶土)を使った立体表現(目標1,2,3)
第6回	人形劇の留意点についてゲストティーチャーによる演習・課題レポート ①② (目標2,3)
第7回	発表会・課題レポート ③,まとめ・課題レポート ④(目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

保育所や幼稚園，小学校などの教育現場における造形活動に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。
授業内容をもとに子どもの造形活動のあり方について自らの考えを持ち，個々の子どもの造形活動を支援できる技能を的確に持つことを合格基準とする。

評価の方法

毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。
レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。
ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

テキストは特にない。
参考資料としてプリントなどを配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

・立体表現の実技中心の演習で ,小学校の図画工作科題材として適した内容も含める。
・実技演習なので定員 35名程度で実施する予定。
・作品制作だけではなくレポートも重視する。
・各自必ず Ｆ６サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４ Ｂ），色鉛筆や絵の具セット，紙袋を用意すること。
・準備や後片付けも含めて計画性を持って授業内で課題が完成できるように制作すること。
・持ち物についてはプリントを配布して事前に指示する。
・制作によっては汚れることもあるので，使い古しの Tシャツやエプロン等を用意すること。
・人形の操作や人形を使った子どもとの関わりについてゲストティーチャーによる演習を予定している。

保育内容演習 Ⅱ（図画工作）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容演習 Ⅱ（図画工作）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1089201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，造形表現・活動の支援，現場で活用できる知識と技能の獲得
授業のねらい・概要	保育や学校の教育現場で子どもの造形活動に関われるように，主として平面表現による制作を通して基礎的な知識・技能を身につけるとともに指導力を養成する。 課題制作では，各自が創意工夫し，テーマに沿って計画的に制作する方法で展開する。 テーマに応じた材料，用具等の使用については，適宜個別的に支援する。 制作後は発表会・鑑賞を実施し，制作した喜びを味わうとともに，作品をもとに子どもとの関わり方を考え他から学ぶ機会とする。
学生の達成目標	1. 教育現場での造形表現活動(平面表現)についての支援のあり方について具体的な制作を通して学ぶ。 2. 子どもたちに適切な支援をするために,造形教育に関わる基本と展開についての理解を深める。 3. 造形表現で扱う様々な材料に親しみ,正しい用具の使い方・安全指導について習得するとともに,子どもたちの造形表現の広がりを支えられるように,具体的な支援の手立てを身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点,造形表現の基本と展開)(目標1,2)基本技法を学ぶ ①

第2回	基本技法を学ぶ ②,スタンピング・ステンシルの活用(目標2,3)・課題レポート① (目標2,3)
第3回	～
第4回	お話・物語の絵～絵画表現 …読書感想画制作・発表会・課題レポート ②(目標1,2,3)
第5回	～
第6回	選択課題～版表現,切り絵,ちぎり絵・課題レポート ③ (目標1,2,3)
第7回	まとめ～発表会・課題レポート ④(目標2,3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	保育所や幼稚園，小学校などの教育現場における造形活動に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。授業内容をもとに子どもの造形活動のあり方について自らの考えを持ち，個々の子どもの造形活動を支援できる技能を的確に持つことを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 テキストは特にない。参考資料としてプリントなどを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	・平面表現の実技中心の演習で，小学校の図画工作科題材として適した内容も含める。 ・実技演習なので定員 35名程度で実施する予定。 ・作品制作だけではなくレポートも重視する。 ・各自必ず Ｆ６サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４ Ｂ），色鉛筆や絵の具セット，紙袋を用意すること。 ・準備や後片付けも含めて計画性を持って授業内で課題が完成できるように制作すること。 ・持ち物についてはプリントを配布して事前に指示する。 ・制作によっては汚れることもあるので，使い古しの Tシャツやエプロン等を用意すること。

保育内容演習 Ⅰ（体育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（体育）
科目責任者	
担当教員	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1090101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎運動技能，遊び，体力，健康，表現
授業のねらい・概要	保育内容「表現」の中の身体活動表現，及び「健康」の中の運動や遊び等についての指導法を学ぶ。 具体的な運動および運動遊びを題材にして，理論と実技を織り交ぜながら授業を進める。 教育・保育現場において，自ら授業・活動を立案し実践できる能力を養う。 身体活動の場における危機管理についても学ぶ。
学生の達成目標	1. 子どもの健康及び表現能力の発達による変化と運動及び運動遊びの実際との関係性を理解すること。 2. 運動及び運動遊びの具体的な内容を修得すること。 3. 既存の運動および運動遊びを発展的にアレンジする能力を身につけること。 4. 学校あるいは保育所等の現場で,自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1～4)
	第2回	幼児における運動の意義(目標1)
	第3回	運動の分類(目標1)
	第4回	リズム運動(1)(目標2)
	第5回	リズム運動(2)(目標2)
	第6回	リズム運動(3)(目標3)
	第7回	リズム運動(4)(目標3)
	第8回	模倣運動(1)(目標2)
	第9回	模倣運動(2)(目標2)
	第10回	模倣運動(3)(目標3)
	第11回	模倣運動(4)(目標3)
	第12回	道具を使わない遊び(1)(目標2)
	第13回	道具を使わない遊び(2)(目標2)
	第14回	道具を使わない遊び(3)(目標3,4)
	第15回	道具を使わない遊び(4)(目標3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を，提出物にて評価する。 授業で提示された発表課題に対して，その準備状況と発表内容を評価する。 授業に対する取り組み方も評価に含め，以上の内容を総合的に判断する。
	評価の方法	提出物の内容 30%，発表課題の準備と内容 40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の状況 20%，準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性 10%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし。逐次プリントを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	ジャージ， Tシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。 指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であること，また教員・保育士免許取得関係の科目という観点から，着用を禁止する。

第１～３回目は講義室にて実施する。
集合場所等は掲示にて連絡する。なお，更衣は不要である。

保育内容演習 Ⅱ（体育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容演習 Ⅱ（体育）
科目責任者	
担当教員	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1090201
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎運動技能，遊び，体力，健康，伝承遊び
授業のねらい・概要	保育内容「健康」の中の運動や遊び等についての指導法を学ぶ。具体的な運動および運動遊びを題材にして，理論と実技を織り交ぜながら授業を進める。 教育・保育現場において，自ら授業・活動を立案し実践できる能力を養う。 身体活動の場における危機管理についても学ぶ。
学生の達成目標	1. 運動及び運動遊びの技術を修得すること。 2. 運動及び運動遊びの指導内容・指導技術を修得すること。 3. 既存の運動および運動遊びを発展的にアレンジする能力を身につけること。 4. 学校あるいは保育所等の現場で,自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1～4) 第2回　器械運動(1)(目標1)

	第3回　器械運動(2)(目標1) 第4回　器械運動(3)(目標1・2・4) 第5回　器械運動(4)(目標1・2・4) 第6回　器械運動(5)(目標1・2・4) 第7回　ボール遊び(1)(目標1) 第8回　ボール遊び(2)(目標1) 第9回　ボール遊び(3)(目標1・2・4) 第10回　ボール遊び(4)(目標1・2・4) 第11回　ボール遊び(5)(目標1・2・4) 第12回　道具を使った伝承遊び(1)(目標1) 第13回　道具を使った伝承遊び(2)(目標1) 第14回　道具を使った伝承遊び(3)(目標1・3) 第15回　道具を使った伝承遊び(4)(目標1・3)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 学習内容の習得度を，提出物にて評価する。 授業で提示された発表課題に対して，その準備状況と発表内容を評価する。 授業に対する取り組み方も評価に含め，以上の内容を総合的に判断する。 評価の方法 提出物の内容 30%，発表課題の準備と内容 40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%，準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし。逐次プリントを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	ジャージ， Tシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。 指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であること，また教員・保育士免許取得関係の科目という観点から，着用を禁止する。 第１回目は講義室にて実施する。集合場所等は掲示にて連絡する。 なお，更衣は不要である。

幼児理解の理論と方法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	幼児理解の理論と方法
科目責任者	
担当教員	大木　みわ
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1091001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育臨床，遊戯療法，子ども理解の方法
授業のねらい・概要	子ども理解の方法を学び，子どもの行動を多角的にとらえ，支援できる実践者をめざす。
学生の達成目標	1. 子ども理解の姿勢の検討。 2. 子ども理解の方法を知る。 3. 事例を通して理解と支援の実際を学ぶ。
授業内容	第1回 保育という臨床の場『子どもからの SOS』(目標1) 第2回 「わたし」とはなんだろう。(目標1) 第3回 絵本「わたしの帽子」を読む。(目標1) 第4回 カウンセリングマインドと保育臨床「遊戯療法」の基本原理(目標2) 第5回 箱庭療法に見えてくる子どもの世界(目標2)

	第6回	コラージュを作成(目標2)
	第7回	描画療法。 MSSMを体験する。(目標2)
	第8回	子ども理解の様々な方法-ロールプレイング(目標2)
	第9回	保育実践におけるカウンセリングマインド(目標3)
	第10回	保育実践におけるカウンセリングマインド(目標3)
	第11回	関係のゆがみと回復『いじめ』(目標3)
	第12回	関係のゆがみと回復『登園拒否』(目標3)
	第13回	保育記録(目標3)
	第14回	保育記録(目標3)
	第15回	統合保育(目標1)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	カウンセリングマインドをベースにした子ども理解の方法を理解したか。 さらに，実践に結びつく態度を身につけたか。
	評価の方法	試験・課題レポートの提出（ 80%），授業への参加態度等（ 20%）により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「子ども理解とカウンセリングマインド」　青木，間藤，河邉著　萌文書林	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

幼児保育相談の基礎

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	幼児保育相談の基礎
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1092001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児保育相談，幼児理解，カウンセリングマインド，事例研究，今日的な問題
授業のねらい・概要	幼児一人ひとりの発達と教育にかかわる諸問題をめぐって，教諭として，幼児および保護者などに必要な心理的・教育的援助を行うための基礎的知識や技術の習得をめざす。 グループを構成しロールプレイを行うなど，体験学習を多く取り入れる。併せて関係機関との連携のありかたについての理解を深める。
学生の達成目標	1. カウンセリングの意義や諸理論について理解する。 2. カウンセリングマインドをはじめとする面接の態度・技法について学ぶ。 3. 幼児理解の方法について知る。 4. 今日的な問題行動(虐待・発達障害など)とその対応について理解する。 5. 関係機関や,保護者との連携について理解する。
授業内容	第1回　幼児保育相談とは 保護者の子育て不安とその背景(目標1) 第2回　カウンセリングマインドについて

第3回	幼児理解の方法1 子どもが出会う幼児期の問題(目標3)
第4回	幼児理解の方法2 子どもが出会う幼児期の問題(目標3)
第5回	子どもに関する相談のありかたと方法 Ⅰ(面接の態度・技法)(目標2)
第6回	子どもに関する相談のあり方と方法 Ⅱ(留意点・相談体験)(目標2)
第7回	幼児の行動から対応を考える1 幼児との関係作り(目標2)
第8回	幼児の行動から対応を考える2 幼児との関係作り(目標3) x
第9回	アセスメントの方法について(発達検査など)(目標3)
第10回	発達障害のある子どもと理解の仕方(目標4)
第11回	発達障害のある子をもつ保護者理解(目標5)
第12回	虐待の発見と対応(目標4)
第13回	幼児保育に見られるカウンセリングの実際(登園拒否緘黙)(目標4)
第14回	より効果的な相談にするために(連携・体制)(目標5)
第15回	事例から学ぶ・まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	保育相談の基礎知識と基本的技術，態度が身についていることを合格基準とする。
	評価の方法	受講態度 20%，レポート 30%，テスト 50%で総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 幼児保育とカウンセリングマインド　ミネルバ書房　氏原　寛・東山紘久　 2 ,600円 ISBN： 4 -623-02493-8
推薦図書等	
参考URL	
備考	

幼稚園教育実習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	幼稚園教育実習 Ⅰ
科目責任者	桑田　良子
担当教員	木下　勝世 大木　みわ 植草　一世 髙木　夏奈子
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1094001
教室	
単位数	4
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園教育の実際を体験することにより，幼児教育者としての将来に展望を持ち，専門職としての見識・技能を高め，人間的資質を磨こうとする姿勢を持つ。 幼児と共に生活する体験を通して，幼児教育の重要性を認識し，子どもに対する理解を深め，今後の学習に意欲を持って取り組めるようにする。
学生の達成目標	1. 幼稚園教育の実際の場を経験し,責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2. これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより,その後の学習課題を明確にする。 3. 教員としての将来に希望をもち,その職務への自覚を深め,自己を陶冶する。
授業内容	

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
		前期実習と後期実習をあわせて評価する。 実習園の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。
	評価の方法	
		実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「幼稚園教育実習の手引き」（授業内で配布） 実習記録簿（同上） 実習関係資料（同上）	
推薦図書等		
参考URL		
備考	大学が定める実習履修要件を満たしていること。 同時に「幼稚園教育実習事前事後指導」を履修（登録）すること。 実習履修要件を満たし，実習を行うことが認定されていること。	

幼稚園教育実習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	幼稚園教育実習 Ⅱ
科目責任者	桑田　良子
担当教員	木下　勝世 大木　みわ 植草　一世
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1094101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園教育の実際を体験することにより，幼稚園教育の実際を理解し，教員としての見識・技能を高め，人間的資質を磨こうとする姿勢を持つ。 幼児と共に生活する体験を通して，幼児教育の重要性を認識し，子どもに対する理解を深め，今後の学習に意欲を持って取り組めるようにする。
学生の達成目標	1. 幼稚園教育の実際の場を経験し,責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2. これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより,その後の学習課題を明確にする。 3. 教員としての将来に希望をもち,その職務への自覚を深め,自己を陶冶する。
授業内容	

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習園の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。
	評価の方法	実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「幼稚園教育実習の手引き」（授業内で配布） 実習記録簿（同上） 実習関係資料（同上）	
推薦図書等		
参考URL		
備考	大学が定める実習履修要件を満たしていること。	

幼稚園教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	幼稚園教育実習事前事後指導
科目責任者	桑田　良子
担当教員	植草　一世 木下　勝世 大木　みわ 髙木　夏奈子
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1095001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園実習の意義や必要性を理解し，実習が十分な成果を納められるように準備する。 幼稚園実習終了後に，実習で体験し学んだことを整理して確認し，今後の学習につなげる。
学生の達成目標	1. 幼稚園教育の実際の場に入るにあたって,責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2. 実習のために必要で有効な知識・技術を学び,それを生かして実習できるよう準備する。 3. 実習の学習課題を明確にする。 4. 実習の体験を踏まえて,将来への希望と今後の学習への意欲を高める。

授業内容	第1回	実習の目的と概要 幼稚園と幼稚園教諭の職務(目標1)
	第2回	幼稚園実習の心構え(目標1)幼稚園実習の内容と準備の歩み(目標2)
	第3回	記録簿その他実習関係書類作成について(目標2)
	第4回	記録簿その他実習関係書類作成の実際(目標2)
	第5回	幼稚園の実際・幼稚園の1日(目標2)
	第6回	実習記録簿の書き方について(目標3)
	第7回	実習記録簿の書き方の実際(目標3)
	第8回	事前訪問の仕方と注意(目標2)
	第9回	参観実習の計画と内容(目標3)
	第10回	参観実習の仕方と注意(目標2)
	第11回	実習中の諸注意(目標2)-実習
	第12回	実習のまとめ(報告会)(目標4)
	第13回	実習のまとめ(礼状・記録等整理)(目標4)
	第14回	実習のまとめ(個別指導)(目標4)
		3年次(4月～7月)
	第15回	後期実習の意味と実習までの歩み
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	幼稚園教育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて幼稚園実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。
	評価の方法	レポートの内容や課題への取り組み，授業への参加度を加味して評価する。 レポート・課題への取り組みと達成度（ 70%），授業への参加度（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「幼稚園教育実習の手引き」（授業内で配布） 実習記録簿（同左） 実習関係資料（同左）	
推薦図書等		
参考URL		

備考

小学校教育参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	小学校教育参観実習
科目責任者	桑田　良子
担当教員	小林　敢治郎 貫井　正納 野口　芳宏 佐藤　文子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1096001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学校の教育活動，授業の見方，子どもの姿
授業のねらい・概要	現場において授業をはじめとする教育の諸活動がどのように行われているかを参観したり，教師より現場の話をきいたりして視野を広め，今後の大学での授業に役立てるとともに，本実習に向けて心構え等を育成する。
学生の達成目標	1.　実習に対する心構え,マナーを身に付けることができる。 2.　学校の教育諸活動のあらましが分かる。 3.　教師の授業への取り組み方,子どもの活動の様子が分かる。
授業内容	第1回　参観授業の事前指導 ……実習の心構え(目標1)

	第2回	参観授業の事前指導 ……授業の見方,記録のとり方(目標1)
	第3回	～4回(目標2,目標3)学校参観 A校 と B校 ・学校長の話(学校紹介) ・教務主任の話 ……教育課程 授業展開のオリエンテーション ・授業参観 ・授業の事後指導 ……授業その他についての自由討議
	第4回	参観授業事後指導 ……レポート提出(目標1)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	学校の教育活動に関心をもって参加しているか，参観態度はまじめであったか，授業の様子等をつかむことができたかを合格基準とする。
	評価の方法	参観の態度（ 50%）参観記録・レポート（ 50%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書はない。学校案内の資料等を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	小学校の免許取得希望者は進んで参加することが望ましい。	

小学校教育実習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	小学校教育実習 Ⅰ
科目責任者	桑田　良子
担当教員	小林　敢治郎 貫井　正納 野口　芳宏 佐藤　文子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1097001
教室	
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教職，現場，社会，規範，自覚，適正
授業のねらい・概要	百聞は一見に如かずの諺の通り，実習によって教職の尊さ，厳しさ，楽しさを知り自分の道に目覚める学生も多い。 実習では多くのことを学ぶが，学級担任の役割，教授活動の目的と評価，学級経営の概念，カリキュラムの理解と授業実践，発達と学習指導，児童の精神衛生の保持等今日的課題について教師になる基礎を学ぶ。 児童の実態把握，学年・学級経営把握，教科領域別共同実習，精錬・総合実習の過程を経る中で，社会人として生活する「生活のリズム」を身をもって学び，時間を大切にする意識が重要な鍵となる。
学生の達成目標	1.　大学で学んだ理論や技術を教育現場に適用し実践力のある指導者になろうとする自覚をもてる。

2. 教育現場の実態及び問題を様々な体験を通して把握し解決に向けた努力ができる。
3. 教育者としての自覚を深め責任ある行動をとれるようになる。
4. 教育現場における様々な人間関係を体験し共に生きる理念の大切さを理解する。
5. 自らの教職に関する職能や適正を省みて今後の進路について明らかな見通しを持つ。

授業内容	
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 休まず勤務し，責任ある行動をとり，自ら学ぶ積極的な態度が身に付いたか。 評価の方法 実習記録簿　諸帳簿の提出　挨拶　報告・礼状の提出
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 実習のノート（手引き）
推薦図書等	
参考URL	
備考	実習生には緊張の連続である。 ４週間の勤務に耐えられるように日ごろから体調を整え，健康な生活を心がける。 事故を未然に防ぐように配慮に努め周りの人に迷惑をかけないようにする。 規則正しい生活の良さに気付き自らの健康維持に努める。 気持のよい挨拶に心がけ感謝の心を伝えるようにする。

小学校教育実習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	小学校教育実習 Ⅱ
科目責任者	桑田　良子
担当教員	小林　敢治郎 貫井　正納 野口　芳宏 佐藤　文子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1097101
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教職，社会，規範，自覚，適正
授業のねらい・概要	実習は自らが学んだ小学校の頃を思い出し，そこに自分の教育の原点を発見することである。 実習によって教職の尊さ，厳しさ，楽しさを知り自分の道に目覚める学生が多いのはそのためである。 実習では多くのことを学ぶ。例えば，学級担任の役割，教授活動の目的と評価，学級経営の概念，カリキュラムの理解と授業実践，発達と学習指導，児童の精神衛生の保持等多義にわたる。 児童の実態把握，学年・学級経営把握，教科領域別共同実習，総合実習の過程を経る中で，社会人として生活する「生活リズム」を身につけ，実習全体を通して「時は金なり」の自覚が重要な鍵となる。

学生の達成目標	1. 大学で学んだ理論や技術を教育現場に適用し実践力のある指導者になろうとする自覚をもてる。 2. 教育現場の実態及び問題を様々な体験を通して把握し解決に向けた努力ができる。 3. 教育者としての自覚を深め責任ある行動をとれるようになる。 4. 教育現場における様々な人間関係を体験し共に生きる理念の大切さを理解する。 5. 自らの教職に関する職能や適正を省みて今後の進路について明らかな見通しを持つ。
授業内容	
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 休まず勤務し，責任ある行動をとり，自ら学ぶ積極的な態度を身に付けたか。 評価の方法 実習記録簿　諸帳簿の提出　挨拶　報告・礼状の提出
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 実習のノート（手引き）
推薦図書等	
参考URL	
備考	実習生には緊張の連続である，４週間の勤務に耐えられるように日ごろから体調を整え，健康な生活を心がける。 事故を未然に防ぐように配慮に努め周りの人に迷惑をかけないようにする。 規則正しい生活の良さに気付き自らの健康維持に努める。 気持のよい挨拶に心がけ感謝の心を伝えるようにする。

小学校教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	小学校教育実習事前事後指導
科目責任者	桑田　良子
担当教員	小林　敢治郎 貫井　正納 野口　芳宏 佐藤　文子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1098001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校教育活動，実習，児童，小学校教諭
授業のねらい・概要	事前指導は，小学校での実習の意義をとらえ，その心構えを持つとともに，実習に際して必要なことがらを確実に身に付けられるようにする。 事後指導は，実習で学んだものを振り返って整理し，今後の学校教育や教師の課題を認識し，その後の大学の教育を充実したものにできるようにする。
学生の達成目標	1. 小学校実習に対する心構えをもち,学校生活の概要をとらえ,実習の内容を理解できる。 2. 小学校の授業の準備の仕方等,諸々の現場の教育活動への備えができる。 3. 小学校教師としての将来の希望をもち,教育現場での実践に意欲的に取り組もうとするなることができる。態度を身につけることができる。

授業内容	第1回	ガイダンス・事前指導の意義・実習の目的等(目標1)
	第2回	小学校の教師のあり方・心構え授業と子供への対応(目標1)
	第3回	学校の教育活動について(目標1)
	第4回	教科等の実践上の指導(指導案の書き方等)国語 算数 理科(社会)音楽(目標2)
	第5回	教科等の実践上の指導(指導案の書き方等)図工 家庭(体育)道徳 生活(目標2)
	第6回	直前指導 服務等について,事前訪問の注意 記録簿の書き方(目標2) 挨拶,打ち合わせ
		〈事後指導〉
	第7回	教育実習の整理,記録簿提出 …体験発表会(目標3)
	第8回	実習学校行事の参加 …教育実習のまとめと今後の学習への活かし方(目標3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	小学校教育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，実習を終えてその成果をまとめることができるか評価する。
	評価の方法	記録簿，レポート等の内容で評価する。 学習への取り組み方も加味する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし。実習の手引き，実習記録簿を用いる。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	小学校参観実習を終えていること	

介護等体験実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	介護等体験実習
科目責任者	桑田　良子
担当教員	貫井　正納 小林　敢治郎 藤田　俊明 宮下　裕一 加藤　悦子
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1099001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害者，高齢者，特別支援学校，社会福祉施設，介護，介助
授業のねらい・概要	障害者，高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために，社会福祉施設や特別支援学校における支援内容，方法について考え，実践的体験を通して，教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。 社会福祉施設や特別支援学校での介護体験がより良く行えるよう，実習の意義や必要性についての理解を深める。
学生の達成目標	1.　障害者,高齢者等に対する介護・介助及び交流等の体験を行う。 2.　社会福祉施設職員や特別支援学校教職員の一般的役割について理解する。
授業内容	

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	特別支援学校や社会福祉施設における，障害者・高齢者への基礎的な支援内容，方法が理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	事前・事後及び体験実習の出席状況・参加の姿勢を考慮し，体験実習先指導者の評価及び実習記録等で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 小学校及び特別支援学校教育実習の手引き介護等体験ガイドブック　全国特別支援学校長編書　ジアース教育新社	
推薦図書等		
参考URL		
備考	注意事項 小学校教諭免許状の取得には必修であるが，特別支援学校教諭免許状を取得する場合は履修は不要である。	

情報機器演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	情報機器演習 Ⅰ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ネットワーク， LAN，ホームページ，セキュリティ，情報管理
授業のねらい・概要	情報の概念，および，ハードウェアとソフトウェアについて，基本的な知識を学習し，コンピュータ技術の歴史，情報処理・伝達の仕組みを理解する。 また， WWWと Webデザインにおける情報伝達手法や，インターネット上のサービスの背景にある技術的知識を学習する。 さらに，教育現場に必要とされる技術と知識について習得すると同時に，将来の教育従事者として知っておくべき情報管理スキルを身につける。
学生の達成目標	1. コンピュータやインターネットにおける情報のやりとりの概要を説明できるようになる。 2. ハードウェア・ソフトウェアの概要と適切な扱い方を学習する。 3. インターネット, WWWの仕組みを理解し,情報の発信・受信に利用できるようになる。 4. 教育現場におけるコンピュータ関連技術の適切な利用法を身につける。
授業内容	第1回　イントロダクション 第2回　コンピュータの歴史 情報処理技術の変遷 (目標1) 第3回　デジタルデータ デジタルの概念,データの扱い方 (目標1) 第4回　ハードウェアとソフトウェア 記憶装置, OS,アプリケーション (目標2)

	第5回	ネットワーク(1) ネットワークの基本概念 (目標3)
	第6回	ネットワーク(2) ネットワークを用いた情報管理 (目標3)
	第7回	情報セキュリティ セキュリティ概念,情報を守るための技術
	第8回	学校教育におけるネットワーク 学内 LAN,管理者概念 (目標3,4)
	第9回	情報資源の管理と利用(1) 情報の価値,データベース (目標2)
	第10回	情報資源の管理と利用(2) 情報の複製 (目標2)
	第11回	情報資源の管理と利用(3) 個人情報保護,法的側面 (目標4)
	第12回	教材利用と著作権 フェアユースの概念, e-learning
	第13回	教育と ICT(1) 技術の発展,事例紹介
	第14回	教育と ICT(2) 教育上のニーズと利用方法の多様性 (目標4)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	この授業は演習です。上記の達成目標を合格の基準とします。
	評価の方法	授業への参加度 50%，随時実施する課題 50%の合計で評価します。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	大学にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。 必須ではありませんが，コンピュータ演習 Ｉを履修していることが望ましいです。 授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。 また，授業で獲得した技術を忘れないために，予習・復習を行ってください。	

情報機器演習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	情報機器演習 Ⅱ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1101001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ネットワーク，高度情報化社会，情報共有，情報倫理
授業のねらい・概要	情報機器演習 Ｉでの学習をふまえ，高度情報化社会に自信を持って対応できるようにする。 現在利用可能な技術やサービスの演習課題を通して，コンピュータ，インターネットの社会的役割を体得する。 さらにコンピュータ・ネットワークを活用するために，ネットワーク接続技術，および，サーバへのデータのアップロード・ダウンロード手法を学習する。 これらの知識にもとづき，現在あるいは将来的に発生する情報倫理的問題に適切に対処するための方法論を身につける。
学生の達成目標	1. コンピュータに関連する情報技術の発展の概要を学び,その社会的影響を説明できるようになる。 2. ネットワーク接続の基本的な知識を身につける。 3. ネットワークを用いたデータのアップロード・ダウンロードが適切に行えるようになる。 4. 情報技術および情報倫理に関する問題に対して自分の主張を行えるようになる。

授業内容	第1回	イントロダクション コンピュータ,ネットワーク技術の概要(目標1)
	第2回	高度情報化社会とネットワーク ネットワーク利用の事例(目標2)
	第3回	コンピュータとインターネットの社会的役割(1) 現在利用されている技術(目標1)
	第4回	コンピュータとインターネットの社会的役割(2) 未来に実現する技術(目標1)
	第5回	コンピュータとインターネットの社会的役割(3) 身近な技術を体験する(目標3)
	第6回	無線ネットワーク 概説,活用事例の紹介(目標2)
	第7回	ネットワークにおける情報共有 プリンタ,オンラインディスク(目標2,3)
	第8回	ネットワークを用いたデータの扱い ダウンロード,アップロード(目標2,3)
	第9回	インターネットコミュニティ(1) 概要:利用目的,技術について(目標1)
	第10回	インターネットコミュニティ(2) 演習:コミュニティに参加する(目標1)
	第11回	インターネットコミュニティ(3) 問題事例の考察(目標4)
	第12回	情報倫理的問題とともに暮らす(1) 利用者として:情報源の権威と信頼性(目標4)
	第13回	情報倫理的問題とともに暮らす(2) 発信者として:ブログ,電子掲示板における問題 (目標4)
	第14回	情報倫理的問題とともに暮らす(3) 市民として:検閲,フィルタ(目標4)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	この授業は演習です。 上記の達成目標を合格の基準とします。
	評価の方法	授業への参加度 50%，随時実施する課題 50%の合計で評価します。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		

備考	大学にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。 必須ではありませんが，コンピュータ演習 Ⅰ・ Ⅱ，および，情報機器演習 Ⅰを履修していることが望ましいです。 授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。 また，授業で獲得した技術を忘れないために，予習・復習を行ってください。

知的障害教育 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	知的障害教育 Ⅰ
科目責任者	太田　俊己
授業形態	講義
開講時期	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，特別支援学校，障害児保育，教育課程，指導法
授業のねらい・概要	現場に多い知的障害の子どもの教育・保育の基本を学ぶ。 障害の特徴と子どもの二ーズ，教育課程や実践方法，障害児保育の実際，個への対応について学ぶ。 実践者の基本についても考えられる授業にしていきたい。
学生の達成目標	1. 知的障害の子どもの特徴と二ーズについて理解する。 2. 幼稚園や保育所,通園施設での対応,特別支援学校や特別支援学級の取り組みについて理解する。 3. 保育や教育課程の特徴,個への計画の実施について理解する。 4. 知的障害の子どもへの実践で大切な基本姿勢を理解し,自分の考えとともに説明できる。
授業内容	第1回　知的障害の子どもの特徴と二ーズ ～身近な障害を知る (目標5) 第2回　知的障害の子どもの特徴と二ーズ ～一般の定義・子どもが必要としていること (目標1) 第3回　幼児期の特徴と関連機関 (目標1,2) 第4回　保育所・幼稚園・通園施設の保育 (目標1,2,4) 第5回　特別支援学校の実践の特徴 (目標3,4)

第6回	特別支援学校の教育課程 (目標3,4)
第7回	特別支援学校の教育課程と基本原理 (目標3,4)
第8回	特別支援学校の指導法と各教科 (目標3,4)
第9回	特別支援学校の指導法の特色 (目標3,4)
第10回	特別支援学校の指導法の実際 日常生活の指導 遊びの指導(目標3,4)
第11回	特別支援学校の指導法の実際 生活単元学習 作業学習(目標3,4)
第12回	特別支援学校の指導法の実際 教科別の指導 領域別の指導 (目標3,4)
第13回	個別の指導計画 (目標4)
第14回	個別の指導計画の実際 (目標4)
第15回	特別支援学級の教育 まとめ (目標2,3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	知的障害の子どもへの教育・保育実践上の基本的な内容を理解し，説明できる。教育的に支援する基本姿勢について自分の考えを入れて述べられる。
	評価の方法	期末試験　70%　中間テスト／レポート　20%　授業への参加度　10%

教科書	
推薦図書等	
参考URL	
備考	

知的障害教育 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	知的障害教育 Ⅱ
科目責任者	太田　俊己
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1105001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，障害理解，家族支援，人権
授業のねらい・概要	知的障害の子どもを保育や教育の場で支援する際の基本の意識を培う。 障害への理解，障害のある子ども理解，親や家族の心情の理解などを取り上げる。 また差別や偏見を生みがちなことを理解した上で，知的障害のある子どもに保育者・教師としてどう専門的に対応するかを考え，障害理解と教育的支援の基礎を学ぶ。
学生の達成目標	1. 知的障害ということ,その子ども,家族の置かれた状況を理解する。 2. 知的障害に対応できる保育者・教師の専門性について理解する。 3. 知的障害のある子ども・人々の地域生活や人権擁護を理解し,自分の考えとともに説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 知的障害と子ども・人々の暮らしや困難をどう理解するか(目標1) 第2回　障害特性と現場での様子(目標1) 第3回　個の理解の方法と実際の支援(目標1) 第4回　親・家族の障害理解と家族支援をめぐって(目標1)

	第5回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について グループ討議と発表(目標1)
	第6回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その1 各自の課題を考える(目標2)
	第7回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その2 新聞等からの検討(目標3)
	第8回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その3 雑誌・ HPからの検討(目標3)
	第9回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その4 発表(目標1,2,3)
	第10回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その1 身近な例から(目標3)
	第11回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その2 新聞等から(目標3)
	第12回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その3 雑誌・ HPから(目標3)
	第13回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その4 発表(目標1,2,3)
	第14回	知的障害とその教育的支援(目標1,3)
	第15回	知的障害とその教育的支援 まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	知的障害の子どもや取り巻く状況について理解し，知的障害の子ども・人々の地域生活と家族支援，保育・教育との関係，実際の課題について考えを深め説明できること。
	評価の方法	発表と討議への参加　50%　レポート　50%　として総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし　関係資料を配付します。 討議資料は M棟などで各自調べ，探し，集めます。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由教育 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	肢体不自由教育 Ⅰ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1109001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	肢体不自由教育に関する基本的事項について概説し，肢体不自由の子どもの指導及び支援における適切な対応について理解する。
学生の達成目標	1. 肢体不自由教育の歴史について理解する。 2. 肢体不自由の子どもの障害の状態について理解する。 3. 肢体不自由の子どもが示す困難と対応について理解する。 4. 肢体不自由の子どもの教材・教具や補助具について理解する。 5. 肢体不自由の子どもの教育課程について理解する。
授業内容	第1回　イントロダクション 第2回　肢体不自由教育の歴史(1) 昭和初期から昭和 50年代(目標1) 第3回　肢体不自由教育の歴史(2) 昭和 60年代から現在(目標1) 第4回　肢体不自由の子どもの障害の状態(目標2) 第5回　運動・動作の困難と対応(目標3)

	第6回	コミュニケーションの困難と対応(目標3)
	第7回	認知の困難と対応(目標3)
	第8回	健康面の困難と対応(目標3)
	第9回	食べることの困難と対応(目標3)
	第10回	教科学習の困難と対応(目標3)
	第11回	教材・教具と補助具(目標4)
	第12回	特別支援学校の教育課程と自立活動(目標5)
	第13回	個別の教育支援計画と個別の指導計画(目標5)
	第14回	移行支援と卒業後の生活(目標5)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	１）肢体不自由の子どもの教育に関して，授業で取り上げた基本的事項を理解していること。 ２）授業で取り上げた内容をもとに，肢体不自由の子どもの指導及び支援について自分の考えを持ち，それを的確に表現できること。
	評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「肢体不自由教育ハンドブック」，社会福祉法人全国心身障害児福祉財団， ２ ,400円	
推薦図書等		
参考URL		
備考	講義のほかに，各テーマに関する理解を深めるため，討論や発表の時間を設ける。	

肢体不自由教育 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	肢体不自由教育 Ⅱ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1110001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	肢体不自由の子どもの教育的ニーズにいかに対応していくかについて検討し，一人一人の子どもの教育的ニーズに対応するために必要となる基本的な考え方を身に付ける。
学生の達成目標	1. 肢体不自由の子どもの教育的ニーズについて理解する。 2. 肢体不自由の子どもの実態把握について理解する。 3. 個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成するための考え方について理解する。 4. 指導における基本的な対応方法について理解する。 5. 教材・教具の作製・活用方法について理解する。
授業内容	第1回　イントロダクション 第2回　子どもの教育的ニーズ(目標1) 第3回　子どもの実態把握(1) 面談の方法(目標2)

	第4回　子どもの実態把握(2) 行動観察の方法(目標2) 第5回　個別の指導計画・個別の教育支援計画(目標3) 第6回　個別の指導計画の作成(1) 指導課題の整理(目標3) 第7回　個別の指導計画の作成(2) 指導目標の設定(目標3) 第8回　車いすの活用(目標4) 第9回　電動車いすの活用(目標4) 第10回　入力スイッチの製作(目標5) 第11回　支援機器の活用(目標5) 第12回　おもちゃや遊びの工夫(目標5) 第13回　学習活動の工夫(目標4) 第14回　摂食指導における配慮点(目標4) 第15回　まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 １）授業で取り上げた肢体不自由の子どもの教育的ニーズに対応するための基本的事項を理解していること。 ２）授業で取り上げた内容をもとに，肢体不自由の子どもの教育的ニーズへの対応について自分の考えを持ち，それを的確に表現できること。 評価の方法 平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 全国肢体不自由養護学校長会編著，「新たな肢体不自由教育実践講座」，ジアース教育新社， ２ ,500円 ISBN： ４ -921124-47-7
推薦図書等	
参考URL	
備考	講義のほかに，各テーマに関する理解を深めるため，討論や発表の時間を設ける。

病弱教育 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	病弱教育 Ⅰ
科目責任者	
担当教員	昆　俊雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1111001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	病弱教育の意義，学習空白，教育と医療との連携
授業のねらい・概要	病弱教育の歴史的変遷から，病弱教育の果してきた意義，子どもの病気と心の問題，医療機関と学校との関係，社会情勢を反映した病弱教育の現代的課題等を解説するとともに，病弱教育の現状と課題等に触れながら喘息，慢性疾患，小児がん，心身症等病類に応じた教育の特徴なども学び，病弱教育の基礎的理解を深めていくものとする。
学生の達成目標	1. 病弱教育の歴史,意義等について学ぶ 2. 病弱教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴を学ぶ 3. 病弱教育の基礎的理解を深める
授業内容	第1回　病弱教育の歴史的変遷(目標1) 第2回　病弱教育の意義(目標1) 第3回　病弱教育対象の子どもの病気の種類と特性(目標2,3) 第4回　病弱教育対象の子どもの心理特性(目標2,3)

第5回	医療機関と教育との関係と,学校と医療機関,医療と教育の連携について(目標2)
第6回	病弱教育の現代的課題(医療機関の課題)(目標2)
第7回	病弱教育の現代的な課題(医療の進歩・進展と新たな教育課題)(目標2)
第8回	喘息児の教育(目標3)
第9回	小児がんと教育(目標3)
第10回	慢性疾患と教育(目標3)
第11回	重症心身障害児(目標3)
第12回	筋ジストロフィーと教育(目標3)
第13回	心身症と教育(目標3)
第14回	不登校と教育(目標3)
第15回	身体虚弱教育について(目標3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	病弱教育の基礎的な事項等の理解度による。
	評価の方法	試験 40%，レポート 30%，授業への参加度 30%等により総合的に評価

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 全国病弱養護学校長会編著　「病弱教育 Q & A」　PART Ⅰ　ジアース教育新社 ISBN： 4 -921124-05-1 C3037
推薦図書等	
参考URL	
備考	

病弱教育 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	病弱教育 Ⅱ
科目責任者	
担当教員	昆　俊雄
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1112001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	病弱教育の教育課程，教育内容の精選，院内学級
授業のねらい・概要	特別支援学校や特別支援教室，病院内教室等における実際の病弱教育の教育内容，指導方法について解説する。 又，各教科，特別活動，自立活動，病弱教育の教育課程についても学習し，病弱教育の指導法の基礎・基本を踏まえながら，国内外の先進的な取り組みを紹介するなどして，より実践的で具体的な病弱教育を修得できるようにする。
学生の達成目標	1.　病弱児の教育の場を知る 2.　病弱教育の教育課程の特徴を学ぶ 3.　病弱教育の指導法の基礎・基本を学ぶ
授業内容	第1回　病弱特別支援学校,特別支援教室,病院内教室の概要(目標1) 第2回　病弱教育の「個別の教育支援計画」の実際(目標1,2) 第3回　病弱教育の教育課程1(各教科)(目標2) 第4回　病弱教育の教育課程2(総合的な学習)(目標3)

第5回	病弱教育の教育課程3(自立活動)(目標4)
第6回	病弱教育の教育課程4(特別活動,訪問教育,共同学習,交流教育等)(目標2)
第7回	病弱特別支援教室・学級,病院内教室・学級の教育課程の実際(目標2)
第8回	病弱教育における「個別の指導計画」の実際(目標2)
第9回	病弱特別支援学校における指導の実際(学校参観もしくは VTR)(目標3)
第10回	病弱特別支援学校における指導の実際(指導方法と配慮事項)(目標3)
第11回	病弱特別支援学級・教室における指導の実際(指導方法と配慮事項(目標3)
第12回	病弱教育における指導の実施(指導案の作成・演習)(目標3)
第13回	病弱教育の先進的な取り組みの紹介(目標2,3)
第14回	諸外国の病弱教育の現状(目標1,2)
第15回	病弱教育現場における教師の役割とその重要性,子どもと保護者,関係機関との連携と教師の果たすべき役割等について(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	病弱教育の教育課程等指導の実際についての理解度による
	評価の方法	試験 40%やレポート 30%，授業への参加度 30%等により総合的に評価

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 全国病弱養護学校長会編著　「病弱教育 Q & A」　PART Ⅰ　ジアース教育新社 ISBN： 4 -921124-05-1 C3037

推薦図書等

参考URL

備考

LD・ADHD等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	LD・ADHD等教育総論
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1116001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達障害， LD，ADHD，理解と支援
授業のねらい・概要	LD・ADHD等の知的障害を伴わない発達障害について，心理・生理や教育の可能性など，基本的な理解を図ることがこの授業のねらいである。 LD・ADHD等の幼児，児童の心理，生理について学ぶ。それぞれの障害の認知特性を理解した上で，効果的な教育的支援の方法を考える。
学生の達成目標	1. LD児の心理・生理について理解する。 2. ADHD児の心理・生理について理解する。 3. その他の発達障害児の心理・生理について理解する。 4. 発達障害に関連する不登校,いじめ,虐待などの問題について知る。 5. 発達障害児の支援方法について考え,工夫することができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション,発達障害概論 第2回　LDの心理・生理(目標1) 第3回　LDの理解と支援のあり方(目標1)

第4回	ADHDの心理・生理(目標2)
第5回	ADHDの理解と支援のあり方(目標2)
第6回	高機能自閉症等の心理・生理(目標3)
第7回	高機能自閉症等の支援のあり方(目標3)
第8回	発達障害と不登校(目標4)
第9回	発達障害といじめ(目標4)
第10回	発達障害と虐待(目標4)
第11回	アセスメントの基本～行動特性から(目標5)
第12回	アセスメントの基本～諸検査から(目標5)
第13回	～
第14回	認知特性に配慮した教育課程と指導方法(目標5)
第15回	まとめ(目標1,2,3,4,5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	参加態度（ 20%），提出物（ 20%），試験（ 60%）を総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省　特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編　海文堂出版 文部科学省　小学校学習指導要領解説　総則編　東洋館出版社
推薦図書等	
参考URL	
備考	子どもの行動の背景を理解しようとする姿勢・柔軟性が必要です。

自閉症教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	自閉症教育総論
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1117001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自閉症スペクトラム障害，広汎性発達障害，アスペルガー症候群，早期発見と早期支援
授業のねらい・概要	自閉症を中心とする広汎性発達障害の幼児，児童の心理，生理について理解を深める。特に理解されにくい，知的障害を伴わない広汎性発達障害（高機能広汎性発達障害）の認知特性については，ていねいに取り上げ，理解をはかる。 さらに，広汎性発達障害の認知特性に応じた望ましい教育的支援の方法について学ぶ。
学生の達成目標	1. 自閉症を中心とする広汎性発達障害の幼児,児童の心理,生理について理解する。 2. 高機能広汎性発達障害の認知特性について理解する。 3. 広汎性発達障害の認知特性に応じた教育的支援の方法について学ぶ。 4. 広汎性発達障害児への望ましい教育的支援の方法について考え,工夫することができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション,発達障害概論 第2回　～

第3回	自閉症の心理:認知特性 (目標1)
第4回	～
第5回	高機能広汎性発達障害の心理:認知特性 (目標2)
第6回	～
第7回	アセスメントの基本 (目標3)
第8回	～
第9回	認知特性に配慮した教育課程と指導方法 (目標3)
第10回	～
第11回	具体的な教育支援(グループ討論と演習)(目標4)
第12回	広汎性発達障害に関連した諸問題 (目標1,2,3,4)
第13回	まとめ (目標1,2,3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	参加態度（ 20%），提出物（ 20%），試験（ 60%）を総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 文部科学省　特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編　海文堂出版
推薦図書等	
参考URL	
備考	

特別支援教育調査演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	特別支援教育調査演習
科目責任者	
担当教員	太田　俊己 渡邉　章 藤田　俊明 加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1119001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別支援学校，特別支援学級，通級指導教室
授業のねらい・概要	障害のある児者の関係する場の見学や活動参加を通して，教育や取り組みの実際にふれ，体験的に学ぶ。見学をふり返り，今後の特別支援学校等の教師や関係者としてのあり方や子どもへの対応について考える契機とする。
学生の達成目標	1. 特別支援学校等の教育の場の役割,教育の実際について初歩の理解ができる。 2. 障害のある子どもの実際の様子を受け止め,理解と考えを深める。 3. 特別支援学校教諭等の進路を意識し,実践や実際について考えを深める。
授業内容	
予習・復習の内容	予習

	復習 展開
成績評価	評価の基準 特別支援学校等の役割，教育の実際を理解し，自分の受け止めや考えを深めること。 評価の方法 レポート 50%，事前ガイダンスを含む授業への参加度 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし　必要な資料を配付します。 レポートの様式等も示します。
推薦図書等	
参考URL	
備考	事前ガイダンスを行います。 見学・参観の留意事項党を説明します。 これに参加しないと履修を認めません。 当日の参観は，教育実習に準じます。 身なりや言動をわきまえての参加が求められます。 見学の際の遅刻，無断欠席，身なり等の乱れは厳禁です。

特別支援教育参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	特別支援教育参観実習
科目責任者	遠藤　隆志
担当教員	藤田　俊明 渡邉　章 加藤　悦子 太田　俊己
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1126001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別支援学校，特別支援学級
授業のねらい・概要	特別支援学校教諭や特別支援学級の教諭になる上で，必要な参観を実施する。 特別支援学校を主に見学を行い，特別支援教育の実際を実地に学ぶとともに，児童生徒の様子，教師の支援や対応についても参観し，特別支援教育実習への意欲や態度，知識を培う。
学生の達成目標	1. 特別支援学校教育の実際について実地の参観を通して初歩の理解ができる。 2. 障害のある子どもの実際の様子,教師の支援や対応を受け止め,実習等と関連づけて理解する。 3. 特別支援学校教諭等の進路を意識し,実践や実際について考えを深める。
授業内容	

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	特別支援学校等の役割，教育の実際を理解し，自分の受け止めや考えを深めること。
	評価の方法	レポート 50%，事前ガイダンスを含む授業への参加度 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし。必要な資料を配付します。 レポートの様式等も示します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	事前ガイダンスを行います。 参観学校の概要説明や見学の際のの留意事項等を説明します。 これに参加しないと履修を認めません。 当日の参観は，教育実習に準じます。 身なりや言動をわきまえての参加が必須です。 見学の際の遅刻，無断欠席，身なり等の乱れは厳禁です。	

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	特別支援教育実習
科目責任者	
担当教員	藤田　俊明 渡邉　章 太田　俊己 加藤　悦子
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1120001
教室	
単位数	3
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	実習，一日・一週間の流れ，共に活動，ひとり一人の理解と支援，連携，服務
授業のねらい・概要	実習生といえども，子どもや親たちにとっては先生となる。社会人として，あるいは教職としての規範が求められる。さらに，障害への正しい理解に「やさしさ」と「いたわり」が加わる心豊かな人間性が求められる。 実習では，目の前にいる子どもたちを通して多くのことを学ぶ。子どものニーズ，個別の教育支援計画，個別の指導計画，教育課程，危機管理，医療的ケアー，等々，今日的課題と教師となる基礎を学ぶ。 毎日の実践活動を記録にとどめ，反省し，指導を受け，より良い明日の支援に向けた工夫・改善の努力を日々積み重ねることが重要である。
学生の達成目標	1. 障害への正しい理解と心豊かな人間性を養う。 2. 児童生徒への支援的対応等,教育実践上の課題解決に向けた努力をする。 3. 特別支援学校における指導・支援の実践的体験をとおして専門的な知識・技能を身につける。

4.　教育者としての意識を深め,責任ある行動がとれる。

授業内容	
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 障害児への理解及び基礎的な支援内容と方法等の課題が理解できていることを合格基準とする。 評価の方法 実習先の実習評価・出勤簿等を中心に，記録簿の内容，巡回指導訪問報告書の内容を加味して評価する。 実習評価・出勤簿（ 70%）実習記録簿・巡回指導訪問報告書（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教育実習の手引き　特別支援教育実習記録簿　実習関係配付資料
推薦図書等	
参考URL	
備考	・同時に「特別支援教育実習事前事後指導」を履修（登録）すること。 ・実習履修要件を満たし，実習を行うことが認定されていること。 ・実習受け入れ決定後の個人的な理由による辞退はしないようにしてください。 ・児童生徒のプライバシー保護やマナーに十分配慮してください。

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	特別支援教育実習事前事後指導
科目責任者	
担当教員	藤田　俊明 渡邉　章 太田　俊己 加藤　悦子
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1121001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害者，特別支援学校，指導（支援）案，チームティーチング
授業のねらい・概要	・実習の意義や心構え，実習上の必要な事項について確認する。 ・児童生徒への支援的対応，実習における自己目標の設定，実習日誌への記入について理解する。 ・児童生徒の一日の生活の流れ，興味関心をはじめ，今の取り組みはどの時期のどの位置にあるかなどを理解し，指導計画や支援案づくりの資料とする。 ・事後指導では，実習記録簿の整理と自己評価を行い，意見を交換し反省をまとめる。
学生の達成目標	1. 実習の意義と必要性をより一層深める。 2. 特別支援学校実習に対するしっかりとした心構えを持つ。 3. 特別支援学校の概要及び指導の内容を理解する。 4. 将来に見通しを持ち,教育現場で意欲的に取り組もうとする意識を持つ。

授業内容	第1回	ガイダンス,事前指導の意義,実習の目的等(目標1)
	第2回	教師のあり方・心構え,実習にあたっての留意事項,手続き(目標2)
	第3回	学校の教育活動について(目標2,3)
	第4回	特別支援学校の概要と服務(目標2,3)
	第5回	指導案の書き方及び児童生徒への支援的対応(目標3)
	第6回	実習記録簿の意義と記入の仕方,事前訪問の注意(目標2)挨拶・打合せ〈実習先でのオリエンテーション〉
		2 事後指導
	第7回	実習記録簿の整理,提出(目標4)
	第8回	実習報告会(意見交換と反省・まとめ)(目標4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習における自己目標や評価，障害児への基礎的な支援内容や方法，指導案の書き方等，基本的な事柄が理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	記録簿，レポート等の内容で評価する。 事前・事後学習への参加姿勢をも考慮する。 記録・レポート（ 70%），発表内容及び態度（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「教育実習の手引き」「特別支援教育実習記録簿」	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・特別支援教育実習の希望者は全員が対象 ・特別支援教育実習を行う年度に必ず受講する。 なお，事前指導第１回～第３回については，小学校教育実習事前指導と合同で行う。	

保育活動実地演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育活動実地演習 Ⅰ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1060101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，保育施設，乳幼児期
授業のねらい・概要	ボランティア活動を通して，ボランティア精神を身につけるとともに，乳幼児とかかわる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1. 自分でボランティアの計画を立て,進んで活動に取り組む 2. 自分なりに工夫しながら,乳幼児と関わる 3. 自分なりの課題意識を持ちながら,活動に従事する
授業内容	第1回 オリエンテーション ①(ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等) 第2回 オリエンテーション ②(ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等) 第3回 ～ 第4回 ボランティア活動(年間 40時間以上) 第5回 まとめ ①(活動報告会)

	第6回	まとめ ②(記録の提出) (※1)本授業の単位認定までの手順は,以下の通りとする。 履修登録 →オリエンテーションの受講 → ボランティア活動先を探す・決定する → 担当教員に報告 → 活動の実践(実施証明を活動先からいただくことを含む) → 実施報告書の作成 → 実施報告書および実施証明書の提出 → 委員会等での検討 → 単位認定 (※2)単位として認められるボランティアの条件は,以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティア ②授業時間の他でボランティアをすること ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること(※3) 「保育活動実地演習」は,乳幼児と特にかかわるボランティアを,ある期間行うような場合が対象となります。 主なボランティア先としては,「保育所」「幼稚園」「障害児通園施設」「子育て支援施設関係」等があります。
予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	参加内容 50%，報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は必要としない。 必要に応じて資料（「ボランティア活動に取り組もう」）を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	この科目は，合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」に該当する。 できるかぎり，同一施設で長期間ボランティアを行うことが望ましい。	

教育活動実地演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	教育活動実地演習 Ⅰ
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1103101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，教育，児童
授業のねらい・概要	ボランティア活動を通して，ボランティアの精神を身につけるとともに，児童・生徒にかかわる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1. 自分の計画や見通しをもってボランティア活動に参加できる。 2. 人とのふれあいを通じて,実践的な力や社会性を身につける。 3. 子どもに対する見方,かかわりかたを深める。
授業内容	第1回 オリエンテーション ① (ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布など) 第2回 オリエンテーション ② (ボランティア先や見つけ方,記録の書き方など) 第3回 ～ 第4回 ボランティア活動 第5回 まとめ ①(活動報告会)

	第6回	まとめ ②(記録の提出) (※1)本授業単に認定までの手順は,以下の通りとする。 履修登録 → オリエンテーションの受講 →ボランティア活動先を探す・決定 → キャリア支援課・ボランティアコーディネータ・担当教員に報告 → 活動の実践(実施証明書を活動先からいただくことを含む) → 実施報告書の作成 → 実施報告書及び実施証明書の提出 → ボランティア活動認定小委員会への提出 → 単位認定 (※2) 単位として認められるボランティアの条件は,以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること。 (※3)「教育活動実地演習」は小学生,中学生の教育活動などにかかわるボランティアを,ある期間行うような場合を対象とする。小学校・中学校での教育ボランティア,不登校の子どもの支援,学童保育,レクレーション活動,部活への支援などがある。
予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	「授業計画・内容」の（ ※２）参照のこと
	評価の方法	実施報告書・観察記録をもとにボランティア認定小委員会などを通して単位を認定する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は必要としない。必要に応じて資料を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	この科目は合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」である。 履修登録制限 ,GPAの適応除外科目である。 ①　履修は，できる限り早い時期がのぞまれる。 ②　できる限り，同一施設で長期間ボランティアを行うことが望ましい。	

障害者支援活動実地演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	障害者支援活動実地演習 Ⅰ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1122101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，障害者支援
授業のねらい・概要	ボランティアを通して，ボランティア精神を身につけるとともに，障害のある子どもや大人と関わる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1. 「自分の生活のリズムに組み入れた無理のない活動を行うこと」の大切さを理解する。 2. 障害のある子どもや大人の,一人ひとりのニーズにそった支援の仕方を考える。 3. 約束ごとや個人のプライバシー等を守り,信頼関係の大切さを知る。
授業内容	第1回　オリエンテーション ① ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等(目標1) 第2回　オリエンテーション ② ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等(目標1,3) 第3回　～ 第4回　ボランティア活動(年間 40時間以上)(目標2,3)

	第5回	まとめ ① 活動報告会(目標1,2,3)
	第6回	まとめ ② 記録の提出(目標1,2,3)
		(※1) 本授業の単位認定までの手順は,以下の通りとする。 履修登録 → オリエンテーションの受講 → ボランティア活動先を探す・決定する → 担当教員に報告 → 活動の実践(実施証明を活動先からいただくことを含む) → 実施報告書の作成 → 実施報告書及び実施証明の提出 → 委員会での検討 → 単位認定 (※2) 単位として認められるボランティアの条件は,以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること。 (※3) 「障害者支援活動実地演習」は,障害のある子どもや大人と関わるボランティアを,ある期間行う場合を対象とする。主なボランティア先としては,「特別支援学校」「特別支援学級」「障害児・者関係施設」「学童保育機関」「レクレーション活動関係機関」「レスパイト関係機関」等がある。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	「授業計画・内容」の（ ※２）参照のこと
	評価の方法	実施報告書・実施証明をもとに単位を認定する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は必要としない。 必要に応じて資料を配付する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	＊履修は，できる限り早い時期が望まれる。 ＊できるかぎり，同一学校・施設等で継続したボランティア活動を行うことが望ましい。 ＊この科目は合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」である。 単位登録上限 GPAの適用除外科目である。 単位認定のみで成績はつかない。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	貫井　正納
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理科教育，教育方法，教育評価，観察，実験
授業のねらい・概要	小学校理科教育に関わる教育内容や指導方法及び子どもの自然概念の発達を捉える評価の方法等を知り，子どもの実態に即した授業研究や授業方法の開発を試みる。 特に子どもの自然認識の実態についてのアセスメントの方法論を検討する。
学生の達成目標	1. 理科教育について視野を広めることが出来る。得意な領域を持つことが出来る。 2. 実践報告,論文等を読み,自然科学,科学技術,科学教育(理科教育)について自分なりの考えを持つことが出来る。 3. 主体的に学習に取り組み,自分のテーマを見つけるための努力が出来る。 4. 教育現場での理科教育の実践を学ぶことが出来る。
授業内容	第1回　　～

	第2回	研究方法の習得を中心に,理科の月刊雑誌を材料にして以下のことを学習する。 ①文献検索の仕方 ②論文の読み方 ③文章表現の仕方
	第3回	～
	第4回	小学校学習内容の検討 常に実際の自然の事物・現象を実際に用いて以下の学習活動を行う。 ①学習指導要領と自然概念の構成 ②基本的内容と自然科学との関連 ③観察実験の開発と工夫 ④子どもの自然認識と学習内容の関連 ⑤外国における理科教育と日本の理科教育 -第1期-(目標1,2,3) 基礎的な理科教育の素養が整ってきたので,具体的な教育方法を取り入れ,学生自身の希望する方向を探っていく。
	第5回	～
	第6回	小学校理科の評価 ①評価についての基本的内容の習得 ②いろいろな評価方法 ③オーセンティックな評価方法 ④評価と学習の一体化とは -第2期-(目標1,2,3,4) 教育実習も経験してきた頃と思われるので,その経験をもとに授業作りを試みる。
	第7回	～
	第8回	小学校理科授業の設計 ①授業の設計 ②授業の実践(マイクロティーチング) ③観察,実験の実施 ④授業評価と改善 ⑤まとめと発表

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	理科教育の一般的な内容それに伴う指導方法，および今日的な課題をとらえられたかどうか，自分なりに研究の方向を見いだそうとしているか。
	評価の方法	学習ポートフォリオ，パフォーマンステスト・レポート（ 70%），学習への取り組み方（ 30%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。 理科教育関係の月刊誌である「理科の教育」「初等理科教育」を主に利用する。

	時には［日本教育工学会論文誌］［物理教育］も参考とする。 小・中学校学習指導要領解説　理科編
推薦図書等	
参考URL	
備考	理科教育に関わる授業を終了しているか，履修中であることが望ましい。 身の回りの自然現象に関心があること。 観察や実験及びいろいろな工作に興味・関心を持っている学生は大いに歓迎する。 自然科学は非常に広い領域であるので，何か得意な分野を持ち，自然の現象や，自然にある事物を対象とした趣味が持てることを奨励する。 小・中学校の授業を実際に観察し，子どもの行動を観察することもある。 また，手つかずの自然の状態が保たれている大学の森の環境調査を予定している。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	
担当教員	野口　芳宏
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	日本人，西郷隆盛，上杉鷹山，二宮尊徳，中江藤樹，日蓮上人，福澤諭吉，人生観，世界観
授業のねらい・概要	日本に生まれ，日本に育った日本国民としての望ましい自覚と誇りが持てる教育者資質を形成する。 古典的名著の講読と吟味を通じて，互いの理解を深め合う討論を取り入れて学ぶ。
学生の達成目標	1. 日本の偉人,先達の業績と人生観を理解する。 2. 日本人の価値観,世界観を理解する。 3. 教育の基礎となる人生観,教育観を形成する。 4. 教育者にふさわしい高い見識を育成する。 5. 広く文献に当たって,深く調べる学習技術を身に付ける。
授業内容	第1回　ゼミナールガイダンス テキスト解説 分担確認 全体計画 第2回　「代表的日本人」西郷隆盛 13 p～ 22 p 自主研究発表 協議と指導

第3回	「代表的日本人」同上 23 p～ 31 p 自主研究発表 協議と指導
第4回	「代表的日本人」同上 32 p～ 50 p 自主研究発表 協議と指導
第5回	「代表的日本人」上杉鷹山 51 p～ 58 p 自主研究発表 協議と指導
第6回	「代表的日本人」同上 59 p～ 66 p 自主研究発表 協議と指導
第7回	「代表的日本人」同上 67 p～ 78 p 自主研究発表 協議と指導
第8回	「代表的日本人」二宮尊徳 79 p～ 94 p 自主研究発表 協議と指導
第9回	「代表的日本人」同上 95 p～ 110 p 自主研究発表 協議と指導
第10回	「代表的日本人」中江藤樹 111 p～ 118 p 自主研究発表 協議と指導
第11回	「代表的日本人」同上 119 p～ 140 p 自主研究発表 協議と指導
第12回	「代表的日本人」日蓮上人 141 p～ 157 p 自主研究発表 協議と指導
第13回	「代表的日本人」同上 158 p～ 167 p 自主研究発表 協議と指導
第14回	「代表的日本人」同上 168 p～ 178 p 自主研究発表 協議と指導
第15回	「代表的日本人」総括討論 179 p～ 184 p 自主研究発表 協議と指導
第16回	「学問のすすめ」 第1編 自主研究発表 協議と指導
第17回	「学問のすすめ」 第2編 自主研究発表 協議と指導
第18回	「学問のすすめ」 第3編 自主研究発表 協議と指導
第19回	「学問のすすめ」 第4編 自主研究発表 協議と指導
第20回	「学問のすすめ」 第5編 自主研究発表 協議と指導
第21回	「学問のすすめ」 第6編 自主研究発表 協議と指導
第22回	「学問のすすめ」 第7編 自主研究発表 協議と指導
第23回	「学問のすすめ」 第8編 自主研究発表 協議と指導
第24回	「学問のすすめ」 第9編 自主研究発表 協議と指導
第25回	「学問のすすめ」 第10編 自主研究発表 協議と指導
第26回	「学問のすすめ」 第11編 自主研究発表 協議と指導
第27回	「学問のすすめ」 第12編 自主研究発表 協議と指導
第28回	「学問のすすめ」 第13編 自主研究発表 協議と指導
第29回	「学問のすすめ」 第14編 自主研究発表 協議と指導
第30回	「学問のすすめ」 第15編 自主研究発表 協議と指導

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	両書の基本的な価値の理解ができたか。 古典の読み方の知識，技術を理解できたか。
	評価の方法	調べ方，まとめ，発表技術，質疑の技法，応答の技法等の観察 及びレポートによる総合評価
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『代表的日本人』　内村鑑三著　岩波文庫 『学問のすすめ』　福沢諭吉著　岩波文庫 ISBN： 4 -00-331023-3	
推薦図書等		
参考URL		
備考	テキストの購入と予習，発表	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	浦野　俊則
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123003
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	書写教育，文字，漢字，仮名，書き方，指導法
授業のねらい・概要	漢字や仮名に関する理解や文字の書き方とその指導法について研究し，知見を深める。
学生の達成目標	1. 漢字や仮名の発達に関する基本的な理解を得る。 2. 文字の書き方に関して体系的に理解する。 3. 文字の書き方の指導に関する教育上の意義を理解する。
授業内容	第1回　書写教育のねらいと漢字や仮名の文化(総論) (目標1,2,3) 第2回　書写の教科書と仮名の書き方指導(学習系統論) (目標3) 第3回　書写の教科書と漢字の書き方指導(学習系統論) (目標3) 第4回　漢字の発達史1(殷周時代の漢字とその書き方) (目標1,2) 第5回　漢字の発達史2(秦漢時代の漢字とその書き方) (目標1,2) 第6回　漢字の発達史3(三国時代以降の漢字とその書き方) (目標1,2)

第7回	仮名の発達史 (日本の上代から平安時代の仮名とその書き方) (目標1,2)
第8回	寺子屋の教育と明治時代の小学校における文字の書き方指導 (目標3)
第9回	大正時代から昭和時代の小学校における文字の書き方指導 (目標3)
第10回	近代日本の文字文化(印刷字体と手書き文字) (目標1)
第11回	近代日本における漢字字体表の変遷 (目標1)
第12回	印刷字体と手書き文字の字体の差異1 実態 (目標1)
第13回	印刷字体と手書き文字の字体の差異2 手書きの習慣の尊重 (目標1)
第14回	手書き文字の字体の特徴1 小学校学年配当漢字における扱い (目標1)
第15回	手書き文字の字体の特徴2 行書との関連性 (目標1)
第16回	手書き文字の字体の特徴3 実用性と習慣の定着 (目標1)
第17回	筆記具の違いを生かした文字の書き方1 硬筆 (目標2)
第18回	筆記具の違いを生かした文字の書き方2 毛筆 (目標2)
第19回	筆記具の違いを生かした文字の書き方3 文字の大小と筆記具 (目標2)
第20回	児童の文字の書き方の特徴 (目標3)
第21回	小学校低学年児童の手指の発達と文字の書き方指導 (目標3)
第22回	小学校高学年児童の書き方指導 (目標3)
第23回	漢字の成り立ちと意味の理解1 原義と転義 (目標1)
第24回	漢字の成り立ちと意味の理解2 象形,指事 (目標1)
第25回	漢字の成り立ちと意味の理解3 会意,形声 (目標1)
第26回	漢字の成り立ちと意味の理解4 転注,仮借 (目標1)
第27回	仮名の成り立ちと字形の変化 (目標1)
第28回	漢字の意味の理解に基づく漢字指導 (目標1,3)
第29回	漢字の意味の理解に基づく書き方指導 (目標1,3)
第30回	漢字仮名の文化の伝承と教育 (目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	授業内容の理解，課題レポートへの意欲的な取り組み，理解した内容を生活や職業に役立てようとする意志。
	評価の方法	課題レポート（ 70%）及び授業における意欲・態度（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『漢字指導の手引き（第六版）』教育出版社刊　１,575円 ISBN： 978 -4316802565	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123004
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	道徳教育　学級経営　課題の追求
授業のねらい・概要	道徳の時間においては，子どもたちに主体的な授業を促すためには，適切な資料の位置づけが求められる。 そこで，授業のねらいが達成できるようにするためには，どのような資料を用いたり活用を図ればよいか検討し，卒業研究へのテーマが絞れるようにする。
学生の達成目標	1. 毎日,道徳教育に関連のある新聞記事や様々な情報に関心を向けているか。 2. 社会事象に重ねて,自分の考えを持つことができているか。 3. 道徳教育に自分のなりの問題意識を持つことができたか。 4. 道徳授業で用いる資料を自作することができたか。
授業内容	第1回　～ 第2回　ガイダンス 意見発表 道徳教育の今日的課題(目標1) 道徳性の発達について 第3回　～

第4回	道徳資料と指導案
	第2期(資料構想・指導案)
第5回	～
第6回	新聞記事から道徳資料の作成を試みる(目標3)
第7回	～
第8回	映像資料と指導案の作成
第9回	～
第10回	資料作成のポイント,まとめ
	第3期(研究課題の探求)(目標3)(目標4)
第11回	～
第12回	研究協議・討論(指導資料・指導案等)・研究の進捗状況について
第13回	～
第14回	課題の探求-現場教師の指導・助言
第15回	～
第16回	レポートの作成
第17回	～
第18回	研究成果の発表準備・発表(研究のプレゼンテーション)
第19回	研究のまとめと評価

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 道徳教育の今日的課題を明らかにできたか。 自作資料に取り組むことができたか。 評価の方法 レポート（ 70%） 研究の経過ノート（ 20%） 意欲・態度・その他（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし
推薦図書等	
参考URL	
備考	道徳教育指導法については，２年次で履習しておくこと。 小学校の教員免許取得者が望ましい。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	家庭科（生活科）教育学の構造，先行研究の分析・検討，各種研究方法の修得，研究のデザイン
授業のねらい・概要	家庭科教育学及び生活科教育学の専門分野の内容（構造）を理解し，主として先行研究の分析・検討を通して当該専門分野の現在までの研究成果と課題を明確にする。 次に，よりよい卒業研究を志向して各自の研究テーマを絞り込んでいくとともに，研究を推進するための研究方法の基礎・基本を学び，各自の研究に最も適した方法を選択し実践できる力を身につける。
学生の達成目標	1. 家庭科教育,生活科教育の内容(構造)を理解する。 2. 先行研究の分析・検討を通して,この分野における現在までの研究成果と課題を理解する。 3. 各種研究方法の概要を理解する。 4. 具体的な演習を通して,必要かつ基本的な研究方法を確実に理解する。 5. 自分の研究デザインが書ける。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業内容,スケジュール等) 第2回　～

第3回	教科教育学(家庭科教育,生活科教育)の構造モデルの理解(目標1)
第4回	～
第5回	内外の先行研究の分析・検討,課題の抽出(目標2) ○主たる先行研究を指導者側が提示し,分析・検討する。 ○各学習者が興味のある先行研究を選択し,作成したレジュメをもとに分析・検討する。
第6回	～
第7回	各種研究方法の理解(哲学的・原理的研究方法,実験的・実証的研究方法,実践的研究方法,歴史的研究方法,比較教育的研究方法,統計的研究方法等)(目標3)
第8回	～
第9回	研究方法の演習(研究方法を具体的な例題で演習する。)(目標4) ○授業における実験的・実証的研究方法 ・家庭科(生活科)における興味・関心が高まる授業の設計と学習効果の検討 ・実験・実習を導入した授業設計と学習効果の測定 ○フィールドワークによる調査方法 ・生活調査とインタビュー手法の基本 ○統計的方法の基礎・基本の修得 ・アプリケーションソフトによる統計的手法の修得(SPSS,秀吉PRO等)(含 多変量解析) ・検定の基礎・基本 ・発表用図表の表わしかた(含 パワーポイントの活用)
第10回	～
第11回	研究テーマ設定に向けて(目標5)
第12回	～
第13回	論文構成の理解(目標5)
第14回	～
第15回	各自の研究デザインの設定(目標5)
第16回	まとめ-ゼミナール Ⅱに向けて(目標1～5)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

授業を通して，家庭科教育，生活科教育に関わる内容や課題を理解し，よりよいあり方を志向して，主体的に研究を推進しようとする意欲と独自の研究テーマを持つようになること，またその適切な研究方法を身につけ，各自の研究デザインが書けることを合格基準とする。

評価の方法

提出レポート（レジュメと毎回の小レポート），平常点（毎回の取り組みの意欲と態度）等を総合的に判断する。
レポート（レジュメと毎回の小レポート） 50%，毎回の取り組み（討議や演習における意欲・態度） 30%，発表用図表

	20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリント資料等の配布
推薦図書等	
参考URL	
備考	コツコツと丹念にかつ主体的に研究に向かう気持ちを持つことが望まれる。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123006
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，音楽用語，楽曲分析，音楽書，音楽文献学
授業のねらい・概要	将来，保育や小学校の教育現場に携わるに当たり，そこで実践されている音楽活動に関する専門的視野を広げ，その中から各自がテーマを見つけて主体的に学び，研究する事の喜びを発見できるように導く。 また４年次の卒業研究を見据えて課題を絞れるような展望を開く。 音楽に関する論文では，作品の分析法，専門用語の正確な使用法，音楽書の活用法が必要となる為，楽曲分析，音楽文献学に関しても学ぶ。
学生の達成目標	1.　問題意識が高まる 2.　疑問点を積極的に調べることができる 3.　音楽に関する得意分野ができる 4.　卒業研究のテーマがしぼれる
授業内容	第1回　前期のオリエンテーション 第2回　保育現場での音楽活動について (目標1,3) 第3回　幼稚園での音楽活動について (目標1,3)

第4回	小学校での音楽活動について (目標1,3)
第5回	各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査 (目標1,2,3)
第6回	各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査 (目標1,2,3)
第7回	各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査 (目標1,2,3)
第8回	見学・調査の発表及びそれに関する討論 (目標1,2)
第9回	収集したデータの見方・まとめ方・利用の仕方について (目標1,2)
第10回	調査報告書・レポート・論文の書き方 (目標1,2)
第11回	各自が見学・調査の報告書を作成して発表及び討論(正しく理解される文章であるか等) (目標1)
第12回	見学・調査の報告書の発表及び討論 (目標1,2)
第13回	討論の結果を踏まえて,さらに報告書の書き方の向上を目指す (目標1,2)
第14回	前期のまとめ,さらに研究を深めるために
第15回	音楽文献学 (目標1,2)
第16回	後期のオリエンテーション
第17回	楽曲分析の仕方(幼児・児童の歌から小学校の鑑賞曲)(目標1,2)
第18回	楽曲分析のデータから何をどのように読み取り,まとめる事ができるか (目標1,2)
第19回	具体例を挙げながら,研究にあたっての問題意識,着眼点,問題解決に向けての方法論等検討(1)
第20回	具体例を挙げながら,研究にあたっての問題意識,着眼点,問題解決に向けての方法論等検討(2)
第21回	テーマを設定して各自の関心のある事柄について文献を調べる (目標1,2,3)
第22回	テーマを設定して各自の関心のある事柄について文献を調べる (目標1,2,3)
第23回	調べた内容の分析・検討 (目標1,2,3)
第24回	問題解決に向けて更なる検討 (目標1,2,3)
第25回	レポートの作成 (目標1,2)
第26回	レポートの作成 (目標1,2)
第27回	作成したレポートの発表及び討論(内容が正しく理解される書き方であるか等)(目標1,2,3,4)
第28回	作成したレポートの発表及び討論 (目標1,2,3,4)
第29回	討論の結果を踏まえて,さらにレポートの書き方の向上を目指す (目標1,2,3,4)
第30回	後期のまとめ,ゼミナールⅡに向けて

予習・復習の内容	予習
	復習

	展開
成績評価	評価の基準 問題解決に向けて積極的に取り組む事ができたか。 主体的に研究する態度が身についてきたか。 評価の方法 提出報告書（ 30%），提出レポート（ 30%），勉学意欲（ 40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 笠原　潔・徳丸吉彦「音楽理論の基礎」，日本放送出版協会， 2 ,600円 ISBN： 978 -4595307164
推薦図書等	
参考URL	
備考	音楽を論理的に考える力を身につける授業であり，問題意識と積極的に学び調べる力を必要とする。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	桑田　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123007
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達障害，支援，教育相談，ソーシャルスキルトレーニング
授業のねらい・概要	乳幼児期の一般的な発達段階とその特徴を知るとともに，発達上起こり得るつまずき（障害）について基礎的知識を得ることを目的とする。 さらに，このようなつまずきを早期に発見・支援するための発達診断・発達相談の概念やその具体的方法について概観することを目標とする。
学生の達成目標	1. 文献の収集方法・利用について理解する。 2. 支援が必要な子どものさまざまな問題について理解を深める。 3. 教育相談の基本的技法や指導法について学ぶ。 4. 自分の考えをまとめ,発表することができる。 5. 自分の研究テーマを見つけて学んでいく基礎力をつける。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　ビデオ視聴から発達障害の理解と支援について知る。(目標2) 第3回　書籍から発達障害の理解と支援について知る。(目標2)

第4回	文献から発達障害の理解と支援について知る(目標1)
第5回	不登校の早期発見と早期対応について(目標2)
第6回	不登校の回復期の対応について(目標2)
第7回	観察法について(目標2)
第8回	記録の取り方(目標2)
第9回	絵画療法(目標3)
第10回	絵画療法(バウムテスト)(目標3)
第11回	絵画療法(風景構成法)(目標3)
第12回	プレイセラピイ(目標3)
第13回	事例検討会 ①(目標2・4)
第14回	事例検討会 ①(目標2・4)
第15回	前期まとめ
第16回	グループ指導について ①(目標3)
第17回	グループ指導について ②(目標3)
第18回	ソーシャルスキルトレーニング ①(目標3)
第19回	ソーシャルスキルトレーニング ②(目標3)
第20回	文献の必要性と集め方(目標1)
第21回	図書館の使い方と文献(目標1)
第22回	文献を読む ①(自分の関心のあるテーマ)(目標4・5)
第23回	文献を読む ②(目標4・5)
第24回	文献を読む ③(目標4・5)
第25回	研究テーマの決定と目標についての検討(目標5)
第26回	研究の内容・方法についての検討(目標5)
第27回	発表・討議(目標4)
第28回	研究計画の作成(目標5)
第29回	研究計画の作成と実施上の諸問題の検討(目標5)
第30回	後期のまとめ

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	学生の達成目標に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	参加度　50%　発表・レポート　50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 よくわかる卒論の書き方　白井俊明・高橋一郎著　ミネルヴァ書房　2 ,500円 ISBN： 978 -4-623-05111-3	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123008
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数教育，実践の観察，研究の進め方，課題の模索
授業のねらい・概要	主として，算数科教育に関わる研究方法を身に付けるとともに，算数教育内容や指導方法について，教材の捉え方，望ましい教材開発，子どもの実態把握，授業研究の在り方等を知り，算数教育に関わる今日的課題を捉え，卒業研究への足がかりをつかむことができるようにする。
学生の達成目標	1. 算数教育について視野を広めることができる。 2. 諸々の実践報告,論文等を読み,これをまとめて自分なりの考えを持つことができる。 3. 主体的に学習に取り組み,自分のテーマを見つけるために努力できる。 4. 教育現場での算数脅威奥の実践に学ぶことができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の内容,進め方) (目標1) 第2回　～ 第3回　研究方法の習得 (目標1) 算数の分野における先行研究の分析 研究論文等の読み方 雑誌,研究発表会の事例の検討

第4回	～
第5回	算数教育の内容基礎研究 (目標2) 現代化に関わる内容研究 数学的な考え方の内容研究 表現力の内容研究
第6回	科学館における算数実践活動に参加 (目標1)
第7回	～
第8回	前期のまとめとテーマの探索 (目標2)
	第2期
第9回	～
第10回	指導法に関わる研究 (目標2) 現場における算数の実践研究 ……今日的課題 計算等のつまずきの捉え方 算数にかかわる教材開発の仕方
第11回	～
第12回	現場における実践・研究会等に参加 (目標4)
	第3期
第13回	～
第14回	研究の進め方 (目標3) テーマの検討
第15回	本年度まとめ (目標3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 算数教育の一般的な内容及び指導方法，今日的課題を捉えられたかどうか。 自分なりに研究の方向を見出そうとしているか。 評価の方法 参観記録・レポート（ 70%）学習への取り組み方（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 片桐重男「算数の学力とは何か」東洋館出版社 ISBN： 978 -4-18-544114-8
推薦図書等	
参考URL	
備考	算数教育に関心があること

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123009
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽，教育，思考，言葉
授業のねらい・概要	資料を適切に解釈する読解力，誤読されない文章を書く表現力を伸ばし，音楽と教育に対する知識を求め，主体的に学習・研究する技能と態度を身につけさせる。卒業研究のテーマが絞れるよう援助する。
学生の達成目標	1. 毎日,新聞を読む習慣を身につける。 2. 音楽と教育に関わる事実や意見を広く知ろうとする態度をもつ。 3. 読み手を意識した文を書くことができる。 4. 音楽と教育に関わる様々なことがらについて自分なりの問題意識をもつことができる。
授業内容	第1回　ガイダンス 第2回　「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの視写 ①(目標1) 第3回　「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの視写 ②(目標1) 第4回　「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの視写 ③(目標1)

第5回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ①(目標2,3)
第6回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ②(目標2,3)
第7回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ③(目標2,3)
第8回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ④(目標2,3)
第9回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑤(目標2,3)
第10回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑥(目標2,3)
第11回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑦(目標2,3)
第12回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑧(目標2,3)
第13回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑨(目標2,3)
第14回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑩(目標2,3)
第15回	前期学習のまとめ
第16回	音楽教育の教育理念に関わる論文を読む(目標2)
第17回	それに対する意見文を書く(目標3)
第18回	音楽教育の教育内容に関わる文献を読む(目標2)
第19回	それに関する意見文を書く(目標3)
第20回	音楽教育の教育方法に関わる文献を読む(目標2)
第21回	それに対する意見文を書く(目標3)
第22回	音楽教育の教育制度に関わる文献を読む(目標2)
第23回	それに対する意見文を書く(目標3)
第24回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ①哲学的研究(目標2)
第25回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ②文献研究(目標2)
第26回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ③量的研究(目標2)
第27回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ④ケーススタディ(目標2)
第28回	音楽教育において学生各自が関心をもつテーマについて意見文を書く ①(目標3,4)
第29回	音楽教育において学生各自が関心をもつテーマについて意見文を書く ②(目標3,4)
第30回	まとめ 次年度に向けて学習・研究のめあてを確認する

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

誤字脱字のない整った文が書けたか。
意見を明確に示し説得力のある根拠を挙げられたか。
論理の筋道が通った文を書けたか。

		音楽と教育について自分なりの問題意識をもつことができたか。
	評価の方法	毎週提出された課題により評価する。 課題を期限内に提出するのは当然である。 いかに授業内容を咀嚼した文を書けたか（書こうとしたか）で評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房， ２,625円 ISBN： 4623051110
推薦図書等	
参考URL	
備考	B5版 400字詰め原稿用紙と国語辞典を持参すること。 メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123010
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，図画工作科教育，造形表現，子どもとのかかわり
授業のねらい・概要	造形表現，教育に関する文献や資料，実技を踏まえて，各自の持つ問題意識を明確にして今後の研究のための基礎・基本についての理解を深める。 各自が持つ問題意識をもとに発表や文章で表現出来るための基礎を身につける。 演習の中で卒業研究のテーマの選定とその研究計画の作成，方向性を確立することをねらいとする。
学生の達成目標	1. 造形に関わる教育課題に関心を持つ。情報収集をしてまとめて自分の考えを持つ。 2. グループ討論や発表の基礎を身につけ,自分の意見や考えについて的確な文章で表現できる。 3. 必要な文献や資料等に関しての収集をして,卒業研究の基本的な方向性を確立する。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点,計画作成) (目標1,2) 第2回　実技 ① クロッキー・デッサン(視点から学ぶ) (目標1,2) 第3回　実技 ② 画像・「切り取り」から学ぶ (目標1,2)

第4回	「調査」から学ぶ・自分の意見や考えの視点 (目標1,2)
第5回	「情報」の扱い方・発想の源 (目標1,2)
第6回	実技 ② 子ども時代のあなた・「学びあい」について (目標1,2)
第7回	～
第8回	実技 ③ 「自分マップ」 (目標1,2)
第9回	プレゼンテーション・「発表」を学ぶ (目標1,2)
第10回	「私」と「私の意見」・考えのまとめ方の具体的な方法 (目標1,2)
第11回	研究テーマを模索する・グループディスカッション (目標2,3)
第12回	研究の暫定的テーマの発表と検討 (目標2,3)
第13回	論文の構成と資料収集・文献の活用について (目標3)
第14回	文書練習 ① 「美・発見」ノートに基づく発表会 (目標1,2)
第15回	論文例を読む ①・発想訓練・実技 ④色彩 (目標1,2)
第16回	文書練習 ② 読書ノートに基づく発表会 (目標1,2)
第17回	論文例を読む ②・発想訓練・実技 ⑤形 (目標1,2)
第18回	論文例を読む ③・発想訓練・実技 ⑥触感を活かす (目標1,2)
第19回	文書練習 ③ 課題文章提出 (目標1,2)
第20回	～
第21回	研究テーマと計画の設定(個人面談) (目標2,3)
第22回	～
第23回	研究計画及び研究方法の発表と討議 (目標1,2,3)
第24回	～
第25回	研究計画の作成・参考文献集め (目標2,3)
第26回	まとめ～研究テーマと計画の発表・総括講話 (目標2,3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	全体を通して，各自の研究テーマに関して自らの考えを明確に持ち，資料収集，調査・分析等の基礎を学び，卒業研究を目指して具体的に取り組めることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや制作，発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，制作・発表 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 渡辺健介「自分の答えのつくりかた－INDEPENDENT MIND」ダイヤモンド社 2009年　１,680円 ISBN： 978 -4478006139	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・実技や演習を踏まえて造形表現･教育に対する理解を深め，卒業研究に向けた基礎を学ぶ。 ・実習日程等によってはシラバスの多少の内容変更も考えられる。 ・自ら進んで取り組む意欲や積極性を持って研究を進める姿勢を望む。	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	太田　俊己
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123011
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，障害，知的障害，自閉症，実践研究
授業のねらい・概要	知的障害を中心とした障害のある子どもの教育・保育・福祉に関する実践，支援の方法について，関連する資料・文献，実際のかかわりや観察などをもとに，協議なども交えながら深める。 卒業研究につながるテーマを調べ，検討することも行い，専門ゼミナール Ⅱとも関連するようにする。
学生の達成目標	1. 知的障害を中心とした障害のある子どもへの実践や対応について理解を深める。 2. 実践や保育の内容・方法,授業,教師や保育士の支援方法を学ぶ。 3. 障害のある子どものおかれた状況,支援の必要性,課題について学ぶ。 4. 自分の関心や研究のテーマについて具体化する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 各自の紹介・ゼミの内容紹介 第2回　～ 第3回　障害やその実践を考える(目標1,2,3) ～実践の紹介資料・ビデオ等から教育あるいは保育の障害に関する

		実践内容を知る。
	第4回	～
	第5回	発表と討議 ～資料をもとにした発表(目標1,2,3) ～実践や研究の内容および支援方法・検討方法について学ぶ。
	第6回	～
	第7回	各自の関心あるテーマ・資料をもとに(目標1,2,3) ～テーマの発表(1回目)・資料調べから研究内容・方法の方向性について考える。
	第8回	～
	第9回	前期まとめ ～前期の成果と課題 後期への宿題の確認(目標4)
	第10回	後期オリエンテーション 宿題提出
	第11回	～
	第12回	発表と討議 ～宿題をもとにした発表(目標1,2,3)
	第13回	～
	第14回	各自の関心あるテーマ・資料をもとに(目標2,3,4) ～テーマの発表(2回目)・資料調べから研究内容・方法について具体化していく。
	第15回	～
	第16回	研究テーマによる研究計画の作成と検討(目標4) ～研究の内容・方法および実際の実施上の諸問題について検討する。
	第17回	～
	第18回	研究計画の発表と討議 まとめ(目標4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	関心を掘り下げて資料等を探し，発表資料も工夫してつくる。 的確に発表を行い，積極的に意見交換をする。 自分の意見やテーマについての考えを深め，他の人の関心も積極的に知ろうとする。
	評価の方法	授業への参加度 60%　発表とレポート 40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		

備考	初めの数回は検討資料を用意する。 その後は，各自が関心やテーマに基づいて関係資料や文献等を調べ，発表に用いる。 授業や保育に関する資料，映像，観察記録，実践紹介等を取り上げてかまわない。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123012
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	特別な教育的ニーズのある子どもの教育に関する文献の収集方法について学び，自分の関心のある領域においてどのような文献があるかを理解する。 これらを踏まえて，後期の学期末までに，受講者が各自の研究テーマを明確にする。
学生の達成目標	1. 文献の収集方法について理解する。 2. 自分の関心のある領域についてどのような国内外の文献があるかを理解する。 3. 収集した文献の内容について理解する。 4. 各自の研究テーマを明確にする。
授業内容	第1回　前期のイントロダクション 第2回　文献の収集方法(目標1) 第3回　図書館の利用(目標1) 第4回　データベースの利用(目標1)

第5回	インターネットの利用(目標1)
第6回	文献複写の仕方(目標1)
第7回	国内文献情報の収集(目標2)
第8回	国内文献情報の整理(目標2)
第9回	国内文献情報の分析(目標2)
第10回	国内文献情報についての発表(目標2)
第11回	海外文献情報の収集(目標2)
第12回	海外文献情報の整理(目標2)
第13回	海外文献情報の分析(目標2)
第14回	海外文献情報についての発表(目標2)
第15回	前期のまとめ
第16回	後期のイントロダクション
第17回	収集した国内文献の整理(目標3)
第18回	収集した国内文献の分類(目標3)
第19回	収集した国内文献の分析(目標3)
第20回	収集した国内文献についての発表(目標3)
第21回	収集した海外文献の整理(目標3)
第22回	収集した海外文献の分類(目標3)
第23回	収集した海外文献の分析(目標3)
第24回	収集した海外文献についての発表(目標3)
第25回	研究目的の検討(目標4)
第26回	研究対象の検討(目標4)
第27回	研究方法の検討(目標4)
第28回	研究テーマ・研究要旨の作成(目標4)
第29回	研究テーマ・研究要旨の発表(目標4)
第30回	後期のまとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

１）文献の収集方法について理解していること
２）自分の関心のある領域についてどのような国内外の文献があるかを理解していること。
３）収集した文献の内容について理解していること。
４）自分が取り組もうとする研究テーマが明確になっていること。

	評価の方法 平常点，発表，提出レポートにより評価する。 （平常点 30%，発表 30%，レポート 40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	藤田　俊明
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123013
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害児，文献調査，実践研究，ものづくり，補助具
授業のねらい・概要	特別支援学校，特別支援学級の場における，知的障害の児童・生徒の働く生活への支援に関連したテーマで，文献調査・実践研究に取り組む。 特に，実際の教育現場に関わりを持ち，自ら問題意識を高め，テーマや進路先とも関連させながら個別的な支援を丁寧に行う。 具体的には，ものづくりの現状と課題に関して，障害のある子どもの満足と教師の満足の連携及び向上に着目する。 授業理論の応用，実践データの活用を通し，仮説検証型又は仮説発見型の実証実践研究を行う。
学生の達成目標	1. 文献調査,実地調査を通し,関心分野の知識・理解を深める。 2. 実践研究を進め,障害のある子たちへの支援方法を学ぶ。 3. 成果をプレゼンテーションする力,レポートを作成する力を習得する。 4. 柔軟な発想に基づく企画力,企画を具体化する実行力,結果をつなげるフォロー力を身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション ゼミの内容と進め方

第2回	文献調査(1)知的障害児の「ものづくり」(特別支援学校)
第3回	文献調査(2)知的障害児の「ものづくり」(特別支援学級)
第4回	文献調査(3)障害の重い子のための補助具(特別支援学校)
第5回	文献調査(4)障害の重い子のための補助具(特別支援学級)
第6回	文献調査発表と討議
第7回	実地調査(1)特別支援学校及び特別支援学級
第8回	実地調査(2)特別支援学校及び特別支援学級
第9回	実地調査(3)特別支援学校及び特別支援学級
第10回	実地調査(4)特別支援学校及び特別支援学級
第11回	実地調査(5)特別支援学校及び特別支援学級
第12回	実地調査発表と討議
第13回	実践研究(1)知的障害児のための「製品」開発と「子どもの二ーズ」
第14回	実践研究(2)知的障害児のための「製品」開発と「作業工程」
第15回	実践研究(3)知的障害児のための「製品」開発と「機械工具の使用」
第16回	開発製品発表と実演 …『公開講座』
第17回	実地調査(1)特別支援学校及び特別支援学級
第18回	実地調査(2)特別支援学校及び特別支援学級
第19回	実地調査(3)特別支援学校及び特別支援学級
第20回	実地調査(4)特別支援学校及び特別支援学級
第21回	実地調査発表と討議
第22回	実践研究(1)知的障害児のための補助具と「できる状況づくり」
第23回	実践研究(2)知的障害児のための補助具と「補助具の工夫」
第24回	実践研究(2)知的障害児のための補助具と「分業化」
第25回	開発製品発表と実演 …『緑栄祭』
第26回	製品づくりの実際(1)よりよい製品の検討
第27回	製品づくりの実際(2)よりよい製品づくりの条件
第28回	製品づくりの実際(3)補助具の改良
第29回	製品づくりの実際(4)よりよい補助具の条件
第30回	レポート発表会 まとめ

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標に準じる」
	評価の方法	中間レポート課題 30%，最終レポート課題 30%，研究活動に対する主体性・協調性 20%，ゼミ運営，企画・実行における貢献 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要に応じてプリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123015
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子ども，教育，認知心理学，発達障害，自立支援
授業のねらい・概要	発達障害を中心に，子どもにかかわることなら，どんなテーマを取り上げてもかまいません。 学生の皆さんが，自らの関心・意欲に基づいて主体的に研究に取り組んでいくことが重要なねらいです。 各自の発表，ディスカッションを通して，さまざまな情報を整理し客観的な事実をもとにして，自分の考えを組み立てていけるようにすることもねらいとし，ゼミナールⅡにつなげていきます。
学生の達成目標	1. 発達障害を中心とした子どもにかかわるさまざまな問題について理解を深める。 2. 様々な情報を整理し,事実をもとにした客観的な考えを持てるようにする。 3. 自分の考えや意見を整理し発表できる。 4. 自分のテーマを見つけて,専門的に学んでいくための方法を身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション 各自の紹介・ゼミの内容紹介

第2回	～
第3回	発達障害の理解と支援について考える(目標1・2・3) ～実践の紹介資料・ビデオ等から発達障害に関する実践内容を知る。
第4回	～
第5回	発表と討議 ～資料をもとにした発表(目標1・2・3) ～実践や研究の内容および支援方法・検討方法について学ぶ。
第6回	～
第7回	各自の関心あるテーマ・資料をもとに(目標1・2・3) ～テーマの発表(1回目)・資料調べから研究内容・方法の方向性について考える。
第8回	～
第9回	前期まとめ ～前期の成果と課題 後期への宿題の確認(目標4)
第10回	後期オリエンテーション 宿題提出
第11回	～
第12回	発表と討議 ～宿題をもとにした発表(目標1・2・3)
第13回	～
第14回	各自の関心あるテーマ・資料をもとに(目標2・3・4) ～テーマの発表(2回目)・資料調べから研究内容・方法について具体化していく。
第15回	～
第16回	研究テーマによる研究計画の作成と検討(目標4) ～研究の内容・方法および実際の実施上の諸問題について検討する。
第17回	～
第18回	研究計画の発表と討議 まとめ(目標4)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	発達障害のある子どもにかかわる様々な問題について理解できたか，様々な情報を整理し事実をもとにした客観的な考えを持てるようになったかを評価の基準とする。
	評価の方法	参加態度（ 60%），発表とレポート（ 40%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業の中で随時指定する。
推薦図書等	

参考URL	
備考	予定した回で発表を行います。 互いの研究にも関心を持ち，考えを深め合うことを大事に，ゼミナール Ⅱの研究につなげていきます。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	木下　勝世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123016
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児教育，実践研究，研究方法，遊び，統合的保育
授業のねらい・概要	幼児教育の理念・方法・実践について，今日的課題をとらえ，保育の現場に即して調査，研究，考察を行う。 実践研究の進め方について学び，それに必要な力量を高め，４年次の卒業研究に備える。
学生の達成目標	1. 自分の研究に対して明確な目的意識をもち,適切な方法によって,真摯に研究を進めることができる。 2. 子どもの姿から学び,研究の目的に即した視点でその活動をとらえることができる。 3. 保育現場から得た資料を,研究の目的と方法に即して生かして用い,的確に考察することができる。 4. 広く客観的な視野の中で,研究をまとめ発表することができる。 5. 4年次の卒業研究に向けて見通しを持つことができる。

授業内容

第1回　オリエンテーション
ゼミの主となる内容・方法について知る。
受講の動機や関心を有する事柄について相互理解を図る。

第2回　～

第3回　研究テーマを設定する (目標1)
下記のテーマを参考に,自己の関心のあるテーマを考え,研究テーマを設定する。
・幼稚園における生活中心教育の実践に関する研究
・遊びを単元化する保育方法に関する研究
・幼児の遊びの発展の要因とその過程に関する研究
・統合的保育の在り方に関する実践的研究
・障害のある子の園生活の変容に関する研究

第4回　～

第5回　保育現場を知る
主として参観する A幼稚園について,保育の特色,教育課程,指導計画等の概要を学ぶ。
幼稚園の資料を読み,保育の実際を知る。

第6回　～

第7回　個々の子どもと保育のあり方について知る
特別な支援を必要とする子を中心に,個々の子どもについての観点を学ぶ。
障害のある子を含む保育の進め方について学ぶ。

第8回　参観の相談
参観の時間,持ち物,交通方法などの実際を確認する。
観察記録の書き方,提出方法について確認する。
観察の主たるポイントについて,各自の課題を明確にする。

第9回　～

第10回　幼稚園訪問 -6月下旬～7月上旬- (目標2,3)
協力を依頼し,研究の内容と方法の理解を得,保育現場への関わり方を決める。
保育現場に入り,子どもと共に活動しながら,研究に即した資料を得る。

第11回　～

第12回　中間のまとめ (目標3,4)
これまで得た記録や資料の内容と,考察の経過を整理し,後半の研究の進め方を検討する。

第13回　～

第14回　現場観察 -9月下旬～ 12月中旬- (目標2,3)
保育現場に入り,子どもと共に活動しながら,研究に即した資料を得る。

第15回　～

第16回　研究のまとめ (目標3,4,5)
これまで保育現場で得た記録や資料の内容と,考察の経過を整理する。
全体を通して考察し,研究の結果得たものを整理し,発表できるようにする。

	第17回	研究報告発表 (目標4) 研究について発表し,第3者の批評を得る。
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	学生の達成目標１～４の達成度について，研究レポートによって，また全期間を通しての取り組みを通して評価する。
	評価の方法	研究レポートの内容評価 70%　研究に対する取り組み評価 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	
担当教員	大木　みわ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123017
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育相談，学校教育相談，事例研究，特別支援教育コーディネーター
授業のねらい・概要	生き難さをかかえた子らを早期に発見し，支援する方法・姿勢を学び，事例研究をまとめる。
学生の達成目標	1. 生き難さをかかえた子どもの存在を知る。 2. 生き難さのさまざまな姿・特徴を知る。 3. 事例研究から支援の方法を学ぶ。 4. 事例研究のまとめ方を身につける。
授業内容	第1回　～ 第2回　自閉症事例を書籍から理解する「光とともに」1巻～7巻(目標1) 第3回　～ 第4回　自閉症事例を書籍から理解する「我・自閉症に生まれて」「自閉症児イアンの物語」

		(目標1,2)
	第5回	～
	第6回	アスペルガー症候群を書籍から理解する「うわわ手帳とわたしのアスペルガー症候群」(目標1,2)
	第7回	カウンセリングの基本を学ぶ(1)カウンセリングの理論(目標3)
	第8回	カウンセリングの基本を学ぶ(2)カウンセリングの基本技法(目標3)
	第9回	カウンセリングの基本を学ぶ(3)カウンセリングの日常生活への応用(目標3)
	第10回	幼・小教師のおこなった事例研究を通して,こども理解を深め事例研究の方法を学ぶ。 毎回1事例をテキストから選ぶ。 事例1.体育が好きになった A君(目標1,2,4)
	第11回	事例2.勉強につまずき始めた A男への援助(目標1,2,4)
	第12回	事例3.授業に乗れない児童への支援(目標1,2,4)
	第13回	事例4.「教師」を目標にした6年女子の例(目標1,2,4)
	第14回	事例5.自己理解を深めた生活科の授業の工夫(目標1,2,4)
	第15回	事例6.不登校女児にメンタルフレンドの協力(目標1,2,4)
	第16回	事例7.カウンセリングの手法を取り入れた授業(目標1,2,4)
	第17回	事例8.乱暴な男児を取り巻く学級集団の実践(目標1,2,4)
	第18回	事例9. LDの A君の自己肯定感を増やした支援(目標1,2,4)
	第19回	事例 10.幼稚園でのつまずきへの気付き(目標1,2,4)
	第20回	教育相談の基本技法を学ぶ 1.カウンセリング(目標2,3)
	第21回	教育相談の基本技法を学ぶ 2.プレイセラピイ(目標2,3)
	第22回	教育相談の基本技法を学ぶ 3.絵画療法(目標2,3)
	第23回	教育相談の基本技法を学ぶ 4.絵画療法(目標2,3)
	第24回	ことばの教室見学(目標3)
	第25回	相談機関見学(目標3)
	第26回	特別支援教育コーディネーターとの交流(目標3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	教育相談の基本的考え方を身につける。
	評価の方法	読書感想（ 10%），事例へのコメント（ 50%），相談技法（ 20%），見学（ 20%）により総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「学校教育相談学ハンドブック」（ほんの森出版） 「ピアヘルパーハンドブック」（図書文化）
推薦図書等	
参考URL	
備考	実践事例から積極的に学ぶ謙虚さと熱意があること。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	
担当教員	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123018
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子ども支援，学習権，ひとり親支援施策
授業のねらい・概要	
学生の達成目標	1. 子どもを取り巻く現状について理解することができる。 2. 子ども支援の現場に参加し,その現状について説明することができる。 3. 国,地方自治体,民間団体による子ども支援の現状と課題について指摘することができる。
授業内容	第1回　ゼミナールの進め方について 第2回　子ども家庭福祉の考え方について (目標1) 第3回　子ども家庭福祉の理念について (目標1) 第4回　子ども家庭福祉を取り巻く状況について (目標1) 第5回　～

第6回	子ども支援事業業への参加にむけての事前学習 (目標2)
第7回	～
第8回	子ども支援事業参加報告 ①(履修学生による事業参加報告)と意見交換 (目標2)
第9回	～
第10回	子ども支援事業について考える(資料や実践映像を用いて) (目標3)
第11回	～
第12回	子ども支援事業参加報告 ②(履修学生による事業参加報告)と意見交換 (目標2)
第13回	後期の進め方について
第14回	～
第15回	子ども支援事業と子どもの学習権保障 (目標1,3)
第16回	～
第17回	ひとり親家庭に対する福祉サービスについて (目標1,3)
第18回	～
第19回	ひとり親家庭をめぐる理解についての学習 (目標1,3) -ひとり親家庭等を対象とした支援事業,子育てと自立,子育てと生活支援,就労支援,養育費,経済的支援
第20回	後期の演習を踏まえた形での子ども支援事業参加報告書の作成と検討 (目標1,2,3)
第21回	年間活動報告の発表と討議 (目標1,2,3)
第22回	1年のまとめ (目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	子どもを取り巻く現状について理解できていることと，子ども支援の現場での取り組み状況を子ども支援の現状を含めて整理し報告でき，かつ現状の課題についての理解があること。
	評価の方法	授業への参加度（ 40%），発表及びレポート（ 60%）で評価を行う。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 指定しません。必要に応じて資料を配付します
推薦図書等	
参考URL	

備考

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	
担当教員	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123019
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児教育，観察調査，教材研究，教材開発
授業のねらい・概要	主として幼児教育に関わる保育内容や指導法について，教材開発や授業研究等，先行研究，国際的な比較研究を通して，よりよいものを追究する。 幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークや保育環境・教材開発の面から子どもが健全に育つためには何が必要か追究する。 学期末には学生自身の研究テーマを見つけ，研究意欲を持つようにする。
学生の達成目標	1. 学生自身が自分を見つめ自分探しを行う。自分の興味関心を明確にし，個々のテーマを見つける。 2. 幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークを行いながら研究テーマをより明確にする。 3. 研究テーマに沿った教材開発や授業研究を行う。 4. 教材開発や授業研究を現場で実践し,その結果をもとに研究内容を深める。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の進め方)

第2回	学生自身の興味関心等の意見交換(目標1)
第3回	課題設定と方法等の相談(目標1)
第4回	エコグラムについて(目標1)
第5回	エコグラムの実際(目標1)
第6回	保育現場の教材研究について(目標2)
第7回	保育現場の教材研究の実際(目標2)
第8回	保育現場の教材研究の作成(目標2)
第9回	保育現場の教材研究の考察(目標2)
第10回	保育現場の教材研究の考察,再検討(目標2)
第11回	関連研究会に参加 関係資料の収集(目標1)
第12回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究(目標1)
第13回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換(目標1)
第14回	各自の研究課題の発表・協議(目標1)
第15回	幼稚園等,子どものいる施設等の訪問(目標2)
第16回	幼稚園等,子どものいる施設での観察(目標2)
第17回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査(目標2)
第18回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ(目標2)
第19回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ データ等集計(目標4)
第20回	調査結果から 教材開発について意見交換(目標3)
第21回	個々の教材開発の設定(目標3)
第22回	教材開発の準備(目標3)
第23回	教材開発の計画(目標3)
第24回	教材開発の製作(目標3)
第25回	教材開発と考察(目標3)
第26回	教材開発の完成(目標3)
第27回	教材開発の現場での実践(目標4)
第28回	教材開発の現場での実践と考察(目標4)
第29回	調査結果と研究課題の修正
第30回	調査結果の発表と研究課題の修正

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	課題設定やその取り組みを考慮して，研究報告・発表等の内容

	を基準とする。 評価の方法 レポート・発表（ 70%）　研究課題への取り組み（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新保育資料集」ミネルヴァ書房 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房
推薦図書等	
参考URL	
備考	・幼稚園や子どものいる施設等での長期に観察・参加によるフィールドワークが必要です。 ・関連研究会に出席し，研究者の情報を集めます。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123020
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	統合保育，障害児保育，インクルージョン，観察法，文献調査・抄読
授業のねらい・概要	本ゼミナールは，４年次の専門ゼミナール Ⅱ及び卒業研究につなげるため，研究の主な手法となる「観察法」に関する基礎的な知識を身につけ，実際の技術を習得することに重点を置きながら展開する。 また併行して，自分の興味・関心のある分野に関する文献調査および抄読を行い，その領域に関する知見を深めるとともに，自分がより深く知りたいと思えるテーマを１つ以上設定する。
学生の達成目標	1. 観察法に関する基礎的な知識を身につける 2. 演習を通して,観察法の技術を習得する 3. 文献調査等を通して,自らの興味のある分野の知識を深める 4. 文献調査等を通して,自らがより深く知りたいと思えるテーマを1つ以上設定する
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　観察法について(1)(目標1) 第3回　観察法について(2)(目標1)

第4回	前期・観察法演習(1)(目標1,2)
第5回	前期・観察法演習(2)(目標1,2)
第6回	前期・観察法演習(3)(目標1,2)
第7回	文献検索の方法について(目標3)
第8回	文献抄読(1)(目標3)
第9回	文献抄読(2)(目標3)
第10回	文献抄読(3)(目標3)
第11回	文献抄読(4)(目標3)
第12回	文献抄読(5)(目標3)
第13回	文献抄読(6)(目標3)
第14回	中間発表会に向けての資料作成
第15回	中間発表会(1)(目標3・4)
第16回	中間発表会(2)(目標3)
第17回	後期オリエンテーション
第18回	後期・観察法演習(1)(目標1,2)
第19回	後期・観察法演習(2)(目標1,2)
第20回	後期・観察法演習(3)(目標1,2)
第21回	後期・観察法演習(4)(目標1,2)
第22回	後期・観察法演習(5)(目標1,2)
第23回	後期・観察法演習(6)(目標1,2)
第24回	研究テーマに関する個別相談(1)(目標4)
第25回	研究テーマに関する個別相談(2)(目標4)
第26回	テーマに基づく文献調査(1)(目標3,4)
第27回	テーマに基づく文献調査(2)(目標3,4)
第28回	テーマに基づく文献調査(3)(目標3,4)
第29回	総括(レポート発表会)(1)(目標3,4)
第30回	総括(レポート発表会)(2)(目標3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に準じる。
	評価の方法	観察法演習に関するレポート 40%（前期 20%，後期 20%），中間発表会（発表用レジュメおよび発表態度，傾聴態

	度） 20%，総括発表会（中間発表会と同様） 30%，授業に対する意欲・授業態度等 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要に応じてプリントを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123021
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校における英語教育，言語習得，子どもの発達と教育
授業のねらい・概要	子どもの知的・心理的発達，および小学校教育全体のなかでの位置づけ等を考慮して総合的に考える。
学生の達成目標	1. 外国語教育の理論と背景を理解する。 2. 小学校現場で何をどう進めるかを理解する。 3. 実際の指導と教材を具体的に考える。
授業内容	第1回　外国語教育の意義 (以下目標1) 第2回　小学校英語導入の背景と現状・課題 第3回　海外の初等外国語教育 第4回　言語習得論-母語と第二言語の習得 第5回　子どもの脳の発達と早期教育 第6回　脳科学から小学校英語教育への応用 第7回　発達心理学と小学校英語教育

第8回	言語のしくみとコミュニケーション能力
第9回	国際理解教育と英語教育
第10回	求められる教員の資質
第11回	英語力の向上と鍛え方
第12回	英語教育全体における小学校英語教育の役割
第13回	小学校英語教育の目標の立て方 (以下目標2)
第14回	校内の環境作り,共通理解と校内研修
第15回	カリキュラム・年間指導計画作りのポイント
第16回	指導者と指導形態
第17回	基本的な外国語教授法
第18回	クラスルーム・イングリッシュの活用
第19回	マルチメディア教材等の活用法
第20回	1時間の指導の組み立て方
第21回	教材の使い方・選び方と開発方法
第22回	評価の意義と評価方法
第23回	指導の基本と留意ポイント (以下目標3)
第24回	あいさつ,ウォーミングアップ,復習
第25回	導入-新しい言語材料の導入とテクニック
第26回	基本-ドリル活動のバリエーション
第27回	発展-さまざまな展開活動
第28回	1時間の振り返り,自己評価表の実際
第29回	実際の単元展開例
第30回	まとめ (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	プレゼンテーションやディスカッション等の授業中の活動（ 50%）, 課題等の提出物（ 50%）を対象として総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

岡　秀夫・金森　強，『小学校英語教育の進め方』，成美堂，2007．2,500円（税別）
ISBN：4-7919-7141-8

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	高野　良子
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1123022
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の社会学，実証研究，定量的研究，定性的研究，教育問題
授業のねらい・概要	本ゼミナール Ⅰ（教育社会学ゼミ）では，教育を社会的事象として捉え，統計資料，資（史）料，量的・質的調査データに基づき，「事実は～である」「問題は～にある」という立場からの実証的な研究を行う力を養う。 当然視されている通念を問い直し，個人の教育体験を客観視し，相対化する能力を獲得することを目指す。 前半は文献を読むことを通じて，教育社会学的なアプローチの仕方を学ぶ。後半は，実践をとおして研究の方法を学ぶ。
学生の達成目標	1. 教育が直面している問題に向き合うことにより,個人の教育体験を客観視し相対化する能力が身につく。 2. 先行研究を批判的に読む力が身につく。 3. 文献講読と調査研究をとおして,卒業研究に生かす力を獲得する。 4. 現代の教育の諸相をわかりやすく構成し,発表することができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション:専門ゼミナール学習の目的と年間授業計画 第2回　担当教員の専門領域の概略(目標1,2)

第3回	担当教員の研究の紹介(目標1,2)
第4回	文献を読む: ①教育社会学的なアプローチの仕方「学校教育」(目標1,2,3)
第5回	文献を読む: ②教育社会学的なアプローチの仕方「家庭教育」(目標1,2,3)
第6回	文献を読む: ③教育社会学的なアプローチの仕方[教育とジェンダー」(目標1,2,3)
第7回	文献を読む: ④教育社会学的なアプローチの仕方「教育の病理」(目標1,2,3)
第8回	文献を読む: ⑤教育社会学的なアプローチの仕方「高等教育」(目標1,2,3)
第9回	研究テーマと方向性に関する発表 ①個人発表(目標1,4)
第10回	研究テーマと方向性に関する発表 ①個人発表(目標1,4)
第11回	研究の方法: ①定量的研究「テーマの選定」(目標3)
第12回	研究の方法: ②定量的研究「調査項目の選定」(目標3)
第13回	研究の方法: ③定性的研究「面接調査」(目標3)
第14回	研究の方法: ④定性的研究「調査対象と手続き」(目標3)
第15回	論文の書き方:課題設定(目標3)
第16回	論文の書き方:引用参考文献の書き方・註のつけ方・引用の示し方(目標3)
第17回	研究テーマに関する中間発表 ②(目標1,4)
第18回	研究テーマに関する中間発表 ②(目標1,4)
第19回	調査研究の実践 ①(目標3)
第20回	調査研究の実践 ②(目標3)
第21回	調査研究の実践 ③(目標3)
第22回	調査研究の実践 ④(目標3)
第23回	調査研究の実践 ⑤(目標3)
第24回	調査研究の実践 ⑥(目標3)
第25回	調査研究の実践 ⑦(目標3)
第26回	調査研究の実践 ⑧(目標3)
第27回	調査研究の実践 ⑨(目標3)
第28回	研究テーマに関する最終発表 ③(目標1,4)
第29回	研究テーマに関する最終発表 ③(目標1,4)
第30回	総括

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	基本的には，前期と後期２回の課題レポートによって評価するが，レポーターとしての報告，ゼミ中の発言等も評価対象として加味する。
	評価の方法	平常点 50%＋課題点 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特に使用しない。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	自らの関心に応じてテーマを選択し，問題意識をもって主体的に取り組むことが要求される。	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123023
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児期，社会性の発達，自分の関心，テーマの明確化
授業のねらい・概要	１．乳幼児期の情緒的行動の意味を考えながら読み取り，関連する研究を参考にできるようにする。 ２．乳幼児期の情緒発達研究を批判的に読み，自分なりの意見を持ち，考えをまとめられるようにする。 ３．乳幼児期の発達に関して，文章化や討論を通じて自分の関心や問題意識を探り明確化する。 ４．自分が関心を持つ先行研究を調べ，自分の研究テーマを明確化できるようにする。
学生の達成目標	1. 乳幼児の行動に関する記述や観察,関連研究を結びつけて,行動の意味や要因を考えられる 2. 乳幼児の行動を発達的にとらえ,自分なりの考えをまとめて,発表できる。 3. 乳幼児期の発達に関して,自分の視点と他者のそれとを比較し,自分の視点を深められる。 4. 乳幼児期の発達に関する先行研究などを調べて検討し,自分の研究テーマを定める。

授業内容	第1回	乳幼児期の情緒の現れ方と性格との関連を理解する(目標1,2)
	第2回	乳幼児期の情緒発達の筋道を理解しながら,認知や人間関係との関連を学ぶ(目標1,2)
	第3回	乳幼児期の社会性の発達に関する研究を知り,問題点を考える(目標1,2)
	第4回	乳幼児期の人の心の理解に関する研究を知り,問題点を考える(目標1,2)
	第5回	乳幼児の情緒をテーマとする記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)
	第6回	乳幼児の社会性に関する行動記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)
	第7回	乳幼児の遊びに関する記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標2,3)
	第8回	乳幼児の人の心の理解に関する行動記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)
	第9回	研究テーマの決め方や研究の方法について学ぶ(目標3,4)
	第10回	乳幼児期の発達に関する研究論文を読み合わせて,意見を述べ合う(目標1,2)
	第11回	乳幼児期の発達に関する研究論文を批判的に読み,改善すべき点について考える(目標2,3)
	第12回	学生自身が興味あるテーマについて,なぜ興味があるのかも含めて発表する(目標4)
	第13回	学生自身が情緒に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
	第14回	学生自身が社会性発達に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
	第15回	学生自身が個性の発達に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
	第16回	学生自身が遊びに関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
	第17回	社会性発達に関する学会発表論文を読み,主旨や研究結果を要約し,意見をまとめる(目標2,3)
	第18回	個性の発達に関する学会発表論文を読み,主旨や研究結果を要約し,意見をまとめる(目標2,3)
	第19回	研究論文における論理的思考について理解する(目標2,3)
	第20回	学生自身が情緒に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標3,4)
	第21回	学生自身が社会性発達に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標3,4)
	第22回	学生自身が個性の発達に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標3,4)
	第23回	学生自身が遊びに関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標3,4)

第24回	研究のための方法について理解する(目標3,4)
第25回	研究のための方法の問題点について理解する(目標3,4)
第26回	学生が関心を持っているテーマと目的について発表し,討論する(目標2,3,4)
第27回	学生が関心を持っているテーマの研究の仕方を発表し,討論する(目標2,3,4)
第28回	学生が関心を持っているテーマの予想される結果を発表し,討論する(目標2,3,4)
第29回	社会性発達に関する似たようなテーマの論文を複数読んで,比較検討する(目標3,4)
第30回	個性の発達に関する似たようなテーマの論文を複数読んで,比較検討する(目標3,4)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 子どもの行動の意味が分かる，自分の考えを文章化し発表できる，他者の考えと比較できる。 評価の方法 レポート 30%，発表 40%，討論 30%に基づいて評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特にない。
推薦図書等	
参考URL	
備考	子どもの情緒や社会性の発達に関して興味を持つ学生向けのゼミナールである。

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123024
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	哲学，倫理学，論理学，情報科学，情報倫理学，言語理解，合理性
授業のねらい・概要	卒業研究の準備となるように，哲学・倫理学・論理学・情報科学分野の基礎的な知識と論理的思考法を獲得し，関連する諸問題についての背景知識と先行研究について情報を収集し整理する。 自身の関心のあるトピックを特定し，それについて概念分析を行えるようになることを目指す。 また，研究成果を他者にプレゼンテーションするために，概念分析の意義を理解する。本研究室で選択可能なテーマの例は，下記のとおりである。 ・哲学的，倫理学的な問題一般についての研究 ・人間の言語理解や論理的思考についての研究・情報機器と人間との関わりについての研究 ・情報教育の現状と今後の課題についての研究・依存症等の人間の合理的でない行為についての応用哲学的研究
学生の達成目標	1. 自身の関心のある領域を特定し,文献調査を行うスキルを獲得する。 2. 哲学・倫理学の中心的手法である概念分析の意義を理解できるようになる。 3. 概念分析の基礎である論理的思考のスキルを体得し,レポート等に活用できるようになる。

4. 自身で選択したトピックの背景と問題点とを論理的に説明できるようにする。

5. 情報科学に関連するトピックについて,概要を理解し,独自の主張を行えるようになる。

授業内容

第1回 イントロダクション:専門ゼミナール1の概要説明

第2回 哲学・倫理学における文献調査の意義(目標2)

第3回 ～

第4回 文献収集(1)～(3):文献調査の方法,インターネットの活用方法の説明(目標1)

第5回 中間報告(1):参考文献収集結果の報告

第6回 ～

第7回 参考文献の調査:文献の要約と概念分析(目標1)

第8回 ～

第9回 中間報告(2):要約レポート発表:概念を言語で分析し表現するために(目標4)

第10回 論理的思考(1):論理的思考の一般的な考え方(目標3)

第11回 論理的思考(2):哲学・倫理学との関連(目標3)

第12回 論理的思考(3):情報科学との関連(目標3,5)

第13回 中間報告(3):レポート課題の発表

第14回 トピックの選択と選択理由の明示:概要説明

第15回 ～

第16回 選択したテーマの理論的背景の分析と関連する概念の整理(1)～(3)(目標4)

第17回 中間報告(4):概念分析に関するプレゼンテーション発表

第18回 哲学・倫理学における思考実験:概要説明(目標2)

第19回 ～

第20回 概念分析(1)～(3)(目標2)

第21回 中間報告(5):レポート課題の発表

第22回 ～

第23回 選択したトピックと情報化社会との関連の考察(1)～(2)(目標5)

第24回 ～

第25回 選択トピックについてのプレゼンテーションとディスカッション

第26回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	上記達成目標の２／３以上を達成することを合格基準とします。
	評価の方法	ゼミナールへの参加度 60%，課題の達成度 40%の合計で評価します。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	電子メールで連絡がとれることが望ましいです。 本研究室では，哲学，倫理学および情報科学の分野における概念的分析を中心に研究を行うため，テーマの種類や分野だけでなく，研究の方法論を重視します。 選択するテーマの内容は基本的に自由ですが，上記キーワードで挙げられているものと（少しでも）関連するものに限ります。	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123025
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動生理学，神経生理学，運動制御，実験実習，文献抄読
授業のねらい・概要	前半は運動遂行に伴う神経系を中心とした生理的変化について，その基礎を理論と演習を織り交ぜながら学習する。 後半は，実験実習および当該分野の文献調査等により，身体運動の見識を深めていくと同時に，実験手法を習得することを目的とする。 ４年次の専門ゼミナール Ⅱおよび卒業研究につなげるため，本科目では基礎的・基本的な知識及び手法の獲得に重点を置く。
学生の達成目標	1. 講義・文献調査等を通して,自らの興味のある分野の知識を修得すること。 2. 実験方法・手順の基礎を理解し,再現性の高い実験手技を修得すること。 3. 実験データの取り扱い方(データ処理と統計分析)を修得し,研究を行う基礎的な力を修得する。 4. 実験などで得られた結果から客観的な考察ができ,4年次の卒業研究に繋げられる成果を得ること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,2,3,4)

第2回	機能解剖学(1);関節と運動(目標1)
第3回	機能解剖学(2);骨・筋(目標1)
第4回	機能解剖学(3);神経・脳(目標1)
第5回	運動生理学(1);神経の興奮と伝導(目標1)
第6回	運動生理学(2);運動単位と筋線維組成(目標1)
第7回	運動生理学(3);運動単位の動員と調節(目標1)
第8回	運動生理学(4);受容器と感覚情報(目標1)
第9回	運動生理学(5);脊髄反射(目標1)
第10回	運動生理学(6);神経回路の興奮と抑制(目標1)
第11回	トレーニング・運動学習と神経系の適応(1)(目標1)
第12回	トレーニング・運動学習と神経系の適応(2)(目標1)
第13回	データの読み方(データ処理と統計分析を含む)(1)(目標3,4)
第14回	データの読み方(データ処理と統計分析を含む)(2)(目標3,4)
第15回	実験実習;力発揮と筋電図(1)(目標2,3,4)
第16回	実験実習;力発揮と筋電図(2)(目標2,3,4)
第17回	実験実習;反射と運動(1)(目標2,3,4)
第18回	実験実習;反射と運動(2)(目標2,3,4)
第19回	実験実習;筋疲労(1)(目標2,3,4)
第20回	実験実習;筋疲労(2)(目標2,3,4)
第21回	実験実習;脳波(1)(目標2,3,4)
第22回	実験実習;脳波(2)(目標2,3,4)
第23回	文献抄読(1)(目標1,2,3,4)
第24回	文献抄読(2)(目標1,2,3,4)
第25回	文献抄読(3)(目標1,2,3,4)
第26回	文献抄読(4)(目標1,2,3,4)
第27回	文献抄読(5)(目標1,2,3,4)
第28回	文献抄読(6)(目標1,2,3,4)
第29回	文献抄読(7)(目標1,2,3,4)
第30回	総括(目標1,2,3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	学習内容の習得度をレポート課題にて評価する。実験手技・手法の修得度についても評価の対象とする。

	また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
評価の方法	レポート課題 60%，実験手技・手法等の修得度 20%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 勝田　茂『入門運動生理学』杏林書院 ISBN： 4764410877
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅰ
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123026
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子育て支援，親子支援，親と子どもと保育者の関係性，保育実践過程分析，質的研究
授業のねらい・概要	本ゼミナールでは，専門ゼミナール Ⅱでの課題研究に向けた基礎的な知識や手法を獲得する。 研究に必要な知識，手法等の習得と同時に，実践現場での学びやこれまでの科目学習における問題意識や関心の高い事柄に対して継続して検討し，報告して共有していく。 また，実践者として有効な経験値となるよう積み重ねていく。 なお，本ゼミナールではの児童福祉，保育の領域を扱うが，専門的な研究領域と研究手法については，上記「授業のキーワード」に代表される。
学生の達成目標	1. これまでの学習から,問題意識や関心の高い事柄を持ち,継続して検討する。 2. 研究における基礎的な知識や手法を習得する。 3. 報告書作成や報告発表における必要なスキルを習得する。 4. 上記のことをゼミ生間で共有し,実践に有効な経験値として蓄積する。
授業内容	第1回　　オリエンテーション

第2回	各自の発表1(1)問題意識,関心の高い事柄について発表 ① (目標1・4)
第3回	各自の発表1(2)問題意識,関心の高い事柄について発表 ② (目標1・4)
第4回	文献抄読(1)子どもの権利に関する文献 ① (目標2・4)
第5回	文献抄読(2)子どもの権利に関する文献 ② (目標2・4)
第6回	文献抄読(3)親子の関係性に関する文献 ① (目標2・4)
第7回	文献抄読(4)親子の関係性に関する文献 ② (目標2・4)
第8回	文献抄読(5)興味関心に合わせた文献 ① (目標2・4)
第9回	文献抄読(6)興味関心に合わせた文献 ② (目標2・4)
第10回	各自の発表2(1)テーマ設定 ① (目標1・4)
第11回	各自の発表2(2)テーマ設定 ② (目標1・4)
第12回	研究の基礎的な知識と手法(1)先行研究の方法 (目標2)
第13回	研究の基礎的な知識と手法(2)研究のデザイン (目標2)
第14回	研究の基礎的な知識と手法(3)演習 (目標2)
第15回	前期のまとめ,後期の確認
第16回	各自の発表3(1)先行研究と考察 ① (目標1・4)
第17回	各自の発表3(2)先行研究と考察 ② (目標1・4)
第18回	各自の発表3(3)先行研究と考察 ③ (目標1・4)
第19回	各自の発表3(4)先行研究と考察 ④ (目標1・4)
第20回	報告のスキル(1) pptスキル (目標3)
第21回	報告のスキル(2)プレゼンテーションスキル (目標3)
第22回	報告のスキル(3)報告書作成スキル (目標3)
第23回	各自の発表4(1)報告発表の進捗状況報告 ① (目標1・4)
第24回	各自の発表4(2)報告発表の進捗状況報告 ② (目標1・4)
第25回	各自の発表4(3)報告発表の進捗状況報告 ③ (目標1・4)
第26回	各自の発表4(4)報告発表の進捗状況報告 ④ (目標1・4)
第27回	各自の発表5(1)報告会リハーサル ① (目標1・3・4)
第28回	各自の発表5(2)報告会リハーサル ② (目標1・3・4)
第29回	各自の発表6(1)報告会 ① (目標1・3・4)
第30回	各自の発表6(2)報告会 ② (目標1・3・4) 全期のまとめ

	予習
予習・復習の内容	復習
	展開

成績評価	評価の基準 上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。 評価の方法 参加内容 50%，研究成果・報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は指定せず，資料を随時配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	高野　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123023
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の社会学，実証的な研究，定量・定性的調査，教育とジェンダー，現代の教育問題
授業のねらい・概要	ゼミナール Ⅱ（教育社会学ゼミ）は，ゼミナール Ⅰの学びの上に立つ。当然視されている通念を問い直し，個人の教育体験を客観視し，相対化する能力を養う。 併せて，さまざまなデータや調査を通して教育社会学的分析の方法や文献の読み方を習得し，卒業研究の作成に資することを目的とする。
学生の達成目標	1. 教育が直面している問題に向き合うことにより,個人の教育体験を客観視し相対化する能力が身につく。 2. 先行研究を批判的に読む力が身につく。 3. 学びの集大成として,卒業論文へつなげることができる。 4. 最終回の卒業研究発表の場で,自らの卒業論文をわかりやすく構成し,プレゼンする力を獲得する。
授業内容	第1回　オリエンテーション:専門ゼミナール Ⅱの目的と年間授業計画(目標1)

第2回	担当教員の研究 ①「教育とジェンダー」「教育分野の男女共同参画」(目標1,2)
第3回	担当教員の研究 ②「少子社会における子育て環境」「教師のキャリア形成」(目標1,2)
第4回	文献を読む:教育問題とそれへの教育社会学的なアプローチの仕方A(目標1,2)
第5回	文献を読む:教育問題とそれへの教育社会学的なアプローチの仕方B(目標1,2)
第6回	文献を読む:教育問題とそれへの教育社会学的なアプローチの仕方C(目標1,2)
第7回	文献を読む:教育問題とそれへの教育社会学的なアプローチの仕方D(目標1,2)
第8回	文献を読む:教育問題とそれへの教育社会学的なアプローチの仕方E(目標1,2)
第9回	研究テーマに関する発表 ①(目標3)
第10回	研究テーマに関する発表 ①(目標3)
第11回	研究の方法:定性的研究(面接調査)(目標3)
第12回	研究の方法:定性的研究(参与観察)(目標3)
第13回	研究の方法:文献・統計資料 ①(目標3)
第14回	研究の方法:文献・統計資料 ②(目標3)
第15回	論文の書き方:課題設定等(目標3)
第16回	論文の書き方:引用参考文献の書き方・註のつけ方・引用の示し方(目標3)
第17回	研究テーマに関する中間発表 ②(目標3)
第18回	研究テーマに関する中間発表 ②(目標3)
第19回	調査研究の実践 ①(目標3)
第20回	調査研究の実践 ②(目標3)
第21回	調査研究の分析 ①(目標3)
第22回	調査研究の分析 ②(目標3)
第23回	調査研究の分析 ③(目標3)
第24回	調査研究の分析 ④(目標3)
第25回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ①(目標3)
第26回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ②(目標3)
第27回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ③(目標3)
第28回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ④(目標3)
第29回	研究テーマ(卒業研究)に関する報告書の作成 ②(目標4)
第30回	総括(目標4)

予習・復習の内容

予習

	復習 展開	
成績評価	評価の基準	基本的には，前期と後期の課題レポートによって評価するが，レポーターとしての報告，ゼミ中の発言等も評価対象として加味する。
	評価の方法	平常点 50%＋課題点 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に使用しない。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	自らの関心に応じてテーマを選択し，問題意識をもって主体的に取り組むことが求められる。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	浦野　俊則
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	書写教育，漢字，仮名，書き方，指導法
授業のねらい・概要	漢字や仮名に関する理解や文字の書き方とその指導法に関して研究考察し，知見を深める。
学生の達成目標	1. 漢字や仮名に関する理解を深める。 2. 文字の書き方に関する理解を深める。 3. 文字の書き方の指導に関する理解を深める。
授業内容	第1回　総論1漢字の文化(目標1,2,3) 付,研究テーマの例 第2回　総論2仮名の文化(目標1,2,3) 付,研究テーマの例 第3回　中国における漢字の成立と書体の発生(目標1) 第4回　殷王朝の文化と甲骨文字の発展(目標1,2) 第5回　殷王朝の文化と金文の興隆(目標1,2) 第6回　西周時代前期の政治状況と金文の発達(目標1,2) 第7回　西周時代前期の文化と金文の発達(目標1,2)

第8回	西周時代中期の侯国と金文の地域性(目標1,2)
第9回	西周時代中期の文化と金文の使用範囲の拡大(目標1,2)
第10回	西周時代晩期における金文の多様化(目標1)
第11回	春秋時代における金文と様式の多様化(目標1,2)
第12回	春秋時代における簡牘の文字と書体の分化(目標1,2)
第13回	戦国時代における金文と簡牘の文字(目標1,2)
第14回	戦国時代における漢字の用途の拡大と書体の進化(目標1,2)
第15回	秦の天下統一と文字統一及び書体(目標1)
第16回	漢時代の書体と書法1 碑刻の文字(目標1,2)
第17回	漢時代の書体と書法2 肉筆の文字(目標1,2)
第18回	魏晋時代の石刻文字と紙文書(目標1)
第19回	南北朝随唐時代の文字と日本上代の文字(目標1)
第20回	日本における漢字の受容(目標1,2)
第21回	日本における仮名の発達(目標1,2)
第22回	日本における漢字仮名交じり文の発達(目標1,2)
第23回	日本上代から近世における文字学習の展開(目標1)
第24回	日本近代における漢字政策,仮名政策(目標1)
第25回	現代学校教育における文字指導と書写指導(目標1,2,3)
第26回	漢字の成り立ちと漢字指導1 現状の確認(目標2,3)
第27回	漢字の成り立ちと漢字指導2 文字学の進化と学習指導(目標2,3)
第28回	読むための文字と手書きの文字(目標1,2,3)
第29回	手書き文字の習慣とその伝承(目標1,2,3)
第30回	漢字・仮名の文化,その伝承と教育(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業内容の理解，課題レポートへの意欲的な取り組み，理解した内容を生活や職業に役立てようとする意志。
	評価の方法	課題レポート（ 70%）及び授業における意欲・態度（ 30%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 （使用しない）

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	貫井　正納
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理科教育学，教育方法，教育評価，観察，実験，教材開発
授業のねらい・概要	小学校理科教育に関わる最新の教育学的な内容の修得，教材論，指導論，子どもの自然に対する認知論等の基礎的な領域についての知識を習得する。 それら基礎的な知識を活用して，子どもの実態に即した授業設計や授業評価の方法の開発を試みる。特に子どもの自然認識の実態についてのアセスメントの方法を検討する。

学生の達成目標	1. 理科教育学について視野を広めることが出来る。得意な領域を持つことが出来る。 2. 実践報告,論文等を読み,自然科学,科学技術,科学教育(理科教育)について自分なりの考えを持つことが出来る。 3. 主体的に学習に取り組み,自分で研究テーマを見つけるため,先行研究の検索が出来る。 4. 教育現場での理科教育の実践を学ぶことが出来る。 5. 研究テーマを決定し,先行研究の収集,研究方法の決定と推進に努める。 6. 研究過程のポートフォリオ作成,途中経過の発表と評価 7. 卒業論文作成と論文発表
授業内容	第1回 ～ 第2回 研究方法の習得 ① 文献検索の仕方 図書館の利用 Web検索 ② 論文の読み方,特にクリティカルな視点で読み取る ③ 購読論文の記録の仕方 2.研究テーマの絞り込み 小学校学習内容より観察,実験項目の選択(1,2,3,4,5,6,) 第3回 ～ 第4回 ① 学習指導要領と自然概念の構成 ② 研究テーマ内容の構造分析 ③ 研究テーマにそって既成の観察実験器具による観察実験の試行 ④ 試行の結果の分析方法の検討と改良点の検討 ⑤ 中間発表 3.観察,実験器具の開発と試行(3,4,5,6,7) 第5回 ～25回 ① 器具の製作と改良 ② マイクロティーチングでの試用 ③ 協力小学校での試用の依頼 4.小学校理科での実践(3,4,6,7) 第6回 ～30回 ① 授業の設計 ② 授業における実践 ③ 試用した観察,実験器具の評価 ④ 論文のまとめ ⑤ まとめと発表
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 理科教育の基礎的な知識の獲得，研究テーマの確定と研究の過程で自己の能力を発揮したか。

		新しい教材，教具を開発できたか。 自分なりに研究の方向を見いだそうと努力をしたか。
	評価の方法	学習ポートフォリオ，研究作成した研究論文，パフォーマンステスト（ 70%）研究への取り組み方（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。 理科教育関係の月刊誌である理科の教育　初等理科教育および理科教育関係学会論文誌等を利用する。 小・中学校学習指導要領解説	
推薦図書等		
参考URL		
備考	理科教育に関わる授業を終了しているか，履修中であること。 特に小学校で行われる実験は経験しているいることが望ましい。 身の回りの自然現象に関心があることは必須の条件である。 自然科学は非常に広い領域であるので，何か得意な分野，趣味として持てる分野があることが望ましい。 授業を実際に観察したり，子どもの行動を観察することもある。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	
担当教員	野口　芳宏
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124003
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	日本人，四大聖人，釈迦，孔子，ソクラテス，キリスト，人生観，世界観
授業のねらい・概要	日本に生まれ，日本に育った日本国民としての望ましい自覚と誇りが持てる基本的教育者資質を形成する。 古典的名著の講読と吟味を通じて，互いの理解を深め合う討論を取り入れ，高度な見識を身につける。
学生の達成目標	1. 世界の聖人,先達の業績と人生観を理解する。 2. 日本の伝統的価値観,世界観を理解する。 3. 教育の基礎となる人生観,教育観,国家観を形成する。 4. 教育者にふさわしい高い見識を育成する。 5. 広く文献に当たって,深く調べる学習技術を身に付ける。
授業内容	第1回　ゼミナールガイダンス テキスト解説 分担確認 全体計画 第2回　『総合人間学 モラロジー概論』(第一章の1) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)

第3回	『総合人間学 モラロジー概論』(第一章の2) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第4回	『総合人間学 モラロジー概論』(第一章の3) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第5回	『総合人間学 モラロジー概論』(第一章の4) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第6回	『総合人間学 モラロジー概論』(第二章の1) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第7回	『総合人間学 モラロジー概論』(第二章の2) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第8回	『総合人間学 モラロジー概論』(第二章の3) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第9回	『総合人間学 モラロジー概論』(第二章の4) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第10回	『総合人間学 モラロジー概論』(第三章の1) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
第11回	『総合人間学 モラロジー概論』(第三章の2) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第12回	『総合人間学 モラロジー概論』(第三章の3) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第13回	『総合人間学 モラロジー概論』(第三章の4) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第14回	『総合人間学 モラロジー概論』(第四章の1) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第15回	『総合人間学 モラロジー概論』(第四章の2) 自主研究発表 協議と指導(目標1.2)
第16回	『修身教授録』 (第1部の 1～5) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
第17回	『修身教授録』 (第1部の 6～ 10) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
第18回	『修身教授録』 (第1部の 11～ 15) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
第19回	『修身教授録』 (第1部の 16～ 20) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
第20回	『修身教授録』 (第1部の 21～ 25) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
第21回	『修身教授録』 (第1部の 26～ 30) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
第22回	『修身教授録』 (第1部の 31～ 35) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
第23回	『修身教授録』 (第1部の 36～ 40) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
第24回	『修身教授録』 (第2部の 1～5) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)

	第25回　『修身教授録』 (第2部の 6～ 10) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
	第26回　『修身教授録』 (第2部の 11～ 15) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
	第27回　『修身教授録』 (第2部の 16～ 20) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
	第28回　『修身教授録』 (第2部の 21～ 25) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
	第29回　『修身教授録』 (第2部の 26～ 30) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
	第30回　『修身教授録』 (第2部の 31～ 35) 自主研究発表 協議と指導(目標3.4)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 両書の基本的な価値の理解ができたか。 古典の読み方の知識，技術を理解できたか。 評価の方法 調べ方，まとめ，発表技術，質疑の技法，応答の技法等の観察及びレポートによる総合評価
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『総合人間学　モラロジー概論』モラロジー研究所編　モラロジー研究所刊 ISBN： 978 -4-89639-143-5 『修身教授録』　森　信三著　致知出版社 ISBN： 978 -4-88474-172-3
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124004
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数教育，実践の観察，研究の進め方，卒業研究
授業のねらい・概要	卒業研究と関連させながら，数量形にかかわる課題を明らかにし，検討を加えつつ課題を追求する。 自らの計画に従い，研究を実践していく方法を会得し，まとめができるようにする。 また，思考力・表現力等の今日的算数教育のあり方についても究明できるようにする。
学生の達成目標	1. 卒業研究にむけて,研究の課題(テーマ)を明らかにできる。 2. 研究の方法を会得することができる。 3. 主体的に実践に取り組み検討を加えつつ研究を進め,実践結果をまとめる力を身に付けることができる。 4. 算数教育の今日的課題をつかみ,研究実践に活かすことができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(研究の進め方) (目標1) 第2回　～ 第3回　研究課題についての究明 (目標1) 現状における算数教育の問題点の究明

		新教育課程における算数科の新たな方向(思考力と表現力等) 算数教育にかかわる先行研究の課題の分析と計画の立案
	第4回	～
	第5回	研究の内容,研究方法,実践の仕方の習得 (目標2) 研究の進め方 …研究課題に応じた研究方法についての検討(質問紙法,面接法, …) 調査問題等の作り方,数理にかかわる子どもの実態のとらえ方と各種調査方法についての試み
	第6回	～
	第7回	前期のまとめと今後の課題 (目標2)
	第8回	～
	第9回	研究の実践 (目標3) 算数科における実践研究の事例の分析 課題に応じた実践過程の報告および問題点の検討
	第10回	～
	第11回	算数教育にかかわる現場の実践・研究会等に参加し視野を広める (目標4)
		第2期
	第12回	～
	第13回	実践等の評価と研究のまとめ方について (目標3) 実践に基づく考察のしかた,結果の示し方,図 ,表の扱い方等について事例の研究
	第14回	～
	第15回	研究報告 (目標3) 研究の報告の仕方,準備
	第16回	研究の総括 (目標3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	研究課題を捕らえ，自分なりに研究実践を行い，まとめをすることができるか。
	評価の方法	実践の進め方・レポート（ 40%）実践の結果（ 40%）学習への取り組み方（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業に合わせて必要な書物，雑誌等の研究事例を示しこれを用いていく。	
推薦図書等		

参考URL

備考

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	研究のデザイン，研究方法，卒業論文の書き方の基礎・基本，論文のまとめと発表
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ⅰにおける家庭科教育学及び生活科教育学の専門分野の内容（構造）の理解と，先行研究の分析・検討をふまえて，現代の生活課題を抽出し整理する。 これらの知見をもとに，よりよい卒業研究を志向して，各自の研究テーマを再確認し，研究を推進するためのそれぞれの基本的な研究方法を実際の演習を通して確実にする。 また，卒業論文を書くための論文の構成，書き方等の基礎・基本を学び，各自の研究のデザイン及び実践のプロセスを明確にし，プロセスにそって課題を解決しながら実践していく。 さらに，研究結果を，中間，最終とまとめ，ゼミナール Ⅱの授業において発表し，分析・検討する。
学生の達成目標	1. 家庭科教育学,生活科教育学の課題を整理し,自己の研究テーマを再確認する。 2. それぞれのテーマにそった研究方法について,具体的な演習を通して確実に身に付ける。 (主として統計的研究方法,実験的・実証的研究方法,哲学的・原理的研究方法等) 3. 卒業論文の構成,書き方等の基礎・基本を学ぶ。 4. 先行の卒業論文を読み込み,具体的な論文の書き方を学ぶ。

5. 各自の卒業論文のテーマにそって,研究のデザインを設計する。

6. 研究推進の具体的なプロセスを明確にし,課題解決しながら実行していく。

7. 論文の中間的まとめ,全体のまとめを行い,発表し,よりよいものにしていく。

授業内容

第1回 オリエンテーション(授業内容,スケジュール等)

第2回 教科教育学(家庭科教育,生活科教育)の課題を整理する。(目標1)

第3回 自己の研究テーマ・研究方法の再確認をする。(目標1,2)

第4回 ～

第5回 各種研究方法の演習(ゼミナール Ⅰの学習をふまえて具体的演習)(目標2)
○統計的研究方法 ○実験的・実証的研究方法
○哲学的・原理的研究方法 ○その他の研究方法(事例研究等)

第6回 ～

第7回 卒業論文の基本的な書き方を学ぶ。(目標3)

第8回 ～

第9回 先行の卒業論文を読み,具体的な論文の書き方を学ぶ。(目標4)

第10回 各自の研究のデザインを設計し具体的な実践プロセスを計画する。(目標5)

第11回 ～

第12回 研究の具体的な実践に向けて(目標6)

第13回 課題と解決(目標6)

第14回 ～

第15回 研究の具体的な実践に向けて(目標6)

第16回 課題と解決(目標6)

第17回 研究の中間的まとめ(目標7)

第18回 ～

第19回 中間発表の準備(含 パワーポイントの演習)(目標7)

第20回 ～

第21回 ゼミナールにおける中間発表会及び分析・検討(目標7)

第22回 ～

第23回 研究の具体的な実践に向けて(目標6)

第24回 課題と解決(目標6)

第25回 ～

第26回 卒業論文発表会に向けて(目標7)

第27回 ～

第28回 ゼミナール Ⅱにおける卒業論文発表会及び分析・検討(目標7)

	第29回　　まとめ(目標1～7)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 授業を通して，家庭科教育，生活科教育に関わる内容や課題を明確にし，よりよいあり方を志向して，各自の研究のデザインにそって主体的に研究を推進する意欲と適切なプロセスを踏んで，卒業論文を完成できる能力があることを合格基準とする。 評価の方法 提出レポート（レジュメと毎回の小レポート），研究をまとめ発表する力，平常点（毎回の取り組みの意欲と態度）等を総合的に判断する。 レポート（レジュメと毎回の小レポート） 50%，毎回の取り組み（討議や演習における意欲・態度） 25%，発表用図表25%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリント資料等の配布
推薦図書等	
参考URL	
備考	主体的に研究に取り組む態度と研究をまとめる能力が望まれる。

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	桑田　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124006
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育相談，事例研究，発達障害，不登校
授業のねらい・概要	支援の必要な幼児・児童の早期発見，早期支援のできる教育者になるべく，文献や事例を通して学びを深める。 また，卒業論文の構成・書き方について理解し，卒業研究に沿った問題の提起・解決と体験的学びを深める。
学生の達成目標	1. 自分の研究テーマに沿った文献等の検索をし,情報を収集することができる。 2. 収集した研究資料について分析する。 3. 支援の必要な子どもにかかわるアセスメント力や対応について学びを深める。 4. 研究テーマを追求するために必要な研究方法やまとめ方について理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　研究目的の検討(目標4) 第3回　文献調査(1) 情報収集(目標1)

第4回	文献調査(2) 情報収集(目標1)
第5回	研究のデザイン作成(1)(目標4)
第6回	研究のデザイン作成(2)(目標4)
第7回	研究資料の分析(1) 先行研究の確認 (目標4)
第8回	研究資料の分析(2)(目標2)
第9回	研究資料の分析(3)(目標2)
第10回	研究方法の確認と作成(質問紙・面接等)(目標4)
第11回	アセスメント法(1)(目標3)
第12回	アセスメント法(2)(目標3)
第13回	ABC分析(1)(目標3)
第14回	ABC分析(2)(目標3)
第15回	前期まとめと今後の課題
第16回	研究内容の再確認(目標4)
第17回	研究上の課題検討(1)(目標4)
第18回	研究上の課題検討(2)(目標4)
第19回	研究上の課題検討(3)(目標4)
第20回	研究上の課題検討(4)(目標4)
第21回	研究のまとめ(1) 目的の検討(目標4)
第22回	研究のまとめ(2) 方法の検討(目標4)
第23回	研究のまとめ(3) 結果の検討(統計的処理)(目標4)
第24回	研究のまとめ(4) 結果の検討(目標4)
第25回	研究のまとめ(5) 考察の検討(目標4)
第26回	研究のまとめ(6) 考察の検討(目標4)
第27回	研究のまとめ(7) 見直しと修正(目標4)
第28回	研究のまとめ(8) 研究方法の検討(目標4)
第29回	研究報告
第30回	後期の研究のまとめ

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準 教育研究の方法論と技術・態度を身につける。 評価の方法 「発表」「態度」 40%，レポート： 60%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要に応じて用意する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124007
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	道徳教育　道徳の時間の役割　特別活動　学級経営
授業のねらい・概要	主として，道徳教育，道徳の時間における指導法の改善，学級経営等において，課題や問題の捉え方を明らかにする。 個々の研究の特質を尊重しつつ，児童の発達や学習の実態把握の方法，授業研究の方法，文献研究について学び，卒業研究の基礎となるようにする。 人間教育に重要な意味を持つ道徳性の発達，生きる力の育成について現場教員の取り組みを直接に学ぶ機会も取り入れる。
学生の達成目標	1. 教育現場における道徳,特別活動の研究について視野を広げることができる。 2. 諸々の実践報告,研究論文を読み,その大要を捉え,説明できる。 3. 研究テーマを追及する手順や方法が分かり,自らの研究テーマを設定できる。 4. 現場の教師の先進的な指導に学び,教育現場や教師の職能について関心を高める。 5. 研究課題を追求し,研究をまとめ,発表することができる。

授業内容	第1回	～
	第2回	ガイダンス 道徳教育と特別活動の今日的課題(目標1) 道徳性の発達について(目標1)
	第3回	～
	第4回	学校教育における道徳教育の現状と課題・研究紀要の熟読(目標2) 研究課題の設定に向けて(目標2・3) 第2期(授業構想・実践・評価)(目標3)
	第5回	～
	第6回	研究課題及び研究の進め方について(目標3)
	第7回	～
	第8回	研究課題についての協議(目標3)第3期(研究課題の探求)(目標3)(目標4)(目標5)
	第9回	～
	第10回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標3)
	第11回	～
	第12回	課題の探求-現場教師の指導・助言-(目標4)
	第13回	～
	第14回	レポートの作成(目標5)
	第15回	～
	第16回	研究成果の発表準備・発表(研究のプレゼンテーション)(目標5)
	第17回	研究のまとめと評価(目標5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	道徳教育と特別活動の今日的課題をもとに，自己の研究テーマを設定，まとめを継続してやり通すことができたか。 また，発表に向けて分かりやすくまとめることができたか。
	評価の方法	研究報告書（ 60%）　発表原稿（ 20%）　研究記録ノート（ 10%）　意欲他（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		

参考URL	
備考	小学校課程専攻において，道徳教育指導法について強い興味・関心を持っている人が受講することが望ましい。

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124008
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	楽曲分析，音楽用語，音楽文献学
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ｉで習得した知識や技術を一層深めるとともに，各自の研究テーマを深めるための資料による演習，観察，分析等を通して，卒業研究のテーマに沿った問題提起とその解決法を探る。 音楽に関する研究では，作品の分析法，専門用語の正確な使用法，音楽書の活用法が必須である為，音楽文献学に関しても学ぶ。
学生の達成目標	1. 問題意識が高まる 2. 疑問点を積極的に調べることができる 3. 研究成果をまとめる力が付く 4. 作品分析法を理解できる
授業内容	第1回　前期のオリエンテーション 第2回　ゼミナール Ｉの最終レポートでの問題点及び今後の課題 (目標1・2) 第3回　今後の課題と卒業研究との関連 (目標1・2)

第4回	論文と作品制作及び作品発表について (目標1・2)
第5回	卒業研究のテーマを絞る (目標1・2)
第6回	各自のテーマに関する文献検索法 (目標1・2)
第7回	簡単な英語の文献にも触れる。外国語の文献検索法 (目標1・2)
第8回	各自のテーマに関する英語の文献講読 (目標1・2)
第9回	各自のテーマに関する英語の文献の内容発表 (目標 2・3)
第10回	楽曲分析法(幼児・児童の歌) (目標 4)
第11回	楽曲分析法(簡単なピアノ曲) (目標 4)
第12回	楽曲分析法(小学校の鑑賞曲) (目標 4)
第13回	各自が選択した作品の分析発表 (目標 3・4)
第14回	各自が選択した作品の分析発表 (目標 3・4)
第15回	各自の研究テーマに関する作品分析 (目標 2・4)
第16回	分析データの活用法 (目標1・3・4)
第17回	論文作成法 (目標1・3)
第18回	研究作品作製法 (目標1・3)
第19回	各自の研究課題の中間報告 (目標1・2・3)
第20回	歴史的考察法 Ⅰ (目標1・2)
第21回	歴史的考察法 Ⅱ (目標1・2)
第22回	各自の研究テーマに関する歴史的考察 (目標1・2)
第23回	各自の研究テーマに関する歴史的考察の発表 (目標1・2・3)
第24回	各自の研究課題の成果発表及びディスカッション (目標1・3)
第25回	各自の研究課題の作成と推敲 (目標1・2・3)
第26回	各自の研究課題の完成に向けて (目標1・2・3)
第27回	各自の論文発表 (目標1・2・3)
第28回	各自の作品発表 (目標1・2・3)
第29回	論文及び作品の完成に向けて (目標1・2・3)
第30回	ゼミナール Ⅱのまとめ

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	自ら選択した課題に対して積極的に取り組み，主体的に研究してまとめる事ができたか。
	評価の方法	提出課題（ 50%），発表内容（ 30%），勉学意欲（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要な資料等はその都度，授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	音楽を理論的に考える力を身につける授業であり，問題意識と積極的に学び調べる力を必要とする。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124009
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，造形表現，子どもとのかかわり
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ｉで構想したテーマに基づいて卒業研究に向けて各自が具体的に学ぶ。造形表現，教育に関する知識を文献や資料，教育現場見学などでより深めるとともに，各自の持つ問題意識を明確にして卒業研究のためテーマを確定し，研究の方向性の確立をするとともに研究計画を作成する。 卒業研究のために文献や資料等を整理し調査や事例等収集して分析する中で，自らの考えを深めて文章にまとめていけることをねらいとする。
学生の達成目標	1. 各自のテーマに即した課題に基づき文献や事例等の情報の収集・調査をして自分の問題意識を明確に持つ。 2. 各自のテーマに即した自分の意見や考えについて明確に文章で表現できる。 3. 卒業研究のテーマに基づいて,論文としてまとめる計画を立て完成への目安をつける。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点,計画作成)(目標1,2) 第2回　参考資料文献の収集(目標1,2)

第3回	参考資料文献の分析(目標1,2)
第4回	研究テーマの確認(目標1,2)
第5回	研究の方向性の決定(目標1,2)
第6回	～
第7回	文献・資料収集・制作・現場見学(目標1,2)
第8回	自己課題の検討・研究計画(目標1,2)
第9回	研究計画の決定と実施(目標1,2)
第10回	～
第11回	文献・資料収集,制作,調査活動・現場見学等(目標2,3)
第12回	中間報告会(目標3)
第13回	課題検討
第14回	～
第15回	調査・資料収集,制作等の再実施と整理・分析(目標1,2)
第16回	研究課題・内容の再確認(目標1,2)
第17回	～
第18回	論文の骨子作成(目標2,3)
第19回	発表準備,リハーサル
第20回	まとめ～研究の発表・総括講話(目標2,3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 授業を通して，各自の研究テーマに関して自らの考えを明確に持ち，資料収集，調査・分析等を通して，卒業研究を目指して具体的に取り組めることを合格基準とする。 評価の方法 毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品，発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品・発表 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「プロの条件」藤尾秀昭　致知出版社　 1 ,000円
推薦図書等	

参考URL	
備考	・演習等も踏まえて造形表現･教育に対する理解をより深め，卒業研究に向けて具体的に学ぶ。 ・現場見学や調査などの実施日程などは予定である。そのため，多少のシラバスの内容変更も考えられる。 ・自ら進んで取り組む意欲を持って，自主的に研究を進める姿勢を望む。

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	太田　俊己
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124010
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，障害，知的障害，自閉症，実践研究
授業のねらい・概要	知的障害を中心とした障害のある子どもの教育・保育・福祉に関する実践，支援の方法について，関連する資料・文献，実際のかかわりや観察などをもとに，協議なども交えながら深める。 卒業研究と関連させ研究的に深め学部研究の締めくくりを行う。
学生の達成目標	1. 知的障害を中心とした障害のある子どもへの実践や対応について研究を深める。 2. 実践や保育の内容・方法,授業,教師や保育士の支援方法を掘り下げる。 3. 障害のある子どものおかれた状況,支援の必要性,課題について深める。 4. 卒業研究と関連づけて,研究的にまとめを行う。
授業内容	第1回　研究テーマを確認する。 第2回　～ 第3回　研究目的・研究方法,研究計画について検討し具体化を図る(目標1,2,3)。

第4回	～
第5回	先行研究について発表と討議(目標1,2,3)。
第6回	～
第7回	研究テーマ,表題,研究目的,研究方法について確認する(目標1,2,3)。
第8回	～
第9回	研究上の試行があれば試行結果を発表し,前期の進捗についてまとめを行う(目標4)。
第10回	後期オリエンテーション 前期に検討した宿題提出
第11回	～
第12回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する(目標1,2,3)。
第13回	～
第14回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する(目標1,2,3)。
第15回	～
第16回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う(目標1,2,3)。
第17回	～
第18回	研究成果を検討し,残された課題についても確認しまとめを行う(目標4)。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	関心を掘り下げて意欲的に資料等を探し，発表資料も工夫してつくる。的確に発表を行い，積極的に意見交換をする。 自分の意見やテーマについての考えを深め，他の人の関心も積極的に知ろうとする。
	評価の方法	授業への参加度 60%，発表とレポート 40%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 各自の検索・調査資料および研究結果，先行研究を用いる。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	藤田　俊明
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124011
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害児，文献調査，実践研究，ものづくり，補助具
授業のねらい・概要	特別支援学校，特別支援学級の場における，知的障害の児童・生徒の働く生活への支援に関連したテーマをさらに深め，引き続き文献調査・実践研究に取り組む。 教育現場に関わりを持ち，自らの課題意識を一層高め，テーマと関連させながら個別的な支援を行う。 自己のテーマに沿って，障害のある子どもの満足と教師の満足の連携及び向上を促進する。 授業理論の応用，実践データの活用を通し，仮説検証型又は仮説発見型の実証実践研究を行う。
学生の達成目標	1. ゼミナール Ｉに引き続き,関心分野の文献調査及び実地調査を行い,知識・理解をさらに深める。 2. 実践研究を深め,より良い支援の手立てを学ぶ。 3. プレゼンテーションの工夫と成果を発表する力をつける。 4. 企画力,実行力,フォローカを身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション ゼミの内容と進め方 〈主な目標〉

第2回	文献調査(1)知的障害児の「できる状況づくり」(特別支援学校)(目標1)
第3回	文献調査(2)知的障害児の「できる状況づくり」(特別支援学級)(目標1)
第4回	文献調査(3)知的障害児のための「補助具の工夫」(特別支援学校)(目標1)
第5回	文献調査(4)知的障害児のための「補助具の工夫」(特別支援学級)(目標1)
第6回	文献調査発表と討議 (目標3)
第7回	実地調査(1)特別支援学校;「できる状況づくり」 (目標1,3)
第8回	実地調査(2)特別支援学校;「補助具の工夫」 (目標1,3)
第9回	実地調査(3)特別支援学級;「できる状況づくり」 (目標1,3)
第10回	実地調査(4)特別支援学級;「補助具の工夫」 (目標1,3)
第11回	実地調査発表と討議(1) (目標3)
第12回	実地調査発表と討議(2) (目標3)
第13回	実践研究(1)「子どものニーズ」と「製品」の改良 (目標2)
第14回	実践研究(2)「製品」改良と「作業工程」 (目標2)
第15回	実践研究(3)「製品」改良と「機械工具の使用」 (目標2)
第16回	改良製品発表と実演 …『公開講座』 (目標3)
第17回	実地調査(1)特別支援学校;「製品」改良と「作業工程」 (目標2,3)
第18回	実地調査(2)特別支援学校;「製品」改良と「機械工具の使用」 (目標2,3)
第19回	実地調査(3)特別支援学級;「製品」改良と「作業工程」 (目標2,3)
第20回	実地調査(4)特別支援学級;「製品」改良と「機械工具の使用」 (目標2,3)
第21回	実地調査のまとめ(1);特別支援学校 (目標3)
第22回	実地調査のまとめ(2);特別支援学級 (目標4)
第23回	実地調査の分析(1)特別支援学校 (目標4)
第24回	実地調査の分析(2)特別支援学級 (目標4)
第25回	中間報告 (目標3)
第26回	レポート作成演習(1);課題・目的 (目標3,4)
第27回	レポート作成演習(2);方法・対象 (目標3,4)
第28回	レポート作成演習(3);実践・経過 (目標3,4)
第29回	レポート作成演習(4);考察 (目標3,4)
第30回	まとめ (目標3)

予習・復習の内容

予習

復習

	展開
成績評価	評価の基準 上記「学生の達成目標に準じる」 評価の方法 中間レポート課題 20%，最終レポート課題 40%，研究活動に対する主体性・協調性 20%，ゼミ運営，企画・実行における貢献 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 千葉大学教育学部附属特別支援学校編　「できる状況づくり Q & A」　K & H　1 ,995円
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124012
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	受講者が各自の研究テーマを追究するための研究方法について理解を深め，必要な研究資料を収集する。 収集した研究資料について分析し，後期の学期末までに研究テーマについて取り組んだことをまとめる。
学生の達成目標	1. 各自の研究テーマで何をどこまで明らかにしようとするかを明確にする。 2. 研究テーマを追究するための適切な研究方法について理解する。 3. 研究テーマを追究するために必要な研究資料を収集する。 4. 収集した研究資料について分析する。 5. 研究テーマについて取り組んだことをまとめる。
授業内容	第1回　前期のイントロダクション 第2回　研究目的の検討(1) 何をどこまで明らかにしようとするのか(目標1)

第3回	研究目的の検討(2) 仮説の検討(目標1)
第4回	研究方法の検討(1) 研究対象の検討(目標2)
第5回	研究方法の検討(2) データの収集方法(目標2)
第6回	研究方法の検討(3) データの分析方法(目標2)
第7回	研究方法の検討(4) 結果の表示方法(目標2)
第8回	研究方法の検討(5) 研究方法のまとめ(目標2)
第9回	研究資料の収集(1) 収集手順の検討(目標3)
第10回	研究資料の収集(2) 国内文献資料の収集状況(目標3)
第11回	研究資料の収集(3) 海外文献資料の収集状況(目標3)
第12回	研究資料の収集(4) データの収集計画(目標3)
第13回	研究資料の収集(5) データの収集手順(目標3)
第14回	研究資料の収集(6) 進捗状況の確認(目標3)
第15回	前期のまとめ
第16回	後期のイントロダクション
第17回	収集した研究資料の分析(1) データ確認(目標4)
第18回	収集した研究資料の分析(2) データ分類(目標4)
第19回	収集した研究資料の分析(3) データ集計(目標4)
第20回	収集した研究資料の分析(4) グラフ作成(目標4)
第21回	収集した研究資料の分析(5) 統計分析(目標4)
第22回	収集した研究資料の分析(6) 分析結果のまとめ(目標4)
第23回	研究のまとめ(1) 「目的」の検討(目標5)
第24回	研究のまとめ(2) 「方法」の検討(目標5)
第25回	研究のまとめ(3) 「結果」の検討(目標5)
第26回	研究のまとめ(4) 「考察」の検討(目標5)
第27回	研究のまとめ(5) 見直しと修正(目標5)
第28回	研究のまとめ(6) 発表方法の検討(目標5)
第29回	研究のまとめ(7) 研究成果の発表(目標5)
第30回	後期のまとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

１）各自の研究テーマで何をどこまで明らかにしようとするかが明確になっていること。
２）研究テーマを追究するための適切な研究方法について理解

		していること。 ３）研究テーマを追究するために必要な研究資料を収集していること。 ４）収集した研究資料について適切に分析していること。 ５）自分が取り組んだ研究について適切なまとめ方ができること。
	評価の方法	平常点，発表，提出レポートにより評価する。 （平常点 30%，発表 30%，レポート 40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124013
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子ども，教育，認知心理学，発達障害，自立支援
授業のねらい・概要	発達障害を中心に，子どもの教育・保育・福祉に関する実践，支援の方法について，関連する資料・文献，実際のかかわりや観察などをもとに，協議なども交えながら深めます。 卒業研究と関連させ，研究的に深め学部研究の締めくくりを行います。
学生の達成目標	1. 発達障害を中心とした子どもにかかわる実践や対応について研究を深める。 2. 実践や保育の内容・方法,授業,教師や保育士の支援方法を掘り下げる。 3. 発達障害のある子どものおかれた状況,支援の必要性,課題について深める。 4. 卒業研究と関連づけて,研究的にまとめを行う。
授業内容	第1回　研究テーマを確認する。 第2回　～ 第3回　研究目的・研究方法,研究計画について検討し具体化を図る(目標1,2,3)。

第4回	～
第5回	先行研究について発表と討議(目標1,2,3)。
第6回	～
第7回	研究テーマ,表題,研究目的,研究方法について確認する(目標1,2,3)。
第8回	～
第9回	研究上の試行があれば試行結果を発表し,前期の進捗についてまとめを行う(目標4)。
第10回	後期オリエンテーション 前期に検討した宿題提出
第11回	～
第12回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する(目標1,2,3)。
第13回	～
第14回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する(目標1,2,3)。
第15回	～
第16回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う(目標1,2,3)。
第17回	～
第18回	研究成果を検討し,残された課題についても確認しまとめを行う(目標4)。

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 関心を掘り下げて意欲的に資料等を探し，発表資料も工夫してつくる。的確に発表を行い，積極的に意見交換をする。 自分の意見やテーマについての考えを深め，他の人の関心も積極的に知ろうとする。 評価の方法 授業への参加度 60%，発表とレポート 40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 各自の検索・調査資料および研究結果，先行研究を用います。
推薦図書等	
参考URL	
備考	予定した回までに調査し，検討結果をまとめ発表等をします。 他の人の発表にも関心を持ち，積極的に討議し，自分の研究をふり返り，深めることを大切にします。

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	木下　勝世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124015
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，子ども，研究，考察
授業のねらい・概要	このゼミナールは３年次のゼミナール Ｉの発展として，卒業研究につなげていくことを意図して行うものである。 学習者は３年次に取り組んだ課題の中から，さらに深めて取り組むべき課題を設定し，知見を踏まえ，先行研究を調査し，研究の課題を明確にする。 研究を進めるために，相互に発表し，検討し合い，授業担当者の助言を得る。
学生の達成目標	1. 自分の研究に対して明確な目的意識をもち,適切な方法によって,真摯に研究を進めることができる。 2. 保育現場から得た資料を,研究の目的と方法に即して生かして用い,的確に考察することができる。 3. 自己の研究の状況をよく把握して,自ら研究を進めることができる。 4. 他者の研究についても良く理解して積極的に検討に参加することができる。
授業内容	第1回　ゼミ Ｉの振り返り (目標1) 第2回　～

第3回	関心のある事柄の絞り込み (目標1)
	Ⅱ テーマに係る広い知識を得る
第4回	～
第5回	文献資料からテーマに係る知見を学ぶ (目標1,2)
第6回	～
第7回	テーマに関する先行研究を調査して資料を得る (目標1,2)
	Ⅲ 研究内容と方法を明確にする
第8回	～
第9回	研究課題,仮説,方法等について (目標2,3)
第10回	具体的な研究活動の進め方を定め,準備する (目標2,3)
	Ⅳ 検討を加えながら,研究を進める
第11回	～
第12回	その都度研究の進捗状況を整理して報告する 他者や担当教員の助言を聴き,次の作業の方針を定める (目標2,3) これを繰り返し,研究活動を継続する (目標2,3)
	Ⅴ 研究の成果を考察する
第13回	～
第14回	仮説に照らして研究の結果を考察する (目標3) 考察の結果をまとめる (目標3)
	Ⅵ 研究の結果を発表・報告する
第15回	～
第16回	ゼミナール内部で研究発表会を行う (目標4) 学内で発表する (目標4) 学外の研究協力者に対して報告と謝礼を行う (目標4)

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	研究に対して主体的に意欲を持って取り組み，助言を受け入れ，適切に研究を進めることができたか。 研究のまとめや考察を適正に行うことができたか。 研究の成果を的確かつ十分に発表することができたか。
	評価の方法	研究結果とその発表（ 100%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	特になし

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	
担当教員	大木　みわ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124016
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子ども理解，教育相談の手法，親支援，ロールプレイング
授業のねらい・概要	子どもたちの生き難さを事例に学ぶ。 教育相談の手法のいくつかを学び実践力を養い，レポートをまとめる。
学生の達成目標	1.　子ども理解の方法について知る。 2.　教育相談技法の実践力をみがく。 3.　親支援への手がかりをつかむ。
授業内容	第1回　～ 第2回　子ども理解の方法(1) (目標1) 知能検査の理論と実体験 第3回　～ 第4回　子ども理解の方法(2) (目標2) 事例を通しての理解

	第5回	～
	第6回	子ども理解の方法(3) (目標2) ロールプレイングによる理解
	第7回	～
	第8回	総合的理解 (目標3) 子ども理解にもとづく支援 支援計画の作成

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	教育相談の手法の一つを身につける。
	評価の方法	課題レポート（ 50%），授業への参加態度（ 50%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要に応じて資料を配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	
担当教員	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124017
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児教育，観察調査，教材開発，研究
授業のねらい・概要	主として幼児教育に関わる保育内容や指導法について，教材開発や授業研究等，先行研究，国際的な比較研究を通して，各自の研究テーマを深める。 幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークや保育環境・教材開発の面から子どもが健全に育つためには何が演習や観察，分析活動を行う。
学生の達成目標	1. 資料,データーを収集し,研究課題を明確にし,内容を深める。 2. 研究テーマに沿った教材開発や授業研究を行う。 3. 幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークを行いながら研究テーマをより深める。 4. 教材開発や授業研究を実践し,その結果をもとに研究内容を深め卒業研究にする。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の進め方) 第2回　課題設定と方法等の相談

第3回	課題設定と方法等の決定
第4回	論文の書き方
第5回	研究テーマや課題設定と方法等の相談(目標1)
第6回	先行研究 関係資料の収集(目標1)
第7回	先行研究 関係資料の収集 文献研究(目標1)
第8回	研究内容の教材開発について(目標2)
第9回	保育現場の教材開発の実際(目標2)
第10回	保育現場の教材開発の作成(目標2)
第11回	保育現場の教材開発の考察(目標2)
第12回	保育現場の教材開発の考察,再検討(目標2)
第13回	関連研究会に参加 関係資料の収集(目標1)
第14回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究(目標1)
第15回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換(目標1)
第16回	各自の研究課題の発表・協議(目標1)
第17回	幼稚園等,子どものいる施設等の訪問(目標3)
第18回	幼稚園等,子どものいる施設での観察(目標3)
第19回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査(目標3)
第20回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ(目標3)
第21回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ データー等集計,分析(目標3)
第22回	調査の中間報告(目標4)
第23回	相互評価 修正(目標4)
第24回	～
第25回	論文のまとめ
第26回	研究のまとめ
第27回	最終修正等
第28回	発表 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	課題設定やその取り組みを考慮して，研究報告・発表等の内容を基準とする。
	評価の方法	論文　発表（ 70%）研究課題への取り組み（ 30%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新保育資料集」ミネルヴァ書房 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房
推薦図書等	
参考URL	
備考	・幼稚園や子どものいる施設等での長期に観察 ・参加によるフィールドワークが必要です。 ・関連研究会に出席し，研究者の情報を集めます。

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124018
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽，教育，研究
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ⅰでの学習を基礎として，音楽と教育に関わる知識や理解を一層深めるとともに，文献を探索し読み込む力，自分なりに問題を考察しそれをわかりやすく他者に伝える力を伸ばすことにより，各自が研究テーマを深め，卒業研究に益するよう援助する。
学生の達成目標	1. 自分の研究テーマを深め,自分なりに問題を考察しようとする意欲をもつ。 2. 考察の結果をわかりやすく他者に伝えようとする意欲・態度をもつ。 3. 考察の結果を論文としての体裁を整えまとめることができる。
授業内容	第1回　ガイダンス 第2回　各自の研究テーマのプレゼンテーションと討議 ①(目標1) 第3回　各自の研究テーマのプレゼンテーションと討議 ②(目標1) 第4回　各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ①(目標1) 第5回　各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ②(目標1)

第6回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ③(目標1)
第7回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ④(目標1)
第8回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ⑤(目標1)
第9回	卒論テーマ計画書の作成(目標3)
第10回	文献を読み込み考察し文章化する ①(目標1,2)
第11回	文献を読み込み考察し文章化する ②(目標1,2)
第12回	文献を読み込み考察し文章化する ③(目標1,2)
第13回	文献を読み込み考察し文章化する ④(目標1,2)
第14回	文献を読み込み考察し文章化する ⑤(目標1,2)
第15回	卒業研究の中間発表 ①
第16回	卒業研究の章立ての検討(目標3)
第17回	参考文献目録作成の準備(目標3)
第18回	参考文献目録の作成(目標3)
第19回	要旨のまとめ方(目標3)
第20回	卒業研究の中間発表 ②(目標3)
第21回	各自の論述の相互検討 意見が明確に述べられているか ①(目標2,3)
第22回	各自の論述の相互検討 意見が明確に述べられているか ②(目標2,3)
第23回	各自の論述の相互検討 根拠に説得力があるか ①(目標2,3)
第24回	各自の論述の相互検討 根拠に説得力があるか ②(目標2,3)
第25回	各自の論述の相互検討 論理の筋道が通っているか ①(目標2,3)
第26回	各自の論述の相互検討 論理の筋道が通っているか ②(目標2,3)
第27回	検討をもとにしての改善点の確認 ①(目標2,3)
第28回	検討をもとにしての改善点の確認 ②(目標2,3)
第29回	各自の要旨の検討(目標3)
第30回	総括

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

毎週自分なりに課題を設定しその達成に努力したか。自己の研究テーマについて自分なりの考察を行うことができたか。
考察を論理の筋道が通った文で表すことができたか。

評価の方法

毎週の自己の課題に対する取り組み（ 50%）と，問題意識を

	明確に持って筋道の通った文章を書けたかどうか（ 50%）で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 適宜プリント等を配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	国語辞典を持参すること。 メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	
担当教員	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124019
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの権利，子ども支援，親支援
授業のねらい・概要	今日の子ども，親が置かれている現代社会の状況について，事前学習を通した施設見学を行う中で理解を試みる。 また，各自の卒業研究テーマを確認し，研究を進めるための情報収集やその分析方法などの基本的研究方法を学ぶ。 加えて各自が関心のあるテーマを設定し，それを研究としてまとめ，発表できるようにする。
学生の達成目標	1. 子どもや親をとりまく現状と支援のありかたについて理解することができる。 2. 実践を通して子ども支援の現状を学ぶ。 3. 研究方法に関する知識を学ぶ。 4. 今日の子ども,親をめぐる支援のあり方と課題についての研究をまとめ,発表することができる。
授業内容	第1回　ゼミナールの進め方について

第2回	～
第3回	子どもの権利について(現代の子ども観,親権をめぐって,子どもの権利条約) (目標1)
第4回	研究テーマの確認
第5回	各種研究方法について
第6回	研究計画についての検討 施設見学事前学習(子育てサークルをめぐる現状,運営形態) (目標1)
第7回	～
第8回	施設見学(子育てサークル),見学後の振り返り (目標1,2)
第9回	～
第10回	施設見学事前学習(児童養護施設の歴史的経緯,機能,子どもの暮らし) (目標1)
第11回	～
第12回	施設見学(児童養護施設),見学後の振り返り (目標1,2)
第13回	～
第14回	各種データの収集方法 (目標3)
第15回	～
第16回	公的な調査結果のデータの読み取り (目標3)
第17回	～
第18回	公的な調査結果データを用いた分析方法の理解について (目標3)
第19回	～
第20回	各自研究結果の報告及びその検討 (目標2,3,4)
第21回	～
第22回	研究結果の最終検討及び修正 (目標2,3,4)
第23回	1年のまとめ (目標1,2,3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	子ども家庭福祉にかかわる多様な実践支援形態理解できていることと，子ども支援の現場で取り組み状況を子ども支援の現状を含めて整理し報告できることを合格基準とする。
	評価の方法	ゼミへの参加度（ 40%），発表及びレポート（ 60%）で評価を行う。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 指定しません。必要に応じて資料を配付します
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124020
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育実践，観察法，文献調査・抄読
授業のねらい・概要	本ゼミナールは，３年次の専門ゼミナール Ｉでの学びを受けて，保育実践の観察を行い，そのデータを情報交換しながら，「観察法」の技術を研鑽するとともに，観察した保育実践について，考察を加え，自身の気づきや学びにつなげていくことに重点を置きながら展開する。 また，専門ゼミナール Ｉから引き続き，自分の興味・関心のある分野に関する文献調査および抄読を行い，その領域に関する知見をさらに深めていく。
学生の達成目標	1. 実践を観察し,その技術を研鑽する 2. 実践に関する考察を深める 3. 文献調査等を通して,自らの興味のある分野の知識をより深める 4. 実践の観察および文献調査を通して,自分の興味関心のある分野を掘り下げて考察する
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　保育実践の観察(1)(目標1) 第3回　保育実践の観察(2)(目標1)

第4回	観察した実践に関する考察・討議(1)(目標2)
第5回	保育実践の観察(3)(目標1)
第6回	保育実践の観察(4)(目標1)
第7回	観察した実践に関する考察・討議(3)(目標2)
第8回	保育実践の観察(5)(目標1)
第9回	保育実践の観察(6)(目標1)
第10回	観察した実践に関する考察・討議(5)(目標2)
第11回	文献抄読(1)(目標3)
第12回	文献抄読(2)(目標3)
第13回	文献抄読(3)(目標3)
第14回	中間発表会(1)(目標4)
第15回	中間発表会(2)(目標4)
第16回	後期オリエンテーション
第17回	保育実践の観察(7)(目標1)
第18回	保育実践の観察(8)(目標1)
第19回	保育実践の観察(9)(目標1)
第20回	観察した実践に関する考察・討議(6)(目標2)
第21回	保育実践の観察(10)(目標1)
第22回	保育実践の観察(11)(目標1)
第23回	保育実践の観察(12)(目標1)
第24回	観察した実践に関する考察・討議(7)(目標2)
第25回	文献抄読(4)(目標3)
第26回	文献抄読(5)(目標3)
第27回	レポートの作成に関する概要説明・準備(目標4)
第28回	レポートの発表・討議(1)(目標4)
第29回	レポートの発表・討議(2)(目標4)
第30回	まとめ(目標4)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

上記「学生の達成目標」に準じる。

評価の方法

実践観察のレポート 50%，中間発表会（発表用レジュメおよ

	び発表態度，傾聴態度）20%，レポート発表（中間発表会と同様） 20%，授業に対する意欲・授業態度等 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要に応じてプリントを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124021
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校英語，教授法，理論，実践，論文
授業のねらい・概要	日本の小学校等における英語教育を効率よく効果的に行うための方策等を考案する。
学生の達成目標	1.　外国語教育の理論と実践を理解する 2.　研究対象とすべきテーマを決定する。 3.　調査や実験を行い,分析結果を論文にする。
授業内容	第1回　日本の小学校英語教育 第2回　ことばの学び 第3回　日本の英語教育と教授法 第4回　子どものための効果的な英語教授法 第5回　シラバス 第6回　授業活動 第7回　教室運営

第8回	言語選択
第9回	第一言語習得における音声言語の発達
第10回	第二言語習得における音声言語の発達
第11回	リスニング指導
第12回	スピーキング指導
第13回	リスニングの活動
第14回	スピーキングの活動
第15回	まとめ(1)
第16回	リタラシー能力の発達
第17回	リタラシー活動の実践
第18回	単語を知るとは
第19回	語彙獲得の過程
第20回	語彙指導
第21回	文法獲得の過程
第22回	文法指導
第23回	音声中心の語彙学習活動案
第24回	文字中心の語彙学習活動案
第25回	文法学習活動案
第26回	小学生を対象とした英語学習の目標
第27回	小学生を対象とした英語能力の測定
第28回	これからの小学校英語教育
第29回	卒業研究の内容発表
第30回	まとめ(2) (授業の計画・内容は,上記目標1,2,3を総合的に扱い,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	プレゼンテーションやディスカッション等の授業中の活動（ 50%）, 課題・論文等の提出物（ 50%）を対象として総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

アレン玉井光江，『小学校英語の教育法－理論と実践－』，大修館書店， 2010． 2
,500円（税別）
ISBN： 978 -4-469-24548-6

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124022
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児期，社会性の発達，考えの筋道，研究方法の組み立て
授業のねらい・概要	１．乳幼児期の情緒的行動研究の問題点を明確にし，解明すべき研究課題を具体化する。 ２．学生が関心を持つテーマに関する先行研究を調べ，研究方法を定める。 ３．テーマに沿って，文献研究や観察などを行い，考えを論理的にまとめる。 ４．テーマに沿った考えを発表することで，人に理解しやすいように考えをまとめる。
学生の達成目標	1. 乳幼児の行動の意味や要因を抽出し,その関連性・因果関係を明確にするための手続きを考えられる。 2. 乳幼児の行動に対する自分なりの考えを確証する方法を実践することで洗練化する。 3. 自分の研究をその領域の他の研究と関連づけ,意義を考えられる。 4. 自分の研究を論理的にまとめ,他の人を納得させられるように発表する。
授業内容	第1回　学生の興味を持つ情緒的行動に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)

第2回	学生の興味を持つ社会性発達に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)
第3回	学生の興味を持つ遊びの発達に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)
第4回	学生のテーマを解明するための手続きについて先行研究を紹介し,検討する(目標1,2)
第5回	学生の研究手続きについて問題点を指摘しながら,できることを考える(目標1,2)
第6回	保育現場などを見学し,研究できそうなテーマと方法を考える(目標1,2)
第7回	実際に見学したことに基づいて,具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
第8回	学生自身が予備的な研究を行い,さらに具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
第9回	学生自身が変更した研究を行い,さらに具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
第10回	研究のために必要な用具や手続きマニュアルを準備する(目標1,2)
第11回	情緒的行動に関する研究の進み具合を発表し合い,抜けている点を検討する(目標1,2)
第12回	社会性発達・遊びに関する研究の進み具合を発表し合い,抜けている点を検討する(目標1,2)
第13回	情緒的行動に関する研究によって集まった材料をまとめ方を検討しながらまとめる(目標3,4)
第14回	社会性発達・遊びに関する研究によって集まった材料をまとめ方を検討しまとめる(目標3,4)
第15回	各自の研究に関する中間報告を行い,討論しながら補足する点を明確にする(目標3,4)
第16回	情緒的行動に関する研究の中間報告を行い,討論しまとめ方について検討する(目標3,4)
第17回	社会性発達・遊びに関する研究の中間報告を行い討論しまとめ方について検討する(目標3,4)
第18回	情緒的行動に関連する先行研究を読みながら,考えの進め方について検討する(目標3,4)
第19回	社会性発達・遊びに関連する先行研究を読み,考えの進め方について検討する(目標3,4)
第20回	学生が情緒的行動に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標3,4)
第21回	学生が社会性発達に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標3,4)
第22回	学生が遊びの発達に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標3,4)
第23回	情緒的行動に関する補足的な研究を検討し,必要であればその準備を行う(目標3,4)

第24回	社会性発達・遊びに関する補足的な研究を検討し,必要であればその準備を行う(目標3,4)
第25回	情緒的行動に関する補足的な材料や資料を追加して,討論しながらまとめを行う(目標3,4)
第26回	社会性発達・遊びに関する補足的な材料や資料を追加し,討論してまとめを行う(目標3,4)
第27回	改めて情緒発達や情緒的行動の研究を概観し,自分の研究の位置づけをする(目標2,3,4)
第28回	改めて社会性・遊び発達の研究を概観しながら,自分の研究の位置づけをする(目標2,3,4)
第29回	情緒発達研究の知見を将来的にどう生かすか,討論を通じて検討する(目標3,4)
第30回	社会性発達・遊び研究の知見を将来的にどう生かすか,討論を通じて検討する(目標3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	テーマにそった研究を論理的にまとめられる，情緒発達研究の中での位置づけができる。
	評価の方法	レポート 30%，発表 40%，討論 30%に基づいて評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	子どもの情緒や社会性の発達に関して興味を持つ学生向けのゼミナールである。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124024
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	哲学，倫理学，論理学，情報科学，情報倫理学，言語理解，合理性
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ⅰの発展として，特定のトピックについて，哲学・倫理学・論理学的アプローチを用いて分析する。 また，そのトピックについての先行研究を調査・整理し，関連する文献にあらわされる主張の比較検討および論理的妥当性の評価を行う。 最終的には，選択するトピックについて，問題点と，論理的に妥当な解決策の提示を行うことを目指す。 本研究室で扱うトピックは，下記の領域から選択する。 ・哲学的，倫理学的な問題一般についての研究 ・人間の言語理解や論理的思考についての研究・情報機器と人間との関わりについての研究 ・情報教育の現状と今後の課題についての研究 ・依存症等の人間の合理的でない行為についての応用哲学的研究
学生の達成目標	1. 特定のトピックについて,問題の背景を説明し先行研究の理論的妥当性を評価できるようになる。 2. 特定のトピックについて,哲学的/倫理学的アプローチの意義を説明できるようになる。 3. 特定のトピックについての複数の主張を概念的に分析し,比較検討できるようになる。

4. 論理的に妥当な解決策を提示できるようになる。

授業内容

第1回 イントロダクション:専門ゼミナール2の概要説明

第2回 哲学・倫理学における文献調査の手法 (目標1)

第3回 ～

第4回 参考文献の調査:文献の要約と概念の整理 (目標3)

第5回 中間報告とディスカッション(1)

第6回 ～

第7回 トピック研究(1)～(3):問題の所在と背景知識の整理 (目標1)

第8回 中間報告とディスカッション(2)

第9回 ～

第10回 哲学的/倫理学的アプローチの特徴と意義 (目標2)

第11回 中間報告とディスカッション(3)

第12回 トピック特定の手法:概要説明

第13回 ～

第14回 先行研究の調査と整理(1)～(3)要約 (目標3)

第15回 ～

第16回 先行研究における主張の比較検討(1)～(3) (目標3)

第17回 中間報告とディスカッション(4):対立する主張の論理的整理

第18回 ～

第19回 哲学的/倫理学的アプローチで解決策の提示に至るまで (目標4)

第20回 中間報告とディスカッション(5)

第21回 ～

第22回 解決策の論理的整理 (目標4)

第23回 ～

第24回 解決策を提示するプレゼンテーション発表とディスカッション

第25回 まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	上記達成目標の２／３以上を達成することを合格基準とします。
	評価の方法	ゼミナールへの参加度 60%，課題の達成度 40%の合計で評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	電子メールで連絡がとれることが望ましいです。 本研究室では，哲学，倫理学および情報科学の分野における概念的分析を中心に研究を行うため，テーマの種類や分野だけでなく，研究の方法論を重視します。 選択するテーマの内容は基本的に自由ですが，上記キーワードで挙げられているものと（少しでも）関連するものに限ります。	

専門ゼミナール Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	専門ゼミナール Ⅱ
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124025
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動生理学，神経生理学，運動制御，実験実習，文献抄読
授業のねらい・概要	前半は，当該分野の最新の知見の理解することより身体運動に関する見識をより深め，当該分野における研究課題を明らかにすることをねらいとして，国内外の文献研究を行う。 後半は，主体的に研究を進める力を身につけることをねらいとして，前半の文献研究で明らかにした課題を基に，履修生の主体的な興味・関心も踏まえながら研究課題および仮説を設定し，その仮説を検証する実験方法を立案する。 そして，実際に実験を遂行し，得られた結果について客観的に考察する。 最後に研究成果に関して，効果的なプレゼンテーションを行う。
学生の達成目標	1. 文献調査等を通して,自らの興味のある分野の知識および理解を深め,研究課題を明らかにすること。 2. 研究仮説を検証する研究方法を立案し,研究を遂行できること。 3. 得られた実験データを正しく処理し,得られた結果から客観的な考察ができること。 4. 卒業研究に繋げられる研究方法および成果を得ること。 5. 研究成果について,効果的なプレゼンテーションができること。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1,2,3,4,5)
	第2回	文献抄読(1)(目標1,2,3,4,5)
	第3回	文献抄読(2)(目標1,2,3,4,5)
	第4回	文献抄読(3)(目標1,2,3,4,5)
	第5回	文献抄読(4)(目標1,2,3,4,5)
	第6回	文献抄読(5)(目標1,2,3,4,5)
	第7回	文献抄読(6)(目標1,2,3,4,5)
	第8回	文献抄読(7)(目標1,2,3,4,5)
	第9回	文献抄読(8)(目標1,2,3,4,5)
	第10回	論文構成の理解・作成法(1)(目標2,3,4,5)
	第11回	論文構成の理解・作成法(2)(目標2,3,4,5)
	第12回	研究課題の決定と予備実験(1)(目標1,2,3,4)
	第13回	研究課題の決定と予備実験(2)(目標1,2,3,4)
	第14回	研究課題の決定と予備実験(3)(目標1,2,3,4)
	第15回	実験(1)(目標1,2,3,4)
	第16回	実験(2)(目標1,2,3,4)
	第17回	実験(3)(目標1,2,3,4)
	第18回	実験(4)(目標1,2,3,4)
	第19回	実験(5)(目標1,2,3,4)
	第20回	データ解析(データ処理と統計分析を含む)(1)(目標2,3,4,5)
	第21回	データ解析(データ処理と統計分析を含む)(2)(目標2,3,4,5)
	第22回	レポート作成(1)(目標3,4,5)
	第23回	レポート作成(2)(目標3,4,5)
	第24回	データの見せ方,プレゼンテーションの方法(1)(目標3,5)
	第25回	データの見せ方,プレゼンテーションの方法(2)(目標3,5)
	第26回	プレゼンテーション資料の作成(1)(目標3,5)
	第27回	プレゼンテーション資料の作成(2)(目標3,5)
	第28回	レポート発表会および討論(1)(目標1,2,3,4,5)
	第29回	レポート発表会および討論(2)(目標1,2,3,4,5)
	第30回	総括

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	学習内容の習得度をレポート課題および発表にて評価する。 実験手技・手法の修得度についても評価の対象とする。 また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	レポート課題 60%，実験手技・手法等の修得度 20%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 勝田　茂『運動生理学 20講』朝倉書店 ISBN： 4254690320	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリア演習 Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	キャリア演習 Ⅲ
科目責任者	遠藤　隆志
担当教員	藤田　俊明 川端　眞由美 川口　由起子 髙木　夏奈子 大木　みわ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1132001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会人，職業人，職業，教育職，保育職
授業のねらい・概要	身につけた社会人としての知識や態度に基づいて実践できるとともに，さまざまな職業についての理解を深め，自己の志望する職業に必要な知識や実践力を確かなものにする。
学生の達成目標	1. 身につけた社会人としての知識や態度を実践できる。 2. 自ら選択した職業(専攻分野)についての知識や技能を一層確かなものにする。 3. 職業人として必要な諸能力を高め,それを実践の場で生かすことができる。
授業内容	第1回　イントロダクション学習の進め方

第2回	社会人準備演習1 (全コース合同:社会人に求められるマナー)(目標1,2)
第3回	社会人準備演習2 (子ども発達:社会人に求められること,小・特:板書の基礎,幼・保:幼稚園への就職)(目標1,2)
第4回	社会人準備演習3 (子ども発達:情報収集の仕方,小・特:話し方～学校現場での留意点,幼・保:保育園への就職)(目標1,2)
第5回	社会人準備演習4 (子ども発達:連絡の仕方,小・特:集団を動かす,幼・保:幼稚園教諭や保育士の資格が生かせる職種)(目標1,2)
第6回	社会人準備演習5 (子ども発達:訪問の仕方,小・特:授業観察の視点,幼・保:子どもへの対応の基礎)(目標1,2)
第7回	学習の進捗状況に関する自己評価(目標1,2)
第8回	後期の学習活動の進め方(目標2,3)
第9回	社会人準備講座1 (子ども発達:社会人への準備,小:教育史,特:教育制度・教育課程,幼・保:教育原理)(目標2,3)
第10回	社会人準備講座2 (子ども発達:筆記試験,小:教育心理,特:障害理解,幼・保:保育原理)(目標2,3)
第11回	社会人準備講座3 (子ども発達:小論文試験,小:教科指導;算数,特:学習指導要領,幼・保:社会福祉)(目標2,3)
第12回	社会人準備講座4 (子ども発達:集団面接,小:教科指導;国語,特:自立活動,幼・保:保育実習理論)(目標2,3)
第13回	社会人準備講座5 (子ども発達:個別面接,小:教科指導;理科,特:病理と保健,幼・保:論文の書き方)(目標2,3)
第14回	社会人準備講座6 (全コース合同:自己アピール,小論文の書き方)(目標2,3)
第15回	学習のまとめ(目標2,3)(原則として,専攻ごとの実施とするが,内容によって学年全体やグループごとに実施する場合がある。)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 課題発表やレポートの内容 評価の方法 学習の取り組み（ 30%），レポート（ 70%毎回提出も含む）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。
推薦図書等	
参考URL	

備考	社会人として自立し，職業人として必須の能力を養うための科目であるが，学年やクラスとしての連絡，履修に関する説明，個別相談など重要な内容を含めて行うので，必ず履修すること。

キャリア演習 Ⅳ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	キャリア演習 Ⅳ
科目責任者	遠藤　隆志
担当教員	渡邉　章 貫井　正納 長谷川　修治 植草　一世 宮下　裕一 森高　光広
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1133001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会人，職業人，教育職，保育職，自立
授業のねらい・概要	社会人としての知識や態度を確実なものとし，社会人として自立できるとともに，子どもの教育や保育に関する職業についての理解を深め，自己の志望する職業に必要な知識や実践力をいっそう確かなものとする。
学生の達成目標	1. 社会人としての知識や態度を確かめ,社会人として自立できる。 2. 自ら選択した職業(専攻分野)についての知識や技能をいっそう確かなものにする。 3. 職業人として必要な諸能力を確かなものとし,それを実践の場で生かすことができる。
授業内容	第1回　　～

第2回	社会人として必要な知識や態度について,実践力を確かめる。(目標1)
第3回	～
第4回	選択した職業において必要な知識や技能について定着度をいっそう高める。 (目標2) 専攻別に実施(小学校教育,特別支援学校教育,幼稚園教育,保育士コース) (副専攻学生を対象とした機会を含む。)
第5回	「学びのコンパス」によって,自己の学びについて振り返り,今後の計画と目標を持つ。(目標3)
第6回	～
第7回	子どもの教育や保育に関する職場体験等を通して自己の能力の弱点を知り,これを改善する。(目標2,3)
第8回	～
第9回	社会人・職業人として必要な諸能力の定着を図る。(目標1,2,3) コミュニケーション能力 対人関係構築力,組織的行動力 文章表現能力,文書作成能力,表現力(発表力・卒業研究中間発表を通して) 状況判断力・課題解決力 計画力・遂行力など
第10回	「学びのコンパス」によって,自己の成長の経緯を省み,社会人・職業人として自立する意志を確かめる。(目標3)(原則として,専攻ごとに実施するが,内容によって学年全体やグループごとに実施する場合がある。)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 課題発表やレポートの内容，課題解決力（把握力・考察力・発表力・協調力） 評価の方法 課題発表やレポート（ 70%），課題解決力（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 指定しない。
推薦図書等	
参考URL	
備考	開講日程を事前に公表する。 掲示， U.navi等で確認すること。

小児保健通論 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	小児保健通論 Ⅰ
科目責任者	中澤　友幸
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1015001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児保健，発育，発達，健康，こどもの病気
授業のねらい・概要	小児は新生児から思春期まで劇的な身体的・精神的な変化を遂げる。 この間の発達過程と疾病，小児の健やかな成育を援助するための社会的制度の概要について学び，理解する。
学生の達成目標	1.　小児保健の意義と目的を理解する。 2.　小児の発育・発達過程について基本的な知識を身につける。 3.　小児に特有な事故,疾病についての知識を得て,基本的対応ができる。
授業内容	第1回　小児保健総論(目標1) 第2回　身体発育・胎生期(目標2) 第3回　生理機能(目標2) 第4回　運動機能・精神発達(目標2) 第5回　栄養(目標1,2) 第6回　生活・環境・保育(目標1,2)

	第7回　新生児・乳幼児期(目標2,3) 第8回　思春期(目標2,3) 第9回　健康と病気(目標3) 第10回　事故・応急処置(目標3) 第11回　予防接種・感染症(目標1,3) 第12回　こどもの病気 ①心,腎,消化器(目標3) 第13回　こどもの病気 ②アレルギー,内分泌・代謝(目標3) 第14回　こどもの病気 ③血液腫瘍,神経(目標3) 第15回　総括
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 達成目標の達成度を評価する。 評価の方法 期末試験 60%　授業中のレポート 40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は使用しない。講義資料を毎回配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	小児科医として小児・保護者に関わっている視点から，小児の発育・発達，疾病について概説する。

小児保健通論 Ⅱ（障害児）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	小児保健通論 Ⅱ（障害児）
科目責任者	中澤　友幸
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1016001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害児，発達障害，特別支援教育，医療的ケア
授業のねらい・概要	小児保健通論 Ⅰで学んだ小児の正常な成長発達過程をもとに，障害とは何か，小児における障害の種類と特徴，その対処と援助法について学ぶ。
学生の達成目標	1. 小児の障害について知識を習得する。 2. 障害の内容とその対処法について理解する 3. 同じ障害があってもひとりひとりにあった対応を自ら考え,実践できることを目標とする。
授業内容	第1回 障害とは,視覚障害,聴覚障害(目標1) 第2回 遺伝性疾患(目標1,2) 第3回 知的障害,運動障害(目標1,2) 第4回 発達障害(ADHD, LD,高機能広汎性発達障害) ①発達障害の理解(目標1,2) 第5回 発達障害(ADHD, LD,高機能広汎性発達障害) ②発達障害への対応(目標1,2,3)

	第6回	てんかん ①てんかんの理解(目標1,2,3)
	第7回	てんかん ②てんかんへの対応,発作介助(目標1,2,3)
	第8回	小児虐待(目標2,3)
	第9回	医療費助成・福祉制度(目標1)
	第10回	特別支援教育(目標1,2,3)
	第11回	医療的ケア(目標1,2,3)
	第12回	重症心身障害児に特有な症状と対応(目標1,2)
	第13回	小児のリハビリテーション(目標1,2)
	第14回	保健室登校(目標2,3)
	第15回	総括
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業への出席状況・学習態度・内容の理解とともに，小児に関する報道等にも関心を示し，小児および保護者に共感的な態度を示せることを望む。
	評価の方法	筆記試験 80%，講義への参加度 20%，試験結果によりレポート提出を追加。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	教科書は使用しない。 講義資料を毎回配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	小児科医の立場から，障害児の実態，こどもと保護者の抱える困難さとそれに対する支援について概説する。	

小児保健実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	小児保健実習
科目責任者	
担当教員	栗山　敦子
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1017001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児の発育と発達，小児の疾患，救急処置
授業のねらい・概要	保育園・幼稚園における小児の健康を守り，発育を援助する知識と技術を学ぶ。
学生の達成目標	1. 健常な小児の発育とその判定基準を理解し,健康診断の意義を知る。 2. 小児の疾患の早期発見と保育施設での援助の実際を知る。 3. 感染症の対応と予防について学ぶ。 4. 応急手当が適切に行える。さらに,医療機関との連携ができる。 5. 家庭と連携し,小児の健康の維持増進を計画できる。
授業内容	第1回　①健康について考える ②保育所保育指針の理解 ③保育士の健康管理(目標1) 第2回　成長-①身体測定の方法 ②測定値の評価 ③肥満とやせの判定(目標1)

第3回	発達-①小児の発達段階とその判定 ②発達評価 ③発達に問題があるときの対応(目標1)
第4回	栄養-①母乳栄養とその支援 ②育児用ミルクと特殊ミルクの理解 ③授乳方法とトラブル対処(目標1)
第5回	栄養-①離乳について ②おやつの与え方 ③食の問題行動と対応(目標1・2)
第6回	栄養-①食教育 ②現代の食の問題 ③肥満の予防の実際 ④食物アレルギーの対応(目標1・2)
第7回	排泄-①排泄の自立のステップ ②おむつの交換と排せつ物の処理 ③排泄トラブルの対応(目標1・2)
第8回	体温-①体温測定の方法 ②発熱の意義 ③発熱時の対応 ④熱射病(目標1・2)
第9回	睡眠-①睡眠の意義と睡眠の質 ②午睡について ③夜泣き,夜驚症,いびきの対応(目標1・2)
第10回	生活-①室温と湿度管理の意味 ②衣服と靴 ③夏のスキンケア(目標1)
第11回	季節の管理-①食中毒と食品管理 ②プールが始まる前に ③夏のスキンケア ④夏の感染症(目標3)
第12回	清潔-①手洗いの意味と方法 ②歯磨き ③爪切り ④入浴 ⑤消毒薬の種類と用途(目標1・3)
第13回	気になる行動-①場面かん黙 ②チック ③学習障害, AD/HD(目標3・4)
第14回	児童虐待-①虐待の定義 ②早期発見と保育士の対応(目標5)
第15回	応急手当-①打撲傷(頭部,腹部,四肢) ②鼻出血 ③創傷 ④虫ささされ(目標4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	講義したことが理解でき，実習などの場面で応用できること。
	評価の方法	中間および期末考査（ 80%）と実技試験（講義中随時行う）（ 20%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 監修　巷野悟朗編集　日本保育園保健協議会「最新保育保健の基礎知識」日本小児医事出版社　２,800円＋税
推薦図書等	
参考URL	

備考

小児栄養演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	小児栄養演習
科目責任者	杉山　法子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1018001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	胎児・小児期の心身の発育と発達，栄養摂取法，健全な食生活
授業のねらい・概要	小児の健全な育成に必要の大切さを知り，小児栄養の特徴と重要性を学ぶ。 小児期，学齢期，思春期までの発育の過程と栄養素の生理的意義，適切な食事の関係を知ると共に提供出来るようにする。 子供を取り巻く食生活環境と問題点を見つけ，解決への思考・方策が実行出来る能力を養成する。
学生の達成目標	1. 小児の発達過程と必要栄養の重要性を理解する。 2. 栄養素と食品の栄養の関係,栄養生理の基礎知識を身につける。 3. 対象別栄養と食事摂取基準を身につける。 4. 病児・障害のある小児や児童福祉施設における食生活の特徴とその留意点を知る。 5. 自分自身及び現在の日本における食生活を見直し,環境問題と共に解決法を提案する。
授業内容	第1回　小児の健康な生活と食生活の意義(目標1) 第2回　小児の発育・発達と食生活(目標1)

第3回	栄養・食品・調理と安全性に関する基本的知識(目標2)
第4回	妊娠期の食生活の特徴とその実践法(目標3)
第5回	授乳期の食生活の特徴とその実践法(目標3)
第6回	乳児期の食生活の特徴とその実践法 1)乳汁栄養(母乳栄養と人工栄養)(目標1・3)
第7回	乳児期の食生活の特徴とその実践法 2)離乳の意義とその実践法)(目標1・3)
第8回	幼児期の食生活の特徴とその実践法(食事摂取基準と配分,生活リズム)(目標1・3)
第9回	幼児期の間食・弁当の意義とその実践法(目標3)
第10回	幼児期の偏食・むら食い・食欲不振等栄養上の問題と健康への対応(目標3)
第11回	学齢期・思春期の心身の特徴と食生活の在り方(目標3)
第12回	小児期の疾病の特徴と食生活・食事療法(目標4)
第13回	障害のある小児(主として摂食・嚥下機能障害児)の食生活と食事介助法(目標4)
第14回	児童福祉施設(保育所・養護施設),幼稚園における食生活の特徴と食育,支援(目標4)
第15回	総括(目標5)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 授業内容の理解とその実践が出来ること 評価の方法 平常点 20%，レポート点 20%，期末筆記試験 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『発育期の子どもの食生活と栄養』　菅原・辻・内山・小野・麻見・新藤著　学建書院　¥1,890（税込） ISBN： 978 -4-7624-0877-9
推薦図書等	
参考URL	
備考	・乳児保育演習（２年次）が身についていることが望ましい。 ・自分自身の食生活に関心を持つこと。 ・実験衣（割烹着，三角巾）を第１回より着用

精神保健通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	精神保健通論
科目責任者	
担当教員	浅野　誠
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1019001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	心と身体，脳の発達，精神の病，精神の病の予防，地域と精神医療
授業のねらい・概要	人がなぜ精神を病むのか。 どのような精神の病があるか。 予防に必要なことは何か。 病んだ人への援助法。 などについて知る。
学生の達成目標	1. 身体と心の関係について理解する 2. 脳の構造と機能について理解する 3. 精神の疾病について理解する 4. 精神の保健について理解する 5. 精神を病んだ人への援助法について知る
授業内容	第1回　オリエンテーション 総論(目標1) 第2回　身体と心 脳と心の関係について(目標2)

第3回	精神の疾病各論 神経症関連(目標3)
第4回	精神の疾病各論 心身症関連(目標3)
第5回	精神の疾病各論 統合失調症 ①(目標3)
第6回	精神の疾病各論 統合失調症 ②(目標3)
第7回	精神の疾病各論 感情病 ①(目標3)
第8回	精神の疾病各論 感情病 ②(目標3)
第9回	精神の疾病各論 脳器質性精神病(目標3)
第10回	精神の疾病各論 認知症(目標3)
第11回	精神の疾病各論 児童青年期の精神障害者 ①(目標3)
第12回	精神の疾病各論 児童青年期の精神障害者 ②(目標3)
第13回	精神の疾病各論 精神の病の予防について(目標4)
第14回	精神の疾病各論 精神を病んだ人への援助法(目標5)
第15回	精神の病と社会 まとめ(目標5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	上記達成目標に到達し，精神保健の基本事項をよく理解していること。
	評価の方法	試験の成績 60%　授業への参加度 30%　課題の発表により 10%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 戸東支朗　生地新　森岡由紀子共著「あたらしい精神保健」医学出版社　 2 ,100円 ISBN： 978 -4-87055-104-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	

家族援助論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	家族援助論
科目責任者	
担当教員	廣橋　比刀美
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1020001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	家族，地域支援，男女共同参画社会
授業のねらい・概要	現代社会の家族の変化の中で「家族」はどうあるべきかを考え，子育てにおいて家族をとりまく社会的支援体制の現状と課題は何か，また家族生活（家族関係）からみた私的支援とは何かの両面から，「子育て支援」について理解し考察する。 そして，それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援，援助ができることを目標にする。
学生の達成目標	1. 望ましい家族関係とは何かを含め自分の家族観・児童観を身につける。 2. ソーシャルワーカーの役割とは何かを理解する。 3. 社会情勢に興味・関心をもち家族に関する情報をキャッチすることができる。
授業内容	第1回　講義及びレポート等のガイダンス,自己紹介(目標2) 第2回　家族の現在(目標3) 第3回　家族の変化 --機能・制度(目標3)

第4回	家族の変化 --法律(目標3)
第5回	家族問題の現状 --家族関係(夫婦関係・親子関係)(目標1)
第6回	家族問題の現状 --家族関係(きょうだい関係・祖父母,孫関係)(目標1)
第7回	家族問題の現状 --離婚・ひとり親家庭(目標1・2)
第8回	家族問題の現状 --児童虐待(目標1・2)
第9回	家族問題の現状 --児童虐待(目標1・2)
第10回	家族問題の現状 --ドメスティックバイオレンス(DV)(目標1・2)
第11回	家族問題の現状 --ドメスティックバイオレンス(DV)(目標1・2)
第12回	家族問題への対策 --公的支援(目標2・3)
第13回	家族問題への対策 --私的支援(目標2・3)
第14回	家族問題への対策 --幼児教育に携わる者にできること(目標2・3)
第15回	これからの家族援助(まとめ)(目標2)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	家族に関する基礎的なことが理解できていること。 家族への援助はどうあるべきかが理解できていること。
	評価の方法	平常点，提出レポート及び期末の筆記試験で評価する。 平常点（出席点として毎時間簡単な感想）とレポート 40%, 期末筆記試験 60%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「家庭福祉論」古川繁子・中川英子編著　学文社　随時プリント（資料）を配布
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育内容指導法演習・環境

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容指導法演習・環境
科目責任者	
担当教員	神野　茂美
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1046001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり，自然，物，人との触れ合い，生活のひろがり
授業のねらい・概要	幼児のさまざまの環境とかかわる力を育てるための理論と方法について学ぶ
学生の達成目標	1. 幼児期における環境の役割を知る。 2. 幼児が様々な環境にかかわり,それらを生活に取り入れていく方法や配慮について学ぶ。 3. 幼児が身近な自然にかかわるための方法や配慮について知る。 4. 身近な植物,動物,小動物等について基本的な理解をする。 5. 領域「環境」の保育内容を実践する様々な留意点について学ぶ。
授業内容	第1回　オリエンテーション,講師自己紹介(目標1) 第2回　保育の基本とは DVD視聴(目標1) 第3回　保育内容,領域とは(目標1)

第4回	領域「環境」とは 幼稚園見学(目標5)
第5回	植物とどのようにかかわるか ① プランター野菜の種まき,苗植え実習(目標4)
第6回	子どもの発達の見方,捉え方 DVD視聴(目標1)
第7回	生活の中での「環境とかかわる力」の発達,カイコの飼育実習(目標4)
第8回	遊びの中での「環境とかかわる力」の発達(目標1)
第9回	関係や保育環境のあり方と「環境とかかわる力の発達」(目標1)
第10回	植物とどうかかわるか ② 木の葉を使った粘土作品,テラコッタ粘土の植木鉢作り実習(目標2)
第11回	植物とどうかかわるか ③ 幼稚園の食育についてスライド視聴(目標2)
第12回	動物とどうかかわるか ①(目標4)
第13回	飼育動物とどうかかわるか ② ウサギとカメの飼育,かかわりについて実習(目標4)
第14回	小動物とどうかかわるかカタツムリの飼育について(目標4)
第15回	動物とどうかかわるか ③ 千葉市動物公園見学(目標4)
第16回	生物の多様性とは(目標4)
第17回	環境教育,ビオトープについて スライド視聴(目標3)
第18回	身近な自然とどうかかわっているか プランター球根植え,苗植え実習(目標3)
第19回	関係のなかで「環境とかかわる力の発達」(目標3)
第20回	身近な物とどうかかわるか草木染め(マリーゴールド)実習(目標2)
第21回	文字や記号とどうかかわるか(目標2)
第22回	数量や形とどうかかわるか 積み木教材実習(目標2)
第23回	園内外の行事や人とどうかかわっているか 園行事(発表会) DVD視聴(目標2)
第24回	環境構成,保育者の役割と領域「環境」(目標2)
第25回	好奇心,探究心,思考力を育てるとは(目標2)
第26回	物や命を大切にするには(目標2)
第27回	生活に関係の深い情報や施設に関心をもつには 千葉県立中央博物館見学(目標2)
第28回	領域「環境」と実践上の留意点 ①(目標5)
第29回	領域「環境」と実践上の留意点 ②(目標5)
第30回	まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	学習内容の理解度を試験，レポートで評価
	評価の方法	試験 70パーセント，小レポート 20パーセント，実習の取り組み 20パーセント
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 柴崎正行・若月芳浩　最新保育講座　保育内容「環境」ミネルヴァ書房	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容指導法演習・言葉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容指導法演習・言葉
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1047001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの言葉，言葉の発達，成長発達と言葉，関係性と言葉，言葉と支援
授業のねらい・概要	子どもの言葉について，子どもの全体的な成長発達の中で発達の筋道を理解し，親子の関係性や今日の家族的課題の中から捉える。 また，生活や遊びを通して言葉を培っていく実践方法，言葉を通して発達支援していく実践方法や親子支援していく実践方法について，子どものリアルな姿と合わせて考え，学ぶ。
学生の達成目標	1. 子どもの言葉について,発達の筋道を知る。 2. 言葉の発達を子どもの全体的な成長発達の中で捉える。 3. 子どもの言葉を,親子の関係性,子ども同士の関係性,大人との関係性から理解する。 4. 特別な支援が必要な障がいと言葉について知る。 5. 子どもの生活や遊びの中で,言葉のかかわりを通して子どもを支援する方法を考える。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　言葉の発達の筋道(1)言葉とは何か,生涯を通しての言葉(目標1)

第3回	言葉の発達の筋道(2)各月齢の成長発達と言葉(0歳)(目標2)
第4回	言葉の発達の筋道(3)各月齢の成長発達と言葉(1歳)(目標2)
第5回	言葉の発達の筋道(4)各月齢の成長発達と言葉(2歳)(目標2)
第6回	言葉の発達の筋道(5)各月齢の成長発達と言葉(3歳)(目標2)
第7回	言葉の発達の筋道(6)各月齢の成長発達と言葉(4歳)(目標2)
第8回	言葉の発達の筋道(7)各月齢の成長発達と言葉(5歳)(目標2)
第9回	言葉の発達の筋道(8)各月齢の成長発達と言葉(6歳)(目標2)
第10回	親子の関係性と言葉(1)胎児・新生児(目標3)
第11回	親子の関係性と言葉(2)乳児期(目標3)
第12回	親子の関係性と言葉(3)幼児期(目標3)
第13回	事例から学ぶ(1)学生からのレポートと討議 ①(目標2・3)
第14回	事例から学ぶ(2)学生からのレポートと討議 ②(目標2・3)
第15回	事例から学ぶ(3)学生からのレポートと討議 ③(目標2・3)前期のまとめ,後期の確認
第16回	障がいと言葉(目標4)
第17回	子どもの言葉と特別な支援(目標4)
第18回	子ども同士のかかわり,大人とのかかわりと言葉(1)0歳児クラス(目標3)
第19回	言葉への支援,言葉を通しての支援(1)0歳児クラス事例討議(目標5)
第20回	子ども同士のかかわり,大人とのかかわりと言葉(2)1歳児クラス(目標3)
第21回	言葉への支援,言葉を通しての支援(2)1歳児クラス事例討議(目標5)
第22回	子ども同士のかかわり,大人とのかかわりと言葉(3)2歳児クラス(目標3)
第23回	言葉への支援,言葉を通しての支援(3)2歳児クラス事例討議(目標5)
第24回	子ども同士のかかわり,大人とのかかわりと言葉(4)3歳児クラス(目標3)
第25回	言葉への支援,言葉を通しての支援(4)3歳児クラス事例討議(目標5)
第26回	子ども同士のかかわり,大人とのかかわりと言葉(5)4歳児クラス(目標3)
第27回	言葉への支援,言葉を通しての支援(5)4歳児クラス事例討議(目標5)
第28回	子ども同士のかかわり,大人とのかかわりと言葉(6)5歳児クラス(目標3)
第29回	言葉への支援,言葉を通しての支援(6)5歳児クラス事例討議(目標5)
第30回	言葉への支援,言葉を通しての支援(7)特別な支援事例討議(目標5) 全期のまとめ

予習・復習の内容	予習
	復習

	展開
成績評価	評価の基準 上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。 評価の方法 参加内容 50%，期末試験（筆記） 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は指定せず，資料を随時配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育内容指導法演習・表現

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育内容指導法演習・表現
科目責任者	黒田　静江
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1048001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	感じ考える・音楽・動き・共感・創造
授業のねらい・概要	領域「表現」の考え方を理解し，音楽や動きを中心とした表現活動における保育者の援助について考える。 またグループ課題を通して，学生自身が自らの持てる力を使って創意工夫をし発表しあうことで，表現の多様性や保育展開について学び合う。
学生の達成目標	1. 領域「表現」の考え方や,乳幼児の音楽的な発達について理解する。 2. 子どもの表現を育てるために,保育者はどのような援助をするとよいか考える。 3. 音楽的表現課題を通して,学生自身の表現意欲を高め,保育現場で使える技術を身につける。 4. 表現は人やモノとの関わりの中で育まれ,お互いを認め合うことで,表現が変化し発展していくことを体験的に学ぶ。
授業内容	第1回　～ 第2回　授業目標・概要などについてのガイダンス「表現」の意味と領域[表現」(目標1)

第3回	～
第4回	乳幼児の発達と音楽的な発達(目標1)
第5回	～
第6回	簡単な動きを伴ったあそび歌(1) 幼児の発達と遊びの展開(目標1,2)
第7回	～
第8回	簡単な動きを伴ったあそび歌(2) 指導法を考える(目標1,2,3)
第9回	～
第10回	乳児のわらべうた(目標1,3)
第11回	～
第12回	幼児のわらべうた(目標1,3)
第13回	～
第14回	環境との関わりからうまれる表現活動 (1) 素材と出合う(目標2,4)
第15回	～

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	乳幼児の音楽的発達について理解できていること。 また乳幼児の表現に対する基本的な考え方を理解し，表現を育む保育のあり方について自分なりの考え方が持てること。 自らの感性に気づき，持てる力を駆使しながら，グループメンバーと協力して表現課題に取り組めること。
	評価の方法	提出レポート，グループ課題発表，授業への参加態度で評価する。 感想レポートでは，文章表現から各自の表現への意欲や他者の表現に対する受け止め方を見る。 レポート（ 40%），グループ課題発表（ 40%），授業への参加態度（ 20%），最終的に若干変化することもある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 幼児の表現をはぐくむ歌　黒田静江　音楽教育研究会　 2 ,310円
推薦図書等	
参考URL	
備考	音楽の基礎的な知識と，保育現場で使う歌をピアノで弾けることが望ましい。

障害児保育演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	障害児保育演習
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1051001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害児保育，統合保育，個に応じたかかわり
授業のねらい・概要	一般の保育と障害児保育との連続性に気付き，一人ひとりの発達上の課題に対して，特別な保育ニーズと支援を明らかにする観点からの障害に対する理解を深める。 また，障害のある子どもを取り巻く理念等に関する理解を深め，併せて保育所・障害児通園施設等での保育の変遷と現状，および今後の課題を理解する。 また，障害のある子を含めた保育展開上の配慮点，環境設定上の工夫などについても，演習を通して体験的に理解する。
学生の達成目標	1. 障害児保育を支える理念について理解する 2. 障害のある子を取り巻く保育の現状について理解する 3. 障害のある子を含めた遊びの展開について考える 4. 障害のある子を含めた保育展開を行う上での環境設定上の工夫について考える 5. 障害のある子を含めた保育展開における具体的な配慮について考える
授業内容	第1回　ガイダンス・障害児保育とは ①(目標1) 第2回　障害児保育とは ②(目標1)

第3回	障害児保育を支える理念(目標1)
第4回	障害児保育を支える制度(目標1・2)
第5回	障害児保育の変遷 ①(目標2)
第6回	障害児保育の変遷 ②(目標2)
第7回	障害児保育の変遷 ③(目標2)
第8回	心身の障害とその理解(概説) ①(視覚障害)(目標3・4・5)
第9回	心身の障害とその理解(概説) ②(聴覚障害)(目標3・4・5)
第10回	心身の障害とその理解(概説) ③(ことばの障害)(目標3・4・5)
第11回	心身の障害とその理解(概説) ④(身体と運動の障害)(目標3・4・5)
第12回	心身の障害とその理解(概説) ⑤(知能の障害)(目標3・4・5)
第13回	心身の障害とその理解(概説) ⑥(情緒および対人関係の障害 ①)(目標3・4・5)
第14回	心身の障害とその理解(概説) ⑦(情緒および対人関係の障害 ②)(目標3・4・5)
第15回	保育でのかかわりと育ち ①(見えることに困難のある子を含めて)(目標3・4・5)
第16回	保育でのかかわりと育ち ②(聞こえることに困難のある子を含めて)(目標3・4・5)
第17回	保育でのかかわりと育ち ③(話すことに困難のある子を含めて)(目標3・4・5)
第18回	保育でのかかわりと育ち ④(動くことに困難のある子を含めて)(目標3・4・5)
第19回	保育でのかかわりと育ち ⑤(知的に遅れのある子を含めて)(目標3・4・5)
第20回	保育でのかかわりと育ち ⑥(行動と情緒の調整に困難のある子を含めて)(目標3・4・5)
第21回	保育でのかかわりと育ち ⑦(自閉的な傾向がみられる子を含めて)(目標3・4・5)
第22回	保育でのかかわりと育ち ⑧(子どもどうしのかかわりや育ちについて)(目標3・4・5)
第23回	療育でのかかわりと育ち ①(療育ということ・療育の場)(目標3・4・5)
第24回	療育でのかかわりと育ち ②(療育の方法)(目標3・4・5)
第25回	療育でのかかわりと育ち ①(生活と療育)(目標3・4・5)
第26回	家庭での育ち ①(親の悩み・家族への援助)(目標2)
第27回	家庭での育ち ②(生活体験の中での育ち)(目標2)
第28回	地域での育ち ①(地域で子どもとかかわる)(目標2)
第29回	地域での育ち ②(地域の中での育ち)(目標2)
第30回	まとめ・総括

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	上記「学籍の達成目標」に到達し，障害児保育に関する基本的な知識および考え方が各自に備わること
	評価の方法	平常点（期間中に簡単なレポートを課す） 30%，最終レポート 20%，期末筆記試験 50%の成績を総合する。 ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	大場幸夫・柴崎正行著『障害児保育』：ミネルヴァ書房 ISBN： 978 -4-623-03493-2	
推薦図書等		
参考URL		
備考	本計画は，学生の理解状況・教育効果により，前後する可能性がある。	

養護内容演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	養護内容演習
科目責任者	
担当教員	水鳥川　洋子
授業形態	演習
開講時期	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会的養護，児童虐待，心の発達課題，基本的信頼，自立支援
授業のねらい・概要	現代の子どもを巡る社会的養護の現状を理解し，児童福祉施設で暮らす子どもたちの養育について，基本的な事柄を理解するとともに具体的な援助の方法を学ぶ
学生の達成目標	1. 子どもの社会的養護の実態(現代の社会状況・児童福祉施設入所児の暮らし)を知る。 2. 事例検討や援助技術の実習等を通して,子ども理解の方法と現場で役に立つ具体的支援の方法を学ぶ。 3. これからのこどもの社会的養護のあり方と子どもを養育する上での理念を自ら考察し説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　心の発達課題と現代の子どもたち(目標1) 第3回　虐待を受けた子どもたちの心の発達の危機(目標1) 第4回　問題行動の理解(目標1) 第5回　児童相談所の一時保護所の子どもたちへの援助養育上大切なこと(1)(目標1,3)

第6回	乳児院の子どもたちの暮らしとその支援養育上大切なこと(2)(目標1,3)
第7回	児童養護施設の子どもたちの暮らしとその支援養育上大切なこと(3)(目標1,3)
第8回	児童自立支援施設の子どもたちの暮らしとその支援養育上大切なこと(4)(目標1,3)
第9回	母子生活支援施設の子どもたちの暮らしとその支援養育上大切なこと(5)(目標1,3)
第10回	情緒障害児施設の子どもたちの暮らしとその支援養育上大切なこと(6)(目標1,3)
第11回	知的障害児施設の子どもたちの暮らしとその支援養育上大切なこと(7)(目標1,3)
第12回	肢体不自由児施設・重症心身障害児施設の子どもたちの暮らしとその支援養育上大切なこと(8)(目標1,3)
第13回	障害児通園施設に通う親子への支援養育上大切なこと(9)(目標1,3)
第14回	里親家庭の暮らしと里親支援養育上大切なこと(10)(目標1,3)
第15回	前期のまとめ:児童福祉施設における児童の社会的養護とその意義(目標1,2))
第16回	施設入所時の留意点と基本的な日常生活の支援(目標1,2)
第17回	アセスメントと自立支援計画(目標1,2)
第18回	子どもの自立への支援 リービングケアとアフターケア(目標1,2)
第19回	実習で出会った気になる子ども(自立支援計画の作成とグループ討議)(目標2)
第20回	実習で出会った気になる子ども(グループ討議による事例検討)(目標2)
第21回	実習で出会った気になる子ども(グループ討議及び発表)(目標2)
第22回	家族支援と家族再統合(目標1,2)
第23回	コモンセンス・ペアレンティング(実習)(目標2)
第24回	コモンセンス・ペアレンティング(実習)(目標2)
第25回	コモンセンス・ペアレンティング(実習)(目標2)
第26回	コモンセンス・ペアレンティング(実習)(目標2)
第27回	学校や地域社会との関係(目標1,2)
第28回	保育士の倫理と専門性(目標3)
第29回	これからの施設と保育士の役割と求められるもの(目標3)
第30回	養護内容演習のまとめ(目標3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	社会的養護の現状と要保護児童の支援について理解し，自分の考えとともに説明できる。
	評価の方法	期末試験 50%　授業中のレポート 30%　授業への参加度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習 Ⅱ（障害施設等）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育実習 Ⅱ（障害施設等）
科目責任者	
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1055001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害関係施設等における実習，観察実習，参加実習
授業のねらい・概要	・障害関係施設等における保育・指導の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な人間性を養うと共に，専門的な知識や技能を身につける。 ・障害関係施設の生活へ参加し，その様子を体験的に理解する。
学生の達成目標	1. 障害関係施設等の生活に参加する。 2. 障害関係施設等での子どもたちや利用者の姿について観察し,発達等に関する理解を深める。 3. 保育士の姿を観察し,子どもや利用者への働きかけや関わり方について理解を深める。 4. 自分なりに工夫して,子どもたちや利用者と関わる。 5. 気づきや課題を記録し,日々の省察を行う。

授業内容	
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 実習先での評価基準に原則として準ずる。 評価の方法 実習先評価（ 70%），記録簿（ 20%），巡回指導（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 本学実習委員会編『実習の手引書』：正文社 保育所保育指針原版・保育所保育指針解説書 （いずれも，他の授業で購入済みのもの）
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育実習 Ⅲ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育実習 Ⅲ（保育所）
科目責任者	
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1056001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育所における実習，参加実習，責任実習
授業のねらい・概要	・保育所における保育の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに，専門的な知識・技能を身につける。 ・家庭と地域の生活実態にふれて，現代の子どもや家庭の抱えているニーズや子育て支援を行う立場としての保育所や保育士の役割について，体験的に理解する。
学生の達成目標	1.　保育全般に参加し,保育技術を身につける。 2.　子どもの個人差について理解し,対応方法を身につける。 3.　指導計画を立案し,実際に実践する。 4.　気づきや課題を記録し,日々の省察を行う。
授業内容	

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習先での評価基準に原則として準ずる。
	評価の方法	実習先評価（ 70%），記録簿（ 20%），巡回指導（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習 Ⅳ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育実習 Ⅳ（施設）
科目責任者	
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1057001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害関係施設等における実習，参加実習，責任実習
授業のねらい・概要	・障害関係施設等における保育の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに，専門的な知識・技能を身につける。 ・障害関係施設等の生活へ参加し，子どもや利用者への理解を深めるとともに，障害関係施設等の機能とそこでの保育士の職務について理解する。
学生の達成目標	1. 障害関係施設等における生活全般に参加し,保育技術を身につける。 2. 子どもや利用者の個人差について理解し,対応方法を身につける。 3. 必要に応じて,指導計画を立案し,実際に実践する。 4. 気づきや課題を記録し,日々の省察を行う。
授業内容	

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 実習先での評価基準に原則として準ずる。 評価の方法 実習先評価（ 70%），記録簿（ 20%），巡回指導（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 本学実習委員会編『実習の手引書』：正文社 保育所保育指針原版・保育所保育指針解説書 （いずれも，他の授業で購入済みのもの）
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	保育実習事前事後指導
科目責任者	
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 村松　憲子 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1058001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育実習，事前指導，事後指導
授業のねらい・概要	実習の意義と目的を理解し，体験学習への対応能力を習得する（事前指導）。 体験学習で得た具体的内容を元に，児童福祉施設の機能や児童福祉従事者の職務について理解を深める（事後指導）。
学生の達成目標	1.　実習の意義や目的を理解する。 2.　実習先の役割や保育士の専門性について理解を深める。 3.　実習先で必要となる諸能力を身につける。 4.　実習で必要な諸事務手続きを行う。 5.　実習での経験を言語化して整理し,今後の目標や課題を持つ。

	第1回	実習の意義と目的(目標1),実習指導に関するガイダンス
	第2回	児童福祉施設の社会的役割と保育士の専門性について(目標2)
	第3回	子どもの発達過程について(復習)(目標3)
	第4回	実習における自己目標の設定(目標1)
	第5回	子どもへの支援的対応について(目標3・5)
	第6回	実習にあたっての諸手続(目標4)
	第7回	実習にあたっての諸手続(目標4)
	第8回	子どもの生活と実習のポイント(3歳未満児)(目標2・3)
	第9回	子どもの生活と実習のポイント(3歳未満児)(目標2・3)
	第10回	子どもの生活と実習のポイント(3歳以上児)(目標2・3)
	第11回	子どもの生活と実習のポイント(3歳以上児)(目標2・3)
	第12回	記録簿の意義と記入の仕方(目標3)
	第13回	記録簿の意義と記入の仕方(目標3)
	第14回	実習における態度等(直前指導)(目標3)
	第15回	自己目標に対する自己評価今後の課題の明確化(目標5)
授業内容		(前期:3年次・保育実習 Ⅱ～ Ⅳ事前事後指導)
	第16回	施設の概要と生活(目標2)
	第17回	施設の概要と生活(目標2)
	第18回	実習における自己目標の設定(目標1)
	第19回	実習の振り返りと指導案(3歳未満児)(目標5)
	第20回	実習の振り返りと指導案(3歳未満児)(目標5)
	第21回	実習の振り返りと指導案(3歳以上児)(目標5)
	第22回	実習の振り返りと指導案(3歳以上児)(目標5)
	第23回	記録簿の意義と記入の仕方(目標3)
	第24回	記録簿の意義と記入の仕方(目標3)
	第25回	実習にあたっての諸手続(目標4)
	第26回	実習にあたっての諸手続(目標4)
	第27回	実習における態度等(直前指導)(目標3)
	第28回	自己目標に対する自己評価,今後の課題の明確化(目標5)
	第29回	実習経験の伝達(目標5)
	第30回	実習経験の伝達(目標5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習に意欲的に参加する基礎準備が整っていること，実習先で必要な最低限の能力が備わっていること（事前指導）。 実習での体験について自分なりの考察を加え言語化することができること，自分の今後の課題や目標設定ができること（事後指導）。
	評価の方法	平常点（授業の参加状況等： 30%），提出物（授業内の課題： 60%，事務書類： 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 本学実習委員会編『実習の手引書』阿部和子他編「保育実習」：ミネルヴァ書房保育所保育指針・保育所保育指針解説書	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	木下　勝世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	文化，コミュニケーション，子ども，あそび
授業のねらい・概要	現代の社会とその歴史が，今日の子どもたちの文化を形成している。 将来教師・保育者となる者たちには，この文化を継承するとともに，子どもと協同して新しい文化の創造者となることが期待されている。 このことに必要な資質を養うために，見聞を広め，自ら工夫して創り，遊ぶ経験をする。 このために，受講学生の希望，意向を聴取し，各受講生の得意とする分野を生かし，また挑戦してみたいと考える事柄に取り組んで，共同的に学習を進めるようにする。 さらに保育現場に赴く新人保育者として自己を見つめ，研さんして前進する心情を養う。
学生の達成目標	1. 様々な分野の意見に耳を傾け,自己の考えを形成する力を身につける。 2. 子どもの世界を感じ取り,子どもの文化を学ぶ。 3. 子どもの世界に共に遊び,あそびを創りだす力を身につける。 4. 自己を見つめ,長所短所を自覚して,現場人としての出発に備える。
授業内容	第1回　　～

第2回	様々な人の意見を聞いて話し合う。(目標1) <内容> 新聞の投書欄を読み,新たに興味を持った事柄,賛同する意見,反対の立場の意見等について報告し話し合う。
第3回	～
第4回	子どもや保育をめぐる現状からテーマを設定して話し合う。(目標1) <内容> 現代社会が抱える子供や保育の諸問題の中から,関心のある事柄を選び,グループで調べ,発表して話し合う。
第5回	～
第6回	みんなで物語を作る。(目標2) <内容> ストーリを考える。主題歌や挿入歌を作る。紙芝居にする。上演する機会を作る。
第7回	～
第8回	あそびを考え遊ぶ。(目標3) <内容> 紙・粘土等の材料で室内で遊ぶ。フープ,ナワ,土・砂で戸外で遊ぶ。 何も遊ぶものがなくて遊ぶ。
第9回	～
第10回	あそび道具を考えて作る。(目標3) <内容> 子どものあそびを観察し,あそび道具の着想を得る。 あそび道具を作り,子どもに提供して遊んでもらう。 改良する。
第11回	～
第12回	卒業を目前にして話し合う。(目標4) <内容> これからの職業生活について抱負を述べるとともに,自己の長所や短所について分析し,保育者としての成長の基盤を作る。 個々の考えを発表するとともに友人としての進言・助言を交換する。

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 自己の考えをまとめ発表すること，他者の意見を傾聴し取り入れること，仲間と協同して活動することなど，達成目標への取り組みの様子を中心にして評価する。 評価の方法 積極的な思考と発表（ 25%）取り組みの姿勢（ 25%）共同活動への参加（ 25%）作品の出来栄え（ 25%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし
推薦図書等	

参考URL	
備考	活動に必要な材料や物品について，各自で用意してもらうことがあります。

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	
担当教員	大木　みわ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人権と平等，すべての人が豊かに生きる社会，社会的弱者と福祉
授業のねらい・概要	自分でテーマを探し，資料を基に発表，意見交換ができるような学習の場を創る。
学生の達成目標	1. 広い視野にたって,テーマを見出すことができる。 2. 自分で選んだテーマについて資料を収集することができる。 3. 資料をまとめ,発表することができる。 4. 他者の発表に触れ,討論に参加することができる。 5. 全員で資料集を作成する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 授業目標,方法について説明(目標1) 第2回　～ 第3回　各自が選定したテーマについて調査,報告,討論する。(目標2,3,4) 第4回　まとめ(目標5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	ねらいを理解し，意見をまとめて，発表･討論できる。
	評価の方法	出席状況 30%，発表･討論への参加姿勢 40%，レポート 30% で総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	
担当教員	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059003
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの人権，保育の今日的問題，人形劇
授業のねらい・概要	人間尊重・人権尊重の精神はもとより，地球環境，異文化理解など人類に共通するテーマや少子・高齢化と福祉，家庭の在り方など我が国の社会体制に関わるテーマについて，保育者を目指す者の理解を深めその視野を広げる。 また，これから諸課題に係わる内容に関し適切に指導できる人材の育成となることをねらいとする。今，求められている資質能力の形成を促進するという視点から，テーマ設定や演習内容が特定分野に集中しないように，できる限り今日的な種々の課題を取り上げる。
学生の達成目標	1. 大学での学びを総合的にとらえ,基本となるもの学び,課題等を設定し学ぶことが出来る。 2. 本科目のテーマに沿った内容の研修,実地見学を行う。 3. さらに自分自身のテーマについて,観察,調査したことをまとめ,グループでディスカッションをして理解を深めさらに視野を広げる。 4. 子どもの活動を豊かにするために,自分を知り,得意とする分野を自覚し,伸ばすことができる。

授業内容	第1回	本科目の目標,授業の概要。受講上の心得。授業形式と実技演習予定
	第2回	幼稚園教育要領について(目標1)
	第3回	保育所保育指針について(目標1)
	第4回	子どもを守る決まり 児童憲章等について(目標1)
	第5回	子どもの人権 人権への配慮,個人情報の取り扱い(目標1)
	第6回	保育にかかわる課題の中からテーマを選び資料を収集(目標1)
	第7回	保育にかかわる課題の中からテーマを選び新聞の切り抜きや雑誌のコピーを分析,検討を行う。(目標1)
	第8回	保育にかかわる課題の発表を行い,内容を深める(目標1,3)
	第9回	保育士,教師に求められる倫理や行動規範(目標1,3)
	第10回	虐待等の問題と対応。専門機関の知識(目標1,3)
	第11回	少子・高齢化と福祉。(目標1,3)
	第12回	子育て支援。家庭の在り方と保育施設,幼稚園の在り方。(目標1,2)
	第13回	～
	第14回	子どもから高齢者までの芸術教育の意義(目標1)
	第15回	～
	第16回	玩具の工房の見学(目標2)
	第17回	～
	第18回	物語や昔話の考察(目標4)
	第19回	～
	第20回	美術鑑賞:まなざしの共有から絵の対話,もし目が見えなかったら(目標2,3)
	第21回	子どもから高齢者までの絵本の研究と実践(目標3)
	第22回	子どもから高齢者までの玩具の魅力と実践(目標3)
	第23回	各自のレポート発表(目標4)
	第24回	まとめ(目標4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果
	評価の方法	レポート（ 30%）, 発表（ 30%）, 作品（ 30%）, 授業への参加度（ 10%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「保育内容の研究　造形活動と遊び　手作り絵本と人形遊び」　植草一世　大揚社
推薦図書等	
参考URL	
備考	

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	
担当教員	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059004
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの権利，児童家庭福祉施設サービス，在宅児童サービス
授業のねらい・概要	今，子どもたちの育ちをめぐっていったい何が起きているのか。 また子育て家庭を取り巻く状況や児童家庭福祉における実践の理解を，文献・資料・映像等も用いつつ，社会，経済，文化的背景の元で生み出されてきている様々な現象に関する分析，検討を加える中で行う。これらの導入としての問題提起も行いつつ，グループ学習活動を通したディスカッション等を行っていく中で問題意識の醸成，課題解決に向けての手法を学ぶ。
学生の達成目標	1.　子どもを取り巻く環境についての理解を深める 2.　子どもの権利についての理解を深める 3.　子ども支援の実際について理解する 4.　子ども支援のあり方と課題について理解を深める
授業内容	第1回　ガイダンス 第2回　子どもを取り巻く現状(目標1)

第3回	子育てを取り巻く現状(目標1)
第4回	子どもの育ち,子育てのニーズ(目標1)
第5回	児童家庭福祉とは何か(目標1,2)
第6回	子どもの権利保障(目標1,2)
第7回	子どもの権利保障に関する取り組み(自治体,民間含む) (目標1,2)
第8回	子どもと親権(目標2)
第9回	児童家庭福祉にかかわる権利擁護と苦情解決(目標1,2)
第10回	児童家庭福祉の機関 ①(行政機関と関連機関)(目標3)
第11回	児童家庭福祉の機関 ②(児童(家庭)福祉施設)(目標3)
第12回	児童家庭福祉の専門職 ①(行政機関と専門職) (目標3)
第13回	児童家庭福祉の専門職 ②(児童(家庭)福祉施設の専門職)(目標3)
第14回	児童家庭福祉専門職と倫理(目標3)
第15回	前期のまとめ(目標1,2,3)
第16回	児童(家庭)福祉施設の実際 ①(保育所と認可外保育サービス)(目標3,4)
第17回	児童(家庭)福祉施設の実際 ②(乳児院,児童養護施設)(目標3,4)
第18回	児童(家庭)福祉施設の実際 ③(児童自立支援施設)(目標3,4)
第19回	児童(家庭)福祉施設の実際 ④(情緒障害児短期治療施設)(目標3,4)
第20回	児童(家庭)福祉施設の実際 ⑤(母子生活支援施設,その他の施設等)(目標3,4)
第21回	児童(家庭)福祉施設をめぐる現状と課題(目標3,4)
第22回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ①(在宅福祉サービスの分野)(目標3,4)
第23回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ②(在宅子育て家庭に対する保育サービス)(目標3,4)
第24回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ③(ひとり親家庭に対する福祉サービス)(目標3,4)
第25回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ④(引きこもり,不登校児童への福祉サービス)(目標3,4)
第26回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ⑤(虐待を受けた子どもへのサービス)(目標3,4)
第27回	在宅児童を対象としたサービスの実際 ⑥(放課後児童健全育成事業)(目標3,4)
第28回	在宅児童を対象としたサービスをめぐる現状と課題(目標3,4)
第29回	子ども支援の在り方について(目標4)
第30回	全体のまとめ(目標2,3,4)

予習・復習の内容	予習
	復習

	展開
成績評価	評価の基準 子どもとその家庭を取り巻く状況及び，子どもに対しての施設，在宅サービスの機能，役割についての理解ができていること。 また今後の児童家庭福祉のあり方について，子ども支援の立場から一定の問題整理ができ，かつ解決の方向性を示すことができることを合格基準とする。 評価の方法 発表（ 30%）　レポート（ 70%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 指定しません。必要に応じて資料を配付します。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，学びの振り返り，自己研鑽
授業のねらい・概要	保育に関する科目横断的な学習能力の習得のため，修得科目および実習等における自らの学びを振り返り，保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。 また，学びの中で疑問に感じたり戸惑ったりした事例について深く掘り下げて考えグループ討議やロールプレイング等を交えながら，問題解決のための対応や判断方法等について学びを深める機会とする。
学生の達成目標	1. 自分の今までの学びを振り返り,獲得した知識・技能を確認する 2. 振り返りを通して感じた疑問や戸惑いを,深く掘り下げて考察していく 3. 情報交換を通して,自分なりの問題解決のための対応や判断方法等について考える 4. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する 5. 保育に関する現代的課題についての現状分析,考察,検討を行う
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　これまでの学修の振り返り(個人作業 ①)(目標1)

第3回	これまでの学修の振り返り(個人作業 ②)(目標1)
第4回	これまでの学修の振り返り(グループ討議 ①)(目標1・3)
第5回	これまでの学修の振り返り(グループ討議 ②)(目標1・3)
第6回	実習に関する学びの振り返り(保育士の意義について ①)(目標1・2・3)
第7回	実習に関する学びの振り返り(保育士の意義について ②)(目標1・2・3)
第8回	実習に関する学びの振り返り(保育士の役割について ①)(目標1・2・3)
第9回	実習に関する学びの振り返り(保育士の役割について ②)(目標1・2・3)
第10回	実習に関する学びの振り返り(保育士の職務内容について ①)(目標1・2・3)
第11回	実習に関する学びの振り返り(保育士の職務内容について ②)(目標1・2・3)
第12回	実習に関する学びの振り返り(児童に関する責任について ①)(目標1・2・3)
第13回	実習に関する学びの振り返り(児童に関する責任について ②)(目標1・2・3)
第14回	実習に関する学びの振り返り(児童理解について・乳児編)(目標1・2・3)
第15回	実習に関する学びの振り返り(児童理解について・未満児編)(目標1・2・3)
第16回	実習に関する学びの振り返り(児童理解について・以上児編 ①)(目標1・2・3)
第17回	実習に関する学びの振り返り(児童理解について・以上児編 ②)(目標1・2・3)
第18回	実習に関する学びの振り返り(社会性・対人関係能力について ①)(目標1・2・3)
第19回	実習に関する学びの振り返り(社会性・対人関係能力について ②)(目標1・2・3)
第20回	実習に関する学びの振り返り(保育内容等の指導力について・養護)(目標1・2・3)
第21回	実習に関する学びの振り返り(保育内容等の指導力について・5領域 ①)(目標1・2・3)
第22回	実習に関する学びの振り返り(保育内容等の指導力について・5領域 ②)(目標1・2・3)
第23回	実習に関する学びの振り返り(保育内容等の指導力について・5領域 ③)(目標1・2・3)
第24回	実習に関する学びの振り返り(保育内容等の指導力について・5領域 ④)(目標1・2・3)
第25回	実習に関する学びの振り返り(保育内容等の指導力について・5領域 ⑤)(目標1・2・3)

	第26回	実習に関する学びの振り返り(保育内容等の指導力について・総括①)(目標1・2・3)
	第27回	実習に関する学びの振り返り(保育内容等の指導力について・総括②)(目標1・2・3)
	第28回	資質能力の確認(これまでの学修および実習での学びを通して ①)(目標4)
	第29回	資質能力の確認(これまでの学修および実習での学びを通して ②)(目標4)
	第30回	まとめ(目標5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に準じる
	評価の方法	レポート（授業ごとに作成する小レポートも含む） 60%，毎回の取り組み（討議や演習における意欲・態度） 40%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性がある
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特に指定しない	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

総合演習（保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（保育）
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1059006
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子育て家庭，家族的課題，保育実践力，学びの確認，横断的な学び
授業のねらい・概要	保育者が担うべき役割を，子育て家庭における今日的課題と家族的課題から明らかにし，保育者として必要な専門性をこれまでの自らの学びから再確認し，さらに，横断的に統合させて学びを深めたり補ったりすることで保育実践力の基盤を形成し，また，形成されたことを確認する。
学生の達成目標	1. 子育て家庭における今日的課題と家族的課題を明らかにする。 2. これまでの学びの中から,今日求められる保育の専門性と保育者の役割を再考察する。 3. 専門的な保育実践にむけて,家族的課題ごとの支援を具体的に検討する。 4. 自らに必要な知識技能を知り,習得に向けて課題設定し,支援者間で共有しながら,課題解決に臨む意欲を培う。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　子育て家庭における今日的課題と家族的課題の整理(1)整理 (目標1)

第3回	子育て家庭における今日的課題と家族的課題の整理(2)演習課題設定 (目標1)
第4回	演習課題1(1)課題分析 (目標1)
第5回	演習課題1(2)支援の検討 (目標3)
第6回	演習課題1(3)保育者としての課題の検討 (目標4)
第7回	演習課題1(4)報告発表と討議 ① (目標4)
第8回	演習課題1(5)報告発表と討議 ② (目標4)
第9回	演習課題1(6)総括 (目標2・4)
第10回	演習課題2(1)課題分析 (目標1)
第11回	演習課題2(2)支援の検討 (目標3)
第12回	演習課題2(3)保育者としての課題の検討 (目標4)
第13回	演習課題2(4)報告発表と討議 ① (目標4)
第14回	演習課題2(5)報告発表と討議 ② (目標4)
第15回	演習課題2(6)総括 (目標2・4)前期のまとめ,後期の確認
第16回	演習課題3(1)課題分析 (目標1)
第17回	演習課題3(2)支援の検討 (目標3)
第18回	演習課題3(3)保育者としての課題の検討 (目標4)
第19回	演習課題3(4)報告発表と討議 ① (目標4)
第20回	演習課題3(5)報告発表と討議 ② (目標4)
第21回	演習課題3(6)総括 (目標2・4)
第22回	演習課題4(1)課題分析 (目標1)
第23回	演習課題4(2)支援の検討 (目標3)
第24回	演習課題4(3)保育者としての課題の検討 (目標4)
第25回	演習課題4(4)報告発表と討議 ① (目標4)
第26回	演習課題4(5)報告発表と討議 ② (目標4)
第27回	演習課題4(6)総括 (目標2・4)
第28回	演習課題全体の振り返り (目標2・4)
第29回	資質能力の確認 (目標2・4)
第30回	全期のまとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準 上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。

	評価の方法 参加内容 50%，報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は指定せず，資料を随時配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	貫井　正納
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A1102002
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	観察，実験，小学校教材
授業のねらい・概要	本学の学生はもとより，小学校教員を志望する学生の多くは，高等学校では文系のクラスに配属され，理科の授業は不十分で，観察，実験はほとんど経験していない。 これらの学生が小学校教員になれば，理科の授業および観察，実験はやらざるを得ない。 本講座は小学校で行われる基礎的な観察，実験を行い，基本的な実験操作や実験に伴う危機防止や安全教育についておこなう。
学生の達成目標	1. 観察,実験についての意義,心構え,危機防止について明確な意識を持つ。 2. 身の回りに起こる自然の事物や自然現象に関心を持つ。 3. 観察について,基本的な手法を身につける。 4. 基本的な実験操作を身につける。 5. 観察ノートおよび実験報告書がきちんと書けるようになる。 6. 基礎的な科学的知識を活用できる。 7. 事故の防止,起こった場合の事故処理について,事例をもとに訓練をする。

授業内容		
予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	理科は自然に親しみ，自ら進んで自然の事物現象についての疑問を解決することが基本である。 自ら抱いた疑問を解決するために，観察や実験を行い，自己の抱いていた考えを修正したり，新しい知識を獲得する。 同時に解決した内容を活用し次の問題へと発展していくように支援する。
	評価の方法	観察ノートの記録，観察レポート，実験のパフォーマンス評価，実験レポート，実験操作等を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	観察，実験用レポート用紙，グラフ用紙，スケッチブック等を用意する。 天候や材料の都合により順序を入れ替える事がある。 事前にプリントを配布するので，実験前によく読んでおき，必要な用語や内容について教科書等でよく調べ理解しておくこと。 なお第１日目のはじめに，観察，実験についての話をする。	

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	
担当教員	野口　芳宏
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102003
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	「大学」「中庸」，中国古典，教育基礎教養
授業のねらい・概要	中国古典の代表的著作に触れ，教育の本質，教育者としての人間観，歴史観を学ぶ。混迷する現代の教育問題をどのように打開したらよいか，根本的な観点から考察する。
学生の達成目標	1. 古典『大学』の各章を熟読し,教育の本質を考え,学ぶ。 2. 古典『中庸』の各章を熟読し,教育の本質を考え,学ぶ。 3. 相互の学びの報告を交流させつつ,教育の在り方についての考察を深める。
授業内容	第1回　『大学』解説部分の精読,要約,発表,協議,総括。(p11-27)(目標1,3) 第2回　『大学』第1章部分の精読,要約,発表,協議,総括。(p31-38)(目標1,3)

第3回	『大学』第2章部分の精読,要約,発表,協議,総括。(p39-50)(目標1,3)
第4回	『大学』第3章部分の精読,要約,発表,協議,総括。(p51-55)(目標1,3)
第5回	『大学』第4.5章部分の精読,要約,発表,協議,総括。(p57-62)(目標1,3)
第6回	『大学』第6章部分の精読,要約,発表,協議,総括。(p63-81)(目標1,3)
第7回	『大学章句』序の部分の精読,要約,発表,協議,総括(p84-95)(目標1,3)
第8回	『大学章句』第1-6章精読,要約,発表,協議,総括。(p96-108)(目標1,3)
第9回	『大学章句』第7-10章精読,要約,発表,協議,総括。(p109-121)(目標1,3)
第10回	『中庸』解説部分の精読,要約,発表,協議,総括。(p125-139)(目標2,3)
第11回	『中庸』第1-2章部分の精読,要約,発表,協議,総括(p141-157)(目標2,3)
第12回	『中庸』第3-4章部分の精読,要約,発表,協議,総括(p158-167)(目標2,3)
第13回	『中庸』第5-6章部分の精読,要約,発表,協議,総括。(p168-183)(目標2,3)
第14回	『中庸』第7-9章部分の精読,要約,発表,協議,総括。(p184-197)(目標2,3)
第15回	『中庸』第 10-14章部分の精読,要約,発表,協議,総括。(p198-221)(目標2,3)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

授業時の下調べと発表 50%。レポートによる総括 50%。

評価の方法

観察と査定による。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

『大学・中庸』岩波文庫　青 222－1　780円＋税
ISBN： 4 -00-332221-5

推薦図書等

参考URL

備考	教育の「根本，本質，原点」を学ぼうとする誠実な学生を歓迎する。

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102004
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	数学教育，テーマの選択，資料収集，まとめと発表
授業のねらい・概要	数学教育の諸問題について，テーマを選択し，そのテーマに即した資料を収集し課題を追及する。 実践に基づく成果を発表するという一連の活動を通して，総合的に学習していく行動的な態度を身に付けることができるようにする。
学生の達成目標	1. 数学教育の諸問題について知り,教材開発等の視野を広めることができる。 2. 調べてみたいテーマを選択し,調査方法等を考えることができる。 3. 諸々の資料を収集し問題点を明らかにし,自分なりの考えを持つことができる。 4. 主体的に学習に取り組み,自分の課題を解決し発表することができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(総合演習のねらい・進め方)(目標1) 第2回　数学教育の問題についてどんな問題・内容があるか探索する。(目標2) 今日話題となっている教育問題をピックアップする。

第3回	数学に関わる問題の中で追求するテーマを決める。(目標2) 環境問題と数学自然と数学災害と数学遅れがちな子供と算数活用を目指した教材開発等
第4回	～
第5回	どのように調べていったらよいかを討議する。(目標3) 自分のテーマ追求にふさわしい方法を選択する。
第6回	～
第7回	資料集めたり,現地調査をしたりする。(目標4) 新聞,雑誌,文献研究,インタビュー等により情報を集める。
第8回	～
第9回	調査を継続し課題を深めていく。(目標1) 問題解決への対策を考える。
第10回	～
第11回	問題をとらえ,教材開発等を行う。(目標1) 実態に合った問題づくりを行う。
第12回	～
第13回	教材開発に関わる,模擬授業を行う。(目標4) 現場での授業を想定して実施。
第14回	実践の成果をまとめる。(目標3)
第15回	研究成果を発表し,総合演習のまとめを行う。(目標4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	意欲的にテーマに関心を持って取り組み，資料収集，調査の仕方，レポートのまとめ方などについて十分習得できたかどうかをみる。
	評価の方法	レポート（ 40%）学習への取り組み方（ 30%）ポートフォリオ（ 30%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に設定はない。その時々に必要な資料を紹介する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102005
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の今日的課題，課題解決における実践的試み，成果発表
授業のねらい・概要	教育の今日的課題の現状と展望について概観する。 それらをふまえて，教授・教育活動における指導者の主体的な取り組み方について，望ましいあり方を追究する。 具体的には，「現代の教育課題の概観」「改正教育基本法等の教育法規の概要，新しい教育課程，教育内容，教育方法の方向性」「教師論（指導者論）」「課題解決に向けての基本的プロセス」等を学ぶ。 次に，教員としての資質向上を目指して，各自のテーマのもとに問題解決を実践的に行う。 さらに，その成果を，各自の問題解決プロセスが明らかになるような形でレポートにまとめるとともに口述発表を行い，その分析・検討を行う。
学生の達成目標	1. 教育の今日的課題の現状と展望を概観する。 2. 教育法規の概要,新しい教育課程,教育内容,教育方法の方向性を理解する。 3. 教員(指導者)として必要な資質・能力等について理解する。 4. 教員(指導者)の資質向上のための各自の問題を明確にし,解決のための基本的なプロセスについて,具体的な計画・実践を通して確実に身に付ける。

5.　成果のまとめと発表及び分析・検討ができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業内容,スケジュール等)
	第2回	教育の今日的課題と展望 ①(目標1)
	第3回	教育の今日的課題と展望 ②(目標1)
	第4回	教育法規,新教育課程(目標2)
	第5回	新しい教育内容,教育方法の方向性(目標2)
	第6回	教員(指導者)として必要な資質・能力等(目標3) ○教員(指導者)として必要な資質・能力 ○自己分析
	第7回	教員としての資質向上を志向した各自の問題の明確化と問題解決の基本的プロセスの確認(目標4)
	第8回	各自の問題解決のためのデザイン(企画書)を創る(目標4)
	第9回	～
	第10回	上記デザインにそって実践する。(目標4)
	第11回	成果のまとめ(研究記録の整理,考察)(目標5)
	第12回	成果の発表(目標5)
	第13回	発表内容の分析・検討(目標5)
	第14回	まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業を通して，教育における今日的課題を理解し，教員（指導者）としての適切な資質を身につけることを志向して，各自の問題解決を主体的に実践することができること，さらにそれらをまとめ発表できること，また，お互いの成果を分析・検討できる能力があることを合格基準とする。
	評価の方法	レポート（毎回の小レポートと研究実践レポート），研究をまとめ口述発表する力，平常点（毎回の取り組みの意欲と態度）等を総合的に判断する。 レポート（毎回の小レポートと研究実践レポート） 45%，毎回の取り組み（討議や演習における意欲・態度） 25%，発表能力 30%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリント資料等の配布

推薦図書等	
参考URL	
備考	よりよい教員（指導者）を目指して，主体的に自己能力を高める意欲・態度が望まれる。

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	桑田　良子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102006
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自然と環境，食生活，文化と習慣
授業のねらい・概要	「総合的な学習の時間」を前提とし，テーマ選択とその理由，文献検索，資料収集，まとめと活用を学び，子どもたちの発達に即した活動を計画し実践できるような課題を多く取り入れて学習していく。 最終的にはグループごとにテーマを選択し模擬授業を行う。
学生の達成目標	1. 身近な自然環境について理解する。 2. 環境や気象条件の変化を知る。 3. 食文化の変化と安全について理解する。 4. 世界の国々の文化・習慣について理解する。
授業内容	第1回　オリエンテーション(演習の趣旨・ポートフォリオの作成について・グループ編成)(目標1) 第2回　学内の植物に関心をもつ。(観察の仕方・採集のしかた,日照・湿度などの環境との関係を知る) 第3回　学内の散策(四季の草花について知る)(常緑樹・落葉樹・針葉樹・広葉樹など)(目標1)

第4回	植物の分類の仕方を知る。(目標1)
第5回	環境の及ぼす影響について知る。(目標2)
第6回	環境と安全の関係を知る。(目標2)
第7回	気象条件の変化を知る。(目標2)
第8回	発表
第9回	発表
第10回	食文化の安全について知る。(目標3)
第11回	日本と諸外国の食スタイルの違いについて知る。
第12回	世界の国々の文化・習慣について理解する。(目標4)
第13回	世界の国々の文化・習慣について理解する。(目標4)
第14回	発表
第15回	発表

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	意欲的にテーマに関心を持って取り組み，書籍・文献の活用・レポートのまとめ方などについて十分習得できたかどうかをみる。
	評価の方法	授業への参加態度 30%，レポート 40%，ポートフォリオ 30%で総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に設定はない。その時々に必要な資料を紹介する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102007
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教師の資質向上　学校組織と学級経営　保護者対応
授業のねらい・概要	現代の教育課題は多岐に渡っている。 これまでに習得した知識や情報をもとに，将来教員になるうえで自己の課題は何のかを明らかにし，テーマを設定する。 その前提となるのは３年次の教育実習であり，学校ボランティア活動である。自分自身を客観的に洞察する。
学生の達成目標	1. 多くの教育課題の中で,自らの課題は何かについて焦点を絞ることができる。(目標1) 2. テーマを設定し,自ら追求し学習を深めることができる。(目標2) 3. お互いの中間報告を聞いて,自らの課題を修正・補足することができる。(目標3) 4. 教育現場の課題を広く把握することができる。(目標4) 5. 最終報告をまとめることができる。(目標5)
授業内容	第1回　オリエンテーション 各自の課題からテーマを絞り込む(目標1) ① 使命感や責任感,教育的愛情等に関する事項

		② 社会性や対人関係能力に関する事項 ③ 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ④ 教科・保育内容等の指導力に関する事項 ⑤ その他
	第2回	上記の課題設定理由について協議する(目標1・2)
		第3・4回 課題を持ち,追及する。(目標2)
		第5・6回 途中経過を報告する 意見交換をし合う(目標2・3)
	第3回	中間報告会をする(目標3)
	第4回	新たな次の課題把握と協議,追及する(目標3・4)
	第5回	～
	第6回	進捗状況の報告 意見交換をし合う。(目標3・4)
	第7回	～
	第8回	最終報告の発表のまとめ方 意見交換し合い,聴きあう(目標4)
	第9回	～
	第10回	最終報告・評価・まとめ(目標5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	自らの課題を明らかにすることで，テーマを設定できたか。 自分自身の生き方と関連させて，自らの教育課題を追求することができたか。
	評価の方法	発表レポート（ 70%） 授業参加態度・課題追求の姿勢（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	教育実習ノートを毎回持参する。	

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102008
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽，感性，創造力，音楽教育
授業のねらい・概要	子供と音楽との関わりについて日本及び諸外国の事情を対象として調査を行い，我が国の教育における音楽の意義や特色を考える。 そこから子供の感性や創造力を培う教育について理解を深め，これからの時代に求められる音楽教育の在り方・教育に携わる教員としての資質の拡充を図る。
学生の達成目標	1.　子供を取り巻く音楽環境について理解が深まる 2.　日本及び諸外国の音楽教育に関する理解が深まる 3.　模擬授業を通して自信を持って子供と接する事ができる
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　学生各自が保育園・幼稚園・小学校の見学を通して音楽との関わりを調査 (目標1) 第3回　保育園・幼稚園・小学校の見学を通して音楽との関わりを調査(目標1) 第4回　各自の行った調査の発表及びそれに関する討論(目標1)

第5回	各自の調査を通して,子供を取り巻く音楽環境について考える(目標1)
第6回	日本の音楽教育について Ⅰ.明治期の洋楽移入と明治以来の唱歌について(目標2)
第7回	日本の音楽教育について Ⅱ.現代の小学校教育における音楽(目標2)
第8回	日本の音楽教育に関して各自がテーマを設定して調べる(目標2)
第9回	日本の音楽教育に関する各自の発表及び討論(目標2)
第10回	諸外国の音楽教育について(目標2・3)
第11回	諸外国の音楽教育に関して各自がテーマを設定して調べる(目標2)
第12回	諸外国の音楽教育に関する各自の発表及び討論(目標2)
第13回	各自が保育園・幼稚園・小学校の何れかでの音楽活動を設定して模擬授業を行う(目標3)
第14回	各自が保育園・幼稚園・小学校の何れかでの音楽活動を設定して模擬授業を行う(目標3)
第15回	各自が将来携わる現場で求められる音楽教育の在り方,及び教師像を考える(目標1・2・3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 主体的に調べて学ぶ力が付いてきたか。 現場を想定した模擬授業で，的確に指導できたか。 評価の方法 提出レポート（ 40%），発表（ 40%），勉学意欲（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要に応じてプリント資料等の配布
推薦図書等	
参考URL	
備考	主体的に調べ，研究する態度での受講を望む。

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102009
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，子どもとのかかわり，環境，教員としての役割，視点
授業のねらい・概要	自ら課題を発見し，考え，問題を解決する，多角的，絵合的な力をつけるため，広く国際的視野に立って，人類共通のテーマについて分析・検討し，総合的に考察することで，行動する資質・能力を身につける。 調査，文献検索，研究発表，ディスカッション等の自主的な学習体験を通じて，これらの資質を高めることを目標とする。 子ども社会における幅広い美術や造形関係を題材とした（児童）文学や文献・作品などの中から学生自身がテキストを選定してテーマを設定し，対象となる幼児・児童の発達段階を踏まえ，現実の問題とした時にどのように関わり指導したらよいかについて考える。 少人数グループで調査，体験（擬体験），発表，討論を重ね，分析・検討し，自らの問題として総合的に考察する。
学生の達成目標	1. 造形やその教育に関わる教育課題に関心を持つ。情報収集をしてまとめて自分の考えを持つ。 2. グループ討論や発表の基礎を身につけ,自分の意見や考えについて的確な文章で表現できる。 3. 必要な文献や資料等に関しての収集をして,卒業研究の基本的な方向性を確立する。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の留意点・総合演習の意義・内容・計画作成)(目標1,2)
	第2回	基礎的講義(現在の子どもを取り巻く諸問題)(目標1,2)
	第3回	テーマ設定・研究方法に関する話し合い(1)グループ分け(目標1,2)
	第4回	テーマの設定・研究方法に関する話し合い(2)グループ内分担(目標1,2)
	第5回	テキスト選定・情報収集(目標1,2)
	第6回	調査・研究(目標1,2,3)
	第7回	分析・結論に向けての考察(目標2)
	第8回	発表準備(内容・方法の検討)(目標1,2,3)
	第9回	発表準備(資料作成・プレゼンテーション準備)(目標1,2,3)
	第10回	グループ別発表・討議(1)(目標1,2)
	第11回	グループ別発表・討議(2)(目標1,2)
	第12回	全体討議・相互評価(目標1,2)
	第13回	反省・再考(目標2,3)
	第14回	レポート作成(目標2,3)
	第15回	まとめ～研究テーマと計画の発表・総括講話(目標2,3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	授業を通して子ども社会における造形表現や教育，造形活動のあり方について自らの考えを持ち，今後教員として現場の指導に活かせるような独自の研究テーマを見いだし，自分の意見を明確に持つことを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「ソルハ」　帚木蓬生　あかね書房　 1 ,470円 ISBN： 978 -4251092618 他に参考資料としてプリントなどを配布する。
推薦図書等	

参考URL	
備考	・実習日程等によっては，シラバスの多少の内容変更も考えられる。 ・自ら進んで取り組む意欲や積極性を持って研究を進める姿勢を望む。

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	太田　俊己
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102010
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育
授業のねらい・概要	障害のある子ども，特別な支援を必要とする子どもの保育，教育について，文献資料や実際の現場等での実際的な調査活動等を通して，体験的に，また総合的に学ぶ。
学生の達成目標	1.　特別支援教育や関連する幼児教育について,体験的に理解する。 2.　特別支援教育に関する教職のあり方について考えを深める。
授業内容	第1回　オリエンテーション ～授業内容と各自の関心について確認(目標1) 第2回　調査計画について ～関心を中心に(目標2) 第3回　調査計画について ～文献を中心に(目標2) 第4回　調査計画について ～新聞記事を中心に(目標2) 第5回　調査計画について ～県内の社会資源を中心に(目標2) 第6回　調査の実施と報告 ～幼児期の教育を中心に(目標1) 第7回　調査の実施と報告 ～幼児期の教育と家族関係を中心に(目標1) 第8回　調査の実施と報告 ～障害のある子どもの生活を中心に(目標1)

	第9回	調査の実施と報告 ～小学校・中学校の時期の教育を中心に(目標1)
	第10回	調査の実施と報告 ～高校の時期を中心に(目標1)
	第11回	調査の実施と報告 ～地域や学校間の違いと共通性を中心に(目標1)
	第12回	調査報告の作成 先行研究や資料のまとめ(目標1,2)
	第13回	調査報告の作成 調査結果の構成と図表化(目標1,2)
	第14回	調査報告の作成 考察と文章表現(目標1,2)
	第15回	報告会とまとめ(目標1,2)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	妥当な計画を作成し調査すること。 適切に報告をまとめ発表すること。
	評価の方法	計画作成　20%　討議への参加　20%　調査の実施と報告書作成　60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	藤田　俊明
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102011
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人権，社会貢献，地域支援，教員の役割
授業のねらい・概要	・地球的・国家的視野に立って，人類共通のテーマまたは，我が国全体に関するテーマについて分析・検討し総合的に考察することを通じ，行動する資質・能力を身につける。 ・課題を，子どもの人権，ボランティア活動による社会貢献，地域支援ネットワーク等から選択し，調査・体験後は，レポートにて報告し，全員で検討する。 ・課題ごとに，調査・体験・発表・討論を重ね，問題の分析・検討を行い，総合的に演習する。 ・児童・生徒の発達年齢を想定し，どのように支援したらよいかについても考える。
学生の達成目標	1. 課題から教職の意義及び教員の役割を理解する。 2. 課題から教員の職務内容(研修,服務及び身分保障等を含む。)を知る。 3. 進路選択に資する各種の機会の提供等を得る。
授業内容	第1回　各々,上記課題からテーマを選び,調査・研究・資料作成の計画を立てる。 第2回　社会の転換期 ① 国際理解(人権尊重・異文化理解) (目標1,3)

	第3回	社会の転換期 ② 情報化(コンピュータ活用・図書館の活用)(目標1,3)
	第4回	社会の転換期 ③ 社会貢献(環境保全・ボランティア活動)(目標1,3)
	第5回	学校経営と教職員の経営参加・学校評議員制度・学校評価 (目標1,2)
	第6回	教員の身分と服務の基準 (目標1,2)
	第7回	教育活動に関する諸表簿・文書の取り扱い,個人情報保護 (目標1,2)
	第8回	教員と研修・資質能力の向上 (目標1,2)
	第9回	子どもの人権 ① 発表 (目標1,2)
	第10回	子どもの人権 ② 協議 (目標1,2)
	第11回	地域支援のネットワーク ① 発表 (目標1,3)
	第12回	地域支援のネットワーク ② 協議 (目標1,3)
	第13回	ボランティア活動による社会貢献 ① 発表 (目標1,3)
	第14回	ボランティア活動による社会貢献 ② 協議 (目標1,3)
	第15回	報告資料作成
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	教員の資質について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに重複障害児の教育課程編成や実施上の支援のあり方について，的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	発表と討議への参加　50%，レポート　50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要な資料等を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	渡邉　章
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102012
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	特別支援教育に関する重要な課題について分析・検討し，総合的に考察することを通じて，特別支援教育に携わる教員として適切に行動できる資質及び能力を身に付ける。
学生の達成目標	1. グループ毎に課題を設定する。 2. 課題について調査したり体験したりする。 3. 調査及び体験の結果を踏まえて問題の分析・検討を行う。 4. それらの結果をまとめて発表し,討論する。
授業内容	第1回　イントロダクション 第2回　ノーマライゼーション,インクルージョンについて(1)-課題の検討-(目標1) 第3回　ノーマライゼーション,インクルージョンについて(2)-調査・体験-(目標2)

第4回	ノーマライゼーション,インクルージョンについて(3)-問題の分析・検討-(目標3)
第5回	ノーマライゼーション,インクルージョンについて(4)-発表-(目標4)
第6回	バリアフリー,ユニバーサルデザインについて(1)-課題の検討-(目標1)
第7回	バリアフリー,ユニバーサルデザインについて(2)-調査・体験-(目標2)
第8回	バリアフリー,ユニバーサルデザインについて(3)-問題の分析・検討-(目標3)
第9回	バリアフリー,ユニバーサルデザインについて(4)-発表-(目標4)
第10回	地域社会と特別支援教育について(1)-課題の検討-(目標1)
第11回	地域社会と特別支援教育について(2)-調査・体験-(目標2)
第12回	地域社会と特別支援教育について(3)-調査・体験-(目標2)
第13回	地域社会と特別支援教育について(4)-問題の分析・検討-(目標3)
第14回	地域社会と特別支援教育について(5)-発表-(目標4)
第15回	全体発表とまとめ(目標4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	１）適切な課題設定ができること。 ２）課題について適切な調査や体験ができること。 ３）調査及び体験の結果を踏まえて適切に問題の分析・検討ができること。 ４）それらの結果をまとめて適切に発表できること。
	評価の方法	平常点，発表，提出レポートにより評価する。（平常点 30%，発表 30%，レポート 40%）

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102013
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会性，対人関係，ソーシャルスキル，発達障害
授業のねらい・概要	社会性の発達に関して，文献資料や，実際の現場での体験の振り返り，擬似体験を通して，子どもにとって，望ましい対人関係について理解を深める。
学生の達成目標	1. 社会性の発達について,体験的に理解する。 2. 発達障害のある子どもの社会性について,理解する。 3. 望ましい対人関係を育てる教職のあり方について考えを深める。
授業内容	第1回　オリエンテーション～授業内容,スケジュール,各自の関心などについて確認(目標3) 第2回　～ 第3回　対人関係・コミュニケーションについて考える(目標1,3) ～各自の体験を中心に振り返り,分析・検討する 第4回　～ 第5回　コミュニケーションについて調査研究 (目標1,3) ～文献,資料から分析方法を学び,自分のコミュニケーションの特徴

		について理解する
	第6回	～
	第7回	障害のある子どものコミュニケーションについて調査研究(目標1,2,3) ～文献,資料から問題把握・各自の問題の考察
	第8回	～
	第9回	各自の問題解決のための報告書の作成・教材の作成(目標2,3)
	第10回	～
	第11回	報告会とまとめ(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	妥当な計画・教材を作成し，適切に報告をまとめ発表すること。
	評価の方法	計画作成　20%　討議への参加　20%　教材の開発作成と報告書作成　60%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要に応じてプリント資料等を配布します。
推薦図書等	
参考URL	
備考	子どもと向き合う時に，よりよい関係を作ることができる教職を目指し，自分と相手のコミュニケーションについて，振り返る姿勢が望まれます。

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102015
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	論理的思考，情報探索，討論
授業のねらい・概要	地球環境，異文化理解など人類に共通するテーマや，家庭の在り方など我が国の社会全体に関わるテーマについて分析・討論する。 テーマを分担して調査し，資料をもとに論理的に考察し，他の受講生との討論を通して問題を解決するための道筋を探求する。 さらに，対象となる幼児児童の発達段階を想定し，指導案を作成し模擬指導を行う。
学生の達成目標	1. 社会で起こっている事実に関心をもちそれを広く知ろうとする態度を身につける。 2. 事実に基づいて論理的に考察することができる。 3. 討論における作法を身につける。 4. 幼児児童の発達段階に即した指導方法を考えようとする。
授業内容	第1回　ガイダンス 子どもを取り巻く世界の状況について各自が興味関心をもっていることを発表する(目標1)

第2回	各自がそのテーマに関する資料を持ちより問題の共通理解を図る(目標1,2)
第3回	テーマをいくつかに絞り,各自の担当テーマを決める
第4回	担当テーマについて探索した資料をまとめ,問題点を整理し発表する ①(目標2)
第5回	①について討論する(目標2,3)
第6回	担当テーマについて探索した資料をまとめ,問題点を整理し発表する ②(目標2)
第7回	②について討論する(目標2,3)
第8回	各自の担当テーマを幼児児童に指導することを想定して指導案を考える(目標4)
第9回	幼児児童の発達段階に適した資料の探索と検討(目標4)
第10回	指導案の作成と検討(目標4)
第11回	模擬指導 ①(目標4)
第12回	①について討議・検討する(目標3,4)
第13回	模擬指導 ②(目標4)
第14回	②について討議・検討する(目標3,4)
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 今日的なテーマを取り上げられたか。 適切な資料を探索できたか。 問題を論理的に考察できたか。 作法を守って発言し，討論に貢献できたか。 幼児児童の発達段階を考慮して指導案を作成し模擬指導を行おうとしたか。 評価の方法 毎週の自己の課題に対する取り組み（ 20%），担当テーマの発表（ 20%），模擬指導（ 40%），討論への参加度（ 20%）で評価する。 正しこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 適宜プリント等を配布する。
推薦図書等	
参考URL	

備考	今，私たちが生きている社会の問題について考えるためには，毎日，新聞を読み，それについて考え，自分なりの意見をもつことが必要です。 新聞を読む習慣を身につけ，できるだけ多量の読書をするよう努力して下さい。 継続は力なり。授業の際には国語辞典を持参して下さい。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102016
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英語教員，学習者，英語教授法，コミュニケーション能力，教材
授業のねらい・概要	日本における英語教育の位置づけとそのとりまく状況について理解する。
学生の達成目標	1. 日本において英語教育を行う意義について多角的に考える。 2. 学習者要因を理解し,英語教員はどうあるべきかを考える。 3. 教材を介して理論と実践を有機的に結び付ける方法を考える。
授業内容	第1回　英語教育と英語教育学(目標1) 第2回　英語の国際化と日本の英語教育(目標1) 第3回　学習指導要領(目標1) 第4回　学習者(目標2) 第5回　英語教員(目標2) 第6回　小学校における外国語(英語)活動(目標1,2) 第7回　英語教授法(目標3)

第8回	第二言語習得と英語教育(目標3)
第9回	コミュニケーション能力の育成(目標3)
第10回	リスニング(目標3)
第11回	スピーキング(目標3)
第12回	リーディング(目標3)
第13回	ライティング(目標3)
第14回	測定と評価(目標3)
第15回	まとめ(目標1,2,3) (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	プレゼンテーションやディスカッション等の授業中の活動（ 50%），課題等の提出物（ 50%）を対象として総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 望月昭彦（編），『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』，大修館書店，2010.　2 ,300円（税別 ISBN： 978 -4-469-24558-5
推薦図書等	
参考URL	
備考	

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102017
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コミュニケーション能力，人間関係，意欲と向上心，家庭教育の役割
授業のねらい・概要	「人類に共通する課題」や「我が国の社会全体に関わる課題」として，次のテーマを深める。 １．子どものコミュニケーション能力の意味と高め方について理解する。 ２．人間関係がうまく行かない子への援助の仕方について学ぶ。 ３．子どもの生きる意欲，向上心について。子どもからやる気を引き出す方法について考える。 ４．家庭教育の在り方。家庭教育の意味や望ましいやり方について理解する。
学生の達成目標	1. コミュニケーション能力の評価の仕方と高め方を習得する。 2. 人間関係がうまく行かない子について理解し,援助の仕方を身につける。 3. 子どもの意欲や向上心の源を理解し,やる気を引き出すやり方を身につける。 4. 家庭教育の役割や意義を理解し,望ましい家庭教育を考えられる。
授業内容	第1回　コミュニケーション能力のイメージを出し合い,問題にすべき点を明らかにする。(目標1)

第2回	各学生が,コミュニケーション能力に関する文献をまとめてきて,発表し意見を述べる。さらに考えなければならない点について,まとめる(目標1)
第3回	コミュニケーション能力に関する自分なりの見解を発表し合って討論する。各自の今後のテーマを設定する(目標1)
第4回	人間関係がうまく行かない子に関する事例や研究を紹介し,考えるべき点を討論する(目標2)
第5回	各学生が,人間関係がうまく行かない子に関する文献をまとめてきて,発表し意見を述べる。さらに考えなければならない点について,まとめる(目標2)
第6回	人間関係がうまく行かない子に関する自分なりの見解を発表し合って討論する。各自の今後のテーマを設定する。(目標2)
第7回	子どもの意欲や向上心に関する事例や研究を紹介し,考えるべき点を討論する(目標3)
第8回	各学生が,子どもの意欲や向上心に関する文献をまとめてきて,発表し意見を述べる。さらに考えなければならない点について,まとめる(目標3)
第9回	子どもの意欲や向上心に関する自分なりの見解を発表し合って討論する。各自の今後のテーマを設定する(目標3)
第10回	家庭教育の役割や意義に関する事例や研究を紹介し,考えるべき点を討論する(目標4)
第11回	各学生が,家庭教育の役割や意義に関する文献をまとめてきて,発表し意見を述べる。さらに考えなければならない点について,まとめる(目標1)
第12回	家庭教育の役割や意義に関する自分なりの見解を発表し合って討論する。各自の今後のテーマを設定する(目標1)
第13回	コミュニケーションから見たよりよい人間関係の築き方を事例に基づいて討論する。(目標1,2)
第14回	やる気の向上と持続に影響する家庭の役割を討論し,最終的に子どもの自立について考える。(目標3,4)
第15回	乳幼児期の発達に関する課題について自由討論を行い,各自の考えを深める。(目標1,2,3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	子どもの発達に関する様々な問題に関して，知識と自分なりの問題意識を持ち，自分の意見を発表し討論できる。
	評価の方法	考えの発表，討論への参加状況などから総合的に評価する。 レポート 30%，発表 40%，討論 30%に基づいて評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

	資料配布や文献紹介によって，授業を行う。
推薦図書等	
参考URL	
備考	関連する文献を読んで自分なりの考えを持つこと。

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	高野　良子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102018
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	総合的な学習の時間，研究課題，調査研究，量的・質的データ
授業のねらい・概要	本授業では，人類に共通する課題又は我が国全体に関わる課題について分析・検討し，総合的に問題を整理し，わかりやすく発表する力を養う。具体的には，「少子高齢社会と教育」等のテーマのもとで，グループごとに研究課題を選定し，データ等の収集をすすめ，教職を目指す者が，教育の場で担当することとなる「総合的な学習の時間」を指導するための方法および技術を身につけることをねらいとしている。
学生の達成目標	1. テーマを選定し,資料収集や量的・質的な調査,体験,発表,討論を重ね,問題を分析する力を獲得する。 2. 成果をわかりやすく発表する力を身につける。 3. 班ごとに発表し,そこでの質疑応答などをふまえて,レポートを作成する力を獲得する。
授業内容	第1回　オリエンテーション:教職課程における総合演習の制度的意義を確認する。(目標1) 第2回　ねらいと学習課題(1):体験的・課題解決学習の意義を学ぶ。(目標1)

第3回	ねらいと学習課題(2):体験的・課題解決学習の方法を学ぶ。(目標1)
第4回	テーマの設定・選定(1):テーマごとのグループの作成と役割分担を行う。(目標1)
第5回	テーマの設定・選定(2):班に分かれて,関連資料を収集する。(目標1)
第6回	中間発表:班ごとにテーマ選定理由と進捗状況を発表する。(目標2)
第7回	調査・情報収集(1):内容・方法,メディア等からの調査・情報収集を実施する。(目標1)
第8回	調査・情報収集(2):内容・方法,メディア等からの調査・情報収集を実施する。(目標1)
第9回	調査・情報収集(3):内容・方法,メディア等からの調査・情報収集を実施する。(目標1)
第10回	中間発表:班ごとに調査研究方法などに関する進捗状況を発表する。(目標2)
第11回	発表資料の作成(1):プレゼンテーションソフト等を使い,発表資料を作成する。(目標2)
第12回	発表資料の作成(2):発表資料を検討し,討論に備える。(目標2,3)
第13回	発表(1):全員による成果発表と討論を行う。(目標2,3)
第14回	発表(2):全員による成果発表と討論を行う。(目標2,3)
第15回	演習のまとめと今後の課題:レポートを作成する。(目標3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 学習への取り組み（意欲・討論参加状況・発表など），レポートなどを総合して評価する。 評価の方法 平常点 50%＋課題点 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に使用しない。
推薦図書等	
参考URL	
備考	自らの関心に応じてテーマを選択し，問題意識をもって主体的に取り組むことが要求される。

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102019
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	情報教育，情報発信， ICT，インターネット， e-Learning，情報倫理
授業のねらい・概要	将来教職に就き教育活動をするさいに必要となる，コンピュータとネットワーク技術の概要を理解し，適切な利用方法を習得する。 また，それらの ICT（情報通信技術）が社会に受け入れられてきた歴史的経緯と，教育活動における ICT導入の意義について，関連する文献の理論的裏付けとともに学習する。 また，著作物の利用など，教育に関連する情報倫理学的問題について最近の動向を理解する。
学生の達成目標	1. 教育活動において情報技術を効果的に用いることができるようになる。 2. 教育活動において適切な情報管理ができるようになる。 3. インターネットを用いた情報収集と情報発信の方法が理解できるようになる。 4. ICTを利用した教育の多様性について,歴史的経緯と意義を理解する。 5. 情報倫理的問題の性質を理解し,責任ある職業人として行動できるようになる。

授業内容	第1回	イントロダクション:総合演習の概要説明
	第2回	～
	第3回	教育活動におけるコンピュータの役割 (目標1,2,4)
	第4回	～
	第5回	ネットワーク技術の理解と利用方法 (目標1,3)
	第6回	インターネットの基礎知識と情報収集の方法 (目標3)
	第7回	インターネットの適切な利用法と情報発信の方法 (目標3)
	第8回	知的財産権と教育活動(1):著作物の定義,知的財産権の概要 (目標2)
	第9回	知的財産権と教育活動(2):著作物の種類,著作物等の適切な扱い方 (目標2,5)
	第10回	情報倫理学・科学技術史関連文献の調査 (目標4,5)
	第11回	授業等で用いる教材・発表資料の作成方法 (目標1)
	第12回	授業等で用いるプレゼンテーション資料の作成方法と発表方法 (目標1)
	第13回	まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	上記達成目標の２／３以上を達成することを合格基準とします。
	評価の方法	授業への参加度 60%，課題の達成度 40%の合計で評価します。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	電子メールで連絡がとれることが望ましいです。	

総合演習（教職）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合演習（教職）
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1102020
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	健康，体力，身体運動科学，生命科学，身体文化
授業のねらい・概要	体育・スポーツなどによる健康や体力の維持増進に関する応用的な身体運動科学の分野から，脳や組織・細胞などの機能に関する基礎的な生命科学の分野まで，“ヒトの身体 ”に関する知見は近年，飛躍的に進歩している。 また，この進歩は文化的・社会的にも様々な影響を与えている。 本授業では，グループもしくは個人でこの “ヒトの身体 ”に関するトピックについてテーマを設定して主体的に学習することで，人類に共通するテーマである “ヒトの身体 ”についての理解を深めるとともに，教員として必要な教養および資質を身につけることをねらいとする。
学生の達成目標	1. “ヒトの身体 ”をキーワードに,関連する内容についてテーマを設定することができる。 2. 設定したテーマに関する資料を主体的に収集することができる。 3. 収集した資料を何らかの観点から考察することができる。 4. 考察した内容をまとめて,わかりやすく発表することができる。 5. 発表された内容について,さまざまな視点から討論することができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1)
	第2回	～
	第3回	個別のテーマ設定(目標1)
	第4回	～
	第5回	設定したテーマに関する資料収集(目標2,3)
	第6回	～
	第7回	中間発表および討論(目標3,4,5)
	第8回	～
	第9回	収集した資料の検討・考察およびレポート・発表資料の作成(目標2,3,4,5)
	第10回	～
	第11回	成果発表と総合討論(目標4,5)
	第12回	総括(目標5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	課題レポートへの意欲的な取り組み，資料の収集整理と考察力，プレゼンテーションおよび討論などより総合的に判断する。
	評価の方法	課題レポート 40%，発表 40%，および授業における意欲・態度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

知的障害教育指導法研究 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	知的障害教育指導法研究 Ⅰ
科目責任者	藤田　俊明
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1106001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害児，生活の自立，生活単元学習から働く作業学習へ，個別の支援計画，できる状況づくり
授業のねらい・概要	・学校教育現場との接点を大切にし，現場で実際に活用されている指導計画等の実例に学ぶ機会を多くする。 ・具体的には，教育課程の編成と指導計画の検討，個別の指導計画と授業計画との関連性の検討，個別化と集団化を前提にした学習指導案の検討を進め，授業の実際的な展開，授業評価の実際的な在り方について考える。
学生の達成目標	1. 知的障害教育における指導法について知る。 2. 「領域・教科を合わせた指導」を理解し,単元計画の立て方,展開の仕方がわかる。 3. 指導の評価は手だて「できる状況づくり」と関連づけることを理解する。 4. 共に活動し必要な支援を行う教師となることを理解する。
授業内容	第1回　教育課程の編成と学習指導要領 (目標1) 第2回　各教科・領域の内容及びその取扱い (目標1)

第3回	各教科・領域の考え方と指導の特徴 (目標1)
第4回	学習指導要領解説「領域・教科を合わせた指導の実際」 (目標1)
第5回	日常生活の指導の実際 ①「帯状の日課」 (目標2)
第6回	日常生活の指導の実際 ②「さりげない気配り」 (目標3,4)
第7回	遊びの指導の実際 ①「集団化と個別化」 (目標2)
第8回	遊びの指導の実際 ②「共に遊びながらの支援」 (目標3,4)
第9回	生活単元学習の実際 ①「単元計画」 (目標2)
第10回	生活単元学習の実際 ②「個別の支援計画」 (目標2)
第11回	生活単元学習の実際 ③「できる状況づくり」 (目標3,4)
第12回	作業学習の実際 ①「単元化」 (目標2)
第13回	作業学習の実際 ②「生徒主体」 (目標3,4)
第14回	作業学習の実際 ③「現場実習の展開」 (目標3,4)
第15回	進路支援の実際と移行支援計画 (目標3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	学習指導要領との関連で，知的　障害教育指導法について授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。「子ども主体の授業」「単元化を図る授業」「できる状況づくり」等，自らの考えを持ち，的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	小テスト，期末の筆記試験で評価する。 （期末筆記試験 60%，小テスト 40%の成績を総合する）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 生活中心教育の理念と方法　小出　進　著　Ｋ＆Ｈ.
推薦図書等	
参考URL	
備考	

知的障害教育指導法研究 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	知的障害教育指導法研究 Ⅱ
科目責任者	藤田　俊明
担当教員	中坪　晃一 佐藤　愼二
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1107001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，指導法，特別支援学校，特別支援学級
授業のねらい・概要	本授業では，知的障害教育指導研究 Ｉで，学んだことをさらに発展させる。 そのため，知的障害のある子どもの指導に関する様々な指導方法を実際の教育場面などでどのように活用していくかを考える。
学生の達成目標	1.　特別支援学校・学級(知的障害)の概要を把握する。 2.　特別支援学校・学級(知的障害)で展開されている指導方法の概要を知る。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の目的,内容,方法及び評価方法の説明等)(目標1,2) 第2回　特別支援学校・特別支援学級の概要の説明(目標1,2) 第3回　特別支援学校への集団参観(目標1,2) 第4回　参観及び特別支援学校の実践資料に基づく検討(目標1,2)

	第5回	特別支援学校の実践資料及びビデオに基づく検討(目標1,2)
	第6回	特別支援学級への集団参観(目標1,2)
	第7回	参観及び特別支援学級の実践資料に基づく検討(目標1,2)
	第8回	特別支援学級の実践資料及びビデオに基づく検討(目標1,2)
		<オムニバス形式後半7時間担当:中坪晃一>
	第9回	各自が関心を抱いた指導場面を決め,訪問・体験する特別支援学校・学級を検討する (目標1,2)
	第10回	訪問・体験(1)(目標1,2)
	第11回	訪問・体験(2)(目標1,2)
	第12回	レポート発表及び協議(1)(目標1,2)
	第13回	レポート発表及び協議(2)(目標1,2)
	第14回	レポート発表及び協議(3)(目標1,2)
	第15回	知的障害教育に関する指導法に関するまとめ(目標1,2)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	特別支援学校（知的障害）の指導法の概要を把握していること。 また，参観・体験した内容について，説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，参観・体験及び提出レポートで評価する。 平常点（出席，授業参加態度） 20%，参観・体験 50%，レポート 30%の成績を総合する。 ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	知的障害教育指導法研究 Ｉの単位を取得していることが望ましい。 特別支援学校・学級，知的障害のある子どもの実際の支援に関心をもって参加することが期待される。	

視覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	視覚障害教育総論
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1113001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	全盲，弱視，視覚障害児の教育課程・指導法，盲聾児，盲知的障害児，ノーマライゼーション
授業のねらい・概要	本講義では視覚障害とは何かからはじめ，現代社会に生きる視覚障害児への教育方法を中心として，視覚障害児が社会の中でよりよく生きていくための技術や知識について学び，視覚障害児の教育に携わる場合の望ましい関わり方について学習していきます。
学生の達成目標	1. 視覚障害の生理,病理及び心理について理解する。 2. 視覚障害教育の歴史的変遷と現在の制度及び教育課程について理解する。 3. 視覚障害の程度や知的・発達障害,重複障害の有無に応じたきめ細やかな関わりについて理解する。 4. 視覚障害児への生活指導,教育相談,就職指導について理解する。 5. ノーマライゼーションという視点における視覚障害児との関わりの態度を身につける。

授業内容	第1回	「視覚障害の発生」-眼の構造,視覚障害の生理と病理,視覚機能の基礎-(目標1)
	第2回	「視覚障害の心理的影響」-視覚障害の心理的分類,行動や心の働きへの影響-(目標1)
	第3回	「視覚障害教育の歴史,制度,教育課程」-歴史的処遇,視覚障害教育の創始,現在の制度・教育課程-(目標2)
	第4回	「視覚障害教育の目標とその指導形態」-視覚障害の理解・配慮と教科教育の専門性,視覚支援学校の教育組織-(目標1,2)
	第5回	「全盲教育の内容と方法」-全盲指導の内容,触覚的認知の指導,点字・言葉の指導,歩行指導-(目標3)
	第6回	「弱視教育の内容と方法」-弱視指導の内容,視覚的認知の指導,読み書き能力の指導,残存視力の活用・管理-(目標3)
	第7回	「盲聾児への教育内容と方法」-盲聾者の特性,コミュニケーションの方法とその能力向上(目標3)
	第8回	「盲知的障害児への教育内容と方法」-基本的生活技術・習慣の指導,コミュニケーション能力の指導-(目標3)
	第9回	「教材・教具と施設・設備」-全盲のための感覚代行機器の種類と活用,弱視のための視覚補償機器の種類と活用-(目標3)
	第10回	「生活指導」-基本的生活技術・行動様式の習得,望ましい人間関係の構築,障害受容,社会の一員としての自覚-(目標3,4,5)
	第11回	「自立支援の指導内容と指導計画」-健康管理と改善,環境認知・作業・日常生活・コミュニケーション能力の向上-(目標3,4,5)
	第12回	「自立支援の指導における配慮事項,指導評価」-環境の予測・確かめ,教科や領域間の関連,教材・教具の工夫-(目標3,4,5)
	第13回	「視覚障害児への教育相談」-資源センターとしての視覚支援学校,教育的ニーズ,専門性のネットワーク-(目標4,5)
	第14回	「視覚障害児への就職指導」-視覚障害者の就労の実態,視覚障害者の職業開発,職業能力の向上-(目標4,5)
	第15回	「まとめ」-視覚障害児の能力を高める教育,視覚障害児(者)の環境を整える努力,ノーマライゼーション-(目標3,4,5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	視覚障害児（者）教育について授業で取り上げる基礎的知見が理解できており，視覚障害児援助の視点について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

視覚障害学入門　佐藤泰正（編）　学芸図書
ISBN： 9784761602857

推薦図書等	
参考URL	
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。

聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	聴覚障害教育総論
科目責任者	
担当教員	根本　匡文
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1114001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	聴覚障害，コミュニケーション，言語指導，教科指導，キャリア学習
授業のねらい・概要	聴覚障害に関する生理・病理・心理面からの理解を基盤として，わが国の聴覚障害教育の全体像を把握し，聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒のニーズに対応した教育と支援を進めるための基本的な資質を養う。
学生の達成目標	1. 聴覚障害教育について考える際に基盤となる事項について,基礎的な知識を身につける。 2. 聴覚障害教育の実際について,幼児・児童・生徒の発達段階を追って具体的に教育の内容と方法を理解する。 3. 聴覚障害教育の望ましいあり方について,自ら考え,判断する力を養う。
授業内容	第1回　聴覚障害とは何か -生理・病理・心理の面から-(目標1) 第2回　欧米における聴覚障害教育の歴史(目標1) 第3回　日本における聴覚障害教育の歴史(目標1) 第4回　聴覚障害児の言語とコミュニケーションの方法(目標1)

第5回	聴覚障害教育の目的と制度(目標1)
第6回	障害の早期発見・診断と両親援助(目標2)
第7回	聴覚障害者を対象とする特別支援学校幼稚部の教育内容と方法(目標2)
第8回	聴覚障害者を対象とする特別支援学校小学部の教育内容と方法(目標2)
第9回	聴覚障害者を対象とする特別支援学校中学部の教育内容と方法(目標2)
第10回	聴覚障害者を対象とする特別支援学校高等部の教育内容と方法(目標2)
第11回	通常の小・中・高等学校における聴覚障害児童・生徒の教育と支援(目標2)
第12回	聴覚障害者を対象とする高等教育段階の教育(目標2)
第13回	他の障害を併せ有する聴覚障害児童・生徒の教育(目標2)
第14回	聴覚障害者の社会生活と生涯教育(目標2)
第15回	聴覚障害教育の国際的動向と今後の方向性(目標3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒の教育と支援に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること，及び，自らの考えに基づいてそれを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，提出レポート及び期末レポートによって評価する。 授業への参加状況 20%，期間中の数回のレポート 30%，期末レポート 50%の成績を総合する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性がある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 中野善達・根本匡文編著『改訂版聴覚障害教育の基本と実際』，田研出版， 2 ,625 円 ISBN： 978 -4-86089-018-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	聴覚に障害を持つ人たちが現在の社会で経験し，直面しているさまざまな事象について，絶えず関心を持ち続けてほしい。 授業は講義形式で進めるが，受講者に発言を求め，対話や討論をする機会を適宜設定するので，積極的に授業に参加してほしい。

重複障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	重複障害教育総論
科目責任者	藤田　俊明
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1115001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	重複障害児，「障害の状態」と指導の形態，自立活動，訪問教育，家庭との連携
授業のねらい・概要	重複障害教育の歴史，重複障害児に対する教育の内容・方法等，これまでの重複障害教育の実情を十分に理解し，特別支援教育における重複障害児の指導の形態や望ましい支援のあり方について考える。
学生の達成目標	1. 重複障害について,教育・福祉・医療の各分野における考え方を学び,理解を深める。 2. 重複障害学級の位置づけと教育の現状を理解し,教育課程のあり方を学ぶ。 3. 「重複障害者等に関する教育課程の取り扱い」における指導の形態と指導計画の立て方を学ぶ。 4. 関係機関との連携の重要性及び個別の教育支援計画の有効性について理解する。
授業内容	第1回　重複障害の概念と重複障害児 (目標1) 第2回　重複障害児の教育と歩み (目標1)

第3回	重複障害児の理解 ①心理特性及び発達・知能・聴覚等諸検査 (目標1)
第4回	重複障害児の理解 ②胎生期及び周産期障害,中枢神経系障害,運動及び感覚機能障害(目標1)
第5回	学級経営について (目標2)
第6回	教育課程について (目標2)
第7回	教育課程「知的障害を併せ有する児童生徒の場合」 (目標2)
第8回	教育課程「障害の状態により特に必要のある児童生徒の場合」 (目標2)
第9回	教育課程「訪問教育の場合」 (目標2)
第10回	指導の形態と指導計画 ①「自立活動を主とした指導」 (目標3)
第11回	指導の形態と指導計画 ②「領域・教科を合わせた指導」 (目標3)
第12回	訪問学級の指導の実際 (目標3)
第13回	個別の教育支援計画と個別の指導計画 (目標4)
第14回	危機管理について (目標4)
第15回	関係諸機関との連携 (目標4)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	重複障害児教育について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに重複障害児の教育課程編成や実施上の支援のあり方について，的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	授業参加の姿勢を考慮し，小テスト，期末の筆記試験で評価する。 （期末筆記試験 60%，小テスト 40%，の成績を総合する）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「特別支援学校教育要領・学習指導要領」 「特別支援学校学習指導要領解説総則等編」 必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

言語障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	言語障害教育総論
科目責任者	
担当教員	石塚　誠之
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1118001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達障害，言語障害，コミュニケーション，アセスメント（評価），指導
授業のねらい・概要	言語障害の支援の現状について学び，また支援方法の理論的背景を基礎として，そのアセスメントの方法，様々な言語障害を理解し支援するための基礎的な力の習得を目指す。
学生の達成目標	1. 認知・言語発達とともに様々な言語症状について学ぶ 2. 言語障害の支援の現状について理解する 3. 言語障害のアセスメントの方法について学ぶ 4. コミュニケーション・言語の発達段階に応じた指導方法について学ぶ 5. 発達障害を持つ子どもたちの障害特性を理解し,支援する具体的な方法について理解する
授業内容	第1回　言語障害とは-「音声機能の障害」と「言語機能の障害」 (目標1) 第2回　ことばとコミュニケーションの遅れの理解と支援(1)言語発達とコミュニケーション (目標2)

第3回	ことばとコミュニケーションの遅れの理解と支援(2)言語発達と認知 (目標2)
第4回	吃音・構音障害の理解と支援(1)吃音 (目標2・3・4・5)
第5回	吃音・構音障害の理解と支援(2)構音障害 (目標2・3・4・5)
第6回	失語症,失読・失書症の理解と支援(1)失語症 (目標2・3・4・5)
第7回	失語症,失読・失書症の理解と支援(1)失読・失書症 (目標2・3・4・5)
第8回	聴覚障害による構音障害 (目標2・3・4・5)
第9回	学習障害(発達性読み書き障害等)(1)学習障害児に対するアセスメント (目標2・3)
第10回	学習障害(発達性読み書き障害等)(2)学習障害児に対する支援 (目標4・5)
第11回	知的障害に伴う言語発達遅滞(1)言語発達遅滞の児童のコミュニケーションの特徴 (目標2・3)
第12回	知的障害に伴う言語発達遅滞(2) AAC(補助代替コミュニケーション)の活用 (目標4・5)
第13回	言語発達およびそれに関わる認知の評価(1)(目標3) (ⅰ)ウエクスラー式検査 (ⅱ) ITPA言語学習能力検査
第14回	言語発達およびそれに関わる認知の評価(2)(目標3) (ⅰ) DN-CAS認知評価システム(Das-Naglieri Cognitive Assessment System) (ⅱ) PVT(絵画語い発達検査)
第15回	言語障害のある児童生徒への配慮と支援 (目標5) (ⅰ)言語障害や学習障害児の心理的問題 (ⅱ)障害のある子どもの保護者への支援

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	言葉の発達についての知識・支援についての視点が身についていること
	評価の方法	授業への出席と授業中の参加態度，発表・発言，及び確認テスト・期末の筆記試験によって評価を行う授業への参加度30%，レポート等 30%，筆記試験 40%の成績を総合する。（ただし，この比率は若干変更する可能性もある）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	教科書は用いず，必要な資料を授業中に配布する

推薦図書等	

参考URL

備考

解剖学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	解剖学
科目責任者	齋藤　基一郎
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2001001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人体解剖学，神経解剖学
授業のねらい・概要	ヒトの働きと構造を総合的・体系的に理解させるために，人間を含めた生物体の構造を細胞レベル，組織，器官さらには系統レベルで論述する。 殊にヒトの生存とその尊厳の意味，生命現象を理解するための考え方，基本学術用語についての理解を深めさせ，ヒトの身体の仕組みと，これがどのようにして働いているかを論述する。
学生の達成目標	1.　専門分野の教育を学び実習を行うための基礎となる必要な身体の正常構造とそれに関連した学術用語を習得する。 2.　解剖実習を通じ,生命の尊厳を知る。
授業内容	第1回　人体構造学総論,細胞の構造と組織,細胞膜と微細構造,核と核膜の構造,細胞内小器官の微細構造。(目標1,2) 第2回　骨格系(骨,関節,筋)の構造,各部の骨の名称,関節と筋の構造と分類。(目標1,2) 第3回　循環器系の構造,血管系 1)大循環と小循環 2)心臓の構造と刺激伝導系 3)リンパ性器官。(目標1,2)

第4回	呼吸器系の構造 1)鼻,咽頭,喉頭,気管,肺の構造。(目標1,2)
第5回	消化器系の構造 1)口,歯,口腔腺,食道,胃,小腸,大腸,肝臓,胆のう,膵臓の構造。(目標1,2)
第6回	泌尿器系の構造 1)腎臓,尿管,膀胱,尿道の構造。(目標1,2)
第7回	生殖器系の構造 1)女性生殖器の構造。(目標1,2)
第8回	生殖器系の構造 1)男性生殖器の構造。(目標1,2)
第9回	感覚器の構造 1)体性感覚器 2)味覚器 3)嗅覚器 4)視覚器 5)聴覚器と平衡感覚器。(目標1,2)
第10回	神経系の構造(神経解剖学総論)。(目標1,2)
第11回	神経細胞,神経膠細胞,シナプス,脳の構造とその機能,シナプス伝達,神経伝達物質。 (目標1,2)
第12回	中枢神経系の構造(大脳,間脳,中脳,橋,小脳,延髄,脊髄)。(目標1,2)
第13回	大脳皮質の構造と細胞構築学(脳の機能局在とブロードマンの領域)。(目標1,2)
第14回	末梢神経系の構造(12対の脳神経と 31対の脊髄神経の走行)とその働き。(目標1,2)
第15回	自律神経系の構造(交感神経系と副交感神経系)とその働き。内分泌系の構造とホルモンの働き。(目標1,2)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

上記の系統解剖学を的確に理解し，有機的に統合出来る力を評価基準とする。

評価の方法

出席状況，筆記試験，授業時の人体構造試問等で総合的評価を行う。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

齋藤基一郎『医療のための人体解剖学』廣川書店　5 ,040円
ISBN： 978 -4567518000

齋藤基一郎，王昌立『目でみる人体解剖』廣川書店　5 ,460円
ISBN： 978 -4567517805

齋藤基一郎，王昌立，後藤保正『医療のための脳・神経解剖学の基礎』増補改訂新装番　元就出版社　3,500円
ISBN： 978 -4-86106-174-5

推薦図書等

参考URL

備考

解剖学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	解剖学実習
科目責任者	齋藤　基一郎
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2002001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人体解剖実習，脳解剖実習，人体解剖実習見学を東京医科歯科大学医学部で行えるように計画中。
授業のねらい・概要	理学療法に必要な人体構造の理解と医療従事者としての自覚を深めるために，人体標本・脳モデル・人骨をを用いて解剖学の実習及び示説を理学療法の学問体系に関連づけて学習する（解剖学術用語を含む）。
学生の達成目標	1. 理学療法学の専門分野教育を学び,臨床実習を行うために必要な解剖学を理解する。 2. 理学療法士になることへの自覚と具体的知識,殊に運動学と神経学を中心として学習する。
授業内容	第1回　骨学実習,頭蓋骨とその構成。(目標1,2) 第2回　上肢帯と上肢骨。(目標1,2) 第3回　体幹と骨盤の骨,脊柱の骨。(目標1,2) 第4回　下肢帯と下肢骨。(目標1,2) 第5回　脳実習:終脳,間脳,中脳,橋 ,小脳,延髄の内景。(目標1,2)

	第6回　脳実習:脊髄の内景。(目標1,2) 第7回　運動器(脳神経・脊髄神経)頭部と体幹の筋。(目標1,2) 第8回　運動器 上肢と下肢(筋の起始と停止,神経支配)。(目標1,2) 第9回　胸腔,膜腔,骨盤腔の内臓。(目標1,2) 第10回　肺と気管支。(目標1,2) 第11回　心臓と肺循環系,体循環系の脈管。(目標1,2) 第12回　肝臓と胆のう。(目標1,2) 第13回　沁尿器系。(目標1,2) 第14回　男性生殖器と女性生殖器。(目標1,2) 第15回　総括。(目標1,2)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 人体の構造。脳の構造を的確に説明でき，それらに対応する専門的学術用語（欧米・ラテン語）を実習を通して，理解していることを合格基準とする。 評価の方法 口頭試問，示説テスト，レポート提出，総合評価（出席点も含む）。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 齋藤基一郎，王昌立『目でみる人体解剖』廣川書店　5 ,460円 ISBN： 978 -4567517805 齋藤基一郎，王昌立，後藤保正『医療のための脳・神経解剖学の基礎』増補改訂新装版，元就出版社　3,500円 ISBN： 978 -4-86106-174-5 「解剖学実習テキスト」 1－337頁を作り配る。
推薦図書等	
参考URL	
備考	白衣を着用のこと。

生理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	生理学
科目責任者	
担当教員	桑名　俊一 角　友起
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2003001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生体機能，恒常性，調節機構
授業のねらい・概要	生理学はからだの中の機能がどのように発現し，維持され，調節されているかを明らかにする学問です。 将来，専門的な理学療法を展開する基盤として，必要不可欠な知識といえます。 正常なからだの中の機能を分類し，体系づけ，また相互の関連性を理解することを目標とする。
学生の達成目標	1.　生体の恒常性維持の調節機構を説明できる。 2.　各器官の働きを説明できる。 3.　各器官機能の調節機構について説明できる。 4.　各器官の相互作用について説明できる。 5.　種を維持するための機能を説明できる。

授業内容	第1回	「生理学の概要」 -細胞と内部環境,生体の恒常性-(目標1,4) 「血液 Ⅰ」 -血液の役割,血液の組成,赤血球の生成と崩壊-(目標2)
	第2回	「血液 Ⅱ」 -白血球,血液凝固,血液型-(目標2) 「生体防御」 -免疫機能-(目標2)
	第3回	「神経 Ⅰ」 -基本的機能,静止電位,活動電位,ニューロンとシナプス-(目標2) 「神経 Ⅱ」 -神経系の構成,末梢神経系,中枢神経系-(目標2,3)
	第4回	「骨格筋」 -筋収縮の機序,筋収縮のエネルギー-(目標2)
	第5回	「心臓 Ⅰ」 -心臓の機能,特殊心筋,心臓の電気現象,心電図-(目標2,3) 「心臓 Ⅱ」 -心臓のポンプ作用,心音-(目標2)
	第6回	「循環 Ⅰ」 -動脈系,毛細血管,物質交換,浮腫-(目標2) 「循環 Ⅱ」 -静脈系,心臓・血管の調節機構,特殊循環系-(目標2,3)
	第7回	「呼吸 Ⅰ」 -呼吸器の機能的構造,呼吸運動,換気量,肺気量とその区分-(目標2) 「呼吸 Ⅱ」 -ガス交換,血液によるガスの運搬,換気量の調節機構-(目標2,3)
	第8回	「まとめ」「消化・吸収 Ⅰ」 -消化・吸収の概要,口腔での消化,胃・小腸での消化-(目標2)
	第9回	「消化・吸収 Ⅱ」 -消化の調節,栄養素の吸収,大腸,排便反射-(目標2,3) 「腎機能」 -機能的構築,糸球体濾過,再吸収と分泌-(目標2)
	第10回	「体液 Ⅰ」 -浸透圧の調節,血漿量,血漿 Na量の調節-(目標1,3,4) 「体液 Ⅱ」 -体液 H+濃度の調節, pH,アシドーシスとアルカローシス (目標1,3,4)
	第11回	「内分泌 Ⅰ」 -内分泌器官,ホルモンの一般的性質,視床下部,下垂体-(目標1,2) 「内分泌 Ⅱ」 -甲状腺,副甲状腺,副腎,性ホルモン-(目標1,5)
	第12回	「自律神経」 -交感神経,副交感神経,自律反射中枢-(目標1,2) 「高次機能」 -機能局在,脳波,睡眠,記憶と学習-(目標2,3,4)
	第13回	「運動の制御 Ⅰ」 -脊髄反射,姿勢と運動の調節-(目標2,3) 「運動の制御 Ⅱ」 -随意運動のメカニズム-(目標2,3,4)
	第14回	「感覚 Ⅰ」 -一般的性質,体性感覚,視覚-(目標2) 「感覚 Ⅱ」 -聴覚,平衡感覚,味覚,嗅覚-(目標2)
	第15回	「代謝」 -エネルギー代謝,基礎代謝-(目標1,2) 「体温の恒常性」 -産熱と放熱,体温の調節,発熱,発汗-(目標1,3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	国家試験レベルの問題で 60%以上の正答率を取ることを基準とする。

	評価の方法 ２回の筆記試験を 80%，復習テスト（毎回授業開始時５分程度）を 20%とし，総合評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 標準理学療法学・作業療法学，専門基礎分野，生理学，医学書院， ４ ,200円 ISBN： 9784260003575
推薦図書等	
参考URL	
備考	

生理学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	生理学実習
科目責任者	
担当教員	桑名　俊一 角　友起
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2004001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生体機能の計測，生体電気現象の記録，生理学実験法
授業のねらい・概要	生理学実習では，講義で学んだ「ヒトの体の正常機能」を実体験によって深めることが目標となります。さらに，将来，専門的な理学療法を展開する基盤として，人体や生体を用いた研究の科学的な考え方，研究方法を学びます。また，医療機器や生理実験用機器の作動原理や取り扱い方を習得します。
学生の達成目標	1.　生体機能を計測しその意義を説明できる。 2.　科学的なレポートを作成し,その内容を発表することができる。 3.　医療機器や生理実験用機器の作動原理が理解できる。 4.　生体の電気現象を説明できる。 5.　恒常性の維持について説明できる。

授業内容	第1回	「実習ガイダンス」-生理学実験法,レポートの作成要領 実習機器の作動原理と使用法- (目標2,3) 「血圧」-血圧測定の原理,コロトコフ音-(目標1,3,5)
	第2回	「神経の興奮伝導」-カエルの坐骨神経標本,電気刺激,活動電位,伝導速度,不応期,強さ・時間曲線-(目標1,2,3,4)
	第3回	「カエルの筋収縮」-カエルの神経筋標本,単収縮,刺激頻度と収縮の加重,疲労,神経筋接合部,筋弛緩剤-(目標1,2,3,4)
	第4回	「ヒトの骨格筋」-運動神経伝導速度,正中神経,単収縮と強縮,加重,疲労 (目標1,2,3,4)
	第5回	「筋電図 Ⅰ」-随意運動時の筋電図,表面電極,屈筋と伸筋,拮抗筋,負荷と振幅,姿勢と筋活動,運動単位-(目標1,2,3,4)
	第6回	「筋電図 Ⅱ」-誘発筋電図,下腿三頭筋,H波,M波,刺激強度と振幅,脊髄反射,筋紡錘,運動神経,単シナプス反射-(目標1,2,3,4)
	第7回	「まとめ」(目標2)
	第8回	「実習結果発表と討論」(目標2)
	第9回	「心電図」-双極標準肢誘導,単極胸部誘導,アイントーベンの三角形,ベクトル,平均電気軸-(目標1,2,3,4)
	第10回	「感覚」-皮膚感覚,触・圧覚,痛覚,温・冷覚,感覚点,感覚受容野,二点識別,感覚伝導路-(目標1,2,4)
	第11回	「脳波」-自発脳波, α波, β波,安静,覚醒, α-ブロッキング (目標1,2,3,4)
	第12回	「肺気量分画」-スパイロメトリー,肺活量,努力性呼出曲線,1秒率,1秒量 (目標1,2,3)
	第13回	「呼吸機能」-息こらえ,再呼吸,過換気,低換気-(目標1,2,3,5)
	第14回	「まとめ」(目標2)
	第15回	「実習結果発表と討論」(目標2)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席時間４／５以上が単位認定の条件であり，実習内容が理解できていること。
	評価の方法	実習への参加度 30%，レポート 30%，発表および小テスト 40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 実習書としてプリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		

備考	生理学講義の単位を取得後の履修が望ましい。 生理学講義の教科書， USBメモリ等の記録媒体を持ってくること。

人体機能構造学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	人体機能構造学演習
科目責任者	角　友起
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2075001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動器，身体運動
授業のねらい・概要	人間の体の動きを担う運動器（骨，関節，筋等）に関する知識は，身体障害を扱う医療分野である理学療法を学ぶ上で重要な基盤となる。本演習では運動器のかたちと機能（はたらき），およびそれらと実際の身体動作との関連について学習する。イラスト・写真・模型の観察，実際に自分達の身体を動かす・触って確かめる等の演習を取り入れ，運動器のはたらきの理解を効率的に進めていく。
学生の達成目標	1.　人体の骨・関節の名称,形状,関節のはたらきを説明できる。 2.　四肢の主要な骨格筋の名称,位置と形,作用(はたらき)を説明できる。 3.　の知識と実際の身体運動との関連を理解する。
授業内容	第1回　身体運動の基礎知識 -身体軸・面,四肢の位置関係に関する表現,関節運動の名称 第2回　上肢と上肢帯の骨・関節・靭帯(1) -上腕,前腕,肘- (目標1,3) 第3回　上肢と上肢帯の骨・関節・靭帯(2) -肩,肩甲骨,鎖骨- (目標1,3) 第4回　上肢と上肢帯の骨・関節・靭帯(3) -手首,手,指- (目標1,3)

	第5回	肘関節・手関節・指の運動と筋 (目標2,3)
	第6回	肩関節の運動と筋 (目標2,3)
	第7回	下肢と下肢帯の骨・関節・靭帯(1) -大腿,下腿,膝- (目標1,3)
	第8回	下肢と下肢帯の骨・関節・靭帯(2) -股関節,骨盤- (目標1,3)
	第9回	下肢と下肢帯の骨・関節・靭帯(3) -足首,足- (目標1,3)
	第10回	膝・足関節の運動と筋 (目標2,3)
	第11回	股関節の運動と筋 (目標2,3)
	第12回	脊柱の骨・関節・靭帯 (目標1,3)
	第13回	脊柱の運動と筋 (目標2,3)
	第14回	胸郭の骨・関節・靭帯 (目標1,3)
	第15回	胸郭・体幹の運動と筋 (目標2,3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	上記の達成目標に掲げた知識をおおむね習得していること。
	評価の方法	期末試験（ 60%），小テスト（ 30%），授業への参加度（ 10%）を総合して評価する。重みづけは授業の実施状況等により若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「骨格筋ハンドブック」南江堂　3 ,150円 ISBN： 978 -4-524-24798-1 ISSN：	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は毎回グループ学習形式で実施する（ 60分講義， 30分グループ演習を目安とする）。 授業内容は「解剖学」と重複する部分が多いが，「解剖学」が人体の “構造面 ”を詳細に学ぶ科目であることに対し，本科目は “運動器と実際の身体運動との関連 ”の理解に重きを置いている。本科目の趣旨を十分に理解した上で履修してもらいたい。	

運動学 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	運動学 Ⅰ
科目責任者	田中　勇治
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2005101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動学，運動力学，運動器の構造と機能
授業のねらい・概要	１．身体運動に関する基本的な知識を学習する。 ２．主に，運動学に必要な力学，運動器の構造と機能一般，上肢帯と上肢および体幹の運動にについて学習する。
学生の達成目標	1.　身体運動に関する基礎的な知識を修得する。 2.　運動学に必要な力学を理解する。 3.　運動器の構造と機能一般を理解する。 4.　上肢帯と上肢の運動および脊柱・体幹の運動を理解し,記憶する。
授業内容	第1回　運動学の定義と領域,身体運動の面と軸および関節運動の名称(目標1) 第2回　運動学に必要な力学の基礎(1):変位,速度・加速度,ベクトル,運動の法則・他(目標2) 第3回　運動学に必要な力学の塞礎(2):仕事,仕事率,力のモーメント,テコ・他(目標2)

第4回	運動学に必要な骨格筋の基礎:筋収縮の様態,筋の働き,筋張力と筋長・他(目標3)
第5回	上肢帯と上肢の構造(目標3,4)
第6回	上肢帯,肩関節とその運動(1):上肢帯を構成する “関節 ”,肩甲骨の位置と運動範囲・他 (目標3,4)
第7回	上肢帯,肩関節とその運動(2):上肢帯と肩関節の運動と筋(目標3,4)
第8回	肘関節とその運動:肘と前腕の関節,肘角,肘と前腕の運動と筋(目標3,4)
第9回	手の関節と運動(1):手の骨,手根管,手関節の構造,手関節の運動と筋(目標3,4)
第10回	手の関節と運動(2):手の各関節の構造,各関節の運動と筋(目標3,4)
第11回	腱鞘,指背腱膜,手の筋,手の把持動作(目標3,4)
第12回	顔面および頭部の筋とその運動(目標3,4)
第13回	体幹とその運動(1):各部椎骨の特徴,脊柱の生理的彎曲,脊椎の連結,椎間円板 (目標3,4)
第14回	体幹とその運動(2):胸椎と胸郭の運動と筋(目標3,4)
第15回	体幹とその運動(3):体幹の運動と筋,各部の椎間関節面の特徴と運動範囲(目標3,4)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	上記の学生の達成目標に到達し，運動学の基本事項を理解し記憶していること。
評価の方法	期末試験を重視する。ほぼ毎回運動学に関する基本事項確認のために小テストまたはレポートを実施する。試験（ 80%），小テストおよびレポート（ 20%）とする。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

中村隆一・齋藤宏・長崎浩著，「基礎運動学」第６版：医歯薬出版，定価 7 ,140円
ISBN： 978 -4-263-21153-3

推薦図書等

参考URL

備考

　解剖学，生理学および人体機能構造学演習の単位を修得していることが望ましい。運動学は，理学療法の基礎として主要な位置を占める。十分な予習と復習を行い，授業に臨むことを希望する。

運動学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	運動学実習
科目責任者	田中　勇治
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2006001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	姿勢，運動，動作，分析
授業のねらい・概要	運動学で学習した身体運動に関する基本的な概念と分析・観察方法に関して実習を通して学習する。主な内容は，身体運動の表現，体表からの筋の観察，各関節運動と筋の作用，動作と筋電図，歩行分析，姿勢に関する実習を行う。
学生の達成目標	1. 正常な身体運動に関する基本的な概念と分析・観察方法に関して実習を通して理解する。 2. 測定機器を用いて動作を確認し,運動学の理解を深める。 3. 身体運動の表現,体表からの筋の観察を行い,確認して理解する。 4. 各関節運動と筋の作用を確認し理解する。 5. 動作と筋電図,歩行分析,姿勢に関する実習を通して運動・動作分析の基礎を理解する。
授業内容	第1回　体表区分とランドマーク実習(目標1,3) 第2回　身体運動の表現方法と運動の確認: ①身体運動の面と軸 ②上肢,下肢,体幹の運動 (目標1,3)

第3回	筋の観察と触診(1):頸部,体幹,肩甲帯,上腕の筋(目標1,3,4)
第4回	筋の観察と触診(2):前腕の筋(目標1,3,4)
第5回	筋の観察と触診(3):手の筋(目標1,3,4)
第6回	筋の観察と触診(4):下肢の筋(目標1,3,4)
第7回	筋電図(1):前腕の肢位および負荷の違いと肘関節屈筋の筋活動(目標1,2,3,4,5)
第8回	筋電図(2):立位での下肢筋活動(目標1,2,3,4,5)
第9回	歩行分析(1):ストップウォッチ用いた歩行の記録(目標1,2,5)
第10回	歩行分析(2): ①ビデオによる正常歩行の記録 ②足圧分布計による正常歩行の記録 (目標1,2,5)
第11回	歩行分析(3): ①ビデオによる歩行周期,立脚相,遊脚相および両脚支持の時間と割合の確認 ②ストップウォッチ用いた歩行の記録による速度および歩行率の確認(目標1,2,5)
第12回	歩行分析(4):ビデオによる歩行と股関節,膝関節,足関節の運動の確認(目標1,2,5)
第13回	姿勢(1): ①姿勢の記述法 ②姿勢変換(目標1,3,5)
第14回	姿勢(2): ①姿勢保持のための反射・反応 ②立位姿勢と重心動揺(目標1,3,5)
第15回	まとめ(目標1～5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	上記の学生の達成目標に到達し，実習内容を理解していること。
	評価の方法	出席４／５以上が単位認定の条件であるが，１回の欠席につき３点減点する。実習態度が悪い場合は減点対象とする。毎回のテーマについてレポート作成または小テストを実施する。実習への取り組み姿勢および実習態度（ 10%），小テストおよびレポート（ 70%），期末テスト（ 20%）ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性がある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 理学療法科学学会監修，「運動学実習マニュアル」第３版：アイペック，価格： 2,500円 ISBN： 4 -900943-57-6-C3047 P2500
推薦図書等	
参考URL	
備考	運動学を履修していること。また，同科目を修得していることが望ましい。解剖学，解剖学実習，生理学および生理学実習の単位を修得していることが望ましく，修得できていない場合，この科目の修得は困難である。

臨床心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	臨床心理学
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2008001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎心理学の歴史，心理査定，心理面接，心理療法，異常心理の治療
授業のねらい・概要	本講義ではまず臨床心理学の土台となる基礎心理学の歴史的推移を整理することで，臨床心理学の全体像を把握します。これを基に対人支援における心理査定と様々な心理検査法を整理し，心理面接の方法を学習することで臨床心理学的支援の基本を身につけていきます。さらにいわゆる異常心理の基礎的知見を整理することで，医療現場における臨床心理学的支援についても理解できるようにします。
学生の達成目標	1. 臨床心理学の土台となる基礎心理学の歴史的推移について理解する。 2. 心理査定の基本を理解し,様々な心理検査法について整理する。 3. 心理面接の基本を理解し,臨床心理学的支援の知見を整理する。 4. 正常と異常な心理の違いについて理解し,異常な心理の治療法について整理する。 5. 医療現場における臨床心理学的支援について理解する。
授業内容	第1回　「心理学の歴史と基礎心理学」-構成主義心理学,精神分析,人間性心理学,行動主義心理学,認知心理学-(目標1)

第2回	「心理学的研究と統計」-実験計画,統計的検定,多変量解析実験計画,テストの信頼性と妥当性-(目標1,2)
第3回	「心理査定」-検査者の基本的態度,検査の標準化,心理査定の倫理,所見書の作成(目標1,2)
第4回	「質問紙法」-YG性格検査,虚偽発見尺度, MMPI,エゴグラム,ビッグファイブ-(目標2)
第5回	「投影法」-ロールシャッハテスト, P-Fスタディー, TAT,SCT,ソンディーテスト(目標2)
第6回	「心理面接の基本」-受容,共感,自己一致,個別性,疾病性-(目標3)
第7回	「臨床心理学的支援の基本的態度」-来談者中心療法,精神分析,中立性,転移,逆転移,ラポールの形成-(目標3,4)
第8回	「精神分析と適応機制」-自由連想法,無意識,抑圧,自我の防衛,洞察(目標3,4,5)
第9回	「行動療法と認知行動療法」-古典的条件付け,オペラント条件付け,不合理な信念,認知の歪み(目標3,4,5)
第10回	「統合失調症とその治療」-陽性症状,陰性症状,薬物療法, SST,心理教育(目標4,5)
第11回	「気分障害とその治療」-大うつ病,躁うつ病,認知療法-(目標4,5)
第12回	「不安障害とその治療」-パニック障害,社会恐怖,強迫性障害,認知行動療法,森田療法(目標5,5)
第13回	「パーソナリティー障害とその治療」-A群パーソナリティー障害, B群パーソナリティー障害, C群パーソナリティー障害,行動化,逆転移-(目標4,5)
第14回	「トラウマ,内科的ケアを必要とする心の健康障害とその治療」-PTSD,乖離性障害,接触障害,心身症,身体表現性障害,内科的ケア,自助グループ-(目標4,5)
第15回	「まとめ」-医療現場における臨床心理学的支援-(目標5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	臨床心理学の基礎的知見が整理できており，さまざまな特徴を持つ支援者に対してどのような臨床心理学的支援を行うことがよいかについて，明確に答えることができるようになることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業時に資料を配布します。
推薦図書等	

参考URL

備考

人間発達学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	人間発達学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2009001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達理論，発達のメカニズム，発達段階，発達障害
授業のねらい・概要	１．人間の発達を進化論的，身体的，心理的，社会的側面など様々な面から考察し，発達に寄与する様々な要素の関連性を理解できるようにする。 ２．初期の認知的情緒的機能の発達を，脳の発達に関する知見を土台にして理解する。 ３．行動や思考の形成の道筋や心理的適応のメカニズムを理解することで，心の健全な成長のために必要な条件とは何かを学ぶ。
学生の達成目標	1. 発達に関わる様々な促進要因,阻害要因を理解する。 2. 発達に関する諸理論を理解する。 3. 発達段階の特徴と発達の道筋を理解する。 4. 発達の途上で現れる困難を理解し,対処法について考えられる。
授業内容	第1回　発達の理論と発達段階の見方。主な発達理論を紹介し,比較検討する。(目標2,3) 第2回　発達の進化論的見方。進化心理学の立場から,人間の成長を把握する。(目標2)

第3回	脳の発達と行動の発達。脳の発達から行動の発達を理解し,発達の生理学的要因を理解する。(目標1)
第4回	意識の発達。意識が様態・変化を理解し,行動発達との関連を考察する。(目標3,4)
第5回	姿勢と運動の発達。乳幼児期の運動発達を理解し,重要な発達指標を把握する。(目標1,3)
第6回	情緒発達と人間関係の発達。乳幼児期の情緒がどのような筋道で発達するかを理解し,人間関係の発達との関連性を学ぶ。(目標1,3,4)
第7回	知覚・認知の発達。乳幼児期の知覚・認知の発達の筋道とメカニズムを学ぶ。(目標3,4)
第8回	愛着の発達。人格形成における愛着の重要性を理解し,愛着が育つための様々な要因について学ぶ。(目標1,3,4)
第9回	言語の発達。乳幼児期における言語の発達について理解し,言語発達のメカニズムを学ぶ。(目標1,3,4)
第10回	児童期の発達。児童期を取り巻く状況を理解しながら,認知,情緒,人間関係の発達を理解する。(目標1,3,4)
第11回	思春期の発達。第二次性徴が現れ内面的な世界が発達する思春期の不安定さを学ぶ。(目標1,3,4)
第12回	青年期の発達。社会に出ようとし,自己の在り方を探求する青年期の複雑さを学ぶ。(目標1,3,4)
第13回	中年期の発達。人生の曲がり角に立つ中年期の悩みや,責任を背負う充実感を学ぶ。(目標1,3,4)
第14回	老年期の心理。心身の衰えを感じ,今までの人生の意味づけを考える老年期の心理を学ぶ。(目標1,3,4)
第15回	発達障害を考える。乳幼児期を中心に,様々な発達障害とそれに対する対策を考える。(目標1,4)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	発達の理論や発達段階など基本的な概念を理解していること。発達の途上で現れる障害を理解し，対処法を考えられること。
評価の方法	授業への出席状況と課題の提出，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

安藤則夫「スクスク子育て：情緒発達から見た自閉症」学苑社， 2007， 2 ,200＋税。　さらに資料を配布する。 ISBN： 978 -4-7614-0701-8

推薦図書等

参考URL

備考	重要な事項について，復習すること。

病理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	病理学
科目責任者	安藤　則夫
担当教員	山口　直人 馬場 健
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2010001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人体解剖学，神経解剖学
授業のねらい・概要	ヒトの働きと構造を総合的・体系的に理解させるために，人間を含めた生物体の構造を細胞レベル，組織，器官さらには系統レベルで論述する。殊にヒトの生存とその尊厳の意味，生命現象を理解するための考え方，基本学術用語についての理解を深めさせ，ヒトの身体の仕組みと，これがどのようにして働いているかを論述する。
学生の達成目標	1. 専門分野の教育を学び実習を行うための基礎となる必要な身体の正常構造とそれに関連した学術用語を習得する。 2. 解剖実習を通じ,生命の尊厳を知る。
授業内容	第1回　人体構造学総論,細胞の構造と組織,細胞膜と微細構造,核と核膜の構造,細胞内小器官の微細構造。(目標1,2) 第2回　骨格系(骨,関節,筋)の構造,各部の骨の名称,関節と筋の構造と分類。(目標1,2)

第3回	循環器系の構造,血管系 1)大循環と小循環 2)心臓の構造と刺激伝導系 3)リンパ性器官。(目標1,2)
第4回	呼吸器系の構造 1)鼻,咽頭,喉頭,気管,肺の構造。(目標1,2)
第5回	消化器系の構造 1)口,歯,口腔腺,食道,胃,小腸,大腸,肝臓,胆のう,膵臓の構造。(目標1,2)
第6回	泌尿器系の構造 1)腎臓,尿管,膀胱,尿道の構造。(目標1,2)
第7回	生殖器系の構造 1)女性生殖器の構造。(目標1,2)
第8回	生殖器系の構造 1)男性生殖器の構造。(目標1,2)
第9回	感覚器の構造 1)体性感覚器 2)味覚器 3)嗅覚器 4)視覚器 5)聴覚器と平衡感覚器。(目標1,2)
第10回	神経系の構造(神経解剖学総論)。(目標1,2)
第11回	神経細胞,神経膠細胞,シナプス,脳の構造とその機能,シナプス伝達,神経伝達物質。 (目標1,2)
第12回	中枢神経系の構造(大脳,間脳,中脳,橋,小脳,延髄,脊髄)。(目標1,2)
第13回	大脳皮質の構造と細胞構築学(脳の機能局在とブロードマンの領域)。(目標1,2)
第14回	末梢神経系の構造(12対の脳神経と 31対の脊髄神経の走行)とその働き。(目標1,2)
第15回	自律神経系の構造(交感神経系と副交感神経系)とその働き。内分泌系の構造とホルモンの働き。(目標1,2)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	上記の系統解剖学を的確に理解し，有機的に統合出来る力を評価基準とする。
	評価の方法	出席状況，筆記試験，授業時の人体構造試問等で総合的評価を行う。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 齋藤基一郎『医療のための人体解剖学』廣川書店　5 ,040円 ISBN： 978 -4567518000 齋藤基一郎，王昌立『目でみる人体解剖』廣川書店　5 ,460円 ISBN： 978 -4567517805 齋藤基一郎，王昌立，後藤保正『医療のための脳・神経解剖学の基礎』増補改訂新装番　元就出版社　3,500円 ISBN： 978 -4-86106-174-5

推薦図書等

参考URL

備考

一般臨床医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	一般臨床医学
科目責任者	内山　伸治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2011001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医学史，現代医療，保健医療制度，病態生理，臨床医学
授業のねらい・概要	現代医学は日進月歩であるが，疾病構造も変化し，また医療の世界も変遷しつつある。そこでは，医療者としての幅広い知識と考え方が求められる。医学・医療の流れを概観し現代医療の問題点と進む道を探り，主な症候の病態生理，臨床検査・画像診断の基礎，治療学の基礎などについて概説する。また，内科学，神経内科学，リハビリテーション医学の授業で言及できない疾患などについても概観したい。
学生の達成目標	1. 近代医学の発展と現代医学の展開,現在の医療制度などについて理解する。 2. 人体の構造と疾患のり立ちの基本を理解する。 3. 診断学・症候学の基礎的理解をえる。 4. 臨床検査・画像診断,治療学などの基礎を理解する。 5. 外科系疾患を総論的に理解する。
授業内容	第1回　医学の歴史と近代医学の発展(目標1,2) 第2回　近代医学の展開と現代医療の諸問題(目標1,2)

第3回	機能と疾病の成り立ち1(発熱などの主要症候と病態生理)(目標2,3)
第4回	機能と疾病の成り立ち2(感染防御,ショックなど)(目標2,3)
第5回	機能と疾病の成り立ち3(痛みなどの主要症候と病態生理)(目標2,3)
第6回	臨床検査の基礎(臨床検査はなぜ必要で,なにがわかるのかを理解する)(目標2,3)
第7回	臨床検査の主なもの(血液・生化学など)(目標2,3)
第8回	画像診断の基礎(画像診断の基本を理解する)(目標2,3)
第9回	薬物治療総論(薬物治療の基本を理解する)(目標2,3)
第10回	薬物治療(主な薬物の作用などを理解する)(目標2,3)
第11回	救命救急医療(ショックなどの病態,輸血,救急処置などについて理解する)(目標2,3)
第12回	外科系疾患概観-1総論(感染,外傷など一般外科について理解する)(目標5)
第13回	外科系疾患概観-2(脳神経外科疾患,形成外科などについて理解する)(目標5)
第14回	外科系疾患概観-3(泌尿器科・婦人科疾患について理解する)(目標5)
第15回	外科系疾患概観-4(眼科・耳鼻科などの疾患について理解する)(目標5)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準　達成目標への達成度 評価の方法　試験による
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「PT・OTのための一般臨床医学」　明石謙編，医歯薬出版 ISBN： 978 -4-263-21275-2
推薦図書等	
参考URL	
備考	

内科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	内科学
科目責任者	内山　伸治
授業形態	講義
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2012001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	内科疾患，病態，診断と治療
授業のねらい・概要	呼吸循環器疾患のみならず他の内科疾患に対する幅広い知識は，理学療法を行う上で医療者としての「共通言語」として重要である。主要な内科疾患について，その病態，疫学，症候，診断，治療について概観し，理学療法を行う上での最低限の知識の獲得を目指す。（神経内科疾患については，神経内科学において，内科系疾患以外は一般臨床医学で述べる）
学生の達成目標	1. 内科疾患の病態と症候学の理解 2. 内科疾患の診断と治療に対する一般的知識の獲得 3. 理学療法の対象となる内科疾患およびリスクとなりうる疾患の理解
授業内容	第1回　内科学とは(内科学の位置づけ,リハとの関連)(目標1,2,3) 第2回　内科診断学(主訴のとらえ方,病歴聴取,内科的診察などについて理解する)(目標1,2,3) 第3回　内科症候学-1(一般症状の診かた・とらえ方)(目標1,2) 第4回　内科症候学-2(胸部症状などの診かた・とらえ方)

第5回	臨床検査のとらえ方-1(主要な臨床検査の意味するものを理解する)(目標1,2,3)
第6回	臨床検査のとらえ方-2(血清・免疫など)(目標1,2,3)
第7回	画像診断-1(胸部)(目標1,2,3)
第8回	画像診断-2(腹部)(目標1,2,3)
第9回	画像診断-3(頭頸部)(目標1,2,3)
第10回	内科的治療-1(主要な薬物治療1)(目標1,2,3)
第11回	内科的治療-2(主要な薬物治療2)(目標1,2,3)
第12回	循環器疾患-1(心血管系の解剖生理,循環器症状,高血圧,心不全などについて)(目標1,2,3)
第13回	循環器疾患-2(心筋硬塞,先天性心疾患,不整脈などについて)(目標1,2,3)
第14回	呼吸器疾患-1(呼吸器の解剖生理,呼吸器症状,肺炎などの各種呼吸器感染症)(目標1,2,3)
第15回	呼吸器疾患-2(気管支喘息,閉塞性肺疾患,間質性肺炎,肺癌,気胸などについて)
第16回	前期の復習(目標1,2,3)
第17回	消化管疾患(消化管の解剖生理,口腔,食道,胃・十二指腸,腸疾患などについて)(目標1,2,3)
第18回	肝・胆道・膵疾患(肝胆道系の解剖生理,検査,肝炎,肝硬変,胆石,膵癌など)(目標1,2,3)
第19回	血液・造血器疾患(貧血,白血球減少,白血病など)(目標1,2,3)
第20回	内分泌・代謝性疾患-1(糖代謝障害,高脂血症,無機質・ビタミン欠乏など)(目標1,2,3)
第21回	内分泌・代謝性疾患-2(下垂体,甲状腺,副甲状腺,副腎機能 性機能)(目標1,2,3)
第22回	腎・泌尿器疾患-1(腎臓の解剖生理,病態生理,腎不全,腎炎など)(目標1,2,3)
第23回	腎・泌尿器疾患-2(妊娠中毒など,腎性高血圧,水と電解質異常など)(目標1,2,3)
第24回	膠原病,アレルギー疾患,免疫不全など(目標1,2,3)
第25回	感染症(細菌感染症,好酸菌,ウイルスその他各種感染症を理解する)(目標1,2,3)
第26回	中毒および環境要因による疾患(有機溶剤,農薬,薬剤,食中毒など)(目標1,2,3)
第27回	内科疾患と神経症状(各種内科疾患で見られる神経症状について)(目標1,2,3)
第28回	内科疾患と皮膚内科疾患(皮膚赤疾患の概観と内科疾患で遭遇する皮膚症状の知識をえる) (目標1,2,3)
第29回	内科疾患と心身症その他(心身症とは?内科疾患には心身相関と関連するものが多いことを理解する)(目標1,2,3)
第30回	まとめ(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	達成目標への達成度（適宜行うミニテスト，前期・後期の試験による）
	評価の方法	試験（ 100%）による
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学」大成浄志著　医学書院 ISBN： 978 -4-260-26624-6	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

整形外科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	整形外科学
科目責任者	
担当教員	上原　朗
授業形態	講義
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2013001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動器疾患，整形外科的診断，整形外科的治療，リハビリテーション
授業のねらい・概要	人体の運動器管にかかわる疾患の診断と治療を理解するため，基礎知識として骨の発生と成長，骨・関節および神経・筋の機能解剖と病態について学ぶ。総論として，整形外科的診断法や治療法について概要を学び，各論として骨の感染症，骨系統疾患・代謝性骨疾患，骨・軟部腫瘍，神経・筋疾患や外傷学（骨折・脊髄損傷，スーツ外傷など）および四肢切断と義肢，補装具などについても学習し，さらに「福祉用具」の知識についても学ぶ。
学生の達成目標	1. 運動器障害を理解するため,骨・関節構造の病態等について基礎的な知識を学習する。(目標1) 2. 基礎知識をもとに,整形科的診断法・治療法についての総論を学習する。(目標2) 3. 様々な整形外科的疾患について,総論および各論を学習する。(目標3) 4. 患者さんを前にして,外傷に伴う疾患について正確な知識と自信を持って対応できる能力を獲得する。(目標4)

5. リハのチームアプローチの一員として,他職種の人たちとも協力できるセラピストをめざす。(目標5)

授業内容

第1回 整形外科の基礎科学(1)(骨の発生・構造,関節の構造および病態生理など)(目標1)

第2回 整形外科の基礎科学(2)(骨格筋の構造や病態生理,神経組織の構造と機能など)(目標1)

第3回 整形外科の診断総論(1)(運動器の基本的な評価法について)(目標2)

第4回 整形外科の診断総論(2)(神経学的な評価法および整形外科的検査について)(目標2)

第5回 整形外科の治療総論(1)(保存療法について)(目標2)

第6回 整形外科の治療総論(2)(手術療法について)(目標2)

第7回 疾患総論(1)(軟部組織・骨・関節の感染症について)(目標3)

第8回 疾患総論(2)(関節リウマチとその類縁疾患について)(目標3)

第9回 疾患総論(3)(慢性関節疾患・四肢循環障害疾患,骨端症について)(目標3)

第10回 疾患総論(4)(先天性骨系統疾患・先天異常症候群について)(目標3)

第11回 疾患総論(5)(代謝性骨疾患,特に骨粗しょう症などについて)(目標3)

第12回 疾患総論(6)(骨・軟部腫瘍について)(目標3)

第13回 疾患総論(7)(神経疾患・筋疾患について)(目標3)

第14回 疾患各論(1)(肩関節・肘関節について)(目標3)

第15回 疾患各論(2)(手関節および手指について)(目標3)

第16回 疾患各論(3)(頚椎について)(目標3)

第17回 疾患各論(4)(胸椎・腰椎について)(目標3)

第18回 疾患各論(5)(股関節について)(目標3)

第19回 疾患各論(6)(膝関節について)(目標3)

第20回 疾患各論(7)(膝関節について) 講演-1「老化は脚から-特に膝関節を中心に-」(目標3)

第21回 疾患各論(8)(足関節・足趾について)(目標3)

第22回 外傷総論 (軟部組織損傷,骨折・脱臼の総論について(目標4)

第23回 外傷各論(1)(上肢の骨折・脱臼について)(目標4)

第24回 外傷各論(2)(下肢の骨折・脱臼について)(目標4)

第25回 外傷各論(3)(脊椎・脊髄損傷について)(目標4)

第26回 外傷各論(4)(末梢神経損傷について)(目標4)

第27回 外傷各論(5)(スポーツ障害について)(目標4)

第28回 リハビリ(1)(運動器疾患のリハビリテーションについて)(目標5)

第29回 リハビリ(2)(補装具および四肢切断と義肢について)(目標5)

	第30回	リハビリ(3)(福祉用具について) 講演-2「セラピストに必要な福祉用具の知識について」(目標5)
予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	定期試験（前，後期：一回ずつ，計二回）を実施し，毎回 50 題ずつの筆記試験（満点は 100点）を行い，以下の採点分類により評価する。 A： 100～ 80点， B： 79～ 70点， C：69～ 60点， D： 60点以下（不合格）とする。不合格者はレポート提出で再評価する。
	評価の方法	年２回の筆記試験の際，最高得点者の点数を満点の 100点にした点数分を全員に加算して採点し，加算しても 60点以下の者は不合格者とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書：標準整形外科学　〈第 11版〉　医学書院　監修：内田淳正　編集：中村利孝／松野丈夫／井樋栄二／馬場久敏　定価： 9 ,870円（本体 9 ,400円＋税５％） ISBN： 978 -4-260-01070-2 C3047	
推薦図書等		
参考URL		
備考	上記教科書の定価は高価であるが，「整形外科」の参考本としても，一生に一冊あれば良い本である。	

神経内科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	神経内科学
科目責任者	内山　伸治
授業形態	講義
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2014001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	神経症候学，高次脳機能障害，神経疾患
授業のねらい・概要	神経疾患がリハビリテーションの中で占める割合は大きい。一般的に神経症状は難解だと思われているが，神経解剖学と神経生理学の概略を理解すればその複雑さは氷解する。解剖と機能の面から神経症候学を概説し，神経疾患に対して親しみ興味を持って臨床の場に向かわせたい。
学生の達成目標	1. 神経症状の背景にある解剖・生理学の理解 2. 解剖・生理学と関連した神経症状の理解 3. 神経系の画像診断の理解 4. 神経症状を呈する各種疾患の理解 5. リハビリテーションにおける神経疾患の位置づけの理解
授業内容	第1回　神経内科学序論(神経内科をとは何かをしる)(目標1,2,3,4) 第2回　意識障害(意識とは,意識障害とは?その機序を理解する)(目標1,2,3,4)

第3回	症候学-脳神経障害,嚥下障害など(脳神経障害の症候学と解剖生理の理解) (目標1,2,3,4)
第4回	症候学-運動障害1:運動麻痺(運動麻痺の症候学,解剖生理を理解する) (目標1,2,3,4)
第5回	症候学-運動障害2:運動失調(運動失調の症候学,解剖生理を理解する) (目標1,2,3,4)
第6回	症候学-運動麻痺3:錐体外路障害(パーキンソン症状などの症候学,解剖生理を理解する) (目標1,2,3,4)
第7回	症候学-不随意運動,けいれんなど(各種不随意運動について理解する) (目標1,2,3,4)
第8回	症候学-筋萎縮,歩行障害(筋萎縮の機序,症候学について理解する) (目標1,2,3,4)
第9回	症候学-感覚障害,疼痛(感覚障害のタイプ・病態,疼痛障害について理解する) (目標1,2,3,4)
第10回	症候学-めまい,失神,自律神経障害(病態,解剖生理の理解)(目標1,2,3,4)
第11回	症候学-睡眠障害,精神症状(目標1,2,3,4)
第12回	症候学-高次脳機能障害1(失語症などの病態の理解)(目標1,2,3,4)
第13回	症候学-高次脳機能障害2(失行認,その他の高次機能障害の病態の理解) (目標1,2,3,4)
第14回	臨床検査1(神経学的補助検査のうち,画像診断の概要について理解する) (目標1,2,3,4)
第15回	臨床検査2(神経学的補助検査のうち,髄液検査その他について理解する) (目標1,2,3,4)
第16回	臨床検査3(神経学的補助検査農地,電気生理学的検査について理解する) (目標1,2,3,4)
第17回	各論:各論:脳血管障害(分類,病態,治療について理解する)(目標1,2,3,4)
第18回	各論:脳腫瘍,頭部外傷(分類と病態,治療)(目標1,2,3,4)
第19回	各論:中枢神経感染症(髄膜炎ン脳炎その他について理解する)(目標1,2,3,4)
第20回	各論:パーキンソン病とパーキンソン症候群(症候学,病態生理)(目標1,2,3,4)
第21回	各論:認知症,てんかん(病態と治療)(目標1,2,3,4)
第22回	各論:脊髄小脳変性症(分類,症候学,治療)(目標1,2,3,4)

	第23回	各論:運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症その他の疾患の理解)(目標1,2,3,4)
	第24回	各論:脱髄性疾患(多発性硬化症などの病態生理)(目標1,2,3,4)
	第25回	各論:脊椎・脊髄疾患(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3,4)
	第26回	各論:末梢神経疾患(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3,4)
	第27回	各論:ミオパチー(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3,4)
	第28回	各論:自律神経疾患(分類,症候,治療などについて理解)(目標1,2,3,4)
	第29回	各論:先天異常・代謝性疾患(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3,4)
	第30回	各論:中毒性神経疾患その他(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	達成目標への達成度（適宜行うミニテスト，前期・後期の試験による）
	評価の方法	試験による
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「リハビリテーションのための神経内科学」安藤一也・杉村公也著　医歯薬出版 ISBN： 978 -4-263-21150-2	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

精神医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	精神医学
科目責任者	内山　伸治
担当教員	荒木　　均 山川　百合子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2015001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	精神保健，精神医学，精神科リハビリテーション，地域精神保健福祉
授業のねらい・概要	精神保健は，精神障害はもとより心の健康に至るまで幅広い概念である。この授業では，日本の精神保健福祉に関する社会制度や法規を説明する。またライフサイクルの視点からの精神保健について概説する。また精神障害については，各疾患の病態や治療を，身体，心理，社会の視点から説明する。さらにリハビリテーションの現場でよくみられる精神問題とその対応についても解説する。
学生の達成目標	1.　日本における精神保健福祉の歴史と現状を学習する 2.　精神保健福祉の社会制度や法規について理解する 3.　ライフサイクルにおける精神保健について理解する 4.　精神疾患の病態,治療とリハビリテーションについて理解する 5.　リハビリテーションにおける精神問題とその対応について理解する
授業内容	第1回　　日本の精神医療福祉の歴史(目標1)

第2回	精神保健福祉行政のあゆみ(目標1)
第3回	精神保健と地域精神保健(目標2)
第4回	ライフサイクルと精神保健(1)学童期～思春期・青年期(目標3)
第5回	ライフサイクルと精神保健(2)成人期～老年期(目標3)
第6回	世界の精神保健(目標2)
第7回	統合失調症(病態と治療,精神科リハビリテーション)(目標4)
第8回	気分障害(病態と治療,現代型うつ病)(目標4)
第9回	外傷後ストレス障害(病態と治療,災害ストレス)(目標4)
第10回	物質関連性障害(アルコール依存,薬物依存の病態と治療,セルフヘルプ活動)(目標4)
第11回	摂食障害(神経性拒食症,神経性過食症の病態と治療)(目標4)
第12回	神経症性障害(不安障害,強迫障害,解離性障害,身体表現性障害の病態と治療)(目標4)
第13回	臨床精神薬理学(向精神薬のメカニズム,現代の精神科薬物療法の考え方)(目標4)
第14回	リハビリテーションにおける精神問題:脳卒中後うつ病,疼痛性障害,障害受容の概念(目標5)
第15回	まとめ(目標1～5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業の内容に即した精神保健・精神医学の基本的な知識の理解を有すること。
	評価の方法	試験（択一式および記述式） 80%，授業への参加度 20%とし，総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 保健・医療・福祉系学生のための臨床精神医学（第２版），編著　根岸敬矩，土澤健一　医学出版社 ISBN： 9784870551138	
推薦図書等		
参考URL		
備考	担当教員からのメッセージ 　この授業では，これから医療職を目指す者として精神障害はもとより心の健康に至るまで広い視点を持てるようになってほしいと思っています。わからないことは積極的に質問してください。	

小児科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	小児科学
科目責任者	
担当教員	大濱　洋一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2016001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児，成長発達，疾病
授業のねらい・概要	正常小児の成長発達と小児の疾病における特性を概説し，理学療法として小児の運動障害にも専門的に対応できる能力を習得する。
学生の達成目標	1. 正常小児の成長発達を理解する。 2. 未熟児新生児の病態を理解する。 3. 小児疾患の特性および病態を理解する。 4. 重症心身障害児の特性と療育について理解する。
授業内容	第1回　小児科学概論(目標1・2・3) 第2回　小児科学概論(目標1・2・3) 第3回　診断と治療の概要(目標3・4) 第4回　新生児・未熟児疾患(目標2)

第5回	新生児・未熟児疾患(目標2)
第6回	先天異常と遺伝病(目標3)
第7回	神経・筋・骨系疾患(目標3)
第8回	神経・筋・骨系疾患(目標3)
第9回	循環器疾患,呼吸器疾患(目標3)
第10回	感染症(目標3)
第11回	消化器疾患,内分泌・代謝疾患(目標3)
第12回	血液疾患,免疫・アレルギー疾患,膠原病(目標3)
第13回	腎・泌尿器系,生殖器疾患,腫瘍性疾患,心身症・神経症など(目標3)
第14回	重症心身障害児(目標4)
第15回	眼科・耳鼻科的疾患(目標3)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	正常小児の成長発達と小児の疾病における特性に関して，授業で取り上げた内容が理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	期末の筆記試験　100%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学」編集　冨田　豊；医学書院，４,200円　ISBN： 978 -4-260-26625-3 C3347	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

薬理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	薬理学
科目責任者	
担当教員	植村　展子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2017001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	薬物療法，薬物の臨床応用，薬物の副作用，薬物の作用機序
授業のねらい・概要	薬理学とは薬物が生体に及ぼす種々の反応およびその作用機序について学び，薬物療法の基盤を確かなものとすることを目標としており，薬物の効果・臨床応用・副作用等についての知識を習得する。
学生の達成目標	1. 薬物に関する法律;薬事法,麻薬および向精神薬取締法,覚せい剤取締法等による薬物の使用制限を理解すること。 2. 正常および病的状態にある生体が薬物に対してどのような反応を現すかを理解すること。 3. 種々の疾患に用いられる薬物の投与方法・作用機序・副作用を理解すること。
授業内容	第1回　薬理学総論:薬の定義・薬を規制している法律,薬の主作用・副作用・薬理作用 第2回　薬理学総論:受容体理論・薬物相互作用-第1・2回の講義で目標の1・2の項目を理解

第3回	自律神経と薬:交感神経作用薬・遮断薬
第4回	自律神経と薬:副交感神経作用薬・遮断薬 筋弛緩薬:代表的筋弛緩薬の作用機序・臨床応用・副作用
第5回	麻薬性鎮痛薬・局所麻酔薬・全身麻酔薬:痛みに対する代表的治療薬物の作用機序・副作用
第6回	抗炎症薬:非ステロイド・副腎皮質ステロイド・抗リウマチ薬の作用機序・副作用
第7回	中枢神経作用薬:抗精神病薬・抗うつ薬・抗躁(感情障害)薬・抗てんかん薬の代表的薬物の作用機序・副作用
第8回	中枢神経作用薬:パーキンソン病・アルツハイマー病・不眠・不安に対する代表的治療薬の作用機序と副作用。心血管作用薬:心筋梗塞・狭心症・高血圧症等の疾患に対する代表的治療薬の作用機序と副作用-第3～8回の講義で目標の3の項目を理解

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた薬物療法における薬物の作用機序・臨床応用・作用機序等が理解できて，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末筆記試験 100%で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「シリーズ看護の基礎科学　7　薬とのかかわり臨床薬理学」日本看護協会出版会 中谷晴昭　大橋京一／編	
推薦図書等		
参考URL		
備考	薬理学を充分理解するには既習の「生理学・解剖学・生化学等」の基礎的知識が必要。	

リハビリテーション概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	リハビリテーション概論
科目責任者	内山　伸治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2018001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リハビリテーションの理念，障害の構造，障害評価
授業のねらい・概要	これから進もうとするリハビリテーションについて鳥瞰図的に概説し，この４年間で何をどのようにして学んで行くかについて述べたい。まず，リハビリテーションとは何かについて，その理念と歴史的背景などの付き概説し，ついで，対象となる疾患の症候と障害構造の評価，それに対する介入方法について大まかな理解を得て，後期の授業に備える。障害者に対する医療・福祉制度などのリハビリテーションをめぐる社会的背景についても目を向けさせたい。
学生の達成目標	1. 病気とは何か?健康とは何か?を理解する。 2. 障害とは何か?障害の概念と構造を理解する。 3. 障害をどう評価するのか?を理解する。 4. どのような疾患にどのように介入してゆくのかの概略を学ぶ。 5. 障害者を支える社会的背景について理解する。
授業内容	第1回　リハビリテーションとは?その理念と歴史的背景(目標1,2,3,4,5) 第2回　健康とは?病気とは?障害とは?その概念と構造(目標1,2,3,4,5)

第3回	リハビリテーションの対象とその評価と介入方法(目標1,2,3,4,5)
第4回	リハビリテーションを支える医療・福祉制度(目標1,2,3,4,5)
第5回	リハビリテーションと医療安全(目標1,2,3,4,5)
第6回	障害の病態生理と評価・治療(廃用症候群)(目標1,2,3,4,5)
第7回	障害の病態生理と評価・治療(運動障害・歩行障害)(目標1,2,3,4,5)
第8回	障害の病態生理と評価・治療(摂食・嚥下障害・排尿障害)(目標1,2,3,4,5)
第9回	障害の病態生理と評価・治療(脳卒中)(目標1,2,3,4,5)
第10回	障害の病態生理と評価・治療(神経疾患)(目標1,2,3,4,5)
第11回	障害の病態生理と評価・治療(頭部外傷・脊髄損傷)(目標1,2,3,4,5)
第12回	障害の病態生理と評価・治療(運動器)(目標1,2,3,4,5)
第13回	障害の病態生理と評価・治療(内部障害・呼吸・循環障害)(生活習慣病) (目標1,2,3,4,5)
第14回	障害の病態生理と評価・治療(高次脳機能障害・認知症)(目標1,2,3,4,5)
第15回	障害の病態生理と評価・治療(発達障害と老年症候群)(目標1,2,3,4,5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	達成目標への達成度（適宜行うミニテスト，本試験による）
	評価の方法	試験による

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「リハビリテーション医学」　米本恭三監修　医歯薬出版 ISBN： 978 -4-263-21284-4

推薦図書等
参考URL
備考

リハビリテーション医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	リハビリテーション医学
科目責任者	内山　伸治
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2019001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医学的リハビリテーション，リハビリテーション診療，治療手技
授業のねらい・概要	リハ概論で俯瞰したリハビリテーションについてさらに知識を深め，並行して行われる神経内科学，内科学などの知識をもとに，実際のリハビリテーション医学の考え方を重ね合わせ，リハビリテーション全体の中で理学療法の立場を確認してゆく。
学生の達成目標	1. 障害の分類と評価について復習し,理解を深める。 2. リハビリテーション診療の実際について学ぶ。 3. 具体的な疾患における各々の障害に対してどう介入してゆくのかを学ぶ。
授業内容	第1回　リハビリテーションと障害学(目標1,2,3) 第2回　リハビリテーションとチーム医療(目標1,2,3) 第3回　リハビリテーションと医療連携(目標1,2,3) 第4回　リハビリテーション診療(目標1,2,3) 第5回　リハビリテーション治療手技のあらまし(目標1,2,3)

	第6回　廃用症候群のリハビリテーション(目標1,2,3) 第7回　褥創・排尿障害・性機能障害などのリハビリテーション(目標1,2,3) 第8回　高次脳機能障害のリハビリテーション(目標1,2,3) 第9回　疾患とリハビリテーション(脳卒中急性期)(目標1,2,3) 第10回　疾患とリハビリテーション(脳卒中回復期・維持期)(目標1,2,3) 第11回　疾患とリハビリテーション(頭部外傷と脊髄損傷)(目標1,2,3) 第12回　疾患とリハビリテーション(呼吸器疾患)(目標1,2,3) 第13回　疾患とリハビリテーション(心血管疾患)(目標1,2,3) 第14回　疾患とリハビリテーション(熱傷・腫瘍)(目標1,2,3) 第15回　リスク管理とまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準　達成目標への達成度 評価の方法　試験による
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「リハビリテーション医学」　米本恭三監修　医歯薬出版 ISBN： 978 -4-263-21284-4
推薦図書等	
参考URL	
備考	

チーム医療演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	チーム医療演習
科目責任者	内山　伸治
担当教員	永原　久栄 佐藤　将朗 郭　丹
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2020001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	チーム医療，専門職の役割，連携，協働，ケアマネジメント
授業のねらい・概要	障害者，高齢者に対するリハビリテーション医療を行う上での，重要な専門職のチームワークについて学ぶ。チーム医療を構成する各専門職から，その専門職の役割と協働のスキルを学ぶ。後半は，事例のグループ討議を行い，チームとしての支援目標・支援計画を検討する。事例は，医療機関（急性期，回復期）のチーム医療事例，および，訪問サービス・通所サービス，障害者施設等でのケアチーム事例を用意する。多面的な事例検討を行うことで，チームを構成する一員としての基本的姿勢を考えるとともに，他の専門職と協働できる理学療法士像を考える。
学生の達成目標	1. リハビリテーションにおけるチーム医療の重要性を理解する。 2. 望ましいチームワークに必要な,基本的知識およびスキルを習得する。 3. チーム医療を構成する各専門職の役割を理解する。 4. チームとしての支援目標,および,チームを構成する各専門職の支援(治療)目標を理解する。

5. リハビリテーションカンファレンス(ケアカンファレンス)について理解し,模擬体験する。

6. 各専門職間の連携,協働の必要性ならびに連携,協働の方法を理解する。

7. 医療,地域,福祉領域の連携の重要性を理解できる。

授業内容

第1回	チーム医療とは(目標1,2,3,4)
第2回	グループ討議
第3回	看護師の仕事とチーム医療の役割(目標1,2,3,4)
第4回	グループ討議
第5回	医療ソーシャルワーカーの仕事とチーム医療における役割(目標1,2,3,4)
第6回	グループ討議:心理的問題を伴う事例の支援目標(目標4,5,6)
第7回	作業療法士の仕事とチーム医療における役割(目標1,2,3,4)
第8回	グループ討議: PT,OTの事例の支援目標(目標1,2,3,4)
第9回	言語聴覚士の仕事とチーム医療における役割(目標1,2,3,4)
第10回	グループ討議:言語障害事例の支援目標(目標1,2,3,4)
第11回	医師の仕事とチーム医療における役割(目標1,2,3,4)
第12回	グループ討議:リハビリテーション事例の支援目標(目標1,2,3,4)
第13回	グループ討議
第14回	グループによるチーム医療演習発表会(目標1～7)
第15回	グループによるチーム医療演習発表会(目標1～7)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
評価の方法	参加の積極性の程度（ 30%），各講義の事前・事後レポート６回（ 30%），グループ討議６回（ 20%），全体発表会（ 20%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

植草学園大学チーム医療事例集配布

推薦図書等

参考URL

備考	後期前半７回（２コマ）　ゲストスピーカーの都合で予定を変更する場合があります

社会福祉学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	社会福祉学
科目責任者	
担当教員	宮下　裕一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2021001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会福祉の理念，社会福祉制度，社会福祉専門職
授業のねらい・概要	現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何かを考えていく。社会福祉の行財政，関連諸施策との関係をおさえつつ社会福祉の主要な分野とサービスとの関連についての考察を加える。社会福祉専門職と非専門的社会福祉従事者について理解を深める。現代における社会福祉の課題についてとりあげる。
学生の達成目標	1. 私たちの生活と社会福祉を関連づけることができる。(目標1) 2. 生活を支える諸施策と社会福祉の理念について,説明することができる。(目標2) 3. 社会福祉のしくみの特質を説明することができる。(目標3) 4. 社会福祉に携わる専門職の役割について説明することができる。(目標4)
授業内容	第1回　社会福祉とは何か (目標1) 第2回　社会福祉と生活問題 (目標2) 第3回　社会福祉と社会保障 (目標2)

第4回	社会福祉を支える理念 (目標2)
第5回	社会福祉のしくみと運営 (目標3)
第6回	社会福祉の機関と施設 (目標3)
第7回	所得の保障と生活保護制度 (目標2,3,4)
第8回	子ども家庭福祉(子ども家庭福祉の法律と実施体制) (目標2,3,4)
第9回	子ども家庭福祉(児童虐待,ひとり親,女性への福祉的支援) (目標2,3,4)
第10回	障害者福祉(障害者福祉の法律と実施体制) (目標2,3,4)
第11回	障害者福祉(障害者の権利保障とアドボカシー) (目標2,3,4)
第12回	高齢者福祉(高齢者福祉の法律と実施体制) (目標2,3,4)
第13回	高齢者福祉(高齢者保健福祉施設の体系) (目標2,3,4)
第14回	医療と社会福祉 (目標3,4)
第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	現代社会と社会福祉制度の関連等について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。社会福祉を支える理念を念頭に置きつつ，社会福祉の現状を知り，問題点や課題について指摘できることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（期間中に課す小レポートを含む） 30%，最終レポート　70%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 山縣文治他編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房， ２,400円＋税 ISBN： 978-4-623-05740-5
推薦図書等	
参考URL	
備考	

特別支援教育概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	特別支援教育概論
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2022001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害の概念，障害児教育の歴史と制度，特別な教育的ニーズ，ノーマライゼーション，教育と医療の連携
授業のねらい・概要	本講義では障害とは何かを理解することから始め，障害児（者）教育の歴史と制度，障害の種類と程度に応じた教育の基本的特性を学んでいきます。これにより特別支援教育といっても一人ひとりの障害児（者）の生活を守り，教育を施す必要性は障害の有無で変わらないことを理解し，医療学生として障害児（者）との望ましい関わりや，教育と医療の連携について考えられるようになることを目標とします。
学生の達成目標	1. 障害の概念について理解する。 2. 障害児教育の歴史的変遷と現在の制度について理解する。 3. 各障害の種類と程度に応じた教育支援の基本的特性について理解する。 4. 医療学生として障害児(者)への受容的行動について理解する。 5. 医療学生として障害児(者)への教育と医療の連携について理解する。
授業内容	第1回　「障害の概念」-障害の種類と程度,障害児(者)の能力障害児(者)をとりまく環境 (目標1,4,5)

第2回	「特別支援教育の制度」-特殊教育から特別支援教育へ,分離教育と統合教育-(目標2,5)
第3回	「感覚障害教育」-視覚障害児(者)の特性と教育支援,聴覚障害児(者)の特性と教育支援 (目標3,4,5)
第4回	「知的・発達障害教育1」-知的障害児(者)・重度知的障害児(者)・重複障害児(者)の特性と教育支援-(目標3,4,5)
第5回	「知的・発達障害教育2」-低機能自閉症児(者)・高機能自閉症児(者)・学習障害・注意欠陥/多動障害児(者)の特性と教育支援-(目標3,4,5)
第6回	「運動障害,病虚弱教育」-運動障害児(者)の特性と教育支援,病虚弱児(者)の特性と教育支援-(目標 3,4,5)
第7回	「言語障害,情緒障害教育」-言語障害児(者)の特性と治療教育,情緒障害児(者)の特性と治療教育- (目標3,4,5)
第8回	「まとめ」-障害児(者)の家族への支援,特別支援教育の今後の展望,教育と医療の連携(目標1,4,5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	特別支援教育について授業で取り上げる基礎的知見が理解できていること，障害児（者）援助の視点について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特別支援教育概説　佐藤泰正（編）　学芸図書　ISBN： 9784761603946
推薦図書等	
参考URL	
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。

障害者・高齢者の福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	障害者・高齢者の福祉
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2023001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害者，高齢者，社会福祉，ノーマライゼーション，関連法規
授業のねらい・概要	本講義では障害者・高齢者が社会の中でより良く生きるには何が必要かという社会福祉の目的概念から始め，社会福祉の実態概念として各種関連法規の内容についても学んでいきます。これにより障害者や高齢者が健康的で文化的な生活をしていると実感できるには何が必要かを理解していきます。また障害者・高齢者の社会福祉を向上させるための医療の役割についても考えていきます。
学生の達成目標	1. 障害者・高齢者の福祉の歴的的変遷を知り,最近の動向について理解を深める。 2. 障害者・高齢者の地域社会での生活実態について理解を深める。 3. 社会福祉関連法規の内容を理解し,その問題点を指摘できる。 4. 障害者・高齢者が社会の中でよりよく生きるために何が必要かを福祉的な視点で述べることができる。 5. 障害者・高齢者の社会福祉を向上させるための医療の役割について述べることができる。
授業内容	第1回　「障害者・高齢者の福祉の歴史的変遷と最近の動向」-社会からの迫害,相互扶助,ノーマライゼーション,福祉サービスの確立-(目標

		1,4)
	第2回	「障害者・高齢者の地域社会での生活実態」-身体・個人・社会の3つの視点による障害の概念,当事者の意見-(目標1,2,4)
	第3回	「障害者・高齢者のための社会保障」-社会保険,公的扶助,社会福祉,公衆衛生および医療-(目標1,2,3,5)
	第4回	「社会保険サービス」-医療保険,年金保険,雇用保険,介護保険-(目標1,2,3,5)
	第5回	「障害者福祉の関連法規」-児童福祉法,身体障害者福祉法,知的障害者福祉法,精神保健福祉法-(目標1,2,3,5)
	第6回	「高齢者保健・医療・福祉の関連法規」-老人保健法,老人福祉法,後期高齢者医療制度 (目標1,2,3,5)
	第7回	「障害者自立支援制度の内容と問題点」-自立支援給付,地域生活支援事業,障害者の意見 (目標1,2,3,4)
	第8回	「まとめ」-障害者・高齢者の福祉の今後の課題について-(目標1,2,4,5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	障害者・高齢者の福祉について授業で取り上げる内容が理解できていること，障害者・高齢者福祉の向上について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業時に資料を配布します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害者・高齢者の心理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	障害者・高齢者の心理
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2024001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害・加齢の心理的影響，発達的視点，福祉的視点，臨床心理的視点，量的検討及び質的検討
授業のねらい・概要	本講義では医療学生の立場から，障害や加齢といった現象が人間の行動や心の働きに与える影響について，その基礎的知見を整理します。これにより障害者や高齢者が健康的で文化的な生活を送れているという実感が持てるための関わりや具体的な支援について，学生自らが考えられるようになることを目標とします。
学生の達成目標	1. 障害や加齢の心理的影響について理解できるようになる。 2. 発達的視点から障害者や高齢者の心理的問題について考えられるようになる。 3. 福祉的視点から障害者や高齢者の心理的問題について考えられるようになる。 4. 医療現場で必要となる臨床心理学的視点を理解する。 5. 医療学生として量的検討と質的検討の関係性について理解を深める。
授業内容	第1回　「障害者・高齢者の心理を理解するために」-障害・加齢の概念および障害者・高齢者の心をとりまく今日の状況-(目標1,2,3)

第2回	「視覚障害・聴覚障害者の心理」-視覚障害・聴覚障害の心理的影響とその特性(目標1,2,3,4)
第3回	「肢体不自由者・内部障害者の心理」-肢体不自由・内部障害の心理的影響とその特性(目標1,2,3,4)
第4回	「精神障害の心理」-心の健康障害と知的障害の関連性,支援の臨床心理学的視点ー(目標1,2,3,4)
第5回	「高齢者の感覚・知覚,知的能力」-その特性と精神面・幸福度への影響,知能の定義,流動性知能と結晶性知能-(目標1,2)
第6回	「高齢者の精神衛生と認知症」-その特性と精神障害との関連性,認知症高齢者の問題行動の原因,心理・社会的欲求-(目標1,2,3,4)
第7回	「障害者・高齢者に対する心理的援助」-精神分析法,回想法,リアリティーオリエンテーション,行動療法,バリデーション-(目標1,2,3,4)
第8回	「まとめ」-障害者・高齢者の心理の今後の課題について-(目標2,3,4,5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	障害者・高齢者の心理について授業で取り上げる基礎的知見が理解できていること，障害者・高齢者援助の視点について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 高齢者・障害者の心理　佐藤泰正・徳田克己（編）　学芸図書　ISBN：9784761603687
推薦図書等	
参考URL	
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。

生命倫理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	生命倫理学
科目責任者	
担当教員	馬場　智理
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2025001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	いのちをめぐる倫理，善いことの基準とは？，医療と倫理
授業のねらい・概要	現代には人間の生命をめぐる多くの倫理的問題が生じている。本授業では，問題の原因を考えるとともに，いのちについての様々な考え方を理解することを目標とする。
学生の達成目標	1.　善いことを判断するためのさまざまな基準について学ぶ。 2.　現代社会における生命倫理の問題に対する理解を深める。 3.　医療現場で倫理的問題に直面した場合の対応方法を身につける。
授業内容	第1回　ガイダンス -生命倫理学とはどのような学問か(目標1) 第2回　生をめぐる生命倫理-出生前診断(目標2) 第3回　生をめぐる生命倫理-生殖補助医療(目標2) 第4回　生をめぐる生命倫理-生命操作(目標2) 第5回　医療をめぐる生命倫理-医療従事者と患者の関係(目標3)

	第6回	死をめぐる生命倫理-脳死(目標2)
	第7回	死をめぐる生命倫理-尊厳死,安楽死(目標2)
	第8回	まとめ-現代の医療現場における倫理的問題への対応(目標3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業への参加状況と期末試験の成績を総合的に評価する。なお，期末試験はレポートに代える場合がある。（なお，私語等の素行不良が見られた場合は，評価しないので注意のこと。）
	評価の方法	授業への参加度 60%，期末試験 40%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 教科書は特に使用しない。必要な資料は授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	倫理学の問題をより身近なものとして考えてもらうために，授業中の発言や小問題の記述などを課すことがあるので，主体的に授業に参加することを期待する。	

作業療法学概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	作業療法学概論
科目責任者	黒澤　也生子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2026001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	作業療法の歴史，作業，作業療法プロセス，集団，作業療法モデル論
授業のねらい・概要	理学療法士の視点で，作業療法のアウトラインを理解できることを目標に指導する。具体的には，作業療法の歴史，作業についての特徴，作業療法の実践の枠組み（プロセス），集団の特性，作業療法の理論を理解することを授業の目的とする。この目的達成のために，具体的症例などを通して作業療法の具体的イメージを喚起してもらうことから始めたい。
学生の達成目標	1. 作業療法の歴史が理解できる。 2. 具体的症例を通して,作業療法の役割が理解できる。 3. 作業療法のプロセス(評価 →解釈 →介入 →再評価)が理解できる。 4. 理学療法の立場から,作業療法の必要性が説明できる。
授業内容	第1回　作業療法の歴史(講義) (目標1) 作業療法のルーツおよび世界の作業療法の流れについて,講義する。 第2回　作業療法の歴史(講義) (目標1) 日本の作業療法の歴史について,講義する。

第3回	日本の作業療法(講義) (目標1) 日本の作業療法の現状について,講義する。
第4回	日本の作業療法(講義) (目標1) 作業療法が取り扱う分野について,講義する。
第5回	作業療法の事例(演習) (目標2) テキストの高次脳機能障害(ゲルストマン症候群)を基に,作業療法評価と作業療法の特徴について,各グループで調べて発表する。
第6回	作業療法の事例(演習) (目標2) テキストの高次脳機能障害(記憶障害)と左片麻痺を基に,作業療法評価と作業療法の特徴について,各グループで調べて発表する。
第7回	作業療法の事例(演習) (目標2) テキストの頚髄損傷と慢性関節リウマチを基に,作業療法実施の時期と特徴について,各グループで調べて発表する。
第8回	作業療法の事例(演習) (目標2) テキストの精神障害の3例を基に,作業療法の役割について,各グループで調べて発表する。
第9回	作業療法の事例(演習) (目標2) テキストの発達障害児と認知症の例を基に,集団の役割と生活の質(QOL)について,各グループで調べて発表する。
第10回	作業療法の事例(演習) (目標2) テキストの重度脳損傷例と悪性腫瘍例を基に,感覚刺激の重要性と終末期の対応について,各グループで調べて発表する。
第11回	作業の意義・セラピストの役割・集団(講義) (目標2) 作業とは何か,作業療法における治療者の役割,集団の利用について,講義する。
第12回	作業療法実践の枠組み(演習) (目標3) 作業と人間,作業療法の対象者,作業療法実践の場所,作業療法実践のプロセス,介入と評価の技術,作業療法カリキュラム,クリニカル・リーズニング,について,テキストを基に各グループで調べて発表する。
第13回	作業療法モデル論(講義) (目標4) アメリカ作業療法協会の作業療法実践のフレームワークと作業科学について,講義する。
第14回	作業療法モデル論(演習) (目標4) 人間作業モデルとカナダ作業療法モデルについて,テキストを基に各グループで調べて発表する。
第15回	作業療法が進化するために(まとめにかえて) (目標4) 作業療法の効果の検証,作業療法研究,作業療法の科学性について,講義する。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	作業療法の歴史，役割，プロセス，を理解し，その概略を理学療法の立場から説明できることを合格基準とする。

評価の方法	レポート（ 10%），演習態度（ 10%），小テスト（ 20%），期末テスト（ 60%），で評価する。ただし，この基準は授業の進行状況も考慮し，最終的には若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 鎌倉矩子：作業療法の世界～作業療法を知りたい・考えたい人のために　第２版　三輪書店　2004 ISBN： 978 -4-89590-205-2
推薦図書等	
参考URL	
備考	作業療法を理解する上で，高次脳機能障害について興味をもっていただければ，一段と理解しやすくなると思う。このためには，高次脳機能障害の一般啓発書を事前に読んでおくことが望ましい。 　テキストを理解するために視覚的教材としてのパワーポイントを用いながら講義する方式と，考え方をトレーニングするためにグループで演習する方式の２つを用いて授業を構成する。いずれの方式でも，自ら理解しようという姿勢が必ず要求される。演習でも体を動かすようなことはしないので，服装には条件はない。

言語聴覚学概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	言語聴覚学概論
科目責任者	
担当教員	宮本　恵淑
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2027001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	言語発達障害，聴覚障害，中途言語障害，摂食と嚥下障害
授業のねらい・概要	子供の言葉の障害，聴覚障害。大人の聴覚障害，失語症，高次脳機能障害，摂食，嚥下障害の原因と治療に関わる関連職種との連携について学習する。
学生の達成目標	1. コミュニケーションとは何?話す,聞く,読む,書くことが出来るとは。 2. 脳神経と言語障害との関係や症状について学ぶ。 3. 先天性聴覚障害と中途聴覚障害について学ぶ。 4. 摂食や嚥下に関する基礎知識について学ぶ。 5. 高次脳機能障害(失語症,失行,失認,半側空間無視)について学ぶ。
授業内容	第1回　講義,レポート等のガイダンス,言語聴覚障害についての基礎知識を学ぶ。(目標1) 第2回　言語聴覚障害の特徴,種類,原因,評価,診断,アプローチについて学ぶ。(目標1)

	第3回	聴覚に関する各器官と機能について学ぶ。(目標3)
	第4回	聴覚障害の原因,症状と評価,診断,治療(補聴器,人工内耳)(目標3)
	第5回	構音障害-機能性構音障害,運動性構音障害について(目標3)
	第6回	構音障害-音声障害,器質性構音障害のそれぞれの原因と診断と訓練について(目標3)
	第7回	言語発達障害-脳性麻痺の特徴,原因,評価,診断,アプローチについて(目標3)
	第8回	言語発達障害-知的障害,広汎性発達障害, ADHD,口蓋列について(目標1,3)
	第9回	失語症-失語症の原因と症状について(ビデオ使用)(目標1,2)
	第10回	失語症の評価とリハビリテーションについて。学生が失語症を体験する(目標1)
	第11回	高次脳機能障害-失認,失行,記憶障害,感情障害について(目標2,5)
	第12回	高次脳機能障害-半側空間無視,注意障害について(目標2,5)
	第13回	摂食,嚥下障害-原因,評価,アプローチ他(目標4)
	第14回	認知症と言語障害(目標2)
	第15回	総まとめ(この授業でのポイントを再度学習する)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的なことばや内容が理解できていること。
	評価の方法	教科書やプリントを見ながら復習．小テスト 30%，試験 60%，授業への参加度 10%です。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 言語聴覚士テキスト；絵でわかる　言語障害－言葉のメカニズムから対応まで：学研	
推薦図書等		
参考URL		
備考	現場で得た経験や知識をもとに授業を進めるので，わかりやすいと思います。 ノートをしっかりとること。	

救命救急医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	救命救急医学
科目責任者	
担当教員	武島　玲子 大賀　優
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2028001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	心肺蘇生法， AED，救急処置，集中治療，急性期リハビリテーション
授業のねらい・概要	救急医療を理解し，一次救命処置（ AED含む）ができる。救急医療におけるリハビリテーション医学の役割を理解する。
学生の達成目標	1. 救急医療が理解できる。 2. 一次救命処置ができ, AEDを使用できる。 3. ショックとは何か理解でき,救急処置が理解できる。 4. 救急医療と重症救急疾患の特性をリハビリテーション医学的観点から捉え,理解できる。 5. 救急医療の対象としての中枢神経疾患を把握し,急性期リハビリテーションの重要性が理解できる。
授業内容	第1回　救急医療の概論(到達目標1) 第2回　心肺蘇生法と AED(到達目標2)

	第3回	重症救急疾患と患者管理(集中治療,救急処置,ショックなど)(到達目標1,3)
	第4回	リハビリテーション医学から観た救急医療と重症救急疾患:概論1(到達目標4)
	第5回	リハビリテーション医学から観た救急医療と重症救急疾患:概論2(到達目標4)
	第6回	救急医療の対象としての中枢神経疾患の種類と病態(到達目標5)
	第7回	中枢神経疾患を主とした重症救急疾患における急性期リハビリテーションの実際(到達目標5)
	第8回	総括(到達目標1～5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	救命・救急医学に関して，授業でとりあげた基礎的な内容が理解できていること
	評価の方法	試験 60%，レポート 20%，授業への参加度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	医療従事者として，緊急事態を理解し，心肺蘇生法を自分一人でできるようになってほしい（武島，分担：授業計画１～３，８）。 急性期リハビリテーションの重要性を理解する一助になってほしい（大賀，分担：授業計画４～７）。	

栄養学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	栄養学
科目責任者	
担当教員	梅村　詩子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2029001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人体，食物，栄養素，疾病の予防，栄養管理
授業のねらい・概要	食物を取り込む側の「人体」や「食品」「栄養素」の知識はもとより，保健，医療，福祉の総合的な取り組みの中で，さまざまなライフステージにある人の「健康の保持・増進」と疾病予防のための「栄養のあり方」について学習する。
学生の達成目標	1. 消化吸収を中心に,人体の仕組みや代謝を理解する。 2. 食品の分類,食品に含まれる栄養素について理解する。 3. 栄養素の種類,性質,代謝,栄養学的意義などを理解する。 4. 各ライフステージの生理・代謝,栄養を知り,健康の保持増進,疾病予防に必要な栄養上の知識を得る。 5. 国民の健康・栄養の現状を知り,生活習慣病や他の疾病との関連を知る。
授業内容	第2回　ガイダンス,食べ物と栄養素,人体の仕組み(人体の構成成分,消化吸収)(目標1) 第3回　食品と栄養(目標2)

	第4回	栄養素の役割と多く含む食品(目標3)
	第5回	適切な栄養補給と栄養評価(アセスメント)(目標4)
	第6回	乳幼児期の栄養管理(目標4)
	第7回	学童期・思春期の栄養管理(目標4)
	第8回	成人期・高齢期の栄養管理(目標4) (メタボリックシンドローム,生活習慣病を含む)
	第9回	国民の健康と栄養(目標5),まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	礎的な栄養・食事・食品の知識や各ライフステージの特徴が理解できていること
	評価の方法	筆記試験と授業への参加度から総合評価
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 保健・医療・福祉のための栄養学，渡邊早苗，寺本房子，丸山千寿子，藤尾ミツ子編，医師薬出版 KK ISBN： 978 -4-263-70459-2　C3047	
推薦図書等		
参考URL		
備考	担当教員から：将来の PTの仕事に役立つ様に，栄養の基本を学んでください。連絡：つくば国際大学　u-umemura@tius-hs.jp	

公衆衛生学・衛生学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	公衆衛生学・衛生学
科目責任者	
担当教員	小池　和子 角　友起
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2030001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	公衆衛生，集団の医学，予防医学，環境，人口統計，保健行政，疾病予防
授業のねらい・概要	公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
学生の達成目標	1. 公衆衛生の概念,社会的意義について学び,公衆衛生活動の展開について概略を説明する。 2. 人口・保健統計を学び,疫学的疾病解明の方法論を身につける。1次予防,2次予防,3次予防の概念を説明する。 3. 人間を取り巻く環境の健康影響・環境保全・公害対策等について説明する。 4. 疾病予防と健康管理について,感染症を含む主たる疾病の予防について説明する。

5. 食品保健,国民栄養・健康増進について説明する。

6. 地域保健,精神保健,保健行政,医療監視,法規等について説明する。

7. ライフサイクルと健康管理,母子保健,学校保健,成人・老人保健,産業保健,国際保健について説明する

8. 社会病理,異状死等から社会の真の健康に対して理解を深め説明する。

授業内容

第1回	公衆衛生学の概念【歴史,疾病の進展と予防の段階】(目標1)
第2回	公衆衛生活動の特徴【プライマリヘルスケア,ヘルスプロモーションの展開】(目標1,2)
第3回	人口統計【人口動態,死亡統計,統計指標】(目標2)
第4回	疫学の考え方と事例【疾病解明の方法論】(目標2)
第5回	物理・化学的環境【大気,上水・下水,水質汚濁と健康】 環境保全と公害【環境保全】 (目標3)
第6回	生物学的環境と健康【微生物,有害動物】 生活環境衛生【住居,衣服,廃棄物等】 (目標3)
第7回	社会的環境と健康【労働環境,労働災害】 産業保健【産業保健,職業病】(目標3,7)
第8回	感染症とその対策【感染症の成立,感染症予防法,結核・感染症情報事業】(目標4,5)
第9回	食品保健【食品衛生法,食中毒,食品,添加物】 国民栄養【食事摂取基準,国民栄養調査】 (目標4,5)
第10回	ライフサイクルと健康【母子保健,学校保健,健康教育,健康増進】(目標7)
第11回	ライフサイクルと健康【成人保健,老人保健,生活習慣病の予防】(目標7)
第12回	精神保健,法と医【精神保健,精神障害,精神保健対策,社会病理と対策,異状死等】 (目標6,8)
第13回	保健行政【保健行政】 保健行政関連法規【関連法規】(目標6)
第14回	国際保健,緊急時の救援医療【災害医療,救援医療】(目標7)
第15回	総括(目標1～8)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	公衆衛生学・衛生学の概念，問題解決に繋がる方法論の基礎が理解できているか，さらに地域における疾病予防，保健活動，予防医学，健康増進，健康な社会に対する考えが明確にできるかを評価の基準とする。
評価の方法	筆記試験（ 70%），平常点（ 10%），レポート等（ 20%）による。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 南江堂　鈴木庄亮ら　シンプル衛生公衆衛生学 2012 ISBN： 9784524253586
推薦図書等	
参考URL	
備考	医療職にとってリハビリテーションの専門性を身につける上で大切な公衆衛生学について，広く予防医学の基礎を理解し，医療職のあり方について学び，理解を深めます。広い学問分野ですから，予習復習に心がけてください。オフィスアワーについては連絡してください。

病原微生物学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	病原微生物学
科目責任者	小池　和子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2031001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	病原微生物，細菌，真菌，ウイルス，感染，発症，滅菌と消毒 ,感染防御，免疫，日和見感染
授業のねらい・概要	病原微生物の総論と各論を学習し，感染，疾病の発症と生態影響，化学療法，感染予防対策等について，医療職として必要な基本的知識を身につける。また，免疫の概念，生体防御機構における免疫反応の多様性及び主要免疫やがん治療についても理解し説明する。
学生の達成目標	1. 主たる病原微生物の概念,感染・発症,さらに生体と病原微生物の相互関係を理解する。 病原微生物の総論と各論を学習し,感染,発症,治療について理解する。 2. 新興感染症や再興感染症,院内感染や日和見感染等の概念を理解し,感染に対する医療職の役割および予防対策の理論と実際を学ぶ。 3. 生体防御機構としての免疫の概念,役割とその機構を解説する。 4. 体液性免疫,細胞性免疫 ,免疫反応による感染防御や移植免疫,腫瘍免疫とがん治療について理解する。 5. 感染症にかかわるわが国の法律,行政を理解し,説明,応用できる。

授業内容	第1回	病原微生物の定義,歴史,種類と分類【細菌,ウイルス,真菌,原虫】 形態と構造【原核生物,真核生物,球菌,桿菌,芽胞,ベン毛,核 ,プラスミド】 微生物の【グラム染色,同定,命名】(目標1,2)
	第2回	微生物の増殖 微生物の生理学【培養, pH,酸素,増殖曲線】 微生物の培養と保存【好気,嫌気,微好気,二酸化炭素,発酵,培地,凍結乾燥】(目標1)
	第3回	微生物の代謝 微生物の生化学【糖・脂質代謝,代謝回路】 微生物の遺伝【病原性ゲノム】 (目標1)
	第4回	感染防御機構と宿主【宿主生体反応】(目標1,3)
	第5回	微生物の滅菌と殺菌,消毒,病原細菌【グラム陽性球・桿菌,グラム陰性球・桿菌,腸内細菌,スピロヘータ】(目標1,2)
	第6回	病原細菌【嫌気性菌,抗酸菌,芽胞菌,マイコプラズマ,クラミジア,リケッチア】(目標1)
	第7回	病原真菌【表在性真菌,深在性真菌】(小纏め)(目標1,2)
	第8回	病原ウイルス,その他の病原微生物【 RNAウイルス, DNAウイルス,原虫,寄生虫,その他プリオン等】(目標1,2)
	第9回	病原微生物と化学療法【薬剤耐性菌】(目標1,2,3)
	第10回	感染症予防対策【感染症法,結核予防法】 予防法【予防接種,ワクチン】(目標4,5)
	第11回	免疫学の概要【自然免疫(急性期蛋白,補体,インターフェロン,食細胞, Toll様受容体),自己免疫疾患,獲得免疫,免疫寛容】(目標1,3,4)
	第12回	B細胞の分化と抗体の多様性【 B細胞受容体, IgD,IgM,IgG,IgA,IgE,TH2サイトカイン】 T細胞の認識と MHCの多様性【 MHC,T細胞受容体,抗原提示細胞, NK細胞,ヘルパー T,キラー T】(目標1,3,4)
	第13回	自己免疫疾患と免疫寛容【 Ⅰ型アレルギー, Ⅱ型アレルギー, Ⅲ型アレルギー, Ⅳ型アレルギー,トレランス,先天性免疫不全,後天性免疫不全】(目標3,4)
	第14回	日和見感染と予防【院内感染,易感染症宿主】(目標2,5)
	第15回	まとめ,総括(目標1～5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	病原微生物の概念と種類，感染と発症，生体との相互関係の基礎を理解しているか，医療職としての感染防御に対する問題解決方法を説明・実践することができるかを評価の基準とする。
	評価の方法	筆記試験（ 70%），レポート（ 20%），平常点（ 10%）等による。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 南山堂　南嶋洋一，吉田真一著　系統看護学講座　微生物学 ISBN：9784260352611
推薦図書等	
参考URL	
備考	原則として生物学を履修していること。新型インフルエンザをはじめノロウイルスや日和見感染に悩まされる今日，医療職として感染症を正しく知り，何をなすべきかを理解しましょう。 DVDなどを使って理解を助けます。オフィスアワーでなくとも声をかけてください。

生化学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	生化学
科目責任者	
担当教員	芦野　洋美
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2032001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生体成分，生合成，代謝，遺伝子，生命の維持
授業のねらい・概要	はじめに細胞の基本構造や成分を学び，その合成と代謝，遺伝子の複製等，生命体の基礎を物質的な面から理解する。次に恒常性を保つ秩序ある反応や役割，疾患の生化学的解析を学び，動的かつ緻密に統御された生命の維持を理解する。更に生化学的解析は，病態解明や薬剤開発の礎であり要であって，現代医療に不可欠であることを認識する。
学生の達成目標	1. 「身体の構成成分や細胞の構造がどのような化学的組成・分子的レベルから成り立っているか」を把握する。 2. 「生命の維持と調節がどれほど精緻で膨大な反応によるものか」を学び,生命が複雑な制御機構の統合体であることを理解する。 3. 「種々の疾患がどのような物質や反応に関与しているか」を学び,生化学的な解析が様々な疾患の治療の原点であること,生化学の知識が臨床医学のあらゆる場面で活かされていることを理解する。
授業内容	第1回　生体の構成要素・細胞の基本構造と機能 (目標1)

第2回	生体成分の構造と機能1-糖・脂質 (目標1)
第3回	生体成分の構造と機能2-アミノ酸・タンパク質・核酸 (目標1)
第4回	生体成分の構造と機能3-ビタミン および 代謝1-酵素と代謝 (目標1,2)
第5回	代謝2-糖質の代謝 (目標2)
第6回	代謝3-脂質・アミノ酸・タンパク質の代謝 (目標2)
第7回	代謝4-代謝総括 および 酸・塩基平衡 (目標2)
第8回	核酸とタンパク質の生合成 (目標2)
第9回	遺伝の生化学 (目標2,3)
第10回	ホルモンとホメオスタシス1 (目標2,3)
第11回	ホルモンとホメオスタシス2 および 臓器の生化学1-循環器系・呼吸器系・消化器系 (目標2,3)
第12回	臓器の生化学2-泌尿器系・神経系・血液 (目標2,3)
第13回	がんの生化学 (目標2,3)
第14回	免疫の生化学 (目標2,3)
第15回	骨の生化学 (目標2,3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	生体成分，代謝，生合成，遺伝子，生命維持・調節の基本を理解できたか，更に生化学の臨床医学における役割が十分に理解できたか，を評価する。
	評価の方法	期末試験とレポートおよび平常点によって評価する。比率は概ね，筆記試験 40%，レポート 30%，平常点 30%で，これらの成績を総合する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 大久保岩男／賀佐伸省著「コンパクト生化学」改訂第２版，南江堂， ２ ,100円（税込） ISBN： 978 -4-524-24061-6
推薦図書等	
参考URL	
備考	生化学の学問領域は広く，日々発展し続けながら医療に貢献している。本講義では，それらをかみ砕いて理解し易く説明し，生化学の基本的重要点を半期 15回で一通り身につけられるように，スライドなどを駆使しながら，また復習もできるように進めて行く。生体における様々な反応の動的な連続性と維持，調節の緻密さ，生命と種の存続の本質を理解し，医療職において，身体の仕組みの生化学的認識が重要であることを，実感して欲しい。

看護学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	看護学
科目責任者	今井　訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2033001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ヘルスケア，コメディカル，専門職，連携
授業のねらい・概要	保健・医療・福祉の分野における看護の役割と今後の方向性について学ぶ。　利用者・家族を中心とした保健・医療・福祉職の連携を学ぶ。
学生の達成目標	1. 利用者を中心とした保健・医療・福祉の関わりを理解する。 2. 看護職と利用者の関わりから,コメディカルスタッフの役割を考える。 3. 専門職としての連携のあり方を理解する。
授業内容	第1回　看護の目的,方法,対象について(目標1) 第2回　保健・医療・福祉における看護の役割,看護と関係のある法律(目標1) 第3回　ヘルスケアの主体としての人間と看護の関わり(目標2) 第4回　健康の定義と看護職の役割(目標1) 第5回　小児・母性・成人・老人・の各看護(目標1)

	第6回	精神科看護・在宅看護・地域看護の特徴およびそれらを利用する人々を支える職種(目標2・目標3)
	第7回	他職種との連携,看護の果たす役割(目標3)
	第8回	まとめ(目標1・目標2・目標3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	利用者を中心としてコメディカルスタッフが，どの様に連携をとっているのかを理解することが重要である。理学療法士としてどう看護職と連携をとるか，また健康の各期における看護職の役割を述べられることを基準とする。
	評価の方法	授業への参加度 10%，レポート 30%，試験 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 資料を配布します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

安全管理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	安全管理論
科目責任者	
担当教員	武島　玲子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2034001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療安全，ヒヤリ・ハット報告，安全管理
授業のねらい・概要	医療安全を理解し，医療事故に対するリスクマネジメントを学ぶ。事例の分析を通して，医療事故予防対策のあり方を考えることができるようになる。
学生の達成目標	1.　医療安全を理解できる。 2.　医療事故に対するリスクマネジメントができる。 3.　ヒヤリ・ハット報告ができる。 4.　ヒヤリ・ハット報告の事例を分析できる。 5.　医療事故予防対策を考えることができる。
授業内容	第1回　医療安全の概論-医療環境と医療事故(到達目標1) 第2回　安全管理の必要性・重要性の理解(組織のマネジメント)(到達目標1,2) 第3回　事故発生のメカニズムと防止対策(到達目標1,2)

	第4回	事故分析(分析手法)(到達目標1,2,3)
	第5回	ヒヤリ・ハット,医療事故の事例分析方法1(到達目標4)
	第6回	ヒヤリ・ハット,医療事故の事例分析方法2(到達目標4)
	第7回	医療環境と事故予防,医療事故防止のための安全管理のあり方(到達目標1,2,5)
	第8回	総括(到達目標1～5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	医療安全に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	試験 50%，レポート 20%，授業への参加度 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	医療安全を理解し，実践できる医療従事者になってほしい。	

放射線医科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	放射線医科学
科目責任者	角　友起
担当教員	阿部　慎司 森　浩一 石森　佳幸 對間　博之 藤﨑　達也 五反田　留見
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2076001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	放射線の性質，画像診断技術，核医学検査技術，放射線治療技術，放射線安全管理
授業のねらい・概要	放射線医学の歴史と現状を概観し，放射線基礎医学，放射線医学の概要を論述し，医療専門職として必要な放射線医科学の基礎的知識を理解させる。
学生の達成目標	1.　医学に利用される放射線の基本的な特性について理解する。 2.　放射線医学の変遷の概要について理解する。 3.　X線撮影技術と画像診断について理解する。 4.　X線 CT検査と画像診断について理解する。 5.　磁気共鳴映像法の原理について理解する。 6.　種磁気共鳴映像法とその臨床的意義について理解する。

7. 核医学検査の原理,各種検査法とその臨床的意義について理解する。

8. 放射線治療の原理,様々な治療法の特徴について理解する。

9. 超音波検査の原理,各種検査法の特徴につい理解する。
1

10. 放射線防護,放射線管理の概要につい理解する。

授業内容

第1回 放射線に関する基本的性質と放射線医学の変遷(目標1,2):阿部

第2回 磁気共鳴映像法の原理(目標5):石森

第3回 各種磁気共鳴映像法とその臨床的意義(目標6):石森

第4回 X線撮影技術と画像診断(X線装置,X線単純・造影撮影,造影剤,X線CT撮影)(目標3):森

第5回 X線 CT検査と画像診断(X線 CT装置,X線 CT検査(頭部・脳,胸部,腹部等)(目標4):森

第6回 核医学検査の原理,各種検査法とその臨床的意義(目標7):對間

第7回 放射線治療の概要と様々な治療法(目標8):藤崎

第8回 超音波検査法の概要と放射線安全管理(目標9, 10):五反田

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 達成目標への達成度（本試験による）

評価の方法 試験（ 100%）による

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

プリント資料を配布する

推薦図書等

参考URL

備考

理学療法学概論 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法学概論 Ⅰ
科目責任者	
担当教員	永原　久栄 阿部　勉
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2035101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法，理学療法技法，姿勢，運動，身体能力，杖，松葉杖，車いす
授業のねらい・概要	理学療法士の専門的知識・技法の習得の必要性について学び，専門知識を学ぶ基本的態度・姿勢を習得する。理学療法技法のうち最も基本的な技法について，学生同士で実演できることを目指す。理学療法概論 Ⅰでは，自分の体を使って理学療法技法の最も基本となる，姿勢・運動・移動補助具について体験する。
学生の達成目標	1. 理学療法の知識・技法の基礎を学ぶ 2. 運動と姿勢についての基礎知識を学ぶ 3. 運動と姿勢について,学生同士で実演して確認する 4. 歩行補助具(杖・松葉杖)の基礎知識を学ぶ 5. 歩行補助具(杖・松葉杖)の使い方を実演できる 6. 車椅子の基礎知識を学ぶ 7. 車椅子の基礎知識を実演できる

8. 車椅子の乗り移りについて基礎的知識を実演する

9. 車椅子の駆動・キャスターあげについて実演する

授業内容

第1回	理学療法とは: ①理学療法士に必要な知識・技術, ②理学療法技術とは, ③最も基本的な理学療法技術(目標1)
第2回	姿勢と動作の基礎知識1: ①姿勢とは ②動作とは ③身体運動(目標1,2)
第3回	姿勢と動作の基礎知識2:基本姿勢(臥位,座位,膝立ち,立位)(目標1,2)
第4回	姿勢と動作の発達:姿勢反射の出現と消退 基本的姿勢(ねがえりから立位まで)(目標1,2)
第5回	基本的姿勢(ねがえりから立位まで)(目標3)
第6回	移動補助具・松葉杖の基礎知識(目標4)
第7回	移動補助具・松葉杖の使い方の実演(目標5)
第8回	移動補助具・ T字杖の基礎知識(目標4)
第9回	移動補助具・ T字杖の使い方の実演(目標5)
第10回	車椅子の基礎知識・使い方(目標6)
第11回	車椅子(キャスターあげ)(目標7)
第12回	車椅子(キャスターあげ2)(目標7)
第13回	杖の使い方のまとめ(目標1～5)
第14回	車椅子の使い方のまとめ(目標1～3,6～9)
第15回	理学療法技術のまとめ(目標1～9)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
評価の方法	参加の積極性の程度（ 10%），小試験２回（ 20%），レポート２回（ 20%），期末試験（ 50%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

斉藤宏他「姿勢と動作－ADLその基礎から応用」メジカルフレンド社　３,600円
ISBN： 9784839213503
松澤正「移動補助具」金原出版　５,200円　： ISBN： 4 -307-75000-4

推薦図書等

参考URL

備考	運動しやすい服装で出席のこと

理学療法学概論 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法学概論 Ⅱ
科目責任者	宮坂　智哉
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2037101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法士の業務，知識，技術，研究，倫理，姿勢，患者中心医療
授業のねらい・概要	理学療法専門科目全般の概要と関連を理解させ，理学療法士にふさわしい心構えと能力を体得させる。
学生の達成目標	1. 理学療法士の活動領域,業務内容や患者等とのコミュニケーション・臨床現場における心構えを習得する。 2. 理学療法における病院見学や臨床実習に際して必要な基礎的知識全般を理解・習得する。 3. 理学療法士の業務・医療事故・リスク管理の基本及び医療倫理を学習する。 4. 理学療法の評価や治療方法の概要を学習する事により,理学療法専門科目の相互関連を理解できる。 5. 本科目を深く理解する事により,理学療法士の知識・技能・精神力・科学的思考・倫理規範を習得できる。
授業内容	第1回　理学療法のオリエンテーション(目標1) 第2回　リハビリテーションと理学療法(目標1,2)

第3回	理学療法士と作業療法士法(目標1,2)
第4回	理学療法の歴史(目標1,2)
第5回	理学療法の対象(目標1,2)
第6回	理学療法士の職業倫理(目標4)
第7回	理学療法評価(目標4)
第8回	理学療法の治療(目標4)
第9回	理学療法士の活動領域(目標1)
第10回	理学療法士の教育(目標1)
第11回	理学療法士の学術活動(目標5)
第12回	理学療法士の職能と倫理(目標3)
第13回	最近の医療領域の変化(目標3)
第14回	理学療法士の職能・患者中心医療について(目標5)
第15回	講義のまとめ(目標1～5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	講義内容の理解，理学療法の要点の習得をそれぞれ 60%以上を合格基準とする。
	評価の方法	授業態度，レポート，試験を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 理学療法科学学会監修，理学療法概論（第６版），アイペック， ３,500円（税込） ISBN： 978 -4-86415-003-3-C3047 P3500E	
推薦図書等		
参考URL		
備考	グループに分かれて調査発表をします。	

高齢者理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	高齢者理学療法学
科目責任者	郭　丹
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2036001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	高齢者，理学療法，急性期，回復期，維持期
授業のねらい・概要	高齢者の特性や障害に対する理学療法の展開方法等の知識を習得し，安全に理学療法を遂行する為の留意点と治療成績向上に寄与するための知識・技術を習得することを目標とする。
学生の達成目標	1. 高齢者の精神・身体機能の特性を理解する。 2. 高齢者脳率中の理学療法の要点を習得する。 3. 高齢者の内部障害等の理学療法の要点を習得する。 4. 急性期,回復期,維持期の理学療法の要点を習得する。 5. 在宅理学療法の実施方法を理解・習得する。
授業内容	第1回　高齢者の精神機能の特性 高齢者の身体機能の特性(目標1) 第2回　高齢者脳卒中患者の理学療法における基本知識 高齢者脳卒中患者の理学療法実施上の留意点(目標2)

第3回	高齢骨関節疾患患者の理学療法における基本知識 高齢骨関節疾患患者の理学療法実施上の留意点(目標2)
第4回	高齢内部障害患者の理学療法における基本知識 高齢呼吸・循環器疾患患者における理学療法の基本知識(目標3)
第5回	急性期における理学療法:短い入院期間で何をポイントに行うのか 回復期における理学療法:入院から退院までのシステム(目標4)
第6回	回復期における理学療法:具体的な展開方法 維持期における理学療法:具体的な展開方法(目標4)
第7回	在宅理学療法:具体的な実践方法(目標5)
第8回	今後の展望:医療制度改革や介護保険制度の方向 高齢者理学療法のまとめ(目標1,2,3,4,5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	講義内容の理解，理学療法の要点の習得をそれぞれ 60%以上を合格基準とする。
	評価の方法	授業態度，レポート，試験を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 黒川幸雄・高橋正明編集，高齢者の理学療法，三輪書店， 3 ,465円 ISBN： 978 -4-89590-167-3	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

運動療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	運動療法学
科目責任者	松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2049101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動療法，力学，筋の働き，治療方法
授業のねらい・概要	理学療法の中核をなす運動療法を十分に理解するために筋，骨格構造から運動学などの基礎を理解する。各種障害に対する運動療法の理論と実践に関して学び，運動療法の基礎～応用までの知識を身につける。
学生の達成目標	1. 運動療法の目的を理解し,運動療法を行う上でのリスク管理ができる。 2. 運動療法の原理原則を理解する。 3. 各種障害に対する運動療法の目的を理解する。 4. 各種治療方法の目的を理解する。 5. 各種障害に対する適切な運動療法の選択に関して説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション,運動療法の歴史,運動学の基礎知識(目標1,2,3) 第2回　運動に関連する骨,関節,筋,神経の構造と機能について理解する(目標3) 第3回　運動と呼吸,循環,代謝機能について理解する(目標3)

第4回	運動と学習について理解する(目標3)
第5回	発達と運動機能,老化と運動機能について理解する(目標3)
第6回	関節可動域制限に対する運動療法について理解する(目標1-5)
第7回	筋力低下に対する運動療法について理解する(目標1-5)
第8回	持久力低下に対する運動療法について理解する(目標1-5)
第9回	中枢神経性運動麻痺に対する運動療法について理解する(目標1-5)
第10回	末梢神経性麻痺に対する,感覚障害に対する運動療法について理解する(目標1-5)
第11回	バランス障害,協調運動障害に対する運動療法について理解する(目標1-5)
第12回	姿勢障害,歩行障害に対する運動療法について理解する(目標1-5)
第13回	整形疾患,痛みに対する運動療法について理解する(目標1-5)
第14回	呼吸,循環,代謝障害に対する運動療法について理解する(目標1-5)
第15回	加齢による機能障害に対する運動療法について理解する(目標1-5) 総括

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	上記学生の達成目標に到達し，運動療法の基本事項を理解していること。 （前提として規定の出席日数が必要）
	評価の方法	試験 90%，小テスト 10% 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 市橋則明　編集　運動療法学－障害別アプローチの理論と実際　文光堂　７,350円 ISBN： 4830643420
推薦図書等	
参考URL	
備考	運動療法は運動学，解剖学，生理学そして物理学を基本として成り立っている分野である。１年次の該当科目の復習を行い，講義に臨んで欲しい。

基礎理学療法学見学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	基礎理学療法学見学実習
科目責任者	荒金　房子
担当教員	永原　久栄 角　友起
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2039001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法士，実習生の資質，見学実習
授業のねらい・概要	学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に，病院・施設での見学実習を通じてリハビリテーションの位置づけや各医療スタッフの業務内容・連携，また理学療法士の具体的な業務を学習し，今後の授業に活用できるようにする。
学生の達成目標	1. 下記項目が理解できる。 各施設の役割と機能,リハビリテーションの位置づけ,チームワーク医療の意義,医療スタッフの業務内容・連携,理学療法・理学療法士の役割と位置づけ,諸施設や機器の使用目的等,患者・障害者の様子等 2. 理学療法士および実習生としての資質が身につく。 3. 理学療法士の現場を見学することで,各学生が将来像をイメージできる。 4. 見学実習,報告会,レポートを通じて,コミュニケーションスキルの向上できる。
授業内容	

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	見学実習で学習する態度やリハビリテーションの位置づけや各医療スタッフの業務内容・提携，また理学療法士の具体的な業務の理解度を基準とする。
	評価の方法	見学実習への参加（50%），事前および事後指導への参加（20%），課題レポート（20%）や見学実習報告会（10%）について，担当教員全員で判定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「基礎理学療法学見学実習の手引き」を配布します。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	１．見学実習は学外実習であるため，実習態度，服装，頭髪（茶髪，男子の長髪は厳禁），および装飾品（厳禁）等は，学生であっても，一医療人としての常識が必要とされる。 ２．上記項目について指導を行う必要がないよう各学生が心がけて頂きたい。 ３．事前電話連絡や礼状が必要であり，日頃から適切な言葉使いや文章作成能力の向上を心がけて頂きたい。 ４．見学実習中の学習効果を上げるためには，積極性的な態度が重要である。 ５．必要な知識を習得するため「エレメンタリーセミナー」の単位習得が望ましい。 ６．遅刻，欠席は病気療養や忌引きなど不測の事態に対処するためのものであり，原則は認めない。 ７．見学実習は見学予定施設のご厚意によって実施されることを自覚すること。	

エレメンタリーセミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	エレメンタリーセミナー
科目責任者	宮坂　智哉
担当教員	小池　和子 永原　久栄 田中　勇治 桑名　俊一 角　友起
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2040101
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	大学における学習，期待される人間像，専門職業人，医療専門職，理学療法士，保健・医療・福祉施設
授業のねらい・概要	保健医療学部学生が，医療専門職としての社会人を目指すために，医療系学部における学習のあり方を理解する。さらに，医療関連施設見学による Early Exposureを通して医療の基本的姿勢を学ぶとともに自分の将来像を明確にする。
学生の達成目標	1. 医療専門職を目指す保健医療学部学生として期待される人間像を深く理解する。 2. 大学における学習の方法を理解し,実行する。 3. 保健医療学部学生として,保健・医療・福祉関連施設を理解する。 4. 施設見学により,医療のあり方を概観する。 5. レポートの作成方法や,発表の基礎的方法論を学び実行する。

授業内容	第1回	オリエンテーシヨン(目標1,2)
	第2回	医療専門職,理学療法士,保健・医療・福祉関連施設について学ぶ(目標1,3)
	第3回	医療専門職に求められるコミュニケーション能力,倫理,礼節など(目標1,3)
	第4回	施設見学の目的・学習内容・態度などの学習(目標1,2,3,4)
	第5回	施設見学のガイダンス(Ⅰ)事前準備(目標1,2,3,4)
	第6回	レポートの書き方,プレゼンテーションの内容と方法(目標2,3,4,5)
		(第Ⅱ部)
	第7回	施設見学(1日目)(目標3,4)
	第8回	施設見学(1日目)(目標3,4)
	第9回	施設見学(1日目)(目標3,4)
	第10回	施設見学(1日目)(目標3,4)
	第11回	施設見学(2日目)(目標3,4)
	第12回	施設見学(2日目)(目標3,4)
	第13回	施設見学(2日目)(目標3,4)
	第14回	施設見学(2日目)(目標3,4)
	第15回	施設見学報告会・反省会・総括(目標1,2,3,4,5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	保健医療学部学生としての自覚度および学習への積極的態度,社会における医療関連施設の役割に対する理解度が目標に達成していること。
	評価の方法	授業への積極的参加度（ 30%），施設見学における姿勢（ 30%），レポートおよび報告会における医療関連施設の理解度（ 40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 配布資料：適宜資料配布	
推薦図書等		
参考URL		
備考	保健医療学部学生として本セミナーは初年度の重要なセミナーであり，本施設見学は最初の学外実習であるので，真剣に受講すること。	

理学療法学研究法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法学研究法
科目責任者	宮坂　智哉
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2041001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	研究の意義，研究倫理，研究計画
授業のねらい・概要	理学療法学，さらに自然科学，社会科学を含めた研究の基本的な考え方を学ぶ。 研究の企画および実践に必要な事項を学ぶ。
学生の達成目標	1. 研究の意義について理解する。 2. 研究の倫理,モラル,ルールについて理解する。 3. 研究の具体的方法を理解する。
授業内容	第1回　ガイダンス「研究をする」ということは? (目標1,2) 第2回　研究の倫理,モラル,ルールについて (目標2) 第3回　研究のデザイン (目標1～3) 第4回　研究の方法 量的研究,質的研究,シングルケース (目標3) 第5回　理学療法学研究を想定したテーマの探索 (目標1～3) 第6回　理学療法学研究を想定したテーマの検討 (目標1～3) 第7回　理学療法学研究を想定したテーマの発表 (目標1～3)

	第8回	まとめ (目標1～3)
予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	臨床および卒業研究に必要な研究の意義，手法が理解できることを合格基準とする。
	評価の方法	調査発表 40%，レポート 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

理学療法評価学 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法評価学 Ⅰ
科目責任者	宮坂　智哉
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2043001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価方法，各評価法の意義と目的
授業のねらい・概要	理学療法を効果的に行うためには，理学療法評価が必要不可欠である。したがって，本講義は，専門科目の中でも最重要科目の１つであると考えられる。本講義では，理学療法評価とは何かを基軸に各評価項目を学生が理解しやすいように講義を行うが，積極的な授業参加を心がけ，知識を習得してほしい。 また，知識の定着を図るために随時小テストを行うので，講義終了後には知識の整理をすること。
学生の達成目標	1. 理学療法評価の意義を理解することができる。 2. 各評価項目の意義や目的を理解することができる。 3. 各評価項目の評価結果を理解することでできる。 4. 各評価項目を実践できる知識を習得する。 5. さまざまな疾患に対して必要な評価項目が列挙できる。
授業内容	第1回　理学療法評価学総論(評価の意義,目的,評価の過程,評価の種類,評価器具)(目標1,2,3)

第2回	評価とは何か(評価の時期と目的,記録,プログラム立案) (目標1,2,3)
第3回	一般的評価事項(病歴の取り方,各種検査,測定,観察) (目標2,3,4,5)
第4回	視診,触診 (目標2,3,4,5)
第5回	身体計測(形態計測) (目標2,3,4,5)
第6回	関節可動域測定 Ⅰ(上肢) (目標2,3,4,5)
第7回	関節可動域測定 Ⅱ(下肢) (目標2,3,4,5)
第8回	筋力検査(筋力とは何か,筋力測定総論) (目標2,3,4,5)
第9回	徒手筋力検査法 Ⅰ(概念と総論および上肢と下肢) (目標2,3,4,5)
第10回	知覚検査 Ⅰ(感覚,知覚,認知とは) (目標2,3,4,5)
第11回	知覚検査 Ⅱ(知覚の種類,検査方法) (目標2,3,4,5)
第12回	反射検査(反射とは何か,反射の種類,検査方法) (目標2,3,4,5)
第13回	筋トーヌス検査(筋トーヌスの神経学的基礎,検査方法) (目標2,3,4,5)
第14回	片麻痺運動機能検査(ブルンストローム法および変法) (目標2,3,4,5)
第15回	総括 (目標1～5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	各評価項目を実践できるための，最低限の評価知識を習得する。
	評価の方法	定期試験（ 70%），小テスト（ 30%）などを総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 内山　靖（編），理学療法評価学　第２版，医学書院， ６,090円。 ISBN： 4260266764 松澤　正，理学療法評価学　第３版，金原出版， ６,510円。 ISBN： 430775025 X	
推薦図書等		
参考URL		
備考	日常からの予習復習を必要とします。	

理学療法評価学 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法評価学 Ⅱ
科目責任者	宮坂　智哉
担当教員	郭　丹 松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2044001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法検査，理学療法検査実技，理学療法評価の統合と解釈
授業のねらい・概要	理学療法評価学 Ⅰに続き，対象者の把握，治療方法の選択，治療効果の判定に必要な評価の方法，選択，得られた結果の統合と解釈について学ぶ。
学生の達成目標	1. 理学療法の各検査測定の意義と方法を理解することができる。 2. 対象者の治療や治療効果の判定に必要な評価方法を選択することができる。 3. 評価から得られた結果を統合し解釈することができる。
授業内容	第1回　ガイダンス・理学療法評価学 Ⅰの範囲の確認 (目標1,2) 第2回　痛みの評価と実技 (目標1,2) 第3回　知覚検査と実技 (目標1,2) 第4回　知覚検査と実技 (目標1,2)

	第5回　反射検査と実技 (目標1,2)
	第6回　運動発達検査 (目標1,2)
	第7回　運動発達検査 (目標1,2)
	第8回　姿勢反射検査と実技 (目標1,2)
	第9回　筋トーヌス検査と実技 (目標1,2)
	第10回　脳神経検査と実技 (目標1,2)
	第11回　脳神経検査と実技 (目標1,2)
	第12回　高次脳機能検査と実技 (目標1,2)
	第13回　高次脳機能検査と実技 (目標1,2)
	第14回　協調運動機能検査と実技 (目標1,2)
	第15回　まとめ (目標1～3)
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準　評価方法を理解し，目的に応じて選択できることを合格基準とする。 評価の方法　小テスト 40%　期末試験 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 （理学療法評価学 Ｉで使用した教科書を継続して使用する）松澤正『理学療法評価学 第３版』金原出版　６,510円　ISBN： 978 -4307750257 （理学療法評価学 Ｉで使用した教科書を継続して使用する） Helen J. Hislopほか『新・徒手筋力検査法原著　第８版』協同医書　７,875円 ISBN： 978 -4-7639-0036-4 鈴木則宏『神経診察クローズアップ』メジカルビュー社　７,350円 ISBN： 978 -4-7583-0358-3 田崎義昭ほか『ベッドサイドの神経の診かた』南山堂　７,560円 ISBN： 978 -4-525-24717-1
推薦図書等	
参考URL	
備考	理学療法評価学 Ｉ，理学療法評価学実習 Ｉが履修されていることを前提とする。 他の専門科目と内容が関連するので，専門科目全般の学習を怠らないこと。

理学療法評価学実習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法評価学実習 Ⅰ
科目責任者	宮坂　智哉
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2045001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価方法，各評価法の実技
授業のねらい・概要	本講義の目標は，理学療法評価学 Ⅰで習得した各評価項目を実践できるようになることである。 理学療法評価でも基本的な評価項目である関節可動域測定法（ ROM-T）と徒手筋力検査法（ MMT）をはじめとする多くの理学療法評価実技の実習を行い，各理学療法評価技術の習得を目指す。
学生の達成目標	1. 理学療法士に必要とされる資質を身につける。 2. 問診の意義を理解し,適切に行うことができる。 3. 各理学療法評価実技が実施できる。 4. 理学療法評価の結果が記録できる。 5. 評価結果から問題点を抽出できる。
授業内容	第1回　問診の実践(問診を通じて,必要な情報収集を行う) 視診,触診の実践(触診を通じて,必要な情報収集を行う) (目標1～5)

第2回	触診実技(上下肢の触診実習を行う;半袖・半ズボンでの実習) (目標1～5)
第3回	身体計測実技(身体計測を行う;半袖・半ズボンでの実習) (目標1～5)
第4回	知覚検査実技 Ⅰ(上肢の表在,深部,複合知覚検査を行う) (目標1～5) 知覚検査実技 Ⅱ(下肢の表在,深部,複合知覚の実験を行う) (目標1～5)
第5回	反射,筋トーヌス検査実技(表在,深部反射,筋トーヌス検査を行う) (目標1～5)
第6回	関節可動域測定実技 Ⅰ-下肢について (股関節,膝関節,足関節の ROM測定を行う;半ズボンでの実習) (目標1～5)
第7回	関節可動域測定実技 Ⅱ-上肢について (肩関節,肘関節,手関節の MMTを行う;半袖での実習) (目標1～5)
第8回	徒手筋力検査実技 Ⅰ-上肢について (肩関節,肘関節,手関節の MMTを行う;半袖での実習) (目標1～5)
第9回	徒手筋力検査実技 Ⅱ-下肢について (股関節,膝関節,足関節の MMTを行う;半ズボンでの実習) (目標1～5)
第10回	徒手筋力検査実技 Ⅲ-その他 (体幹,小児の MMTを行う) (目標1～5)
第11回	総合評価実技(これまでに学習した評価を基に総合的な実技を行う;半袖・半ズボンでの実習)(目標1～5)
第12回	講義総括 (目標1～5)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	各理学療法評価（特に ROM－T，MMT）の実践力を習得する。
	評価の方法	実技試験（ 70%），レポート（ 30%）などを総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 Helen J, Jacqueline Montgomery,新･徒手筋力検査法　原著第８版，協同医書，　7,875円 ISBN： 9784763900364
推薦図書等	
参考URL	
備考	積極的な実技の自主練習を必要とします。

理学療法評価学実習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法評価学実習 Ⅱ
科目責任者	ut084007
担当教員	郭　丹 松田　雅弘
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2046001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法検査，検査の意義，統合解釈
授業のねらい・概要	理学療法の各検査・測定ができ，検査測定の意義を理解し統合解釈ができる。
学生の達成目標	1.　身体機能・能力の評価方法を理解し,実施できる。 2.　身体機能・能力評価から得られた結果を解釈できる。 3.　評価結果の総合統合解釈ができる。
授業内容	第1回　ガイダンス (目標1,2) 第2回　呼吸・循環機能検査と実技 (目標1,2) 第3回　呼吸・循環機能検査と実技 (目標1,2) 第4回　電気生理学的検査 (目標1,2) 第5回　日常生活活動検査 (目標1,2)

	第6回	日常生活活動検査 (目標1,2)
	第7回	筋力測定装置を用いた評価 機能の理解と準備 (目標1,2)
	第8回	筋力測定装置を用いた評価 評価の実施とまとめ方の理解 (目標1,2)
	第9回	動作分析 (目標1,2)
	第10回	症例検討 (目標1,2,3)
	第11回	症例検討 (目標1,2,3)
	第12回	まとめ (目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習の目的を理解し，実習を実施し，結果を客観的に報告できることを合格基準とする。
	評価の方法	実習実施 20%　レポート 80%
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	理学療法評価学 Ⅱが履修されていることが前提となる。すべて出席が原則である。	

動作分析学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	動作分析学
科目責任者	宮坂　智哉
担当教員	松田　雅弘 宮崎　泰
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2048001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	動作分析，姿勢，運動
授業のねらい・概要	人間の行動は，運動・動作・行為の３つの階層から分析することができる。運動分析に必要な基礎を学ぶとともに，臨床的に用いられる観察を中心とした運動分析，動作分析を講義・演習を通して学習する。
学生の達成目標	1. 動作を理解するために必要な基本的力学的原理を説明できる。 2. 健常者の基本的な動作中の運動について力学的に説明できる。 3. 動作の「観察」,「運動の解析」,「動作の分析」,の特徴を説明できる。 4. 動作分析を展開し,その結果を解釈する際の視点と臨床的推論過程を理解する。 5. 中枢神経疾患患者(脳卒中・脳性麻痺など)の姿勢・動作の特徴を説明できる。 6. 中枢神経疾患患者(脳卒中・脳性麻痺など)の動作分析を通して,関連評価の必要性を説明できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の進め方,参考書,成績評価など) 力学的基礎,正常動作の観察と分析(1)分析の進め方(目標1)
	第2回	正常動作の観察と分析(2)寝返りの観察と分析(目標2,3)
	第3回	正常動作の観察と分析(3)起き上がりの観察と分析(目標2,3)
	第4回	臨床における動作分析の進め方(目標3,4)
	第5回	動作分析の展開(目標3,4)
	第6回	動作分析の実際(中枢神経疾患1)(目標3～6)
	第7回	動作分析の実際(中枢神経疾患2)(目標3～6)
	第8回	まとめ・総括(目標1～6)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	上記学生の達成目標に到達し，動作分析の基本事項を理解していること。（前提として規定の出席日数が必要）
	評価の方法	試験 80%，レポート・発表 20% 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 監修　奈良　勲，編集　高橋正明　標準理学療法学専門分野「臨床動作分析」医学書院　４,935円 ISBN： 4260266667	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・少人数制のグループ学習・発表会を行います。 ・患者の動作を実際観察し，分析する作業を行います。	

成人中枢神経系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	成人中枢神経系疾患理学療法学
科目責任者	郭　丹
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2052001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	成人中枢神経系疾患，理学療法学，機能回復
授業のねらい・概要	解剖学，生理学，病理学で学んだ基礎医学と臨床医学の知識を基に，中枢神経系に由来する疾患，障害に対する理学療法の評価方法，問題の分析方法，治療技術などの知識を教授する。
学生の達成目標	1. 中枢神経系(特に,脳)の構造と機能が理解できる。 2. 中枢神経系疾患の病態像,評価法が理解,選択できる。 3. 中枢神経系疾患の各期の理学療法が理解し,実施できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 中枢神経系疾患とは何か (目標1) 第2回　脳の構造 脳の機能 (目標1) 第3回　神経学的検査法-脳神経の診かた (目標1,2) 第4回　高次脳機能障害 Ⅰ-失認,失行 高次脳機能障害 Ⅱ-失語,認知能力,意識障害 (目標1,2)

第5回	片麻痺運動機能検査-Brumnstromテスト 脳卒中患者の機能評価-SIASと FIM (目標1,2)
第6回	脳血管障害における病態とリスク管理
第7回	脳血管障害者急性期の理学療法 早期離床および注意事項 (目標2,3)
第8回	脳血管障害者回復期の理学療法 基本動作およびファシリテーション (目標2,3)
第9回	脳血管障害者回復期の理学療法 基本動作およびファシリテーション (目標2,3)
第10回	脳血管障害者回復期の理学療法-ADL動作 身体機能と生活能力の結びつき (目標2,3)
第11回	脳血管障害者回復期の理学療法-ADL動作 身体機能と生活能力の結びつき (目標2,3)
第12回	脳血管障害者生活期(維持期)の理学療法-APDL動作 身体機能と生活能力の結びつき (目標2,3)
第13回	脳血管障害の合併症および治療について 痙縮,肩関節亜脱臼,高次機能障害について
第14回	脳血管障害の合併症および治療について 肩手症候群, Pushing現象 (目標2,3)
第15回	講義総括 (目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準　理学療法を実践できるための，最低限の必要な知識を習得する。 評価の方法　定期試験（ 80%），講義参加（ 10%），小テストやレポート（ 10%）などを総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 吉尾雅春編集：運動療法学各論　医学書院　5 ,600円チーム医療を担う医療人共通のテキスト　病気がみえる　Vol.7　脳・神経　MEDIC MEDIA　3 ,800円 ISBN：4 -260-00222-8,　978 -4-89632-358-0
推薦図書等	
参考URL	
備考	障害体験を積極的に行うこと。 関連する基礎医学および臨床医学の知識を，講義前までに再確認しておくこと。連絡方法：メールでも対応します（メールアドレス：未定）。

成人中枢神経系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	成人中枢神経系疾患理学療法学実習
科目責任者	郭　丹
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2053001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	中枢神経系，成人中枢神経系疾患，理学療法
授業のねらい・概要	解剖学，生理学，病理学で学んだ基礎医学と臨床医学の知識を基に，中枢神経系に由来する疾患，障害に対する理学療法の評価方法，問題の分析方法，治療技術などの知識を教授する。
学生の達成目標	1. 成人中枢神経系疾患に対する評価が実施できる。 2. 成人中枢神経系疾患の評価結果の記録ができる。 3. 成人中枢神経系疾患の病態像を把握し,理学療法プログラムが立案できる。 4. 成人中枢神経系疾患の理学療法が実施できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 脳血管障害に対する検査測定の実施(目標1,2) 第2回　脳血管障害に対する検査測定に対する理解 感覚テスト,筋緊張検査,片麻痺の機能評価など(目標1,2,3) 第3回　脳血管障害の急性期の理学療法 早期離床,リスク管理の実際(目標1,2,3)

第4回	脳血管障害の急性期の理学療法 良肢位の維持,廃用性症候群の予防など(目標3,4)
第5回	脳血管障害の回復期の理学療法 関節可動域訓練(上下肢,体幹)伸張訓練(目標3,4)
第6回	脳血管障害に対する応用的訓練 Ⅰ-重心移動,寝返り,起き上がり動作 脳血管障害に対する応用的訓練 Ⅱ-重心移動,座位保持,立ち上がり動作(目標3,4)
第7回	脳血管障害に対する応用的訓練 Ⅲ-重心移動,立位,歩行訓練 脳血管障害に対する応用的訓練 Ⅳ-階段昇降,屋外歩行
第8回	脳血管障害に対する応用的訓練 Ⅴ-移乗動作,排泄動作,入浴動作 脳血管障害に対する応用的訓練 Ⅵ-食事動作,更衣動作,整容動作(目標3,4)
第9回	脳血管障害者の治療手技 Ⅰ(Bobath法:姿勢緊張,刺激の与え方) 脳血管障害者の治療手技 Ⅱ(Bobath法:保持,促通)(目標3,4)
第10回	脳血管障害者の治療手技 Ⅰ(Bobath法:姿勢緊張,刺激の与え方) 脳血管障害者の治療手技 Ⅱ(Bobath法:保持,促通)
第11回	脳血管障害者の治療手技 Ⅲ(PNF法:上肢,下肢) 脳血管障害者の治療手技 Ⅳ(PNF法:体幹,姿勢)(目標3,4)
第12回	講義総括(目標1,2,3,4)

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準：評価や理学療法が実施できる。 評価の方法：筆記試験（ 40%）実技試験（ 40%），講義参加（ 10%），レポート（ 10%）総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 未定
推薦図書等	
参考URL	
備考	障害体験を積極的に行う上，障害に対する理解を深め，治療を適切に行う。 成人中枢神経系疾患理学療法学を履修していることが望ましい。 実技を中心に行うので，実技可能な服装にて参加すること。 連絡方法：メールでも対応します（メールアドレス：未定）。

小児中枢神経系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	小児中枢神経系疾患理学療法学
科目責任者	松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2054001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	正常運動発達，脳性麻痺，重症心身障害児（者）
授業のねらい・概要	多種にわたる小児中枢系疾患を理解した上で，新生児からの発達の過程でこれらの疾患に伴う障害がどのように阻止要因となるかを理解する。それを前提に疾患別理学療法治療について学ぶ。また，脳性麻痺に関してはその障害分類を理解し，タイプ別の治療法について理解を深める。
学生の達成目標	1. 出生後から歩行可能になるまでの運動発達について説明できる。 2. 脳性麻痺の定義,病因等を説明できる。 3. 脳性麻痺の病型別発達の特徴を説明できる。 4. 脳性麻痺の病型別に座位姿勢,立位姿勢,歩行パターンを真似できる。 5. 脳性麻痺の筋緊張,変形・拘縮等の評価ができる。 6. 脳性麻痺の適応装具(下肢装具・体幹装具・車椅子)をあげることができる 7. 脳性麻痺児の呼吸・摂食・嚥下に関する特徴を説明ができる。 8. 重症心身障害児(者)の状態像を説明できる。

9. 筋ジストロフィー,二分脊椎,ダウン症候群の理学療法についての特徴を説明できる。
1

10. NICUにおける理学療法の特徴を説明できる。

授業内容

第1回 オリエンテーション(授業の進め方,参考書,成績評価など),正常運動発達(1)(目標1)

第2回 正常運動発達(2)(目標1)

第3回 脳性麻痺総論(目標)(目標1・2)

第4回 脳性麻痺の病型別発達と理学療法(目標1～7)

第5回 脳性麻痺の評価と治療(1)痙直型四肢麻痺(目標1～7)

第6回 脳性麻痺の評価と治療(2)痙直型両麻痺(目標1～7)

第7回 脳性麻痺の評価と治療(3)アテトーゼ型,失調型,片麻痺型(目標1～7)

第8回 脳性麻痺の理学療法と適応装具,座位保持について(目標1～7)

第9回 脳性麻痺児に対する理学療法士として作業療法,言語聴覚療法との関わり(目標1～7)

第10回 重症心身障害児の理学療法:概論と運動療法(目標1～8)

第11回 重症心身障害児の理学療法:姿勢と呼吸(目標1～8)

第12回 筋ジストロフィーの理学療法(目標9)

第13回 二分脊椎・ダウン症候群・発達障害の理学療法(目標9)

第14回 NICUにおける理学療法(目標 10)

第15回 統括(目標1～ 10)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 上記学生の達成目標に到達し，小児中枢系疾患理学療法学の基本事項を理解していること。（前提として規定の出席日数が必要）

評価の方法 試験 90%，小テスト 10%
定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

監修　千住　秀明，編集代表　田原　弘幸　「こどもの理学療法（第２版）」　神陵文庫　４,725円 ISBN： 4915814203

推薦図書等

参考URL

備考	実技指導を組み込んだ授業を行います。

小児中枢神経系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	小児中枢神経系疾患理学療法学実習
科目責任者	松田　雅弘
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2055001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達障害理学療法，脳性麻痺，正常発達
授業のねらい・概要	正常運動発達・姿勢反射について講義と実習を通して学習する。脳性麻痺の異常運動を映像で観察し，その異常運動を捉えるための学習を行う。脳性麻痺を中心とした臥位～立位までの姿勢・運動・歩行の分析を行い，実際に真似を行い，問題点の抽出と適切な治療方法を選択する。その他，発達障害理学療法分野における脳性麻痺以外の対象疾患の概要と理学療法評価・介入について理解する。
学生の達成目標	1. 正常運動発達について理解し,姿勢などの模倣ができる。 2. 発達段階における姿勢反射について理解し,模倣できる。 3. 脳性麻痺の姿勢,動作の分析を行い,問題点の抽出ができる。 4. 脳性麻痺の問題点抽出から,適切な運動療法を選択できる。 5. 発達障害分野における理学療法の評価結果と治療の選択に関して説明できる。 6. 筋ジストロフィーにおける理学療法の評価結果と治療の選択に関して説明できる。
授業内容	第1回　正常発達・姿勢反射の評価1(目標1,2)

	第2回	正常発達・姿勢反射の評価2(目標1,2)
	第3回	正常発達・姿勢反射の評価2(目標1,2)
	第4回	姿勢・動作の評価:姿勢(目標1,2,3,4)
	第5回	姿勢・動作の評価:寝返り(目標1,2,3,4)
	第6回	姿勢・動作の評価:起き上がり・立ち上がり(目標1,2,3,4)
	第7回	姿勢・動作の評価:歩行(目標1,2,3,4)
	第8回	ダウン症患者・発達性協調障害患者に対する理学療法評価と介入(目標5)
	第9回	筋ジストロフィー患者に対する理学療法評価と介入(目標6)
	第10回	脳性麻痺ケーススステディ1(目標1,2,3,4)
	第11回	脳性麻痺ケーススステディ2(目標1,2,3,4)
	第12回	脳性麻痺ケーススステディ3(目標1,2,3,4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	上記学生の達成目標に到達し，小児中枢系疾患理学療法学実習の基本事項を理解していること。（前提として規定の出席日数が必要）
	評価の方法	定期試験 70%，発表・レポート 30% 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 編集　新田收，笹田哲，内昌之　知りたかった！ PT・OTのための発達障害ガイド 金原出版　４,830円	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・小児中枢神経系疾患理学療法学の内容を踏まえて行うため，復習しておくこと。 ・視覚教材等を使用する。 ・グループ学習を行う予定である。	

内部障害系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	内部障害系疾患理学療法学
科目責任者	阿部　勉
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2056001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	呼吸循環器系リハビリテーション，リスク管理，運動処方
授業のねらい・概要	生活習慣病が拡大する中，理学療法士に対する需要が急速に伸びてきた分野である。検査・測定の結果を踏まえながら疾患の特性を理解し，理学療法士としての関わり方，運動療法について学ぶ。一つ一つをしっかりと押さえて，わからないままにしておかないよう十分に注意してほしい。
学生の達成目標	1. 内部障害系疾患の特性を理解する。 2. 内部障害系疾患の検査・測定方法,結果の解釈ができる。 3. 内部障害系疾患のリスク管理ができる。 4. 内部障害系疾患の運動療法を理解できる。
授業内容	第1回　呼吸器系の基本構造,生理学に関して理解する。(目標1) 第2回　呼吸機能検査や評価について理解する。(目標2) 第3回　呼吸リハビリテーションのエビデンスについて理解する。(目標4) 第4回　疾患別呼吸リハビリテーション-気管支喘息(目標1,2,3)

第5回	疾患別呼吸リハビリテーション-慢性閉塞性肺疾患(目標1,2,3)
第6回	疾患別呼吸リハビリテーション-拘束性換気障害(目標1,2,3)
第7回	疾患別呼吸リハビリテーション-外科手術前後の関わり(目標1,2,3)
第8回	循環器系の基本構造,生理学に関して理解する。(目標1)
第9回	心機能検査や評価について理解する。(目標2)
第10回	心臓リハビリテーションのエビデンスについて理解する。(目標4)
第11回	心臓リハビリテーション-心筋梗塞,心不全(目標1,2,3)
第12回	末梢循環障害と理学療法(目標1,2,3)
第13回	糖尿病・腎機能障害に対する理学療法(目標1,2,3)
第14回	運動負荷試験の種類と検査結果の解釈(目標1,2,3)
第15回	総括(目標1,2,3,4) (内部障害系疾患理学療法の実際,疾患毎の運動療法をまとめる)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	内部障害系疾患理学療法に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解，実施できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，提出レポート及び期末の筆記または実技試験で評価する。 平常点（期間中に簡単なレポートを課す）30%，期末実技試験 60%，授業への参加度 10%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『呼吸リハビリテーション』中山書店． 2 ,800円 『内部障害系理学療法学』メディカルビュー社． 4 ,500円 ISBN： 978 -4-521-60361-2 ISSN： 978 -4-7583-1113-7
推薦図書等	
参考URL	
備考	内部障害系疾患理学療法は解剖，生理学，病理学，基礎運動学を基本として成り立っている分野である。したがって２年次までの各授業を十分に習得したものとして講義が進行していくので，しっかりと学んできてほしい。 授業は白衣で行う。実際の臨床場面を想定しているため，服装や髪形にも留意すること。

内部障害系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	内部障害系疾患理学療法学実習
科目責任者	阿部　勉
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2057001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	呼吸循環器系リハビリテーション，リスク管理，運動処方
授業のねらい・概要	前期の座学を基礎に実際の評価や手技を実技を通して習得する。
学生の達成目標	1. 内部障害系疾患の検査・測定結果を解釈できる。 2. 内部障害系疾患のリスク管理ができる。 3. 内部障害系疾患に対する各種治療手技を施行できる。 4. 内部障害系疾患の運動療法を処方できる。
授業内容	第1回　呼吸リハビリテーション-呼吸運動療法(目標2,3,4) 第2回　呼吸リハビリテーション-呼吸筋訓練(目標2,3,4) 第3回　呼吸リハビリテーション-排痰法(目標2,3,4) 第4回　呼吸機能検査を実施し,結果を解釈できる。(目標1) 第5回　心臓リハビリテーション-心筋梗塞に対する運動処方(目標4) 第6回　心臓リハビリテーション-心不全に対する運動処方(目標2,3,4)

	第7回	循環器評価を実施し,結果を解釈できる。(目標1)
	第8回	糖尿病に対する理学療法の実際(目標2,3,4)
	第9回	膀胱・直腸障害に対する理学療法の実際(目標2,3,4)
	第10回	産前・産後の理学療法の実際(目標2,3,4)
	第11回	肝機能障害と理学療法の実際(目標2,3,4)
	第12回	腎機能障害と理学療法の実際(目標2,3,4)
	第13回	総括(目標1,2,3,4) (内部障害系疾患理学療法の実際,各疾患毎の運動療法を実施できる)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	内部障害系疾患理学療法に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解，実施できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，提出レポート及び期末の筆記または実技試験で評価する。 平常点（期間中に簡単なレポートを課す）30%，期末実技試験 60%，授業への参加度 10%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『呼吸リハビリテーション』中山書店.　2 ,800円 『内部障害系理学療法学』メディカルビュー社.　4 ,500円 ISBN： 978 -4-521-60361-2 ISSN： 978 -4-7583-1113-7
推薦図書等	
参考URL	
備考	内部障害系疾患理学療法は解剖，生理学，病理学，基礎運動学を基本として成り立っている分野である。したがって２年次までの各授業を十分に習得したものとして講義が進行していくので，しっかりと学んできてほしい。 　授業は白衣で行う。実際の臨床場面を想定しているため，服装や髪形にも留意すること。

物理療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	物理療法学
科目責任者	阿部　勉
担当教員	坂本　由美 岩本　浩二
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A2058001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	物理療法，温熱療法，寒冷療法，水治療法，電磁波療法，電気･光線療法，牽引療法，超音波療法
授業のねらい・概要	各種の物理的刺激に対する生体の反応を基本的知識として，物理療法の適応と禁忌を理解し，患者の病態に合わせた適切な物理療法手段を選択できることを目標とする。具体的には温熱・寒冷など各種物理的刺激に対する生体の反応，物理療法の効果，適応と禁忌・リスク管理・実施方法について学ぶ。
学生の達成目標	1. 物理療法の歴史的経過,定義,概念,種類,目的を説明できる。 2. 物理療法の全般に関する治療方法の原則と方法を習得し,説明できる。 3. 各種物理療法の特徴,適応・禁忌,リスク管理等を理解・習得し,説明できる。 4. 各物理的刺激に対する生体の生理学的反応を理解し,説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 理学療法における物理療法の歴史的経緯と位置付け,物理療法の定

		義・種類・目的(目標1) 物理刺激が生体に及ぼす生理学的作用(目標1,4)
	第2回	温熱療法(ホットパック,パラフィン浴) 定義・熱移動形態・種類・特徴・温熱刺激による生体の生理的影響・適応と禁忌・使用方法(目標2,3,4)
	第3回	寒冷療法(アイスパック,コールドパック,クリッカー,冷水浴,コールドスプレー) 定義・種類・特徴・寒冷刺激による生体の生理的影響・適応と禁忌・実施方法(目標2,3,4) 第4～5回 水治療法(ハバードタンク,プール,渦流浴,気泡浴,運動浴,交代浴) 水の物理的特性・水治療法による生体の生理的影響・種類・特徴・適応と禁忌・実施方法(目標2,3,4)
	第4回	電磁波療法(超短波療法) 種類・周波数・高周波療法・熱発生の機序・生理的作用・適応と禁忌・使用方法(目標2,3,4)
	第5回	電磁波療法(極超短波療法) 種類・生理学的作用・特徴・適応と禁忌・使用方法(目標2,3,4)
	第6回	光線療法(赤外線療法,紫外線療法) 光線療法の波長・生理学的作用・適応と禁忌・実施方法(目標2,3,4)
	第7回	光線療法(レーザー療法) 種類・低出力レーザー光線の特徴・生理学的作用・適応と禁忌・実施方法(目標2,3,4)
	第8回	牽引療法 牽引療法の種類・牽引療法の力学・適応と禁忌・実施方法(目標2,3,4)
	第9回	電気刺激療法: 電気療法の概要・電気刺激による生体の生理的影響・運動点・電気変性反応(目標2,3,4)
	第10回	電気刺激療法(低周波,経皮的電気刺激,干渉波刺激) 特徴・適応と禁忌・実施方法(目標2,3,4)
	第11回	電気刺激療法(機能的電気刺激,治療的電気刺激,バイオフィードバック療法) 特徴・適応と禁忌・実施方法(目標2,3,4)
	第12回	超音波療法: 発生原理・生理学的作用(温熱効果・非温熱効果)・適応と禁忌・治療方法(目標2,3,4)
	第13回	徒手療法(マッサージ療法) 定義・基本的手技・適応と禁忌・臨床応用等(目標2,3,4)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	A・B・C・Dで評価を実施し， 60点以上が合格， 59点以下をDとし，不合格とする.

	評価の方法	試験 70%，小テスト 20%，授業の参加度 10%に分類し，総合的に評価する.
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 網本　和（編），標準理学療法学専門分野物理療法学，医学書院 ISBN：4260004867	
推薦図書等		
参考URL		
備考	この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります.	

物理療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	物理療法学実習
科目責任者	阿部　勉
担当教員	坂本　由美 岩本　浩二
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2059001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	物理的刺激と生体反応，温熱療法，寒冷療法，電気療法，光線療法，牽引療法，超音波療法，水治療法
授業のねらい・概要	物理療法学で学習したことを基礎として，対象者の安全に配慮して各種物理療法機器を説明書通りに正しく操作できること，および物理刺激の生体に及ぼす影響について客観的な効果測定を実施することができることを目標とする。このために温熱療法・寒冷療法・光線療法・電気刺激療法・牽引療法など各種物理療法に関して， １．学生グループ内で治療者と患者の役を演じて実技を行う， ２．各種測定機器を用いて生体に起こる反応を測定し，物理療法の効果を定量的に判定する。
学生の達成目標	1. 物理療法の全般に関する治療方法の原則と方法を習得し,説明できる。 2. 各種物理療法の適応・禁忌・リスク管理等を理解・習得し,リスクマネジメントを説明できる。 3. 各種の温熱療法・寒冷療法を理解し,学生同士で実施,効果を検証できる。

4. 各種の光線療法・電磁波療法を理解し,学生同士で実施,効果を検証できる。
5. 各種の電気刺激療法を理解し,学生同士で実施,効果を検証できる。
6. 頚椎・腰椎介達牽引の一般的な実施方法を説明し,学生同士で実施できる。
7. 水治療法を理解し,学生同士で実施できる。
8. 超音波療法を理解し,学生同士で実施できる。
9. 徒手療法を理解し,学生同士で実施できる。

授業内容

第1回	物理療法学実習オリエンテーション(目標1) 超音波療法の実習(目標2,8)
第2回	上・下肢用の気泡浴,渦流浴,超音波浴の実習(目標2,3,7,8)
第3回	～
第4回	温熱療法の実習(ホットパック,パラフィン浴など);(目標1,2,3)
第5回	～
第6回	寒冷療法の実習(コールドパック,アイスパック,クリッカーなど)(目標1,2,3)
第7回	～
第8回	極超短波療法・赤外線・紫外線の実習(目標2,3,4)
第9回	～
第10回	レーザー療法・牽引療法の実習と評価(目標2,3,6)
第11回	電気療法の実習(干渉波・治療的電気刺激・機能的電気刺激・TENSなど)(目標2,5)
第12回	徒手療法の実習(マッサージ療法など)(目標2,9)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	A・B・C・Dで評価を実施し， 60点以上を合格とし， 59点以下を Dとし，不合格とする。
評価の方法	試験 60%，レポート 30%，授業の参加度および実習態度 10%に分類し，総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

網本　和（編），標準理学療法学専門分野物理療法学，医学書院 ISBN：4260004867 ISSN：

推薦図書等

参考URL

備考	実習を行いますので，必要に応じて Tシャツや短パン，ジャージなど身体を露出できるような服装で出席して下さい。なお，この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります。

日常生活活動学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	日常生活活動学
科目責任者	永原　久栄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2060001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ADLの概念， ADLの内容， ADLの評価，基本姿勢，基本動作，生活関連動作， QOL
授業のねらい・概要	日常生活活動（ activities of daily living：ADL）の概念，内容，評価，基本的技術，適応について学ぶ。障害を持つ人の ADLについて評価し，適切な ADL支援を提案できることを目的とする。
学生の達成目標	1. ADLの概念,内容を説明できる。 2. ADLの評価項目を説明できる。 3. 代表的な ADL評価ができる。 4. 生活関連動作・活動を説明できる。 5. QOLの概念について説明できる。 6. QOL評価,生活機能評価, ICFについて説明できる。 7. 基本姿勢,基本動作について,実演し説明できる。
授業内容	第1回　ADLの概念,内容 (目標1) 第2回　ADLと QOL (目標2,5)

第3回	ADLの評価の方法 (目標1,2)
第4回	ADLの評価2(バーセル指数) (目標1,2.3)
第5回	ADLの評価3(FIM①) (目標1,2.3)
第6回	ADLの評価4(FIM②) (目標1,2.3)
第7回	QOL評価,生活機能評価, ICF (目標6)
第8回	ADLの支援方法 (目標1,2,3,4)
第9回	ADLと姿勢 (目標1,7)
第10回	基本姿勢 (目標1,7)
第11回	基本動作(寝返り,起き上がり,立ち上がり) (目標1,7)
第12回	基本動作(立位,歩行)と移動用具 (目標1,7)
第13回	基本動作(トランスファー)と移動用具(車椅子) (目標1,7)
第14回	生活関連動作 (目標1,4,7)
第15回	ADLのまとめ (目標1～7)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業回数の３分の２以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
評価の方法	参加の程度（ 10%），課題提出（ 10%），ショートテスト（ 20%），期末筆記試験（ 60%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

斉藤宏他「姿勢と動作－ADLその基礎から応用」メジカルフレンド社　３,600円 ISBN： 9784839213503
伊藤利之他「 ADLとその周辺」医学書院　６,000円 ISBN： 9784260005685

推薦図書等

参考URL

備考

第９回～第 14回は， ADL動作の練習のために動きやすい服装をしてくること（ジャージの上下）。

日常生活活動学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	日常生活活動学実習
科目責任者	永原　久栄
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2061001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	片麻痺の ADL，対麻痺の ADL，四肢麻痺の ADL，RAの ADL，脳性麻痺の ADL，高齢者の ADL
授業のねらい・概要	疾患別，障害別の日常生活活動評価・指導法に基いて，学生同士での体験実習として， ADL評価，指導の方法を身につける。
学生の達成目標	1. ADL評価・指導に必要な基本的動作について具体的に述べられ,模倣できる 2. 片麻痺の ADL評価,指導について説明でき,模倣できる 3. 対麻痺・四肢麻痺の ADL評価,指導について説明でき,模倣できる 4. 慢性関節リウマチ,パーキンソン,小脳変性疾患の ADL評価,指導について説明でき,模倣できる 5. 脳性麻痺の ADL評価,指導について説明でき,模倣できる 6. 高齢障害者の ADL評価,指導について説明でき,模倣できる
授業内容	第1回　片麻者の ADL① (片麻痺の基本動作を学生同士で討議と模擬実演する)(目標1,2)

第2回	片麻痺の ADL② (片麻痺のトランスファーを学生同士で討議と模擬実演する)(目標1,2)
第3回	片麻痺の ADL③ (片麻痺の更衣,トイレ動作等をて学生同士で討議と模擬実演する)(目標1,2)
第4回	スペシャル講義と実習 RA,脳性まひ者等のための「足底板」(目標1,4)
第5回	スペシャル講義と実習「 ADLと作業療法」(目標1～5)
第6回	RA等の ADL (ADL支援方法を学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,4)
第7回	ADLのまとめ
第8回	対麻痺・四肢麻痺の ADL① (起居移動動作を学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,3)
第9回	対麻痺・四肢麻痺の ADL② (更衣,トイレ動作等を学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,3)
第10回	小児の ADL (脳性麻痺の ADL支援方法について,学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,5)
第11回	パーキンソン等の ADL (ADL支援方法を学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,4)
第12回	高齢者の ADL (高齢者の ADL支援方法について,学生同士で討議し模擬実演する)(目標1,5)

予習・復習の内容	予習 復習 展開

成績評価	評価の基準	授業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
	評価の方法	参加の積極性の程度（ 30%），中間実技試験（ 10%），期末実技試験（ 30%）期末筆記試験（ 30%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 伊藤利之他「 ADLとその周辺」医学書院　６,000円　ISBN： 9784260005685 岩崎　洋編集「脊髄損傷理学療法マニュアル」　６,500円　ISBN： 9784830643323 初山泰弘他「脊髄損傷」医歯薬出版　４,500円　ISBN： 4263218329 近藤克則，大井通正編「脳卒中リハビリテーション」第２版医歯薬出版　ISBN： 4263215273

推薦図書等	

参考URL	

備考	ADL動作の練習を行なうために体を動かしやすい服装で出席すること（ジャージの上下など）。　前期の「日常生活活動学」を履修していること。前期履修した「日常生活活動学」を復習しておくこと。

スポーツ理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	スポーツ理学療法学
科目責任者	
担当教員	村井　貞夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2063001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	予防，治療，リハビリテーション，競技力向上
授業のねらい・概要	・スポーツの競技特性を理解し，競技力向上に寄与していく過程を学ぶ。 ・スポーツの競技特性を知ることによって予防につなげていく。 ・スポーツ傷害に対する治療方法を学ぶ。 ・競技現場に復帰させるためのリハビリテーションテクニックを学ぶ。
学生の達成目標	1. スポーツ傷害の程度を知ることができる。 2. 傷害の程度に合わせた治療ができる。 3. スポーツの競技特性を理解することができる。 4. スポーツリハビリテーションの全体を知り,他の職種(監督・コーチ)とのコミュニケーションを図ることができる。 5. 選手にスポーツリハビリテーションを理解させ,再発予防ができる。
授業内容	第1回　アスレチックリハビリテーションの定義,沿革(目標1) 第2回　アスレチックリハビリテーションの分類(目標1)

	第3回	傷害の部位別の理学療法 体幹・肩・肘・手・手指 (目標1,2)
	第4回	傷害の部位別の理学療法 (2) 大腿・膝・下腿～足関節・足・足趾 (目標1,2)
	第5回	スポーツマッサージ 頸部・肩部・背部・腰部・殿部 (目標2,3)
	第6回	スポーツマッサージ (2) 上肢・下肢 (目標2,3)
	第7回	スポーツストレッチング 上肢・体幹 (目標2,3)
	第8回	スポーツストレッチング (2) 下肢 (目標2,3)
	第9回	テーピング(目標2,3)
	第10回	アスレチックリハビリテーションの流れ,総括(目標4,5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業回数の３分の２以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
	評価の方法	平常点（講義中の簡単な実技） 30%，期末筆記試験（ 70%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド：文光堂， ７ ,350円 ISBN： 978-4-8306-5135-9	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

高次脳機能障害学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	高次脳機能障害学
科目責任者	
担当教員	渡辺　学
授業形態	講義
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A2064001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	高次脳機能障害，失行症，半側空間無視
授業のねらい・概要	理学療法士にとって臨床的に必要な，脳損傷例に認められる高次脳機能障害の概要を理解し，各症状の評価方法と治療アプローチについて概説する。
学生の達成目標	1. 高次脳機能障害とは何かを理解する。 2. 意識障害,注意障害,全般性認知障害,記憶障害について理解する。 3. 言語に関する高次脳機能障害について理解する。 4. 運動に関する高次脳機能障害について理解する。 5. 認知に関する高次脳機能障害ついて理解する。
授業内容	第1回　総論1:高次脳機能障害の概観(目標1) 第2回　各論1:意識障害,注意障害の概要と治療アプローチ(目標2) 第3回　各論1:全般性認知障害,記憶障害の概要と治療アプローチ(目標2)

	第4回	各論2:失語症の概要と治療アプローチ(目標3)
	第5回	各論3:失行症の概要と治療アプローチ(目標4)
	第6回	各論4:遂行機能障害,その他の行為障害に関する概要と治療アプローチ(目標4)
	第7回	各論5:半側空間無視の概要と治療アプローチ(目標5)
	第8回	各論6:視覚失認,その他の空間認知に関する概要と治療アプローチ(目標5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	原則として欠席は認めない。高次脳機能障害に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。授業内容をもとに高次脳機能障害についてその評価と治療アプローチについて的確に説明できることを合格基準とする
	評価の方法	講義への参加度 30%　筆記試験 70%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特に定めない。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	高次脳機能障害が理学療法の臨床にどのように関連し，脳卒中をどのように捉えていくかを中心に講義します。	

地域理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	地域理学療法学
科目責任者	永原　久栄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2066001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ICF，CBR，目標設定，生活指導，ニーズ把握，ケアマネジメント，生活環境評価，福祉用具，介護予防
授業のねらい・概要	地域を基盤として行われる理学療法士による専門的支援の知識・技術について習得する。家庭訪問による訪問リハビリテーションサービスや，施設における入所，通所リハビリテーションサービスに携わる理学療法士に必要な知識・技術・実施方法を学ぶ。地域理学療法を実践する専門家としての基本的姿勢・態度についても習得する。
学生の達成目標	1. 地域理学療法の必要背景,および, ICF,CBRを理解する。 2. 地域理学療法に関連する法,制度の変遷を説明し,現状の課題を提案できる。 3. 介護保険制度におけるリハビリテーションサービスについて説明できる。 4. 地域支援の手法としてケアマネジメント機能を提示できる。 5. 地域理学療法における生活指導について述べることができる 6. 訪問サービスの模擬事例について,ニーズの把握,理学療法目標,計画を設定,実施案を提示できる。 7. 地域理学療法支援に携わる専門家としての基本姿勢を提示できる。

8. 住宅改修と福祉用具活用支援の関係について説明できる。

9. 住宅改修のポイント:玄関,浴室,トイレ,居間,寝室等の改修について提案できる。
1

10. 通所,入所サービスにおける支援目標とプログラムを説明できる。
1

11. 介護予防,障害予防のプログラムについて説明できる。

授業内容

第1回 地域理学療法の背景,障害の概念の変化 (目標1)

第2回 制度の変遷と地域理学療法の発展 (目標2)

第3回 介護保険と地域理学療法 (目標3,4)

第4回 ケアマネジメント (目標4)

第5回 訪問サービスにおける生活指導,評価,目標設定 (目標5,6)

第6回 訪問サービスの実際1(対人援助技術) (目標7)

第7回 訪問サービスの実際2(訪問プログラム作成) (目標5,6,7,8)

第8回 訪問サービスの実際3(訪問プログラム実施) (目標5,6,7,8)

第9回 訪問サービスの実際4(訪問プログラム評価) (目標5,6,7,8)

第10回 生活場所からみた住宅改修の方法(玄関,廊下,浴室,トイレ) (目標8,9)

第11回 生活場所からみた住宅改修の方法(居間,寝室,台所) (目標8,9)

第12回 通所・入所サービスにおける個別評価,事業評価 (目標 10)

第13回 通所・入所サービスの実際 (介護老人保健施設等) (目標 10)

第14回 通所・入所サービスの実際 (在宅介護支援センター) (目標 10)

第15回 介護予防と地域理学療法 (目標3,4, 11)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 授業回数の３分の２以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。

評価の方法 参加の程度（ 10%），課題提出２回（各 20%），期末筆記試験（ 50%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

植草学園地域理学療法学テキスト（授業で配布）細田多穂編　「地域リハビリテーション学テキスト」　南江堂　４,200円　ISBN： 9784524247110
鶴見隆正他　「現場から学ぶ自立支援のための住宅改修」　医学書院　２,400円　ISBN： 9784260004511

推薦図書等

参考URL

備考

地域理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	地域理学療法学実習
科目責任者	永原　久栄
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2067001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	住宅改修，福祉用具，訪問サービス，通所サービス，介護老人保健施設，介護予防，直接サービス，間接サービ住宅改修，福祉用具，訪問サービス，通所サービス，介護老人保健施設，介護予防，直接サービス，間接サービス
授業のねらい・概要	地域を基盤として行われる理学療法士による専門的支援の知識・技術を習得する。地域における保健・医療・福祉のサービスの内容を知り，そこで理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを，地域の機関・施設（介護老人保健施設，障害者施設，訪問看護ステーション等）を見学し，サービス活動に参加することを通して学ぶ。
学生の達成目標	1. 地域におけるサービス実施機関のサービス内容を把握し,理解できる。 2. 職員,対象者に対して適切なコミュニケーションが取れ,見学に必要な態度を工夫できる。 3. 対象者の理学療法ニーズを評価できる。 4. 地域理学療法に関連する人的資源,制度的資源を調べる。 5. 地域理学療法の実施を補助する。

授業内容	第1回	模擬事例によるホームエヴァリュエーション,住宅改修案作り (目標1,3,4)
	第2回	模擬事例による住宅改修案の発表 (目標1,3,4) および学外施設見学のオリエンテーション
	第3回	～
	第4回	介護老人保健施設等における地域理学療法の実践に参加 (目標1,2,3,4,5) 学外実習:平成 23年9月3日～ 14日を予定。 実習先は2カ所で計4日間, ①介護老人保健施設:各学生1施設3日間 ②訪問看護ステーション・デイケアサービス:各学生1施設1日 実習先学生配置については,平成 23年7月末の
	第5回	オリエンテーションで提示する。
	第6回	セミナー ① 介護老人保健施設の見学成果の発表 (目標1,3,4)
	第7回	セミナー ② 訪問看護ステーション等での見学成果の発表 (目標1,3,4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業回数の３分の２以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
	評価の方法	参加の積極性の程度（ 40%），グループ発表（３回）（ 30%），レポート２回（ 30%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 植草学園大学地域理学療法学実習の手引き（授業で配布）	
推薦図書等		
参考URL		
備考	前期後半２回（１コマ ×４回）＋夏季集中８回〔２週間のうちの４日間〕＋後期前半２回 ※前期２回，後期２回，集中（９月５日～９日）５日間（８回） 第３回～第 10回（老健施設等での見学実習）は，９月に集中して行う（９月５日～９日の予定）。	

理学療法評価学臨床実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法評価学臨床実習
科目責任者	小山内　正博
担当教員	永原　久栄 田中　勇治 郭　丹 阿部　勉 松田　雅弘
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2070001
教室	
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価
授業のねらい・概要	個々の症例が有する問題点を解決するため，情報収集，評価の計画と実践，問題点の分析と目標の設定など，基本的な理学療法の過程を学習する。
学生の達成目標	1. 医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。 2. 症例に即した検査・側定・記録ができる。 3. 問題点の抽出,目標の設定ができる。 4. 基本的な治療計画の立案ができる。 5. 記録と報告が適切に実施できる。
授業内容	

予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。
	評価の方法	実習先の指導者の評価・意見と，提出されたレポートおよび発表会の内容を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	１．３年次前期までに配置されているすべての必修科目を履修し，単位を修得していること。 ２．学外実習では，態度，服装，頭髪（茶髪，男子の長髪は厳禁）および装飾品（厳禁，ピアスの穴は閉じていること）等については医療人としての常識が必要となる。 ３．「理学療法評価学臨床実習セミナー」で，必要な知識・技術を習得してから実施する。 ４．欠席は病気療養や忌引きなど不測の事態に対処するためのものであり，理由のない欠席は認めない。 ５．実習は予定施設のご厚意によって実施される。上記２～４を厳守すること。 ６．実習中に学習効果を上げるためには，とくに自ら学ぶ態度が重要となる。	

総合臨床実習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合臨床実習 Ⅰ
科目責任者	小山内　正博
担当教員	永原　久栄 田中　勇治 郭　丹 阿部　勉 松田　雅弘
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A2071001
教室	
単位数	8
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	臨床，実践能力
授業のねらい・概要	評価・治療・ゴール設定まで含めた理学療法全般の実習を行う。個々の症状に即した疾患と障害の把握，評価の実施と問題点の分析，目標の設定，治療の計画と実施，変化に対する適切な治療内容の変更，経過及び治療結果に対する考察などを学習する。これらの学習を通して多様な疾患・障害に対応できる実践能力を身につける。
学生の達成目標	1. 医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。 2. 医療チームにおける理学療法士の役割と責任を理解する。 3. 臨床実習指導者の指導のもとに,評価,ゴール設定,治療計画の立案,治療の実施,再評価までの一貫した理学療法を経験し,実践力を養う。 4. 上記3に関して,記録ができる。 5. 症例報告書を作成し,発表できる。

授業内容		
予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。
	評価の方法	実習先の指導者の評価・意見と，提出されたレポートおよび発表会の内容を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	１．学外実習では，態度，服装，頭髪（茶髪，男子の長髪は厳禁）および装飾品（厳禁，ピアスの穴は閉じていること）等については医療人としての常識が必要となる。 ２．「プロフェッショナルスキル」で，必要な知識・技術を習得してから実施する。 ３．欠席は病気療養や忌引きなど不測の事態に対処するためのものであり，理由のない欠席は認めない。 ４．実習は予定施設のご厚意によって実施される。上記１～３を厳守すること。 ５．実習中に学習効果を上げるためには，とくに自ら学ぶ態度が重要となる。	

総合臨床実習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合臨床実習 Ⅱ
科目責任者	小山内　正博
担当教員	永原　久栄 田中　勇治 郭　丹 阿部　勉
授業形態	実習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A2072001
教室	
単位数	8
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	臨床，実践能力
授業のねらい・概要	評価・治療・ゴール設定まで含めた理学療法全般の実習を行う。個々の症状に即した疾患と障害の把握，評価の実施と問題点の分析，目標の設定，治療の計画と実施，変化に対する適切な治療内容の変更，経過及び治療結果に対する考察などを学習する。これらの学習を通して多様な疾患・障害に対応できる実践能力を身につける。
学生の達成目標	1. 医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。 2. 医療チームにおける理学療法士の役割と責任を理解する。 3. 臨床実習指導者の指導のもとに,評価,ゴール設定,治療計画の立案,治療の実施,再評価までの一貫した理学療法を経験し,実践力を養う。 4. 上記3に関して,記録ができる。 5. 症例報告書を作成し,発表できる。

授業内容		
予習・復習の内容	予習 復習 展開	
成績評価	評価の基準	実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。
	評価の方法	実習先の指導者の評価・意見と，提出されたレポートおよび発表会の内容を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考	１．学外実習では，態度，服装，頭髪（茶髪，男子の長髪は厳禁）および装飾品（厳禁，ピアスの穴は閉じていること）等については医療人としての常識が必要となる。 ２．「プロフェッショナルスキル」で，必要な知識・技術を習得してから実施する。 ３．欠席は病気療養や忌引きなど不測の事態に対処するためのものであり，理由のない欠席は認めない。 ４．実習は予定施設のご厚意によって実施される。上記１～３を厳守すること。 ５．実習中に学習効果を上げるためには，とくに自ら学ぶ態度が重要となる。	

プロフェッショナルスキル

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	プロフェッショナルスキル
科目責任者	小山内　正博
担当教員	永原　久栄 田中　勇治 桑名　俊一 内山　伸治 郭　丹 阿部　勉 松田　雅弘 角　友起
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A2073001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法初期評価，目標設定，理学療法プログラム作成，理学療法プログラム実施，OSCE
授業のねらい・概要	理学療法の対象となる代表的疾患に関するレビューを行い，障害の評価から具体的介入の実際についてまでの，包括的な演習を行う。症例の中から問題を見出し，その問題を手がかりに，学習をすすめていく学習方法を経験する。医療面接（能力）を含む臨床思考過程，問題発見能力，情報収集のスキル，臨床推論，等についての習得が目標となる。
学生の達成目標	1.　代表的疾患事例について,医学的情報を収集,整理できる。 2.　代表的疾患事例について,社会的,心理的情報を収集,整理できる。

3. 代表的疾患事例について,理学療法評価,目標設定,理学療法プログラムを作成できる。

4. 代表的疾患事例について,理学療法プログラムを模擬実施し,理学療法経過を考察できる。

5. 代表的疾患事例について,事例報告を作成できる。

6. 解剖学・生理学・臨床運動学等,理学療法専門基礎学についての知識の整理ができる。

7. OSCEに合格する。

授業内容

第1回	脳血管障害の理学療法(情報収集,目標設定,評価,プログラム立案・模擬実施)ができる。(目標1～5)
第2回	小児疾患の理学療法(情報収集,目標設定,評価,プログラム立案・模擬実施)ができる。(目標1～5)
第3回	脊髄損傷の理学療法(情報収集,目標設定,評価,プログラム立案模擬・実施)ができる。(目標1～5)
第4回	神経・筋疾患の理学療法(情報収集,目標設定,評価,プログラム立案・模擬実施)ができる。(目標1～5)
第5回	骨関節疾患,切断の理学療法(情報収集,目標設定,評価,プログラム立案・模擬実施)ができる。(目標1～5)
第6回	慢性関節リウマチの理学療法(情報収集,目標設定,評価,プログラム立案・模擬実施)ができる。(目標1～5)
第7回	呼吸器疾患の理学療法(情報収集,目標設定,評価,プログラム立案・模擬実施)ができる。(目標1～5)
第8回	循環器疾患の理学療法(情報収集,目標設定,評価,プログラム立案・模擬実施)ができる。(目標1～5)
第9回	装具・義肢ついて(情報収集,目標設定,評価,プログラム立案・模擬実施)ができる。(目標1～5)
第10回	解剖学・生理学・臨床運動学等,理学療法専門基礎学についての知識の整理ができる(目標6)
第11回	～
第12回	(4コマ,1日) OCSEに合格する(目標7)
第13回	OSCEのフィードバック(目標7)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
評価の方法	参加の積極性の程度（ 30%），グループ発表２回（ 10%, 10%），OSCE（ 50%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 植草学園大学理学療法学科「プロフェッショナルスキルのための事例課題」を配布
推薦図書等	
参考URL	
備考	前期は，総合臨床実習スケジュールにあわせて，履修可能なグループを作り，グループ単位の指導を行う。また後期（総合臨床実習終了後）に客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	卒業研究
科目責任者	宮坂　智哉
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	卒業研究，卒業論文
授業のねらい・概要	（主旨） 　卒業研究は，学生が自らの専攻分野に関して，関心のあることがらをテーマとして，それを専門的に研究し，その成果を論文等の形に仕上げることである。卒業研究は，自発的にかつ十分な時間をかけて研究を深め，在学中における最大の研究成果となることが期待されている。 （卒業要件） 　卒業研究の成果を提出（発表）し，審査に合格することが，卒業の必須要件である。 （指導教員） 　卒業研究は，自らの研究テーマに近い分野を専門とする教員に指導を受けて進めることが必要である。原則として，専門ゼミナール担当教員の指導を受けること。 （研究の推進） 　研究は，指導教員とよく相談し，研究の方法や内容，研究の進行状況などが相互によくわかるように進めること。指導を受ける時間は，指導教員と相談の上で決めること。
学生の達成目標	1.　自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感をもつことができること。 2.　専門分野において,特に深く研究した経験を持つこと。

授業内容		
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	研究テーマへの取り組み態度，研究における分析力・統合力，研究の成果等
	評価の方法	上記の態度や力及び成果を総合的に判定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	指定しない。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	指定された提出日時までに提出すること。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	卒業研究
科目責任者	
担当教員	小池　和子 永原　久栄 田中　勇治 桑名　俊一 内山　伸治 郭　丹 荒金　房子 小山内　正博 阿部　勉 松田　雅弘
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	卒業研究，卒業論文
授業のねらい・概要	（趣旨） 　これまでの勉学を通して特に関心を持った領域について，指導教員の指導のもとにテーマを設定し，研究計画を立て，研究を実施する。研究成果は発表会で発表のうえ，論文を作成し提出する。 　卒業研究に対しては自発的，積極的に研究を深め，学士相当の研究成果とすることが期待される。 （卒業要件） 　卒業研究の成果を論文として提出し，審査に合格することとする。 （研究の推進） 　自らの選択した研究テーマについて研究を進めるに当たり，指導教員の指導を受けて進めること。 　研究の実施に当たっては，指導教員の指導のもとに，進行状況に注意を払い，推進

	すること。 　指導を受ける時間は，指導教員との話し合いにより定期的に設定すること。
学生の達成目標	1.　自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が,卒業相当のものとして達成感のあること。 2.　各分野において,研究方法にのっとり,計画,実施,遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3.　卒業論文が書けること。
授業内容	
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準　研究テーマへの取り組み，計画性，推進力，研究結果の分析力，論文化等を基準とする。 評価の方法　上記を総合的に判定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 　指定しない
推薦図書等	
参考URL	
備考	指定された日時までに提出すること。

運動学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	運動学
科目責任者	田中　勇治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2005001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動学，運動力学，運動器の構造と機能，姿勢，歩行
授業のねらい・概要	１．人間の身体運動に関する基本的な知識を学習する。 ２．主に，運動学に必要な力学，運動器の構造と機能一般，上肢帯と上肢の運動，下肢帯と下肢の運動，脊柱・体幹の運動，姿勢，歩行に関して学習する。
学生の達成目標	1.　身体運動に関する基礎的な知識を修得する。 2.　運動学に必要な力学を理解する。 3.　運動器の構造と機能一般を理解する。 4.　上肢帯と上肢の運動,下肢帯と下肢の運動,脊柱・体幹の運動を理解し,記憶する。 5.　姿勢,歩行について理解し,基本事項を記憶する。
授業内容	第1回　運動学の定義と領域,身体運動の面と軸および関節運動の名称(目標1) 第2回　運動学に必要な力学の基礎(1):変位,速度・加速度,ベクトル,運動の法則・他(目標2)

第3回	運動学に必要な力学の塞礎(2):仕事,仕事率,力のモーメント,テコ・他(目標2)
第4回	運動学に必要な骨格筋の基礎:筋収縮の様態,筋の働き,筋張力と筋長・他(目標3)
第5回	上肢帯と上肢の構造(目標4)
第6回	上肢帯,肩関節とその運動(1):上肢帯を構成する “関節 ”,肩甲骨の位置と運動範囲・他 (目標4)
第7回	上肢帯,肩関節とその運動(2):上肢帯と肩関節の運動と筋(目標4)
第8回	肘関節とその運動:肘と前腕の関節,肘角,肘と前腕の運動と筋(目標4)
第9回	手の関節と運動(1):手の骨,手根管,手関節の構造,手関節の運動と筋(目標4)
第10回	手の関節と運動(2):手の各関節の構造,各関節の運動と筋(目標4)
第11回	腱鞘,指背腱膜,手の筋,手の把持動作(目標4)
第12回	手の変形:指背腱膜の障害による変形,上肢末梢神経麻痺による変形(目標4)
第13回	顔面および頭部の筋とその運動(目標4)
第14回	下肢帯と自由下肢の骨,骨盤と股関節の構造(目標4)
第15回	股関節とその運動(1):股関節の運動と筋(目標4)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	上記の学生の達成目標に到達し，運動学の基本事項を理解し記憶していること。
評価の方法	期末試験を重視する。ほぼ毎回運動学に関する基本事項確認のために小テストまたはレポートを実施する。試験（ 80%），小テストおよびレポート（ 20%）とする。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

中村隆一・齋藤宏・長崎浩著，「基礎運動学」第６版：医歯薬出版，定価 7 ,140円
ISBN： 978 -4-263-21153-3

推薦図書等

参考URL

備考

　解剖学，解剖学実習，生理学および生理学実習の単位を修得していることが望ましい。運動学は，理学療法の基礎として主要な位置を占める。十分な予習と復習を行い，授業に臨むことを希望する。

理学療法学系英文講読

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法学系英文講読
科目責任者	ut084007
担当教員	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2042001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	専門用語，英語表現，英語文献講読
授業のねらい・概要	理学療法学に関する英語表現の基礎を演習し，実習レポートや卒業研究に必要な文献調査及び文献読解ができるようになることを目的とする。
学生の達成目標	1. 理学療法学に関する英語の専門用語を理解し,表現する力を身につけることができる。 2. 目的とする英語文献を検索することができる。 3. 英語文献の内容を理解し,批判的,客観的に読解する力を身につけることができる。
授業内容	第1回　演習のガイダンス (目標1～3) (宮坂,荒金) 第2回　理学療法の英語表現 高次脳機能障害 (目標1) (荒金) 第3回　理学療法の英語表現 パーキンソン病 (目標1)

第4回	理学療法の英語表現 骨粗鬆症 (目標1)
第5回	理学療法の英語表現 脳卒中 (目標1)
第6回	理学療法の英語表現 循環器疾患 (目標1)
第7回	理学療法の英語表現 糖尿病 (目標1)
第8回	理学療法の英語表現 呼吸器疾患 (目標1)
第9回	理学療法の英語表現 慢性関節リウマチ(目標1)
第10回	理学療法の英語表現 まとめ(テスト) (目標1)
第11回	英語文献を読む 概要と準備 (目標2,3) (宮坂)
第12回	英語文献を読む1 学術論文 論文の検索・調査 (目標2)
第13回	英語文献を読む2 学術論文 抄録の読解 (目標3)
第14回	英語文献を読む3 学術論文 本文の読解 (目標3)
第15回	演習のまとめ (目標1～3)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	演習を通じて，理学療法に関する英語の専門用語の意味を理解し，口頭やプレゼンテーション，身体動作などで適切に表現できること，目的に応じた英語文献を検索し，その内容を読解できることを合格基準とする。
評価の方法	演習の実施及び提出レポートを合計して評価する。演習実施 40%，提出レポート 60%

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

荒金房子，村上仁之， Mark Lemon『医療・リハビリテーションを学ぶ学生のための総合英語 The Art of Healing』：南雲堂， 1 ,785円 ISBN： 978 -4-523-17707-4

推薦図書等

参考URL

備考

概ね高校程度の英文法を必要とする。必要な辞書などは演習を通して紹介する。

理学療法評価学臨床実習セミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法評価学臨床実習セミナー
科目責任者	宮坂　智哉
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2047001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法学評価学実習の準備
授業のねらい・概要	理学療法評価学臨床実習に必要な接遇，対人コミュニケーション，リスク管理，患者様の病態の把握から理学療法評価プログラムの選択，治療プログラムの構築に至るプロセスを学ぶ。
学生の達成目標	1. 学外実習に必要な服装,整容,心構えを身につけ,自ら実践できる。 2. 患者様や医療者とのコミュニケーションを円滑にはかれる。 3. 患者様や医療者,家族,周囲環境などの情報をもとに,リスク管理をし,必要な理学療法評価を選択して実施し,治療プログラムを構築するまでのプロセスを理解できる。
授業内容	第1回　ガイダンス・学外実習におけるリスク管理 (目標1～3) 第2回　患者様,他職種スタッフとの対応,接遇 (目標1,2) 第3回　理学療法評価の演習(脳神経 Ⅰ～ Ⅵ評価) (目標3) 第4回　理学療法評価の演習(脳神経 Ⅶ～ Ⅻ) (目標3) 第5回　ICIDH,ICFの概要,調査 (目標3)

	第6回	ICIDH,ICFの調査発表 (目標3)
	第7回	評価学臨床実習レポートの作成方法 (目標3)
	第8回	理学療法評価学臨床実習 OSCEの準備 (目標3)
	第9回	理学療法評価学臨床実習 OSCE説明会 (目標1～3)
	第10回	～
	第11回	理学療法評価学臨床実習 OSCE (目標1～3) (OSCE;模擬患者を設定した客観的臨床能力試験) 平成 24年 12月実施予定(実施方法などは開講後に説明する)
	第12回	OSCEフォロー,演習のまとめ (目標1～3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	理学療法評価学臨床実習に必要な接遇，リスク管理，患者様の評価を理解し実施できることを合格基準とする。
	評価の方法	発表 20%，レポート 20%， OSCE試験結果 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	すべて出席が原則である。 理学療法評価学臨床実習 OSCEの試験結果は，理学療法評価学臨床実習に臨めるか否かの重要な判定材料となるので，日常から準備を怠らないこと。	

運動療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	運動療法学
科目責任者	阿部　勉
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2049001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	力学，筋の働き，治療方法
授業のねらい・概要	理学療法の中核をなす運動療法を十分に理解するために自学自習を前提に発表を交えながら授業を展開していく。一つ一つをしっかりと押さえて，わからないままにしておかないよう十分に注意してほしい。
学生の達成目標	1. 運動療法の目的を理解する。 2. 運動療法を行う上でのリスク管理ができる。 3. 運動療法の原理原則を理解する。 4. 各種治療方法の目的を理解し手技を実行できる。
授業内容	第1回　運動療法の歴史,目的,禁忌について理解する(目標1,2) 第2回　運動療法の原理:力学,運動の法則を理解する(目標3) 第3回　運動様式による平衡反応の分類について理解する(目標3) 第4回　筋の働きについて理解する(目標3) 第5回　関節可動域訓練の治療手順を演習,理解する(目標2,4)

	第6回	筋力増強運動,持久力向上運動の原理について理解し,実際に演習を行う(目標2,4)
	第7回	PNFの理論を理解し,実際に演習を行う(目標2,4)
	第8回	呼吸理学療法の原理について理解し,実際に演習を行う(目標2,4)
	第9回	日常生活動作の分析方法,評価方法を理解し,実際に演習を行う(目標2,4)
	第10回	整形疾患の運動療法を理解する(目標2,4)
	第11回	脳血管障害の運動療法を理解する(目標2,4)
	第12回	神経難病の運動療法を理解する(目標2,4)
	第13回	循環器疾患の運動療法を理解する(目標2,4)
	第14回	各種予防的運動療法の原理を理解し,実際に演習を行う(目標2,4)
	第15回	総括(目標1,2,3,4) (力学,筋肉の働き,各種治療方法をまとめる)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	運動療法に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解，実施できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点，提出レポート及び期末の筆記または実技試験で評価する。 平常点（期間中に簡単なレポートを課す）30%，期末実技試験 60%，授業への参加度 10%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『理学療法士のための運動療法』金原出版株式会社， 6 ,602円 ISBN： 978 -4-307-25066-5	
推薦図書等		
参考URL		
備考	運動療法は解剖，生理学そして物理学を基本として成り立っている分野である。したがって１年次の解剖，生理学，物理学を十分に習得したものとして授業が進行していくので，しっかりと学んできてほしい。 授業は白衣で行う。実際の臨床場面を想定しているため，服装や髪形にも留意すること。	

骨・関節系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	骨・関節系疾患理学療法学
科目責任者	小山内　正博
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2050001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	骨・関節系疾患，理学療法評価，リスク管理，理学療法アプローチ
授業のねらい・概要	骨・関節系疾患の理学療法を行う上で必要な疾患の特徴，診断，検査，測定，評価，理学療法，リスク管理について学習する。
学生の達成目標	1. 骨・関節系疾患の特徴を理解できる。 2. 診断,手術,管理などの基礎知識を身につける。 3. 検査,測定を疾患に合わせて選択し解釈できる。 4. 統合的に評価し一般的な治療プログラムの立案ができる。
授業内容	第1回　組織再生・修復 (目標1～4) 第2回　骨折と脱臼-総論 (目標1,2) 第3回　骨折と脱臼-上肢骨折 (目標1～4) 第4回　骨折と脱臼-大腿骨頚部骨折,脊椎圧迫骨折 (目標1～4) 第5回　変形性股・膝関節症 (目標1～4) 第6回　人工股・膝関節置換術 (目標1～4)

	第7回	関節リウマチ (目標1～4)
	第8回	末梢神経損傷 (目標1～4)
	第9回	頚部疾患 (目標1～4)
	第10回	腰部疾患 (目標1～4)
	第11回	脊椎手術 (目標1～4)
	第12回	肩関節周囲炎 (目標1～4)
	第13回	肩の外傷 (目標1～4)
	第14回	膝靱帯損傷と半月板損傷 (目標1～4)
	第15回	運動連鎖と力学的平衡 (目標1,3,4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	骨・関節系疾患の理学療法に関して授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。また，その内容を説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	試験 60%，レポート 20%，小テスト・授業への参加度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 ①石川　朗「理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅰ」：中山書店， ２,400円＋税 ②石川　朗「理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅱ」：中山書店， ２,400円＋税 ISBN： ①978 -4-521-73229-9， ②978 -4-521-73230-5 ISSN：	
推薦図書等		
参考URL		
備考	解剖学・生理学・運動学・病理学・整形外科学・評価学・運動療法学に基づく内容が多いため，十分に復習し授業に臨むこと。	

骨・関節系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	骨・関節系疾患理学療法学実習
科目責任者	小山内　正博
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2051001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	骨･関節系疾患の理学療法評価，問題点の抽出，目標設定，理学療法プログラム立案，プログラムの実施
授業のねらい・概要	骨･関節系疾患理学療法学で習得した知識を統合し，臨床の場で評価，目標設定，治療計画，治療，効果判定という系統的な理学療法を実践できるよう実習を行う。
学生の達成目標	1. 検査,測定を疾患に合わせて選択し実施できる。 2. 統合的に解釈し問題点の抽出ができる。 3. 目標設定・基本的な治療プログラムの立案ができ理由を説明できる。 4. プログラムを実施できる。
授業内容	第1回　組織再生・修復:評価と治療 (目標1,4) 第2回　骨折と脱臼:評価と治療 (目標1,4) 第3回　骨折と脱臼:評価と治療(高齢者の四大骨折) (目標1,4) 第4回　変形性股・膝関節症:評価と治療 (目標1,4) 第5回　人工股・膝関節置換術: ADLトレーニング (目標4)

	第6回	関節リウマチ:評価と治療 (目標1,4)
	第7回	末梢神経損傷:評価と治療 (目標1,4)
	第8回	頚部疾患:評価と治療 (目標1,4)
	第9回	腰部疾患:評価と治療 (目標1,4)
	第10回	脊椎手術:評価と治療 (目標1,4)
	第11回	肩関節周囲炎:評価と治療 (目標1,4)
	第12回	肩の外傷:評価と治療 (目標1,4)
	第13回	膝靱帯損傷と半月板損傷:評価 (目標1)
	第14回	膝靱帯損傷と半月板損傷:治療 (目標4)
	第15回	脊髄損傷:総論 (目標1)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	骨・関節系疾患の理学療法に関して授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。また，その内容を実施でき説明することができることを合格基準とする。
	評価の方法	試験 40%，レポート 40%，授業への参加度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 ①石川　朗「理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅰ」：中山書店， ２,400円＋税 ②石川　朗「理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅱ」：中山書店， ２,400円＋税 ③山嵜　勉「整形外科理学療法の理論と技術」　メジカルビュー社， ９,500円＋税 ISBN： ①978 -4-521-73229-9， ②978 -4-521-73230-5 ③978-4-89553-636-3	
推薦図書等		
参考URL		
備考	実技中心となるため動きやすい服装で参加すること。 半年後には，一人で実際の患者様を評価し治療します。十分に心得て復習し臨むこと。	

理学療法工学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	理学療法工学
科目責任者	宮坂　智哉
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2062001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	データ計測・解析，理学療法工学，リハビリテーション工学
授業のねらい・概要	理学療法やリハビリテーションを実施するのに必要な数値データの取扱い方がわかる。 理学療法やリハビリテーションを必要とするヒトと工学の関わりについて理解することができる。
学生の達成目標	1. データの基本的な処理の方法を理解し,取り扱うことができる。 2. 身体や身体機能を適切な方法で計測し,解析することができる。 3. ヒトを支援する機器とヒトとの関わりについて理解する。
授業内容	第1回　ガイダンス (目標1～3) 第3回　国際福祉機器展 H.C.R.2011 調査報告会(方法は事前に掲示する) (目標3) 第4回　計測・解析の基礎 数値の種類 基本統計量 (目標1,2) 第5回　計測・解析の基礎 真値,精度,誤差 (目標1,2) 第6回　計測・解析の基礎 群間の比較 (目標1,2)

	第7回	計測・解析の基礎 相関 (目標1,2)
	第8回	理学療法・リハビリテーションを必要とするヒトと工学との関わり (目標3)
	第9回	移動・移乗支援機器1 杖,歩行器など (目標3)
	第10回	移動・移乗支援機器2 リフター,トランスファボードなど (目標3)
	第11回	移動・移乗支援機器3 車いす1 (目標3)
	第12回	移動・移乗支援機器4 車いす2 (目標3)
	第13回	いろいろな支援機器 (目標3)
	第14回	医療・介護現場,在宅で使いやすい支援機器 (目標3)
	第15回	最先端のリハビリテーション工学 (目標3)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	身体，身体機能の計測，解析の手法，支援機器の役割について理解できることを合格基準とする。
	評価の方法	発表 40%，レポート 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 柳井久江『４ stepsエクセル統計（第３版）』　オーエムエス出版，４,200円 ISBN： 978 -4-434-15413-3	
推薦図書等		
参考URL		
備考	国際福祉機器展の調査を必ず実施すること（方法は事前に掲示する）。	

総合理学療法学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	総合理学療法学演習
科目責任者	
担当教員	永原　久栄 小池　和子 田中　勇治 桑名　俊一 内山　伸治 郭　丹 阿部　勉 小山内　正博 松田　雅弘 角　友起
授業形態	演習
開講時期	
登録コード・曜日・時限	A2065001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	解剖学，生理学，運動学，運動器障害，中枢神経障害，内部障害
授業のねらい・概要	学内授業，臨床実習などで習得した知識・技術を統合する。特に解剖学，生理学，運動学等の基礎知識を基に，疾患と障害の関係や総合的治療アプローチについて再確認し，卒業後の臨床の現場で応用ができるように学習する。
学生の達成目標	1. 解剖学,生理学,運動学等の基礎知識の確認する(卒業時到達レベル)。 2. 義肢装具,車椅子,生活支援機器について知識を確認する。

3. 運動器障害の理学療法について,解剖,生理,病態等の整理から,評価,治療プログラム, ADLまでを統合し,系統的に整理,理解する。

4. 中枢神経障害の理学療法について,解剖,生理,病態等の整理から,理学療法評価,治療プログラム, ADLまでを統合し,系統的に整理,理解する。

5. 小児理学療法について,解剖,生理,正常発達,病態等の整理から,理学療法評価,治療プログラム, ADLまでを統合し,系統的に整理,理解する。

6. 内部障害の理学療法について,解剖,生理,病態等の整理から,理学療法評価,治療プログラム, ADLまでを統合し,系統的に整理,理解する。

授業内容

第1回	運動器系の基礎的知識の整理 (目標1)
第2回	神経系の基礎的知識の整理 (目標1)
第3回	呼吸・循環器系の基礎的知識の整理 (目標1)
第4回	栄養・代謝系,公衆衛生の基礎的知識の整理 (目標1)
第5回	運動学の基礎的知識の整理(目標1)
第6回	運動器障害(整形外科疾患)の基礎的知識の整理 (目標3)
第7回	義肢装具 (目標2)
第8回	車椅子・生活支援機器(目標2)
第9回	運動器障害の理学療法評価,プログラム, ADL(目標3)
第10回	中枢神経障害の基礎的知識の整理 (目標4)
第11回	中枢神経障害の理学療法評価,プログラム, ADL(目標4)
第12回	小児理学療法の基礎的知識の整理(目標5)
第13回	小児理学療法の評価,プログラム, ADL(目標5)
第14回	内部障害の基礎的知識の整理(目標6)
第15回	内部障害の理学療法評価,プログラム, ADL(目標6)

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
評価の方法	参加の積極性の程度（ 20%），各回行う小試験（ 80%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

各回ごとにプリント配布

推薦図書等

参考URL	
備考	４年生全員が総合臨床実習を終了した後に集中的に実施する予定（平成 24年 12月）

生活支援系理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	生活支援系理学療法学
科目責任者	小山内　正博
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2068001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	切断，義肢，装具，アライメント，支給システム
授業のねらい・概要	切断に関する医学的知識を身につけ，各種義足の構造と各部品について理解する。加えてアライメントの概念を理解し，姿勢・歩行動作に与える影響を学習する。　装具の構造・各部品と適応について学習する。　支給システムについて理解できる。
学生の達成目標	1. 切断に関する医学的知識を身につける。 2. 各種の義肢,装具の構造と各部品について理解できる。 3. 義足・装具のアライメントの概念を理解できる。 4. 支給システムについて理解できる。
授業内容	第1回　切断と義肢の基礎知識 (目標1・2) 第2回　早期義肢装着法と義足適合の流れ (目標1・2) 第3回　大腿切断・膝離断の基本と義足構造 (目標1・2) 第4回　大腿義足・膝義足のアライメント (目標2・3) 第5回　下腿切断・サイム切断の基本と義足構造 (目標1・2)

	第6回	下腿義足・サイム義足のアライメント (目標2・3)
	第7回	股離断・片側骨盤切除・足部離断の義足構造とアライメント (目標1・2・3)
	第8回	装具学総論 (目標2・3)
	第9回	下肢装具の部品とその機能 (目標2・3)
	第10回	短下肢装具 (目標2・3)
	第11回	長下肢装具・股装具・膝装具 (目標2・3)
	第12回	靴型装具 (目標2・3)
	第13回	体幹装具・側彎症症具 (目標2・3)
	第14回	上肢装具 (目標2・3)
	第15回	義肢装具の支給体系とチームアプローチ (目標4)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。また，その内容を説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	試験 60%，レポート 20%，小テスト・授業への参加度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 ①石川　朗　「理学療法テキスト義肢学」中山書店　２,400円＋税 ②石川　朗　「理学療法テキスト装具学」中山書店　２,400円＋税 ISBN： ①978 -4-521-73225-1， ②978 -4-521-73226-8	
推薦図書等		
参考URL		
備考	解剖学・運動学を中心に十分に復習し授業に臨むこと。	

生活支援系理学療法学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2012年度
科目区分	
授業科目名	生活支援系理学療法学演習
科目責任者	小山内　正博
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2069001
教室	
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次

授業内容・授業計画

授業のキーワード	切断者の理学療法，装具療法，アライメント，チェックアウト，姿勢，歩行
授業のねらい・概要	下肢切断者の理学療法を理解し実施でき，各種疾患別に装具を選択できる。 義肢，装具のアライメント調整，チェックアウトができる。 義肢，装具が，姿勢，歩行動作に与える影響を理解し調整できる。
学生の達成目標	1. 下肢切断者の理学療法を理解し実施できる。 2. 各種疾患別に装具を選択できる。 3. 義肢,装具のアライメントの概念を理解し調整できる。 4. 義肢,装具のチェックアウトができる。 5. 義肢,装具が,姿勢,歩行動作に与える影響を理解し調整できる。
授業内容	第1回　下肢切断の評価-問題点の抽出とその統合- (目標1・3・4・5) 第2回　下肢切断の機能障害と義足装着前理学療法 (目標1) 第3回　切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点 (目標1・5) 第4回　義足装着理学療法と応用動 (目標1・3・4・5)

	第5回	疾患別装具の処方(1)-脳卒中片麻痺の装具- (目標2)
	第6回	疾患別装具の処方(2)-整形外科疾患の装具- (目標2)
	第7回	疾患別装具の処方(3)-関節リウマチの装具- (目標2)
	第8回	疾患別装具の処方(4)-対麻痺・小児の装具- (目標2)
	第9回	下肢装具のチェックアウト (目標4)
	第10回	下肢装具のチェックアウト-実習- (目標4)
	第11回	膝継手・足継手の調整-実習- (目標3・4・5)
	第12回	装具の着脱-実習-,断端管理-実習- (目標1・3・4・5)
	第13回	下腿義足のアライメント調整-実習- (目標3・4・5)
	第14回	大腿義足のアライメント調整-実習- (目標3・4・5)
	第15回	股義足のアライメント調整-実習- (目標3・4・5)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	義肢・装具のチェックアウトができ説明できること。また姿勢，歩行動作に与える影響を理解し調整できること。
	評価の方法	試験 60%，レポート 20%，授業への参加度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし（生活支援系理学療法学で用いた教科書を継続し使用）	
推薦図書等		
参考URL		
備考	生活支援系理学療法学・運動学を中心に十分に復習し授業に臨むこと。	